

ミナカ——ミナカ

スキー場あり、谷川温泉には第一スキー場(ジャンプと休憩小屋あり)と保登野スキー場(休憩小屋あり)とあり、谷川温泉より天神峠や今倉尾根等へ至るスキーコースは興味あり。湯治温泉より一軒の大穴スキー場(ジャンプ、休憩小屋、賣店あり)は初心者練習場として便利なり。以上水上温泉を中心とする一帯は冬季積雪多く、上越線開通後スキー場として著しく發展せり。上越國境の連嶺を根拠地とし幾多のスキーコースや登山が出来、温泉附近は地形上餘り廣大なるロープな

東部には丘陵間に一宮川流れ、流域には狭き耕地ありて米・麥を産し、また吠・鹿の特産あり。縣道は藤南町及び東方の茂原町、市原郡鶴舞町・牛久町等に通ず。社線南越後線は南部を西走し、深澤驛(昭和六年設置)・笠森寺驛(昭和五年設置)・稚見關驛(昭和八年設置)を設く。この地は和名抄、長柄郡羽前郡の内なるべし。村名は一宮川の水源地名なるを以つて名づけしもの。(笠森寺(笠森觀音))大字笠森にあり。天台宗。大悲山佛光院と號す。延暦三年に最澄の創建と傳ふ。後一條天皇の御宇、箕作の翁、勸許を得て堂宇を造營し、長元元年に諸堂竣工し横川の覺超、導師として供養を修す。因りて覺超を中興第一世とす。天正四年迄に堂宇炎上すること二度、本堂のみ尼を免る。本堂は堂下悉く舞臺造の特殊なき奇構にして其手法に鎌倉時代の特徵を有し國寶。坂東三十三所第三十一番札所、古來當國屈指の靈場にて數萬の信者を有し例年八月九日の四萬六千日の祭會には群集雜沓す。御詠歌「日は暮るる雨は降り野に我ひとり斯る旅には頼む笠森」

井原に近し。村名は荒川の主流に位置するより起る。【水上】兵庫縣藤原郡にありし村。昭和八年郡市に編入す。【水上村】鳥根石見國通摩郡の東南部。南に邑智郡に界し、北は大森町に接す。面積約一八方軒。四周は山脈に圍繞せられ、地勢中央に傾斜す。中央に耕地拓け、四周山林に蔽はる。米・木炭・用材・醬油・清酒等の産あり。縣道中央低地に二線通じ繁華これに沿ふ。大森町を經て省線山陽本線仁萬驛にバスの便あり。【水上】福岡縣山門郡にありし村。明治四十一年清水村と合し東山村を設く。【水上村】熊本縣肥後國球磨郡の東北部。球磨川の水源地を占めて九州山脈と日向山脈とに圍まれ、湯ノ前町の北に接し、北に八女郡に隣り、東と東南に宮崎縣西臼杵郡及び兒湯郡に界す。面積一九二・四方軒に互る山村なり。北境より西境にかけては九州山脈に屬する高塚山(一五〇八米)・三方山(一三三六米)等の高峯が蜿蜒と連り、東北境より一支脈のびて鏡子峯(一四八九米)等を起し、鹿兒島縣境を劃して東南方へ連り、東南境を限りて屹立する日向山脈につゞく。東境中央に江代山(都野岳、一六〇七米)、東南境に市房山(一七二二米)、南境に牧良山(九六六米)等聳立す。村内も山岳重疊して高峻なる地形を呈す。球磨川は西北境に發して峡谷をなしつつ東南流し更に中央

を南下し南境に出でて之に沿ひつつ西南に流れて隣村に出づ。南部には西流する湯山川及び西部を南下する小内川ありて球磨川に合す。西南部は人吉盆地の東北隅を占むる低地稍々開けたり。湯山川流域に温泉あり。山林面積廣く林業行はれ河岸には耕地拓けて米・麥・蕎麥を出す。省線湯南線の湯前驛(西南方約一軒)へバスを通ず。本村は明治二十八年、岩野・江代・湯山の三村を合併して設けるもの。村内に赤水渡(高二〇米、巾三米)・白水渡(高一一〇米、巾三米)あり。(市房山神宮)大字湯山に鎮座。祭神、天津彦火々出見神・天津彦火瓊瓊杵尊外四神。大同二年久米城主市房の創祀にして神領四百石を有せりと傳ふ。例祭、十一月十五日。(猫寺の槍)猫寺の境内にあり、三樹相密接して生じ、根廻り合せて二〇米、三樹各基部の幹圍四・五米、四・七米、五・三米、その傳説により著明なる老樹なり。天正十年普門寺五代の法印盛譽無實の罪をうけ相良氏に斬殺せられたり。その母悲歎に堪えず、愛猫玉垂と共に市房神社に二十一日間齋食呪し、猫を抱きて湯山茂間ヶ崎に身を投じて恨死せり。以來猫の靈相良家に祟り苦しめし爲、その怨靈を静めんとて建立せし寺が生善院、一名猫寺なり。盛譽法印、その母玖月善女、猫の玉垂の墓標として植められたるがこの三本の槍なりと云ふ。

吾奥

ミナカ

【水上村】千葉縣上總縣長生郡の西部。藤南町の西北隅にて西は市原郡と隣す。全村丘陵地に於て森林多く、木炭を産す。【水上村】新潟縣越後國中頸城郡の中部。荒川右岸に沿ひ、西は河を隔てて新井町に接す。略々南北に長く東南半は三〇〇米餘の丘陵、西北に傾斜し平地は西北部に開く。農業を主産業とし米の産多し。北部山麓に沿ふ縣道は新井町より海岸の柿崎町に至るものあり、省線信越本線新

ミナカ

皆川庄六十三箇村の鎮守として崇奉せらる。例祭、五月十三日。【ミナキ】三城 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄下座郡三城郷あり、その地今の朝倉郡壺城村の邊に當る。【ミナギ】三奈木村 福岡縣筑前國朝倉郡の中部。甘木町の東約二軒にあり。北部及び東部に山地起伏し西南部は筑紫平野東北の一部を占むる低平地なり。佐田川に中央を貫きて西南流す。水運の便よく水田發達して米産多く、また麥・蕎麥も産す。西南隅を經て縣道及び社線朝倉軌道西北より東南に通過し十文字驛あり。この地は中世、三奈木庄と稱せし地。南北朝の頃、五條頼元(本姓清原氏贈正五位)三奈木に居り勤王の志あり、官軍を奮勵す。大字城は蓋しその要害にして屋形原は館のありし所か、建武二十年、此地に歿す。年七十八。(美奈寛神社)縣社。祭神、天照大神・住吉大神外一神。仁徳天皇の御宇の創建と傳ふ。神位、貞觀元年從五位上。式内名神大社に擬する説あり。舊稱、葉毛神社。例祭十月二十二日。【ミナキ】美袋 岡山縣吉備郡日美村の大字。省線伯備線的美袋驛(大正十四年設置)を設く。【ミナクチ】水口町 滋賀縣近江國甲賀郡の中央北部。野洲川の中流に跨り、東北に蒲生郡に接して、東北二軒餘に日野町(蒲生郡)あり。東北郡は稻々丘陵性

吾奥

を帶ぶるも地形概して平坦、南部には野洲川が西流し流域に沃野開く。米・麥・桑葉・栗・蕎麥等を産し、副業として養蠶行はれ外に林産・水産あり。また水口細工と稱する藤工の製造行はれ、バスケツト類を主とし、高級品は輸出品となる。もと東海道五十三次の一にて交通の變遷により今は振はざるも人口密度は一方軒五七四人にて本郡中第一位なり。道路四通し舊東海道が西南部を横走して標式的街村型聚落これに並び、外に日野町へ至る縣道、北隣の伴谷村方面へ延びるもの及び新南隣の貴生川村に至るもの等の諸道あり。社線近江鐵道は東北より西南に貫き水口驛(明治三十三年設置)あり。加藤氏一萬五千石の城下町たり。舊郡役所の所在地とす。明治二十七年に町制を布く。色里三所世帯・江戸巻・けふ進坂の關の岩角も、あから下りて小便にくづし勢田邊に身を萎び、水口の泥船汁も此度のためならむ、鈴鹿の山の霧酒、桑名の煎茶花、明がた急ぐ鴉の卵、是も賢業じやが合點か、丹波與作待夜の小室節、出舟召せ召せ旅人の、乗り遅れじとどき草津、お姫様より先づ能が餅、一日二口水口泥船渡り越え、坂へ越すのも栄次第御所標堀川夜討、「路次」の行列美をつくし、夜を日に次いで東海道、伊勢路も勝手の温徳、同、四、坂の下より鈴鹿山、山又山の土山に誘ふや嵐、ちるや紅葉の

吾奥

亂れ、夜にちりぬる散らし書、鼓は視の水口や、田面に下りぬる雁の、一行つらなる如くにて、跡や先やと子供の參宮。(水口城)天正年中、長東正家の築くところ。關ヶ原役、正家西軍に屬す。東軍の將池田長吉・龜井茲矩等攻めて之を降す。徳川氏收めて監吏を置き、後に城を毀つ。次で加藤明英・鳥居忠政を封す。正徳二年二月、加藤嘉矩此處に治し二萬五千石を食み子孫相承けて明治維新に至る。明治四年藩を廢して縣を設きしが間もなく廢して大津縣に入る。翌年滋賀縣と改稱。(水口神社)水口に鎮座。祭神、大木日宿禰命。兼仁天皇の御宇、倭姫命の創祀に係ると傳ふ。式内社。女神坐像一軀(木造)は藤原時代の作にて國寶なり。例祭、四月二十日。(願隆寺)天台宗。松尾山松林院と號す。延暦五年最澄之を草創し、自刻の藥師如來を安すとす。初め宇大平の地にあり、長曆二年兵燹の爲の堂宇燒失、正和三年神圓の法嗣、無才智者之を再興し法蓮寺と稱す。元龜、天正年間、再度兵火を被り寛永五年火災に罹り灰墟に歸せしが明曆三年盛寛これを現寺地に移し再建す。本尊藥師如來(傳最澄作)。國寶。木造阿彌陀如來坐像一軀・同日月光兩菩薩立像二軀。(大同寺(同觀音))水口にあり。天台宗。龍王山觀音院と號し、俗に同觀音の名を以て著る。白鳳十四年行基の草創と傳ふ。天正二年兵燹に罹り、同十三年

ミナカ——ミナク

吾奥

中村式部少輔一氏、寺城岡山に築城するに方り富堂を水口町の南邊、字地頭に移す。慶長五年、岡山藩城するや享保元年、時の住持寂堂普善寺地を復し堂宇を再建、爾來水口藩主加藤氏累代の祈願所となり、また水口神社別當職を兼ね、木造千手觀音立像一軀・阿彌陀如来立像一軀は國寶なり。(蓮華寺(太子堂))水口にあり。眞宗高田派。水口山と號し、太子堂の名を以て著る。聖徳太子の開創と傳ふ。當初天台宗、元龜二年兵燹に罹り堂宇悉く烏有に歸し、天正五年僧惠林之を中興、現宗に改む、享保九年義海堂宇を再建す。寺寶に後奈良天皇・後柏原天皇の宸翰あり。

ミナコシ 皆越 熊本縣球磨郡にありし村。明地二十八年に上村に合併され村名を失ふ。

ミナシロ 三納代 宮崎縣兒湯郡富田村の大字。省線日豊本線の三納代驛(大正九年設置)あり。

ミナセ 水無瀬川 ↓稻瀬川(神奈川縣)

ミナセ 皆瀬村 秋田縣羽後國雄勝郡の東南部。稻瀬川の東南に接し、南は宮城縣に境す。面積二一八・一八方軒の大村。南境には山嶺(一〇三四米)・須金嶽(一二四三米)、東境には北より圓森山(八九六米)・足倉山(一〇八三米)・林嶽(一四二四米)、西境には丸森山(六九九米)・奥宮山(七七七米)・小安嶽(一

二九二米)・高松嶽(一三四九米)等連りて全村概ね山地をなし、皆瀬川は南境に發源して村の中部を西北に流れ、沿岸に耕地拓く。米・蕎麥・烟草・木材を産す。當村に神玉嶽山あり、鐵區は隣接の稻庭町にも跨りて七二萬餘坪、鐵種は金銀銅にして昭和十年より事業を開始せり。西北方の奥羽本線湯澤驛へは約一五軒、増田町(平鹿郡)へは約一六軒あり。人口密度は一方軒につき僅かに一八人なり。この地は近世、島等庄と稱せし地。いま村内に秋田洞候所觀測所・皆瀬川水力發電所あり。

ミナセノ 水生野 攝津國(大阪府)の古地名。桓武天皇屢々此の地に狩し給ふ。其の地いま三島郡島本村大字山崎の邊。此の地に水無瀬宮鎮座す。

ミナト 港

【港村】 三重縣伊勢國飯南郡の東北部。松阪市の北に接し、北部及び東北部は伊勢海に臨み、西北に一志郡に界す。全村平坦にして一望沃野をなす。米の産多く、蕎麥・雜糧等を出すも、産額最も多きは水産物なり。松阪市に接するを以て交通不便ならず。この地は和名抄、飯高郡下牧郷の内とす。

川は西部を貫き東北流し河口に津居山港あり、北方僅の沖合に後ヶ島の小島あり。東部には北流する細流ありて圓山川河口に合し、沿岸に稍々低地開く。津居山港は朝來川河口の消没性の湖内にあり港口は中廣く、船舶の碇泊地は狹隘にて良港とは云ひ得ざるも、沿岸に良地乏しきと朝來川流域を後背地とする爲め、避難港としてまた漁港として但馬海岸第一と稱す。水産物豊富にて水産養殖も行はる。低地は農産の栽培行はれて食用農産・飼料等多く米・蔬菜・花卉・麥類・果實等も産したる鶏卵・調味料・セメント・瓦等の産もあり。朝來川の左岸に沿ひて南走する縣道あり、また東走して久美濱町へ出づる縣道もあり。朝來川には渡船便及び城崎町へ舟楫の便あり。(氣比神社)大字氣比に鎮座。村社。祭神、伊弉沙和氣命。式内社。俗稱、氣比大明神。例祭、九月六日。

川は西部を貫き東北流し河口に津居山港あり、北方僅の沖合に後ヶ島の小島あり。東部には北流する細流ありて圓山川河口に合し、沿岸に稍々低地開く。津居山港は朝來川河口の消没性の湖内にあり港口は中廣く、船舶の碇泊地は狹隘にて良港とは云ひ得ざるも、沿岸に良地乏しきと朝來川流域を後背地とする爲め、避難港としてまた漁港として但馬海岸第一と稱す。水産物豊富にて水産養殖も行はる。低地は農産の栽培行はれて食用農産・飼料等多く米・蔬菜・花卉・麥類・果實等も産したる鶏卵・調味料・セメント・瓦等の産もあり。朝來川の左岸に沿ひて南走する縣道あり、また東走して久美濱町へ出づる縣道もあり。朝來川には渡船便及び城崎町へ舟楫の便あり。(氣比神社)大字氣比に鎮座。村社。祭神、伊弉沙和氣命。式内社。俗稱、氣比大明神。例祭、九月六日。

【港村】 三重縣伊勢國飯南郡の東北部。松阪市の北に接し、北部及び東北部は伊勢海に臨み、西北に一志郡に界す。全村平坦にして一望沃野をなす。米の産多く、蕎麥・雜糧等を出すも、産額最も多きは水産物なり。松阪市に接するを以て交通不便ならず。この地は和名抄、飯高郡下牧郷の内とす。

川は西部を貫き東北流し河口に津居山港あり、北方僅の沖合に後ヶ島の小島あり。東部には北流する細流ありて圓山川河口に合し、沿岸に稍々低地開く。津居山港は朝來川河口の消没性の湖内にあり港口は中廣く、船舶の碇泊地は狹隘にて良港とは云ひ得ざるも、沿岸に良地乏しきと朝來川流域を後背地とする爲め、避難港としてまた漁港として但馬海岸第一と稱す。水産物豊富にて水産養殖も行はる。低地は農産の栽培行はれて食用農産・飼料等多く米・蔬菜・花卉・麥類・果實等も産したる鶏卵・調味料・セメント・瓦等の産もあり。朝來川の左岸に沿ひて南走する縣道あり、また東走して久美濱町へ出づる縣道もあり。朝來川には渡船便及び城崎町へ舟楫の便あり。(氣比神社)大字氣比に鎮座。村社。祭神、伊弉沙和氣命。式内社。俗稱、氣比大明神。例祭、九月六日。

三年設置)の二郷を置く。この地は近世那珂川の切割とて、割沼を割て北浦に達する運河の計畫あり、初め寶永年中、松並勘十郎、紅葉堀を造りて成らず。後は安永五年に江戸幕府の公議にも上りしが果さずして止む。また此の町は古來富庶の名あり、水戸藩は此口を以て海洋の咽喉と爲し、船庫を置き、水師の經營をも此地にてなせりと。天保以後は殊に防備を加へ、砲臺を建造し、また穀倉所として本市は寛政年中より之れを公許したり。

【淨光寺】 字倉山に在り。眞宗本願寺派。通稱常陸御場又は吉田御坊。無量光院と號す。建曆二年創建、開基を唯佛房とし、關東二十四輩の一靈場たり。

【漆園】 私設鐵道。茨城縣那珂郡にあり。省線常磐線より分岐し、阿字ヶ浦驛(前渡村)に至る一四・三軒。省線と連帯運輸をなし、動力は蒸氣・サリオンを併用し、軌間は一・〇六七米とす。

【漆町】 千葉縣上總國君津郡の西南部。漆川下流に沿ひ浦賀水道に臨む。大部分丘陵地にして南部を西流する漆川流域のみ平地をなす。農業行はれ米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。海岸は單調なる砂濱にて風光良く、海水浴場をなす。縣道西部を縱走し、省線房總西線これに沿ひ上總漆驛(大正四年設置)を置く。この地は和名抄、天羽郡長津郷の地なるべく、寛保年間より天神山附近一帯を天神山と稱し、當漆町もその中に數へられしも、海

に入る漆川の水深く、百石積以上の大船の出入自由にして、上總國第一の良港なりしたため、のち海と改稱せり。明治維新前は松平氏の所領たり。明治二十二年當地海岸一帯約二・五米の隆起をなし漆川河口は淺瀬となり、爲に發動機船の通航困難にして沖合迄かに貨物の積卸をなす有様となれり。山砂利の産地として知られ、往時海成なりしものが地殻の變動に依り陸地となれるもの如し。城内に郷社八雲神社あり。

【漆村】 千葉縣安房郡にありし村。昭和三年に町制を施行し、同時に小漆町と改稱す。

【漆村】 石川縣加賀國能美郡の西北部。手取川下流に沿ひ北は金澤市に接す。全村平地にして南部を手取川西流し、左岸に砂嘴發達し西北へ河口を開く。水田多く米を主産とし、漁業も亦行はる。河口には夏季風浪少く小船の碇泊に適す。海岸の小舞子海水浴場として賑はひ、省線北陸本線の小舞子停車場(明治三十二年設置)を置く。

には小坂、小田井、花岡の湖岸部落あり、共に階層崖下の岩懸崖地に乘る。耕地極めて少し。村の北方は諏訪湖の落日天龍川の發源地に當り、ここに城山あり。岡谷市の郊外として工業化が花岡部落に及ぶ。城山は高島城と言はれ、諏訪氏三萬石の城山なりしが今は公園となる。花岡・小田井・小坂の部落は諏訪湖の漁業を以て漁村の色彩濃厚なり。まるき船と稱する獨特の漁船を用ひ、風波荒き西岸の漁業には好適す。冬季湖面結氷に際しては屋敷と稱する特殊漁法にて氷面を打破き、ムロコ・赤魚・ヒケイを漁獲す。

【觀音院】 新義眞言宗智山派。龍光山。往古諏訪湖より出現の十一面觀音を安置せしに創る。眞主諏訪出雲守の信仰厚く、爾來諏訪家歴代の祈願所たり。本尊十一面觀音は湖中より出現の際、漁夫の竹籠の上に奉安せられし故傳に依り、今尙ほ竹籠上に安置せらるる傳あり。

【漆村】 京都府丹波國熊野郡の西北部。久美濱湖と日本海とを分つ海峽地帯を占め、海峽の幅は狭き所にて僅か數間に過ぎず。此の海峽の東岸に東より展開する砂地は、東方濱田村方面の湖流により砂地延長されし砂洲にて、又北風の地積せし砂丘なり。久美濱湖一帯を造りし階層沈降後の堆積による事は明かなり。砂洲の基部には佐野谷川これに衝突し九〇度の迴轉をなし砂洲に並行し西流し、砂丘地形特有の狀態を呈す。久美濱湖西岸

山地は殆ど第三紀層より成る丘陵地、其の谷間には所々に小谷地ありて水田を見る。其の海岸はリキス式海岸にて出入に富み、沈降海岸の特徴を備へ、海蝕による斷崖を所々に見る。久美濱湖内に長く突出する大明神岬は、高麗二八米に過ぎざるも、傳説と風致とに富む。砂洲の先端に位置する漆宮は朝日港と稱し、瀬戸の口に位置する漁港にして、近年海水浴場として賑ふ。之に對して東隣の濱田港を夕日港といふ。この間を朝日・夕日の間なるを以て日間松原と稱す。砂洲の部分は白砂青松にて俗に小天橋と稱す。去る大正十四年の但北地震に際しては被害甚大區域にして、葛野附近一帯二十町歩に亘り陥没せし所あり。今その陥没地域の埋立工事中なり。葛野以東、濱田村に至る一帶の砂山はサンドスキーに利用せる外、桃の良産地たり。又その砂山地帯の礫石は、石器時代遺物の分布地にして史蹟に指定さる。(礫石遺物包含地)指定史蹟。礫石遺物と呼ぶ日本海に面せる海濱にて、延長二軒。貝塚・古墳等あり。多く箱式棺に屬し、礫石なる地名もこれに因れり。出土する遺物に、石鏡・石釧・彌生式土器・銅鏡・硬玉勾玉・寶鏡・鐵刀等あり。また支那王莽時代の貨泉出土し、その他、貞觀永寶・富壽神寶等我が平安時代の古錢、開元通寶・大觀通寶等支那唐宋の古錢も發見され、また明代の永樂錢も混在し、種類多種多様にて、石

器時代より金石併用時代及び原史時代を經、室町期に及ぶ。早くより人類來住し朝鮮・支那との接觸交通の跡を示せる考古學上貴重なる遺跡なり。(淨光寺) 眞宗本願寺派。兼寶山と號す。親鸞二十四輩の第二十一吉田唯佛の遺跡なり。數度寺基を移して現在の地に至る。

【湊(町)】大阪府東部北にありし町。大正九年堺市に編入す。
【湊(村)】兵庫縣武庫郡にありし村。明治二十九年神戸市に編入す。
【湊(川)】↓神戸市

【湊(町)】兵庫縣淡路郡三原郡の西部。福良町の北方約二軒にありて北は播磨灘に臨む。西南部一帯は丘陵地をなし西部に湖沼あり。東北部は平野をなし東北境に沿ひて大目川が西北流して海に注ぐ。田畑よく拓げ米・麥類・食用農産物・蔬菜・花卉・果實等の農産物及び醬油・瓦・木製品等の工産物を出し、また水産物豊富なり。養鵜また行はる。北岸に沿ひて縣道走り東部に街村の市街地あり。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。昭和二年町制を布く。(湊日神社) 大字橋に鎮座。郷社。速津津比古命・速津津比賣命を主神とし、相殿に應神天皇を祀る。式内社。例祭、二月二十六日。

【湊(村)】和歌山縣紀伊國海草郡の西北部。紀ノ川の河口に跨り、西は紀伊水道に臨み、東及び南は和歌山市に界す。北隅にやや丘陵ありども地形概して平坦、中央

を紀ノ川が二條に分れて西南流し、河口にて兩者合して海に注ぐ。河口は港をなし、南岸に燈臺あり。海岸は平直なる砂濱にて新瀨と言ふ。産物は水産及び農産を主とす。和歌山市に接して交通の便よく、紀ノ川には渡船の便あり。

【湊(村)】和歌山縣西牟婁郡にありし村。大正十三年田邊町に編入す。

【湊(村)】佐賀縣肥前國東松浦郡の北部。東松浦半島の東北端を占み、北及び東は海に臨みて唐津灣口の西岸を扼し、西北は呼子町に接す。村内一帯は丘陵性の山地にて、東北部と東南部に稍々沿岸平野開く。海岸は稍々屈曲に富み、多くは山地海に迫り、或は斷崖をなし、北部には土器時突出して七ツ釜の奇勝あり。東北部の平野の東には女瀨ノ鼻・日坂鼻の突出あり、附近に立神岩(夫碇石)の瓦礫岩たはる。それより東北一軒たらずの海上には神集島の浮ぶあり。東南部の平野の東には小丘が半島狀に東に突出して東端は相賀崎に終る。米・麥・繭を産し沿岸に魚介の利あり。主要道路は唐津市及び呼子町へ通じ海上も交通の便開く。大字相賀は延喜式の遺跡の地なり。(屋形石の七ツ釜(土器時)指定天然記念物。屋形石神社、一名土器崎の海岸にあり。呼子より發動機船の便あり。全脚玄武岩より成り、疊々相倚り累々相迫りて壯觀を呈し、海に沿へる巖脚に七箇の海蝕洞並列し、窟を並べたるが如し。長さは合

【湊(村)】長崎縣南高來郡にありし村。大正十三年、島原町・島原村と共に廢して島原町を設く。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

部の山麓を西南流して海に注ぐ。中央部の狭月狀なせる白砂青松の海岸は美しく、今その松林は保安林なり。好海水浴場をなし、背後に市街地發達せり。附近海上に島嶼・岩礁散在し、西南約一軒の海上に浮ぶ鹿島は遊園地をなし、樹木鬱蒼として全島を蔽ひ貸別荘・子供博物館・日光東照宮の模型その他、遊覽設備完備し、殊に町外れ並木の松原よりの眺望よし。耕地よく拓かれ米の産多く、柑橘の特産あり。また養蠶及び漁業盛にして其産額多く、綿織物等の工産額も多し。町の北郊上南村との間に日本第一の大梅林あり、全國の梅の名所を集むとも尙ほ此の一箇所に及ばぬと言はるる日本一の梅花郷にて、南部川の清流に臨み、山に倚り谷に擴がりて、花季は二百餘町歩の間唯一面の香雲に包まる。生梅また日本第一にして産額は一ヶ年一萬五千石と言ふ。海岸に沿ひ鹿野街道及び省線紀勢西線通過し後者の南部群(昭和六年設置)あり。また中央低地を東北走する縣道もあり、田邊町及び西北方の印南町にバス通す。明治三十年町制を布く。和名抄の日高郡南部郷に本町及び上南村に當るもの如し。中世は南部郷といふ。

【南部川】和歌山縣日高郡東南部にあり。三里峯の東南麓、清川村に發源して西南流し南部町にて海に入る。下流沿岸に僅に平地開くるも、他は概ね峡谷を成す。流程約三〇軒。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

【水門】延喜式に見ゆる越後國の譯名。↓直江津町(新潟縣)
【水門】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田郡内ならん説かならず。

ミナマ

花はその次子とす。蘆花は名を健次郎といひ文豪として著く知らる。著書頗る多く不詳・思出の記・自然と人生等は其の代表作なり。また町立洪水文庫は徳富蘇峰が其父を記念せんため文庫及び書籍を舉げて町に寄贈せるもの、地方文化に貢献する所多し。(湯出温泉)自動車便あり。肥薩の國境に聳ゆる矢筈岳の麓にあり。湯出川の清流に臨む幽邃境にて、附近に大瀧・小瀧・箱瀧等の勝あり、無色透明の鹽類性硫黄泉。(湯ノ兒温泉)地は不知火海に臨み、近く湯ノ子島浮び遠く天草諸島を眺めて風光よろし。泉質は明礬泉、療養向。(水俣諏訪神社)大字長野に鎮座。郷社。祭神、健甕名方神外一神。永享元年當郡深川村より當村に遷座せりと傳ふ。例祭、四月二十日。

ミナミ

【南村】東京府武蔵國南多摩郡の東南隅。町田町の東南隅にして、東は都筑郡、南は鎌倉郡、西は高座郡と隣す。中部以北は多摩丘陵の一部をなし、南西部は西境を南流する境川流域の平地にして農業行はれ、米・麥・蕎麥を産す。府道は町田町に通じ、省線横濱線は中央を西走するも村内に隣なく、町田町に原町驛ありて自動車を通ず。此の地は和名抄、都筑郡店屋郷の地なり。大字鶴間の町屋は大山

ミナミ

街道と八王子・親土谷道の交又點に當り延喜式に武蔵國、店屋驛馬十疋とあるも此地なるべく、中世その名は亡び、いま其郊外に野野原の名を遺す。(高ヶ坂石器時代遺蹟)指定史蹟。洪積層丘陵上にある石器時代の住居址と思はるもの三あり、何れも徑七八寸の圓石を圓形・橢圓形等に敷き其一ヶ所は爐を中央に設く。【南海】七尾灣。【南(郡)】和泉國(大阪府)の古郡名。和名抄の和泉郡は近世、泉・南の二郡に分ちしが、明治の初め之を和泉・南の二郡とす。同二十九年四月南方の日根郡と合し泉南郡となり今日に至る。【南村】香川縣讃岐國仲多度郡の北部。丸龜市の東南に隣し、東は綾歌郡に接す。丸龜平野の真中にあり、土地平坦にて所々に貯水池あるため灌漑の便よく、從つて農産盛にして米・麥の産多し。村の西部を社線平野電線南北に走り、之に並行して縣道通り善通寺町に至る。その他、村道よく發達して交通至便なり。明治二十二年町村制實施に當り、丸龜市の南に當るを以て南村と名づく。此の地は和名抄、那珂郡柳原郷(柳原郷ともいふ)の地にして、村内に田村城址あり、秋山土佐守守泰忠居りし。秋山系圖に、秋山太郎光朝の二男、左兵衛尉光季、弘安元年甲斐國青島より當國に來りて此の地を領し、光季の三男、彌三郎朝忠、その子孫二郎泰忠ここに居れり。(八幡神社)大

ミナミ

宇山北に鎮座。郷社。祭神息長帯姫命外二神。例祭、九月十四日。【南】省福田川線の一驛(明治四十二年設)。福岡縣田川郡後藤寺町にあり。【美並村】茨城縣常陸國新治郡の東南部。土浦町の東方約八軒にて霞ヶ浦に近し。大部分は低き臺地にして畑地をなし、大麥・小麥を産し、中部・南部には丘陵間に平地ありて水田をなし、米の産多し。縣道は村の中央を横走し、西は土浦町、東は霞ヶ浦沿岸安飾村に通じ、又これより分れて北走するものは石岡町に通ず。西隣上大津村には省線常磐線立寄りありて村道を通ず。【南相木村】長野縣信濃國南佐久郡の東南部。千曲川の上流南相木川の溪谷の村なり。白田町より南方約二〇軒。村の東部には小倉山(一一二二米)・三國山(一一八八米)・南に天狗山(一一八八二米)聳え、關東山塊の西北部の古期岩石を以て形成さる。北部の北相木村境附近には古第三紀層に屬する相木層群の植物化石が出土され、黒色に化石が見出さる。走向は南北のもの多し、關東山地の基盤構造に對して無關係なり。之等の事實は關東山地が新第三紀に大移動をなせし一證左とも考へられ貴重なるものなり。村は林業を主業とし谷底を水田または畑畑とす。山地には山村特有の焼畑等を行ふ。

ミナミ

【南會津郡】福島縣四市七郡の一。岩代國の西南部。西は新潟縣、南は栃木縣・群馬縣、東は岩瀬郡・西白河郡、北は大沼郡・北會津郡に隣接す。面積二三四・三七方軒。本郡は福島縣に於て最も山岳重疊せる地帯にして、南境は常磐山脈に屬し、西より槍高山(一九三三米)・赤安山(二〇五一米)・黒岩山(二一六三米)・孫兵衛山(二〇六四米)・臺倉高山(二〇六七米)・帝釋山(二〇六〇米)・安ヶ森山(一三五四米)・兜海山(一五八〇米)・男鹿嶽(一七七七米)等連りて北方に傾斜し、只見川は西境を北流し、郡の西北部に於て流路を變じ東北に流る。伊南川は西南境に發源して東北に流れ、郡の中部に於て流路を變じて西北に流れ只見川に合す。前記二川の間には一三〇〇米以上の山岳約二二を數ふ。熾火山(二三四六米)は西南部にあり。大川は南境に發源して郡の東部を東北に流れ、上流には田島盆地あり。伊南川及び大川の分水界には大平山(一五四三米)を始め、山地南北に連る。東境は奥羽山脈に屬し、北より向山(一〇二七米)・二岐山(一五四四米)・大白森山(一六五六米)・旭嶽(一八三三米)等連りて西方大川流域に傾斜す。北境にも亦山地連なれり。全部山岳多くして平野の見るべきものなし。山地には檜・杉・山毛櫨・朴等の樹木繁りて木炭を産し、會津藩栗の名産あり。大川・伊南川流

ミナミ

城には米・蕎麥を産し、また冷涼氣候に耐ふる種・粟・蕎麥・玉蜀黍等を産す。沼田街道は西北方より本郡に入り、伊南川に沿ひて南下し群馬縣に入り、日光街道は東北方より入り、大川に沿ひて西南に向ひ栃木縣に入る。また二街道を繋ぎて中部を東西に走る道路あり。大川に沿ひて省線會津線通じ、北より湯野上・彌五島・檜原・會津長野・會津田島等の諸驛あり。人口密度は一方軒につき僅かに二〇人。本郡は明治十三年會津郡を南北の二郡に分ちて置けるもの。いま南會津支廳の管下に屬し、支廳を田島町に置く。【南青柳村】滋賀縣近江國犬上郡の西部。彦根市南部の西に隣り、西は一軒たらずにして琵琶湖岸に出づ。全村地形極めて低平にて大上川が北部を西北に貫きて流れ、西南部には隣村の磯田村との間に湖水あり。米・糠・肥料作物・麥・蕎麥・菜種及び水産物あり。彦根市へバスを通ず。この地は和名抄、犬上郡青根郷の一部とす。【南安岐村】大分縣豊後國東國東部の南部。遠見郡都築町の東に接し、東方一軒餘にて瀬戸内海に出で、南方は約一・五軒を距てて守江港岸なり。北境には三〇〇米程度の丘陵が東西に連なり東に高さを減す。西部・南部一帯も山地をなし、西境には高雲山(二九四米)あり。安岐川の一支流は西部に發し、中央北偏を東流し東北部より西安岐町に出

ミナミ

で本流に合す。沿岸に低地開け耕地發達す。米・麥の産あり。社線國東鐵道の安岐驛(東方約一軒)へバスの便あり。また守江驛は南方二軒にありて道路通ず。【南秋田郡】秋田縣一市九郡の一。羽後國の西部。西は男鹿半島突出して日本海に面し、北は山本郡、東は北秋田郡に、南は秋田市及び河邊郡に隣接す。面積九八一・七方軒。本郡は地勢上、出羽丘陵の西斜面をなす縣幹部と、八郎湯を内に抱く男鹿半島部とに分ちたる。前者の東境には中部に島森(六〇一米)・南部に大平山(一一七一米)等連りて西方に傾斜し、河川は各東境に發源す。馬場目川は北部を西北に流れ、東方より富津内川を合し、西流して八郎湯に注ぎ、その南には井川・豊川等各西流して湯に注ぐ。南部には新成川西南に流れて大平洋に注ぎ、その東には旭川・太平洋各西南に流れ雄物川に合す。東部には丘陵起伏して山地をなすも、西部は八郎湯及び太平洋に面して平坦なり。縣幹部の西南部より砂洲西北方に突出し、細き船越水道を以て男鹿半島に相對す。半島の東部にはまた砂洲を以て山本郡に連なり、本陸との間に八郎湯を抱く。半島の東部には寒風山(三五五米)聳え、西部には貫山(五七一米)・木山(七一六米)・毛無山(六七三米)等南北に連なり、概して山地をなせり、その東岸は八郎湯の湖岸平野にして水田拓く。その北岸は弧狀

ミナミ

に灣入して壯年期の隆起海岸をなし、西岸は幼年期の懸崖海岸にして、凝灰岩の海蝕洞や天然橋及び離礁等多く風光佳なり。南岸は北に貫山を負ひて北西風を防ぎ船川の良港あり。海岸は脆弱なる頁岩より成りて海蝕すむ。本郡は一般に米作を第一とし米の産多し。東部山地には木材・木炭等を産し、また豊川・旭川・油田等ありて石油の産出多し。土崎港町には日本石油會社の秋田製油所・鐵道省土崎工場等置かれ、製油盛なり。男鹿半島東岸は牛農半漁、北・西・南の三岸は漁業を主とす。日本海岸の漁撈は冬の北西風に妨げらるる事多く、爲に季節により北海道・樺太・カムチャツカ等へ出稼をなす者少からず。羽州街道は八郎湯の東岸を南北に通じ、船川街道はこれより西北に分岐して、男鹿半島の船川港町に通じ、五城目街道は之より東方に分岐す。八郎湯の西岸には男鹿街道南北に通ず。羽州街道に沿ひて省線奥羽本線通じ、北より一日市・羽後飯塚・大久保・追分・土崎等の驛あり。一日市驛より東方五城目町へ社線五城目軌道分岐し、追分驛より西方の船川港町へ省線船川線分岐す。明治十三年五月秋田郡を分ちて南北二郡とし本郡を置く。二十二年四月秋田市は本郡中より獨立す。【南旭】新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年、本村は長崎村・旭村及び三和村大字雲洞を合併

ミナミ

し上田村を置く。【南足柄村】神奈川県相模國足柄上郡の南部。松田町の西南方約四軒にて、明神ヶ嶽の東北の山裾を占む。南境附近は約五〇〇米にして東北に傾斜し、北境附近には稍平地ありて酒匂川の支流東流す。農業行はれて麥・大豆・甘藷等を産し、養蠶も行はれて。北部の平地を縣道横走し、南方小田原町、東北方松田町等に通じ、西は足柄峠を経て静岡縣に入る。社線大雄山鐵道は小田原町より入り村内に發點、大雄山驛(大正十四年設置)を置き、同驛より遠山まで自動車連絡あり。この地は和名抄、足下郡足柄郷の地にして、大字苜野は苜野庄と稱せし地、大字關本は足柄山中の古驛にして、延喜式に坂本驛とあるも此なり。郷社矢倉神社及び曹洞宗最乗寺等あり。【南安曇郡】長野縣五市十五郡の一。信濃國の西北部。日本アルプスの東麓にありて松本平の西部を形成す。郡は穂高・豊科の二町と十三村より成る。東は東筑摩郡、南は西筑摩郡、北は北安曇郡、西は岐阜縣に接し面積七七二平方軒。郡の西境は高峻なる飛騨山脈にて燕岳(二七六三米)・大天井岳(二九二二米)・鈴ヶ岳(三一八〇米)・穂高岳(三二〇三米)・乗鞍岳(三三〇六米)等南北に連互し、謂ゆる日本アルプスをなし、二三〇〇―二四〇〇米の高度に雲線ありてカールも存す。これ等の東端は

ミナミ

中央地帯の糸魚川... 唐澤山(一三七一)米、淺川山(一七四三)米、鶴冠山(二一九四)米、黒澤山(二〇五一)米等...

ミナミアヤセ

南綾瀬 東京府南葛飾郡にありし村。昭和三年に町となり...

ミナミアリアケ

南有明村 佐賀縣肥前國杵島郡の東部。有明海の西北岸に臨み、北方約一軒に白石町あり...

ミナミアリマ

南有馬町 長崎縣肥前國南高来郡、島原半島南端の東側。西境は口ノ津港なり。地質は南島原半島の基盤をなす新第三紀層その大部分を占め、一般に丘陵地なり...

七町歩にて、全耕地に對する田は四四%、畑五六%、また桑畑四四%、普通畑一%なり。畑の卓越する地域にして、水田と桑畑は略同じく、養蠶業の盛なる事を思はしむ。近年起れる山葵の栽培は穂高地方を中心として年額百萬圓に達し、本邦第一位にあり。此の特殊産業は豊富な水量を要し常に播氏一、二度近くの温度を保ち流下するを要す。本郡東部の地域は中房川、島川の扇状地末端にありて好條件を具備するによる。農閑期たる十一月より三月に互り附近農民の過半數之に従事す。山地は低地より高地へ針葉樹、山潤葉樹、草地と變化し、薪炭を産し、山地に於ては牧畜をなし、上高地に於けるものは其著しきものとして牧牛場あり。生業として極めて特殊なれども夏季登山期に於ける案内者も登山者の微増につれ農家の副業として見逃し難し。松本糸魚川の谷は古來北國より江戸への交通路にして、北陸の鹽・魚類の輸送路に當る。飛騨との連絡には梓川を廻り日本アルプスを安房峠・野麥峠にて越ゆる山道あり、現在この東境に信越・中央兩線が結ぶ笹井線あり、松本より糸魚川街道に沿ひて大糸南線通り、松本よりは登山のため鳥ヶに至る電車あり。また松本を中心とするバス網開け、夏期登山の爲には豊科・穂高・鳥ヶ等はその出發地として賑はふ。明治十三年五月安曇郡を南北二郡に分ちて本郡を設く。

ミナミアタ

南阿太村 奈良縣大和國宇智郡の東部。吉野川の左岸に沿ひて野島町の東に接し、東及び南は吉野郡に界す。南境には約四〇〇餘米の山地ありて北斜す。東北部には三〇〇米程度の丘陵地あり。吉野川は北境に沿ひて加曲しつづ西南流し、沿岸には稍低地を見る。米・藪・麥を産す。西部は野原町に接して自動車・馬車の往來繁し。明治二十四年阿太村の一部を割きて置けるもの。尊攘の志士橋本若狭(贈正五位)は此地の人にして、中山忠光の義舉に附近の郷兵を率ゐて之を應援し、捕へられて元治元年斬らる。年四十四。

ミナミアタチ

南足立 足立郡十二郡の一。豊後國の東南部。東は佐伯灣を圍みて豊後水道に臨み、東南は日向灣に面し、南部は宮崎縣東臼杵郡に界す。西境には冠岳・楢ヶ城山(六一〇米)・石峠山(六二四米)・風櫃山(七五四米)・酒利嶽(七五三米)等が聳立し南境には中ノ嶺(五四九米)・場原山(六六一米)・津島嶺(五〇六米)等屹立して四周山岳を繞らし、郡内は山地多し。復讐な地形を呈す。河川は四周より相集まり、中央北偏を東流する因尾川に合し、河口は香匠川・中江川・長島川等の河川に分れ、大三角洲をなして佐伯灣に注ぐ。此の三角洲上に佐伯町發達す。城内略ど山岳地なれども、河川沿岸及び河口には沖積低地發達せり。

ミナミイケ

南生口村 廣島縣安藝國豊田郡の南部海上に横はる生口島の西南岸を占め、西及び南は瀬戸内海に面す。東に東生口村、西北に瀬戸田町、北に北生口村が接す。南は約三軒の海を隔てて愛媛縣の伯方島に對す。面積七・七方軒。島の中央部には東西に互る山脈存し、本村の北界をなす。觀音山(四七三米)聳立して支脈を發し、村内大部は山地なるも海岸に向ひて地勢傾斜し、狭少なる海岸平野を有す。耕地村落此處に相連なる。海岸線は小出入を有し、鯛・鱈等の漁獲物、及び米・麥・醬油・酒・木炭等を産す。東生口村より渡船の便あり。〔光明坊〕大字御寺にあり。古義眞言宗。仙容山寶蓮寺三昧院と號す。創建年代不詳。十三層石塔婆(永仁二年)僧忍性の所建。阿彌陀如来坐像(木造)一軀は國寶。

ミナミイケ

南池田村 大阪府和泉國泉北郡の中部。和泉山脈の北麓に位置して大津川に跨り、福泉町の南方約一軒にあり。東西兩部は二〇〇米以下の丘陵をなし、中央を貫きて大津川が西北流し、沿岸に低地發達す。西部に數個の灌漑用湖沼あり。田畑よく拓け米・麥の産多く蜜柑の特産あり。工業類は首位を占め外に林産・畜産あり。中央低地に縣道通じ北方の風町・堺市方面及び西西北方大津町へバスの便あり。大字園分は和泉國分寺のありし處。〔春日神社〕大字三林に鎮座。郷社。祭神、武甕槌神・經津主

り。山地の餘波が海に没して海岸は複雑を極め、東北端の蒲戸崎、中央の鶴見崎は共に東方に蜿蜒と突出して佐伯灣を抱き、灣岸は小屈曲に富む。灣澳に大入島及び八島・三栗島・彦島・片白島等の小島嶼浮ぶ。鶴見崎より南は日向灘に臨み、名護屋崎・宇土崎等の突出無數にありて間に小灣を抱き、謂ゆる九十九浦の稱あり。南方海上には尾形島・深島等横はる。低地は田畑よく拓けて米・麥・藪・茶・蕎麥その他の農産物を産し、山地は木材・木炭の産多く椎茸の産もあり。畜産も多く、海岸は水産漁獲物に富む。また佐伯町を中心として工業發達し、製材所を初め醸造場・醬油工場・製糖工場・製鐵所・印刷工場等多く、殊に省線日豊本線の開通以來郡内は素より大野郡方面に於ける各種の林産物・農産物及び郡内沿岸に於ける水産物は悉く佐伯町を集散の市場とし其の經濟機關は日夜間斷なく回轉し居り。郡内は佐伯町・蒲江町の二町外二十一ヶ村を含み、人口密度は一方軒一三一人にして佐伯町は最も多く一三〇〇人、最も少なきは青山村の十八人なり。日向街道は中部を通過し、東北部には臼杵町方面より来る縣道ありて佐伯町に達す。省線日豊本線は佐伯町を通過して中央を東北より西南に貫通す。海上には便船あり。明治十三年五月海部郡を分ちて南北二郡となし本郡を設く。〔海部郡(郡)〕

ミナミイケ

南生口村 廣島縣安藝國豊田郡の南部海上に横はる生口島の西南岸を占め、西及び南は瀬戸内海に面す。東に東生口村、西北に瀬戸田町、北に北生口村が接す。南は約三軒の海を隔てて愛媛縣の伯方島に對す。面積七・七方軒。島の中央部には東西に互る山脈存し、本村の北界をなす。觀音山(四七三米)聳立して支脈を發し、村内大部は山地なるも海岸に向ひて地勢傾斜し、狭少なる海岸平野を有す。耕地村落此處に相連なる。海岸線は小出入を有し、鯛・鱈等の漁獲物、及び米・麥・醬油・酒・木炭等を産す。東生口村より渡船の便あり。〔光明坊〕大字御寺にあり。古義眞言宗。仙容山寶蓮寺三昧院と號す。創建年代不詳。十三層石塔婆(永仁二年)僧忍性の所建。阿彌陀如来坐像(木造)一軀は國寶。

ミナミイケ

南池田村 大阪府和泉國泉北郡の中部。和泉山脈の北麓に位置して大津川に跨り、福泉町の南方約一軒にあり。東西兩部は二〇〇米以下の丘陵をなし、中央を貫きて大津川が西北流し、沿岸に低地發達す。西部に數個の灌漑用湖沼あり。田畑よく拓け米・麥の産多く蜜柑の特産あり。工業類は首位を占め外に林産・畜産あり。中央低地に縣道通じ北方の風町・堺市方面及び西西北方大津町へバスの便あり。大字園分は和泉國分寺のありし處。〔春日神社〕大字三林に鎮座。郷社。祭神、武甕槌神・經津主

命・天兒屋根命・比咩大神。享保三年六月正一位を授けらる。例祭、十月五日。〔國分寺〕大字國分あり。古義眞言宗。舊く安樂寺または福徳寺と號せしことあり。聖武天皇勅建の諸國國分寺の一。

ミナミイコマ 南生駒村

奈良縣大和國生駒郡の西部。生駒山脈の東斜面に位置し生駒町の南に接す。西は山嶺を隔てて大阪府中河内郡に界す。西境には生駒山脈が南北に連なり、西北境に生駒山(六四二米)あり。東境に南北に連なる約三〇〇米の丘陵あり。中央兩山地の間を龍田川が南に貫流するも沿岸低地乏し。米・麥・蕎麥を産す。清瀬街道は河谷を南北に通じてバス往來し之と交叉して東西に奈良街道山地を越えて走る。社稷信貴生駒電線は中央を貫貫し、生駒(昭和二年設置)・南生駒(昭和元年設置)・一分驛(昭和二年設置)あり。この地は和名抄、平群郡平群郷の内なり。もと今の生駒町と共に生駒と汎稱せしが、明治二十二年南北の二村に分ち、北生駒村は大正十年生駒町となる。〔行基菩薩墓〕指定史蹟。舊竹林寺境内にして文殊山と呼び、いま草叢中に墓址を存し、文殊堂の土壇を遺存す。竹林寺は行基の開基にて天平二十一年菅原寺に寂するや、遺命によりて遺骨をここに葬りしが、文曆二年發掘され、銀製骨壺を納めたる墓誌刻銘の銅製容器を發見し、その後土壇を修築して之等の遺骨器を埋め、上に文殊堂を建つといふ。然るに勝國時代兵火に焼亡し、のち堂は再興せられしが、明治六年廢寺となりて遂に廢滅す。〔往馬坐伊古麻都比古神社〕大字堂分字生駒山に鎮座。蘇社。祭神、伊古麻都比古命・伊古麻都比呼命・譽田別天皇・足仲彥天皇・氣長足彥尊等七柱。もと往馬大明神といふ。天平二年、神戸の稻租を以て祭料等に充て、大同元年の觀神封三戸を載す。貞觀元年從五位上に昇せられ、延喜の制、二座並に大社に列し、新年・月次・新嘗の祭上の官幣に預り、一座はまた祈雨の幣に預る。古來生駒谷十七郷の氏神と尊崇せられし名社なり。例祭、十月十一日。〔圓福寺〕大字右里にあり。眞言宗醍醐派。傳行基建立。沿革不詳。本堂(鎌倉時代建)は國寶。〔寶鏡寺〕融通念佛宗。俗にくづれ堂と稱す。和元元年、行基の開創と傳へ、文政年間、圓超入りて復興す。傳行基作地蔵菩薩像は愛宕火伏権現の本地とて崇敬篤し。本堂は國寶。

ミナミイサ 南伊佐(郡)

薩摩國(鹿兒島縣)の古郡名。明治二十年四月伊佐郡を南北二郡に分ち本郡を置しが、同三十年四月、薩摩郡に入りて郡名を失ふ。※伊佐

ミナミイシカ 南石橋

三重縣員辨郡にありし村。明治三十九年北石橋村と合併し石橋村を建つ。

ミナミイソ 南磯村

秋田縣羽後

國南秋田郡の西部。男鹿半島の南端に位置し、東北は船川港町に接し、南は太平洋に面す。北境に丸森山(三三七米)・毛黒山並んで南方に傾斜し、約四段の段丘をなして海に臨む。全村概ね山地をなし、西部は傾斜急にして、海岸は岩石海岸をなし、鹽濱崎・館山崎・鶴ノ崎等の突出あり。村の生業は漁業及び農業にて、季節により北海道・樺太・カムチャツカ等への出稼あり。鯉・鮭・鱒・烏賊・てんぐさ等の水産物及び米を産す。男鹿石の特産あり。省線船川線の船川驛(約四軒)バスの便あり。本村はもと南磯分村と稱せしが、明治二十四年現稱に改む。此の地の女川には、後村上天皇の御世に阿部千壽丸あり、大龍寺を建立し菩提寺とせしが、天正年間、勝本城主の滅す所となり、勝本城主阿部親季これを勝本に移し菩提寺とし現存す。大字小濱には寛政年間、藩主が壽命によりて唐船見香所を置き、藩吏を以て警備せしめたるが、安政三年これを廢す。村内の舊藩宮と稱する洞窟は急峻なる斷崖が日本海の怒濤の爲に軟弱なる部分のみ削り去られて形成せしもの。入口の幅約六米、深さ約四〇米、半島隨一の奇蹟たり。〔つばき自生地〕指定天然記念物。椿にあり。能登山と稱する海岸の小丘にて、周囲約二〇三米、最高點約一七米、山上に小社あり。つばきは幹の太きもの伐採され、今は目通約八八割のもの一本、約六七割のもの

ミナミノウエ 南井上村

徳島縣阿波國名東郡の西北部。徳島市の西北約六軒。西は名西郡に隣し、國府町の北に界す。吉野川下流右岸の沖積平野の地を占め、平坦にして肥沃なれば耕地よく開けて農業盛んなり。米作を第一とし、麥・蕎麥の産も少からず。南境を控めて省線徳島本線通府中驛に隣接す。中央を東西に縣道通りてバスを通す。この地は和名抄、名東郡井上郷の内にして、大字花園に花苑御所のありし所なりと。管地存す。この事、平家物語に見ゆ。〔八幡神社〕大字井上に鎮座。祭神、應神天皇・仲哀天皇・三女神。もと井上八幡神社と稱し、附近六村の氏神として崇敬せらる。例祭、十月十五日。〔井戸寺(妙照寺)〕眞言宗大覺寺派。四國遍路

第十七番の札所。本尊として薬師十二神像を安置す。寺は弘法大師この地の水質悪きを憂へ、加持して井戸を掘りしに忽ち清水湧出せしため、ここを藥師如來有縁の地となし像を刻みて安置せしと傳ふ。天正年間兵燹に罹り、慶長年間に至りて再興されたり。寺寶の十一面觀音立像(木造、國寶)は高さ五尺九寸八分、體軀豐滿、總身に淡彩を施し、端嚴なる面貌を備へ、裳の曲線にも統一綜合の美を示せる平安時代の優秀なる作なり。御詠歌「おもかげなうつして見れば井戸の水むすべば胸の増やおちなん」

ミナミイヨ 南伊豫村

愛媛縣伊豫國伊豫郡の北部。郡中町の東にあり、松山市の南方約五軒。村の東南の方向に二百―四百米の山脈連なりして西北に緩傾斜をなして下り前面は平坦なる松山平野に續く。従つて耕地よく拓けて農業盛なり。米作を第一とし、麥・蕎麥の産も少からず。また養蠶業を營み蠶卵を多量産出す。附近と共に綿糸工業を營み伊豫絨の産も少からず。西北境を控めて省線豫讃本線西に走り、郡中町に至る。中央の山麓下を東方土佐街道より分岐せる縣道來りて通里郡中町に至るバスの便あり。豫章記によれば、越智の一族、高市は元暦の頃、高市武者所清儀・同五郎友儀なるもの攝津の生田森の戦に名を馳せし勇者なりしが、のち此地にありて氏寺を立て多喜寺と號す、その子孫繁榮し、吾河郷に居住

し吾河氏を姓とせりと。〔伊曾能神社〕宮ノ下に鎮座。郷社。祭神、天照大御神外二神。式内社。俗稱、吹上明神。例祭、十月二十一日。

ミナミイワテ 南岩手

↓岩手

ミナミインナイ 南院内村

大分縣豊後國宇佐郡の西南部。南は玖珠郡森町の地に接し、西は下毛郡に界す。全村山岳叢生し、東南境に鈴ヶ塚山・人見岳(九二一米)聳立す。山地は全體に東北部に低下す。驛館川の支流恵良川は中央を貫きて東北流し沿岸に低地あり。米・麥・林産物産の産あり。中央に主要里道が通じ森町及び北方の長洲町へ至る。〔大山椒魚棲息地〕指定天然記念物。宇間を流るる驛館川の上流にあり、途中まで自動車のみあり。大山椒魚は本土の西部即ち美濃より中國・九州地方に於ける高地の溪流中に棲息するもの。〔推屋の瀧〕東西二瀧あり。西推屋瀧は本村に、東推屋瀧は津房村に屬す。西推屋の瀧は堆積と云ひ直下約六一米、幅三米、瀧壺の廣さ五九五方米、深さ六四米弱、附近に推屋神社あり。境内の銀杏は日通約一一米、樹高三六米餘、瀧の大蛇が除かれし記念として、天平年間に近村の農民の植みしものと傳へらる。東推屋の瀧、即ち堆積は堆積に比し稍小規模なるが、中段ありて、巖角を怒撃し珠玉を跳らせ、その壯觀は彼に譲らず。〔惠良神社〕大字

下惠良村に鎮座。郷社。祭神、天照大御神・事代主神・素戔鳴命。例祭、十月二十五日。

ミナミウオヤマ 南魚沼郡

新潟縣魚沼郡の西部。越後國の中央南部。東・南・西の三境は三國山脈の本支脈に圍まれ、信濃川の支流魚野川及び清津川上流の一帶を占むる地にして、東南より南へかけて三國山脈の諸岳二〇〇〇米前後の峻峰を連ねて群馬縣上野國に界し、西南は苗場山の支脈により長野縣信濃國に、西は其の餘脈を以て中魚沼郡に、北及び北東は北魚沼郡に界す。面積九六二〇平方軒の大郡なれど、人口密度は一方軒七〇人に過ぎず。東部・南部は高峻にして山間の水は何れも峡谷を穿ち急流をなし、清野川を除きては概ね西北に流れ西部を東北に流るる魚野川に合流し、下流に大小の扇狀地を洪積す。南部の清津川は白山・高津倉山に及ぶ一分脈によりて魚野川と分たれ、北流して中魚沼郡に入り信濃川に合す。流域は近時主要なる發電地帯となる。魚野川の平野は諸支流の扇狀地を連ねて郡の西北部に長く横がり西は丘陵を以て信濃川本流との分水界をなす。平野には水田・桑園開け米・蕎麥を産すと共に、往時より家内機業盛なりし所、今尙ほ機業地として榮え六日町・鹽澤町は其の中心地として絹織物・麻織物の高級品を産す。又山間諸村は林業を主とし木材・薪炭の産も少からず。本郡

ミナミウチ 南宇智村

奈良縣大和國宇智郡の南部。吉野川の南岸に沿ひ野原町を挟みて北に五條町あり。東南部一帶は吉野郡に界す。東境には二〇〇米以下の丘陵が西北に連りて村境を劃し、北境の吉野川の谷に終る。東部に三〇〇米程度の丘陵ありて西方及び西北方へ緩斜す。兩山地の間には黒瀧川が西北流し西北境を西流する吉野川に合す。低地は西北部に稍發達す。田畑廣く開墾せられ米・蕎麥の産も多し。中央の河谷に沿ひて道路走り、五條町へバス通す。この地古くは和名抄、宇智郡阿陀郷の内とす。宇智村・北宇智村と共に宇智と汎稱せし處。〔宇智陵〕本村及び阪合村に跨がる。光仁天皇の皇后井上内親王の御陵。寶龜八年謚墓とし、延暦十九年即位追復と共に御墓を山陵に列し、葛井王を差遣、復位の事を奉告せしめらる。中世發廢せしも、明治十年現地に御治定。〔ミナミウチ〕南打越村 秋田縣羽後國由利郡の西部。本莊町の東北に接

す。地勢東部に高く、西方に傾斜し、岩谷川は西部を南流し、子吉川に合す。子吉川は村の西南境を西北に流る。鳥谷川の西は山地をなす。岩谷・子吉川の合流附近は本荘平野に属し、平坦なり。村の生業は農を主とし、米を産す。道路は西部を南北に通じ、本荘町へは自動車便あり。羽越本線本荘駅へは約三軒あり。この地は和名抄、河邊郡川合郷の内にして、村内に内越館あり、内越氏の居りし所なり。

ミナミウラ 南浦村

宮崎縣日向國東臼杵郡の東北部。延岡市の東北に接して日向灘に臨み、東北より西南に長し。西境には山脈が東北より西南に連り、嶽山(六四四米)・黒岩嶺・嶽山(六四四米)等が聳ゆ。嶽山の東に飯塚山(五七七米)聳え、それより南方へ連る山脈は途中に森山(四六八米)を起し、南端は海中に突出して福崎となり、南部より東北へ突出する金山鼻と相對して其西に東北より西南に積々長き灣を抱く。灣岸は山地迫りて屈曲多く黒磯・鳥帽子嶺・七島等の島嶼・岩礁無数に散在す。灣の東北岸に低地やや開け沿岸は砂濱をなす。水産類最も多く其他農産・林産あり。村道が灣岸を通ずれば海陸共に交通は概ね不便なり。(鳥野浦島)本村の屬島。日向灘に於ける島にして、周圍約一軒。最高點一八六米の山地あり、島の東側及び南側は概ね險崖をなし、南側には岩礁多く散在

す。島の西側なる鳥野浦は一小池にして漁村聚落發達す。

ミナミウ 南宇和郡

愛媛縣伊豫國四市十二郡の一。縣の西南部。北は北宇和郡に界し、東は高知縣幡豆郡に隣接し、西及び南は宇和ノ海・宿毛湾に面す。面積二四一・二八方軒。宇和山地の西南部を占め、東北に聳立する徳山を始め高峻なる山岳廣く屹立し居して南・西に傾斜し海に沈む。海岸は樹林狀に半島岬角がりて屈曲にとみ、良箇地をなす所少からず。然し土地僻遠にて後背地との連絡不便なるため餘り利用されず。地方的漁港として漁船の出入をみるにすぎず。水産業は盛なり。最近は丘陵耕作よく行はれ養蠶業次第に盛となり繭の産額多し。平地少ければ農業不振なり。交通路は海岸低地を利用して間か東方の宿毛町と西北方の宇和島市へ國道を通す。明治十三年五月、宇和郡を東・西・南・北の四郡に分ち本郡を置く。いま北宇和郡と共に宇和支廳管下に屬し、支廳を宇和島市に置く。

ミナミオーイ 南大井村

長野縣信濃國北佐久郡の中部。岩村町町の北に接し、村は東に御代田村、北は北大井村、西に三岡村に接す。淺間山(二五四二米)の火山泥流の裾野に位置す。従つて此の裾野面を利用して全村の耕地は桑畑を以て殆ど被ばれ、其間に千曲川の支流が裾野に於けた谷を樹林狀に發達を獨く。明治二十二年四月米澤市は本郡より獨立す。※(養蠶)郡

ミナミオガタ 南緒方

大分縣大野郡にありし村。昭和七年本村を廢し緒方村・合川村に各々編入す。

ミナミオガワ 南小川村

長野縣信濃國上水内郡の西南部。犀川の支流土尻川の南岸にあり。青木湖の東八軒の山中にあり。北は北小川村、南は津和村、西は北安曇郡美麻村にして、村内には長野より大町街道かゝる。大字高府は村内の土尻川の北岸にあり、本街道中に於ける主要部落にして土尻川流域の中心をなす。村は八六〇米内外と六〇〇米内外の高度を中心とする二平坦面あり、河岸段丘と考へらる。土尻川沿ひの谷底には水田拓くも、多くは畑作と林業を主業となす。この地は近世、小川庄と稱せし地にして、いま南北の二村に分る。(八幡社)縣社。祭神、日本武尊・譽別命。松代藩主の崇敬厚し。舊稱、小川八幡大神。例祭、十月十五日。

ミナミオグニ 南小國

【南小國村】山形縣羽前國西置賜郡の西南部。西南は新潟縣に接す。面積二〇〇・二三方軒の大村。南境には飯塚山(二一〇五米)・西ヶ嶽(二〇一三米)聳えて、北方に傾斜し、西境には北より大境山(一一〇二米)・粘松山(一一二〇米)・地神山(一八五〇米)・東境には夜蚊島山(九六八米)・大丸森山(一五〇二米)・地蔵

し、その底面に僅に水田あり。養蠶を村の主業となし、佐久平の養蠶地域の一部をなす。村は御影新田・長土呂・和田の三部落を中心とし、後二者は小諸より岩村田に至る佐久・甲州街道に沿ふ。この地は和名抄、佐久郡小沼郷の内か。經世家柏木小右衛門(贈從五位)は本村の人。

ミナミオーイタ 南大分

省線久大本線の一驛(大正四年設置)。大分市にあり。

ミナミオーキタ 南扇田

省線花輪線の一驛(昭和三年設置)。秋田縣北秋田郡扇田町にあり。

ミナミオージ 南王子村

大阪府和泉國泉北郡の西北部。大津町の東に接し南は和泉町に隣る。村内土地平坦にして王子川は中央を西北に貫流す。氣候温暖、地味肥沃なれば農業盛なるも工業は産額に於て首位を占む。社線阪和電線信太山驛に近く、また小栗街道は東境を僅か距たる地を南北走し、大阪方面への便大いに宜し。この地は和名抄、和泉郡上泉郷の内とす。

ミナミオーチ 南邑知

石川縣羽咋郡にありし村。昭和八年に志雄村(昭和十一年町制施行)に併合せられ、村名を失ふ。

ミナミオーデン 南王田

臺灣總督府鐵道臺中線の一驛(昭和四年設置)にして縱貫線と接続す。臺中州大甲郡大肚庄王田にあり。

石川縣能登國鹿島郡の東南部。鹿島半島の東岸、富山湾に臨む。南は富山縣米見郡に接す。全村石動山脈の一部を占め、丘陵山林に富む。略中央を東へ貫流する小流あり、流域小平地開け耕作行はる。米・繭の産ある外、海岸諸部落は漁業を主産業とす。海岸に沿ふ縣道及び之より西走し七尾町に至るもの、南へ走り富山縣米見郡の米見町に至るものあり、バス便あり。此地は和名抄、能登郡長濱郷の内なるべく、村内に延喜式内社阿良加志比古神社あり。此地は三州志によれば慶長五年、前田氏、土方雄久を越中布市村に置かれ、その十一年、能登四郡の内にて、一萬石の采邑を之に與ふ。この時鹿島郡山崎村(本村の大字)に於て、土方氏陣屋を建つとあり。(阿良加志古神社)山崎に鎮座。祭神、加志比古神外一柱。式内社。例祭、四月二日。

ミナミオーミ 南大海村

石川縣能登國羽咋郡の南部。大海川に沿ひ、西の一部は日本海に面し、西南は加賀國河北郡の高松町に隣接す。東半部は寶達山(六三七米)の西南斜面をなし、西南國境には又低き丘陵あり。大海川は東南・西北に村内を貫流し、河岸に多少の平地を開き、水田・桑園あり。米・繭を主産とし機業も亦行はる。また山林には薪炭材の産あり。省線七尾線は西部を北走し高松線へ近し。七尾街道は之に並走

に屬せり。大字瀧頭寺はいま阿蘇國立公園に屬す。(竹ノ熊の大體)指定天然記念物。樺一株。日通幹圍約一〇・五米直幹屹立、樺の巨樹として有数のものなり。(黒川温泉)海拔約六〇〇米、九重山麓にある高山温泉にして、薬湯・穴湯・うたせ湯・蒸湯などあり。鹽類性硫黄泉にて骨膜炎に特效ありと云ふ。(田ノ原温泉)字原にある鹽類泉。リウマチス・濕疹・婦人病等に効あり。附近に夫婦瀧・男瀧・七瀧の勝あり。(瀧頭寺)字瀧頭寺にあり。久住川の裾野にあり。温泉は筑後川の水潭志賀湖川の支流志津川の沿岸に湧出し、大湯・上等湯・河瀧湯・寺の湯に分たる。大湯・上等湯はアルカリ泉、河瀧湯・寺の湯は硫黄泉にして、胃腸病・喉病・皮膚病などに効くと云ふ。附近の金比羅山の金比羅杉は根廻り二五米、樹高二八米の巨樹なり。(瀧頭寺)古義眞言宗。文永十一年北條氏、蒙古降伏祈願のため、勅宣を奉じて建立す。天正中、加藤清正に寺領を沒收せられ、今僅に一坊舎を存す。

ミナミオンハラ 南押原村

栃木縣下野國上都賀郡の東南部。鹿沼町の南方約五・五軒にして、東南は下都賀郡に隣す。西境は二〇〇米餘の山地をなすも他は平野開け、西南境を小倉川、中央を黒川南流し、川沿ひは水田、他は畑地をなして農業を主とし、主産物には、米・大麥・小麥、特産物には大麻・蕪・鹿沼

土等あり。縣道は鹿沼町より来り、村の中央にて二分し、栃木市及び下都賀郡壬生町に通ず。また中央より分岐して東北に走るものは宇都宮市に通ず。鹿沼町・栃木市及び壬生町へはバスの便あり。社線東武日光線は西部を北走し、栃木驛(昭和四年設置)を置く。

ミナミオタリ 南小谷村

長野縣信濃國北安曇郡の北部。乗鞍嶽(二四三七米)・小蓬山(二七六九米)・白馬嶽(二九三三米)等の謂ゆる北アルプスの峻峯西境に聳え、東境には東山(一八四九米)・八方山(一六六二米)あり。其間に姫川中央を北流す。これと並行して糸魚川街道通じ、北陸より江戸への重要な街道をなせり。村は此の谷底を占め僅に水田並に桑園あり。山地を利用する畜養を主とし、牧馬を飼育す。村内千回は松本領口留置所ありし地にて、大町より約三〇軒。糸魚川・松本構造線の通る地にして正徳四年大地震ありて人馬災害を受けたる記録あり。この構造線の活動に起因するものなるべし。耕地面積は四九一町にして全面積に對する耕地率は四・九%なり。山村の特色を示し、田二九四町、畑一九七町、うち桑畑一〇六町にして畑の桑園化著し。往昔、上杉藩信濃侯心を以て鹽を甲信地方に輸送せしは此の街道によりしものなり。省線大糸南線の南小谷・中土の二驛(共に昭和十年設置)あり。この地は東鑑、文治二年の

條に千回庄、六條院領とある地にして、當時は小谷を總て千回庄と稱せり、大字千回は庄の遺稱にして、松本領に留置所ありし所にして、今は中部山岳國立公園の内。村内に姫川水系の姫川及び支流を利用せる姫川第二發電所(出力一二、五六〇キロワット)あり。

ミナミオタル 南小樽

函館本線の驛(明治十三年設置)。北海道小樽市にあり。

カナミカスミ 南加積村

山縣越中國中新川郡の東部。上市町の東に接し、上市川右岸に沿ふ。東南部は二三百米の丘陵にて次第に西北へ傾斜し、西北部は富山平野の一部に屬す。山裾と平地一帯に互り水田開け米の産多し。其他、製麥・製蠶の副業も行はる。西北部を貫通する縣道あり上市町へ約二軒、之より社線富山電線の便あり。(立山寺)大字眼目にあり。曹洞宗。眼目山と號す。開創僧大徹。寺運隆盛に向ひし天文年間兵燹に罹り、加ふるに大檀越土肥氏滅亡して次第に荒廢せしも、寛永十年僧地山これを再興、爾來堂宇次第に整ひ以て今日に及びり。

ミナミカタ 南方

【南方村】宮城縣陸前國登米郡の西南部。佐沼町の西南に隣り、西南は遠田郡に隣接す。陸前平野の東部に位し、西北部に丘陵ある外、概して平坦なり。迫川は北方より来り村の東境及び南境をなして南流し、西南境には瀨栗沼あり、その沿岸は野谷地にして土地低濕なり。米・麥・蕎麥を産す。道路は東北方より来りて西北方に向ふ。社線仙北鐵道の沼崎下驛(昭和九年設置)・西郷驛(大正十一年設置)・高石驛(大正十年設置)・板倉驛(昭和九年設置)の四驛を置く。この地は和名抄、新田郡山沼郷(高山寺本には山沼郷とあり)の内にして、南方とは佐沼南方の義なり。村内青島より縄文土器を出土し、且つ石器時代人骨を發見したるを以て名高し。

ミナミカツラキ 南葛城郡

奈良縣大和國十郡の一。縣の西部。金剛山脈と葛城山脈との連絡地の東斜面を占め、西は山嶺を隔て大阪府南河内郡に界す。西部には南北に山脈が連なり、西南部には金剛山(一一二二米)聳ゆ。東部の南半は山地をなし、北麓に國見山(二二九米)あり。東北部は奈良盆地西南隅の低地を占む。葛城川は南境に發し金剛山脈の山麓に沿ひて中部を北流し、東北部低地を潤して隣郡に出づ。東北部は耕地よく發

達し、米・麥・蕎麥を産し、實業・綿織物の産もあり。郡内は御所町及び七ヶ村を含み、人口密度は一方軒四八八人、最も多きは御所町の四、八三四人なり。中央河谷に沿ひ下街道通過し東北部の御所町よりは東走する縣道あり。省線と社線大坂電氣軌道が東北より來る社線大阪電氣軌道吉野線が東南部吉野口驛に連絡し更に東南方に派出し吉野山に至る。明治廿年四月葛上・忍海二郡を合し本郡を置く。

ミナミカミ 南上村

靜岡縣伊豆國賀茂郡の西南部。下田町の西約九軒。東は南中村、西は三濱村、南は三坂村、北は岩科村に接す。村の四圍は山岳を以て圍繞せられ、殊に北境に高く、西北境にて五二〇米、東北境にては五四七米を示す。城内も亦山多く僅に東南の一部開けて南中村に通ず。青野川西北より東南の方向に流れ、市野瀬川・上小野川・毛倉野川等の諸川これに注ぐ。夫等沿岸には僅に平地開く。住民は専ら農業に従ひ製炭を副業とす。物産には蕎麥・粟・三稜・竹等あり。下田町へバスの便あり。(三島神社)大字下小野宮ノ前に鎮座。郷社。事代主命を主神とし、相殿に應神天皇を祀る。もと門野明神・大宮・三島明神とも稱す。延喜式の阿都加多比呼命神社、國內神名帳の從四位上あまつかた姫の明神に充つる説あり。古來上下小野の總鎮守たり。例祭、十一月二日。

ミナミカモリ 南掃守村

大阪府和泉國泉南郡の東北部。岸和田市の東に接し、西北より東南に細長し。東南半は丘陵性の地に灌漑用湖沼散在す。西北半は平地地をなし、東北部に發する一河川は東部及び北部を西北流しして澤庵多し。春木町に入る。農産物豊かにして澤庵多し。綿織物の産額も多く、外に水産・畜産・林産あり。西北部に小栗街道・社線阪和鐵道及び社線南海鐵道等通過して後者の春木町所在の春木驛は殆ど北境に接する地點にあり。阪和鐵道土生驛(西南約一軒)へはバスの便あり。この地は和名抄、和泉郡掃守郷の内とす。(兵主神社)郷社。祭神、八千鎰大神・日本武尊。式内社。例祭、十月十日。

ミナミカワエ 南川副村

佐賀縣肥前國佐賀郡の南部。筑後川の分流早津江川の河口の右岸に位し有明海に臨む。地形極めて平坦にて早津江川は東南に沿ひて南流す。海岸は遠淺なり。米産額多く蕎麥・藪も産す。粟落は中部・北部に散在す。主要道路佐賀市へ通ず。(渡童神社)大字大井道に鎮座。郷社。祭神、底津綿津見命・中津綿津見命・表津綿津見命。天文廿二年國司能隆寺隆信、水難轉除の爲創祀すと傳ふ。例祭十月廿一日。

ミナミカワチ 南河内

大阪府七郡の一。河内國の東南部。葛城山脈の北斜面より北は大和川の南岸に及び、東は金剛山脈の西斜面

を占め、西北隅は堺市に接す。南は和歌山縣伊都郡に隣り、東は奈良縣宇智郡・南葛城郡・北葛城郡に界す。南境に葛城山脈東々北より西々南に連り三國山(八八六米)・岩湧山(八九八米)等聳えて南境を限り、東境には南北に金剛山脈連りて郡境を限る。その南部に金剛山(一一二二米)屹立す。兩山脈の山麓は中央にて臺地状の高燥地をなす。北部は大和野の一部を占め、地形平坦にて北境の東半には之に沿ひて西流する大和川あり。西南隅に發する石川は南部・東部兩山地の水を集めて中央を東北北流し大和川に合し、沿岸に低地發達す。西北部には北流する数條の大和川支流あり。中部・北部には處々に灌溉用湖沼が散在す。低地は地味肥沃、水利の便よく田畑よく發達して米・麥・蕎麥・粟等の農産物に富み山麓の斜面地には葡萄・桃・蜜柑等の栽培盛なり。山地は木材・木炭の産多し。また郡内は製糖工場を始め硝子工場・選毛工場・防木布工場・ボタン工場等各種工場多く、大阪灣工業地帯に近く都府混濁なり。郡内は富田町・長野町・古市町・藤井寺町・柏原町の五町外四〇ヶ村を含む、人口密度は一方軒四九人にて柏原町は最も多く五、六〇一人を算す。交通は大和市の南郊として頗るよく發達し堺市を中心に北部に奈良街道東走し、其南に竹ノ内街道が東走し、中部に富田林街道ありて東南に走り、以上の街道に共に

ミナミカワネ 南川根村

茨城縣常陸國西茨城郡の東南隅。穴戸町の南隅、岩間町の東隅にて、東より南は東茨城郡と隣す。中部以南は低き臺地にて畑地をなし、北部は北境を東流する洞沼川流城の低地にして沼地をなす。農業行はれて米・麥を産し、特産物としてほ促成胡瓜・桑苗等あり。縣道は北部を西走して岩間町に通じ、同町に省線常磐線岩

ミナミカワラ 南河原村

埼玉縣武蔵國北埼玉郡の西北部。忍町の西北隅にある小村にて面積五・七五方軒なり。北隣北河原村を隔てて利根川に近く、全村平地にて米を主産し蕎麥も盛にて藩の産多し。縣道は忍町及び西南方熊谷市に通じ、共にバスの便あり。忍町には社線秩父鐵道線行田驛を設く。(觀福寺) 眞言宗高野派。慈眼山。大字南河原堂に河原太郎の守護佛正觀世音を安置。(南河原石塔婆) 指定史蹟。新井の觀福寺境内に接續せる墓地内にあり。三枚ありて最も大なるは高さ約二・六米、幅基部にて約〇・六米、厚さ約九割、表面に阿彌陀の種子及び阿彌陀三尊像を刻し、その下に文應二年の年號及び十數人の人名あり。次なるは高さ約一・八米、幅約五七割、佛の坐像及び二人の脇侍を刻し、その下に文永二年の年號及び人名を刻す。第三の塔婆は高さ約一・六米、幅約四五割、阿彌陀の種子を存するのみ。富山縣越中國西越後郡の西部。福光町の西北

ミナミカンバラ 南蒲原郡

新潟縣四市十六郡の一。越後國の中部。信濃川中流右岸に沿ひ支流五十嵐川の流域一帯を占む。東南の一部は越後山脈を以て福島縣岩代國南會津郡に界し、北より東へかけては中蒲原郡に、西北及び西は信濃川を境に西蒲原・三島兩郡に、南は古志郡・北魚沼郡に接す。面積約五八九方軒。東南部は越後山脈の諸岳重疊し五十嵐川は守門・大谷の支流と共に此處に發源し略中央を西北に貫流し、中央部を西流し東北に連る東山丘陵を横斷して平野に出で信濃川に合す。この會流點に三條市所在す。西部に信濃川の沖積に由る越後大平野展開し、本流及び支流刈谷田川等に灌溉される産物多し。粟落は概ねこの平野及び五十嵐川河谷に散在し、農を主とするも、見附町・加茂町附近は機業盛にて絹織物の産を以て知られ、東山丘陵には石油の産出あり。又山間諸村は林業を主とし木材・薪炭を産す。省線信越本線は西部を略南北に走り羽生田・押

方約四軒の山村。西は石川縣加賀國河北郡に界す。四周は二三百米の山林に圍まれ、中央を流江川狭き谷を開きて東北に曲流す。粟落概ねこの谷に散在し耕作に従ふ。米・蕎麥を主産とす。薪炭をも多少産す。二條の縣道東西に走り、加越兩國を結び、流江川に沿ひて北に至る道路もあり。省線中越線の福光驛へ約六軒、自動車を通す。

切の間に諸驛を置き、三條市より郡内長澤までは彌彦線を分岐す。國道・縣道も赤四部平野に發達し、五十嵐川に沿ひて東南走する一條は會津盆地へ通す。其の他、信濃川本流には新潟市・長岡市間に舟楫の便あり。明治十三年蒲原郡を新潟區及び東・西・南・北・中の五郡に分ちて本郡を置く。↓蒲原(郡)

ミナミカンラ 南甘樂 ↓甘樂(郡)

千葉縣下總國東葛飾郡の西南隅。江戸川下流の東岸にして東京灣に臨む。西北は川を隔てて東京市江戸川區と相對す。全町低地にて水田多く米を主産す。海岸は砂濱にて遠淺のため貝類・魚類の産多し。縣道は江戸川沿ひに走りて東隣行徳町、西隣浦安町に通す。省線總武本線市川驛よりバスの便あり。昭和十二年町制を布く。

ミナミクイセ 南杭瀬 ↓杭瀬(郡)

縣安八郡にありし村。昭和九年大坂市に編入せられ村名を失ふ。

ミナミクシヤマ 南串山村

長崎縣南國高來郡の西南部。北と西の兩面は橋津に臨み、南は加津佐町に、北東より東部は北串山村および北有馬村に接す。本村は北島原に比し地質や古き地帯にて、全域殆ど覆礫石安山岩より成り、北部の海岸附近より山地に互り礫石玄武岩の噴出地帯あり。一般に丘陵性の臺地にて最高の彦山に於て尙ほ三八〇米に

過ぎず。この臺地の末端は橋津の扇状地より海底下に沈下し、爲に北島原の如く緩傾斜をなす裾野を缺く。従つて丘陵の末端は多く断崖をなして海に臨み、僅に断崖の下に一路を通ずるのみ所多し。而して臺地には其の後の浸蝕發達し、壯年期に開析されし小川の間に流流し、下流に僅の谷平地を見るのみ。安山岩・玄武岩の臺地の表面は殆ど耕され、水田畑地となる所多く、特に西隣國崎半島の基部には積廣く沖積層の耕地あり。海岸は國崎半島を中心として南北やや異なる地形を呈す。即ち京泊附近より北西に至る海岸は橋津東岸の風狀階層海岸の連続にて、扇状地形の特徴をよく現はし、小入江・洞・岬等複雑なる地形を示す。京泊・白頭・飛子等は入江奥の半漁村的聚落なり。國崎半島以南、加津佐村樋田鼻に至る間は同様階層海岸なるも、臺地面の開析進まず、従つて洞・岬を見る事なく一直線の海岸なり。臺地面及び谷川平地、海岸の小耕地は農耕の業進み、米・蕎麥・甘藷を始め養蠶業亦盛なり。全村牛の飼養盛なり。また沿岸は漁業行はれ其の中心地は京泊なるも漁獲高は少し。交通は島原半島に於て北串山と共に鐵道を見ざる村なり。然し海岸環狀道路よく開け又海路交通便にて京泊は良泊地をなし沿岸汽船の寄港地たり。本村はもと北串山と合して一村たり。中世、源爲朝の領土となり、のち有馬氏に隸屬す。後醍醐天皇

ミナミクノヘ 南九戸 ↓九戸(郡)

寛元四年有馬左衛門尉朝澄、串山郡の事を鎌倉に訴訟するの事、東鑑に見ゆるを以て本村の史に現はるる始とす。近世キリスト教の盛なりし所。其の墓碑を今尙ほ遺し俗にりあん石と稱す。

ミナミクタラ 南百濟

大阪府東成郡にありし村。大正十四年大阪府住吉區に編入す。

ミナミクメ 南久米村

愛媛縣伊豫國喜多郡の西南部。大洲町の南にあり。東は菅田・大川二村に、西は平野村に界し、南は東宇和郡に隣接す。四國山脈の西部山地にあり、地勢一般に高原性にて東・西兩部には山嶺連続す。中央の平原には耕作行はれ米・麥・蕎麥を産す。山地は森林よく繁茂し木材・木炭等を産す。この外、農家にては薪を多く産出す。北の大洲町及び南方東宇和郡宇和町を連絡する縣道は中央平原を南北に貫通しバスを通す。縣道に沿ひて粟落發達す。

ミナミクワダ 南桑田郡

京都府十八郡の一。丹波國の南端。南より西にかけて大阪府に、北は府下船井郡に境し、面積約二三八方軒、一町十七ヶ村を其の所管區域となす。地形は大體三部に分たる。即ち東と西の兩部は丹波高原の山地にして、殆ど古生層の堅岩より成り、中央稍東偏して龜岡盆地を抱く。東部の山地は丹波の主峰愛宕山・地蔵山の連續する山地にして城内の三郎ヶ嶽・牛松山等何れも六百米を超え、其の西方は龜岡階層断崖にして、北方船井郡より南南東に走り南方老ノ坂せに至る顯著なる構造線の所在により形成せられしものなり。之に反し西方山地には湯谷ヶ嶽・鴻應山・鯉尾山等國境近く六百米以上の山嶺聳え、北方に牛岡山八百米に近く稍高峻なるも、之等は幾多の地塊に分離せられ、東部の如く一連の山系を示さず。西部山地中には所々花崗岩の噴出地帯あり、郡の北境船井郡及び龜岡の南西等其の主なるものなり。龜岡の南西極天神の櫻石は粘板岩が花崗岩の噴出により接觸變質を受けし重晶石なり。また古生層の岩石中には其の質硬石となるものあり、北方宮前村は其の主産地なり。また所々にマンガン鐵・タンガスン鐵等の産あり。龜岡盆地は標式的なる階層湖盆にて南北に帯狀の盆地たり。其の東部の階層崖は浸蝕未だ進まず、美しき原形を遺すも盆地の西部は南北の階層に直交する構造線のため幾つかの地塊に分たれ地形複雑なり。盆地中央を大堰川流れ、之に沿うて兩岸に重要交通線及び粟落を設く。川の南東部は保津の峽谷にて、之より保津川の名あり。川は曲流して急瀾奔流をなして下る。此等の沖積層の平地と山地との間、特に龜岡の南より西部にかけて

は洪積層の丘陵地廣く分布し、古墳の他、古栗藩、古交通路の分布地にてまた主要生産地帯たり。主なる交通路は南方老ノ坂峠を越え、龜岡より北方船井部に至る山陰街道なり。延喜式丹波國大枝郡を置

ミナミコーチ

山口縣周防國玖珂郡の東北部。玖珂町に北接し岩國川の南岸にあり。全村丘陵地をなし四周に高く、西南部には蓮華山(五七六米)一帯の山地あり。北境の中央に

ミナミコーリ

滋賀縣近江國坂田郡の北部。長濱町の東約二軒。全村土地平坦にて水田開け米を主産し、麥・粟・黍・野菜の産これにつき、

日市町の西北約三軒にあり、南は蒲生郡に界す。西南部には觀音寺山(四三三米)あり、西部にはそれより北に連なる小丘陵あり、中部及び東部は平野をなす。主生

ミナミサカ

滋賀縣近江國坂田郡の西部。八幡町にあり。全村土地平坦にて水田開け米を主産し、麥・粟・黍・野菜の産これにつき、

ミナミサキ

滋賀縣近江國坂田郡の西部。八幡町にあり。全村土地平坦にて水田開け米を主産し、麥・粟・黍・野菜の産これにつき、

ミナミサカ

滋賀縣近江國坂田郡の西部。八幡町にあり。全村土地平坦にて水田開け米を主産し、麥・粟・黍・野菜の産これにつき、

ミナミサカ

滋賀縣近江國坂田郡の西部。八幡町にあり。全村土地平坦にて水田開け米を主産し、麥・粟・黍・野菜の産これにつき、

二の大郡なるも土地高燥にして山林多く平地に乏しきため人口少く、密度は一平方

ミナミコーチ 南河内村 山口縣周防國玖珂郡の東北部。玖珂町に北接し岩國川の南岸にあり。全村丘陵地をなし四周に高く、西南部には蓮華山(五七六米)一帯の山地あり。北境の中央に

ミナミコーリ 南郷里村 滋賀縣近江國坂田郡の北部。長濱町の東約二軒。全村土地平坦にて水田開け米を主産し、麥・粟・黍・野菜の産これにつき、

ミナミサカ 南佐賀 滋賀縣近江國坂田郡の西部。八幡町にあり。全村土地平坦にて水田開け米を主産し、麥・粟・黍・野菜の産これにつき、

全耕地に對して田は三八%、畑六二%にして、桑畑は耕地面積の四七%を占め、水田より多し。斯くて生産構成に於ても山村地域たるを示す。千曲川の谷の中、東側は比較的よく開拓せられ、桑畑も開け、西側の火山麓には甲州街道通す。これと並行して省線小海線通じ、中央本線の小淵澤驛と信越本線の小諸驛とを結ぶ。中込町と野澤町とはそれより千曲川を挟みて聚落を形成し謂ゆる双子町を成す。北部の中込町・野澤町・櫻井村・平賀村は千曲川が佐久平に流出する扇状地に當り、郡の主要農耕地なり。水田も多く、桑畑また卓越し、佐久平の養蠶地帯の一部をなす。水田には養蠶業行はる。これれ製絲より得たる蠶を飼料とするものにて、土地高燥にて紫外線多き事も利すると言はれ、蠶は京濱地方に出荷さる。内陸盆地たる本郡が外界地方に通ずるには非常なる困難あり、従來は文化的に隔絶せられるたり。東部關東山塊を越すに略々三輪あり。中込町・野澤町より上州下仁田・富岡に通ずる宮岡街道は内山峠(二二〇〇米)を白田・下仁田街道は余地峠(二二六八米)を越え、また南方石崎峠(一三五六米)を通ずる石崎街道、或は武州街道あり。武州街道は石崎峠を越え神流川の溪谷を下り中里村(群馬縣多野郡)より秩父山地を志賀坂峠(八七六米)を越し荒川の上流に達するものにして此街道は古く中山道の東街道として志賀坂

峠の坂本に關所ありき。甲州に達するに八ヶ岳と飯盛山間の國界(二二〇〇米)が、飯盛山の東なる信州峠(二四六四米)を經る。現在に高原鐵道の稱ある省線小海線が通じ、郡の開闢に資す。バスまた各地に通じ、近年登山熱の勃興と共に急に本郡の名も著れたり。明治十三年五月佐久郡を南北二郡に分ちて本郡を置く。佐久(郡) ※佐久(郡)
ミナミサクライ 南櫻井村 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の中部。江戸川の西岸にて、南埼玉郡粕壁町の東方約二・五軒にあり。東は川を隔てて千葉縣東葛飾郡と相對す。關東平野中央の一部を占め、全村平地にて北部・南部は水田多く中部は畑地をなし、農業・養蠶行はれて米・麥および繭の産あり。縣道より發達して西は粕壁町に通ず。社線武蔵鐵道は南部を西走して南櫻井驛(昭和七年設置)を置く。(香取神社) 大字西金野井に鎮座。郷社。祭神、経津主命。江戸時代に米印領十石を有す。一に金井明神とも稱せらる。例祭、二月十九日。
ミナミサバイシ 南結石村 新潟縣越後國刈羽郡の東南部。結石川上流に沿ふ。東西を低き丘陵に挟まれたる中央低地を結石川南より北へ貫流す。流域に田畑開け農業行はるも、他は概ね山林なり。米を主産とし、副産物の繭また相當の額に及ぶ。其のほか山林には林産物あり。北部には最近温泉湧出す。縣道は

河岸に沿ひて貫通し、峠を越えて東方の澁川流域へ至る一條を分岐す。省線信越本線の安田驛へ約七軒、バスの便あり。
ミナミサワ 南澤山 栃木縣鹽谷郡藤原町にある金銀銅鉛亜鉛山。鐵區四六萬餘坪。日本鐵業會社の採行にて、昭和十年には金銀銅鐵八三八萬を産し、鐵石は日立鐵山に送致して合併製鍊せらる。同年六月末の鐵夫數は四二人、現に準重要鐵山なり。
ミナミシオ 南志雄 石川縣羽咋郡にありし村。昭和八年志雄村(昭和十年町制を布く)に編入さる。
ミナミシゲヤス 南茂安村 佐賀縣肥前國三養基郡の南部。筑後川の右岸に沿ひ、久留米市の西々南約三軒。南及び東は筑後川を挟みて福岡縣三浦郡に界す。筑後平野中央の一部を占め、地形極めて平坦にて、東境及び南境に沿ひて筑後川が大屈曲しつつ西南流す。米産頗る多く、その他麥・繭も産す。主要里道久留米市及び佐賀市へ通じ、筑後川には渡船の便あり。此地は和名抄、三根郡葛木郡の内なるべく、大字天建寺に葛木一言主神社あり、三代實録にその名見ゆ。(八幡神社) 大字西島に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。鎌倉維五郎景政の創祀と傳ふ。例祭、四月十五日。
ミナミシノイ 南酒々井 省線武本線の一驛(大正三年設置)。千葉縣印旛郡酒々井町にあり。

ミナミシズハタ 南賤機 静岡縣安撫郡にありし村。明治四十二年本村を廢し、大字安西外新田、ほか三大字を静岡市に、また龍上新田ほか五大字を北賤機村に編入し、同時に北賤機村を賤機村と改む。賤機村は昭和七年に静岡市に編入せらる。
ミナミシタウラ 南下浦村 神奈川縣相模國三浦郡の南端。三浦半島の先端にて三時町の東隣にあり。浦賀水道に臨む。全村丘陵地多く海岸は東部は砂浜をなすも、南岸は磯濱にて出入に當む。丘陵間に農業行はれて、麥・甘藷・馬鈴薯・粟・大豆等を産す。東北方浦賀町より三時町に通ずる縣道は村の北部を西南に走りバスを通す。海岸には沿岸航路の汽船寄港す。東南端の剣崎に燈臺あり、連閃綠白交光、一六秒半を隔て七秒間に白二閃光、更に一六秒半を隔て四秒光を發す、光達距離一七・五哩。大字金田は三浦系圖に見ゆる金田小太夫頼次の居りし所なるべく、頼次は三浦介義澄の女婿にして上總介廣常の弟なり。
ミナミシタラ 南設樂郡 愛知縣十八郡の一。三河國の東部。北は北設樂郡に、東は八名郡に、南は寶飯郡に、西は額田郡・東加茂郡に相接す。大部分は花崗岩・第三紀層・古生層を以て構成する三河山地より成り、西部には僅に豊川の沖積地あり。北部には鞍懸山・宇連山(九二九米)あり、中部には佛法僧にて有

名なる風來寺山(六八四米)、善陀山・御嶽山、西部には巴山・本宮山連互す。寒狭川は巴山に源を發し、田峯川・政老瀬川を合せ、東境の三輪川と合流して豊川となる。耕地は餘り開けず、ただ養蠶・林業及び作手地方の牧馬(三河馬)や著るのみ。農産物には米・麥・甘藷等あり。此地方は謂ゆる設樂谷の日に當り三河より信州に至る要路にて、天正年中には有名な長篠合戦あり。伊奈街道は海老町を経て津具方面に入る。豊川の谷に三信・風來寺・豊川の諸鐵道通じ、長野縣南部との交通便なり。明治十三年五月設樂郡を南北二郡に分ちて本郡を置く。
ミナミジョー 南條村 長野縣信濃國埴科郡の東南端にあり。上田市を去る西北に凡そ五軒。東境には、大峰山(一三二七米)・太郎山(一六四四米)あり。村は其の西南の斜面をなし西南境には千曲川流る。村内に上田市より長野市に通ずる北國街道があり、ほほ之に並行して省線信越本線通す。千曲川沿岸に水田拓け、山麓を上部に次第に桑畑・山林と變化す。耕地面積三三八町にて全面積に對する耕地率二六%、田八〇町、畑二五八町、うち桑畑二四三・五町にて、如何に本村が養蠶を農村經濟の根幹とするかが窺はる。この地は和名抄、埴科郡坂城郷の内にて、泉宿村・新地村・金井村・横尾村の舊四箇村を合併して本村をなせり。村内に岩鼻の堂、和合城址の名所舊

蹟あり。明治天皇、明治十一年、北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせられ、いま明治天皇皇居御小休所、附御膳水として史蹟に指定さる。
ミナミジョーケン 南省観 朝鮮總督府鐵道京釜本線の一驛(大正二年設置)。慶尚北道清道郡華陽面にあり。
ミナミジョーナイ 南庄内 靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(二二九米)より濱名川に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南西に村橋村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和川・上川・協和・西村の聚落發達す。高度二〇米以上の丘陵は如地にて桑園をなし、また西瓜を栽培す。湖岸低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。
【南庄内村】 大分縣豐後國大分郡の西部。大分川の右岸に沿ひ、別府市の西南七軒餘にありて南は直入郡に界す。南部は山岳地をなし、東南境には鳥帽子嶽(七六一米)、西南部には時山(九五八米)が聳居す。北境に沿ひ大分川が東流し、東部には一支流が東北流し東北隅にて兩者相合す。兩河川の沿岸には斜面耕地發達す。産物に米・麥・繭・林産あり。省線久大本線は村境に近く走り、天神山驛及び庄内驛に近し。
ミナミシリベツ 南尻別村 北海道後志國後志支庁磯谷郡の東部。尻別川下流々城の廣大なる地を占め磯谷村の東

に接す。北は岩雄登山を以て岩内郡に、東は膽振郡に界す。面積四三・〇六方軒。北部と南部は高峻なる山脈に蔽はれ中部山間の低地を尻別川蛇行西流して磯谷村に注ぐ。兩山地より發する數多の支流之に合し沿岸の平地に耕地拓く。米・馬鈴薯・燕麥・亞麻・大豆等の産あり。また山地には硫黃・木材を産し、諸川の上流には発電所設けらる。北部山中には爾越新見温泉・昆布温泉等の湧出ありてバスの通す。省線南留本線村内を貫走し、上日名(大正二年設置)・日名・爾越・昆布(以上明治三十七年設置)の四驛を置く。(大金鐵山) 鐵區は南尻別村及び磯谷郡熱帯村に跨りて五一・〇〇坪、鐵種は金銀銅鉛。日本鐵業會社の採行にて、昭和十年には鐵物五、三九三近(價額約三七萬圓)を産出、同年六月末の鐵夫數は二五〇人、現に重要鐵山に列す。(岩雄登鐵山) 鐵區は南尻別村及び膽振國蛇田郡の俱知安町・野太村に跨りて五十六萬餘坪。北海道硫黃會社の採行にて、昭和十年には硫黃二、二七二近(價額約一四萬圓)を産出、同年六月末の鐵夫數は五十六人、現に重要鐵山に列す。(新見温泉) 尻別川の支流日國內川に臨む高地にあり。舊態たる原始林を繞らす静寂境にて、日國內岳・チセムプリなど優秀のスキー場に近きを以て、冬季はスキー客にて賑ふ。泉質は鹽泉にて鐵を含む。(昆布温泉) 尻別川の流域を境として東

には蝦夷富士の後方羊蹄山がそびえ、西にはニセコアンヌプリとチセムプリの二峰峙つ。昆布温泉とは此のニセコアンヌプリ・チセムプリの二峰間の高原に散在する青山・鯉川・紅葉谷・成田・湯本・仁世古の諸温泉を云ひ、近年スキー場として知らる。青山・鯉川・紅葉谷の三温泉は昆布驛の北約七軒、ニセコアンヌプリに臨み驛の南をなし、共に自動車の便あり。泉質は青山・鯉川は食鹽性炭酸泉、紅葉谷は硫酸泉及び鐵鐵泉なり。成田温泉は昆布驛の北四軒、馬車の便あり。鹽類泉なり。湯本温泉は同驛の北一、二軒、チセムプリの山麓にあり、硫酸泉と單純泉とあり、泉源は舊噴火口の跡にて方四〇〇米の溪谷隨所に大小無數の湧出孔あり。途中まで自動車の便あり。仁世古温泉は同驛の北一三軒、俱知安驛よりは西一、二軒、自動車の便あり、ニセコアンヌプリの北麓にて、食鹽性炭酸泉なり。
ミナミシンカイシヨ 南新聞莊 大阪府東成郡にありし村。大正五年神路村と改稱す。大正十四年大阪市東成區に入る。
ミナミセタ 南勢多 勢多郡(群馬縣)
ミナミセンジュ 南千住 東京府北豐島郡にありし町。昭和七年東京市に入り、外三町と合し荒川區を建つ。省線常磐線の南千住驛(明治二十九年設置)は荒川區南千住町四丁目にあり。

ミナミ

ミナソートー 南雙頭山

臺灣中央分水山脈の南部、高雄州と花蓮港玉里支線との間に聳ゆる峻峯。新高山の南方。標高三三八米。

ミナソーマ 南相馬

國(千葉縣)の古郡名。明治十三年五月、相馬郡を南北二郡に分ちて本郡を置きしが、同三十年四月には東葛飾郡に入り郡名を失ふ。↓相馬

ミナソヤマ 南柚村

滋賀縣近江國甲賀郡の南部。水口町の西南二軒餘に位置し、南部は三重縣阿山郡に界す。南境に岩尾山(四七一米)あり、それより西北方に約五〇〇米の山地が連なりて西境をなす。山地は波状に起伏しつづつ東北に下り東北部に平野開く。野洲川の一支流は東北隅を掠めて西北流す。農業・林業を主生業とし、主産物には米・麥・菜種、其他、食用農産物・材木・林産物等あり。特産物として越瓜(一名杉谷瓜)・干瓢・大麥(一名杉谷麥)・杉材(大字杉谷産)等あり。縣道は東北部を掠めて過ぎ、省線草津線深川驛は東北凡そ一軒にあり。北柚村と共に中世は柚産と呼びし處。大字杉谷は甲賀武士の一なる杉谷氏の居りし所。杉谷善住坊なる鐵砲の名人は即ちその一族なり。村内には鹽野鐵泉・宮乃鐵泉あり、何れもウチカム含有鹽類泉にして加熱浴用。(新宮神社) 大字新治に鎮座。村社、伊弉冉命・速玉男命・正哉吾勝連日天忍孫耳命。表門は國寶。

ミナソヤマヤマ 南柚山村

福井縣越前國南條郡のほぼ中央部。北は南日野・王子保・北柚山の三村、東は僅かに今立郡と、南は宅良・湯尾の二村、西はホノケ山を以て河野村と各相接す。東西に長く、日野川中央を流れ地形自ら二分さる。即ち東部は柚山及び是に連る山脈と北柚山・上池田の連山との間に阿久和・中小屋の狭小なる盆地ありて日野川沿岸平野に連なり、其の間を阿久和川西流して日野川に注ぐ。西部はホノケ山及び之に連る山脈に圍まれ、中に奥野々・上別所の小平原をなす日野川沿岸平野に連り其間に奥野川東流す。全村悉く純正なる農耕に從事す。林業として極めて盛にて大字阿久和・中小屋入會地百三十二町歩強は縣有模範林とし、特に杉材等多く、阿久和杉は有名なり。工業品には羽二重・デニール棉返し・瓦等あり。交通は便ならず。縣道今庄道は南日野村より湯尾村に至る間パスの便あるのみにて東西の交通

ミナミ

ミナミタイトー 南大東島

沖繩縣島尻郡大東島に屬し、大東諸島の最大島にて、那覇港を距る二二哩、南北八軒、東西五軒、面積二五平方軒の低平なる隆起珊瑚礁なり。北方八哩の北大東島と共に東洋製糖會社經營の甘蔗園となり、南大東島製糖所あり。

ミナミタカキ 南高來郡

長崎縣肥前國七郡の一。我が國國立公園の一として其の勝景を天下に謳はるる雲仙岳火山の所在地として、或は寛永那蘇教徒の蜂起せる島原半島の地として、普く其名を天下に知られたる本郡は、有明海と橋瀨との間に僅かに愛野の地峽により半島として存在するも、殆んど一島と見ても差支なし。半島の中央に聳ゆる雲仙岳は高車僅かに一三六〇米に過ぎざるも、楕圓形の島の上に圓錐形の雄姿を浮べ、九州六ヶ國より之を望む事を得べしといふ。全半島は雲仙岳火山裾野の輪廓がそのまま海岸線をなしたる北部・東部と、弧狀陥没せる橋瀨東側階層が雲仙岳西麓を水底下に没せしめ弧狀彎入を見る地塊と、他に半島西南部に之に附隨せる第三紀層、之を蔽うて噴出せる玄武岩・安山岩地帯との三地區に分たる。第一の北部東部の山麓地帯は未だ殆ど開闢進まざる標式的なる火山性扇狀地をなし、其の緩斜原表面は殆ど如地にして、北部の幼年期の小谷には僅少の水田が放射狀に排列せる。之に反し西部の橋瀨沿岸地帯は

ミナミ

壯年期の開析地形をなし、谷深く、山峻海岸に迫る。橋瀨北岸には略東西の方向を持つ一大階層崖が半島の中央部迄侵入するも、普賢岳岩の爲に其の東縁は明かならず。雲仙火山は中央火口丘たる普賢岳を主峰として九千部・胡笠・野岳・妙見岳等より成り主に安山岩質より成る。火口雲仙岳温泉は一の爆發火口にして、其の高度約七〇〇乃至七六〇米の盆地上に温泉階層を形成し、各種浴場・ホテル等の設備あり。夏の避暑客は遠く上海・香港方面の外人にして、春のいづつげ、つじ、秋の普賢の紅葉も亦天下に其の名著し。半島の東部、眉山寄生火山は寛政四年の崩壊により山體の大部分を海中に埋没し爲に今日の島原港を出現せるものなり。海岸は一般に單調なり。北部海岸は遠淺にて愛野村邊の如く泥濘地を埋立て耕地とせし所多し。南方口ノ津は半島唯一の良港、三池築港前に石炭積出港として繁榮せし所なり。其の南方早崎海峡は對岸天草島との間の海峡にて有明海と橋瀨とを分つ所、潮流の最大時速一七軒に達し鳴門の壯觀に似て、附近の海底ために深淵なす所あり。雲仙岳火山の裾野は耕され多く畑地となり、海岸近くの沖積地と小川沿岸の浸蝕谷とは良米の産地となり、縣内第一の米産地帯をなす。小麦・裸麥等に北部より口ノ津方面に廣く栽培せらる。養蠶業の盛なる事は、蓋し縣下第一、九州屈指の養蠶地帯にて、

ミナミ

農家の七割は之に従事す。馬の飼育盛にして、我國に於ける馬の主要産地たり。其の分布地帯は主に半島の北部に於て、雲仙岳裾野に放牧に適するも自家飼養のもの其の大部分を占む。總數約一萬頭に近く縣下の過半を占む。牧畜未だ原始産業を主とするも島原附近には蠶糸業を始め各種工業の勃興を見る。生産總額は縣下各郡中最高にて都市を除き縣下第一の生産地帯なり。交通は北部に島原鐵道、東部より南へ口ノ津鐵道、西部には雲仙鐵道等の諸社線が環狀に全城を圍繞せり。海上交通は島原を中心に口ノ津・長崎・三池・三角方面に通ず。葉落は火山の裾野、特に海岸地帯に廣く分布す。島原は郡治・生産・文化・交通の中心地、松平氏七萬三千石の舊城下、今其の城址と土族町・町家等を遺す。西方小濱は橋瀨岸の温泉地、その北八軒の千々石は橋中佐出身地たり。本郡は長崎・小濱・雲仙・島原を連絡する一大觀光地帯にて、特に雲仙嶽に國立公園とし、春はつじ、夏は避暑地、秋は普賢の紅葉、冬は霧氷の壯觀と、四季を通じての觀光・遊覽地たり。温泉・旅館・ゴルフ場等の諸設備亦整ひ火山研究と史蹟探訪に興味深き數々のものあり。明治十三年五月高來郡を南北二郡に分ちて本郡を置く。↑高來(郡)

ミナミタカネサワ 南高根澤村

東境と西境附近は低き臺地を成すも、中部は平地開けて五行川南流し、水田多し。農業を主業となし、米を主産し、臺地には大麥・小麦を産す。煙草・梨・西瓜等の栽培も行はる。南部を横走する縣道は組母井町より西方宇都宮市に通ずるものに省管自動車道とこれに通ず。その他は縣道よく發達す。

ミナミタカヤス 南高安村

大阪府河内國中河内郡の東南部。生駒山脈の西斜面に位置し、西北隅は八尾町の東南隅と接す。西南は南河内郡の北隅に界し、東は奈良縣生駒郡に隣る。東境には高安山(四八八米)を中心とする一帯の山地連り、西麓は階層を以て終る。西部は大阪平野の一部を占め、地形平坦にて恩智川が北流す。米・麥の農産物、工業・畜産・林産あり。西部山麓に東高野街道が縱走し之より岐れて八尾町に至る街道あり。社線大阪電氣軌道の信貴山口驛(昭和五年設置)あり、此處より社線信貴山急行電鐵起り高安山驛(昭和五年設置)あり。高安村と共に高安里と云ひし處。吉野領の忠臣、恩知神社の祠官、恩地左近(贈從四位)はこの地の人なり。↓高安(恩知神社) 府社、大神、大御食津彦神、大御食津命、式内名神大社。河内國二の宮。神位、貞觀元年正三位勳六等より從二位。例祭八月一日。(教興寺) 大字教興寺にあり。普賢律宗、開創は野堂。慶長兵に罹り、寺觀衰頹せしか、近年覺

ミナミタニ 南谷村

彦、堂字を復興す。本堂に聖德太子作彌勒菩薩を安置す。(神宮寺) 大字恩智にあり。古義普賢宗。もと三宅寺と稱し恩知神社の供僧寺たり。沿革不詳。木造十一面觀音立像一軀は國寶。

ミナミタク 南多久村

國小郡郡の西南部。六角川の支流牛津川に跨り、小城町南部の西方約二軒に位置し、南は杵島郡大町町に接す。西南境に四六八米の山地あり南部は其の北方傾斜地を占め、東南境には三三八米の兩子山裾居す。北部は西北隅の臺地を除く外は平野をなし牛津川が東流す。北方より一支流が流れ來りて東北部を灌溉し之に合す。米・藪を産す。杵島炭礦の礦區は當村及び多久村、更に杵島郡の北方村・大町町にも跨がる。本邦有数の大炭山にて年産六〇萬噸を超え、従業員も三千七八百人あり(北方村参照)。縣道中央を東西に走りて小城町及び武雄町に通ず。省線唐津線の東多久驛(東北約一軒)に近し。此地は和名抄、山城郡高來郡の内なり。(高野神社) 大字下多久に鎮座。郷社。祭神、阿蘇女神・間羅神。建久四年多久太郎宗直の創祀なり。例祭、五月一日。

ミナミタニ

國東伯郡の西南部。倉吉町の西南方約七軒に位置し、北は北谷村、東は上小鴨村、南は矢倉村に接す。面積九・四一方軒。北部と南部とに山地東西に連るも中央を天神川の支流小鴨川東流し山間に廣き谷

ミナミ

を形成せり。耕地よく拓け米・麦・甘藷・蔬菜及び繭等を産す。縣道東部を貫通し倉吉町にバス通す。

ミナミタネ 南谷

【南谷村】富山縣越中郡西礪波郡の西部。石動町の西北に接し、北および西は三國山(三二四米)を境に石川縣能登、加賀兩國に接す。全村二〇〇米前後の丘陵起伏し谷間の小平地に米の耕作行はる。米・蕎麥・蔬菜を産す。南部を省線北陸本線及び國道貫通し、俱利伽羅隧道を経て加賀國に入る。其他、東南に西北に村内を貫通する縣道あり、石動驛にも近く交通は便なり。大字安樂寺は長門本平家物語に北黒坂安樂寺とある地なり。また源平盛衰記には「一手に宮崎向田を案内者に安樂寺を通り、金峯坂を打上り、北黒坂を引越し、俱利伽羅峠の西の端原へ差遣す」とあり。

【南谷村】兵庫縣但馬國安父郡の南部。朝來郡和田町の西方九・五軒に位し、南は安樂郡に、東南は朝來郡に界す。四周山地を以て圍まれ、東境中央に須留ヶ峰(一〇五四米)、東北境には御藏山(七三三米)聳え、各山地は中央へ傾斜して南境に發する八木川が村を貫流して北流す。その北沿岸には狭小の低地拓く。産物の主なるものは蕎麥・米・蔬菜・花卉、食用農産・麥類・果實・高麗芋・製茶・鶏卵・双物等あり。また錫山として名高き明延錫山あり。縣道は中央の河川に沿ひ

ミナミ

縦貫し、南境の富士野峠を越え三方川沿岸に出づ。北方へバスの便あり。此地は和名抄、安父郡大屋郷の一部とす。(明延錫山)錫區は南谷村及び朝來郡山口村、安樂郡繁盛村にも跨りて約五二〇萬坪、錫種は金銀銅鉛鋅重石なるも世に錫山として知らる。錫區は新井驛の西方約二〇軒の地點にあり、地質は大部分中生層にて鐵床は四角岩の侵入に伴ひ、その周圍の古生層及び一部は中生層中に生ぜし多數の錫脈にて、石英・錫石・黄銅鐵・ウヰルフラム鐵礦等より成る。三菱鐵業會社の採行にて、昭和十年には錫一、九四七・五五五近、金銀銅鐵一〇、〇九三近を産出す。錫石は神子畑選礦所までを鐵索にて送り、其内の錫鐵は直接富山にて製錬すれども其他は香川縣の直島製錬所に於て合併製錬す。富山は銀山書留方と題する舊記によれば大同元年の創始に係り、また但馬金銀銅山舊記によれば延徳年間創始なりといふ。何れが眞なるや詳ならず。三々明治元年より官營なりしが同廿九年三菱に拂下され、現に三菱鐵業會社の採行たり。今や富山は本邦錫産の大部分を占め重要錫山中の重要錫山として殷盛を極め、従業員は一千人を超え、南谷村の大字和田の地名は採掘されて明延を以て通稱せらるるの状態なり。山元より山口村大字佐佐木神子畑までは鐵索ありて、其處には選礦所其他存す。更に神子畑より生野錫山までは軌

ミナミタネ 南種子村

跡あり。生野錫山よりは錫鐵が明延錫山に送致せられて、明延産の錫鐵と共に合併製錬せらる。

大日影山(八二二米)・萬左衛門山(七〇二米)・孫佐衛門山(八九一米)・三ツ森(九四九米)等聳え、郡の東部及び南部は山地をなし西方及び北方に傾斜し、西北部は津輕平野の東南部を占めて平坦なり。平川は南境に發源して西北に流れ、東方より津沼川・大落前川、南方より紅貝川・日内川を合し、平野に出でて郡の西境をなして北流し、岩木川に合す。淺瀬石川は東南境に發し、西北に流れ、東方より中野川を合し、西北に流れて平川に合し、次いで岩木川に合す。岩木川は西北境を西北に流る。平野の東縁は大館山階層崖(三四七米)西北に走り、山麓には苹果地帯露岩状に並びて苹果の産多く、縣下の約七五%の産額を占む。平野には水田拓けて米を産し、東部及び南部の山地には木材・木炭の産あり。羽州街道は西南部を西北に向ひ中津輕郡に入り、次いで西北部を東北に向ふ。又中西部を南北に通ずる道路あり。羽州街道に並行して省線奥羽本線通じ、北より大澤池・浪岡・北常磐・川部・豊碓・石川・陸奥森山・大野・碓ヶ岡等の驛あり。川部驛よりは東方に黒石線、西北方に五能線を分岐す。明治十三年五月津輕郡を東西南北中の五郡に分ちて本郡を置く。↓津輕(郡)

【南種子村】鹿児島縣大隅國鹿毛郡種子島の南端。北部を除く他の三面は海に開かれ、西方海上に種子島海峡を隔て屋久島を望む。全村丘陵山地の起伏あり、南境に稍平野開け、郡川その他二、三の河川が南流して海に注ぐ。海岸は岩石海岸をなす所多く、西北部に島間岬突出し、其北に鑛地あり。西部に門倉岬あり。それより海岸は東方へ緩き砂濱をなし、東南端は稍東南方へ突出して附近に竹崎・小島・立瀬等の島嶼あり。東岸中央に古信崎あり。東北部は山地が稍東方海上へ横がりて、北に熊野浦の灣を作る。米・麥・繭の産多く、また林産・工業・水産・畜産等あり。人口密度は一方軒七三人なり。東部及び中部に縣道通じ、また近海に航路ひらく。

また玄武岩の熔岩臺地はよく耕され畑地比較的多し。故に此等の地は殆ど農耕家畜地帯なり。海岸の小浦地は多くは沿岸漁業の漁舟的集落なり。平戸瀬戸は最短期内外に過ぎず、從つて干満の漲潮時に際しては大小の錨を巻き小船の通航危険なり。海峡に面する日ノ浦は本土より平戸島へ渡る最捷路たる要津にて、平戸港との間約一哩餘、連絡の小汽船往來す。その北方野田の熊野神社境内にピラウ樹二本自生し、雄株は高さ約一八米、幹周一米、樹齡數百年を經しものと傳へられ熱帯樹種の一種と目し注目し値す。これ沿海暖流の漂流によるものなり。玄海灣に面する釜田浦は北東に開口する入江にて、其の前面に横島横はり灣口を塞ぎ風波を凌ぐに過す。田平は中世、松浦黨の一族田平豊後この地に築城して田平氏と稱す。日ノ浦は古代より交通の要地、類聚三代格に載する天平十七年勅符肥前松浦郡彌勒寺は古くより田平にありと傳ふ。(總社神社)大字小手田に鑛産。郡社。祭神、天御中主神・國之常立神・豊雲野神等十八柱。平戸領主の崇敬篤く、松浦家以後は平戸惣社と號す。一名、惣社大明神。例祭、九月十九日。

【南多摩郡】東京府武蔵國三郡の一。北より西は北多摩郡・西多摩郡、東より南は神奈川縣橋本郡・都筑郡・鎌倉郡・高座郡・津久井郡等と隣す。西部は關東山地の一部なるも、中部以東

ミナミツガル 南津輕郡

【南津輕郡】青森縣三市八郡の一。陸奥國の中部。東北は東津輕郡、東は上北郡、南は秋田縣、西は中津輕郡、西北は北津輕郡に隣接す。面積九四四・一三方軒。郡の北境には梵珠山(四六八米)、東境には横岳(一三四〇米)・備ヶ峰(一五一七米)・膳福山(一〇一七米)、南境には榮森山(八七九米)・馬養森(七八六米)・甚古森山(八〇〇米)・

【南津輕郡】青森縣三市八郡の一。陸奥國の中部。東北は東津輕郡、東は上北郡、南は秋田縣、西は中津輕郡、西北は北津輕郡に隣接す。面積九四四・一三方軒。郡の北境には梵珠山(四六八米)、東境には横岳(一三四〇米)・備ヶ峰(一五一七米)・膳福山(一〇一七米)、南境には榮森山(八七九米)・馬養森(七八六米)・甚古森山(八〇〇米)・

【南津輕郡】青森縣三市八郡の一。陸奥國の中部。東北は東津輕郡、東は上北郡、南は秋田縣、西は中津輕郡、西北は北津輕郡に隣接す。面積九四四・一三方軒。郡の北境には梵珠山(四六八米)、東境には横岳(一三四〇米)・備ヶ峰(一五一七米)・膳福山(一〇一七米)、南境には榮森山(八七九米)・馬養森(七八六米)・甚古森山(八〇〇米)・

【南津輕郡】青森縣三市八郡の一。陸奥國の中部。東北は東津輕郡、東は上北郡、南は秋田縣、西は中津輕郡、西北は北津輕郡に隣接す。面積九四四・一三方軒。郡の北境には梵珠山(四六八米)、東境には横岳(一三四〇米)・備ヶ峰(一五一七米)・膳福山(一〇一七米)、南境には榮森山(八七九米)・馬養森(七八六米)・甚古森山(八〇〇米)・

【南津輕郡】青森縣三市八郡の一。陸奥國の中部。東北は東津輕郡、東は上北郡、南は秋田縣、西は中津輕郡、西北は北津輕郡に隣接す。面積九四四・一三方軒。郡の北境には梵珠山(四六八米)、東境には横岳(一三四〇米)・備ヶ峰(一五一七米)・膳福山(一〇一七米)、南境には榮森山(八七九米)・馬養森(七八六米)・甚古森山(八〇〇米)・

ミナミ

豪族岡氏の居りし所。後岡氏は大友神宮寺の一族なり。

ミナミノニワ 南上神 大阪府泉北郡にありし村。明治二十七年に中上神村と合併し上神谷村を建つ。

ミナミヌマハラ 南沼原村 山形縣羽前郡南村山の北部。山形市の西南に接す。面積四・八〇方軒。山形盆地に屬し、全村平坦にして、須川は西境を西北に流る。米・藁・蔬菜を産す。羽州街道は東南部を南北に通じ、山形市へはバスあり。また狐越街道は村の中部を東西に通ず。本村の大字吉原は野州宇都宮城主松平主殿頭、八千石備村を支配する陣屋を置きし所。大字沼水は明和・安永の頃、肥前島原藩主戸田氏の陣屋あり、十六箇村を治めし所。「大慶神社」大字沼水に鎮座。郷社。祭神、日本武尊。舊稱白鳥神社。例祭、陰曆三月十五日。

ミナミノノミ 南野上村 和歌山縣紀伊郡那賀郡の西南隅。貴志川の左岸に沿ひ、東野上村の西南に接し、約五〇〇米の山脈東北より西南に連り、村は其の北斜面を占め、東北境に観音山(二九一米)あり、貴志川は北境に沿ひて西流し、西北隅にて本村を離れて東北折す。米・藁等を産し工業・畜産もあり。柑橘の特産あり。社線野上電氣鐵道は北方約一軒を東西に走る。此地は中世の野上荘の南部に當る。

ミナミハタ 南畑村 福岡縣筑前國筑紫郡の西南隅。福岡市の南方約四軒にあり、西部の北半は早良郡に接し、西部の南半及び南部は佐賀縣神埼郡及び三養基郡に界す。西部・東部一帯は山地をなし、西部山地は背振山塊東端の山地にして、一ノ岳(六四四米)聳えて北・東・南に傾斜す。東部には北半に南北に連る山脈ありて中央に槻見山(六二六米)を起し、それより南には九千部山(八四八米)・

ミナミノジリ 南野尻村 富山縣越中郡東礪波郡の西部。福野町の東に接す。土地平坦肥沃、礪波平野の一部を占め水田多し。主産物は米なり。西南部を社線加越鐵道貫通し、省線中越線との交點に至る。福野に近く、青島・井波兩方面には和名抄、礪波郡高橋郷の内に於て、中世は野尻郷と稱せし地。

ミナミノツ 南野津村 大分縣豊後國大野郡の東部。三重町の東北に接す。全村土地高燥にして南部には四〇〇米餘の東西に連る山地あり、大野川の支流が西北境に沿ひて北流す。林産・農産・畜産あり。中央部を縣道東西に走り三重町及び臼杵町へバス通ず。「平川神社」大字西畑に鎮座。祭神、氣長足命。本多和氣命・比咩大神。例祭、四月十五日。省線日豊本線の驛(大正十一年設置)。

ミナミハタ 南波多村 佐賀縣肥前國西松浦郡の東北部。伊萬里町の東方約一軒にありて、東北部は東松浦郡に界す。西・南・東の三面は山地を以て圍まれ、西境に大野山(四二四米)の圓錐形の秀峰聳え、南境には國見岳(一七七米)・大陣山(二六九米)等の諸山あり。松浦川が西南に發して中央を北流し沿岸に低地開け、北部にはこれより西南方へ續く低地あり。米・藁・蕎麥を産す。縣道が中央を縱斷し、伊萬里町及び唐津市へ自動車を通ず。この地は往昔、松浦氏の一黨、波多氏の居りし地にて、天正年中、波多三河守守親は唐津に移る。「白山神社」大字井手野に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命・菊理姫命。相殿、素佐男命。

ミナミハタ 南日野村 福岡縣越前國南條郡の中部より、北方。西北一帯は王子保村に、東は北橋山村、南は南抽山村に接し、東北隅の日野山を堺として今立郡に相對す。西部・東部は山地にして、西に關越、殿の奥・大谷・上谷等の諸山相連り、清水川溪谷より出で北流し關山用水と合す。東には日野山(七九五米)聳え、西部山地との間に日野川北流して流域に沃野をなす。全村農工商業に従事し工業には大字島の鑄物を初め、漆器・木製品・傘等あれど餘り振はず。鑄物は享保年間には釣鐘さへ鑄造し林・澤崎等の鑄造師ありしが今は漸く廢れ、商業は凡日用品の賣店に止る。省線北陸本線南方より來り大字西大道の地籍に鯖波驛(明治二十九年設置)を置き北進して武生町に至る。縣道今庄街道はほぼ省線に沿ひて南下しバスの便あり。藤本區の中山光平宅に三間半に二間半の白木造の別殿あり、天保十五年の建設に於ける。明治天皇北陸御遊幸の御り御小休あらせられし所にして、いま史蹟に指定さる。大字西村はもと丹生郡從者郷の一にして、日野山の南方に位するを以て此の名あり。因

石谷山(七五四米)一帯の高き山地ありて南部の高峻地形をなし、北半山地と共に中央へ傾斜す。中央には那賀川が北へ貫流し、沿岸に低地や開く。米・蕎麥を産す。福岡市及び東北方の二日市町へバスの便あり。

ミナミハタ 南端村 大分縣豊後國遠見郡の中部。別府市の西北に隣り、西は宇佐郡に界す。西南方にガラシ嶽(磯黃山、一〇四五米)聳え、其の北方傾斜地を占めて全村高原狀の山地が重疊し東北部には尾藏嶽(四五九米)あり。西境に沿ひて藤原川支流の津房川が北流しその東岸は急崖をなす。農産・林産・畜産あり。東隣の豊岡町へバスを通ず。

ミナミハタ 南波多村 佐賀縣肥前國西松浦郡の東北部。伊萬里町の東方約一軒にありて、東北部は東松浦郡に界す。西・南・東の三面は山地を以て圍まれ、西境に大野山(四二四米)の圓錐形の秀峰聳え、南境には國見岳(一七七米)・大陣山(二六九米)等の諸山あり。松浦川が西南に發して中央を北流し沿岸に低地開け、北部にはこれより西南方へ續く低地あり。米・藁・蕎麥を産す。縣道が中央を縱斷し、伊萬里町及び唐津市へ自動車を通ず。この地は往昔、松浦氏の一黨、波多氏の居りし地にて、天正年中、波多三河守守親は唐津に移る。「白山神社」大字井手野に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命・菊理姫命。相殿、素佐男命。

ミナミハタ 南美唄 省線函館本線の貨物驛(昭和六年設置)。北海道石狩國空知郡美唄町にあり。

もと鳥居原にありしが元和二年寺澤志摩守現地に遷せり。例祭、十月十五日。

ミナミハタ 南秦野村 神奈川縣相模國中部の西部。秦野町の南隣にて南は足柄上郡と隣す。秦野盆地の東南部を占め、南境附近に低き山地をなす。農産行はれて蕎麥・甘藷・蕎麥・栗等を産し、特産物としては栗藪草の栽培盛なり。縣道は秦野町及び南方の二宮町に通じ、秦野二宮間の社線湘南電氣自動車線通じ、また社線小田原急行の大秦野驛(昭和二年設置)あり。和名抄、餘較郡幡多郷の地なり。

ミナミハマ 南濱村 新潟縣越後國北蒲原郡の西北部海岸。南北を加治川と日本海とに挟まれたる砂丘地帯なり。東北・西南に長く、海岸に沿ひ二〇—三〇米の砂丘列連互し、道落・桑落・灌漑水路何れも之に並行せる標式的砂丘聚落の形をとる。丘上には防風林あり、砂地なれば水田に適せず、畑多し。しかし砂丘内側の低地は灌水路行届き水田開く。米・野菜を産し養蠶行はれ、漁業また盛んにして漁業組合發達せり。東西に走る道路の外、後方諸部落を結ぶ横路もあり、加治川には舟楫の便あり。この地はもと八箇濱と稱し、沼垂濱より出羽國に赴く古驛路にして、義經記に「蒲原のたりと越えて、八八里濱など云所行過て」とあるは此の八八里濱より乙濱に到る間を指せるものなりと。

に今立郡に北日野村あり好一對をなす。「熊野神社」大字清水に鎮座。遠玉之男神・伊弉那大神・事解男之神・須佐之男神を祀る。村社なりと雖も地方の大神にして、神體天皇御龍の御時、社後の鶯を賞し初音の宮の號、鶯の關の名を得たりと傳ふ。「妙奉寺」大字西大道にあり。藤下日蓮宗妙顯寺派唯一の古刹。永仁二年三月、日像上人が日蓮上人の遺命により留置して創建す。日像上人四箇聖蹟の第二なり。寛文三年綱代興を免許されしほどの大坊なり。因に國內に於て綱代興免許は本寺と松平重昌公・羽坂明源寺・毫攝寺・善庵の四者のみなりき。

ミナミハラ 南原村

山形縣羽前國南置郡の南部。米澤市の南に隣り、南は福島縣耶麻郡に接す。面積約一三一方軒。吾妻山の北斜面に屬し、南境には西より東針山(一五二二米)・西大嶽(一九八二米)・西吾妻山(二〇二四米)・東大嶽(一九二八米)等聳え、北方に傾斜す。最上川の支流松川は東南境に發源して東境を北流し、大樽川は南境に發源して中部を西北に流る。村内山地をなせる所多けれども北部は米澤盆地に屬し平坦なり。木炭・藁を産し、また陸稻・葉煙草の産出多し。道路は村の西部を南北に通じ、省線米坂線南米澤驛へは約二軒。村内に白布高湯温泉・新高湯温泉・吾妻温泉・黒湯(高三五米、中七米、赤倉湯(高き三〇米、中七米)・白銀の湯(高一五米、中七米)・高湯大瀧(高二〇米、中九米)・くらすみ瀧(高二五米、中六米)・つばめ瀧(高き二五米、中六米)・げんきう瀧(高き三〇米、中六米)・火焔の瀧(高き三〇米、中六米)・あかめ瀧(高き二〇米、中七米)・大手大瀧(高き二八米、中六米)あり。「白布高湯温泉」宿穴高湯・最上高湯と合せて奥州三高湯と稱せらる。地は海拔八五〇米、前に鬼面川を控へ後に吾妻山を負ふ。泉質アルカリ性土類泉。「新高湯温泉」白布高湯温泉より鬼面川に沿うて湧ること約二軒。西吾妻山の中段にあり。昔は御釜と稱し聖地とせられしが、明治十四年温泉場となりしものにて、最近まで湯ノ

入澤温泉と呼べり。泉質土類泉。「吾妻温泉」吾妻山の北中腹、海拔千米以上にあり、泉質は弱鹽類泉。「諏訪神社」大字李山に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。天正十七年上杉景勝會津へ轉封の節信州計見より奉遷し、のち米澤へ移轉の際更に當地に遷座せり。例祭、陰曆三月二十七日・七月二十七日。「洞昌寺」大字關にあり。曹洞宗。岩山と號す。當初越後國にあり、慶長四年現地に移遷す。

ミナミハンニヤ 南散若村 富山縣越中郡礪波郡の北部。高岡市の西南方に當り、出町の東北方約三軒。土地平坦豊穡にて、庄川の水を引ける灌漑路により水田開く。米を主産し、近時蔬菜・花卉園藝も試みらる。また藥品・麻織物等の工業あり。省線中越線油田驛に近く縣道通す。この地は和名抄、礪波郡小野郷の内なるべく、中世は般若野庄に屬す。「常福寺」眞宗大谷派。沿革不詳。本尊阿彌陀如来立像(木造)は國寶。

ミナミヒツサ 南比都佐村 滋賀縣近江國蒲生郡の南部。日野町の南に接し、南部は甲賀郡に界す。全村二六〇米以下の丘陵起伏し北部に稍々低地開けて日野川の一支流が北境を西流す。全村農業行はれ、米を主とし日野菜(赤菜)の特産あり。日野町より縣道が本村に入りて二條に分れ、一は西南に向ひ一は南進し共に甲賀郡に入りて善東海道に連絡す。社線近江鐵道は西北部を通過し日野驛は

ミナミ

氏を稱せり、永正十年、城主故ありて生... 天正年間に至り、尾浦の城主武蔵義氏...

ミナミヒラノ 南平野村

美濃國安八郡の北西部。北は神戶町に、東北は下宮村に、南は中川村を隔てて大垣市に接し、西は不破郡赤坂町及び掛妻郡八幡村に隣る。

ミナミヒラノ 南廣村

伊國有田郡の西部。湯淺町の南に接し、西は紀伊水道に臨み、南は日高郡と界す。南部には白馬山脈が連なり、西南端に南司山(三九九米)あり。

ミナミフルノ 南富良野村

道石狩國上川支廳空知郡の南端。空知川の發源地方を占め、富良野町の南に隣接す。東は十勝國、南は釧路國、西は空知支廳に界す。

ミナミフルヤ 南古谷村

武蔵國入間郡の東部。川越市の東南隣にて荒川の西岸にあり。東は北足立郡と隣す。關東平野の一部を占め、全村平地にて水田多く、米を主産し、炭行はれて産の産多し。

ミナミ

しむ。大正八年本村より占冠村を分村す。本村は大雪山國立公園の内。

ミナミヘイ 南穂高村

信濃國南安曇郡にあり。犀川と高瀬川、鳥川の合流點附近に位置し、豊科町と穂高町との間にあり、東は犀川を隔てて東筑摩郡上川手村に接す。

ミナミホロナイ 南幌内炭礦

北海道石狩國空知郡栗澤村にある石炭山。朝日鐵業會社の採行に係り、昭和十年に操頭したるものなるが、同年には塊炭八、八四一噸、粉炭三、三二二噸、切込炭一、一二四噸(この總價額六萬六千餘圓)を産出す。

ミナミマキ 南牧村

關南佐久郡の西南端。八ヶ嶽(二八九九米)の東斜面に位置し、南は山梨縣北巨摩郡に接し、村の西境は八ヶ嶽火山より藝科火山(二五三〇米)に連なる山嶺をなす。

ミナミマサゴ 南真砂岳

阿留斯(飛騨山脈)の一峯。長野縣北安曇郡平村に屬す。野口五郎岳(二九二四米)の南方支嶺にして、中間に眞砂岳(二九二四米)あり。

ミナミツウラ 南松浦郡

長崎縣南國二市七郡一島の一。縣の西部海上に東北-西南の方向に連る五島列島のうち、中通島以南、若松・奈留・久賀の三島を經て福江島に至る五大島とその屬島を以て構成せられ、中通島の北端津和崎より福江島の西南端大瀬崎まで約八〇軒あり。

ミナミツウオ 南松尾村

大阪府和泉國泉北郡の南部。葛城山脈の北西に京ノ嶽、南東に火岳・鬼岳の美しき玄武岩のハマーテあり、その裾野に富江・福江・三井樂の如き良港を作る。

ミナミ

す。耕地面積五二三町歩あり、全面積に對する耕地率七八%にして、開拓の進化が見られ、田三二六町、畑一九七町、内桑畑一六四町にして水田の卓越する河岸村なるを示す。

温泉湧出す。高原鐵道と稱せらるる省線小海線は中央本線小淵澤驛より駛れて本村を通り信越本線小諸驛に至り、本村に野邊山・佐久廣瀬・佐久海ノ口・海尻の四驛(海ノ口・海尻は昭和七年、野邊山・廣瀬は昭和十年設置)を置く。

健御名方命。例祭、十月二十五日。(八幡社)大字蓬田に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・息長帯比賣命・玉依比賣命。白鳳四年神託により宇佐八幡宮より靈石を請ひ創祀せりと傳ふ。

北西に京ノ嶽、南東に火岳・鬼岳の美しき玄武岩のハマーテあり、その裾野に富江・福江・三井樂の如き良港を作る。また列島の各島間には列島を連る山脈と走向を同じくする階層によりて生じる田ノ浦・奈留・瀧河原・若松・津和崎の五瀬戸あり。

一方軒密度一七四人なるも、魚目村は最も稠密にて五〇六人を算し、奈良尾村は三八六八、福江町の三五八八等これに次ぐ。明治十三年五月、松浦郡を東西南北の四郡に分けて本郡を置く。

ミナミ

ミナミ

北麓を占め、泉南郡山直町の東南に接す。全村高燥なる丘陵性の地にして南部に高く北部に低し。根尾川の支流が南境に發して北流し、また東南境より西北方へ源流する河川ありて北隣の北松尾村地内に入りて兩者相合す。農産類多く、特に蜜柑は泉州蜜柑の本場として知られ、他に蜜柑類あり。林産も多し。また春木織布工場等ありて工産類は首位を占む。大津町へバスを通ず。北松尾村と共に松尾と呼びし處。名刹松尾寺あるを以て知らる。(松尾寺)天台宗。寺傳に用明天皇の本願にて役小角親立すと。鎌倉末より寺運興隆せしが、天正中織田信長諸堂を破却せしむ。元禄頃や舊に復す。如意輪陀羅經卷その他は國寶。

ミナミクリヤ 南御厨村

靜岡縣遠江國磐田郡の南部。濱松市の東約一、二軒、福田町の北、御厨村の南に接す。地は濱松平野の一部を占めて全村地低平、太田川の灌漑よろしきを得て耕地よく拓く。主産業は農にして米を主産し、また麥・西瓜・絲瓜を出し、副業的に行はるる養蠶業また見るべきものあり。西北方中泉町へ東海道本線中泉驛ありへ鐵道通じてバスの便あり。

ミナミノウラ 南箕浦

滋賀縣坂田郡にありし村。明治二十三年に息郷村と改稱す。

ミナミノワ 南箕輪村

長野縣信濃國上伊那郡の西北部。伊那町の北に

ミナミ

接し天龍川の西岸にあり。村は西方木曾山脈に屬する黒澤山(二二七米)・鏡ヶ岳(二九六米)等より伊那各の階層崖下に流出する大泉川・小澤川の複合扇狀地の上にあり。村には三段丘あり、最下の段丘は水田のみにして、第二段丘には三州街道が伊那町に通じ、この街道に沿ひて哈ど地での家畜あり、水田と桑畑混在す。上段の段丘の第二段丘に臨むところは地下水に伏流するため雑木林となり、次第に西方に桑畑・水田に移化する。大泉川・小澤川は段丘に切込む潤ゆる田切の地形を作る。耕地面積七七二町にして、全面積に對する耕地率一九%、田三六四町、畑四〇八町、うち桑畑三六七町にして水田と匹敵し、農産地帯の特色を示す。社線伊那電氣鐵道の北段・田畑の二驛(共に大正十二年設置)あり。

ミナミハラ 南三原村

千葉縣安房國安房郡の東部。和田町の西隣にて太平洋に臨む。海岸は單調にて、北部は磯濱、南部は砂濱をなす。東部及び西北部には丘陵地あるも他は平地にて農業行はれ米・麥を主産す。特産物としては乳製品キノミール等あり、年産八十八萬圓に達す。そのため畜産發達し、乳牛頭數は三〇頭以上ある。その他、花卉・蔬菜(白清葱)・繭米(矢田種)等の産あり。縣道は海岸沿ひに走り、省線房總西線また之に沿ひ、南三原驛(大正十年設置)を置く。この地は和名抄、朝夷郡御原郷の内にし

ミナミマキ 南御牧村

長野縣信濃國北佐久郡の中部にあり。小諸町の南、岩村田町の西、各々七軒にあり。地は豊科火山の北の裾野にあり。古くより御牧ヶ原と呼ばれ、千曲川本流とその支流鹿曲川の間に侵蝕を免れし臺地をなす舊湖底盆地の一部なり。八幡を中心家落をなし、舊中仙道に沿ふ街道の要所をなす。此の附近に多少の水田あり。山麓臺地面は桑園卓越す。耕地面積四七八・四町にして耕地率は四二%、田二七四町、畑二五〇・九町、うち桑畑二一六町にして畑の大部分を占む。この地は和名抄、佐久郡茂理郷の内。大字矢島は源平盛衰記に當國の人、八島四郎行忠なる人あり、此地に在るを稱せしものか。

ミナミムゲ 南武藝村

岐阜縣濃國武儀郡の西南部。岐阜市を去ること北方一六軒。東は大矢田村・瀬尻村に、南は山縣郡千疋村に、西は東武藝村及び山縣郡山縣村に接す。古生層より成る美濃山地の中に入りて、西北より東南へかけて流るる武儀川は階層崖に沿へるものと見られ、河岸平野を作りつゝ西部にて西南へと曲折す。河岸の低地は主として

ミナミヤシモ 南八下村

大阪府河内國南河内郡の西北部。堺市の東南約二軒。全村地形低平にして沃野全般に拓く。米産多く麥も出しその他、工業・畜産あり。西南部に堺市より延びる富田林街道通じ堺市へバスの便あり。社線南海鐵道高野線は西南隅を掠めて過ぐ。此地は北八下村・金岡村と共に和名抄、丹比郡八下郷の地なり。天平神護元年十月稱徳天皇和泉國より到り給へる丹比行宮は大字小寺の地ならんといふ。

ミナミヤツシロ 南八代村

山梨縣甲斐國東八代郡の中部。甲府市の東南方約七軒。笛吹川支流なる金川のつくる扇狀地の西南端部を占め、面積二方軒の小村なり。村は稍々東南へ西北に傾斜し東南部には桑園、西北部には水田多し。南を主産とし米・麥の産は之に次ぐ。西側へ約六軒、バスを通ず。此地は和名抄、八代郡八代郷の地にして、近世は小石和筋に屬す。古の郡司の治所たり。武田系圖にある八代與三は八代冠者信清と稱し、武田信義の季弟たり、此地に八代氏を稱せしものか。

ミナミヤマ 南山

〔南山村〕靜岡縣遠江國小笠郡の東南部。榛原郡相良町の西約八軒。村形東北より西南に狭長にて、西南部に於て稍々膨る。北部及び南部は何れも一、二百米の丘陵性の臺地を成すも、中部には西方に開く平野ありて耕地よく拓く。主産業は農にして米産多く、茶園またよく開く。縣道西北方掛川町方面より來り中部を過ぎりて東南方池田村方面に至る。この地は和名抄、城洞郡高橋郷の内。〔南山村〕佐賀縣肥前國小城郡の中部。嘉瀬川の上流川上川の右岸に位し、小城町の北に接す。西は東松浦郡に隣り東は佐賀郡に昇す。南境に天香山(四六六米)、中央に連りて西部に天山(二〇四六米)、中央に彦岳(九四五米)を起すを初め、山地丘陵全村に起伏して其間處々に盆地あり。川上川は東境に沿ひて直角形に大屈曲しつゝ東南流し沿岸に無之川温泉・古湯温泉あり。米の産多く、麥も出ず。河川に沿ひて縣道設置し佐賀市より古湯へバスを便あり。〔無之川温泉〕泉質無色透明の單純泉。療養向。川上川の上流、風光絶佳の山峽にありて、浴場は清流の岸邊に沿ひ砂湯の設備もあり、野趣に富む温泉場なり。〔古湯温泉〕泉質無臭透明の單純泉。療養向。無之川温泉より、川上川を測ること北四軒餘、川上・古湯・天川の三川の合流點にあり。夏涼しく冬暖かく備之用よりも賑ふ。

ミナミ

藏王山西麓より北より津川・藏王川、西南境より宮川發源し、各西北に流れ須川に合す。須川は郡の中西部を北流す。同川は激しき酸性を有し、沿岸は非水田地帯をなす。馬見ヶ崎川は藏王山の北麓に發源して西北に流る。一般に米・蕎麥を産し、南部には柿・林檎、東北部には稲羊、中部には蠶繭工等の産あり。羽州街道は郡の中西部を略々南北に通じ、バスの便あり。又この街道より分岐して郡の北部を東に向ひ笹谷峠を経て宮城縣に入るもの及び西に向ひ狐越街道あり。羽州街道に並行して省線奥羽本線通じ、北より金井・上ノ山の兩驛あり。明治十三年五月、村山郡を東西南北の四郡に分けて本郡を置く。↓村山(郡)

ミナムロ 南牟婁郡

三重縣十五郡の一。紀伊國の西南部。熊野川の左岸に沿ひて熊野灘に臨み、西南は川を挟んで新宮市及び和歌山縣東牟婁郡に對し西北部一帯は奈良縣吉野郡に昇す。郡内山岳重疊して高峻地形をなし西南部には子ノ泊山(九〇七米)・一旗山(八〇一米)・ツエノ峯・白倉山・鴨山(八一三米)等の高峰相重なる。北東部には高代山(九三八米)・保色山(一〇二九米)・ゲジヨ山(九二八米)・亥ヶ谷山(六八九米)・龍門山等起伏し、中部には大蛇峠・天神丸山・丸尾山(八五一米)・日暮山・長尾山・妙見山等蟠居す。北山川は西境に沿ひて狭谷をつくり屈曲しつゝ西南流し、西南境

ミナモリ 南毛利村

神社あり、また驛より〇・五軒の處に愛甲三郎の城址あり。また驛より〇・五軒の處には八幡臺石器時代住居址が群をなせり。

ミナモロカタ 南諸縣

〔南山村〕靜岡縣遠江國小笠郡の東南部。榛原郡相良町の西約八軒。村形東北より西南に狭長にて、西南部に於て稍々膨る。北部及び南部は何れも一、二百米の丘陵性の臺地を成すも、中部には西方に開く平野ありて耕地よく拓く。主産業は農にして米産多く、茶園またよく開く。縣道西北方掛川町方面より來り中部を過ぎりて東南方池田村方面に至る。この地は和名抄、城洞郡高橋郷の内。〔南山村〕佐賀縣肥前國小城郡の中部。嘉瀬川の上流川上川の右岸に位し、小城町の北に接す。西は東松浦郡に隣り東は佐賀郡に昇す。南境に天香山(四六六米)、中央に連りて西部に天山(二〇四六米)、中央に彦岳(九四五米)を起すを初め、山地丘陵全村に起伏して其間處々に盆地あり。川上川は東境に沿ひて直角形に大屈曲しつゝ東南流し沿岸に無之川温泉・古湯温泉あり。米の産多く、麥も出ず。河川に沿ひて縣道設置し佐賀市より古湯へバスを便あり。〔無之川温泉〕泉質無色透明の單純泉。療養向。川上川の上流、風光絶佳の山峽にありて、浴場は清流の岸邊に沿ひ砂湯の設備もあり、野趣に富む温泉場なり。〔古湯温泉〕泉質無臭透明の單純泉。療養向。無之川温泉より、川上川を測ること北四軒餘、川上・古湯・天川の三川の合流點にあり。夏涼しく冬暖かく備之用よりも賑ふ。

ミナミ

ミナミヤマウチ 南山内村

縣常陸國西茨城郡の南部。笠間町の南隣にて、東は宍戸町、南は岩間町に接し、西南の一部は新治郡と隣す。村内丘陵地多く、西南端に吾國山(五一八米)あり。東部の丘陵間を涸沼川東南に流れ、流域は狭き平地にて農業行はれ米・麥・大豆・小豆・蠶桑・蔬菜・繭を産しまた陶器の製造行はる。丘陵地には森林ありて木炭の産あり。縣道は中央を東北に走りて笠間町に通じ、同町に省線水戸線笠間驛を設く。(岩谷寺)大字東側にあり。新義館首宗智山誠。曹王山護命院と號す。開基は秀佐と傳ふ。寺運一時傾きしも、順徳天皇の御宇、忠圓によりて再興、現に門木三十餘寺あり。本尊は藥師如來、鎌倉時代の作にして國寶なり。

ミナミヤマサキ 南山崎村

縣伊豫國伊豫郡の中部。松山市の南方約十軒。砥部町の西に隣接す。四國山脈西部の北斜面の地を占め、高嶺數百米の山岳重疊して高峻なる山村をなし、平地殆んどなし。西方に一條の溪谷南北に開き交通路をなす。従つて農耕不振にして僅かに河谷・丘陵を耕作して米・麥を作り、蜜柑・栗・枇杷等の果樹栽培をなす。近年は植林・山地開墾等盛に行はる。特産として伊豫磁石を産す。西部の谷には國道走りて南方大洲町・内子町と北方郡中町・松山市を連絡す。郡中町までバス通す。この村は和名抄、伊豫郡石田郷の内。村

ミナミヤマタ 南山田

〔南山田村〕 富山縣越中國東礪波郡の西部。城端町の西北より西南に接し、西は西礪波郡に界す。略南北に細長く、南半部は山地にて南隣の杵築山(一六三米)の高度を有し北へ傾斜す。北半部は礪波平野に屬し、東北端を山田川北流し城端町とを界す。山地は森林繁茂し、平野は沃田開け米産多し。葉落は平野に散在す。山裾の緩傾斜地は草原にして陸軍立野原演習場をなす。省線中越線の珍島城端驛(明治三十年設置)は本村にあり、福光町その他に至る縣道通す。

〔南山田村〕

大分縣豊後國玖珠郡の南部。玖珠町の東南に接し、東は東飯田村・野上村・飯田村に、西南は熊本縣阿蘇郡小國町に界す。東西一軒、南北一四軒あり、面積は七五平方軒に餘る。九重火山麓の北斜面にそびえ、南境には福蓋山(一五〇米)・中嶽等そびえ、西北境には萬年山(一四〇米)屹立ち。城内は一帶の熔岩臺地にして、飯田高原、又は玖珠高原と稱せられ、キャンプ場として著し。玖珠川は南方高原中に發し、湧蓋山の東麓を流れ、東境を劃して北流し、村の西南部に發する支流を容れ、沿岸の低地に耕地ひろく。村内には鹽瀧・寶泉寺・川底等に温泉湧出し、東南隣の飯田村内の筋

五三三

湯・大嶽の諸温泉と共に玖珠七湯(また十湯)と稱せらる。産物は農産・林産を主とし、また、村内に約二五萬坪の礦區を有する旭礦山あり、礦種は金銀、暫く休山の委なりしが昭和十年再び事業を開始せり。省線久大本線が東北部を通過し引治驛(昭和四年設置)あり、その次驛、惠良驛(東飯田村)より發る宮原線は玖珠川支谷に沿うて村内を南走し、町田・寶泉寺の二驛(昭和十二年設置)を設く。道路は宮原線に沿うて玖珠町・小國町(宮原)を結ぶものあり、交通不便ならず。

ミナミヤマミ 南山見村

越中國東礪波郡の中部。井波町の南に隣接す。東南部は七〇〇米餘の山地にして中央へ傾斜し、西北半に平地開く。平地には水田多く葉落は標式的散村をなす。米作を主とし、養蠶・製藥業も行はれ葉行南に出稼ぐもの亦多し。村の東部に温泉湧出す。井波町より城端町に至る縣道北部を横切りバスの便あり。社稱加越鐵道井波驛(約二軒を隔つ。村内に吹上礦泉、はつちやうくる瀧(高三〇米、中三米)・不動瀧(高二〇米、中三米)等あり。吹上礦泉は無色無臭清澄の弱鹽類泉にして慢性リウマチス・神經痛・皮膚病に効果あり。

ミナミユサ 南遊佐村

後國能海郡の西部。酒田市の東北約九軒。面積七・六五方軒。庄内平野の北部に位置し、全村平坦にして、日向川は南部を西流し、西遊佐村に出でて日本海に注ぐ。米・繭・馬を産す。省線羽越本線本橋驛へは南方約二軒。同線遊佐驛へは北方約三軒あり。(白山神社)大字米島村に鎮座。神社、伊弉諾命・伊弉冉命・菊理姫命。養老二年の建立と傳ふ。例祭陰曆三月十五日。

ミナミユフ 南由布

大分縣遠見郡にありし村。昭和十一年に外一村と共に由布院村となる。

ミナミヨコヤマ 南横山村

府和泉國泉北郡の南部。葛城山脈の北斜面に位置し、岸和田市の東南約一〇軒にあり。東南は南河内郡に接し、南は和歌山縣伊都郡に界す。南境には大石ノ峯(八六一米)・三國山(八八六米)等の長峯山脈に屬する山峯が西南より東北に連りて村境を劃し、山地は北へ傾斜して西境に岩雄山(五六四米)あり。大津川は南境に發して中央を北へ流下するも、沿岸低地乏し。林産最も多く農産之に次ぎ工業第三位を占む。外に畜産あり。北部の斜面地には果樹園ありて柑橘を産す。河谷に沿ひて縣道走り南境の嶺谷峠を越えて和歌山縣に入る。西北方の大津町へバスの便あり。横山村と共に中世、横山莊と呼びし處。

ミナミヨシイ 南吉井村

愛媛縣伊豫國温泉郡の西南部。高嶺半島頭部にありて高嶺山塊西南山麓下に展開せる松山平野東部の地を占め、南部の村

ミナミワタ 南和田村

長野縣信濃國下伊那郡の南部にある山村。天龍川支流の遠山川に村の中央をほゞ東西に貫流す。村の北境に戸倉山(一六七米)ありて南斜し、村南には熊伏山(一六五三米)ありて北斜す。村の東南境は即ち熊伏山の山地にして東は急崖を以て八重河内村に下る。此の崖は謂ゆる中央裂線にして、豊川一遠山川構造線なり。村は遠山川の溪谷深く、平地乏し。林業を主業とす。耕地面積五四・八町、全面積に對する耕地率二・九%にして山村の特色を示し、うち田六・六町、畑四八・二町、桑畑四二・八町歩にして耕地の大部分を占め養蠶が農業生産の大部分を占む。いま八重河内村・和田村・上村・木澤村と組合村をなし、役場を和田村に置く。

ミナミワラシナ 南藁科村

靜岡縣駿河國安倍郡の南端。靜岡市の西北に隣接し、西は志太郡と境す。藁科川西北方より來り北境を劃して東流し、其の沿

境を重信川西に流れて灌漑の便よるし。従つて土地平坦肥沃なれば耕地全般に發達し農業盛なり。米・裸麥・小麦・繭等を産し、また豆・甘藷・西瓜等の野菜類の産も少からず。社稱伊豫鐵道電氣線は北部を横斷し田窪驛(明治三十二年設置)を設く。この地は和名抄、存穴郡拜志郷の内。(浮島神社)牛瀨に鎮座。縣社。祭神、大山神命外敷神。舊稱三島大明神。例祭、十月十四日。

ミナミヨシト 南吉富村

縣愛前國築上郡の東部。山國川の左岸に沿ひ、東北は川を挟んで大分縣下毛郡鶴居村と中津市の西南隅に對す。全村概ね地形低平にして、東境に沿ひて山國川が北流す。米・麥等を産す。南部を省線日豊本線が横斷し、中津驛へバスの便あり。(八坂神社)大字垂木に鎮座。郷社。祭神須佐之男命・奇稻田姫命外三神。舊稱牛頭天王。養老年中、播州赤石よりの勸請と傳ふ。例祭、十一月八日。

ミナミヨシノ 南芳野

奈良縣吉野郡にありし村。明治四十五年に本村を廢し丹生村・黒瀧村の二村となす。

ミナミヨシニ 南吉見村

埼玉縣武藏國比企郡の東部。松山町の東南方にて、間に西吉見村を挟む。關東平野の西部にて荒川東方を南流し、南境を市ノ川東流す。全村平地にて水田・畑地開け、農業行はれて米を主産し、他に麥を産す。養蠶また盛にて繭の産額大なり。縣道は

松山町及び東方約六軒の北足立郡鴻巣町に通じ何れもバスの便あり。松山町の社線東武鐵道東上線武州松山驛、鴻巣町の省線高崎線鴻巣驛に出づるに便なり。大字大車は中古武蔵七黨の一たる横山黨の一派大車氏居住の地なり、いま大車重親の墓と傳へらるるもの、毘沙門堂の背後に遺れり。

ミナミヨネザワ 南米澤

省線米澤線の一驛(大正十五年設置)。山形縣米澤市東町にあり。

ミナミワウチ 南輪内村

紀伊國南牟婁郡の東北部。輪内浦の支線加田浦に臨み、西北隅は北牟婁郡尾鷲町に接す。西境には九〇〇餘米の山脈が南北に連りて、中央にケラシ山(九二八米)聳ゆ。北境には此の山脈より東南方へ連る山脈ありて表ヶ谷山(六八九米)に至りて東方に延び東境は輪内浦灣に沈む。南境には西境山地より東方へ續く連嶺ありて東部に、北部山地との間に西南方へ突出する輪内浦の支線加田浦の南を抱きて東に延び、東南端は神領ノ鼻となりて輪内浦口の西南岸を扼す。中央には西北に發する古川ありて東南流し加田浦頭に注ぐ。村内の四字の中、最も人口多き賀田は林業労働者・農業者多く、人口第二位の古江は全戸漁業を営み大型漁船によりて三陸方面へ出漁するもの多し。曾根は人口第三位にして農・漁業・山林業等行はれ、祝賀は人口最も少くして全戸漁業

ミナミワケ 南和氣村

同山縣美作國國田郡の西南隅。吉井川上流東岸に沿ひ、西は川を以て久米郡に界す。北は北和氣村、南は飯岡村に接す。面積一六・八七平方軒。河岸を除く三方を山地に圍まれ村内概ね山林なり。河岸に耕地を拓き米・麥を産す。村内一般に養蠶、果樹の栽培行はれ、繭・柿の産あり。縣道南北に貫通し、社線片上鐵道輪原驛に近し。北和氣村と共に和名抄、野田郡和氣郷の地なり。(標原鐵山)鐵區は南和氣村・飯岡村及び久米郡吉井川に跨りて一七二萬坪、津山市より吉井川に沿うて下る。凡そ一六軒の地點にあり、礦種は銅鐵硫化鐵。礦區の地質は中生層及び之を貫きて噴出せる輝綠岩質火成岩・花崗岩質岩石より成る。礦床は、輝綠岩質火成岩の噴出後、花崗岩質岩石の噴出ありて、その餘波によりて生成せられたる單純交代礦床なり。その産する黃鐵礦は、含有硫黃五〇%以上、鐵四五%内外、砒酸一・五―二・五%、銅〇・一五%内外、其他の夾雜物は極めて僅少なり。硫化鐵礦の礦床としては含銅の少きこと、硫黃分の多きこと、鐵量の多きこと等を綜合すれば、世界に稀に見る佳良のものとなふべし。

ミナミ

五三三

ミナモト

岸に狭長なる平地あるも、他の三方は三...

ミナモト 源

【源村】 千葉縣上總國山武郡の西部。成...

ミナモト 源

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

より東北へ貫流し、東北部に見事なる扇...

ミナモト

【源村】 鳥取縣東伯郡にありし村。明...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

の所在地たり。(「鬼舌」指定名勝・天...

ミナモト

【源村】 備中國(岡山縣)の古...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

川が西北方に流れ、西部中央にて吉野川...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

ミナモト

【源村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北...

また清製業等行はる。聚落は中央丘陵により東部・西部の二列に分たれ、

爲め残丘の形をなし周囲より時つ。この山一帯は古來有名なる牧場にて、

て村心を南北に貫き庄原町・上下町に自動車を通す。もと米・春日の二村なりし

で土壌を以て搬出し、それより船にて天龍川を下ること四十五軒、

行ひ、然る後之を取引するものなり。昭和二年三月七日北丹大震災に際し本町は

豆・馬鈴薯・蕎麥・木炭・木材等を産す。畑山の産物は富村と荒川村とに跨る。

伸びて緩り高峻なる地形をなす。南は東流する吉野川左岸の地を占め、

即ち本城を指す。【三野】筑紫の古地名。續紀、文武天皇の三年十二月、

ミネオシカワ 峯吉川村 秋田縣羽後國仙北郡の西部。刈野町の西北に接す。

【三野】越中國(高山縣)の古地名。和名抄に磯波郡三野郷あり、

【三野】延喜兵部省式に見ゆる筑前國の驛名。美濃驛馬十疋とあるは此にして今の福岡市内なり。

【美濃】相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡美濃郷あり、

阜・大垣の二市及び稲葉・羽鳥・海津・養老・不破・安八・掛兼・本巢・山縣・武儀・郡上・加茂・可兒・土岐・惠那の十五郡を含み、岐阜縣の管轄に属す。この國は往昔は三野または御野に作りしが奈良時代の初めに美名をとりて美濃に書き改めしものと傳ふ。本國の西南國境は木曾川下流の右岸の地にあたり、河道の變易あるを以て各時代に於て多少の變更ありしを免れず。この國の國史に現はれしは既に神武紀にあり、また古事記には三野の本巢國の名出で、國造本紀には三野前國造・三野後國造・本巢國造を定めたまひしこと見ゆ。のち國郡制定の際にはこれ等は郡となり、三野前國は本巢郡、本巢國は武儀郡となりしもの如く、相共に美濃の内に属す。而して國府を不破郡の内に置く。今の府中村大字府中の地が即ちそれなりといふ。この國は東山道の要衝に當るを以て古くは不破關を置かる。鎌倉時代の初め梶原景時・大内惟義が交代して守護となるに及びて子孫相承く。後醍醐天皇の正中元年天皇の密旨を奉じて上洛し遂に正中の變を醸したる多治見國長、土岐頼兼はこの子孫なり。吉野時代の頃、土岐氏の裔に頼兼あり足利尊氏・義隆に屬し本國の外に伊勢・尾張の守護を兼ね、厚見郡の軍手(川手)城(いま稲葉郡厚見村下川手)に居る。孫康政に至り郡を若菜足利義滿に得て出奔す。ここに於て頼康の姓賴益代りて守護

となり、のち五世を經て頼康に至りて大桑城(山縣郡大桑村)に治す。天文年間に至り、その區番藤道三これを逐うて自立し、稲葉山城に居りて自ら守護と稱し成を遂げに振ふ。永祿七年尾張の織田信長大舉して來り侵すや、城主齋藤龍興は敗れて越前に走る。信長即ち清洲より稲葉山に移り、改めて岐阜城と號す。天正四年信長は近畿經略の歩を進め更に城を近江の安土に築くに及びて子信忠をして岐阜城を守らしむ。天正十年信長が京都本能寺に於て明智光秀のために害に遭ふや信忠の弟信孝これを守る。天正十一年信孝の兄信雄は羽柴秀吉と謀り、信孝を攻めてこれを尾張に走らせ自殺せしむ。秀吉は即ち池田信輝をして大垣城に鎮せしめ、森長可を金山城(可兒郡金山町)に置く。翌十二年の長久手の戦には長可・信輝共に秀吉に當りて徳川軍と戦ひ、いづれも戦死せしを以て、信輝の子輝政を岐阜城に移す。天正十八年に至り輝政を三河の吉田に移し、信長の嫡孫秀信をして岐阜城にありて本國を鎮せしむ。既にして慶長三年秀吉薨じ、同五年國郡原役起るや秀信は西軍に與るしが城陷るに及び出奔して高野に入る。此に於て徳川家康岐阜城を廢して翌年石川康徳を大垣に、徳永壽昌を高須に、奥平信昌を加納に置き、其他、國內に諸侯の封を受けるもの凡そ十。爾後諸藩の廢藩換行はれ、森木に至れば加納に水井氏(三萬二千石)、

高須に松平氏(尾張の支流、三萬石)、大垣に戸田氏(十萬石)、野村に戸田氏(一萬三千石)、岩村に松平氏(大給氏、三萬石)、苗木に遠山氏(一萬餘石)、高宮に本庄氏(一萬石)、郡上に青山氏(四萬八千石)の八藩あり、これに明治元年今尾の竹腰氏(三萬石)が藩邸に列せしを以て九藩を數ふ。明治三年十二月高須藩を廢してその地を名古屋藩に合す。明治四年七月廢藩置縣の時、上記の八藩は悉く縣と稱す。同年十一月十五日には以上の八縣は幕府の領地に置かれたる笠松縣と共に廢せられ、更に岐阜縣を岐阜に置き美濃一國を管す。美濃國は、維新の初め二十一郡を算せしが、明治十三年に石津郡を分けて上下二郡とせしを以て二十二郡の多數となる。同二十二年市制施行の時岐阜市が厚見郡の中より獨立す。明治三十年四月に至れば郡の大併合行はる。即ち、厚見、各務二郡及び方縣郡の大部を併せて稲葉郡とし、席田・本巢二郡と大野郡の一部、方縣郡の一部とを以て本巢郡とし、池田郡と大野郡の大部とを以て養老郡とし、多高・上石津二郡を併せて養老郡とし、下石津・海西二郡を併せて養老郡を加へて石津郡とし、羽栗郡と中島郡とを併せて羽鳥郡とし、大正七年四月大垣市が不破郡より獨立し、ここに二市十五郡を以て今日に至る。

山地より成り古生層なり。西境には長良川南流して河岸平野を作り、山地との間の漸移地帯に聚落發達す。北部に古城山(四三七米)・高澤山等時々。河岸低地には水田多く、上有知は商業盛にして武儀郡中部の地方的中心をなす。工業に製紙あり。商業の大部分は紙の原料商、紙の間屋等なり。交通は郡上街道山麓線に沿うて走り、越美南線はこれと並行し、美濃町驛(大正十二年設置)を置き、これに接続する社線名古屋岐阜線の新美濃町驛あり。もと上有知村といひしが明治四十四年町制を布くに及び、美濃國の美濃を取りて舊來の發展を約し美濃町と改む。此地は和名抄に出づる武儀郡有知郷の地にして、中世は上有智庄南方神地と見え、また上有智庄となり、江戸時代は名古屋藩に屬す。富元庄内郷とも見え、古書には内庄と書けり。(上有知城)新舊二所あり。一は尾山、一は小倉山。尾山は天正の末年より佐藤六左衛門秀方、其子才二郎方政の居城たり。關ヶ原の役に方政は岐阜城に據りて敗れ、同年飛騨國主金森法印長近の領する處となれり。長近は新に小倉山に築きてこれに住せしが、その子長光に至り、慶長十六年病死、家名斷絶、城廢す。(清泰寺)臨濟宗妙心寺派。安住山。永祿六年、城主佐藤六左衛門清信、當地古町に一字を創し、圓藏寶通を開山に請じて阿育山保寧寺と號す。文祿元年、佐藤隆成守秀方

加斐を改造奉嶺山以安寺と改め、慶長十年、小倉山城主金森長近之を城内に移建して現寺號に改む。

【美濃】 美濃國を通る街道。近江路より來り南は尾張に出で東海道に通じ、東は岐阜路に出て中山道に通ず。のち東海道は近江より直に東海道に通ずるに至り美濃路は専ら中山道の街道となる。

見ゆ。歳日本後紀承和十年の條に美濃郡の二郷を割きて鹿足郡を置くとあり。和名抄は都茂・若氣・山田・山前・大農・美濃・小野・益田の八郷を管し爾後大變化なし。

の間に河谷あり、即ち北部には美濃川が西南流し中央を西流する支流を合し、南部には西に流るる淡河川ありて東南方より來る山田川の水を合して志染川となり更に西流し、西南部にて美濃川と合して西に向ひ村境を出でて加古川に合す。沿岸に低地開け疎に西南部は廣し。田畑よく發達し米・麥・蕎麥・粟・果實その他、豆・糖・養油・蠶製品・木製品等を産し、また林産・畜産もあり。郡内は三木町外他十ヶ村を含み、人口密度は一方新につき一九六八にして三木町は最も多く一四九八人を算す。縣道は西部の三木町を中心として四通八達し、自動車は往來繁くして交通の便頗るよく、社線播磨丹波線の支線は西南部に入り來り三木町に達す。三代實錄貞觀八年の條に郡名はじめて見ゆ。和名抄は美奈岐と註し、志深・高野・平野・吉川・夜停の五郷を置く。太平記は三木郡に作り、近世に至り享保年間、美濃の郡名を復せしが、ミナギをミノと訓み以て今日に至る。

ミノセーミノチ

雨に濡るる衣のあやしきになほみのしよの名をやらまし 重之

【三野瀬村】三重縣紀伊國北牟婁郡の東部。長島町の西南に接し熊野灘に臨む。東北より西南に連る約四〇〇米の山脈が北地を限り、それより東南方へ延ぶる一脈は西南境を劃して尖端は斷崖を以て海に終る。海岸は屈曲多く崖濱をなし前面海上に赤野島・丸山島・鈴島・大エスキ島等浮ぶ。平野は僅に沿岸に猫類大の低地が點在せるのみ。木産・林産及び繭・麥・米等の農産あり。海岸に沿ひて熊野街道及び省幹線勢東線通過し三野瀬驛(昭和七年設置)あり。明治二十二年、三浦・海野浦・道瀬浦を合併し、各一字を取りて現村名に就く。

【民太】伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に志志郡民太郷あり、三万と調す。その地は今の一志郡阿坂村・米之庄村の邊に當る。

【箕田】埼玉縣武蔵國北足立郡の北部。鴻巣町の西北隣にある小村にして、元荒川の西南岸にあり。東北は北埼玉郡と隣る。全村平地にして水田多く、米を主産し、繭の産も多し。また瓦・箆筒等の製造行はる。中山道は鴻巣町より來り、村の西部を西北に走り西北方の吹上町に通す。省幹線高崎線またこれに沿ふも村内に驛なく、鴻巣町に鴻巣驛ありてバス通す。この地はもと足立郡箕田郷と稱せし。

【箕田村】埼玉縣武蔵國北足立郡の東北部。神戶町の東方約一軒にありて東西に細長く、東は伊勢海に面す。地形低平、一壟沃野連り米・麥の産多し、養蠶も行はれ工業もあり。社線伊勢電氣鐵道は東部を走り箕田驛(大正六年設置)あり。

【蛟高】肥後國(熊本縣)の古地名。延喜兵部省式に肥後國蛟高驛驛馬五疋と見ゆ。その地は評かならざるも鹿本郡に米野村あり、或はこの地ならんか。

ミノタニ

【養谷村】富山縣越中國東礪波郡の中部。越前町の東方一・二軒。東南には白山山脈の末端をなす高清水山(一四七米)屹立し、西北へ傾斜す。西北部は礪波平野の一部に属し耕地開く。農業を主とし米を産する外、養蠶・製炭の副業行はる。越前町へ縣道通じ此處より省幹線越前線の便あり。杉尾峠を越えて庄川上流に至る里道あり。明治卅一年本郡能美村を分割し、その一部を以て本村を置く。村内に不動尊(高さ一八米・幅三米)・夫婦尊(高さ一八米・幅四米)・明神尊(高さ五五米・幅二米)あり。

【水内】信濃國(長野縣)の古郡名。郡の東方を千曲川が流れ越後に至る。されば郡名は水落の義か。續紀神護景雲二年の條に郡名見ゆ。和名抄は美乃知と註し乎井・大田・芹田・尾張・大島・古野・赤生・中島の八郷を擧ぐ。明治十三年五月、上・下二郡に分つ。

【水内村】長野縣信濃國水内郡の東南端。犀川の左岸にありてその蛇行部にありたり南東北の三方を圍まれ、西は津和村に接す。犀川丘陵地の連続をなす臺地が村の大部分を占む。犀川の谷底には僅に平地あり、平の部落は此處に位置し、水田・桑畑あり。多くは丘陵の中に孤立村落を形成す。新町は犀川の谷底にありて最大部落をなす。耕地面積は三三八町にして全面積に對する率は三八%に達し養蚕の參詣日夜絶えず、町は繁盛なり。鐵道省借入線富士身延線身延驛(大正九年設置)は對岸大河内村にあり、驛より久遠寺までバスの便あり。昭和六年町となる。また附近は身延町佛道會館所在地として天然記念物に指定せらる。この地は中古、波木井郷と稱せし地。南部三郎光行の次男、波木井三郎實長は此地に住み、波木井・御牧・飲野の三庄を預り、曆仁元年、頼朝、將軍上洛の時、兄實光と共に従ひ、のち日蓮の門に入り日圓と稱す。【久遠寺】日蓮宗の總本山。身延山妙法華院と號す。文永十一年、日蓮、佐渡より鎌倉に歸來するや檀越波木井六郎實長の請に應じて富山西谷に一草庵を結びしに創り、門弟道俗相傳へて四方より集り弘安四年に開堂式を擧ぐ。第十一世日朝を中興とし、樓閣周備整頓して山上一大華界を開く。天文以後武田氏以下武將の信仰厚く、寺運隆盛、今は四大本山、三十九本山、三千七百十一の末寺を統ぶ。日蓮の遺骨を納む。所藏の什寶は屢次火災に焼失せしもなほ彫刻・繪畫など數百點に上り、殊に相本淡彩夏景山水圖一幅は國寶なり。四月降誕會(四月八日)・六月開闢會(六月十三日より六日間)・十月會式(十月十一日より四日間)を三大會と稱す。(本誌寺)日蓮宗。慶長十四年徳川頼宣の母養珠院、日蓮に歸依して創建す。慶應年間焼亡、近年復舊を見る。現に同宗本山にして末寺十七を統轄す。

【身延山】赤石山系白根山脈の南東方に當り、富士川右岸沿ひに南北に連互する身延山脈の中部に峙ち、その主峯をなす山。山梨縣南巨摩郡身延町と下山・本建の二村との境に峙つ。標高一四三三米。山麓御坂層及び第三紀頁岩層より成る。北方に栗倉山(七〇四米)、南方に鷹取山嶺。富士川はこの山地の東方を開鑿し山腹に河岸段丘を種々の高度に作り、富士川の一支出波木井川はこの山を深く浸蝕す。山腹河岸段丘上の小平地に日蓮宗總本山の身延山久遠寺あり、山麓河岸に身延の衆落發達す。信仰登山者多く、この山より更に西方の七面山(久遠寺の鎮守)にも登る者尠からず。※身延町

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

ミノチ

地面の開拓の進化を示す。田一〇町、畑三二八町、うち桑畑二二七町にて桑畑による養蠶は本村に於ける農業の根幹をなす。【健御名方富命彦神別神社】大字水内に鎮座。郷社。祭神、彦神別命・健御名方命外二柱。舊稱、諏訪明神。式内社と傳ふ。例祭、九月二十三日。

【水内村】長野縣信濃國水内郡の東端にして長野縣の東北部。千曲川の溪谷の北岸にありて飯山町より下流約二五軒なり。村の北境に三方ヶ岳(一三九米)あり。西は岡山村に接し、北は新潟縣東頸城郡、東は同縣中魚沼郡、南は信濃川を隔てて下高井郡埴村に接す。村内には白鳥・豊榮・横倉・青倉の諸部落が主となり、多く信濃川岸の段丘上にあり。これ等を連れて谷街道通す。千曲川沿岸には水田・桑畑あり、北部山地よりは薪炭を出す。耕地面積二〇四町、全面積に對する率は七%、田一〇町、畑八四町、桑畑一二・八町あり。

【水内村】岡山縣備中國吉備郡の西部。高梁川中流西岸に沿ひ、川を隔てて高梁町の南に連る。西北は川上郡、西南は小田郡と界し、東北は川を以て富山村に對す。面積一四・六一平方軒。西北部は山脈連互して高峻なるも地勢はやや東南に傾斜す。東北境を高梁川南流し沿岸に耕地を開く、後背地は概ね山林に蔽はる。米・麥・繭の産多く、酒類・木炭・繭・柿等之に次ぐ。對岸に縣道及び省幹線備

【身延山】赤石山系白根山脈の南東方に當り、富士川右岸沿ひに南北に連互する身延山脈の中部に峙ち、その主峯をなす山。山梨縣南巨摩郡身延町と下山・本建の二村との境に峙つ。標高一四三三米。山麓御坂層及び第三紀頁岩層より成る。北方に栗倉山(七〇四米)、南方に鷹取山嶺。富士川はこの山地の東方を開鑿し山腹に河岸段丘を種々の高度に作り、富士川の一支出波木井川はこの山を深く浸蝕す。山腹河岸段丘上の小平地に日蓮宗總本山の身延山久遠寺あり、山麓河岸に身延の衆落發達す。信仰登山者多く、この山より更に西方の七面山(久遠寺の鎮守)にも登る者尠からず。※身延町

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

ミノチ

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

【美濃町】省幹線美濃線の驛(大正十二年設置)。社線名古屋鐵道の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。郡の東南部。蘆田川河口西岸に位し、川を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸村・熊野村に接す。面積一三・七三方軒。川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連りて彦山(四五〇米)・熊ヶ峯(四三八米)が村界を歴し東方に傾斜す。東部は河口三角洲展げ、東岸の箕島は築堤にて陸地と續き本村に屬す。沿岸に耕地開け、米・繭・繭・繭・酒類・蠶表等の産多し、綿織物工業最も盛んなり。輕便鐵道貫通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市、

三六三

ミノヤ—ミノワ

朝町へパスの便あり。水野氏が福山城を開くまではこの邊一帯は蘆田川の河口廣がかりて舟着場なせりと。(妙福寺)日蓮宗。西龍華妙性山。延文元年、當村の創工三原一乘入道妙性の開創。堂宇中、客殿並に靈殿は昭和三年の重建なり。寺寶中に日蓮・日像の眞蹟を蔵す。

ミノヤ 三野谷村

群馬縣上野國邑樂郡の南部。館林町の西南方約三軒にある小村なり。關東平野の一部を占め、全村平地にて、利根川は南方約二軒の所を東流す。南半は水田多く、北半には畑地あり。農業行はれて米を主産し、他に麥の産あり。縣道は中央を東走し、東隣の六郷村より北に折れて館林町に通じ、パスの便あり。六郷村内には社線東武鐵道伊勢崎線茂林寺前驛を置く。

ミノワ 箕曲

【箕曲村】三重縣伊賀國名賀郡の西南部。名張川の右岸に位し名張町の南に接す。南部は奈良縣宇陀郡と界す。南部には略ぼ東南より西北に連る數條の山脈ありて北方へ次第に高さを減じ、北部には低地あり。青蓮寺川が中央を西北流し、南部には南伊賀の景勝を以て開ゆる香落溪あり。兩岸は急斜して峡谷をなし、延長八軒に亘りて深さ十數尋に及ぶ碧碧の淵なり。北部に於ては流れ緩やかとなり西流する長瀬川に合す。名張川は長瀬川の水を入れて西北隅を北流す。米・藁・麥を産し他に林産・畜産・工業・水産あり。

聖蹟

一二五、四七七麓にて重要鐵山たり。王城炭礦(第一坑に該當す)は餘り振はず、僅に準重要鐵山たるに止る。本村はいま水戸村と組合村をなし、役場を水戸村に置く。大字高野に高野鐵泉あり。無色透明のアルカリ性炭酸泉、加熱浴用。【箕輪】福島縣安積郡にありし村。明治二十五年、三代・中野の二箇村に分離獨立せり。

【箕輪山】那須火山脈に屬する沼尻火山群の一峯。福島縣信夫郡土湯村と耶麻郡吾妻村との境に跨る。標高一七一・九米。北東面に爆發火口の跡あり。南段は鐵山(一七一〇米)を経て安達太良山(一七〇〇米)に連り、北西段は鬼面山(一四八二米)・土湯峠最高點(一二七一米)に續く。西側は龍川、東側は荒川の上源地たり。北東側の荒川に沿ひて土湯温泉湧く。

【箕輪町】群馬縣上野國群馬郡の南部。高崎市の西北約七軒にて、榛名山の東南斜面を占む。西北隅に三ツ峠(一三二七米)・鷹ノ巣山(九五四米)あり。これより次第に東南に傾斜し一帯に森林あり。東部の山裾には桑園多く、また田地・畑地ありて藁・米・麥を産す。聚落は東南部に發達し、縣道はこれより四方に通じ、東南は高崎市、東は前橋市に通じ、いづれもパスの便あり。また西北に走るものは赤城山頂附近に通す。大正十年に町制を布く。この地は和名抄、群馬縣井出郷の内なるべし。【箕輪城】大字西明屋に

聖蹟

ある城址。大永年間この國の豪族長野氏の築くところ。山内上杉氏に屬す。永祿八年武田信玄來り攻めてこれを滅す。武田氏の亡ぶや織田信長の併すところとなり、瀧川一益、一時この城に居る。次で信長の執せらるるや一益は西上し城は北條氏の有となる。天正十八年小田原落城後は徳川家康の手に屬し井伊直政をしてこれを守らしむ。慶長三年直政高崎城に移るに及びて城廢す。

【箕輪】三輪とも書く。新吉原の北、日本堤の北端にあり、江戸時代、妓樓の寮が存し、多くの創作・戯曲・演劇などの背景に取材せらる。今は下谷區三輪町、また荒川區南千住町に編入さる。南門鼠「根岸三の輪の隠居所」とはまた異なり、爰に南遊と云へる者ありけるが、商家に生れながら其道にうとく、連番佛講に心をゆだね、赤羽根の邊りに別荘をしつらへし里見八犬傳・三ノ見かへて、跡は濁さめ石神井の、流に添ひて西ヶ原、田畑を過る夏の雨に、追れて箕輪の笠やどり、石濱村に舟まちて、稍うち渡る隅田河云々。

【箕輪】相模國(神奈川縣)の古地名。延喜長部省式に譯名見え、馬馬十二疋とあり。箕輪は水の曲にして、花水川上流の鈴川に沿へるよりその名起る。和名抄には大住郡に縣家郷あり、蓋しこの地を指せるものなるべし。今その地を中郡比々

多村の邊に擬定す。

【箕輪村】長野縣信濃國伊那郡にあり、高遠町の西北約一〇軒、天龍川の左岸にありて、赤石山脈の西斜西をなす。村の東部に不動ヶ原(二二〇米)聳え、西は天龍川の溪谷をなし殆ど平地なし。村は赤石山脈の西端が斷崖をなし、其下部に數段の河成段丘あり。上棚・福與は最上段に位置す。最下部段丘は水田に利用され中段に三日市の部落ありて桑園卓越す。福與には舊城址ありて箕輪城とも田中城とも稱し、天文年間藤澤氏の居城たり。慶長年間これを壊し陣屋を對岸の木下に移す。耕地面積二七八町、全面積に對する率は二〇%、田一五四町、畑一二四町にて田多く、桑畑一二一町にして畑の大部を占め養蠶地域たるを示す。この地は和名抄、諏訪郡且良郷の内なるべく、舊箕輪六郷の稱ありしが今は五箇村あり、大字福與に其輪城址あり、田中城とも稱し藤澤氏の故城なり。天正十年、藤澤次郎頼親が立籠り、北條方に屬せし時、徳川方の保科彈正ここに押寄せて之を抜き、徳川氏の有となる。慶長年間、小笠原秀政の郡主たりし時、その家士をして守らしめしが、同十七年陣屋を木下に移す。寛文年間は幕府の代官この陣屋に來り治せしが、天和三年より元祿十二年までは板倉越中守重宣二萬石を食み此に治す。のち徳川幕府の代官再び來任せしが元文年中に至り遂に廢す。

【箕輪】愛知縣碧海郡にありし村。明治廿九年他の七箇村と共に廢し、長崎村の大字篠目を以て安城町を置く。

ミハシ 三階

鳥根縣那賀郡にありし村。大正十三年他の二箇村と共に廢し石見村を置く。

ミハシ 三橋

【三橋村】埼玉縣武蔵國北足立郡の西部。大宮町の西隣にある小村にして、南は與野町と隣す。全村平地にて中央に連沼あり。沼の周圍は水田にて、他は畑地をなし米・麥を産し、養蠶盛にて藁・生糸の産多し。縣道大宮町に通じ縣道には西武鐵道の自動車線通す。

【三橋】下平和村(奈良縣)

【三橋村】福岡縣筑後國山門郡の西北部。西部は柳河町の北及び東を圍み、東部は瀬高町に界す。北は三浦郡に、東北部は八女郡に隣る。地形低平にして矢部川は瀬高町を流れて本村の東南端に出で之に沿ひて西南流す。東方一軒餘の地點にて之より分るる支流が本村の北部を西流して沖ノ端川といひ、之より西南に一河川分れて中央を潤し之を鹽塚川といふ。米産多し。縣道及び省線佐賀線が中央を横斷し、筑後柳河驛(昭和六年設置)・百町驛(昭和十二年設置)・三橋驛(昭和六年設置)あり。柳河町・瀬高町に挟まれ交通の便よし。本村に明治四十三年、川北・川邊・宮ノ内・垂見の四村を廢して置けるもの。【三柱神社】縣社。祭神、戸次

鐵道・立花宗茂・室茂實。始め柳河城内に藩祖を祀り、文化九年立花鐵賢が現地に通祀す。

ミハナ 三花村

大分縣豊後國日田郡の北部。西南隅は日田町の北部を一點に於て接す。村形は胡蝶の如き形をなし東北翼の面積廣く、其東北部一帯は下毛郡に界す。東北翼の部分は北に大將陣山(九一〇米)・國見山等ありて南方へ山地重疊しつづ傾斜す。西南翼は丘陵性の地にして東及び東南に低し。花月川は北方より流下し來りて西南翼の東部を南流し沿岸にやや低地あり。米・麥・藁の産あり。縣道は南部を横斷し森町・日田町間を通するパスの便あり。(天滿社)大字三和に鎮座。郷社。祭神、菅原道真・大田主神。延長五年道真の姪貞光靈夢によりて創祀せり。例祭、九月二十五日。

ミハマ 三濱

【三濱村】樺太泊居支廳久春内郡の北半部。南は久春内村に、北は鶴城村に、東は元泊支廳元泊村・帆寄村に隣り西は間宮海峡に面す。東境には樺太山脈の珍内山(七五八米)・留久志山(六七五米)等連りて土地西方に下り、珍内川・小田洲川・留久志川・野津川等この斜面を並行西流し、その川筋に小平地あり、耕地次第に開墾せらる。山地には木材・パルプ材、沿岸には鱈・鱒・鯉その他の魚族に富む。留久志・珍内は夏季定期船の寄港あり。【珍内炭礦】大字珍内にあり。昭和十年

山元より珍内海岸まで一五軒の運炭鐵道を敷設して以來運々發展しつづあり。

【三濱村】靜岡縣伊豆國賀茂郡の西南部。西は遠州灘に面し、北に岩科村、東に南上村、東南には三坂村あり。村域は海岸に沿ふ狭長なる地にして東北側の村境は四一五米に過ぎざるも、西方海岸の海蝕大にして海岸平野の發達惡く、且つ後背地との連絡惡し。伊濱・落居・子浦・妻良等の漁村聚落あり。西方渡時崎は天城山餘脈の西盡頭にして航海者の目標たり。岡崎は野猿群の棲息所として有名なり。この地の大字伊濱は往時仁科庄伊濱郷と稱せし地にして、慶長三年の檢地帳には豆州西浦湯濱とあり。大字妻良は東鑑、元暦二年三月の條に、伊豆國名奥と妻良津に於て兵糧米を納められし由見ゆ。いま附近の海岸は伊豆西南海岸として名勝に指定さる。※松崎町

【三濱村】靜岡縣遠江國小笠郡の南部。

北に大坂村・三俣村、東に千濱村、西に大濱村あり。南は遠江灘に面す。菊川の右岸河口近くにあり、村の大部分は沖積地にして米を産し、また野菜の促成栽培も行はる。南半は砂丘地にして海風のために丘頂は南に並ぶ。この地は和名抄、城前新井郷の内にして、海岸を大新井濱と稱す。いま三俣村と組合村をなし、役場を本村に置く。

ミハラ 三原

【三原山】↓大島元村(東京府)

ミハラ——ミハラ

【三原郡】兵庫縣二十五郡の一。淡路國の南部。淡路島の西南半を占め、西は播磨灘に南は紀伊水道に臨み、西南部は鳴門海峡を隔てて四國徳島縣に對す。南部に諭鶴羽山脈海岸に沿ひて東北より西南に連り尖端は潮岬となり、南は紀伊水道に急傾斜し北は緩傾斜をなす。北隅に山地が東西に横がりて横り、中央東偏に一段段が低く南へ延びて南部山地の北麓を連横す。北部にも丘陵群ありて西方海上へやや突出し、その西南部には針狀に西南方へ延ぶる門崎ありて四國の孫崎と相對し、鳴門海峡を挟む。門崎の東に福良町の灣入ありて好箇地をなす。低地は中部に廣く開けて西北部は播磨灘海岸に接す。三原川が平野の西部を北流して海に注ぐ。東北部にもやや廣き低地あり。南方海上に沼島の孤島あり。田畑よく拓けて米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・鶏卵及び木製品・瓦・醬油・陶磁器等の工産品を出す。又水産豊かにして水産製造物多し。郡内は溝町・福良町・阿萬町の三町外十六箇村を含み人口密度は二五六人にて、最も多きは沼島村の八四四人なり。西國街道が中央を東北より西南に走りて福良町に達し、北部に之と交叉して東西に通過する縣道ありて西岸に至る。又中部には南北に貫通して南岸の阿萬町に達する縣道あり。社線淡路鐵道は中央を東北より西南に貫き福良町に至る。書紀には御原とあり禁野の意なる

べし。上世車駕屢々淡路に狩獵を催されし事見ゆ。和名抄は美波良と註し、倭文・幡田・養宜・根列・神稻・阿萬・賀集の七郷を擧ぐ。

【三原村】島根縣石見國邑智郡の西北部。川本町の西方約五軒に位置し、北は通摩郡、東は三谷・川下二村に接し、西は各住郷村に接す。面積二四・七八平方軒。地形略ぼ圓形にして村内概ね山地に蔽はる。南部に圓山(四八二米)存し、その東北麓に耕地拓け部落は附近に集る。米・木炭・家畜等を少額産す。省線山陰本線黒松驛にバス通じ、温泉津驛へ定期自動車連絡す。(境八幡宮)大字南佐木に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・比賣大神。例祭、十月十二日。

【三原村】岡山縣備中國後月郡の西北隅。西は廣島縣に界し、東北に川上郡、南は共和村に接す。面積一九・一一平方軒。四圍は悉く山地にして村内は海拔五〇〇—七〇〇米の高度を有す。平地を缺き、山間凹地の處々にやや耕作行はる。村の周圍を山林圍繞す。米・麥・繭・木炭・柿・薄荷等を少額産し、酒類の製造盛なり。縣道南北に通じ、井原町にバスの便を有す。この地は和名抄、後月郡足次郷の内なり。

【三原市】廣島縣の中部にあり、昭和十一年市制施行の市。開港場兼時を合し、更に西野・山中・豊田郡須波の諸村を併せ三二、四三七(昭和十年)の人口を持つに

三原

五る。前面は瀬戸内海の一灣三原灣にして佐木島・因ノ島その出口を扼す。市は沼田川の河口に南北に跨り、三原灣を取巻く。市の北境に龍玉山(六六五米)・大峯山(六一〇米)聳ゆ。南境には年影山(四八八米)あり。糸崎港の東にある針ヶ峯(四三〇米)の南は急崖にして東北東に尾道に連続し瀬戸内海をなす構造線にして、西南西の連続は三原灣によりて切斷され、須波の南岸に上陸して其以西の海岸線をなす。三原の舊町より山中・深田村の深田への小谷の連絡亦斷層線にて前記糸崎・尾道の斷層線と同一方向を示し、針ヶ峯山塊は從つて一種の地壘をなす。三原灣はこれ等瀬戸内海盆形成構造の斷層によりて幼年期沈降海岸の比較的大なるものを示す。其の溝谷の奥なる沼田川の沖積三角洲に三原市あり。從つて沼田川以外には後に斷層崖あり、前面は急に沈降して海深し。糸崎・尾道には殆ど平地の餘裕を存せざるの状況なり。然れども全面には沈降を免れし島は自然の防波堤をなし、海岸には中國街道の重要交通路あり、交通連絡上より糸崎・尾道が開港場となりしものなり。三原は小早川降景の城下町にして、三原城と稱せし城址が市街の背後の標山にあり、いさ公園に利用さる。小早川氏は豊臣部下の水軍の將として名あり。本城に水城の稱あるは蓋し海岸に據れる意ならん。糸崎は夙に開港として知られ支那・

村・西野村・豊田郡野浦村・須波村を合し三原市と稱するに至る。明治年間國學者にして神道家たりし松野勇雄(贈從五位)は此地の人とす。(三原城)市の東偏標山上にあり。當城は天正年間小早川隆景の築城にかり、文祿四年領國旗前を義子秀秋に譲りてここに退き、慶長二年この城に死去す。のち福島正則の安藝の廣島に封ぜらるるや、その領有となり、福島丹波を置きて之を守らしむ。元和五年淺野氏の正則に代るに及び、城代として老臣淺野氏を置き、世襲して以て明治維新に至る。(糸崎神社)縣社。祭神、帶中津日子命・品陀和氣命・息長帶日賣命。天平元年豊前國宇佐郡宇佐八幡宮より御分靈として應神天皇の御産靈を勧請せるに創るといふ。故に式年奉幣使の宇佐宮へ御下向あるや、必ず當社にも奉幣ありき。例祭、十月十九日。(觀音寺)時宗。海南山道場院と號す。康平年中、宗祖一福徳化の途次本寺を建立す。本寺十一面觀音(行基作)。(松壽寺)曹洞宗。萬年山と號し往古三原町河原谷にあり。本寺は釋迦如來坐像にて腹中に康繼作の小像を安置す。(正法寺)三原にあり。古義眞言宗。龜甲山延命尊院と號す。初め蘇州高山にありしが天正年中現地に移る。本寺千手觀世音(安阿彌作)寺寶多し。(宗光寺)曹洞宗。天正五年に小早川隆景その居城内に創建し瓦葺寺と號す。のち現地に移りて現號に改む。

ミハラ——ミハラ

【妙正寺】日蓮宗。無量山正壽院と號す。延寶二年、日忠の開創。本尊、題目寶塔釋迦多寶二如來、脇立は四菩薩・二大士・二明王・四天王。寺寶多く境域勝景に富み、古來詞人文儒の來遊多く其寄題詠詩の藏せらるるもの多し。

【三原村】高知縣土佐國幡多郡の南部。東は八東・伊豆田二村に、北は東中筋・中筋・平田三村に、南は三崎・下川口二村に、西は小筑紫村に界す。面積八四・四方軒の大山村なり。幡多山地の中央を占め周邊は數百米の山岳圍繞して中央に傾斜し盆地狀をなす。東南部には原川流れて東南部下ノ加茂江川に注ぐ。中央平地は耕地拓けて米・麥・繭の産あり。又牧畜を行ひ牛の飼育盛なり。山地よりは三椏・楮等の林産多し。交通はよく四方に發達し幡南地方の中樞をなしバスの便あり。人口密度非常に稀薄なる村なり。この地は往時、三原郷と稱せし地にして、延喜式に見ゆる沼山村收は此か。(五社神社)大字宮ノ川に鎮座。郷社。舊稱、五社大明神。祭神、第一熱田神社、天照皇大神外四柱、第二廣田神社、高御産靈命、第三氣多神社、大穴牟遲命、第四鹿島神社、武甕槌命、第五加茂神社、別當命。古來より三原郷十三箇村の總鎮守たり。

ミハラ 美原

【美原村】群馬縣上野國多野郡の東南部。神流川の北岸にして、東北は鬼石町、西

は万場町と隣し、南より東は川を隔てて埼玉縣秩父郡・兒玉郡と相對す。關東山脈一支脈の東部を占め、北境に兩峰山(一〇一三米)あり。山地は稍急に南方に傾斜し、南境を東流する神流川の谷に迫る。山地一帶森林多し、川沿ひの狭き耕地には麥を産す。また地質學上重要な三波石の産地として名高し。十石峠街道は神流川に沿ひて西走し、乗落も殆どこれに沿ひて發達す。この縣道にはバスの便ありて東北方の藤岡町に通ず。山間は交通不便なり。この地は和名抄、藤野郷竹茂郷の内なるべし。

【美原】岡山縣眞庭郡にありし村。明治三十七年、關川村と合併して、美川村を建設す。

ミハラ 御原

【御原】安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に朝夷郡御原郷あり、美波良と訓す。その地は今の安房郡南三原村・北三原村の邊に當る。

【御原(郡)】筑後國(福岡縣)の舊郡名。名稱の御原は眞原にして平野多きを以て名づくといふ。和名抄は三波良と註し長柄・日方・板井・川口の四郷を擧ぐ。明治十九年四月、御井・山本二郡を合して三井郡を建て郡名を失ふ。

【御原村】福岡縣筑後國三井郡の西北部。寶滿川の東岸に沿ひ、久留米市の東北四軒餘。全村の地形は低平にして寶滿川は西境に沿ひて西南流す。米産多く麥も産す。

ミハラ 三春町

【三春町】福島縣磐城國田村郡の西北部。郡山市の東北約一〇軒。面積五・六九方軒。阿武隈山地の西斜面に屬して溪谷の地を占め、小泉川の上流は北部を西流す。米・繭・養蠶草・馬等を産す。附近一帶は縣下の主要産地にて、町は古來三春駒の中心市場として著れ、毎年約千頭の馬匹賣買さる。また羽二重の市場をなす。道路は中部を東西に通じ西北方の本宮町、西南方の郡山市へバスの便あり。省線磐城東線三春驛(大正三年設置)は隣接せる御木澤村に置く。人口密度は一方軒につき一五〇〇人なり。古くは安積郡丸子郷の内といふ。もと秋田氏五萬石の城下町なり。近世は郡役所の所在地として賑ひ、いさ警察署・蠶業取締所支所・木炭検査支所・郡山區裁判所出張所・郡山地方専賣局出張所・田村中學校等あり、郡の主要とす。町名は梅・櫻・桃が一時に開くに起れるものといふ。(三春城)もと田村氏累代の舊城にして永正年中に守山より移るといふ。清顯の時、天正十五年伊達政宗の仙臺を併すや清顯これが附庸となり、そののち陸中一關城に移る。のち政宗、豊臣秀吉に降り、秀吉この地を沒收して會津の蒲生氏郷に與ふ。氏郷は田丸直政をして之を守らしめ、寛永四年加藤嘉明の會津を領するや葦原加藤明利これに治し、

翌年明利富岡二本松に移るや、松下長綱同所より移り三萬石を食む。正保元年長綱所領を没收せられ、翌年秋田後季常陸穴戸より移封五萬五千石を食み、子孫承けて明治に至る。四年七月廢藩して縣を置きしが再び廢して平縣に入る。(三春大神宮)馬場に鎮座。縣社。祭神、天照大神・豐受姫大神。永正年間、田村大膳大夫顯利大元帥明玉を勸請せしに創る。天文年中社殿を新たに建てたり。例祭、十月一日・二日・三日。(三春田村氏墓)町内の福聚寺本堂後方の山頂にあり、田村氏の祖田村莊司輝定及び永正以來領主たりし義顯・隆顯・清顯の墓あり。輝定の墓は五輪塔の空輪のみにて、義顯の墓は石像、隆顯・清顯の兩墓は角形の石柱、皆江戸時代の再建なり。(秋田氏廟)荒町高乾院境内にあり。廟は本堂の右山腹にあり。秋田俊季以下累代の墓所に於て初三代は方形の墳丘、その他は石塔なり。靈屋供養塔等を設く。

ミフ 三峰川

長野縣上伊那郡にあり。天龍川の一。源を赤石山脈の仙丈ヶ岳附近に發し高遠町に至り藤澤川を併せ銚持の淺道をその右岸に作りて西に流れ、伊那町に於て天龍川に入る。流程約七〇軒。

ミフ 壬生

【壬生町】栃木縣下野國下都賀郡の東北部。栃木市の東北方約六・五軒。全町平地にて中部を黒川南流し、一部に水田あり

るも殆ど畑地をなし農業盛にて米・麥を産し、特産物には干瓢・大麻・南瓜等あり。干瓢は全國各地及び遠く布哇にも輸出し、大麻は近縣都市及び關西地方へ、また南瓜は近縣都市へ移出す。なほ商業も盛なり。町は宇都宮市より栃木市に通ずる街道に沿ひバス通じ、主要集落は西部に發達す。また南方の小山町、東方の石橋町にも縣道を通じ何れもバスの便あり。社線東武鐵道日光線は中央を東北に走り壬生・岡谷の二驛(共に昭和六年設置)を置く。此地は和名抄、都賀郡田後郷の内なるべく、舊名を上野原と稱し、宣正年中、京都の壬生官務の庶子、彦五郎胤業の來住したるより専ら壬生と稱せりと。(壬生城)寛正三年、京都の官務家壬生氏の族、彦五郎胤業、城を築きて住し、宇都宮正綱に從ひ、鹿沼城をも併せ領せしといふ。天正十八年、義雄に至りて斷絶し、慶長七年、日根野吉明信濃高島より來り治す。寛永十一年、豊後府内に轉じ、松平(大河内)輝貞大坂城代より移り來り、八年更に上野高崎に移り、加藤明英近江水口より來り、子嘉矩、正徳二年再び舊領水口に轉じ、更に鳥居忠英同所より來り治し三萬石を食み、以て明治維新に至る。四年七月藩を廢して縣を置きしが、十一月再び廢して栃木縣に入る。(學習館)舊壬生藩の學校。壬生城内にあり。正徳三年創立、明治四年廢す。(愛宕塚古墳)指定史蹟。車塚にあり

り。二段の前方後圓墳。前方部を西方にして横ばり、障址及び壘址共によく保存せられ、中軸の長さ七六米、高さ前方・後圓部共に略七米、整美なる古墳の全形を見るを得。後圓部の頂上に愛宕神社あり。(車塚及び牛塚古墳)指定史蹟。車塚の雄木林中にあり。車塚古墳は圓形墳にて大なる障・壘の址よく認められ、其底部の徑約七〇米あり、三段に築かれ墳上に葺石殘存す。石室は南側に開口し五大なる凝灰岩の切石にて造られ奥壁の幅二米半、長さ三米、高さ二米、羨道は幅・長さ共に二米半、高さ一米半なり。牛塚古墳は車塚の西一〇〇米にあり、前方後圓墳にて前方部を南にし、中軸は正しき南北をとり、長さ五二米、障・壘の址は一部分僅に認め得るに止り、形式の整美せぬは未だ完成にて殘されしならん。(壬生一里塚)指定史蹟。縣道の東西兩側にあり。西は少しく封土を削られ、東は頂上の覆輪近年枯死せるも一里塚としてよく舊態を保持するものに屬す。(明治天皇壬生行在所)指定史蹟。大字壬生字城南城内にあり。明治三十二年近衛師團小機動演習天置のため栃木縣下野郡の際十一月十七日、明治四十年陸軍特別大演習御統率のため行幸の際十一月十五日、再度御遊覧を召されし處にて、同三十二年御使用の建物に敷地内東南約三十間の場所に移轉、四十年御使用の分は舊規模のまま保存せらる。(塚守神社)大字壬

生に鎮座。祭神、天照大神・天武天皇外二柱。嘉保二年、清原武則の三男保定の創建にて、もと雄琴大神と稱す。同町は勿論、附近の崇敬厚し。例祭、十月二十九日。

【壬生】遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡壬生郷あり、その地は今の磐田郡磐田町の邊なるべし。

【壬生】平安京の左京の南北に通ずる大路の一。朱雀大路と大宮大路の間。大内裏の南面に開く美福門に通ず。幅十丈。いま京都市中京區の西部の三條通と四條通の間にその名稱を存す。四條の南に壬生寺あり、毎年陰曆三月に土著の人々によりて行はるる狂言を世に壬生狂言といふ。その起りは文化十年と傳へ、現在のものは慶長年間再興、元禄年間改められしものなりと。演技者は面をつけ、科白を用ひず、手眞似にて終始するを定めとす。幕末までは十日間の興行なりしも、今は四月二十日より二十日間興行す。所作は道化て見物を笑はせ、古雅なる趣あり。見物せば厄病に罹らずと言傳ふ。文久二年冬、幕府、浪士を江戸に集めて一團となし新徴組と稱す、後に上京し壬生寺に屯す。これ壬生浪士なり。後に京都守護職松平容保これを用ひ、西國浪士の舉動を探察せしむ。爾後新選組といひ、近藤勇これが長たり。

【壬生町】廣島縣安藝國山縣郡の東部。東は高田郡に接し、西は八重町、北は川

迫村、南は南方村に界す。面積三二・五方軒。東に津々良山(八九九米)、西北に平家ヶ城山(六二〇米)の山間に位し、東部、西部共に山地に占めらるも、中央を可愛川南流して支流を集め、山間に平地を展く。諸川合流地に市街開け附近に耕地多し。山麓地には牧畜盛なり。米・麥・蕎麥・木炭・清酒・牛・馬・鐵等を産す。村内道路四通し可部町・吉田町に至る近道なす。縣道は西方一軒に通ず。古くは壬生郷に作り、和名抄は山縣郡壬生郷に作る。中世は壬生荘と云ひ、嘉應三年の文書に壬生荘と見え、嚴島社領たり。明治三十七年町制を布く。

ミフ 味生村

愛媛縣伊豫國温泉郡の西部。松山市と三津濱町との間に介在し、西は伊豫灘に臨む。南には一三〇米餘の辨天山聳え、東北部に小丘起伏する外は全村平坦なる松山平野の地を占め廣く農耕行はる。米・麥・蕎麥の産あり。松山市と三津濱町を連絡する縣道及び省線鐵道本線は東北隅を掠めて通りバスの便あり。また村内に社線伊豫鐵道電氣の山西驛(昭和二年設置)あり。この地は和名抄、温泉郡味生郷の内なるべし。吉野朝の頃細川氏の將、完草出羽入道この地の岩子山城に居りしが、のち河野道亮に攻滅さるといふ。

ミフ 美夫

三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡美夫郷あり、その地名詳かならざるも八名郡大野町の邊か。

【御船町】熊本縣肥後國上益城郡の西部。熊本平野の東南端に位し、熊本市の東南方約五軒にして、緑川の一支流御船川の沿岸にあり。面積二・二平方軒の小村なり。全村臺地をなし、東北境を御船川西北流し其の左岸に沿ひて市街地發達せり。附近一帶は耕地なり。米・麥等を産し市街地には商業をなすもの多し。一方耕人口密度は一、一九一人を算し郡中に頭角を抜き第一位を占む。市街地を貫きて縣道走り四方町村を結ぶ。社線熊延鐵道は東南部を掠めて過ぎ御船驛(大正五年設置)・邊田見驛(大正十二年設置)あり。もと郡役所の所在地にて、いま區裁判所・熊本供託局出張所・警察署・稅務署等あり。大正七年本町と淵川村を廢し新たに御船町を置く。御船城址は町の傍らにあり、初めは御船阿波守行房の居城にして、のち甲斐氏の爲めに滅ぼされ、その後代々甲斐氏の居城となれり。西南の役には此地に激戦あり、妙見谷は最も甚しかりし處にて、いま陸軍戦死者の墓あり、附近一帶には吉野櫻が植ふられ行樂地たり。(邊田見若宮神社)邊田見に鎮座。祭神、阿蘇健甕尊神・同比咩神外二神。相殿、豐樂尊神・櫛努尊神外二十九神。成務天皇十三年阿蘇惟入創祀す。例祭、九月九日。

ミフ 御船

出羽國(秋田縣、羽後國)の古地名。和名抄に山本郡御船郷あり、その地名の仙北郡内ならんも詳かならざる。今この仙北郡内ならんも詳かならざる。

ミフ ト

越前國(福井縣)の古地名。和名抄に丹生郡三太郷あり、その地は詳かならざるも、いま丹生郡三方村の邊なるべし。

ミフ 三保

神奈川縣相模國足柄上郡の西部。丹澤山塊の西部を占むる大村にて東より北は愛甲郡・津久井郡・山梨縣南都留郡と隣し、西は靜岡縣に接す。東境に丹澤山(一五六七米)・塔ヶ嶽(一四九一米)・北境に蛭ヶ嶽(一六七三米)・大室山(一五八八米)・加入道山(一四一八米)等連り、村内西部に畦ヶ丸山(二二九三米)・權現山(一〇一九米)あり。村内全部山地にて中央を酒匂川の上流河内川南流す。川沿ひに小集落あり。麥・蕎麥等を産し養蠶行はる。山地一帯潤葉樹林深く、北部は丹澤御料林をなす。縣道

は川沿ひに南走するもの一條あるのみにて交通便ならず。山間には数條の村道ありのみなり。村内に落杉と呼ぶ杉の古樹あり、日通幹園一〇米、直幹乾立の古樹として有数のものにて、いま指定天然記念物たり。また中川温泉あり、弱アルカリ性泉にて加熱浴用に供す。

【三保】 静岡縣安倍郡にありし村。大正十三年に本村ほか不二見村・入江町・清水町を廢し新に清水市を置く。

【三保松原】 ↓清水市

【三保】 鳥取縣八頭郡にありし村。明治二十六年に久長村と合併して河原村(大正十五年町制を布く)を建つ。

【三保村】 鳥取縣石見郡那賀郡の西北海岸。三保町の西北に隣接し、西は日本海に面す。北は大森村に接し、南は四見村を隔てて美濃郡に對す。面積六・六方町。海岸に沿うて地形南北に細長く、村内處々に丘陵起伏するも平地多し。三保川内を西流して海に注ぎ沿岸に耕地墾殖多し。海岸は小出入あり、南部に漁業墾殖拓く。漁業最も盛にて鰯・鰯・鰯・鰯及び米・蕎麥・生絲・酒等を産す。省線山陰本線は三保町を走り三保三保驛(大正十一年設置)あり。明治四十三年西浜村・古市場村を併せ三保村と名づく。(八幡宮)大字浜浦に鎮座。郷社。田心祭命・瀧津鳥祭命外五神。三保城主能登守信堂社額を寄す。例祭、九月二十一日。

【三保村】 岡山縣美作國久米郡の北部。

津山市の西南約五軒。北は吉井川を隔てて苦田郡に對し、東は佐良山、西は久米村・倭文東村に隣接す。面積八・四五平方町。地南北に細長く、南部に低き山地存すれども地勢大いに北方に傾く。村内を吉井川の支流東流し、北境を吉井川また東流し灌漑の便に富み耕地多し。米・蕎麥・柿等を産す。社線中國鐵道龜甲驛に約四軒にして自動車の便あり。この地は和名抄、久米郡錦織郷に屬し大字錦織は郷名の遺稱とす。仁徳天皇の朝三韓の歸化人この地にありて機械の業に従ふ故に郷名を錦織といふと。

【三保村】 大分縣豊前國下毛郡の東北部。中津市の東南方二軒餘に位し、東南部は宇佐郡に界す。東南半は丘陵性にして、西北に緩斜す。西北半は地形低平にして中部の丘陵に沿ひて大丸川が東北へ流す。左岸に水田拓け米産多し。蕎麥も出ず。省線日豊本線の大貞驛は北方一軒餘にあり。この地は和名抄、下毛郡野仲郷の内にして、大字福島の長久寺は、天正の末に福島佐渡といへる郷士の開けるものにして、この本願寺教団に歸依し僧侶となる。福島・如來・大丸は天正十五年、黒田氏が中津に封を受けし初め、郷士土民の擁護したる地にして、栗山大膳利安これを墾破す。(長久寺)大字福島にあり。眞宗本願寺派。田丸山と號す。開創は地頭福島但馬守祐齋入道正善。

【三保村】 長門國(山口縣)の古地

見種

國比企郡の東南部。川越市の北方約四軒にあり。荒川と入間川との中間にある小村にて、東境を荒川南流し南境を入間川東流す。全村平地にて水田多し米を主産し養蠶も盛なり。また甘藷の栽培行はる。縣道は川越市と東方の北足立郡桶川町に通じ何れもバスの便あり。桶川町には省線高崎線桶川驛を置く。村内の高徳寺の裏に塚あり、これ源平の戦の時に源七兵衛登時と争ひし水尾谷四郎の墓なりと傳ふ。高曲八島にもこの事見ゆ。

【三保三馬】 省線山陰本線の一驛(大正十一年設置)。鳥取縣那賀郡三保村にあり。

【三馬】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に石川郡三馬郷あり、その地今の石川郡二塚村及び之に接する金澤市の一部に當る。

【三馬】 石川縣石川郡にありし村。昭和十一年金澤市に編入せられ、村名を失ふ。

【三馬】 愛媛縣伊豫國北宇和郡の北部。宇和島市の東北約一〇軒。東は二名・好麻二村に、西は成妙村に界し北は東宇和郡に隣接す。幅約二軒、長さ約六軒の長方形の村形をなす。北部には高取八〇〇米餘の山岳屹立して中央に傾斜す。東南部には泉ヶ森登えて、北流は緩傾斜をなして南部に瀾がる。中央部は稍々廣き平地をなして耕地拓かる。米・蕎麥・蕎麥等の産あり。平地を東西に縣道及

【美保】 鳥取・鳥根兩縣境の大變入。東北に向つて河口を開き、北は美保關半島を以て限られ、西は夜見ヶ濱(ウケ濱)によりて中海と相連り、中海とは中江瀬戸を以て相通す。河口約二五軒、最大水深三一米に達す。元來この灣は中海・穴道湖を連ぬる謂ゆる穴道湖地帯の東縁なるが、日野川の流出する土砂が沿岸潮流によりて運ばれ夜見ヶ濱の砂嘴を成せるにより現在の灣形を採るに至りしものとす。西北隅、中江瀬戸に臨みて開港場あり。

【美保】 鳥取縣岩美郡にありし村。昭和八年本村を廢し鳥取市に編入す。

【美保】 出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に鳥取郡美保郷あり、その地今の八東郡美保關町・森山村の邊に當り、風土記の美保郷に當る。

【美保】 鳥取縣因幡國氣高郡の東南部。千代川の左岸に沿ひ、東北は川を隔てて鳥取市と相對し、北は大正村、南は大和村、西北は東郷村に接す。面積五・七七平方町。東部は千代川の沖積平野を以て蔽はれ、灌漑の利よく耕作盛んなり。西境に山地懸る。米の産額最も多し、蕎麥之に次ぐ。近時、専ら農業の副業を奨励されつあり。村民は概ね平野の中央に集落をなす、四周を田畑に開

【美保】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長な形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方町。大部は四國山系に屬する銀山・石鏡兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻嶒なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯銀山西北の山脈を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間は斷層によりて生ぜし縱谷をなし吉野川を東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下に段丘を形成す。これらの平地は徳島平野の一部をなし、粟・蕎麥・蕎麥等の産物からず。山地は美林多く林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し美原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國水本郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て開

米の山脈が北方へ延びて北麓は海岸平野に終る。中央には耳川が村内の水を集めて北西に貫流し、流域に低地ありて西北部の平野につづく。平野は西境の山脈北麓より西隣の南西郷村の平野に連る。米・蕎麦を産し、また林産・水産あり。丹波街道と省線小阪線が西北部を横断し河原市驛に近く、一縣道は耳川に沿ひ南走し中部の新庄に達す。此地は和名抄、三方郡彌美郷の内にて、中世以降は耳庄と稱せし地、大字佐藤の岡古城址は武田氏領國の時に栗屋氏これに居り、一方の邑城たり。越中守勝久の死後は本村常陸介重並邑主となり豊臣氏に仕ふ。のち城廢し酒井家の時に關を置きて出入を檢す。近時郡治の置かれしことあり。〔彌美神社〕大字宮代に鎮座。郷社。祭神、室屋古王。式内社。若狭國神階の正五位耳明神は本社なり。酒井忠勝・京極忠高等武士の崇敬厚かりき。例祭、五月一日。

【美々津町】宮崎日向國見湯郡の東北隅。耳川河口の南岸を占め、東は日向灘に面し、東南の一部は兒湯郡都濃町と界し、村形は東西に長くのびて北・西・南の三面は東臼杵郡に圍まる。全村丘陵性の斜面地にて中央部に高く北及び南に低し。耳川は北境の東半に沿ひて東流し日向灘に注ぎ、南部には石並川が東流す。東岸に沿ひ長く市街地發達す。主産業は農業・漁業・林業の順にして主産物には米・蕎麦・青果・繭・鮭・杉材・松材・木炭・椎茸等あり。又特産として南瓜・胡瓜・小鮭(さごし)・鮎・牡蠣・和紙等を出す。東部に日向街道及び省線日豊本線が通過して後者の美々津驛(大正十年設置)あり。此地は延喜式的美濃縣に當り古より官道これを通じ、海陸の小要衝たり。されば神武天皇東征の時、御乘船せられし地と傳へ、天正六年十一月、大友義興・島津義弘と耳川を挟みて戦ひ、豊後勢大敗す。明治四年、美々津縣を此地に置き、日向中國を管せしも、同六年一月、都城縣と合し宮崎縣となる。明治三十一年町制を布く。(橋口氏庭園)指定名勝。橋口家の祖が天文年間薩摩より現村社愛宕神社祠宮として移住せし當時築造せるものなりと云ふ。寛文二年及び寶曆八年に庭前に松を移植しし記録を存す。庭園は自然の岩壁を利用して庭の後

半部を構築せしめ岩壁より湧出せる清水を以て小池を設く。岩壁にはマツ、ツツシ、シワカイダウ、ニハヒバ等あり。池は岩盤を加工して作られ池汀に石を組み石橋を架く。池と建築物との間に多数の飛石とツツシの丸物を配す。地方的特色を有する庭園なり。(立勢神社)大字美々津町に鎮座。郷社。祭神、底筒男命・中筒男命・上筒男命。古來當村の産土神たり。例祭、陰曆十一月十四日。【美々津(縣)】明治四年十一月、日向國の北部にありし高鍋・延岡・佐土原三縣を廢して本縣を兒湯郡美々津に置き、なほ日向縣管下たりし舊高鍋縣の地をも併せ管せしが、明治六年一月廢して宮崎縣に入る。

【美々津川】↓耳川(宮崎縣) 【美々津山】耳成山 大和三山の一。耳無山・耳梨山とも書く。奈良縣磯城郡耳成村の南嶺にして、奈良盆地の南部に香久山・畷傍山と三山鼎立す。山は塊狀火山の一種にして三山中標高最も低く、僅かに一三九・七米を算するに過ぎざれども平原に立つゆゑ甚だ目立ち、恐らく太古には自然的堡壘として山上より敵を矢にて打ち下ろせしものなるべし。山上より石器時代の遺物多く出で、また山の周圍には石器時代の遺跡多し。山は樹木を以て掩はれ、山中に耳成山神社鎮座する故に一に天神山とも云ふ。また山中梔子多きを以て梔子山ともいふ。香久山

と共に女性なる畷傍山を争ひしと云ふ傳説萬葉集に見ゆ。大阪電氣軌道の櫻井線は山の南麓を走る。萬葉・一「香具山は畷火を愛しと 耳梨と 相争ひき 神代より 斯くなるらし 古昔も 然なれこそ 現身も 燭を 争ふらしき」曾我會稽山・一「昔の昔のつと昔のその古、大和國天の香具山といふは女山、又畷傍山耳無山この二山は男山、香具山姫の體なる容に想ひをかけ、我が妻にせんいや我こそと、山と山とが妻争ひ、夜毎に谷峰震動す。出雲國におはします阿香の御神、これを扱ひ止めんと、御船を走らせ給ふと聞き、二つの山は申直り、阿香の神は播州印南野に神止まりまします、この三つ山の争ひ、中の大兄の御歌を、萬葉集には載せられたり」

【美々津】 水守 常陸國(美城縣)の古地名。和名抄に筑波郡水守郷あり、美毛利と訓す。その地今の筑波郡田木山村・作岡村の邊に當る。

【美々津】 三衆 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に味都郡三衆郷あり、美毛呂と訓す。その地は今の君津郡宮岡村の邊に當る。

【美々津】 美侶 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に佐佐郡美侶郷あり、その地は今の佐佐郡茂呂村・伊勢崎町の邊に當る。

【美々津】 三谷町 愛知縣三河國寶飯郡の南部。豊橋市の西北一五軒。東は大塚村に接し、南は渥美河に面し、西より北にかけては蒲郡町に隣る。北部は三河山地南端に當り古生層山地なり。町は海岸線と山地の間の狭長なる地域に位し南は渥美河に臨む。漁港として古來榮え、また三河木綿の産地たり。夏は海水浴場として榮え、海濱には大島・小島・佛島等散在す。海岸沿ひに平坂街道通じ、東海道本線は之と並行して同時方面に至り、町内に三河三谷驛(昭和四年設置)あり。古くは和名抄に見ゆる寶飯郡美々津の地にて三谷は美々の轉訛せるものといふ。明治二十七年町制施行。いま木産試験場あり。(八劍神社)宇三谷に鎮座。郷社。祭神、日本武尊。建久元年武内季頼の勳請する所といふ。古來、三谷村の産土神にして、社領三石七斗を有せり。例祭、

【美々津】 美耶 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に員辨郡美耶郷あり、三也と訓す。その地は今の員辨郡大原村の邊なるべく、神風抄に宮村御岡とある地なるべし。

【美々津】 美養 ↓三谷町(愛知縣) 【宮】 宮城縣磐城國刈田郡の東北部。白石町の北方約六軒。西北は柴田郡及び山形縣に、東南は柴田郡に接す。面積九七・九五方軒。土地は西北より東南に長く、西北境に蔵王山(一八四一・一米)・刈田嶽(一七五九・一米)、西境に屏風嶽(一八一七・一米)、南部に青森山(八〇〇・一米)聳え、全村概ね山地をなす。松川は西北境に發源し、北部を東南に流れ、ついで流路を變じ東南部を南流し白石川に合す。白石川は南境を東流す。村の東南部に耕地拓く。米・蕎麦・木炭・馬を産す。道路は東南部を南北に通じ、白石町及び東方大河原町へはバスの便あり。村内に刈田嶽神社・遠刈田温泉・不動瀧(高さ一五米、幅四米)等あり。明治天皇、奥羽御巡幸の際、及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(遠刈田温泉)地は蔵王山の東麓に位し白石川の一支出川の溪に湧く。鹽類泉と炭酸泉とあり。ラザラム放射能を有すること東北地方第一と稱せらる。(刈田嶽神社)宇馬場脇に鎮座。縣社。祭神、倭建命。

【美々津】 耳成村 奈良縣大和國磯城郡の西部。奈良盆地の南、謂ゆる飛鳥地方に位し、南は八木町を中心に高市郡に界す。全村地形低平にして南に耳成山(一四〇・一米)の孤丘あり。寺川は東南方より來り耳成山の東麓を繞りて西折し北境に出で之に沿ひて北流す。一河川が西部を西流して之に合す。米・蕎麦の産多く繭も出す。養蠶の特産あり。南隣に東西に走る縣道あり、西南隅には八木町にて之と交叉して北走する中街道が通過す。社線大阪電氣軌道南部を東西に通過し、西南隅には同線奈良線南北に走る。大字太田市に高島産鹽祠あり、この地は顯宗紀

【美々津】 耳成山 大和三山の一。耳無山・耳梨山とも書く。奈良縣磯城郡耳成村の南嶺にして、奈良盆地の南部に香久山・畷傍山と三山鼎立す。山は塊狀火山の一種にして三山中標高最も低く、僅かに一三九・七米を算するに過ぎざれども平原に立つゆゑ甚だ目立ち、恐らく太古には自然的堡壘として山上より敵を矢にて打ち下ろせしものなるべし。山上より石器時代の遺物多く出で、また山の周圍には石器時代の遺跡多し。山は樹木を以て掩はれ、山中に耳成山神社鎮座する故に一に天神山とも云ふ。また山中梔子多きを以て梔子山ともいふ。香久山

【美々津】 美耶 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に員辨郡美耶郷あり、三也と訓す。その地は今の員辨郡大原村の邊なるべく、神風抄に宮村御岡とある地なるべし。

【美々津】 美養 ↓三谷町(愛知縣) 【宮】 宮城縣磐城國刈田郡の東北部。白石町の北方約六軒。西北は柴田郡及び山形縣に、東南は柴田郡に接す。面積九七・九五方軒。土地は西北より東南に長く、西北境に蔵王山(一八四一・一米)・刈田嶽(一七五九・一米)、西境に屏風嶽(一八一七・一米)、南部に青森山(八〇〇・一米)聳え、全村概ね山地をなす。松川は西北境に發源し、北部を東南に流れ、ついで流路を變じ東南部を南流し白石川に合す。白石川は南境を東流す。村の東南部に耕地拓く。米・蕎麦・木炭・馬を産す。道路は東南部を南北に通じ、白石町及び東方大河原町へはバスの便あり。村内に刈田嶽神社・遠刈田温泉・不動瀧(高さ一五米、幅四米)等あり。明治天皇、奥羽御巡幸の際、及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(遠刈田温泉)地は蔵王山の東麓に位し白石川の一支出川の溪に湧く。鹽類泉と炭酸泉とあり。ラザラム放射能を有すること東北地方第一と稱せらる。(刈田嶽神社)宇馬場脇に鎮座。縣社。祭神、倭建命。

【美々津】 耳成村 奈良縣大和國磯城郡の西部。奈良盆地の南、謂ゆる飛鳥地方に位し、南は八木町を中心に高市郡に界す。全村地形低平にして南に耳成山(一四〇・一米)の孤丘あり。寺川は東南方より來り耳成山の東麓を繞りて西折し北境に出で之に沿ひて北流す。一河川が西部を西流して之に合す。米・蕎麦の産多く繭も出す。養蠶の特産あり。南隣に東西に走る縣道あり、西南隅には八木町にて之と交叉して北走する中街道が通過す。社線大阪電氣軌道南部を東西に通過し、西南隅には同線奈良線南北に走る。大字太田市に高島産鹽祠あり、この地は顯宗紀

【美々津】 美耶 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に員辨郡美耶郷あり、三也と訓す。その地は今の員辨郡大原村の邊なるべく、神風抄に宮村御岡とある地なるべし。

【美々津】 美養 ↓三谷町(愛知縣) 【宮】 宮城縣磐城國刈田郡の東北部。白石町の北方約六軒。西北は柴田郡及び山形縣に、東南は柴田郡に接す。面積九七・九五方軒。土地は西北より東南に長く、西北境に蔵王山(一八四一・一米)・刈田嶽(一七五九・一米)、西境に屏風嶽(一八一七・一米)、南部に青森山(八〇〇・一米)聳え、全村概ね山地をなす。松川は西北境に發源し、北部を東南に流れ、ついで流路を變じ東南部を南流し白石川に合す。白石川は南境を東流す。村の東南部に耕地拓く。米・蕎麦・木炭・馬を産す。道路は東南部を南北に通じ、白石町及び東方大河原町へはバスの便あり。村内に刈田嶽神社・遠刈田温泉・不動瀧(高さ一五米、幅四米)等あり。明治天皇、奥羽御巡幸の際、及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(遠刈田温泉)地は蔵王山の東麓に位し白石川の一支出川の溪に湧く。鹽類泉と炭酸泉とあり。ラザラム放射能を有すること東北地方第一と稱せらる。(刈田嶽神社)宇馬場脇に鎮座。縣社。祭神、倭建命。

に見ゆる日原の祭余田の地なりといふ。【耳成山神社】大字本原に鎮座。郷社。祭神、大山祇神・高皇產靈神。式内社。俗に天神山とも云ふ。例祭、六月二十二日。【三村】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に筑波郡三村郷あり、その地今の筑波郡小田村の邊に當る。【ミムラ】 御村鐵山 ↓御高村(岐阜縣) 【ミムロ】 三室 埼玉縣武藏國北足立郡の東南部。浦和市の東北隅にある小村なり。面積六・八六平方軒。全村平地にて、北部には小流ありてその附近は沼田をなし、他は畑地多し。農業行はれて米・蕎麦を産し、また綿織物の製造行はる。縣道浦和市に通じ自動車の便あり。(水川女體神社)大字三室に鎮座。郷社。祭神、稻田姫命。社傳に崇神天皇の御守の創建にして大宮、中川の米川神社と合して米川神社と稱せしが各々分離したりと云ふ。古來上下の信仰厚し。例祭、十月八日。【三室山】 ↓神南備山(奈良縣) 【三室】 奈良縣南葛城郡にありし村。大正四年に本村外七箇村を合併して大正村を建つ。【ミムロ】 三諸山 ↓浦和(奈良縣) 【ミムロト】 三室戸 ↓宇治村(京都府) 【ミモスリ】 御裳濯川 ↓五十鈴川 【ミムラ】 ミヤ

【美々津】 美々津 奈良縣大和國磯城郡の西部。奈良盆地の南、謂ゆる飛鳥地方に位し、南は八木町を中心に高市郡に界す。全村地形低平にして南に耳成山(一四〇・一米)の孤丘あり。寺川は東南方より來り耳成山の東麓を繞りて西折し北境に出で之に沿ひて北流す。一河川が西部を西流して之に合す。米・蕎麦の産多く繭も出す。養蠶の特産あり。南隣に東西に走る縣道あり、西南隅には八木町にて之と交叉して北走する中街道が通過す。社線大阪電氣軌道南部を東西に通過し、西南隅には同線奈良線南北に走る。大字太田市に高島産鹽祠あり、この地は顯宗紀

【美々津】 美耶 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に員辨郡美耶郷あり、三也と訓す。その地は今の員辨郡大原村の邊なるべく、神風抄に宮村御岡とある地なるべし。

【美々津】 美養 ↓三谷町(愛知縣) 【宮】 宮城縣磐城國刈田郡の東北部。白石町の北方約六軒。西北は柴田郡及び山形縣に、東南は柴田郡に接す。面積九七・九五方軒。土地は西北より東南に長く、西北境に蔵王山(一八四一・一米)・刈田嶽(一七五九・一米)、西境に屏風嶽(一八一七・一米)、南部に青森山(八〇〇・一米)聳え、全村概ね山地をなす。松川は西北境に發源し、北部を東南に流れ、ついで流路を變じ東南部を南流し白石川に合す。白石川は南境を東流す。村の東南部に耕地拓く。米・蕎麦・木炭・馬を産す。道路は東南部を南北に通じ、白石町及び東方大河原町へはバスの便あり。村内に刈田嶽神社・遠刈田温泉・不動瀧(高さ一五米、幅四米)等あり。明治天皇、奥羽御巡幸の際、及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(遠刈田温泉)地は蔵王山の東麓に位し白石川の一支出川の溪に湧く。鹽類泉と炭酸泉とあり。ラザラム放射能を有すること東北地方第一と稱せらる。(刈田嶽神社)宇馬場脇に鎮座。縣社。祭神、倭建命。

【美々津】 耳成村 奈良縣大和國磯城郡の西部。奈良盆地の南、謂ゆる飛鳥地方に位し、南は八木町を中心に高市郡に界す。全村地形低平にして南に耳成山(一四〇・一米)の孤丘あり。寺川は東南方より來り耳成山の東麓を繞りて西折し北境に出で之に沿ひて北流す。一河川が西部を西流して之に合す。米・蕎麦の産多く繭も出す。養蠶の特産あり。南隣に東西に走る縣道あり、西南隅には八木町にて之と交叉して北走する中街道が通過す。社線大阪電氣軌道南部を東西に通過し、西南隅には同線奈良線南北に走る。大字太田市に高島産鹽祠あり、この地は顯宗紀

のある地にして瓦石文化遺跡ありて、本邦文化の發祥地として民族學的に有名な...

【宮内村】 愛媛縣伊豫國越智郡の北方海上、瀬戸内海の大三島の中西部を占め、西に海に面す。北は鏡村、東は瀬戸時村、南は岡山村に接し、西方約七軒の海上に大崎上嶋と對す。面積一三・九一方軒。...

【宮内村】 愛媛縣伊豫國西宇和郡の西北に、川之石町の北にあり、東は日土村に、西は伊方村に、北は磯津村に界す。佐田半島の基部をなす村内三十四百米の丘陵起伏して、平原性の小高地をなす。...

【宮内村】 愛媛縣伊豫國西宇和郡の西北に、川之石町の北にあり、東は日土村に、西は伊方村に、北は磯津村に界す。佐田半島の基部をなす村内三十四百米の丘陵起伏して、平原性の小高地をなす。...

市場跡は東北二軒餘にあり。【伊勢廻寺】 大字野川にあり。眞言宗泉涌寺派。鎌足山皇照院。大同元年前の草創と傳ふ。本尊木造十一面觀音・同脇侍立像二尊は國寶。...

【宮内村】 長崎縣肥前國東彼杵郡の北部。大村灣の入口近くに在り。大村灣は彼杵半島に抱かるる灣なるも、其の灣口に針尾島横り、其の出入口を極度に狭小ならしめ、西彼杵半島との間の狭き海峡を伊ノ浦瀬戸、東彼杵郡との間の細長き帯水を早岐瀬戸と稱す。...

【宮内村】 長崎縣肥前國東彼杵郡の北部。大村灣の入口近くに在り。大村灣は彼杵半島に抱かるる灣なるも、其の灣口に針尾島横り、其の出入口を極度に狭小ならしめ、西彼杵半島との間の狭き海峡を伊ノ浦瀬戸、東彼杵郡との間の細長き帯水を早岐瀬戸と稱す。...

【宮内村】 長崎縣肥前國東彼杵郡の北部。大村灣の入口近くに在り。大村灣は彼杵半島に抱かるる灣なるも、其の灣口に針尾島横り、其の出入口を極度に狭小ならしめ、西彼杵半島との間の狭き海峡を伊ノ浦瀬戸、東彼杵郡との間の細長き帯水を早岐瀬戸と稱す。...

【宮内町】 山形縣羽前國東置賜郡の中部。赤湯町の西北に接す。面積八・七方軒。米澤盆地の最北部に在り、東部及び西部は丘陵をなすも中部は平坦にして、吉野川南流す。米・蕎麥を産し、海産物・人参の特産あり。...

【宮内町】 山形縣羽前國東置賜郡の中部。赤湯町の西北に接す。面積八・七方軒。米澤盆地の最北部に在り、東部及び西部は丘陵をなすも中部は平坦にして、吉野川南流す。米・蕎麥を産し、海産物・人参の特産あり。...

【宮内町】 山形縣羽前國東置賜郡の中部。赤湯町の西北に接す。面積八・七方軒。米澤盆地の最北部に在り、東部及び西部は丘陵をなすも中部は平坦にして、吉野川南流す。米・蕎麥を産し、海産物・人参の特産あり。...

【宮内町】 山形縣羽前國東置賜郡の中部。赤湯町の西北に接す。面積八・七方軒。米澤盆地の最北部に在り、東部及び西部は丘陵をなすも中部は平坦にして、吉野川南流す。米・蕎麥を産し、海産物・人参の特産あり。...

【宮内】 新潟縣古志郡上組村の大字。省線信越本線の宮内驛(明治三十一年設置)あり、省線上越線これに接續す。...

【宮内】 石川縣能美郡にありし村。明治四十年山口村と合し山上村を置く。...

【宮内】 鳥取縣日野郡にありし村。大正十年設置村と共に廢し日野上村を建つ。...

【宮内村】 廣島縣安藝國佐伯郡の中央海岸。廿日市町の西北に在り、東は廣島灣に面す。西は友和村、南は地蔵前村・大野村に接す。面積一四方軒餘。東部海岸地方に平野ひろく、地勢西方に漸高す。...

山に列す。川之石町に近きも交通便ならす。【三島神社】 大字宮内に鎮座。郷社。祭神、大山積神・雷・公神・高懸神。舊稱、中島三島神又は保内入船明神。寶龜五年創祀し保内郷總領守たりと傳ふ。...

本村の屬する大三島は、瀬戸時・盛日・鏡・岡山と本村の五箇村より成り、瀬戸内海中島嶼の最も多き密集せる島嶼海峡の中央に在り、島中の最高峰たる鏡ヶ頭山上の眺望は甚だ佳し。山上には奇麗時ち松樹の繁茂また觀るべきものあり。山下には岡野大社大山祇神社の顯著たる神林あり、景勝と懐古と相俟ちて一層趣致を深からしむ。...

【宮内町】 山形縣羽前國東置賜郡の中部。赤湯町の西北に接す。面積八・七方軒。米澤盆地の最北部に在り、東部及び西部は丘陵をなすも中部は平坦にして、吉野川南流す。米・蕎麥を産し、海産物・人参の特産あり。...

村。土地は南北に長く約二軒あり。東南境に八幡平(六一四米)ありて最も高く、東境には高毛山(八七六米)をばじめ山嶺連りて西方に傾斜し、西境はその南半部には北より大開山(六五六米)・大平(二〇〇五米)・三方高(二二二二米)・三ツ又森(一一九米)・焼山(一三六六米)等連りて東方に傾斜し、その北半部には無澤川北流して礫村との境をなし沿岸平坦なり。東北部には五ノ宮嶽(一一一五米)聳ゆ。無澤川は南境に發源して北流し、併して西境をなし、東方より来る河川を合して北流し米代川となる。沿岸に水田拓く。米作を主産業とし米を産し、また木炭・蕎麥等を産す。...

ミヤウ

ミヤカ

ミヤカ

ミヤカ

上ノ湯・中ノ湯・下ノ湯・川原ノ湯・鹿ノ湯に分る。〔蒸ノ湯温泉〕泉質は食鹽泉。療養向。赤川の上流海抜一、〇九〇米、菰森山の中腹にあり、旅館の附近に到る處より湯氣を噴き、泉量豊富にて蒸湯その特徴なるを以て蒸ノ湯の名あり。旅舎は小屋式にて、十棟に餘る湯小屋あるのみにて、床・畳もなく、地上に藁を敷きその上に起臥す。その下より晝夜の別なく蒸氣噴出す。冬季は積雪のため小屋を閉鎖するも、夏季は遠近より數百人の浴客參集す。

【宮川村】天城縣常陸國久慈郡の西北部。大子町の東北隣にして、久慈川に沿ひ、東北は福島縣東白川郡と隣す。八溝山脈中の一帯を占め、東境は約五〇〇米、西境は約二三〇米にて、東西より村内に傾斜し、中央はその場合に久慈川南流す。山地一帯森林多し木村の産あり。川沿ひに狭き平地ありて農業行はれ米・大豆を産す。縣道は久慈川に沿ひて大子町及び東北方面に通過し自動車便あり。省線水郡線これに沿ひ村内に下野宮驛（昭和五年設置）を置く。古くは和名抄、陸奥國白河郡依上郷の内にして、中世は依上保に屬す。〔近津神社〕郷社。祭神、穀長津彦命・面足命・楯根命。慶雲年間創建といふ。古くより福島縣の國幣中社都都古別神社の下宮。朱印領三十六石餘。例祭、十一月七日。

治四十二年、保土ヶ谷町・矢崎村と合し更に保土ヶ谷町を置き、保土ヶ谷町は昭和二年横濱市に編入せらる。【宮川村】富山縣越中國婦負郡の東部。神通川中流左岸に沿ひ、西境をなす井田川とに挟まれたる地帯。八尾町の東北方約四軒。土地平坦にして水利の便よく水田拓く。米を主産し、養蠶・製菓の副業あり。縣道は南北に走り八尾町・富山市間を通過す。省線高山線千里・遠尾兩驛いづれへも三四軒を隔つ。古くは和名抄、婦負郡川合郷の内にして、近世は郷名に呼ばる。

【宮川村】富山縣越中國中新川郡の北部。上市町の西北に接し、上市川の左岸に沿ふ。富山平野の東部を占め、全村土地平坦にして肥沃、水田多し。米を主産し、製菓の副業も盛なり。東部を社線富山電鐵貫通し、新宮川驛（大正二年設置）・大永田驛・上市驛（共に昭和六年設置）を置く。上市町より滑川・東水橋・富山市等へ至る縣道村内を通過し交通至便なり。〔神度神社〕大字森尻に鎮座。郷社。大寶二年に國司佐伯有頼の創建と云ふ。式内社。例祭、三月十二日。【宮川村】長野縣信濃國諏訪郡の中部西偏。上諏訪町の東南約六軒。やや東西に長く、面積二〇方軒餘。謂ゆる糸魚川一帯同地帯に當る。西境に守屋山（一六五〇米）聳え、山腹東南に延び杖突峠（最高點二二四七米）・金澤峠（最高點一三一

五米）を経て入笠山に達し之等山嶺は東に急斜す。また東部は八ヶ岳裾野の西縁にして、極めて緩傾斜を示す。地溝帯に沿ひ宮川・六斗川西北流し、八ヶ岳西麓の諸水は上川に集りて村の北境に出で、六斗川と並行して諏訪湖に注ぐ。地溝帯以東の緩斜地に水田・桑園ひらけ、米・繭の産多し。村内に鐵區一六七萬餘坪を有する「しづか鐵山」あり、鐵種は金銀銅鉛鋅鉛水鉛硫化鐵にして昭和十年より事業を開始す。中部を省線中央本線と縣道並走し、前者の茅野驛（永明村地内）に近く、驛附近より西南境杖突峠を踰えて高遠・飯田に通ずる權兵衛街道ありバスを通じ、また八ヶ岳麓の温泉地に到るものも本村より出づ。この地は和名抄、諏訪郡神戶郷の内。出雲神社、神家族の千野氏の起りし所。諏訪神家の族にして、平安朝の末期、千野六郎光弘なる者見ゆ。明治天皇、明治十三年、山梨・三重・京都行幸の際此地に御小休あらせらる。江戸時代、水路開鑿及び開墾に盡せし坂本市之領（領從五位）の出身地なり。〔安國寺〕臨濟宗妙心寺派。泰山山と號す。曆應二年足利直義所願の諸國安國寺の一。文明十四年水難に罹没、後次第に復興、堂宇漸く整備すといふ。

【宮川村】福井縣若狹國邊郡の東北部。小濱町の東方約五軒に位し、北は内外海村を経て約一軒にて日本海に出づ。四周

山脈を以て繞らし東北境にて五一二米を示す。中央西偏にはやや南北に長き廣瀨なる平野開け、北川の一支流が南流し、西南部より野木村に出で約一・五軒西に流れて北川に合す。田畑よく拓けて米・麥を産し養蠶も盛なり。西部の竹長より縣道が南走し野木村にて東西に走る縣道を横切り松永村に至りて丹後街道（西南方約一・五軒にあり）に連絡す。古くは保名に呼ばれ、東鑑文治四年の條に宮河保とあるは即ちこれとす。新保山に武田中務元慶の城址あり。〔加茂神社〕大字加茂に鎮座。郷社。祭神、事代主命。靈龜三年、大和の鴨都味波八重事代主命神社より勧請し、養老二年に社殿を造營すといふ。

【宮川】省線參宮線の一驛（明治二十六年設置）。三重縣度會郡小俣町にあり。【ミヤカワチヨ】宮川町 宮川町の町名。現今東山區宮川町。賀茂川の東方にそれと並行して南北に通ずる裏町、古來遊里として知らる。好色一代男、五「ひらに若衆狂ひ面白物じやと、世之介を様々勤て、靈山に誘引、稽古能過て人の歸しあはば、暮の松風、あげ歎の音、精通版では酒も飲れず、さあ爰が分別所、何と仕やるぞ、よめよ、宮川町に早駕籠」長町女腹取「上、ミヤカ此の牛七の犬のらめは、帳面も埒明けず、今朝から爰へ面出しせぬ、何所へうせた、ま

た紙圍狂ひか宮川町か、麗乎か、麗聖共が知つてをろ」花路色里袂案内「宮川町の品。扱此所の女郎を本中となづけ、石がけ町と品よほど替り日あり、此所女色よりは男色おおくしんごん宗の岡山よりゆるとして、きうくつな所をたのしみとするも尤なる哉……下宮川町、是又格替り女郎の品も少し落ちて相中となづけ直段も定日三奴と替、大方式奴より外はらわす」

ミヤキ 三養基郡 佐賀縣(肥前國)

八郡の一。佐賀縣東部の福岡縣内に突出する部分を占め、筑後川の右岸に沿ひて北・東・南の三面は福岡縣に圍まれ、東南部は川を挟みて久留米市に對す。北境には脊振山脈の東南端を占むる山脈が西南より東北に次第に高さを減じつつ連り石谷山（七五四米）・九千部山（八四八米）・權現山（六二六米）・基山（防住山、四〇五米）等聳えて郡境を劃し多くの短き丘陵を東南に延ばす。其他は中央部に小丘陵もあれど地形概して平坦、略ぼ南境に沿ひて筑後川が屈曲しつつ西南流す。土地肥沃にして水利の便よく農耕に適し、米・麥・繭の産多く、また酒の産あり。山地は林産を供給す。郡内は鳥栖町・田代町の二町外九箇村を含み、人口密度三八九人にして最も多きは鳥栖町の一四〇六人を算す。鹿兒島街道は東部を縱走し長崎街道が途中より分れて中央を西南に走る。省線鹿兒島本線は東部を南北に通過

し中部の鳥栖驛にて省線長崎線が分岐して西南に走る。明治二十九年四月三根・養父・基津の三郡を合併して本郡を建つ。三根・養父・基津

ミヤキ 宮城縣

【宮城縣】東山道の東北部、陸前國の大部分と磐城國の一部とより成る。奥羽地方の文化の中心として仙臺灣に臨む。西は秋田・山形の二縣、南は福島縣、北は岩手縣に隣す。面積七二七三方軒。阿武隈川・北上川の沖積平野たる宮城平野を根幹とし縣廳を仙臺市に置く。〔地形〕西部一帯は奥羽山脈連なり、この第三紀層山脈は更に那須火山の伴ふによりて蔵王山（一八四一米）・舟形山（一五〇〇米）・竹子岳（一一二五米）・栗駒山（一六二八米）の火山聳立し、磐城山（一三三三米）・百山（一三六四米）等の古期山脈に變化あらしむ。東北には北上山脈の本端が延び牡鹿半島の山地をなす。東南互理には阿武隈山地の餘波北上す。仙臺灣は實に阿武隈・北上兩山脈の連続せしものが陥没して形成せるものにして、牡鹿半島粘川・荻濱・女川等の出入に富む小灣は、アス海岸を示し海谷によるものなり。宮

城平野は奥羽山地と北上・阿武隈兩山脈との間に捉谷をなせしものが東部の陥没によりて海に開けしものなり。従つて阿武隈川・北上川の兩從谷川がここに沖積地を南北より擴張し、更に奥羽山脈に發せる名取川・鳴瀬川・七北田川と共に平野を形成す。海岸線の延長六二二軒、北半は松島灣の陥没によりて變化を見ずる外は平直なる海岸を示し砂丘連なり。著名なる野蒜運河と貞山堀はこの砂丘背後に築造され、海岸に沿ひて北上川と阿武隈川を連絡する舊幕時代の重要交通路をなす。〔氣候〕東は太平洋に面し、西は奥羽山脈を隔てて英日本に接する關係上、氣候も亦地勢的に、多少地域的に趣を異にする。概して仙臺灣岸の地域は温暖多雨なるも、山間地域は低温多雨、内陸山麓地域はその中間的氣候を示す。冬季は日本内地一般に於けると同様、北西風卓越して、山間地域は奥羽脊梁山脈を越えたる降雨あるも平野地域は極めて少し。夏季は南偏風卓越して氣候は概して温暖なり。北より南下する親潮寒流著しき時は海面現象を現して冷涼多霧の天候を持續し、所謂東北冷害を招くことあり。田植布子に多霧霖の無言また意あり。本縣は内地暖帯氣候より温帯に移化する地域に當り種々作物の混合地帯をなす。〔産業〕本縣に於ける生産總額は一五、六〇五萬圓にてそのうち農産四七・五％、水産一七・六％、工産二六・五％を主とす。農

業は本縣第一の産業にて農業人口は全人口の半數なり。農家副業生産、畜産・林産・養蠶を加ふる時は總生産額の約六〇％に達し農業縣たるを示す。耕地面積は一四六、五〇一町、田は六九％を占む。本縣の米は舊藩政時代より本石米として江戸に移出され其名あり。産額二〇一・六萬石にして縣内のみならず、關東・東北・北海道の諸地方にも移出す。麥は五〇萬石を算し、其他、穀類として大豆・小豆・甘藷・玉蜀黍もあるも馬鈴薯は近年頗る産出を増加し、仙臺馬鈴薯として其名東部に知られ年産一・二・四萬圓に達す。果實に於ては宮城郡地方の利府梨、仙南山村地方の生柿あり。蔬菜園藝作また近年振ひ、仙臺市の供給、京濱地方への出荷のため、仙臺市近郊並に北部登米地方に行はれ、殊に結球白菜は需要激増す。養蠶業は農家の主要副業なれども、氣候寒に偏し、桑樹・蠶の育成には多少困難を感ずる地域ありて一般に不振なり。牧畜業としては牧馬を挙げ得。玉造郡川波村には陸軍軍馬育成所あり。近年豚の飼育が盛ならんとし、殊に細羊の飼育も亦盛ならんとするは注目すべく、頭數四・五〇〇頭に達す。本縣東部一帯は外洋に面し、海岸線延長六二二軒、沿海の町村四三を算す。金華山沖に寒流親潮と暖流黒潮の合流地點にして好漁場をなし豊富なる魚族を見る。水産額は農・工産に次ぎ年二、七四八萬圓に達す。殊に捕鯊は

全国に冠たり。結川港に於ける昭和十一年水揚げ額八三〇に達す。従来本縣漁業は殆ど沿岸漁業に限られしが近年遠洋漁業と養殖業が著しく発達せり。漁港として豊前・石巻・氣仙沼・女川等あり、全国各地の漁船出入し主として京濱地域の供給をなす。水産人口は全人口の四〇%なり。漁船は八、八四六隻、内、遠洋漁船五八三隻。沿岸漁獲物は蟹を最高とし、鰯・鮎・鮪にして、遠洋漁獲物は鰯・鮎・鮪なり。蟹は半数は豊前製に製造せられ、半数は生魚のまま東京に出荷す。鮎は生魚にて移出され、鮪は材料となり、鮎は竹輪・蒲鉾の原料として再製さる。近年遠洋漁業の發展目撃しく、乗組員一〇、一〇七人(昭和十一年)なり。水産養殖は牡蠣と海苔にて、風波静穏遠洋なる松島灣・萬石浦・氣仙沼灣に行はる。工業は一般に未だ家内工業の域を脱せず。織物及び綿糸・酒類・木製品を産す。〔交通〕古來、仙臺市を中心として、奥州文化の中核をなし來りしため、土木・交通等の施設見るべきものあり。北上川の切替工事は政宗の時川村孫兵衛の手にかかり、品井沼干拓は元禄年中に、東名・貞山・野蒜の各運河は藩政時代に行はれ、北上川・阿武隈川の連絡並に城下町への連絡上重要な貨物輸送路たり。當時北上川口の石巻は奥州第一の海港なり。石巻は鹽港と共に仙臺の外港として榮えしが汽船の建造・鐵道開通の結果衰微

し、漁港として甘ずるに由なかりき。荻濱・結川が石巻に代り、汽船の寄港、鹽港並に漁港として登場せり。鐵道には東北本線・常磐線・小牛田より分岐して山形縣に向ふ陸羽東線、石巻線、一關・氣仙沼を通ずる大船渡線、鹽釜線、仙臺山形を連絡する仙山線の省線等縣下各地のバスと共に交通至便となれり。〔人口〕本縣は仙臺・石巻の二市と一六郡、三八町、一六二村、人口一、二三四、八〇一(昭和十年)、人口密度一七〇人なり。縣の中心都市をなすは仙臺市なり。伊達政宗の舊城下として發達し、奥羽文化の淵藪となり、現に東北帝大初め各種専門學校・控訴院等ありて依然として東北日本の中心をなす。城址青葉山は前に廣瀬川を控へ、現に舊藩を存し、二ノ丸の大手門及び隅櫓は純山時代の建築にて國寶たり。城址には第二師團司令部あり。市の附近は名所舊蹟に富む。市の外港をなすものは鹽竈なり。仙臺市より電車通じ、今は金華山沖漁獲物の水揚げ港となり、松島遊覽船の發航地たり。松島の風光は茲に詳述するまでもなし、青葉山と同様の山地が斷層と沈降と侵蝕とによりて生ぜるものなり。本縣の西部には那須火山帯ありて到るところに温泉湧出す。仙臺市の西方に秋保温泉ありて飯坂(福島)の西北・鳴子と並稱し、奥州三名取といはれ、市より電車にて一六軒、名取川の溪谷にあり。鎌先温泉(白石町の西方約八

軒、バスあり)・小原温泉(白石町の西南約一〇軒、バスあり)・遠刈田温泉(青根温泉・岫々温泉・作並温泉・川渡温泉・鳴子温泉(鳴子驛の所在地)・鬼首間温泉(鳴子温泉の西北一三軒、バスあり)等あり、四時浴客に便す。更に冬季に於けるスキー場として蔵王・鳴子・作並スキー場が最近知られ、温泉と好スロープによりて著聞せらるるに至る。斯くて本縣は仙臺・松島を中心として遊覽地帯をなし、温泉・スキー場開けて京濱地方の保養地帯として活氣を呈し來れり。〔沿革〕明治四年十一月仙臺藩を廢して縣とせる仙臺縣、白石縣を合併して改稱せる角田縣、石巻縣を改稱せし登米縣を何れも廢して新に仙臺に置きし仙臺縣に始り陸前國の九郡と磐城國の四郡とを管す。翌五年正月宮城縣と改稱。明治九年四月舊磐井縣所管の陸前國の五郡と併せて管し、翌五年陸前國仙臺郡を岩手縣の管下に移し大體今日の境域となる。

流れ、仙臺灣に注ぐ。大倉川は西北境に發源して東西に流れ、廣瀬川となりて郡の南部を東流す。郡の東南部は仙臺平野にして土地平坦なり。仙臺平野の東北部は七北田丘陵にして松島灣を抱き、磐入・島嶼多くして、南部の平坦なる海岸と對照をなす。仙臺平野及び河川の沿岸には米・麥・白米等を産し、米は仙南米と稱し、他に移出せらるる額少からず。白菜は仙臺市附近に産し、近年その産額の増加を見るに至り、その四割は東京へ出荷せらる。西部山地には木炭及び馬を産し、東部海岸には漁業行はる。鹽竈町には鮮魚の外海苔・蒲鉾・鮪・鮎等の産多し。陸羽街道は東部を南北に通じ、作並街道は仙臺市より西方に分岐し、郡の南部を西北に向ひ關山峠を越えて山形縣に入る。また仙臺市より東北に向ひ石巻市に至るものあり。郡の東部には省線東北本線通じ、北より品井沼・松島・利府・岩切等の驛あり。仙臺市より東北に社線宮城電氣鐵道、北方に社線仙臺鐵道通す。東北本線岩切驛より東北方に省線鹽竈線分岐す。續紀天平神護二年の條に郡名見ゆ。本郡の多賀郡の最北の條に郡名根據地たる多賀郡のありし所。和名抄は美也岐と注し赤瀬・磐城・科上・丸子・大村・白川・宮城・多賀・稻屋の九郡、餘戸一を擧ぐ。今日の仙臺市は本郡及び名取郡の中より出づ。

【宮城野】宮城縣にある原野。いま宮城

野または宮城野原と稱するは仙臺市の東部市外練兵場附近を指すが、古は荒蕪たる原野にて、また國分原といへり。秋の七草等の草花が生ひ繁り中にも萩の名高く、鶉・雲雀等多く落の禁獵地たりしといふ。古今・二〇「みさぶらひ御笠と申せ宮城野の木の下露は雨にまされり」源義經將基經・三「廿八歳宮城野の萩の露とそきへにける」うつたる首と我子の死骸火葬と觀する火爐のやぐら、城にこもつて討死せん、いざや花石いそふれとて、荷ひて分くる宮城野や、露も心も打みだれ、せきくる涙しのぶの前、いさめる足もよろ／＼

す。大瀧根川は北方より來り、西北部を西流し高瀬村に入りて阿武隈川に合す。米・藁・粟・粟・馬等を産す。道は村の東南より西に通じ、西方郡山市、東方御箭村へはバスの便あり。大字赤沼に沼あり、赤沼と呼ぶ。その沼に傳説あり、古々著聞集に評なり。それによれば昔、田村郷の人、馬尤なるもの鷹狩をして獲物なく歸る途中、赤沼にて鶯の鳴を射て歸る、夢に女の泣き濡れて「日暮るればさそひしものをあかぬまのまごがくれの獨寢ぞ憂き」と歌を讀みて去る。日ならずして鶯の女の死せるあり、これを見し馬尤は發心して出家せりと。文化十二年、薄土秋田勘解由は此の沼の傍に石碑を建つ。

【宮城野】大分縣豊後國直入郡の西部。大野川の上流を占め、竹田町の西方三軒餘。西隅は熊本縣阿蘇郡に界す。阿蘇山の東麓の地にして東方に緩く傾斜をなす。北部には大野川が東流し、南部にはその支流の玉来川が東流して玉来川の北岸に稍急流す。大野川沿岸と東南部に稍低地あり。藁・粟・米及び林産・畜産あり。主要道路は北部を東西に走り竹田町へバスを通ず。古くは和名抄、直入郡三宅郷の内とす。

山へケイブアカト通す。天正十八年、豊臣秀吉、北條氏を征伐の時、此にて北條氏の兵の首級八十餘を打ち取りし。(『鹽竈温泉』)早雲山の東麓。湯は大湯谷及び早雲地獄より引けるもの。海拔約六〇〇米の高所に位し早川の發谷を見下して眺望よろし。泉質は酸性鹽類泉。鹽竈公園あり、附近は箱根第一の別荘地。※鹽竈〔木質温泉〕箱根温泉群の一。早川の發谷、海拔約三二五米の地點に湧出する鹽類泉。佛國の將軍ルンセン氏が明治初年に我國陸軍の教官として來朝せし頃、特にこの地の風好を好めり。先年、明治大帝崩御の時、國使として來朝しこの地に再遊せしが、曾遊を追懐し低額願望せりと云ふ。土地の有志謀りてその記念碑を建つ。

【宮城野】宮城縣にある原野。いま宮城

果實・鱈・鮭・酒類等の産あり。伯方島・今治市に渡船の便あり。村内に龍島城址あり。中世河野氏の將村上氏の據る所。村上氏の能島氏を稱し水軍を以て名あり。毛利元就能島攻めの際に應じ兵を出す。慶長五年毛利氏討封のとき集族周防の屋代島(大島)に移り三田尻の船廠を管理すといふ。(尾形八幡大神神社)大字宮窪に鎮座。御社。祭神。品陀和氣命・帶日子命・息長帯日賣命。貞觀元年の創祀と傳ふ。河野通有・同通純深く崇敬せり。例祭。九月二十一日。

ミヤケ 三宅

【三宅】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡三宅郷あり、その地今の鹿島郡諏訪村の邊に當る。
【三宅】下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に印旛郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも、印旛郡水沼村の邊に當る。
【三宅】下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に海上郡三宅郷あり、その地今の銚子市の一部(即ち舊海上郡海上村)の邊に當る。
【三宅】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に天羽郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも、君津郡環村の邊に當る。
【三宅】相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に大住郡三宅郷あり、その地今の中郡内ならんも詳かならず。
【三宅村】福井縣若狹國遠敷郡の東部。

北川の左岸を占め、小濱町の東東南方約七軒。南境の中央に六八二米の山峯聳え、南部一帯は山地をなし、北境には北川が西北北流して沿岸低地開く。米・麥・蕎麥・林産あり。縣道及び省線小濱線は北部を東西に走り三宅郷(大正七年設置)あり、また自動車線の往來あり。村内に上船塚及び下船塚古墳あり、夙より文化の開けたる處なるべし。中世庄名に呼ばれ三宅庄と稱す。大字日笠は教養路と近江路の岐分交會に當り、やや宿場の形状をなす。村内に権現池あり、高さ一五米、幅三米とす。(上船塚古墳)指定史蹟。日笠山の麓にあり、前方後圓型の古墳に對して封土は略三段に築かれ西に面す。長さ約四十二間、後圓部徑約十六間、高さ約三十四尺、前方部徑約二十四間、高さ後圓部に等しく封土上は今雜林となれるもなほ基石を存し、埴輪圓筒破片を發見す。また西部及び北部に環壕址と認めべき雜林あり。從來若狹國造の墳墓として此地方著名の古墳なり。(下船塚古墳)指定史蹟。上船塚古墳の北にあり、前方後圓型の古墳にして封土は三段に築かれ西に面す。長さ約四十四間、後圓部徑約二十二間、高さ約二十八尺、前方部徑約十八間、高さ約二十六尺あり。環壕は水田及び畑地となりて存し、附近に埴輪圓筒破片を發見す。上船塚同様の傳説ありて此地方著名の古墳なり。

【三宅】遠江國(静岡県)の古地名。和名抄に鹿玉郡三宅郷あり、美也介と調す。その地今の引佐郡鹿玉村の邊に當る。
【三宅】愛知縣中島郡にありし村。明治卅九年他の五箇村と共に廢し千代田村を置く。和名抄の中島郡三宅郷に當る。
【三宅】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも海部郡津島町の邊に當る。
【三宅】伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に多氣郡三宅郷あり、美也介と調す。その地今の多氣郡佐奈村の邊に當る。
【三宅】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に交野郡三宅郷あり、その地今の北河内郡交野村・磐船村・星田村の邊に當る。
【三宅】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に中河内郡三宅郷あり、その地今の中河内郡高安村の邊に當る。
【三宅村】大阪府河内國中河内郡の西南部。大和川の南岸に位し大阪府住吉區の南方一軒餘にあり。全村地形低平にして東南部に濠洲湖沼あり。大和川は北境に接して西流す。米・麥等多く水産・工業等あり。大阪市と四方の堺市へバスを通ず。古くは三宅郷に作り、和名抄に丹比郡三宅郷と見ゆ。
【三宅村】大阪府攝津津國三島郡の南部。大阪市の東北隅より一軒餘東北にあり。全村地形低平にして神崎川支流の茨木川が南境を掠めて西流す。南部には北方より來りて南下する一河川ありてこれに合す。米を主とする農産と工業・畜産あり。

抄に鹿玉郡三宅郷あり、美也介と調す。その地今の引佐郡鹿玉村の邊に當る。
【三宅】愛知縣中島郡にありし村。明治卅九年他の五箇村と共に廢し千代田村を置く。和名抄の中島郡三宅郷に當る。
【三宅】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも海部郡津島町の邊に當る。
【三宅】伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に多氣郡三宅郷あり、美也介と調す。その地今の多氣郡佐奈村の邊に當る。
【三宅】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に交野郡三宅郷あり、その地今の北河内郡交野村・磐船村・星田村の邊に當る。
【三宅】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に中河内郡三宅郷あり、その地今の中河内郡高安村の邊に當る。
【三宅村】大阪府河内國中河内郡の西南部。大和川の南岸に位し大阪府住吉區の南方一軒餘にあり。全村地形低平にして東南部に濠洲湖沼あり。大和川は北境に接して西流す。米・麥等多く水産・工業等あり。大阪市と四方の堺市へバスを通ず。古くは三宅郷に作り、和名抄に丹比郡三宅郷と見ゆ。
【三宅村】大阪府攝津津國三島郡の南部。大阪市の東北隅より一軒餘東北にあり。全村地形低平にして神崎川支流の茨木川が南境を掠めて西流す。南部には北方より來りて南下する一河川ありてこれに合す。米を主とする農産と工業・畜産あり。

西北部に縣道及び省線東海道本線が通過し茨木驛(北方一軒餘)に近し。中部には社線京阪電氣鐵道新大阪線が通過す。中世は莊名に呼ぶ。天文十八年三月、細川晴元の部下三宅某、この地の三宅城に據りて三好長慶に通ず。晴元その將香西元成を遣して之を攻陥せしめ、晴元此處に入りて近江の佐々木定頼の援を待つ。六月、長慶の萬十河一存來り攻め晴元執へらる。(井於神社)大字藏原内に鎮座。郷社。蓮華老鳴尊を主神とし、相殿に天兒屋根命・菅原道真を祀る。延喜の制、官幣小社に列す。俗に三所明神と稱す。例祭。十月十九日。
【三宅村】奈良縣大和國磯城郡の西北部。奈良盆地の中央に位し寺川と曾我川とに挟まれ、東南部は田原本町の北に接す。西は曾我川を隔てて北葛城郡と界す。地形低平、一望沃野開け、東境に沿ひて寺川が西北流し、西部には西北に流るる飛鳥川あり。曾我川は西境に沿ひて同じく西北流す。米・麥・蕎麥等を産出す。西北隅には南北に通ずる縣道あり、郡山町及び高田町方面へはバスの便あり。この地、古くは郷名に呼ぶ、和名抄に城下郡三宅郷と見ゆ。萬葉集に三宅郷と見ゆるもまたこの地なり。萬葉・一三「父母に知らせぬ子ゆゑ三宅道の夏野の草をなつみ來るかも」
【三宅】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に那珂郡三宅郷あり、その地昭和八年

福岡市に編入されし筑紫郡三宅村の邊に當る。
【三宅】筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に上妻郡三宅郷あり、その地今の八女郡福島町・上妻村・三河村の邊に當る。
【三宅】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に託麻郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも熊本市の邊に當る。
【三宅】豊後國(大分縣)の古地名。和名抄に直入郡三宅郷あり、その地今の直入郡岡本村・白丹村・久住町・宮城村の邊なるべし。
【三宅】日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に兒湯郡三宅郷あり、その地今の兒湯郡妻町に當る。

ミヤケ 三家

【三家】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に厚見郡三家郷あり、今の稲葉郡内ならんも詳かならず。
【三家】備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に兒島郡三家郷あり、美也介と調す。その地今の甲浦村・針立村・胸上村・山田村の邊に當る。
【ミヤケ 御宅】武蔵國(神奈川県)の古地名。和名抄に神奈川郡御宅郷あり、美也介と調す。その地今の川崎市日吉臺の邊に當るか。
【ミヤケ 蜂家】紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に海部郡蜂家郷あり、その地今の海草郡和歌浦町及び和歌山市磯賀の邊に當る。

ミヤケジマ 三宅島

伊豆七島の一島。神津島と御蔵島の間の若き火山島。雄山(八二五米)を最高として周圍に緩やかなる裾野を曳き、島の形もほぼ圓形、南北七軒、東西六軒、五〇米以下の海崖にて海に迫る。火口原なる八丁ノ平にはヤシヤシ等の矮樹が成長して放牛地を提供し、山腹の裾野谷は淺くてシロ・イヌアス・ユヅリハ・ヒサカキ等の暖帯常綠樹が最も繁茂し、樹間にはオホタニノタリ等の熱帯性羊齒が著生す。島は噴火を幾度か繰返し、明治七年に噴出せし熔岩流は神津村の大部分を被覆したるほどにて、耕地は火山灰地にて薄層なるを免れず、飲料水も天水によるほどにて田は全くなく、麥・甘藷・里芋等を主要作物とし、梅油・黄櫨材が移出され、漁業は餘り重要ならず。行政上は東京府に屬して大島支廳に管轄され、神津・伊豆・伊ヶ谷・阿古・坪田の五箇村に分れ、各村相互の連絡に不便にて、風習も自ら異なるものを保有す。江戸時代には八丈島と同じく郭人流調の地たり。雲家英一蝶この地に至り、また竹内式部も八丈島に流調の途にてこの島に歿したり。
【ミヤケジマアコ】三宅島阿古村。東京府伊豆國大島支廳三宅島の西南部。中央部に聳ゆる雄山(八一四米)の西南の中腹より海岸に互る地域を占め緩く西南方へ裾野を引きて海に迫る。南部に古池あり。海岸は屈曲に富みて南部に新鼻・

西南部に間鼻、西北部に金崎のそれぞれ突出あり、其他斷崖をなすところ多し。主邑は西北隅に發達す。植物・農産物の生育よく米・麥・蕎麥・甘藷・甘藷等を産す。海岸附近に縣道が通じ隣村に至る。
【富賀神社】大字富賀山に鎮座。郷社。祭神、伊古奈比咩命・阿米和氣命・事代主神。一にあめつち今宮・總領守三島明神・富賀明神と稱す。嘉祥三年從五位下を、仁壽二年從五位上を、齊衡元年重祿の位に列せられし阿米和氣命神社は本社なりといふ。例祭。八月四日。
【ミヤケジマイガヤ】三宅島伊ヶ谷村。東京府伊豆國大島支廳三宅島の西部。中央に聳ゆる雄山(八一四米)の西部中腹より西岸に互る地域を占め西方へ緩く傾斜面をなす。海岸は僅に屈曲し西北岸に北隣の伊豆村とに跨りて大船戸灣あり。西南岸には温泉湧出す。氣候温暖、地味肥沃にして熱帯植物叢生し米・麥、其他の農産物多し。海岸は水産豊かなり。大島へ便船あり。

ミヤケジマイズ 三宅島伊豆村

東京府伊豆國大島支廳三宅島の西北部。中央に聳ゆるコニーテ式火山の雄山(八一四米)の西北部中腹より海岸に互る地域を占むるため東南部は稍急傾斜にして北部と西北部は緩傾斜の裾野をなす。海岸は稍西方へ廣く突出し、西部に伊豆崎ありて附近燈臺の設備あり、海

岸所々に斷崖あれども東北岸に大久保部落の遺地あり。地味肥沃、氣候温暖なるため米・麥・甘藷・甘藷、其他の農産物及び植物の生育よく熱帯植物もあり。梅油を特産とす。附近海上に便船あり。
【ミヤケジマカミツキ】三宅島神着村。東京府伊豆國大島支廳三宅島の東北部。雄山の東北斜面より海岸に互る地域を占む。南部は本島中央に聳ゆるコニーテ式火山雄山(八一四米)の頂上に近き東北斜面にて稍急傾斜し、山麓部に來るに従ひ緩傾斜の裾野をなす。海岸は稍屈曲を呈するも北岸は殆ど斷崖を以て海に臨み部部崖上に散點す。東部も岩石海岸をなしアノウ崎の突出あり。氣候温暖、地味肥沃なるため農産物に富み、熱帯植物も生育す。梅油の特産あり。島を繞る里道が海岸附近を走りて隣村に通ず。

ミヤケジマツボタ 三宅島坪田村

東京府伊豆國大島支廳三宅島の東南部。島の中央に聳ゆる雄山(八一四米)の東南斜面を占め東及び南に海に臨む。西北部はコニーテ式火山雄山の中腹にて稍急傾斜し、山麓に下るに従ひ次第に緩やかに裾野を引く。南部に大池あり。海岸は低地乏しく殊に南岸は斷崖が連りツル根崎・横根等あり。東岸にも所々に斷崖を見、ベンケイ根崎・クラマ根・サマドノ崎等あり、東北岸には赤湯崎の嶺地を有す。地味肥沃に氣候また温暖なる

関係上農産物・植物の生育よく熱帯植物もあり、樟油等も産す。海岸を里道が通じ隣村と連絡す。近海便船あり。

ミヤコ 都

【都】千葉縣千葉市にありし村。昭和十二年千葉市に編入せらる。
【郡】奈良縣大和國磯城郡の西部。奈良盆地の中央西偏に位し、田原本町の西に接す。平坦肥沃なる耕地全村に亘り、西隅を採りて飛鳥川が北流す。米・麥・藎等多種の農産物を出す。縣道が中央を通過し田原本町及び西方の北葛城郡峯尾町へバスを通ず。社線大和鐵道が中央を西北より東南に走り、田原驛(大正七年設置)あり、また東部には社線大阪電氣軌道奈良線が南北に通ず。大字黒田と大字宮古との間に都森と呼ぶ處あり、これ蓬萊天皇の皇居鹿戸宮の址にて、天皇、孝安天皇の百二十年十二月此に都を遷す。翌元年正月、ここに即位せられてより、七十六年二月崩御せらるるまでの皇居とす。記・中・大倭根日子日子賦斗通命坐坐黒田鹿戸宮。治・天下。孝安紀「冬十二月癸亥丙寅皇太子遷都於黒田」。是謂・鹿戸宮。【鏡作坐天照御魂神社】。神社。祭神、天照國照日子火明命・石凝姥命・天兒屋根命。鏡作連の祖神を祀る。式内大社。新年・月次・新嘗の案上官幣に預る。神封は大同元年十八戸なり。神位、貞觀元年從五位上を授けらる。例祭、十月二十五日。

【京都郡】福岡縣十九郡の一。豊前國の東部。今川流域に跨り行橋平野を含めて周防灘に臨み、南は細長く延びて南端は大分縣下毛郡に界す。南部は西南方に聳ゆる英彦山(二〇〇米)より延ぶる山脚が北方へ連りて東西の兩端を限り、龍川が南隅に發して中央の横谷谷を北流す。北半は西境及び北境に山脈が連り、西境中央の飲嶽(五七三米)より東北方へ小丘陵が延ぶ。その南に南方より來る英彦山脚が丘陵となりて中部にて東北方へ連る。其他西部と北部には處々に丘陵起伏す。今川は中央を貫き東北方へ北流し注ぐ。西北部に發する小波瀬川は東南流し方向を轉じて東北に向ひ今川の北にて同河川に入る。河口には筑島の孤島あり。東部には東北流する龍川あり。各河川の流域は廣闊なる平野をなし、龍川・今川・小波瀬川の各下流の河川は東北方に横平野にて概ね地形低平なり。海岸は砂濱多し、東北海上に神ノ島・八鹿岩等浮ぶ。東北平野と河原低地は田畑よく發達して米・麥・藎を産す。豆類・藎・酒等も産し、山地は林業盛なり。海岸は水産物を出す。郡内は行橋町・苅田町の二町外十九箇村を含み、人口密度は二四六人にして行橋町は最も多く、一八三二人なり。交通よく發達し、東北部に日向街道が發し、行橋町にて之より分れ北部を西南に貫き田川郡の香春町に至る縣道あり、中部には之より分れて東走し、築上郡に入りて日向街道に連絡する縣道あり。省線日豊本線は東北部を南北に貫き、省線田川線はその行橋驛より分岐して今川に沿ひて中部を西南に貫く。北部は要塞地帯の一部に屬す。名稱は景行天皇御西狩の時長狭縣に至り行宮を造り給ひしに因み其處を京といふ。後に京都に作る。續紀天平十二年の條に郡名見ゆ。和名抄は美夜古と訓じ諫山・本山・刈田・高來の四郷を置く。明治廿九年四月仲津郡を合せ今日に至る。

ミヤコ 宮古

【宮古郡】岩手縣東南部の磐入。河口を東北に開き、東南の閉伊崎と、西北の姉ヶ崎との間より西南に深く侵入す。河口約四軒、磐入約一〇軒。閉伊川中央西岸より注ぎ、その河口に良港宮古港あるも、他は概ね平直にして良港に乏し。
【宮古町】岩手縣陸中下閉伊郡の東部。郡の主邑にして、東は宮古川に臨み、良港宮古港を控ふ。その他は北上山脈の本精山地を以て圍まれたる盆地状の地域なり。平地は第四紀沖積層にして地質新しり。平地は第四紀沖積層にして地質新しり。北西山地は花崗岩層なれど可なり。磐梯山。白木山・淨土ヶ濱方面は大部分石灰岩面より成り、白色砂岩にして板狀節理をなす。この外に鐵ヶ崎西崖湖候所より北方、助の濱・日出島沿岸にかけ斷續的に中生層白堊紀の礫層層見られ、化石の出づる所あり。港に宮古灣を隔て

對岸に閉伊崎の突出あり、北には館ヶ崎の突出ありて風波を避け、太平洋岸に於ける良港をなす。近海は所謂三陸漁場に於て、寒暖二流交流するため魚介介藻類頗る豊富、従つて本町の産業は水産業を主とし本町經濟の根幹をなし、林業工業之に次ぎ農業は極めて微々たり。水産物の主なるもの鮭・鰯・柔魚・鱈・鮭・鰯・海藻類及び同上加工品の産物多し。昔部に廣大なる山地を有すれば木炭・枕木・木材等木材製品は總て富町を集散地とし、松・杉・桐の製材、漁船の建造業等盛なり。また下閉伊郡内貨物集散の中心都邑として商業も盛なるも近年の内作不漁による農山漁村の窮乏は富町の經濟上にも多大の打撃を受けた。町は宮古街道の終點にして西方盛岡市へはバスの便あり。省線山田線宮古驛(昭和九年設置)を置く。三陸汽船會社の定期船あり、水陸の交通に恵まる。人口は稠密にして密度は一方軒につき三、二五人。町の東端に淨土ヶ濱の小磐入あり、現世の淨土を思はしむるほどの風景を有し沿岸一帯の地質はして知らる。もと郡役所を置き、いま下閉伊支廳・警察署・調候所・警務署・區裁判所・警察署・木産學校・高等女學校等あり。町名の基因及び往昔の事蹟は詳ならずされど建久年間閉伊其基命により閉伊を領してより一大部落となり南部氏の治下慶長十六年に三閉伊郡代を宮古村に置く、同十九年大海嘯のため殆ど全滅

黒田のみ僅かに残る。翌元和元年藩主利直親しく這回町割をなしてより漸次都會化する。明治維新の改革にて領内朝廷の直轄地となり松代藩の支配を受け、明治二年江刺縣に隸屬するに及びて、黒田村と宮古村合併し宮古村と總稱す。同四年盛岡縣の管轄となり(翌五年岩手縣と改稱)同十二年住民三等閉伊川埋立工事をなし十五年完成、市街一新さる。同二十二年市町村制實施により宮古町と稱す、大正十三年隣町鐵ヶ崎町と合併し現在の宮古町となる。(横山八幡宮)神社。祭神品牟陀和氣命・天照大神。例祭九月十五日。當日神輿大船に載せ各船争うて曳き甚だ壯觀なりと云ふ。(淨土ヶ濱)宮古灣内登陸の地にして、石英粗面岩より成り、白色の奇岩峭立して小半島をなし、海蝕と板狀節理の交錯せる所に青松茂り海水澄みて波程かに風光頗る明麗なり。

【御臺場】文政八年六月夷國船打擲の幕命により白木山の東側嶺々時に砲臺場を築造せり。昭和十一年十月廿六日長くも秩父宮・同妃殿下ここに御休憩あらせられ、四邊の美景を御觀賞あらせ給へり。【官軍墓所】舊御夏保峠にあり、明治二年三月廿五日宮古海戦にて名譽の戦死を遂げし官軍の士四名の墓にて、對鏡閣にある宮古灣戰蹟碑と共に富町の海戦を永遠に傳ふるものなり。

【宮古郡】沖繩縣琉球國五郡の一。先島諸島(群島)の東部なる宮古諸島の地に於て、平良町・下地・城邊(以上宮古島)・伊良部・多良間の四村に分かる。面積二五〇方軒。諸島いづれも隆起珊瑚礁より成り、最高處は宮古島中央部の野原岳にて約百五十米に過ぎず、一般に低平にして耕地は全面積の五三%に達するも、灌漑水に乏しく田地はその四分の一にも達せず。甘蔗・甘蔗を主とし、麥・大豆・米等の農産あり。沿海は鹽・鮎その他の漁業行はれ、宮古島には海綿を養殖す。平良町には宮古支廳をなす區裁判所・稅務署・專賣支店等を設かれ、當り毎週一の張水港は先島・臺灣航路に當り毎週一回那覇・基隆への定期汽船の發着あり。那覇を距る一六三哩、基隆へは約一七〇哩。明治二十九年四月、宮古諸島の平良間切、砂川間切、下地間切及び多良間島を以て本郡を建つ。

【宮古諸島(群島)】琉球風狀列島の南西部にして、沖繩諸島と八重山諸島の中間に位し、宮古島(宮古本島)を主島とし、その西方四軒の伊良部島、これに近き下地島・宮古島の西南岸に近き來間島、北西端に近き地間島、その東の大神島、更に南西方に浮ぶ多良間島・水納島の八島を含む、全面積二五〇方軒餘。いづれも隆起珊瑚礁にして概ね平坦なるも水利不便にして飲料水は多くは天水或は宮古島に於ける穴川の如くドリームの底部に集溜する水を汲上げて使用す。耕地比較的に多く甘蔗・甘蔗・米・麥・豆等の農産あり、沿岸漁業行はる。いま行政上宮古郡に屬す。

ミヤコ 宮郷村

【宮郷村】沖繩縣西南部の宮古諸島の主島。底邊を東北に向けたる截頭三角形をなし、その東南端を東平安名岬、西北角を西平安名岬といふ。面積約一七〇方軒。隆起珊瑚礁の地に概ね平坦、中央部の野原岳も海抜百米に達せず。殆ど石灰岩より成るも西南部には沖積地あり。西岸は南部に與那覇郡、中部に張水港、北部に大浦灣等あるもいづれも珊瑚礁ありて良港地をなさず。島内には耕地比較的多きも用水に乏しく米作に過ぎず。甘蔗・甘蔗等を主農産とす。いま西北部は平良町、南西部は下地村、南東部は城邊村となり、宮古郡に屬す。

ミヤコ 都川村

【都川村】山梨縣甲斐國南玉座郡の西部。富士川一支の早川の右岸。赤石主脈の白根山脈の東斜面を占め西は其の連嶺を境に静岡縣駿河國安倍郡に接す。村内幼壯年期の嶽々たる山容を呈し、略東西に並行する二徑の山肢伸び東部を血流しつつ南東に下る早川の溪谷に迫る。木材・木炭等の産多く、谷沿の聚落には養蠶・製紙の副業も行はる。當村内に鐵區約三十四萬坪を有する都川鐵山あり、昭和十年に金八、〇九六瓦、銀二、三二九瓦を産出す。また當村内に鐵區六四萬餘坪を有する喜望鐵山あり、鐵種は金銀にして昭和十年より事業を開始す。村道によりて波殿下河街道に出で鐵道省借入線富士身延線の波高島驛に通ず。道程約一〇軒、途中バスの便あり。(八幡日吉神社)大字京ヶ島組宮平

に鎮座。郷社、祭神。豊田別命・大己貴命。平城天皇の御宇京都の人來り山城國より日吉社を移して祀れりと傳ふ。

ミヤコジ

都路村

福島縣勢城國田村郡の東北隅。常葉町の東方約一

軒。北・東・南の三境は雙葉郡に接す。面積一・二五・〇一方軒。阿武隈山地の主副兩分水嶺の間に位置し、西境には北より鎌倉岳(九六七米)・鳴子山(七六五米)・楡山(九九三米)を、東方に傾斜し、東境には三郎森(六九五米)をはじめ約七百里の山地連りて西方に傾斜す。中央部は盆地状をなし、古道川は西北部に發源し、村の中部に於て西方・南方・東南方より支流を合し東北方に流れ高瀬川となる。米・藁・木炭を産す。道路は西北より東南に通じ西方省縣勢越東線船引驛へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき三三人なり。

ミヤコジマ

都島

大阪府東成郡にありし村。明治三十年大阪府北區に編入す。

ミヤコタ

京田

遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に引佐郡京田郷あり、その地今の引佐郡都田村の邊に當る。

ミヤコタ

都田村

静岡縣遠江國引佐郡の東部。北部は四百米以下の山地にして開析谷よく進み壯年期に達し、濠澤附近に二百米以下の開析侵蝕面發達す。南部は三方原臺地の北縁にして幼年期の廣坦なる臺地あり。中央部を都田川が貫

流し、下流域に水田よく發達す。その中央、大字大平の南は舊河床にして、西南一〇一米の高地は貫通丘陵にして、西南蜜柑・西瓜等を産す。社線濱松鐵道は村の西南に通じ、祝田驛(大正三年設置)あり、隣村三方原村に都田驛(大正三年設置)を置く。古くは和名抄、引佐郡吉田郷の内とす。〔須信神社〕郷社。祭神、天手力男命・天照大神外四柱。式内社。舊稱、神明宮。例祭、十月十七日。

ミヤコノ

都野村

大分縣豊後國直入郡の北部。久住町の東北に接し西北部は玖珠郡に界し、西北より東南に長き略々長方形をなす、全村土地高く、西北部は地形高峻にして九重山(一七六四米)・三俣山(一七四五米)・平治山(一六四三米)・黒嶽・大船山(一七八七米)等の高峰聳立し、東南部は丘陵性にて波狀の起伏を呈す。大分川支流の芥川が西に發して中央を東流し沿岸に耕地を見る。河岸耕地に米・麥・藁を産するも東南部は荒地・原野廣し。また九重山嶺あり、硫黄を産す。久住町へバスの便あり。風土記に見ゆる日本書紀(一)に朽網(作る)の内なるべし。日本書紀に景行天皇十二年、熊襲親征の初、遠見邑より進みて來田見邑に留まり權に宮室を興し給ふと見ゆ。また風土記に宮野に宮室を起せしより名付けしものとあり。この宮野は蓋しこの地にして、來田見行宮址もこの地に求むべきか。(九重山嶺山)嶺區は都野村

ミヤコノ

都野村

と玖珠郡飯田村とに跨りて七萬六千坪、昭和十年には硫黄四三三(價額三萬餘圓)を産出し、現に重要礦山たり。礦山名は一名九州アルプスの名を以て知らるる九重山に因む。(來田見行宮)景行天皇筑紫に御親征、豊の國遠見邑より進軍來田見邑に屯在し給ひし時の行宮。景行紀に即留守來田見邑に權興宮室二面居之(宮野神社)大字佛原に鎮座。郷社。祭神、景行天皇・饒天皇外二柱。景行天皇土蜘蛛征伐の折行宮を置き給ひしが、當地の役人が祠を創祀し、のちその附近に饒天皇の祠を作り後世合して當社となれりと傳ふ。例祭十月十五日。(七里田温泉)大字七里田、大船山の東麓にあり。泉質炭酸泉。上ノ湯・下ノ湯あり。(法華院温泉)泉質、硫黄泉・鐵泉・炭酸泉。冬は積雪六〇釐一一米に達し、九州唯一のスキーの適地にして、附近には一本松遊園、菊池遊園、龍石・五本松・小田野池・山下地等の勝地あり。

ミヤコノ

都野村

宮崎縣の南部。宮崎市へは東北五〇軒、鹿兒島へは西方六四軒の中間にあり。東方青井岳(九五三米)・鶴塚山(一一一九米)・柳岳(九九二米)・金御岳(四二二米)のなす日向山地と西高千穂峰(一五七四米)・靉臺山(五四三米)・白鹿岳(六〇四米)の西部地嶽山地との間にある都城盆地の中心をなす。市は宮崎市を流るる大淀川の上流にして一五〇米内外

母田氏が栗原郡高清水に移り、佐沼の古内氏これに代り來り住せり。往時、宮崎古城あり、大崎家臣、宮崎民部の居りし館なりと。村内に黒瀧(高さ一五米、幅五米)・寒風潭(高さ二〇米、幅八米)あり。(魚取沼の鐵魚)指定天然記念物。田代岳の山奥にあり。尾花潭まで汽車により、それより徒歩本村押切を過ぎ縣境吹越峠を越えて到達す。沼に産する鐵魚は形金魚に類似し、普通煤褐色、全國稀に見る淡水産魚類なり。

ミヤサキ

宮崎

石川縣津洲郡にありし村。明治四十年他の二村と廢し木郎村を置く。

ミヤサキ

宮崎

愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年他の二箇村と共に廢し吉田村を置く。吉田村は大正十三年町制を布く。

ミヤサキ

宮崎

富山縣越中郡下新川郡の東北部。北は日本海に臨み、泊町の東に隣接す。飛騨山脈の最北端を占め、東南隅に黒瀧山(一〇四三米)屹立し北西に傾斜し笹川を源流す。北は斷層崖をなして海に迫り省縣北陸本線と北陸道は崖下を海に沿ひ貫通す。村内概ね山林にて耕地に乏しく濱沿の聚落は漁業を主とし、笹川に沿ふ山間の部落は林業・米作に従ふ。省縣北陸本線泊驛へ約四軒を隔つ。古くは和名抄、新川郡大部郷の内にして、中世は附近諸村と共に大家庄と稱せらる。治承四年、讃岐前司重秀、以仁王の御子北陸宮を奉じて越中に向す。この時源義

呈し、表面に概ね平坦なり。(神社)小松原町年見川畔にあり。縣社。祭神、天照大神・豐受大神、相殿五柱。萬壽年間太宰大監平基神託により創立と傳ふ。例祭、十月九日。(母知神社)横市にあり。祭神、豐受大神命・大年神。俗に石峯稻荷・受持明神ともいふ。例祭四月二十三日。(護國寺)牟田町にあり。眞宗本願寺派。天龍寺。明治十年牟田小路に設教所として開設し、明治十五年現地に移りて堂宇を建立し現寺號を公稱。佐々木源照これが開基たり。

ミヤサキ

宮崎

明治の初め日向國に置かれし縣。明治四年十一月既肥縣(既肥藩を廢して縣とせるもの)を廢して本縣を都城に置き、大隅國の六郡及び日向國の三郡の一部を管す。六年一月本縣を廢して日向國三郡に屬する分は宮崎縣に、大隅國六郡は鹿兒島縣に移管す。

ミヤサキ

宮崎

京都府丹波國南桑田郡の北部。丹波高原の東部龜岡盆地西方の農村なり。東境は龜岡盆地西縁山地にして、花崗岩の出づる山地、其の南縁は洪積層の丘陵地なり。又其の西方は大堰川の支流にして國郡川の上流たる本梅川の流域平地を挟み、其の西方山地まで本村の地域とす。村の中心は本梅川流域の宮川にあり。北部を東西に通ずる小谷も耕地・聚落・道路の立地地帯なり。主要街道は本梅川流域平地を通り、龜岡より篠山方

と玖珠郡飯田村とに跨りて七萬六千坪、昭和十年には硫黄四三三(價額三萬餘圓)を産出し、現に重要礦山たり。礦山名は一名九州アルプスの名を以て知らるる九重山に因む。(來田見行宮)景行天皇筑紫に御親征、豊の國遠見邑より進軍來田見邑に屯在し給ひし時の行宮。景行紀に即留守來田見邑に權興宮室二面居之(宮野神社)大字佛原に鎮座。郷社。祭神、景行天皇・饒天皇外二柱。景行天皇土蜘蛛征伐の折行宮を置き給ひしが、當地の役人が祠を創祀し、のちその附近に饒天皇の祠を作り後世合して當社となれりと傳ふ。例祭十月十五日。(七里田温泉)大字七里田、大船山の東麓にあり。泉質炭酸泉。上ノ湯・下ノ湯あり。(法華院温泉)泉質、硫黄泉・鐵泉・炭酸泉。冬は積雪六〇釐一一米に達し、九州唯一のスキーの適地にして、附近には一本松遊園、菊池遊園、龍石・五本松・小田野池・山下地等の勝地あり。

ミヤサキ

宮崎

宮崎縣陸前國加美郡の北部。中新田町の西北約一軒。北は玉造郡、西は山形縣に接す。面積一五四・三六方軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、西境に翁峠(一〇七五米)・吹越山(九三九米)、北部に國見山(六五四米)、西部に紫雲山(七五六米)ありて東南方に傾斜し、田川は西南境に發源し南部を東流す。沿岸に耕地拓く。米・木炭・馬を産す。道路は南部を東西に通じ、省縣陸前東線中新田驛へは約一三軒。社線仙臺鐵道加美中新田驛へは約一三軒あり。人口密度は一方軒につき三四人なり。この地は近世、仙臺藩の公族、石村田氏の邑にして寶曆中、石

母田氏が栗原郡高清水に移り、佐沼の古内氏これに代り來り住せり。往時、宮崎古城あり、大崎家臣、宮崎民部の居りし館なりと。村内に黒瀧(高さ一五米、幅五米)・寒風潭(高さ二〇米、幅八米)あり。(魚取沼の鐵魚)指定天然記念物。田代岳の山奥にあり。尾花潭まで汽車により、それより徒歩本村押切を過ぎ縣境吹越峠を越えて到達す。沼に産する鐵魚は形金魚に類似し、普通煤褐色、全國稀に見る淡水産魚類なり。

ミヤサキ

宮崎

石川縣津洲郡にありし村。明治四十年他の二村と廢し木郎村を置く。

ミヤサキ

宮崎

愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年他の二箇村と共に廢し吉田村を置く。吉田村は大正十三年町制を布く。

ミヤサキ

宮崎

富山縣越中郡下新川郡の東北部。北は日本海に臨み、泊町の東に隣接す。飛騨山脈の最北端を占め、東南隅に黒瀧山(一〇四三米)屹立し北西に傾斜し笹川を源流す。北は斷層崖をなして海に迫り省縣北陸本線と北陸道は崖下を海に沿ひ貫通す。村内概ね山林にて耕地に乏しく濱沿の聚落は漁業を主とし、笹川に沿ふ山間の部落は林業・米作に従ふ。省縣北陸本線泊驛へ約四軒を隔つ。古くは和名抄、新川郡大部郷の内にして、中世は附近諸村と共に大家庄と稱せらる。治承四年、讃岐前司重秀、以仁王の御子北陸宮を奉じて越中に向す。この時源義

母田氏が栗原郡高清水に移り、佐沼の古内氏これに代り來り住せり。往時、宮崎古城あり、大崎家臣、宮崎民部の居りし館なりと。村内に黒瀧(高さ一五米、幅五米)・寒風潭(高さ二〇米、幅八米)あり。(魚取沼の鐵魚)指定天然記念物。田代岳の山奥にあり。尾花潭まで汽車により、それより徒歩本村押切を過ぎ縣境吹越峠を越えて到達す。沼に産する鐵魚は形金魚に類似し、普通煤褐色、全國稀に見る淡水産魚類なり。

ミヤコ

ミヤサキ

富山縣越中郡下新川郡の東北部。北は日本海に臨み、泊町の東に隣接す。飛騨山脈の最北端を占め、東南隅に黒瀧山(一〇四三米)屹立し北西に傾斜し笹川を源流す。北は斷層崖をなして海に迫り省縣北陸本線と北陸道は崖下を海に沿ひ貫通す。村内概ね山林にて耕地に乏しく濱沿の聚落は漁業を主とし、笹川に沿ふ山間の部落は林業・米作に従ふ。省縣北陸本線泊驛へ約四軒を隔つ。古くは和名抄、新川郡大部郷の内にして、中世は附近諸村と共に大家庄と稱せらる。治承四年、讃岐前司重秀、以仁王の御子北陸宮を奉じて越中に向す。この時源義

仲、この地に御所を造りて宮を建ふといふ。當國の豪族宮崎氏ここに居し宮崎城と稱す。天正十三年十月秀吉の佐々成政征伐の時、成政の將三輪權平等當城にあり。上杉景勝來り攻めて陥れ、權平を捕ふ。のち城廢す。村内に七重瀧あり。高さ二〇米、幅一米とす。〔宮崎鹿島樹叢〕指定天然記念物。城山の日本海に臨める突端にあり、シヒ・タブ・シロダモ・カラスザンセウ・ヒヤカキ等暖地性樹木多く、樹下にはシロヤマシダ・カモアアヒ・ミヤマブエイチゴ等發生す。北陸地方の樹叢として著しきものなり。

【宮崎村】福井縣越前國丹生郡のやや中央。東は吉川・豊・吉野、西は城崎・織田、南は白山・大虫、北は常盤・朝日の九嶺村に接す。三面山に包まれ北方朝日村と接する所に平原あり。農業を主とし米・野菜・繭・薪炭を産し小村内には盛に陶器即ち土管・甕類を産す。村内には古谷・熊谷・小曾原・増谷・江波・野野・櫻津・紋谷・柳田・寺・舟場・野・上野・宇須野・八田新保・八田・圓満・大谷の十八區あり。社線新浦電線は朝日村西田中より南下し途中佐々生を経て本村に入り陶ノ谷・櫻津・江波の三驛(何れも昭和三年設置)を置きて織田に至る。太古本村の中央は沼にして舟場區は昔の府中今の武生町より織田へ行く舟渡場より名づけられしといふ。大字江波も亦其の頃の名稱と云ふ。それを繼體天皇の御治水

の時常盤村上戸の鏡子目を開き給ひしを以て沼水は此の口より天正川に流出し耕地を得たりと傳ふ。大字小曾原の金刀比羅神社も昔は山上にあり、其の遺蹟ならん。大字野口に輝丸の墓と稱する五輪塔三基あり。大字八田は昔八畝田と稱せし所にて蛇谷に大蛇棲み百姓を苦しめしが親右衛門なるものこれを平定せりと云ふ。俗説に出雲神話に出づる八岐蛇を是なりと稱すれども取るに足らず。大字江波に周囲六尺高さ二十尺の神籬あり。大字寺に寺山あり、奉燈大師創建の寺十一箇寺ありし由、字名も之に據ると。(八幡神社)大字宇須野に鎮座す。相殿に式内長岡神社(天御中主神を祀る)及び天御布須麻神社(高御產巢日神・神產巢日神を合祀す)あり。共に東置によれば二位禰尼の勳通(承久三年八月)として有名なり。

【宮崎村】愛知縣三河國額田郡の東南隅。岡崎市の東方約二〇軒。三河山地の中部を占め、余村花崗岩山地より成り、東部には巴山・本宮山(七八九米)等あり。男川は村の中部を西に屈曲して流る。山地なれば農耕地少く、僅に川の流域にのみ桑園分布し、養蠶はやや見るべきものあり。山地より木材を出し、工業としては謂ゆるカラ紡として三河木綿を産出す。この地方は花崗岩地帯のため石材を出し、紅柱石の産あり。交通は男川の谷には東作手に至る道あり。鐵道の便悪し。明治

三十九年本村を廢し榮枝村大字千萬・木下を以て新たに本村を置く。古くは和名抄の額田郡麻津郷の地にして、大字龜穴には龜穴城址ありて、奥平美作守貞能之が築きて居住し、其子信昌も亦此地に住し、天正元年武田勢五千と戦ひ、のち武田氏押領して山家三方衆なる作手の奥平美作守・田峯の菅沼新三郎・長律の菅沼伊豆守交互に在番す。また瀧山城とも稱せらる。宮崎城址は今畑となり、里人稻荷屋敷と稱し、奥平監物貞昌ここに築城し、のち曲淵甲斐守城主となる。田代城址は奥平次郎左衛門貞久の居城にして、明見城址は奥平十郎左衛門の居城なり。黒谷城址は黒谷牛九郎住み、雨山城は奥平監物貞勝の守りし居たり。

【宮崎】和歌山縣有田郡にありし村。明治三十四年箕島町と改稱す。【宮崎縣】九州島東部にあり。東は日向灘に面すれども、他の三方は全く山地にて圍る。北は大分、西は熊本、西南は鹿兒島の各縣に隣接す。(地形)縣の北西に連亘する山地は壯年期に屬する高峻なる地形を示し、祖母山(一七五八米)・三方山(一五七八米)・市房山(一七二二米)・白雲山(一四一七米)・矢嶽(八四一七米)は特に聳立す。此等を連亘する山地は九州山脈と稱せられ略東北—西南の走向を示し、日本外帯に屬す。都城東方柳ノ塚山(一一一九米)・柳嶽(九五二米)の山地は分離し、大隅半島の高隈山(一一三七米)

とまた一連の山塊なるべし。縣の西南境には霧島山(一七〇〇米)・高千穂峯(一五七四米)の火山ありて南方櫻島、開聞岳・屋久島に延長する霧島火山の起點をなす。地形的に略三分され、北西部の山地、南北山地、宮崎平野の三區となる。宮崎平野と北西部山地との境界は美々津に起り、高岡町西部に達する一線を劃し斷層崖をなす。斷層崖に位して畑倉山(八四九米)・國見山(一〇三六米)・七無山(九二九米)が東部の平野に臨む。宮崎平野は美々津を頂點とし宮崎・高岡を結ぶ三角形にして南方を底邊として展開す。これは縣の南部が前記斷層により海底に沈降後隆起し、美々津以北は沈降する斜面運動による。従つて延岡より大分縣大分に至る九州山地は沈降による溺谷を生じ、所謂リアス海岸を示し豊後海峽となる。西部山地よりは五嶺瀧川・美々津川・高鍋川・一瀬川・大淀川が東流し、後三者は沖積の宮崎平野を作るも、前二者は沈降大なりしたため僅に川口に小三角洲を出すのみなり。此處に延岡・細島・美々津の都市あり。宮崎平野は更に洪積臺地が山麓にあり、その東部には沖積平野ありて海岸の砂丘に續く。宮崎を中心とする一市七町あり。縣の南西隅、大淀川の上流に小林・都城の二盆地ありて、各々其の中心都市をなす。(氣候)本縣は九州地方にても殊に氣候溫暖にして鹿兒島縣と共に一地域を形成し、土佐・紀伊の

起により形成せらる。平野の西半は洪積臺地の平原にて一〇〇米内外の高度を示す。本市は平野の中に最も經濟的地域をなす南部に位せることが現今の發達の基因をなす。本市は大淀川の三角洲にあり、又河口の土砂による砂丘上にあり。今も川口に砂洲が一ツ葉公園より南にありて離陸砂洲の形式をなす。市内にも海岸より二條の砂丘を道跡し得。市街は大淀川を挟みて南北にあり。南岸は舊大淀町のありし地に北岸宮崎町と合併し更に大宮村・植村の併合によりて今の市域をなす。今は縣廳の所在地として、宮崎高農・師範學校・中等學校あり政治・學問の中心たるも、縣廳設置前は數々たる町に過ぎざりき。省線日豊本線通じ宮崎・花々島の二驛(共に大正二年設置)あり。鐵道開通前は城ヶ崎の東西軒、大淀川口の南岸赤江港を外港とせしが今や老年期に入り人家一軒に衰微せり。市の北部には競馬場を持ち、南九州牧馬地域の刺戟をなす。海岸に面する市ながら港を持たざることは本市の一特色にして、大淀川の三角洲土砂の堆積による。市の北郊砂丘上の村は近時蔬菜の栽培に著しき躍進を示す。これは南日向の氣候温暖と砂丘のためなり。本市より出荷する促成南瓜のみにて二〇萬圓に達す。京阪神より遠く東京にも出荷す。本市附近の氣候は亞熱帶性を帯ぶ。市の南方一〇軒の海岸に近く青島あり。蒲葵の自生する地

太平洋地域と共に熱帯性植物の見らるる地方にして、宮崎市附近には無雪・無霜地さへあり。平均温度は宮崎に於て一月六・九度、七月二六・〇度、年平均一六・五度を示す。降水量は二、六〇〇㎜に達し、瀬戸内海に面する大分・福岡の諸縣地方の約二倍なり。従つて此地方の一部には年二回の米の收穫するとあり。田の耕地面積四四、八三〇町に對し五〇、九六八町の作付面積を示す。宮崎市の南方青島は蒲葵樹の自生を以て名あり。大隅に接する海岸には榕樹・蘇鐵の熱帯植物繁茂す。黒潮の北流する影響なり。(産業)天孫民族發祥地たるこの日向は開化古きに拘らず陸上は山地にて包まれ他地方と隔絶し、海面また交通幹線より外れ九州の北海道と言はれ未開の開拓地面積は北海道に匹敵す。然れども氣候的好條件に恵まれ縣下生産物總額一〇、九三三萬圓に達す。農産五五・一%、工業二八・三%、林産一三・%、水産四・%、畜産三・%、鑛産一%の生産構成なり。米は九〇三、七〇〇石を示し、日向米として名あり。麥は二六萬石にして降雨多き關係上振はす。甘藷・大豆・粟・蕎麥等の雜穀あり、菜種の産亦多し。氣候上工藝作物の特色をなすものに甘蔗あり。果實には柑橘・柿・梨あり、蔬菜園藝作物は近時非常なる發展を示し、宮崎附近砂丘地帯が生産地域の核心を示し南瓜のみにて宮崎に集中するもの二〇萬圓に達す。養蠶も各地

に行はれ産額一八五萬圓に達す。各時代の爲政者が畜産を重視し、殊に馬産獎勵の結果縣内四牧場あり。山林原野は本縣總面積の約八割を占め、林業は九州第一位なり。丸及び角材・木炭・挽材・薪・椎茸が主なるものにて、世に知らるる日向椎茸の産は全國第一位にあり。杉・松・榊・樺の巨木あり、樺も大材多く、玉木・如輪木の巨木は日向を指す他に、類を見ず、樺の巨材にて作る蒸籠は棋客の飛遷するところなり。水産額は三〇〇萬圓に上り、總額他の府縣に比して特色なきも漁業者一人當漁獲高は九州第一位にあり。鱈・鰯・鮪・鰯等有名なり。工業方面は未だ未開にして振はす、地方色のあつたものとして、本庄・妻附近の和紙製造、宮崎・兒湯・東諸縣地方の菜種油製造、兒湯・東白杵・宮崎三郡の織機製造あり。都城附近のハム製造も近來日進し發展をなしつつあり。(人口)人口八二四、四三(昭和十年)、人口密度は一〇七人(方軒)、宮崎・都城・延岡の三市と一九町七八箇町村あり。人口密度は全國有数の小密度を示し、其の開墾の遅々たるを示す。日向の歴史的發展は天孫降臨地として高千穂にして、縣下到處ところ古墳あり、石器・土器の考古學的資料に富む。交通的の隔絶が此地方を内地に於ける北海道たらしめ、縣内山地間には尙古代風の習俗を存し、社會學的に興味ある山村あり。五ヶ瀬川上流の高千穂、一

瀧川上流の米良莊は中にも山間にありて平野と隔絶し所謂山島として著名なり。(交通)鐵道開通は近年の事にして省線日豊本線開通により沿海諸都市の連絡成り、九州循環完成し大分・鹿兒島に連絡す。其の以前に於て陸路は縣北地方は大分に、縣南は都城・小林盆地等を経て鹿兒島・熊本に通ずるの餘儀なき状況にあり。従つて貨物輸送は海運にて行はれ、土土呂・細島・内海・油津・福島が大阪・北九州との連絡港たりき。日豊本線の開通は斯る意味に於て今後、縣下産業上の飛躍に資せんとするところ多し。(沿革)明治六年一月美々津・都城二縣を廢して本縣を宮崎に置き日向一國を管せしが、九年八月一旦本縣を廢して鹿兒島縣に併す。十六年五月に至り、宮崎縣を復活して諸縣郡の中、後の南諸縣郡となりし地方を除き、日向一國を管せしむ。のち三十年四月に至り、前記の南諸縣郡の地を大隅國に編入せしにより、ここに宮崎縣は日向一國を管するに至り以て今日に至る。

【宮崎市】宮崎縣の南部にありて大淀川の川口に位置す。本市は宮崎平野の中心をなす。宮崎平野は縣下第一の平野にして大淀川を底邊とし、耳川の川口の美々津を頂點とする三角形の平野なり。平野の西端は尾鈴山(一四〇五米)・國見山(一〇三六米)・大森岳(一一〇九米)の東麓が示す斷層にて東部が沈降し、其後の隆

として名あり。南日向はまた氣候が竹の生育に適し、宮崎の特産竹細工はこれを用ひ盆・菓子皿が製産する。(沿革)本市は大正十三年宮崎郡宮崎町・大淀町・大宮村の三箇町村を合併して市制を布けるものにして、昭和七年、宮崎郡檉村を廢し本市に編入し、以て今日に至る。本市は舊幕府時代は元大宮村の全部及び宮崎町・大淀町の大部は延岡藩、また宮崎町・大淀町の一部は肥後藩、檉村の大部は幕府の直轄、一部は佐土原藩に屬し、統轄せられたるものなるが、明治四年廢藩置縣後は延岡・美々津・宮崎・鹿兒島の諸縣に轉屬し、同十六年、宮崎縣の再置に伴ひ、その治下に屬し、縣廳の所在地となり、茲に發展の曙光を認めらる。今や交通機關ほぼ完備し、文化産業の發達、各種設備事業殆ど整ひ、新興都市として面目を一新するに至れり。大淀町には古墳の群集あり、殊に古城の一前方後圓墳よりは鐵と共に支那錢の貨泉が發見されしといふ。支那の墳墓より錢貨の發見の例は多きも、日本内地の古墳副葬品には珍しき例といふべし。(宮崎城)宮崎縣の西北五軒。池内と上北方とに跨りし丘陵の一部を劃して築かれし城。池内城ともいひ、宮崎附近を一時に收むる勝地にあり。建武二年、圓藤隆圓及びその子慈圓據城し、勤王軍を授けしことあり。天正年間、高橋氏の屬城にして、その將權藤原成これを守りしが、慶長五年、伊東

晴兵、急に攻めてこれを取りしを、豊臣氏命じて舊主に返さしむといふ。明治十年の役に、五月以後、薩軍ここに本營を置き、桐野利秋軍務を掌握せしが、七月三十日官軍進み大野川の右岸に至れり。賊舟を奪ひて之を拒む。官軍倉岡・城崎の二渡口より游泳して進み、宮崎市街に入る。賊抗争せずして逃る。(皇宮屋敷城)宮崎縣の西北約四軒。市内下北町上水道水源附近にあり。神武天皇の宮居し給ひし舊蹟と傳へられ、宮崎神宮攝社皇宮神社鎮座し、前方後圓型の古墳、池・古刹帝釋寺あり。池畔に神武天皇涼宮の傳説地あり。又この地には皇宮家の外、内裏跡・古都・王路坂等の地名存し、到るところに古土器の破片を散布せしことあり。(一ツ葉藩)宮崎縣の東北約四軒。花ヶ島藩より東南約五軒。市内新別府町にあり。伊弉諾尊、筑紫日向の小戸の橋の阿波岐原に渡し給ひしといふ古傳説地なり。日向の一名勝にして、白砂青松の汀は南北二山に及び、蓋か東方の海上に土佐の群山が望まれ風光雄大なり。夏季は海水浴場となる。松林中に古社稻荷神社あり、松の孤葉多きにより稻荷の名となる。(天神山)宮崎縣の西約一軒半。市内太田町にあり。丘上の展望開闊、本市街悉く脚底に落ち、遂に大洋の渺茫、白帆の徂徠を望み得。縣立農事試験園藝部があり、果樹彩草、四時美觀を呈す。(宮崎神宮)神宮町にあり。宮幣大社。

祭神、神武天皇。社傳に健甕龍命の創建にかかるといふ。舊稱、神武天皇宮・神武天皇御廟・宮崎神社・宮崎宮。建久年間、地頭土持太郎信綱宮殿を造營し、文明八年伊東祐兵衛領を獻じ、寛永二十一年延岡城主、有馬氏の宮殿の重修あり。元禄二年、有馬永純社領を寄せ、文化十年延岡城主内藤氏の宮殿修造あり。例祭十月二十六日。(江田神社)江田に鎮座。縣社。祭神、伊弉諾尊・伊弉那尊。俗に産母神社とも稱し、境内老樹蒼蒼幽靜たり。式内社。例祭十一月二十二日。(小戸神社)市内下水流町にあり。景行天皇、熊襲御親征の時、勳順によりて創建せられしと傳へ、諸冊二神を祀る。往古は大淀河口、舊の檉村下別府にありしが、のち上野町に遷祀し、更に昭和八年現地に遷徙する。(帝釋寺)下北方町にあり。曹洞宗。寺傳に推古朝創建、聖德太子帝跡寺の號を賜ふと。一時廢絶に歸し、明治初年再興成る。(景清廟)市内下北町にあり。日向に流されし悉七兵衛景清居住の跡と傳へられ、生日神社と共に、眼疾に靈驗ありとて參詣者多し。境内にある人丸塚は景清の假人丸を祀りしものなりといふ。

起伏するも東部は縣下第一の平野にして河川多く中央には大淀川が都を貫きて東南流し宮崎市を流れて日向灘に注ぐ。北境には之に沿ひて東南流する一ツ瀨川あり、南部には清武川、その南に加江田川ありて共に東流し、河口附近にて合し南部山地の北麓にて海に注ぐ。海岸は極めて平直なる海岸線を呈し砂丘の發達著しく所々に潟湖を見る。南部は山地海に没して戸崎鼻となり附近に内海の小嶺地をつくるも屈曲乏し。海上に青島浮ぶ。地味肥沃にして低地は水利よく氣候温暖と相俟ちて農耕に適し米・麥・蕎麥・菜菔・西瓜其他各種の農産物を出し、森林よく繁茂して熱帯植物もあり木材の産多し。また燃料を産し椎茸の栽培も盛なり。海岸は水産漁獲物に富む。郡内は佐土原町・赤江町の二町外九箇村を含み、人口密度は一六一人にて木花村の七八一人が最も多し。宮崎市を中心として交通よく發達す。北方より来る日向街道は東部を走りて宮崎市に入り、それより西北に向ひ本郡の中部を横切りて東諸縣郡に入り省營バス往來す。他に宮崎市より西北走するもの、南走するもの等が本郡を通過す。北部に日向街道より分れて西北に走り佐土原町を経て兒湯郡に入るものあり。省線日豊本線は南走して宮崎市に入りそれより南部を西南に通過す。北部の眞淵驛より省線妻輪が分岐して西北走し兒湯郡に至りて杉安驛に達す。中部の大淀驛よりは社

線宮崎輕便鐵道が派出し東岸を南走して内海驛に終る。此地は天孫瓊杵尊以後神武天皇に至る皇居のありし所。名稱は皇居の前、即ち宮前、意ならんといふ。續紀神皇正統二年郡名見ゆ。和名抄は宮崎に作り三也佐岐と註し飯肥・田邊・島江・江田の四郷を擧ぐ。大正十三年宮崎市が本郡より獨立す。

本西南に流れ、丹生川に合す。丹生川は村の南境を西流し、龜井田村に入りて最上川に合す。東南部は平坦にして耕地拓く。米・蕎麥を産す。省線奥羽本線大石田驛へは西南方約一〇軒。當村には金・金銀銅或は金銀銅鉛などの礦山あれど何れも振はず、其中にて山形鐵山(金銀銅山)は重要礦山に列すれども之とて名のみなり。但し瀨澤鐵山は昭和十年には金銀銅鐵二、八八一一噸を産出して重要礦山たるの名を冠かしめす。同鐵山の鐵區は宮澤村・尾花澤町及び最上部の東小國村・西小國村に跨れども本據は東小國村大字瀨澤にあり。もと宮原・瀨澤の二村なりしが之を合併して各一字を取りて宮澤村と名づく。口碑に順徳天皇佐渡よりこの地に御潛幸ありしと傳へ、いま天皇を祀る御所神社及び天皇の御陵と稱し奉る天子塚あり。(御所神社)郷社。祭神、順徳天皇。舊二十四箇村の郷民の尊崇篤し。例祭、陰曆七月十九日。

東東嶺陳前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と蒲生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。(志波神社)大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。

書けり。(熊野神社)大字宮地に鎮座。祭神、家津御子神・速玉男命・熊野久須美神を祀る。江戸時代大垣藩主戸田氏累代の崇敬篤く、又附近二十一箇村の總鎮守として崇めらる。(西法寺)大字般若畑にあり。眞宗大谷派。五雲山と號す。開澄、池田郷に一字を建立、傳教大師自作の藥師如来を安置せしに創ると云ふ。初め天台宗、廣洲山十知院と號せしも慶長年間今台の山寺號に改む。

【宮崎鐵道】私設鐵道。宮崎縣宮崎郡にあり。省線日豊本線大淀驛より分岐し、内海驛(青島村)に至る二〇・一軒。省線と連帶運輸をなす。動力は蒸氣・ガソリンを併用し軌間は一・〇六七米。

【宮地山】豊橋市の西北方約一三軒、愛知縣寶飯郡赤坂町と御津町との境上に位置する山。標高三六三米。山頂の南面には瀨美澤の岩波を望む。大寶年間持統天皇巡幸の際領官の地となりしかば山名出づと。山中に二ノ丸と稱する平地あり、宮の跡と云ふ。また山中に草壁皇子の宮居し給へる御遺跡を傳ふ。山中に落葉樹多く紅葉時は美觀を呈し、平家盛これに登りしこと源平盛衰記に見ゆ。又昔はこの山に道路通ぜしかば多くの人々この山を越えゆきしこと、東鑑・源平盛衰記等に見ゆ。

【宮地山】豊橋市の西北方約一三軒、愛知縣寶飯郡赤坂町と御津町との境上に位置する山。標高三六三米。山頂の南面には瀨美澤の岩波を望む。大寶年間持統天皇巡幸の際領官の地となりしかば山名出づと。山中に二ノ丸と稱する平地あり、宮の跡と云ふ。また山中に草壁皇子の宮居し給へる御遺跡を傳ふ。山中に落葉樹多く紅葉時は美觀を呈し、平家盛これに登りしこと源平盛衰記に見ゆ。又昔はこの山に道路通ぜしかば多くの人々この山を越えゆきしこと、東鑑・源平盛衰記等に見ゆ。

【宮澤村】山形縣羽前國北村山郡の東北部。尾花澤町の東北に隣り、東北は最上部。東は宮城縣に接す。面積六五・四三方軒。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境に翁峠(一〇七五米)・吹越山(九三九米)・北境に金山(七六三米)あり、西南方に傾斜す。赤井川は東北部に發源し村の中部

【宮澤村】宮崎縣陳前國原郡の東南部。西は玉造郡、南は志田郡古川町に接す。陳前平野の略中部に位し、西北部及び東北部に丘陵ある外全村概ね平坦なり。荒畑川は南境を東南に流れ、その支流中部を東流す。米・蕎麥・馬を産す。省線東北本線瀨澤驛へは東約一二軒。省線陳

【宮地山】豊橋市の西北方約一三軒、愛知縣寶飯郡赤坂町と御津町との境上に位置する山。標高三六三米。山頂の南面には瀨美澤の岩波を望む。大寶年間持統天皇巡幸の際領官の地となりしかば山名出づと。山中に二ノ丸と稱する平地あり、宮の跡と云ふ。また山中に草壁皇子の宮居し給へる御遺跡を傳ふ。山中に落葉樹多く紅葉時は美觀を呈し、平家盛これに登りしこと源平盛衰記に見ゆ。又昔はこの山に道路通ぜしかば多くの人々この山を越えゆきしこと、東鑑・源平盛衰記等に見ゆ。

【宮地山】豊橋市の西北方約一三軒、愛知縣寶飯郡赤坂町と御津町との境上に位置する山。標高三六三米。山頂の南面には瀨美澤の岩波を望む。大寶年間持統天皇巡幸の際領官の地となりしかば山名出づと。山中に二ノ丸と稱する平地あり、宮の跡と云ふ。また山中に草壁皇子の宮居し給へる御遺跡を傳ふ。山中に落葉樹多く紅葉時は美觀を呈し、平家盛これに登りしこと源平盛衰記に見ゆ。又昔はこの山に道路通ぜしかば多くの人々この山を越えゆきしこと、東鑑・源平盛衰記等に見ゆ。

見島本線福間驛の北に近く、最近福間市より電車通じ、参拜に便となる。

【宮地町】 熊本縣肥後國阿蘇郡の中。阿蘇中央火口丘の高嶺の北斜面より北方へ長く延びて火口原阿蘇谷の東邊に互る地域を占む。南境に高嶺(一五九二米)が聳えて北へ急斜し中腹より次第に緩傾斜となる。北部は阿蘇谷の東部を占むる爲低平なる地形なり。低地は田畑よく拓け米・玉蜀黍・里芋・大豆・茶・蕎麥・繭等の農産物を出し、山麓は牧場に利用されて畜産多く、また酒・果實の外に水産・林産あり。縣道は四方に通じ、北部の低地に市街地發達す。中部の山裾には省線豊肥線が横斷して宮地驛(大正七年設置)あり。普通旅客のほか阿蘇山に登る者常に絶えず、バスの便もよし。阿蘇神宮の鎮座地として夙に著はれ、町名宮地もこれに因みしもの。嘗ては郡役所の所在地にして、明治三十三年町制を布く。いま城内の全部は阿蘇国立公園の内とす。阿蘇神宮の大宮司或は其一族にて、何れも建武中興に足利勢と戦ひて功ありし阿蘇惟直(贈正四位)・惟成(贈正四位)・惟武(贈從三位)・惟成(贈從四位)は此地の人とす。【阿蘇神社】 官幣大社。祭神、阿蘇十二神。式内社。肥後國一宮。舊稱、阿蘇神宮。健甕命神社。また十二柱の神を祀るが故に阿蘇十二社、阿蘇十二明神ともいふ。豊行天皇の御宇創建。攝社末社多し。牡丹彦短刀・蘇登太刀等は國

寶。例祭七月二十八日。また田作・火焚・節分祭等の神事あり。【宮地村】 熊本縣肥後國八代郡の西部。球磨川の右岸に沿ひ八代町の東方約一・五軒にあり。西北は太田郷町に隣る。中部と東部には山岳諸處に聳え、北境には龍峰山(五一七米)・東南境に七一四米の山峯、南境中央に八峰山(五七四米)・西部に八丁山(三七六米)等が聳立す。西部は低地をなし東北より西南に走る八代藩層によりて山地と界す。球磨川は西境を北流し村境を離れて西折す。農業が主産業にして米・麥・柑橘類を主産物とす。特産物には七島蕎麥あり。鹿兒島街道が西部を通過し省線鹿兒島本線及び省線肥後線は此地にて分岐し八代驛(西北約一軒)に近し。古くは和名抄、八代郡高田郷の内にて。村名は八代神社あるに因り起ると。(八代神社) 縣社。祭神、天御中主尊。古來白木社・妙見宮・白木妙見堂の上中下の三宮より成る。例祭、十一月十四日。(悟眞寺) 曹洞宗。中宮山と號す。初め護國寺と稱して天台宗に屬し徳勝の妙見宮の供養院たりしが、延元年間、菊池武朝、征西將軍懐良親王遺善のため伽藍を再建、大原孝芳を請じて開山となし親王の法號眞實を以て寺號とす。應永十年曹洞宗、永平寺に屬す。天正年間領主小西行長のため殿堂悉く破却されしも、慶長年中再建、爾來舊觀に復するを得たり。本尊、釋迦如来。

【宮地村】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の東部。本渡町の南方約五軒にありて、南部は八代海に臨む。東北部には北方より深き灣入あり。西中は山岳地をなす。即ち北境には東西に走る低き丘陵あり。その南麓を東流して灣入に注ぐ河川の沿岸低地を挟みて南に三百米程度の丘陵廣く東西に連り、更に南麓の低地を距てて南に山岳地あり、南方に突出し觀音崎となる。中央部は東北より西南に連る低地をなしその中央南偏に小分水嶺ありて南北兩低地を分つため北部低地廣し。低地に沿ひて南北兩部より中央へ向ひ深き灣入あり。東部は中央低地より東に半島狀に續く處の東北より西南に長き丘陵地の西斜面を占めて中央の低地の南北兩端の東を圍み東境に鍋割山(二三三米)・屏風山等連る。中央部に耕地よく發達して米・麥、また水産・林産も多し。本渡町へバスを通じ、沿岸航路の便あり。【ミヤシ 宮道】 河内(愛知縣)の古地名。和名抄に寶飯郡宮道郷あり、美也知と訓す。その地今の寶飯郡長澤村・赤坂町の邊に當る。【ミヤシタケ 宮地岳村】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の中央部。本渡町の西部より南方約二軒にあり。東・西兩部は山地をなして中央へ傾斜するも西部の斜面地廣く西境に角山(五二六米)・失笠岳(四七九米)・行人岳(普賢岳、四七七米)等聳ゆ。中央部にはやや低地あり

りて北に發する一河川は中央を南下し、途中にて西部より東流する河川を入れ東折し東部丘陵を切りて隣村に出づ。河川沿岸に耕地拓げ米・麥・繭等を産す。縣道は南北に縱貫し本渡町へバスを通ず。【ミヤシマ 宮島】 【宮島】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に寶飯郡宮島郷あり、美也之末と訓す。その地今の寶飯郡豊川町の邊に當る。【宮島】 大阪府三島郡にありし村。昭和十年に溝咋村と合併して新たに玉島村を建つ。【ミヤジマ 宮島】 富山縣越中國西礪波郡の西北部。石動町の西北に接し、西北は寶達山脈の一部を以て石川縣能登國に界す。全村丘陵地帯にして東より南東に流る小矢部川の一支あり、流域に供き耕地あり聚落之に沿ふ。農産・林業を主産業とするもその産物も多からず。東南より西北へ一條の縣道貫通し、省線北陸本線石動驛へ約四軒を隔つ。古く保名に呼ばれ、近世は宮島郷といひ四十七箇村を統べたり。村内に二ノ瀧あり。高さ一五米、幅二五米とす。【宮島村】 京都府丹波國北桑田郡の西部。丹波高原の農山村にして、京都市の北西約七〇軒、北方福井縣大飯郡高濱・京都間の殆ど中間に位す。全村殆ど古生層より成る謂ゆる丹波高原の連綿にあたり、村の周縁部は五・六百米の山地にし

て交通を阻害すること大なり。此の山地を越える所に南に海老坂、北東部に丸鬼ヶ坂あり。川は山長川の上流大野川と其の支流たる細野川が北方の鶴ヶ岡より流れ、村の中央なる名泉附近にて合流す。本村は山間の僻地なりと雖も交通は地形上よく發達し、西方は和知に、北東方は若狭小濱へ、北は同じく高濱へ、南は周山・殿田方面に通じ、古くは若狭方面より京都へ魚類を運ぶ道路に當りし所、いま京都・周山間の省營バスは本村を經て北隣の鶴ヶ岡村に通ず。古生層の地質と雨量豊富に依り杉樹の生育に好適し、林業を主とす。山麓の傾斜面には多少の菜園も行はれ、河川の流域には米を産す。此地は平安初期の弓削郷の一部にて、禁裏御料地たりし如く、中世細川氏の所領たりし事あり。江戸時代に於ては岡部藩領たり。(通奥谷鐵山) 鐵區は當村と船井郡五ヶ莊村とに跨り、殿田驛より約一三軒の地點にあり。同鐵山は滿庵山にて昭和十年滿庵鐵一、三一〇路を出して重要鐵山に列す。(彦谷鐵山) 當村と平屋村とに跨り準重要鐵山。極く近年事業を開始したるもの、昭和十年には滿庵五二八路を出す。(大宮鐵山) 當村と大野村とに跨り準重要鐵山。昭和十年には滿庵五〇三路を出す。此等の外に本村内に試掘してや、成績を挙げたる滿庵鐵山に丹波(當村、平屋村)・宮島(原・小安谷・板橋(以上當村)等あり。(道相神社) 大字宮

【宮島村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の中。阿蘇中央火口丘の高嶺の北斜面より北方へ長く延びて火口原阿蘇谷の東邊に互る地域を占む。南境に高嶺(一五九二米)が聳えて北へ急斜し中腹より次第に緩傾斜となる。北部は阿蘇谷の東部を占むる爲低平なる地形なり。低地は田畑よく拓け米・玉蜀黍・里芋・大豆・茶・蕎麥・繭等の農産物を出し、山麓は牧場に利用されて畜産多く、また酒・果實の外に水産・林産あり。縣道は四方に通じ、北部の低地に市街地發達す。中部の山裾には省線豊肥線が横斷して宮地驛(大正七年設置)あり。普通旅客のほか阿蘇山に登る者常に絶えず、バスの便もよし。阿蘇神宮の鎮座地として夙に著はれ、町名宮地もこれに因みしもの。嘗ては郡役所の所在地にして、明治三十三年町制を布く。いま城内の全部は阿蘇国立公園の内とす。阿蘇神宮の大宮司或は其一族にて、何れも建武中興に足利勢と戦ひて功ありし阿蘇惟直(贈正四位)・惟成(贈正四位)・惟武(贈從三位)・惟成(贈從四位)は此地の人とす。【阿蘇神社】 官幣大社。祭神、阿蘇十二神。式内社。肥後國一宮。舊稱、阿蘇神宮。健甕命神社。また十二柱の神を祀るが故に阿蘇十二社、阿蘇十二明神ともいふ。豊行天皇の御宇創建。攝社末社多し。牡丹彦短刀・蘇登太刀等は國

【宮島村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の中。阿蘇中央火口丘の高嶺の北斜面より北方へ長く延びて火口原阿蘇谷の東邊に互る地域を占む。南境に高嶺(一五九二米)が聳えて北へ急斜し中腹より次第に緩傾斜となる。北部は阿蘇谷の東部を占むる爲低平なる地形なり。低地は田畑よく拓け米・玉蜀黍・里芋・大豆・茶・蕎麥・繭等の農産物を出し、山麓は牧場に利用されて畜産多く、また酒・果實の外に水産・林産あり。縣道は四方に通じ、北部の低地に市街地發達す。中部の山裾には省線豊肥線が横斷して宮地驛(大正七年設置)あり。普通旅客のほか阿蘇山に登る者常に絶えず、バスの便もよし。阿蘇神宮の鎮座地として夙に著はれ、町名宮地もこれに因みしもの。嘗ては郡役所の所在地にして、明治三十三年町制を布く。いま城内の全部は阿蘇国立公園の内とす。阿蘇神宮の大宮司或は其一族にて、何れも建武中興に足利勢と戦ひて功ありし阿蘇惟直(贈正四位)・惟成(贈正四位)・惟武(贈從三位)・惟成(贈從四位)は此地の人とす。【阿蘇神社】 官幣大社。祭神、阿蘇十二神。式内社。肥後國一宮。舊稱、阿蘇神宮。健甕命神社。また十二柱の神を祀るが故に阿蘇十二社、阿蘇十二明神ともいふ。豊行天皇の御宇創建。攝社末社多し。牡丹彦短刀・蘇登太刀等は國

【宮島村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の中。阿蘇中央火口丘の高嶺の北斜面より北方へ長く延びて火口原阿蘇谷の東邊に互る地域を占む。南境に高嶺(一五九二米)が聳えて北へ急斜し中腹より次第に緩傾斜となる。北部は阿蘇谷の東部を占むる爲低平なる地形なり。低地は田畑よく拓け米・玉蜀黍・里芋・大豆・茶・蕎麥・繭等の農産物を出し、山麓は牧場に利用されて畜産多く、また酒・果實の外に水産・林産あり。縣道は四方に通じ、北部の低地に市街地發達す。中部の山裾には省線豊肥線が横斷して宮地驛(大正七年設置)あり。普通旅客のほか阿蘇山に登る者常に絶えず、バスの便もよし。阿蘇神宮の鎮座地として夙に著はれ、町名宮地もこれに因みしもの。嘗ては郡役所の所在地にして、明治三十三年町制を布く。いま城内の全部は阿蘇国立公園の内とす。阿蘇神宮の大宮司或は其一族にて、何れも建武中興に足利勢と戦ひて功ありし阿蘇惟直(贈正四位)・惟成(贈正四位)・惟武(贈從三位)・惟成(贈從四位)は此地の人とす。【阿蘇神社】 官幣大社。祭神、阿蘇十二神。式内社。肥後國一宮。舊稱、阿蘇神宮。健甕命神社。また十二柱の神を祀るが故に阿蘇十二社、阿蘇十二明神ともいふ。豊行天皇の御宇創建。攝社末社多し。牡丹彦短刀・蘇登太刀等は國

【宮島村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の中。阿蘇中央火口丘の高嶺の北斜面より北方へ長く延びて火口原阿蘇谷の東邊に互る地域を占む。南境に高嶺(一五九二米)が聳えて北へ急斜し中腹より次第に緩傾斜となる。北部は阿蘇谷の東部を占むる爲低平なる地形なり。低地は田畑よく拓け米・玉蜀黍・里芋・大豆・茶・蕎麥・繭等の農産物を出し、山麓は牧場に利用されて畜産多く、また酒・果實の外に水産・林産あり。縣道は四方に通じ、北部の低地に市街地發達す。中部の山裾には省線豊肥線が横斷して宮地驛(大正七年設置)あり。普通旅客のほか阿蘇山に登る者常に絶えず、バスの便もよし。阿蘇神宮の鎮座地として夙に著はれ、町名宮地もこれに因みしもの。嘗ては郡役所の所在地にして、明治三十三年町制を布く。いま城内の全部は阿蘇国立公園の内とす。阿蘇神宮の大宮司或は其一族にて、何れも建武中興に足利勢と戦ひて功ありし阿蘇惟直(贈正四位)・惟成(贈正四位)・惟武(贈從三位)・惟成(贈從四位)は此地の人とす。【阿蘇神社】 官幣大社。祭神、阿蘇十二神。式内社。肥後國一宮。舊稱、阿蘇神宮。健甕命神社。また十二柱の神を祀るが故に阿蘇十二社、阿蘇十二明神ともいふ。豊行天皇の御宇創建。攝社末社多し。牡丹彦短刀・蘇登太刀等は國

部に松倉山(二九一米)聳え、全山山地多
くして、吉田川の二支流は西部と中部を
東北に流れ、村の東北部は稍平坦なり。
米・麥・繭・木炭を産す。社線仙臺道黒川
小野郡・宮谷郡(共に大正十二年設置)あ
り。この地は近世、仙臺藩の一門、伊達
肥前の居邑なり。村内に古墳あり、天正
年中、鶴田信濃の居りし所。

【宮床】 省線日豊線の一部。福岡縣田
川郡にあり。省線田川線後藤寺驛より宮
床驛(糸田村)に至る二・八軒、及び貨物
専用線宮床驛より分れて豊國驛(糸田村)
に至る〇・五軒を含む。途中、宮床驛に
て社線産業セメント鐵道に接続す。

【宮床】 宮床線の一驛(明治三十年設置)
福岡縣田川郡糸田村にあり。

ミヤトコロ 宮所

【宮所】 延喜式に見ゆる信濃國の牧名。
↓伊那郡(長野縣)

【宮所】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名
抄に山田郡宮所郷あり、美也止古路と調
す。今の木田郡前田村の邊に當る。
【宮所】 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名
抄に神埼郡宮所郷あり、美也止古路と調
す。その地は今の神埼郡城田村の邊に當
る。

ミヤノ 宮野

【宮野村】 宮城縣陸前國原郡の東部。
築館町の北に接す。面積八・六七方軒。
陸前平野の北部に位し西北中部は丘陵を
すなも、東南部は平坦なり。一迫川は東
北に流る。

境を東北に流る。米・繭・麥を産す。陸羽
街道は東北方より東に東に通過し、築館
町へパスの便あり。安寧天皇の皇子この
地に落ち來まし、その所を「宮」といふ。
天皇崩御の後、皇子陵を此地に築きて之
を守る。宮野の地名は之に出づ。舊奥
州街道の宮野宿のありし所。

【宮野村】 山口縣周防國吉敷郡の北部。
山口市の東に連り、北は阿武郡、東は仁
保村、南は大内村に界す。面積三七・七
六平方軒。北部と東部に山脈連りて龍門
嶽(六八八米)郡界をなし、木戸山(五四
七米)は仁保村界に聳ゆ。西南部に地勢
傾きて横野川流域に山口市に連る平地開
け、耕地多し。北部と南部は山林なり。
米・麥・繭・木炭・用材・酒・醬油等を産す。
省線山口線は平地を東西に貫通し宮野驛
(大正六年設置)を置く。また國道山口市
より來りて仁保村に通じ、途中に縣道を
分岐北走せしめ萩市に達す。各々大寺領
たり。〔當榮寺〕野宮に在り、東大寺領
寺は初め妙喜寺と稱せられ、文明年間の
創建にかり、開基大内教弘の子大内政
弘がその母妙喜尼のため雲舟に命じて築
庭せしむといふ。東・西・北の三方は同
體を以て圍まれ、南面開けて小谷地とな
りし所に設けられ、中央に心字池あり、
池中に舟形岩・魚籠岩及び靈鷲鳥等あり。
【寺内文庫】 この地は故元帥寺内伯の
生地にして、文庫はその遺品を蒐めたる

水都出水町に界す。東南部にて北の一
帯が内川の左岸に沿ひて東北に長く突出
す。北隣の鶴田村内に當所所屬の飛地あ
り。西北隅に紫尾山(主上宮山一〇六
七米)一帯の山地聳えて東南方へ傾斜し、
中部にて臺地状の丘陵となる。東南部に
も三―四百里の山地あり。川内川は突出
部の西岸に沿ひて西南流し更に中央東南
部を貫きて西南に流る。西北より來る一
支流これに合す。川内川に沿ひて湯ノ元
温泉あり。米・繭の産多し。産す。工
産・畜産共に多く林産も豊富なり。縣道
が西北より東南に貫通して出水町及び南
隣の山崎村に出で、東南部にて分れて東
北に向ひ伊佐郡大日町に出づる縣道もあ
り。その分岐點に市街地あり。省線宮之
城線は東南部を貫通し船木驛(昭和十一
年設置)・宮之城驛(大正十五年設置)・陸
前湯田驛(昭和九年設置)あり。大正八年
町制を布く。古くは郡府の内に於て近
世は南伊佐郡に屬せし、のち陸前郡に
入る。大字虎居に虎居城址あり。虎居城
は往古大前氏の居りて宮之城と稱す。舊
記に據れば康治年中、郡府院又太郎大前
道助、また建久年中、郡府院又太郎大前
道秀、共に郡府院の郡司たり。また建永
の頃に坂目六郎出羽より入部ありて地頭
となる。寶治二年鎌倉直隸倉より來り
て地頭となり代々當城に住せしが永祿の
頃高橋元、秀吉九州征伐のち島津忠永
に宮之城郷を給はる。(宮之城温泉)川

ものにて、別に朝鮮時代の伯を偲ぶ朝鮮
館あり。(仁聖神社)大字宮野下に鎮座。
縣社。祭神、表筒男命・中筒男命外三神。
式内社。古く仁戸宮と云ひ土俗奉らるの三
宮と呼べり。例祭、十月二十八日。(初瀬
觀音堂)古義眞言宗。當初堂塔伽藍壯麗
を極めしも文祿十二年大内輝弘の亂に一
山焼亡、後ち現寺地に移り再建さる。明
治初年獨立佛堂となり現に山口市八幡馬
場町古義眞言宗高野末神禰寺の管理に係
る。木尊十一面觀音立像(木造)一軀は國
寶。(雲谷寺)舊址。兼僧雲舟居住の寺。
雲谷庵ともいひ、正しくは雲ヶ谷澄清寺
と云ふ。

【宮野村】 福岡縣筑前國嘉穂郡の東南隅。
大隅町の東南に接し北は山田町に接す。
東は田川郡に南は朝倉郡に界す。東境に
は戸谷ヶ岳を中心として山脈が東南より
西北に連る。南部と西南部にも山脈が續
き、西南隅に馬見山(九七八米)ありて北
方へ廣く傾斜して西境をなす。西北部に
はやや平野開け東南境に發する嘉麻川は
中央を貫きて西北流す。米を産す。大
隈町へパスを通す。古くは和名抄、嘉麻
郡馬見郷の内とす。宇佐大鏡に嘉麻郡宮
吉、名田百町を朝別新庄と號すとあるは
即ち此地にして、いま大字に宮吉あり。
【高木神社】 縣社。祭神、高皇產靈命。
黒田長政を始め、累代國主の崇敬社。例
祭、十月九日。

部。甘木町の東東南方約六軒に位し、南
方約一軒に筑後川が西流す。東部より北
部にかけては山地をなして西方と南方へ
傾斜す。西南部は筑紫平野東北の一部を
占むるため地形低平なり。米・麥・繭を産
す。西南部を縣道及び社線朝倉軌道西北
より東南に通過し比良松驛あり。村内に
齊明天皇朝倉行宮址あり。齊明天皇の六
年、天皇自ら新羅より百濟を征討し給は
んとして、朝倉に行宮を營み之を橋廣庭
宮と名付けて駐蹕の地と定め給ひしが、
翌七年終に此地に崩御あらせらる。往昔
はこより礎石など多く掘出せし事あり
といふ。また瓦處といふ處には今も猶ほ
古瓦の破片を發掘す。(南津寺)古義眞
言宗。大同元年に僧最澄の開創。もと上
座郡長岡に在り、貞和二年現地に移る。
薬師如來(木造)は國寶なり。

ミヤノウチ 宮ノ内

福岡縣山門
郡にありし村。明治四十年に外三箇村と
共に廢され、新たに三橋村を置く。

ミヤノウラ 宮ノ浦

陸前平野、
屋久島の中央部に聳る山にして、九
州第一の高峯なり。鹿兒島縣鹿毛郡上屋
久・下屋久の二村境上に跨り、標高一九
三五米を算す。大洋中に位するを以て年
雨量三〇〇〇―一八〇〇〇に達し、森
林繁茂し、美林をなし、特に屋久杉は名
高し。山頂部はヤクシマササが密生し、
また數種の珍奇なる高山植物生育し、殊
にヤクシマヤクシマササ・ヤクシマリンダ

ミヤノカワチ 宮野河内村

熊本縣肥後國天草郡天草下島の東南部。
八代海に臨む。西境には大杉山・柱長(四
三二米)等の山岳連る。東岸は沿岸に狭
小なる低地がつき北半は稍々屈曲して
親崎・野崎の突出あり。中央には陸地が
半島状に東方へ延び、その中央に堀木岳
(二五四米)聳ゆ。半島の南に八幡ノ瀬戸
を距てて産島の秀島浮ぶ。産島の約一軒
東南の海上なる上の島に燈臺あり。都落
は海岸に點散して漁港をなす。農産・林
産もあり。島内各地に自動車道、近海
に汽船便あり。

ミヤノコシ 宮ノ越

長野縣西筑
摩郡日義村の大字。省線中央本線の宮ノ
越驛(明治四十三年設置)を置く。

ミヤノシタ 宮ノ下

【宮ノ下】 温泉村(神奈川縣)
【宮ノ下】 臺灣總督府鐵道淡水線の一驛
(大正四年設置)。臺北市大宮町にあり。

ミヤノジョー 宮之城

【宮之城町】 鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の北
部。川内町の東北約五軒にありて川内川
に跨り、東南より西北に長く西北部は出

内川の上流に沿ひて紫尾山を西に望む。食
鹽含有硫黄泉及び單純泉とありて、皮膚
病・ロイマチス・瘰癧・婦人病に効あり
と云はる。(藤ノ瀬)大字虎居にあり。
永野金山より流下する金山川の合流點に
して、その高さ約四米に過ぎざるも幅は
二百米にも上り奇巖怪石散在し濤津瀾狂
奔して壯觀なり。(松尾神社)大字屋地
に鎮座。祭神、大山咋神。慶長の
頃、島津圖書頭忠長の臣稻宮掃部長之の
創祀と傳ふ。例祭、十一月十五日。

ミヤノジ 宮ノ陣村

福岡
縣筑後國三井郡の西部。筑後川の右岸に
位し、川を挟んで久留米市の東北に接す。
西北は佐賀縣三養基郡に界す。全村地形
低平にして筑後川は南境を西流し、西南
隅に至りて一軒餘北流し西境は是に沿ひ
更に村境を離れて久留米市の北を繞りて
西流す。寶満川は北方より來りて西北境
に沿ひて西南流し筑後川に合す。米を産
す。東部には縣道が縱斷して久留米市
及び甘木町にパスを通す。村内の筑後川
の渡を宮地ノ渡といふ。傳ふるところに
據れば、正平年間の山限合戦に、菊池勢
はこを横絶して敵を襲へり。古書に大
杜ノ渡といふ。いま大字に大杜あり。村

ミヤノハラ 宮原町

熊本縣肥後
國八代郡の西北部。八代平野の中央東邊
を占め、八代町の東北約六軒にあり。東
中は山地をなし南境に五四二米の山峯あ
り。これ等の山地は中央に於て東北より
西南に走れる八代斷層に移る。西半は八
代平野の一部にて地形低平にして沃野連
る。北部に水川ありて北西方へ貫流す。
生業を戸數別に見れば農業は三四九戸・
商業は一五九戸・工業は七六戸・交通業
は一九戸・公務自由業は三一戸・無職八
戸なり。山麓に沿ひて鹿兒島街道が通過
してパスの往來盛なり。西北境近くに省
線鹿兒島本線の有佐驛(有佐村)あり。古
くは和名抄、八代郡肥伊郷の内なるべし。
細川家藩政の初め、奉行を置きし處にし
て、もと火村と稱せりといふ。村名は三
宮妙見菩薩の神祠あるより起るといふ。
明應年中、宮原左兵衛尉公廣といふ郷
士ありて、大いに妙見の靈符を信ずと。

ミヤノ

西三

蓋し在名を負ひしものならん。明治十年西南役に賊軍の地に城壘を築きしも官軍の爲に一掃せられたり。〔立神岩〕米川上流の右岸に聳ゆる懸崖にして白岳とも稱し、絶壁高さ八五米、横二三七米、直下深淵なり。磐面に白き縦線ありて恰も瀑布の如く、白濁の名あり。岩上に小堂あり無野神を祀る。〔宮原三神宮〕大字宮原に鎮座。郷社。祭神、國常立尊・天照皇大神・神日本磐余彦尊。應保元年小松内府の勸請にして、舊稱三宮妙見。例祭、十月二十九日。

ミヤノメ 宮野目村

岩手縣陸中 國神貫郡の中部。花巻町の東北に接す。北上平野のほぼ中部に位し、全村概ね平坦にして北上川は東境を東方に迂回して南流し、瀬川は南部を東南に流れ、北上川に合す。村の生業は農を主とし、米・蕎麦を産し、また蘆を産す。陸羽街道は村の西部を南北に通じ、花巻町へは自動車便あり。省線東北本線花巻驛へは南約三軒あり。〔花輪堤花菖蒲群落〕指定天然記念物。大字西宮野目花輪堤にあり。本州北部に於ける花菖蒲群落の代表的密生地にて、花色の變異に富み、時節の出現するとは共に學術上有益なるものなり。花色の種々なるは即ち淡紫色、濃紫色、瑠璃紫色に至る紫色群に屬するものと、濃赤紫色より淡赤紫色に至る赤紫色に屬するものとあり。此の中最も多きは赤色花にして、往々色彩の濃艶なるものあり。

ミヤハハ 宮濱村

徳島縣阿波國那賀郡の中部。西は坂州木頭村に、北は福原村に、東は相生・日野谷二村に界し、南は海部郡に隣す。四國山脈中にある山村にして、北端には龍崎屹立して南にその山脚を伸じ、東南方には八郎山とその連嶺に伸び山岳重疊して峻險なる山岳地をなす。中央部を那賀川貫入蛇行しつつ東に貫流す。流域は僅かに河谷開けて米・蕎麦・蕎麦を産す。川に沿うて縣道中北部を東西に通じバスの便あり。

ミヤハラ 宮原

〔宮原村〕埼玉縣武蔵國北足立郡の中部。大宮町の北隣にて東北は原市町、北は上尾町と隣す。關東平野内の一部を占め、全村平地にて蕎麦・米を産し、養蠶も行はれて繭の産あり。中山道は大宮町より來り北走して上尾町に入り、省線高崎線これに沿ふも村内に隣なく大宮驛・上尾驛へバスを通ず。

〔宮原〕廣島縣安藝郡にありし村。明治三十五年に和庄町・莊山田村・二川町と共に廢されて吳町(明治三十五年市制を布く)を建つ。〔宮原線〕省線久大線の一部。大分縣玖珠郡にあり。久大本線惠良驛より分岐し寶泉寺驛(南山田村)に至る七・三軒。〔宮原村〕山梨縣甲斐國西八代郡の西部。富士川左岸の山裾を占むる面積僅か一・二五方軒の山村。村は東より西へ傾斜し四方一・二軒の地を富士川は南流す。農耕・養蠶を主とす。鐵道省借入富士身延鐵道貫通し甲斐岩間・久那土兩驛の中間にありて何れへも一軒前後の道程なり。いま鴨狩津向村・葛籠澤村と組合村となし、役場を本村に置く。〔淺間神社〕宇御領土に鎮座。郷社。祭神、木花咲耶姫命・天照皇大神。例祭、十月十五日。〔宮原村〕和歌山縣伊勢國有田郡の西北部。有田川の北岸に沿ひ保田村を隔てて箕島町の東にあり。北境には長峰山脈に屬する白倉山一帯の山脈が東西に連る。南境には有田川が西流して沿岸平野發達せり。低地は米・蕎麦を産し山麓斜面は蜜柑栽培盛にして外に工業・畜産・林産・水産あり。省線紀勢西線が南部を東西に走り紀伊宮原驛(大正十四年設置)あり。〔廣利寺〕大字須谷にあり。臨濟宗妙心寺派。沿革不詳。十一面觀音立像(木造)一軀は國寶なり。

ミヤホ 宮保村

石川縣加賀國石川郡の西部。西北の一部は日本海に面す。松任町の西北方約三軒。全村土地平低にして豊潤、殆んど水田をなす。米を主産し海岸には漁業も稍行はる。東南部を縣道と省線北陸本線が共にかすめ過ぎ、後者の加賀笠間驛に最も近し。もと笠島村と稱せしが、明治三十二年宮保村と改稱す。大字小川を舊名小川領といひ、壽永二年源平の戦に、平家方大敗、この地に走り、暗夜暴風に遇ひて溺死する者多かりしといふ。〔宮保八幡宮〕大字宮保に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神・豐受姫命・八幡大神。舊稱八幡社。もと笠間神社の攝社。例祭、十一月十五日。

ミヤマ 三山村

徳島縣阿波國麻植郡の西北部。山瀬村・川田町の南に村に東は學馬・東山の二村に、南は中枝村に界し、西は美馬郡に隣す。西南隅には一干米餘の奥野山、西には高越山を聳立して東北に傾斜し、その前方には山岳重疊して高峻なる山村をなす。吉野川上支流は南部の山腹より溪水を集めて北流し、途中にて東方より來る支流を合して西北方に流下す。流域の河谷には少しの耕地

拓かれて農耕をなす外平地なし。産物に米・蕎麦・蕎麦あり。西部に高越嶺山あり。山間の僻村なるため交通は不便、省線徳島本線脇立驛・山瀬驛へ各四軒にして達す。此の地は忌部氏の拓きたる山村なりと云ふ。村名は種野山・川田山・桁山の三村を合せし故に起ると云ふ。〔高越嶺山〕村内に約二八萬坪の鐵區を有し、奥之井川の西岸に位す。鐵區の地質は結晶片岩系に屬する藍閃・石黒・紅燐・綠泥等の片岩の五層狀態にある變質岩にして、鐵體は多く綠泥片岩を交代礦化せしめたる變質交代床なれば、綠泥片岩中に脈胎す。走向またこの變質岩のそれに隨ふ。昭和十年の産額は含銅硫化鐵一二、九二五噸、銅鐵八、七六六噸、沈澱銅二噸にして、銅鐵及び含銅硫化鐵の銅分は佐賀關製鍊所に送致して合併製鍊す。當嶺山は明治初年の發見なれども振はず、大正の中頃に富嶺部に達着して發見の曙光を見る。現在日本鐵業會社採行。

ミヤマ 見山村

大阪府攝津國三島郡の北部。茨木町の北方六軒餘に位し、西は豊能郡に、北は京都府南桑田郡に界す。全村低山性の山岳丘陵に起る。南部には龍王山(五一〇米)の孤峯あり。東境には地獄谷(四二二米)聳ゆ。東部は茨木川が村を貫きて南下す。農産・林産・畜産等を産し工業額最も多し。西南部には縣道通じて茨木町方面へ出てバスの便あり。この地は和名抄、島下郡安

成郷の内なり。〔美山村〕福島縣磐城國田村郡の北部。三春町の東方約九軒。東南は常葉町に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東境に移岳(九九五米)、南境に愛宕山(五五一米)聳え、西方に傾斜し全村概ね山地をなす。米・蕎麦・蕎麦・馬・木炭等を産す。道路は西南部を南北に通じ、南方の片倉根村、東北方の移村へバスの便あり。〔美山村〕岡山縣備中國小田郡の中部。矢掛町の西北に連り、北は川上郡に境界す。東に宇戸村・美川村、西に堺村に接す。面積一五・六四平方軒。龍王山(五〇五米)の南麓を占め、村内概ね山地なれども高からず。中央部より西南部にかけて一般に地勢低下す。龍王山麓に耕作行はる。南部山地に鐵葉樹林繁茂す。米・蕎麦の産多く、蕎麦・木炭これに次ぐ。柿・薄荷等を少額産出す。矢掛町へ里道によりバスの便あり。

ミヤマ 美山

〔宮前村〕埼玉縣武蔵國比企郡の中部。松山町の西隣にあり。北半は丘陵地にて西北部に二ノ宮山(一三二米)あり。東北境を沿川東南に流れ、南部を市ノ川東流し、兩川の流域一帯には平地開けて關東平野の西の一部をなし、川沿ひに水田多く他は畑地をなす。農産は米・蕎麦・蕎麦を産し、養蠶も盛にて繭の産額多し。縣道は松山町と西南隣の菅谷村に通じ、松

ミヤマ 宮前

山町に社線東武鐵道東上線武州松山驛、菅谷村に同線武蔵嵐山驛を置く。また北走する縣道は北方約九軒なる熊谷市に通ず。〔伊古乃連御玉姫神社〕大字伊古に鎮座。郷社。祭神、氣長足姫命外二神。式内社。舊稱、淡洲明神。例祭、十月十五日。〔宮前村〕三重縣伊勢國飯南郡の中部。熊田川の中流に跨り粥見町の西に接す。松阪市より西西南約一八軒の距離にあり。西北は一志郡に南は多氣郡に界す。北境には局ヶ嶽(一〇二八米)を中心として東西に山脈連り南境にも約六〇〇米の山脈あり共に中央に傾斜す。熊田川は屈曲しつゝ、中部を東流し沿岸には稍々低地開く。主生業は養蠶および製炭なり。和歌山街道が中央を河谷に沿ひて通過し松阪市へ自動車便あり。北部の庄司越を過ぎ雲出川沿岸に出づる山道あり。〔花岡神社〕大字宮前に鎮座。郷社。祭神、大山祇命・八柱皇大神・市伎鳥姫命。例祭三月十一日。〔慶法寺〕眞宗大谷派。含鐵山と號し、初めは馬頭觀世音を安置して禪宗に屬せり。紀伊大納言頼信は六箇所の寺領を寄進してより以後は寺運隆盛となる。

ミヤマ 三山木村

京都府山城國綴喜郡の西南部。木津川西岸なる純農村。地形西部は生駒山脈の北の連嶺たる洪積層の丘陵地にて、漸次東方木津川筋に傾斜し、東半平地は肥沃なる山城平野

の一部分なり。舊奈良街道は府下八幡・淀方面より來り、本村の中央を南北に貫し、これに併行し鐵道片町線、奈良電と三種の交通線並びに通じ交通至便なり。また西方河内方面より、舊筒城宮の所在地たりし普賢寺村を経て、本村山本より玉水橋を渡り橋氏の故地にして山吹の名所たる對岸井手に至り東國に通ずる東西の通路も早く發達せり。本村は和名抄、綴喜郡山本郷の地、いま大字山本は蓋しその遺稱を傳ふるもの。山本郷は其の發生極めて古く、既に續日本紀に記載する和銅四年始めて設置せし驛停山城國綴喜郡山本驛は實に之なり。奈良の都より那羅山を越えて岡田驛(相樂郡木津町)を過ぎ、三山木驛を越え、河内國楠葉驛に至るものにして、當時この方向第一の官道として開け居たるを知るべし。また三代實錄に貞觀十二年綴喜郡山本郷山崩陷の事を記するも本村山本の事なり。單に山本のみならず宇樂落の發生も極めて古く、山本の南方江津は、古事記開化段に云、山代之在名津比賣は江津の産と言はれ、式内佐牙乃神社は又江津に鎮座す。此等古來落は何れも倭里式村落にして地割整然たり。〔佐牙神社〕大字宮津に鎮座。村社。祭神、佐牙彌豆男神(右殿)・佐牙彌豆女神(左殿)。式内社。延暦十三年の創建と云ふ。本殿は國寶なり。例祭、十月十七日。〔普賢寺〕大字三山木にあり。古義眞言宗。同運山と號す。沿革不詳。

ミヤマ 三山木村

京都府山城國綴喜郡の西南部。木津川西岸なる純農村。地形西部は生駒山脈の北の連嶺たる洪積層の丘陵地にて、漸次東方木津川筋に傾斜し、東半平地は肥沃なる山城平野

もと寺屋敷なる地に在りしも、木津川の水害を避けて現在の地に移れりと云ふ。...

ミヤモト 宮本

【宮本村】 福島縣磐城國東白川郡の東北郡。石川町の東南約一三軒。東及び東南は石城郡、北は石川郡に隣接す。...

も行はる。縣道は河沿に貫通し社線長岡鐵道の上除驛へバスを通す。...

【宮本村】 山梨縣甲斐國中野郡の東北隅。北は關東山脈中の金峰山(二五九五米)...

【宮本村】 三重縣伊勢國度會郡の東部。宮川の右岸に沿ひ、北及び東は宇治山田市に隣る。...

ミヤモト 美谷本村

【美谷本村】 埼玉縣武蔵國北足立郡の南部。浦和市の西南方にて間に六辻村をばさみ荒川の東岸にあり。...

水平方向に著しき柱狀形發達す。ズサ川が猪坂の北麓にて岩脈を横ぎる部分に於て殊に偉觀を呈す。...

【宮本村】 三重縣伊勢國度會郡の東部。宮川の右岸に沿ひ、北及び東は宇治山田市に隣る。...

【宮本村】 三重縣伊勢國度會郡の東部。宮川の右岸に沿ひ、北及び東は宇治山田市に隣る。...

ミヤモト 宮守村

【宮守村】 岩手縣陸中國上閉伊郡の西部。花巻町の東方約二〇軒。...

ミユキ 幸行

【行幸村】 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の北部。幸手町の西北隣にある小村にて面積僅かに三・六九平方軒なり。...

ミユキ 御幸

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を置く。...

多く發生し、六月二十日頃より七月十五日頃までは夜々襲撃を呈す。...

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を置く。...

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を置く。...

ミユキ 深雪

【深雪】 埼玉縣東岸郡の深雪町(明治四十四年設置)を置く。...

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を置く。...

殊に顯著なるものなり。即ち奥室右壁に朱にて上下二段に縁の圓象並列して描か

【御幸村】熊本縣肥後國飽託郡の東南部。東南隅は熊本市の南隅に接す。全村地形平坦にして数條の細流が村を流して西に流る。南方〇・五軒ならずの地を緑川が西流す。農業を主生業とし米・麥其他野菜を産し養蠶亦盛なり。養の特産あり。

ミヨカ

【三代村】 福島縣岩代國安積郡の西部。北は月形村、東は中野村、西は福良村に、南は岩瀬郡長沼町に接す。南北に長く約八軒、東西三十四軒あり。四

り、北方猪苗代湖に向ひて低夷するも、なほ北境に高森山(七五七米)あり。南部山地の水は北流し舟津川となりて湖に注ぎ、下流沿岸に耕地ひろく。米・麥・蕎麥の産あるも、資源豊かならず。茨城街道は中部谷沿ひに走り北西は三王坂を踰えて若松市方面に、南は勢至堂峠を経て白河方面に通ず。勢至堂峠は戊辰の役に

【妙見山】 那須火山帯淺間火山群に属する一峯。群馬縣北甘樂郡の西北部に起り北方は碓氷郡の西南部に達し、北甘樂郡妙義町・小坂町・西牧村と碓氷郡白井町・松井田町の五箇町村に互る。古より権名山・赤城山と共に上毛三山のひととして數へられ、山勢秀拔、巖々たる奇峯天表に聳え、神奔鬼驅を極めたる尖峯は普く人口に膾炙し、信越線磯部・松井田・横川驛附近西方の車窓近くその山姿を窺見し得らる。妙義山は三聯の山峯より成り、東南部を金鶏山、東北部を白雲山、西部を金洞山と呼ぶ。金洞山は東方より望む時、金鶏・白雲の中間に見ゆるにより中ノ岳ともいふ。この山第三紀層に属する凝灰岩と凝灰質泥岩とを基底とし、その上は集塊岩(西南方荒船山を構成すると同種のもの)にて被る。堅岩はその獨特の岩質と東西に走る垂直の割れ目に應じて峙ち、經弱部は崩壊し、終に今日見る奇峯を形成するに至れり。又一説に妙義は一箇の獨立せる火山體にして、

一支流東流す。山地一帯森林多く、川沿ひに水田、東部に畑地ありて農業行はれ米・麥を産し養蠶も盛なり。又、絹織物の製造行はる。縣道四方に通じ、北は小川町、南は越生町に至り、共にバスを通ず。省線八高線は東部を縱走し、明覺驛(昭和九年設置)を置く。この地は往時、妙覺郷と稱せし地なり。

【妙義山】 朝鮮の北部に於て略ぼ平安南・北兩道の境界線上を走る山脈。狼林山脈の南縁に起り狼林山(二〇一四米)より西南方へ走り舞臺峯(一七六二米)・妙香山(一九〇九米)等を聳立せしめて清江江畔に達するものを主脈となし、餘勢更に西南に延びて龍門山(一一八〇米)・

現在の三峯はほぼ半圓形に連互するを指摘し得られ、その中央に存する低窪地は舊時の噴火口の跡と考へられ、往時は秀麗なる尖圓錐形なりしが、爆裂作用と長年月に互る風雨米雪の作用に依り漸次山體削磨せられ、遂に今日の山姿を形成するに至れり。白雲山は甚だ急峻なる傾斜を有す、標高一〇八一米。山軸は南北に走り、經線面はその兩側の上部分に東側に長く登達す。金洞山はややく連山をなし、山軸は東西に走り、上部の絶壁面も之に沿ふ。最高點は一〇四米に及ぶ。山腹には數箇の石門と奇岩あり、登山探勝者多し。金鶏山は金洞山の南東に位し、その一肢脈をなし、山軸は東西に走り、最高點八五八米なり。經線面の發達は他の二山に及ばず。要するに妙義三山はその山頂甚だしき高低の差なく相續き、山頂より下にはその山軸の兩側に高さ數十米乃至百數十米の絶壁面聳立し、絶壁の下には小懸崖・直立板狀岩・柱狀岩等を見るなり。登山は信越線松井田驛より自動車にて妙義町に至り、それより各峯に登る。新緑の候の鶯、夏の郭公、秋の紅葉を賞して來り遊ぶ者多し。先づ白雲山登山は妙義町より山麓妙義神社に參拜し、その後より急坂約一軒にて大の字岩に着し、鶯鳴の瀧・芝神の瀧を過ぎ神天岩を経て奥の院に至り、東に四つ這等の難所を通り山頂に達す。山頂より北東平野の眺望よろし。金洞山は

【妙香山】 朝鮮の北部に聳ゆる名山。古くは太白山と稱し、朝鮮四大名山の一。平安北道熙川郡眞面・南面及び寧邊郡北嶺觀面・百嶺面と平安南道寧邊郡太極面等に跨る一大山脈にして、最高峯は昆盧峰と稱し南面・眞面・北嶺觀面の境上に位し標高一九〇九米あり。山腹南に走りて七星峰(一八九四米・降仙峰(一六一三米)等を境界に連れ、これより二肢に岐れ西走するものは虎嶺を經て兄弟峰(一二二九米)に達す。昆盧峰より西走する山肢は香爐峰(一六〇〇米)・法主峰(一三九一米)となり、以上諸峰を以て謂ゆる妙香山となし、之等は北嶺觀面の東部を圍みて馬蹄狀を呈す。なほ昆盧峰の北肢は芙蓉峰(一四三二米)・東肢は仁遠山(一六九四米)・白崖山(一五二四米)に達し、諸峰いづれも峻峻を極む。此山はまた西北の清川江、東南の大洞江の兩水系を分つ分水嶺たり。法主峰南麓に名刹普賢寺あり、現存の堂樓數十棟、末寺八十箇所に及び法燈を守る僧侶凡そ二百名、大雄殿・冥府殿・如來塔・萬歲樓等は何れも山嶺ある歴史を有する半島稀に見る珍寶とす。寺の背面に龍潭瀧・天神瀧等

妙義町より山頂迄約五軒、金鶏山は同じく妙義町より山頂迄約六軒にして達す。妙義三山巡りを完了するには二日乃至四日を要すれども、各峯は夜行列車を利用すれば日歸り可能なり。※金洞山・金鶏山(群馬縣)

【妙見山】 白火山脈の一峯。兵庫縣城崎郡豐岡町の南西方二二軒前後に當り、養父郡瀧宮村・八鹿町と美方郡兎塚村との境上に位す。標高一四二二米。山體は第三紀層より成り、山頂部には山毛氈及び老杉茂る。北方は金山岬最高點を經て蘇夫岳(一〇七五米)に續き、南西方は鉢伏山(一一二二米)に連る。北東麓に名草神社鎮座す。近時、中國地方に於けるスキーゲレンデとしてその名を知られ、好スロープは諸所に散在す。蘇夫岳へのスキーツアーは興趣深し。

【妙見山】 熊本縣天草郡の指定名勝。地域は高濱村・小田床村・下田村の三村に互る。天草西日海岸の代表的風景地にして石炭片岩より成れる南部十三佛附近の外は、第三紀始新統の砂岩・礫岩の累層より成る。海岸には高さ二〇米より八〇米に及ぶ斷崖相接し、妙見崎と蓬萊島附近に

【妙見山】 大阪市の北方一九軒前後に當り、北方猪苗代湖に向ひて低夷するも、なほ北境に高森山(七五七米)あり。南部山地の水は北流し舟津川となりて湖に注ぎ、下流沿岸に耕地ひろく。米・麥・蕎麥の産あるも、資源豊かならず。茨城街道は中部谷沿ひに走り北西は三王坂を踰えて若松市方面に、南は勢至堂峠を経て白河方面に通ず。勢至堂峠は戊辰の役に會津軍が官軍を迎へて苦戰したる地として名高し。この地は和名妙、會津郡慶方郷の内にして、明治廿五年、箕輪村を三代・中野の二村に分けて置けるもの。

あり。其の水は東方虎狼嶺下に發する香
山川に入りて清川江に合す。香嶺峰の西
南段には檀君宮あり、太古檀君の降誕せ
る靈地なりと傳ふ。登山は清川江左岸の
滿浦本線妙香山驛にて下車、これより香
山川を溯ること六科にして普賢寺に達す
るを便とす。

ミヨージ 妙高山

富士火山
帯に屬する一峯。新潟縣中頸城郡の南西
部。關山・杉野澤・名香山の三村境上に
峙つ二重式消火山。南方に黒嶺(二〇五
三米)・飯綱(一九一七米)の二火山、北方
に火打火山群噴起し、相連りて一火山圓
を形成す。其底は新第三系、外輪山なる
神奈山(一九〇九米)・大藏山・鷹岳・赤
倉山(二四一四米)・前山(一九三三米)は
輝石安山岩と橄欖石安山岩より成り、成
層火山を形成し、直徑約三軒の圓形カ
アラを圍み、内に中央火口丘妙高山(一
に心岳とも稱し、標高二四四六米)を峙
たしむ。通常妙高山と呼ぶはこの中央火
口丘にして輝石角閃石安山岩及び合角閃
石橄欖石輝石安山岩より成り、鐘狀丘を
なし、山頂部に東向の爆裂火口を有す。
この山形富士に似たるを以て一に越後富
士とも稱せられ、外斜面は自然の傾斜を
なせど内側は懸崖絶壁をなし、底部には
盛夏も尙殘雪を留む。山頂部には奇峯怪
石突起し、其間に美しき高山植物の繁茂
を見る。火口原は環狀の谷を形成するも
廣からず、この谷の水は集りて東方に二

箇の火口湖を作り、大田切川・白田切川
となりて東方に下り、いづれも北流する
關川に入る。中央火口丘より小谷は集
りて稱名湖となりて大田切川に落つ。中
央火口丘と標丘との間に藥研狀の深谷を
なし、一小火口原湖を湛へ、その水は上
ノ總瀧・下ノ總瀧となり、その下流は稱
名湖の餘流を合せ外輪山を破り、裾野に
下るところに不動の大瀧を懸け、遂に東
流して關川に下る。裾野は廣大にして特
に南方より北東方に向けて最も良く發達
し、草原遊牧たり。南東方は榜岳(一一
三五米)との場合に連り、その間に關川
流れ、北東方は燧火山群の裾に續き、そ
の間に關川支流小田切・郷田切・大田切・
湯川等の諸川放射狀に走る。西方は燧山
(二四〇〇米)の餘脈に遮られ面積は廣か
らず、北西方に少しく隆起するは黒澤岳
(二二二二米)にしてその東側に黒澤の池
を湛ふ。山中諸處に噴氣洞と温泉あり。
外輪山の南部なる赤倉山の内側なる噴氣
洞を南地獄と稱し、北方なる北地獄と
いふ。池ノ平・赤倉・燕・關・妙高等は
西方山脈・山麓に散在する温泉にして、
夏季は避暑に適し、冬季はこの附近著名
なる豪雪地のこととて積雪三米以上に達
し我國有数のスキー地となり、以上温泉
はその良き根據地をなす。登山路は東方
信越本線田口驛下車、池ノ平温泉を経て
登るもの、又同じく田口驛下車、赤倉温
泉に至り、ついで登頂するもの、同じく

關山驛下車、關温泉・燕温泉を経て達頂
するもの三あり。山頂よりは展望雄大
にして北方は外輪山神奈山より次第に低
夷する山波のうねり、その彼方に高田市
と日本海を望み、遠く海上に浮ぶ佐渡ヶ
島をも眺め、東方は野尻湖より榜岳・斑
尾山(一三八二米)を眼下に指呼し、南東
方には、富士山・淺間山・八ヶ岳等を遠
望し、東方より北方にかけては白根山・
岩菅山・前場山等の連綿するを見、南方
間近に戸隠連山の諸峯に接し、西方は白
馬岳より立山・槍ヶ岳北アルプス一帯を見
渡す。尙この山は古の越の中山にして、
中山を名香山と書き之を音讀しミヨージ
となれりと云ふ。今も山麓に名香山村
の名稱殘る。

ミヨージ 妙香山

朝鮮慶
尚南道陝川郡の北部。陝川面に北接し、
東は慶尙北道高靈郡双林面、北西は居昌
郡加祥面と界す。東西約九軒、南北は平
均七軒あり。四境山を以て繞らし、西北
部郡界に斗霧山(一〇三九米)・吾道山(一
一三四米)聳え、東南境には萬代山(六八
八米)・南境には馬嶺(五一二米)あり、城
内の諸水は東北に流れて安林川となり、
萬代山西麓の流域に平地の見るべきもの
あり、田畑ひろく、米・麥・大豆・蕎麥
を産す。中部を溪谷に沿ひて陝川・居昌
間二等道路通じ、中央の山際里より東北
方に高靈街道を岐ち、いづれもバスの便
あり。

ミヨージ 妙山面

朝鮮慶
尚南道陝川郡の北部。陝川面に北接し、
東は慶尙北道高靈郡双林面、北西は居昌
郡加祥面と界す。東西約九軒、南北は平
均七軒あり。四境山を以て繞らし、西北
部郡界に斗霧山(一〇三九米)・吾道山(一
一三四米)聳え、東南境には萬代山(六八
八米)・南境には馬嶺(五一二米)あり、城
内の諸水は東北に流れて安林川となり、
萬代山西麓の流域に平地の見るべきもの
あり、田畑ひろく、米・麥・大豆・蕎麥
を産す。中部を溪谷に沿ひて陝川・居昌
間二等道路通じ、中央の山際里より東北
方に高靈街道を岐ち、いづれもバスの便
あり。

ミヨージ 妙寺町

和歌山縣紀
伊國伊都郡の西北部。葛城山脈の南斜面
に位して紀ノ川の北岸に沿ひ高野町町の
西に接す。北は山嶺を隔てて大阪府河内
郡に界す。北境には葛城山脈連り南に
傾斜す。紀ノ川は南境に沿ひて西流し沿
岸に平野發達す。北部は山林に掩はれ南
部の平野は地味肥沃にして米・蕎麥を産し
鐵産・水産・畜産もあり。村内には製絲
工場等ありて工業頗多し特産には柑桔あ
り。南部には伊勢街道及び省線和歌山線
が東西に走り後者の妙寺驛(明治廿三年
設置)あり。明治四十三年町制を布く。
本町出身の歴史的人物に菅文三(正五位)
あり、陸軍歩兵中尉にして、明治三十三年
北清事變に出征し戦死す。

ミヨージ 明星

箱根火山東部外輪山の一峯。
【明星ヶ岳】箱根火山東部外輪山の一峯。
東側は神奈川縣足柄上郡足柄村外八箇村
入會地に、西側は宮城野村外七箇村入會
地に屬す。標高八二四米。北西方に同じ
く外輪山の一峯、明神ヶ岳(一一六六米)
連り、西麓は早川流域をなす。
【明星村】三重縣伊勢國多氣郡の東北部。
宇治山田市の西北三軒餘に位し、東及び
南は度會郡に圍まる。南隅に五〇米程度
の丘陵の北麓が僅にあるほか概して地
形低平なり。米・麥・菜種・林産等を出
す。社線參宮急行電線伊勢線の南明星驛
(昭和五年設置)を置く。この地の南名抄
多氣郡有武郡の地なり。※有武 また伊

勢參宮の街道にあたり、明星が茶屋と呼
ぶ茶屋のありし處なり。西鶴齋撰・四明
野が原明星が茶屋こおかしけれ、いつ
とも振袖の女赤根染のうら付たる木綿
着物を、黒茶にちらし形付ぬはひとりも
なし、扱日本に愛の女程白粉を付る所又
もなし、同じ出茶屋の女の風俗住古とは
是各別の事也、所によりて伊勢舞妓の替
りあり、愛に心を留るにもあらず旅のし
ばしの慰みぞかし、伊勢舞井參宮儀式・
三・明星が茶屋。參宮の人に清めの茶を
すすむる也、所のいひ傳へには、明星あ
まくたり愛の水を清め與へたる故、清め
の水にて茶を煎じすすむといへり。

【明星ヶ岳】大塚山脈の一峯。奈良縣吉
野郡上北山村・大塚村・天川村の三村境
上に位す。標高約一九〇〇米。北東嶺は
佛經ヶ岳(一九一五米)をなし、南嶺は楊
子ノ宿址を経て佛生岳(一八〇五米)に連
る。西斜面より舟ノ川發し西流して十津
川に入る。

【明神ヶ岳】若松市の南西方約一六軒、
福島縣大沼郡尾城・東川の二村境上に峙
つ。標高一〇七四米。山體輝石安山岩よ
り成る。北方に高尾嶺(八六九米)、南方
に大向山(〇四四米)連る。山中伊佐須
美明神の鎮座ありしに因り山名出づ。農
民は早天にはこの山に登り雨乞ふと云
ふ。

【明神岳】箱根火山北東部外輪山の一峯。

神奈川縣足柄上郡四本村外六箇村入會地
と宮城野村外七箇村入會地の境界に跨
る。標高一六六六米。頂上に秩父宮殿下
御登山の記念碑建つ。山上より箱根全
山・宮岳相模嶺の展望佳なり。山頂に明
神阿闍梨に因り山名出で、また湧泉あり
てキャンプに適す。南東方に同じく外輪
山の一峯明星ヶ岳(九二四米)連る。北東
斜面南足柄村字最乗寺より登高、南麓早
川の流域宮城野村に下降す。※箱根山

【明神岳】標高岳(岐阜・長野縣境)の一
峯。

【明神山】愛知縣北設楽郡三輪村の北嶺
にして、本郷・御殿の二村にも延ぶ。標
高一〇一六米。山體石英粗面岩より成り
山中に奇石多く、乳岩・胎内滑・石橋等
あり。別所街道は北・東南麓を廻り、風
來寺鐵道は南麓より別所街道と南西方に
並び通じて豊橋市方面に至る。

【明神村】和歌山縣紀伊國東牟婁郡の南
部。古座川に跨り東は高池町・西向町に
接し、南は西牟婁郡本町に界す。四周
山岳に圍まれ、北部中央には六郎山(三
六三米)廣く蟠居し、東北隅には鳥屋森
山(四五七米)あり。兩山地の間を小川が
屈曲しつつ南下し、六郎山の南麓に沿ひ
て中部を東流する古座川に合す。西南境
には華ノ山笠嶺。米・蕎麥を産し林産・水
産・畜産あり。特産には柑桔を出す。古
座川及び小川の河谷に沿ひて通ずる縣道
あり、東側の川口より古座町に達するバ

スもあり。

【明神山】四國の南東端、徳島縣海部郡
阿波村の北嶺にて北面に那賀郡梅村に互
り標高四四二米、山體秩父古生層より成
る。南麓は太平洋の波浪に洗はる。

【明神村】愛媛縣伊豫國上浮穴郡の西北
部。久万町の北にあり、東は川瀬村、西
は父二峠村に界し、北は温泉郡に接す。
東北に聳ゆる風嶺の連綿は東部を走り、
また西部も桂ヶ森を主峯とする山脈は西
境を走りて何れも中央部に傾斜し狭長な
る平地を作る。平地は地味肥沃にして耕
地良く發達す。農業よく行はれ米・麥・
蕎麥の産多し。中央平地を南北に土佐街道
通り西北方松山市と久万町を経て高知市
とを連絡す。久万町・松山市へバスの便
あり。村内に大除城址あり。天文・天正
の頃、大野山城守直昌これに據り、河野
氏のために土佐の軍を拒みたり。

【名東縣】明治の初め阿波國に置きし縣。
徳島藩を廢して縣とせる徳島縣を明治四
年十一月廢して徳島に本縣を置き淡路・
阿波二國を管す。明治六年二月に至り本
縣は香川縣を併せ讃岐國をも管せしが八
年九月には香川縣を復活す。明治九年八
月本縣を廢し阿波一國は高知縣に移管し
淡路國は兵庫縣に移管す。

【名東郡】徳島縣(阿波國)一市十郡の一。
縣の東部にあり、徳島市を圍み、北は板
野郡に、西は名西郡に、南と東の一部は

勝浦郡に界し、他は紀伊水道に面す。面積一七・九一方軒。南部は剣山山脈の東部に位し、数百年來の山岳重疊して高峻なる地形をなし中央に下る。北部は徳島平野の一部にして吉野川下流の地を占め、平坦且つ肥沃なれば農産物多し。省線徳島本線は北部平地を横断し之に並行して伊豫街道走る。省線牟岐線は国道土佐街道と並行して東部を南走す。本郡は古の名方郡の東部に當る。名方の名稱は諏訪明神なる健御名方富命の名方より起れりといふ。續紀、神護景雲元年三月の條に始めて名方郡の名見ゆ。寛平八年分けて名東・名西の二郡とす。名東郡は和名抄に名方・新井・賀茂・井上・八萬・殖粟の六郷あり。而して古くはナカマヒカシと呼びしものならんも、今はミヨートと調む。

ミヨホー 妙法山 白山火山群の一峯。白山の北東約一〇軒。東面は岐阜縣大野郡白川村、西面は石川縣石川郡吉野谷村に屬す。標高一七七六米。山體は石英粗面岩より成る。北麓には野谷許司山(一七九七米)三方岩岳(一七一六米)孤草山(一六三七米)連り、東麓は北流する庄川に限らる。西斜面より發する深川は西流して手取川支流の尾添川の上流をなす。

ミヨホー 妙法寺 省線徳後線の一驛(大正二年設置)。新潟縣三島郡島田村にあり。

ミヨサキ 御代咲村 山梨縣甲斐郡東八代郡の東部。甲府盆地の東南邊を占む。村の東南隅に建洋山(一三六二米)聳えて西北へ次第に傾斜し、金川の扇狀地に終る。金川は西南境を西北に流れ雷吹川に合流す。西北部扇狀地帯には水田・桑園開け、山地は森林多し。藁・桑を主産し米・麥これに次ぐ。村内諸部落を結ぶ里道あり、西南境に近き縣道に出で省線中央本線石和驛へ約八軒、バスの便あり。本村は石原村と組合町村をなし役場を本村に置く。(廣徳寺)大字中澤にあり。曹洞宗にして本尊蓮華作聖觀世音、脇土不動・毘沙門天。妙法山と號す。開山は雲中宗庵和尚、開基は古屋對馬守。文明年中武田信昌、寺領を寄進し、當山は本郡四周の中央にあるを以て中山廣徳寺と號す。中興開基を武田晴信とす。維新前は古府中の大泉寺と隔年に甲斐曹洞宗八百餘寺の僧録司たり。(樂音寺)大字鹽田にあり。臨濟宗。醫王山と號す。開基は鹽田の長者(推古朝の人)。妙法山岳寺と號す。嵯峨天皇の朝歌樂の功により醫王山の勳額を賜ふ。中興開基は大覺禪師。本堂は慶長年中風禍のために倒潰す。境内に神代宮あり。

ミヨウ 三次
【三次町】 廣島縣備後國三郡の中西部。可受川・馬洗川・西城川の合流點に位し、西は可受川を以て高田郡に界す。南及び東は十日市町、北は河内村と接す。面積六・二三方軒。可受川は西境を南流し、西條川は北より、馬洗川は東より之に合す。三次盆地は沿岸に展げ、市街地は西條・可受二川の間に發展す。盆地の四方は山脈に圍繞され、濃霧多き霧ノ海の名あり。水利に富み耕地長く拓けたるも古來商業に榮えし城下町にして、現在は製絲業最も盛なり。米・麥・繭・木炭・木材・家畜類・川魚等の産又多し。省線備後線の三次(大正五年設置)。備後十日市(昭和五年設置)の二驛は共に對岸十日市町にあり。縣道を以て三良坂・吉田・庄原等へは自動車の便良し。また河川には舟楫の便もあり、町の名物に霧の海あり、夏秋の頃、快晴の日ば夜半より朝十時頃まで濃霧が盆地一帯を蔽ひ、波浪狀

にうねる丘陵の頭のみ雲海上に黒く殘り、極めて壯觀を呈す。古く天正の頃三吉氏が今の三次町上里の比羅山に居城を構築せしが、のちこれを廢す。福島正則が安藝・備後を領せし頃はその家臣尾關正勝をして守らしむ。その居館は今公園となる。その後は淺野氏の邸黨がこの地を治めて維新に至る。夏は江川に鶴河が行はれ、六月一日より九月末日が遊覽の好時期とす。尾關山は櫻の名所なり。また町内に赤穂淺野氏遺臣菅半之丞の寓居甲斐庵、頼春坪の住宅蓬壁庵存す。(社會建造物) 頼春坪が朱子の社會法に倣ひ備後備前のために設けし倉庫にて、江戸時代後期には藩内到的處に設けられしが、現存するものとしては全國唯一にて建物は今相當に廢朽す。(照林坊) 眞宗本願寺派。明鏡山と號す。元應二年明光房了圓が沼隈郡山南村に光照・照林の二寺を建立せしに創り、のち福島氏領主となるに及び寺領沒收の事ありしも、慶長七年神明により現地に再興す。

盆地一面白波々、遠近の山頂のみ宛も鳥嶼の如く浮ぶ。これを霧の海と稱し遠近より見物に来る者多し。
【三次川】 山陰の大河なる江川の上流をなすもの。廣島縣東部山地の甲奴郡矢野村附近に發し、西北に流れて三次盆地に注入し、三次町附近に於て西條川・吉田川と合し江川となる。延長約三〇軒。下流部は尾道より三次を経て石見に出づる石州街道通じ、吉令・三良坂等の町が發達す。

【三次(郡)】 備後國(廣島縣)の古郡名。和名抄は美與之と註し、上・次・下・次・播次・布努の四郷を擧ぐ。拾芥抄に三美・あるは誤なるべし。三次は後世、三善・三好・三吉等に作り、寛文以後また三次を用ふるに至る。明治三十一年廢郡、三善郡と合し三郡となる。

ミヨウ 三好
【三好村】 香森縣陸奥國北津輕郡の西部。五所川原町の西北約六軒。西は岩木川を隔て西津輕郡に接す。津輕平野の北部に位し、岩木川は西境を、その支流十川は東境を各北流し北端部に於て合す。村の四周に東南境を除く外概ね兩川によりて圍繞せらる。土地平坦なり。村の生業は農を主とし、米を産す。省線五能線五所川原驛へ約六軒。また岩木川に舟楫の便あり。

【三好村】 栃木縣下野國安蘇郡の中部。田沼町の北隣にて、東は葛生町と隣す。

足尾山塊一支脈の南部を占め、西境には約三〇〇米、東境には約二〇〇米の山地連り東西より村内に傾斜し、中央はその裾合にて野上川南流す。川沿ひに細き平地ありて農業を主業とし、米・麥を主産す。特産物としては、百合・藜・大麻・石灰・砂利等あり。縣道は川沿ひに南走して田沼町に通じ、同町に社線東武鐵道佐野線田沼驛を置く。主なる聚落はこの縣道に沿ひて發達す。古くは和名抄、安藝郡麻績郷の内とす。尊攘の志士にして筑波山の義舉に應じて奮戦せし龜田徳三郎・龜田勇右衛門(共に贈從五位)はこの地の人とす。

【三好村】 愛知縣三河國西加茂郡の西南隅。岡崎市の西北一五軒。北は保見村、東は翠母町、南は碧海郡高岡村・富士松村、西は愛知郡東郷村・日進村に接す。村は洪積層より成りて、西部には境川流れ、尾張・三河の境をなす。また逢妻川も此地に發し高岡村方面へ南流す。本村には保田ヶ池・大池・曲り池などあり。保田ヶ池は補助池に新池あり、曲り池には下の池・中池・新池の三補助池あり、何れも洪積層の臺地上の灌漑に便す。産業は御池灌漑による水田と洪積臺地には桑園多し。其他、竹材・耐火粘土等を産す。交通はさして發達せず、鐵道は翠母町に出づるを便とす。本村附近は和名抄に見ゆる碧海郡十五郷の一つ、藤野郷の地にして大字助生存し、古墳ありてあさぶ

塚と云ふ。その邊を新生谷と稱す。東北方面山麓の福谷には石鏡發掘され、大字福田の城には天文・永祿の頃、精屋宗則居住し、のち原田氏重代り、數度織田・徳川の爲に攻めらるると云ふ。大字三好には佐久間大膳亮の居城といふ古城址あり、大字明知には原田親種住まり。

【三好郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。縣の西端にあり、郡形は扇狀をなす。北は香川縣に、西は愛媛縣に、南は高知縣に隣り、東は美馬郡に界す。面積五・〇・三五方軒。南は四國山系の諸山脈東西に走り、峻險なる山岳地帯をなし、北部にも讃岐山脈之に並行して走り高峻なる連峯聳立す。兩山脈の間は斷層して楔形の谷を開き所謂徳島平野の西部尖端を形成す。屈曲しつつ北流する吉野川は四國山脈を横斷する際、大歩危小歩危の奇勝をつくり、西方より来る伊豫川、東方より来る祖谷川を合せて北西部池田町附近にて九十度轉回して東に折れ、全く山地を離れて一路徳谷平野を流れその左岸に段丘を造る。流域の平地及び山麓下に發達せる扇狀地には農耕行はれ粟・粟・藜・藁等を作る。山地は林産を出す。鐵道は吉野川南岸に並行し省線徳島本線通じ、池田町に至りて北方より来る省線土讃本線に連絡す。本線は更に吉野川に並行して南走し高知市に至る。之に並行して國道通り、池田町にて吉野川南岸の伊豫街道と交叉し又北岸を走る撫養街道と連絡

す。三代實錄貞觀二年の條に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美與之と註し、三善・三津・三野の三郷を擧ぐ。
【三好山】 ↓三庄村(徳島縣)
【三芳村】 埼玉縣武藏國入間郡の東南部。川越市の南方約九軒にて、東南は北足立郡大和町と隣る。武蔵野臺地の一部を占め、全村平地にて畑地多く、所々に林を交ふ。甘藷・米・麥を産し、西部には茶畑も多し。養蠶も行はれて繭の産多し。縣道川越市に通じ自動車の便あり、また西南に走るものは所澤町に通ず。東北隣鶴瀬村に社線東武鐵道上線鶴瀬驛あり。
【三芳村】 愛媛縣伊豫國周桑郡の北部。東は壺澤に面す。壬生川町の西北方約三軒、高縄半島頸部の東麓下に展開せる低平なる沖積平地の一部を占む。從つて土地平坦にして耕地よく拓げ米・麥・藪等の産あり。西部に縣道走りて南方壬生川・丹原二町及び北方櫻井町と連絡す。丹原町にバスの便あり。村落は西部に聚る。その東側を省線豫讃本線通過して伊豫三芳驛(大正十二年設置)を置く。
【三芳村】 大分縣豊後國日田郡の中部。玖珠川の右岸に沿ひて日田町の東南に接す。中部・東部は丘陵山地起伏して低地乏しくも西部は日田盆地の東南部を占めて平坦なる地形なり。玖珠川は南境に沿ひて西北流す。米・麥・繭・木材等を産

ミヨシ 三芳野村 埼玉縣武蔵國...

ミヨシ

ミヨシ 三義村 長野縣信濃國上伊...

ミヨシ

ミヨシ 美穀村 岡山縣備中國阿智...

ミヨシ

ミヨシ 三依村 栃木縣下野國鹽谷...

面積一五九・七一方軒。帝釋山脈の東部...

ミラサカ

ミラサカ 三良坂町 廣島縣備後國...

ミルマエ

ミルマエ 見前村 岩手縣陸中...

ミリョク

ミリョク 彌力面 朝鮮全羅南道...

ミリン

ミリン 美林 朝鮮總督府鐵道平壤炭...

ミルト

ミルト 美流渡 北海道石狩國空知...

ミロ

ミロ 未老面 朝鮮江原道三...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌理 安藝國(廣島縣)の古地名...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

ミロ

ミロ 彌栗面 朝鮮黃海道海州郡...

平地を展くも周囲は山地に包まれる。山麓...

大豆・棉花・蕎麥等を産す。西北・東南に海...

の交通機關種々往復するを以て甚だ便な...

花等を産す。河沿ひに里道通するのみにて交通不便なれど、近時南方の三脚炭田開發に伴ひ交通また漸く便ならんとす。

ミロク

彌勒島 朝鮮慶尚南道統營郡山陽面の主島。いま統營運河によりて統營邑と相連り、海底隧道によりて彼此相通す。泰山陽面。

ミロス

見老津 和歌山縣西牟婁郡江住村の大字。省線紀勢西線の見老津驛(昭和十三年設置)あり。

ミワ

【三和村】 福島縣岩代國安積郡の南部。郡山市の西南約一三軒。西南及び南は岩瀬郡に接す。奥羽山脈の東斜面に屬し、西北境に高嶺山(九六八米)、西南境に妙見山(七七〇米)聳え、東方に傾斜す。村の西半部は山地をなすも東部は積平垣なり。彼原川は西部に發源し東流す。米・麥・大豆・蕎麥を産す。道路は東部を西南より東北に通じ郡山市へバスの便あり。【飯沼和氣神社】 下守屋字飯沼山に鎮座。村社。祭神、御饗津命。式内社。日本紀略。飯沼別神正五位上。例祭、五月五日。十一月二日。(宮岡村阿彌陀三尊來迎佛供養碑) 里にあり、一本杉の下なる石造の小堂に安置されし阿彌陀三尊來迎佛の牛肉彫供養碑なり。碑の縁に「水文二年八月〇日第一番右志者爲過去悲母往生佛國也」の銘あり。【三和村】 栃木縣下野國足利郡の北部。

足利市の北方にて間に三重村を挟み、西南は葉鹿町と隣す。北は安蘇郡と隣す。足尾山脈一支脈の南部を占め、北境に赤雪山(六二二米)ありて、これより東境にかけて約三五〇米の山地連り、西境もまた仙人ヶ嶺(六六三米)・深高山(五〇六米)・湯殿山等連り。これ等の山地は東西より村内に傾斜して森林多し。村の中央は兩山地の結合にて、狭き平地あり。米・麥・蕎麥を産す。織物業盛にて、人絹・兵児帯及び高・支・印度向けの人絹織物を産す。平地を縣道西南に走りて葉鹿町に入り、更に東南に折れて足利市に通じバスの便あり。葉鹿またこれに沿ひて發達す。山間には村道通するのみなり。足利泰氏の五男義顯は大字板倉の地に居して板倉氏を稱す。義顯はまた澁川氏とも稱せり。同地内に小侯城址あり。即ち澁川氏累代の居城にして、太平記・大草紙等に見ゆる澁川氏は皆これより出でしものとす。

ミワ

【三和村】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に那須郡三和郷あり、その地今の那須郡小川町の邊に當る。【三和村】 岐阜縣美濃國加茂郡の東部。岐阜市の東北約二五軒。北は武儀郡中之保村・同郡神岡村に、東は川邊町に、南は山之上新に、西は伊深村に各接す。古生層より成る美濃山地中において、北部には御殿山(五七〇米)ありて、北境には山間部なれば農耕地は少く、僅かに農産物まれ蕎麥・米・麥を産し、山地よりば木炭・松茸・蕨等を産す。交通は概して便ならず、六本松峠よりば益田川の谷に出づることが出来、鐵道は高山本線下麻生驛に近し。明治三十年四月に川浦村外二箇村と組合役場を廢して、川浦村・鹿野村・甘屋村を合併して、和合するといふ意味にて三和村と名づく。江戸時代は名古屋藩と幕領とに屬す。【三和村】 愛知縣三河國幡豆郡の北部。岡崎市の西南約七軒にあり。北は矢作川を隔てて碧海郡櫻井村・同郡六ツ美村に、東は豊坂村に、南は室場村に、西は福地村・西尾町に接す。東南部には古生層山地續き、北部には矢作川西南流し、その沖積地廣く開く。中部には安藤川が西南へ流れ西部にて南折し、また庄田川は東南流を流れ、南端にて兩川合流す。なほ矢作川岸には古生層山地の分離丘陵大塚山(四三三米)あり。沖積地には水田多し。用水もよく整ひ米・麥の産多し。南部には桑畑多く養蠶盛なり。なほ桑葉の移出も多し。交通路としては南部に東西に平坂街道通じ、また西尾鐵道が東西に通過し、岡崎・西尾間に位置するため概便利なり。此地は和名抄の幡豆郡大川郷の一部と思はるるも不詳。大字小島には小島磐ありて、荒川氏の將鷹部屋針之助の居りしが、松平清康の爲に奪はる。江原磐は江原利常の居りしが、その孫利全は遠州に移り、其後、荒川氏の臣江原太郎

村に至る別所街道あり。社殿風來寺鐵道の三河川合驛(大正十二年設置)あり、これに接續する社線三信鐵道は三信三輪驛(昭和八年設置)を置く。此地は昔は川合と稱せられし處。(乳岩及び乳岩峽) 指定名勝。三輪川の支流なる乳岩川の峽谷にして、その上流に於ける乳岩(洞窟)・通天橋(一名絶壁門、天然石橋)及び地藏洞門(天然隧道)の三者は風化及び水蝕現象の最も奇なるものなり。乳岩には大小數多の鐘乳石の懸垂せるあり。石灰岩以外の岩石に生じたる鐘乳石の例として珍奇のものとなす。峽谷の長さ約四軒、其間には絶壁密なる流紋岩質の凝灰岩より成り岩質節理に乏しが爲に河床は一枚岩の觀を呈し、兩岸は概ね懸崖を成し蓬萊岩・翠岩等の巨巖その間に時ち、藪ふに懸着たる美林を以てす。溪流また清淺にして土砂を流下堆積することなく、一帯に景致明麗、乳岩と相待ちて幽邃閑雅なる一勝區を形成す。【三輪】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢され町安賀村を置く。のち大和村と改む。【三輪】 愛知縣八名郡にありし村。明治二十五年に美米村より獨立して本村をなし、同三十九年に外四箇村と共に廢され新に石巻村を置く。【三輪町】 兵庫縣攝津國有馬郡の中部。武庫川の左岸に位し對岸は三田町なり。東は川邊郡に界す。全村低山性の山岳丘

ミワ

に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する知多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、これを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地内には溜池の數が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横斷して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の

三箇村に分つ。

【三和】 岡山縣淺口市にありし村。大正十二年に金光町と改む。

【三和】 廣島縣佐伯郡にありし村。昭和四年本に友厚村と共に廢され、その區域を以て友和村を置く。

【三和村】 高知縣土佐國長岡郡の東南部。後免町の南方に位し、西は稻生・十市二村に、東は香美郡に界し、南は土佐河川に面す。西部には五〇米餘の小丘ある外は全村平坦にて沃野なれば耕地よく拓けて農業盛なり。米・麥・蕎麥の産あり、促成栽培も盛に行はる。また養蠶と豚・牛の牧畜をなす。海岸には鹽田開け製鹽業も行はる。海岸に並行して縣道走り西北方の高知市へ通じバスの便あり。また省線土讃本線は北方の後免町を通り本村より驛まで約二軒にてバスを通す。古くは和名抄、長岡郡片山郷の地にして、大字片山は其遺稱とす。(上宮神社) 大字片山に鎮座。祭神、伊弉冉命・速玉男命・豫茂津事解男命。舊稱上宮大明神。當郡稻生村の村社熊野神社を下宮と云ふに對し上宮と稱すと傳ふ。例祭、十月十九日。(琴平神社) 大字里改田に鎮座。祭神、大物主大神・崇徳天皇。舊稱、金尾羅大權現。鎌家の宇川一朝の創祀すと傳ふ。例祭三月十日。(劍尾神社) 大字里改田に鎮座。祭神、須佐乃男尊なりと傳ふ。もとば劍尾大明神と稱して濱田村境の田中に鎮座せり。例祭、

ミワ

七月二十二日・十月十八日。【三輪】 秋田縣羽後國雄勝郡の北部。西馬音内町の東に隣り、北は平鹿郡に接す。横手盆地の西南部に位し全村概ね平坦にして堆積川は東境を北流す。米・蕎麥を産す。道路は中部を略東西に通じ、東南方の湯澤町と西馬音内町へはバスの便あり。社線雄勝鐵道の具津・羽後三輪・あぐり(いづれも昭和三年設置)の三驛を置く。(三輪神社) 大字杉宮に鎮座。祭神、大物主大神・倉稻魂神。養老二年に暫行基の建立と云ふ。例祭、陰曆四月八日。【三輪】 長野縣上水内郡にありし村。大正十二年に長野市に編入さる。

【三輪村】 愛知縣三河國北設樂郡の南端。豊橋市の東北約三五軒。北は御殿村・本郷町・下川村及び岡村に、東は靜岡縣磐田郡蒲川町に、南は八名郡七郷村に、西は南設樂郡風車寺村・振草村に相隣る。三河山地の中央部に位し、高度は六一七百米にて、北境には明神山(一〇一六米)が聳立す。西部より宇連川が流れ七郷村との境にて大島川を合せ三輪川となり東は豊川と呼ばれる。産業は見るべきものなく、川の流域にのみ耕地認められ、山地よりば薪炭を産す。また砥石を産し、世に三河白または名倉砥とも稱し、凝灰岩なり。交通路は三輪川の谷より東北へ進み更に北折し、奥良木峠を越えて本郷

村に至る別所街道あり。社殿風來寺鐵道の三河川合驛(大正十二年設置)あり、これに接續する社線三信鐵道は三信三輪驛(昭和八年設置)を置く。此地は昔は川合と稱せられし處。(乳岩及び乳岩峽) 指定名勝。三輪川の支流なる乳岩川の峽谷にして、その上流に於ける乳岩(洞窟)・通天橋(一名絶壁門、天然石橋)及び地藏洞門(天然隧道)の三者は風化及び水蝕現象の最も奇なるものなり。乳岩には大小數多の鐘乳石の懸垂せるあり。石灰岩以外の岩石に生じたる鐘乳石の例として珍奇のものとなす。峽谷の長さ約四軒、其間には絶壁密なる流紋岩質の凝灰岩より成り岩質節理に乏しが爲に河床は一枚岩の觀を呈し、兩岸は概ね懸崖を成し蓬萊岩・翠岩等の巨巖その間に時ち、藪ふに懸着たる美林を以てす。溪流また清淺にして土砂を流下堆積することなく、一帯に景致明麗、乳岩と相待ちて幽邃閑雅なる一勝區を形成す。【三輪】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢され町安賀村を置く。のち大和村と改む。【三輪】 愛知縣八名郡にありし村。明治二十五年に美米村より獨立して本村をなし、同三十九年に外四箇村と共に廢され新に石巻村を置く。【三輪町】 兵庫縣攝津國有馬郡の中部。武庫川の左岸に位し對岸は三田町なり。東は川邊郡に界す。全村低山性の山岳丘

に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する知多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、これを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地内には溜池の數が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横斷して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の

に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する知多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、これを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地内には溜池の數が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横斷して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の

に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する知多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、これを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地内には溜池の數が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横斷して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の

に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する知多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、これを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地内には溜池の數が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横斷して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の

に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する知多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、これを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地内には溜池の數が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横斷して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の

に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する知多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、これを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地内には溜池の數が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横斷して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の

際起る。弘治元年兵燹に罹り、僅に法皇の尊像・遺像・觀音・不動の諸像を灰燼中に得て一草庵を結び、元禄十年に空福大に再建に努力す。

【三輪町】奈良縣大和國磯城郡の中部。奈良盆地の東南部に在り。東部には三輪山(四六七米)が聳ゆ。これに北方へ續く春日階層が、東西に通ずる初瀬溪谷に切断される處にして端正なる圓錐形をなし古松老杉鬱蒼として神山の感深し。西半は平坦地にして、三輪山の南麓を繞りて流れ来る初瀬川西北流す。米・藁・麥・粟を産す。古來酒造と索麵とを名産とす。索麵は三輪町を中心附近諸村にて製し縣下産額五〇餘萬圓の九割を占め、關西にて索麵の一名を「三輪」といふ程古くより風味を知らる。西部には南北に通ずる上街道に交叉して一街道が西北より東南に走りその交叉點に市街地發達す。省幹線井原は中央を南北に通じて三輪驛(明治卅一年設置)あり。バスは四方に走り交通至便なり。此地は太古に大己貴神豐原原中洲を經營し、その功成るに及び自らその奇魂・奇魂を祀れる處にして、今の官幣大社大神社即ちそれにて日本最初の神社なり。即ち神武天皇御東征以前既に出雲神族の地に據り威を近隣に振ふ。これを三輪君又は大輪君(大神君)といふ。神武天皇大和を平定し給ふや、これと婚姻を結ばんとし、歌垣を行はれて五十餘媛を得て皇后となし給ふ。降つて

な三輪の殿戸を、などいふ歌あり、また萬葉、卷七には「三波つく三輪山見ればこもりの初瀬の檜原おもほゆるかも」など見ゆ。

【三輪町】和歌山縣東牟婁郡にありし村。明治四十年町制を布き、昭和八年新宮町と合して新宮市を建つ。省幹線勢中驛の三輪驛(大正元年設置)あり。

【三輪村】山口縣周防國熊毛郡の南部。南は室積町、北は鹽田村、東は城南村、西は岩田村に接す。面積四・六三平方。千坊山(二九九米)南に境し、村内地勢山勢ちなるも高峻ならず。東北部に平地稍拓け耕作を行ふ。山林・耕地各面積略ぼ等し。純農業村にして米・藁を産す。省幹線山陽本線岩田驛に近くバスの便あり。和名抄に熊毛郡美和郷と云ふは本村及び岩田・鹽田・光井・島田・淺江の諸村に當るもの如し。

【三輪村】福岡縣筑前國朝倉郡の西部。甘木町の西に接し西南は三井郡に界す。東北部が山地の南斜面をなす外は筑紫平野の北の一部なるため西南隅に城山(花立山、一三一米)の孤丘あれど地形平坦にて中央を草場川が西流す。廣大なる平野一面に耕地發達し米・麥の産多し。二日市町方面と甘木町方面とを結ぶ府道が中央を横斷し之より分れて南部を西南方へ走りて佐賀縣三養基郡田代町方面へ至る縣道あり。社線朝倉軌道線に中央を西北より東南に走りて社線朝倉軌道の依井

は本町及び城島村附近一帯を敷島(一に磯城島)と呼び、崇神・欽明天皇この地に都し給ふ。いま大字金屋に崇神天皇の磯城瑞宮址、欽明天皇の磯城島金刺宮址を傳ふ。敷島の名義詳ならざるも敷島に築きたる城の義、島は橋間の轉呼、即ち聚落の意あり、されば敷島は堅き城のある聚落の義にて、二帝の都し給へるより起りし名傳なるべし。實に上代の文化の聚落にて、日本即ち敷島國と云國號發祥の地なり。大字三輪の地はもと三輪市と云ひ譯合たり。金屋の地はまた古へ海柘榴市(柘榴)のありし處にて、推古天皇の御代、唐使裴世清を此地に迎へ、また藤宮を造營せられし等のことあり。市の名は景行紀・十二年十月「故時人其作海石櫛椎之處曰海石櫛市」萬葉・一二「つばいちの八十の衝に立ち平らし結び紐を解かまく惜しむ」枕草子・一四「市は、辰の市。柘榴市は、大和にあまたある中に、長谷寺にまうづる人の、必ずそこにとどまりければ、觀音の御衆あるにやと、心殊なるなり」等に見え、汎く人の知るところなり。また和名抄に城上郡大神郷とあるは本町を指せるもの。大神神社の鎮座地なるによりこの名起りしものなるべし。中世後、古大夫なる者、城を此地に構ふ。吉野時代この地の人西阿、官軍に應じて此に據る。興國二年、細川顯氏來り攻む。西阿拒戦利あらずし

謀・發行隊前鋒の二隊を置く。神功皇后羽白熊襲を討たんとし、概日宮より遷られし松峯宮は大字栗田の松尾の地ならんといふ。(大己貴神社)縣社。祭神大己貴命外二柱。延喜式、於保奈牟智神社なり。大同元年、神封六十二戸。舊稱、三輪大明神。例祭、九月廿三日。(松峯八幡宮)大字栗田に鎮座。郷社。祭神、神功皇后・應神天皇・住吉大神。神功皇后紀に、元年、皇后熊襲を討たんとし、概日宮より松峯宮に遷り給ふとあるに據ればそれ以前の創祀と思はる。例祭、九月二十五日。

【三輪村】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に山縣郡大竹郷あり、いま山縣郡山縣村に大字三輪あり、また東大寺文書「山縣郡大神郷」とあれば大神を以て正しとす。即ちその地は山縣村の邊なり。

【大神】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に大野郡大神郷あり、その地今の掛斐郡掛斐町に當る。

【美和】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡美和郷あり、その地今の那珂郡村松村の邊に當る。

【美和村】長野縣信濃國上伊那郡の東部。赤石山脈の西斜面にして村の東境には入笠山(九五五米)、釜無山(二一七米)、白岩嶽(二二七米)、鉢山(二六〇七米)、駒ヶ嶽(二九六六米)、仙丈ヶ岳(前嶽三〇

て奔る。尋で兵を聚めて城を復す。賊軍復來り攻めしも遂に抜く能はず。のち西阿、楠木正行とともに四條原に戦死す。永享十二年五月、一色義興、越智氏を攻めて大和に來り、將軍義教に忌まれ、一族三百人と此地に自殺す。而して三輪の名が人口に膾炙するに至りしは、近松の冥途の飛脚「借駕籠に日を送り奈良の旅籠屋三輪の茶屋、五日三日夜をあかし二十日餘りに四十兩、遣ひ果して二歩残る、鐘も霞むや初瀬山」の名句句に依ると云ふも過言ならず。いま忠兵衛の泊りといふ三輪の茶屋址あり、史蹟の町三輪の一名所なり。(磯城瑞宮)崇神天皇の皇居。天皇の三年九月都を磯城島に遷され、これを瑞宮といふ。同六十八年天皇崩御に至る迄の皇居たり。その地は大字金屋の地に當るといふ。(磯城島金刺宮)欽明天皇の皇居。欽明天皇の元年七月都を磯城島に遷し、號して金刺宮といひ、同三十二年四月天皇崩御に至るまで、三十二年間の皇居とす。その地は大字金屋の地に當るといふ。(大神神社)三輪山に鎮座。官幣大社。祭神、大物主神。大物主神は大己貴神の和魂にて、太古、大己貴神豐原原中洲を經營しその功成るに及び自らその奇魂・奇魂を祀れる處の青垣原山上に齋き奉る。これ所謂三輪山鎮座の本社にて、世にまた三輪社と稱し、諸社中その創立最も舊しとせらる。延喜の制、名神大社に列し、また二十一

社の一及び大和の一宮にして、古來朝廷の崇敬厚し。三輪山を以て神體山とし、特に神殿はなく、唯正面に鳥居を設け、その前に拜殿を建つ。今の拜殿は寛文四年徳川家綱の再興にかり規模頗る大にして、江戸時代初期の構造裝飾を代表せる優秀なる建築にて國寶。當社の鳥居は本造の形式を有し三輪鳥居と稱せらる。例祭四月九日。(志貴御坐神社)大字金屋に鎮座。一に志貴宮といふ。大和六御坐社の一。延喜の制、大社に列し、新年・月次・新嘗の案上官幣に預りし地方の古名社。

【三輪山】奈良縣大和國磯城郡三輪町の東方の山。標高四六七米。古は三輪山ともいふ。山麓に大物主神を祭神とする大神社あり。三輪山傳説として古事記崇神天皇の條に次の如き傳説あり。三輪山に近く活玉依姫といふ美人住み、そこへ夜毎に通ふ麗しき男あり、姫の姫姫を知れる父母はこれを責むるを、姫は名も知らぬ男が夜を夜を通ひ来るを告ぐ、父母は一計を女に授け女はその如く麻絲を針に通して男の衣服に刺して置き、男方に男の歸れるを見るに麻絲は戸の鉤の穴より抜けて三輪山に達し、姫の棲處には麻絲の藍が三勾遣りし。これによりその男が大物主神なるが知れ、それ以來またこの地を三輪と呼ぶに至るといふ。歌枕としては日本書紀崇神天皇の條に、「うま酒三輪の殿の朝戸にも出でて行か

三三米)等赤石の巨峰聳ゆ。村は三輪川支流の小黒川の溪谷なり。北は三養村、東は赤石を越えて諏訪郡の諸村に接し、南境に伊那郡村あり。仙丈ヶ岳は三箇のカーチを持つ高山地形の特色を持ち前記諸山と共に近時登山者の訪める地なり。山頂のカーチのモレーンの場所には仙丈小屋あり。登山期は七月十日より九月十日迄。駒ヶ岳は一名甲斐駒とも稱せられ日本に於ける花崗岩山の最高をなし、古來信仰の山として知らる。村は近時登山の爲めに開發せらるるも深き溪谷にて僅に谷底利用の水田・桑園ありて、主として蕪炭の林業を生業とす。登山には高遠町より村内黒河内にバス通ず。村内三峰川の沿岸には河成段丘あり稍平坦化し、二段段丘見られ、上段丘には非特・溝口・黒河内等の聚落散在し桑園あり、その下に位置する下段丘は水田に利用さる。村内に鎮座八〇萬坪を有する美和嶺山あり、嶺は金銀銅鐵化鐵。昭和十年より事業を開始したるが、同年は僅に銅鐵化鐵礦三五萬を出せるのみ。古今著聞集に大香役として信濃より京に上れるひぢの檢校譽平が一條天皇御秘藏の鷹を調したる功によりひぢの郡を賜りしこと見え、そのひぢの郡は大字非持の地ならんといふ。

【美和】信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に諏訪郡美和郷あり、その地今の上伊那郡高遠町の南方の山中をいふ。

抄に郡田郡美和郷あり、その地今の本県郡原田村に當る。

【美和村】静岡縣駿河國安倍郡の中央部。安倍川の中流右岸に位し、北・西・南の三方は山地に圍まれ、突先山(一〇二一米)、大瀬山(一〇七米)は西北に突出し、村の中央を西北より東南に安倍川支流の足久保川貫流す。そこに足久保奥組の聚落あり。安倍川の河岸には遠藤・上與左衛門・安倍口・下與左衛門の新田聚落ありて米産多し。山地より蕪炭・木材・茶等を産す。茶は足久保茶として江戸時代公儀の貢品たり。古くは和名抄、安倍郡美和郷の内。大字内牧に安倍城址あり。狩野介貞長が興良親王を奉じて北軍に抗せしところとす。附近の狩野垣内に貞長の墓と稱するものあり。(足坏神社)大字足久保に鎮座。郷社。祭神、雙子大神。足坏神社ともいふ。式内社。舊稱、茶付天神・白雲明神。例祭十月十七日。

【美和】駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に安倍郡美和郷あり、その地今の静岡市・美和村の邊に當る。

【美和村】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古屋市の西方四軒。北は中島郡千代田村・同郡大里村、東は菟日寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位し土地低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【美和】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に郡田郡美和郷あり、その地今の本県郡原田村に當る。

ミワ—ミンナ

さる。また桑畑も多く養蠶盛なり。珠に大根は方領大根を産し、主として名古屋に供給す。交通は津島街道中部を東西に通じ、之と並行して名古屋電線津島線走り、交通は便利なり。明治三十九年正則村・蜂須賀村・藤田村を合し本村を置く。大字蜂須賀は蜂須賀氏發祥の地。蜂須賀氏は足利新波氏の族にして、新波高經七世孫正則、此の地を領して家號とす。その孫小六正勝武名あり、その後徳川氏に屬して阿波徳島城に治し、子孫相承け明治に至り侯爵を授けらる。大字二寺は神風抄に「尾張國花正御厨、御封戸三十七町」とある地にして福島正則の生地なりといふ。正則は幼名市松と稱す。尾張名所同會によれば正則は秀吉に親縁あり、秀吉に隨從して軍功を立て、遂に當國を賜り、左衛門尉正則といふ。慶長五年、東軍を導き、關ヶ原に戦ひ、安藝へ移封、參謀に叙せらる。大子乙之子は豊臣秀吉の姉婿彌助(後、三位法印吉房)の居りし所なりといふ。

【美和】 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に中島郡美和郷あり、その地今の一宮市及び中島郡大和村の邊に當る。【美和】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡美和郷あり、その地今の八名郡石巻村大字三輪の邊なるべし。【美和村】 兵庫縣丹波國水上郡の東北郡。柏原町の北方三軒餘に在り。北、西南の三面は六五〇米以下の山地を以て圍まれ

中部より東部にかけては中央に低地開け東境には竹田川が北流す。米・繭の産多し。桑畑・蔬菜・花卉・食用農産・果實・製茶等の農産及び鶏卵・蠶製品等を産す。東部には縣道及び省線福知山線が南北に通じ東北境の近くに市島驛あり。和名抄に水上郡美和郷と云ふは本村及び吉見村・鴨庄村に當る。【美和】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に邑美郡美和郷あり、その地今の岩美郡米里村・倉田村の邊なるべし。【美和村】 岡山縣美作國真庭郡の東部。久世町の東に連り東北は苦田郡に界す。北は湯原村、南は川東・河内の二村に接す。面積四七・九二平方軒。北に摺鉢山(八七九米)・三坂山(九〇三米)、東に矢倉山(六六〇米)が村界をなして聳え、地勢稍中央に傾斜す。中央を旭川支流の目木川西南に貫流し、久世町に接續する平野を開き、良耕地を作る。山部には山林あり。米・麥・繭・木炭・酒類の産多し、また生柿・蒟蒻等を産す。伯耆街道中央を貫き久世町・時山町にパスの便あり。もと樺野・米束の二村なりしが、明治廿八年美和村を建つ。(米束神社)大字日本に鎮座。郷社。祭神、大己貴命。當村産土神たり。例祭、十一月二日。【美和】 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に大庭郡美和郷あり、その地今の眞庭郡湯原村の邊に當る。【美和】 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に若東郡美和郷あり、その地今の吉田郡西加茂村の邊なるべし。

【美和村】 岡山縣備前國邑久郡の中央北部。北は國府村、東は雲掛村・玉津村、南は本庄村、西は邑久村に界す。面積九・九二平方軒。地形南北に稍長く村内概ね平地なれども東部・北部に山地鑿る。村内の耕地・山林面積半ばにして農業盛なり。米・麥・繭・柿・薄荷・蘭等を産す。縣道南北に貫通し西大寺町及び省線山陽本線萬富驛・瀬戸驛に各々パスの便あり。この地は和名抄、邑久郡須惠郷の地にて、古代製陶を業とする民の居住せし處とす。村内古墳多く往々陶棺を發見せり。(美和神社)大字東須惠に鎮座。郷社。祭神、大物主命。式内社。例祭、十月九日。【美和村】 廣島縣安藝國山縣郡の北部。北は島根縣に界し、東は大朝町、西は中野村、南は郡谷村に接す。面積七八・一七平方軒。地形南北に長き山村にて北部には國境の山脈東西に連り、阿佐山(二一八米)聳ゆ。北部極めて高峻にして地勢やや南方に傾斜するも海拔九〇〇米を下ることなし。山間の凹地耕地に部落散在し、他の大部は山林地なり。米・麥・繭・木炭の産最も多く、清酒・牛等をも産す。廣島市・可部町に縣道通じ、一日四回自動車の便あり。もと山廻村と云ひしが、昭和三年美和村と改む。【美和】 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に熊毛郡美和郷あり、その地今の熊毛郡三輪村に當る。【美和】 大分縣西國東郡にありし村。明治四十年高田町へ合併さる。【美和】 三輪野江村 埼玉縣武藏國北葛飾郡の南部。吉川町の東隣にて江戸川の西岸にあり、東は川を隔てて千葉縣東葛飾郡と相對す。關東平野内の一部を占め、全村低地にて、水田多く、北部に沼地あり。米を主産し他に麥・繭を産す。縣道は吉川町を経て西方南埼玉郡越ヶ谷町に通じ、パスの便あり。また東南は江戸川東岸の千葉縣流山町に通ず。【ミンケツ】 眠月 臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(大正十五年設置)。臺南州嘉義郡善地風月にあリ。【ミンソイ】 民壯園 臺灣臺北州宜蘭郡宜蘭街の東に連る一帶の舊堡名。宜蘭街の内、壯一の一大字と壯園庄の大部分たる彰後・公館・壯二・壯三・壯四・壯五・壯六・壯七・過嶺・三塊厝・十三段・功勞・南興・鶯翠・美福・新興、七張の十七大字を合したる地域がこれに相當す。最初、地方の開拓者吳沙に力を合せし民壯に稱せし地なるに因り堡名出づ。壯一・壯二等の地名を存すは當時に於ける民壯分地の俗稱なり。【ミンナ】 水納 沖縄縣宮古郡多良間村の屬島。主島多良間島の北方約八軒の海上に浮び、北西より東南に長く約二・五軒、幅廣き處も一・五軒、隆起珊瑚礁に

五三三

ミンマヤ 三瓶

して土地平坦、農耕行はる。多良間村【三瓶】 青森縣最北端の灣。東の高野崎と西の龍飛崎の間より南に侵入し、灣口約一七軒、變入約六軒。奥茂内川・今別川・増川等幾多の小流注ぐ。灣岸は比較的屈曲少なきを以て良港に乏しく、今別・三瓶の二港やや知らるのみ。【三瓶村】 青森縣陸奥國東津輕郡の西北端。津輕半島の西北部に在り、東北と北は津輕海峽に臨みて三瓶灣を抱き、西は北津輕郡に接す。西境に矢形石山、南境には四ツ瀧山(六七〇米)聳え、東北方に傾斜し、増川は西南部に發源して村の南部を東北に流れ三瓶灣に注ぐ。全村概ね山地にして、海岸には山地迫り、北部は岩石海岸をなして龍飛崎の突出あり。村の生業は農・林業を主とし、山地には羅漢柏の密林ありて木材の産多し、また米を産し、海岸には漁業行はる。道路は海岸に沿ひて通じ、西南方青森市へは車馬と定期パスの便あり、また海運の便あり。維新前、松前・函館の渡航は専ら此地を以て要津とせり。俗に源義經、高僧を遣れ蝦夷に渡らんと此處まで到りしに颯風なく數日逗留ありしが風止まず、乃ち所持の観音を海岸の岩上に置き祈れば忽ち颯風となり、松前に渡るを得たりといふ。(龍飛崎)北海道の白神岬と相對し、その間約一八軒にして、津輕海峽の西門を扼す。岬角よりは北海の山形を

指呼し得べく稀なる大観なり。附近に岸礁多くその最大なるものを帯島と稱す。この遼瀾勢急なり。附近の外ヶ濱には江戸時代までアイヌ民族が住せしほどにして、本州島には最も僻遠地の一なり。タッピはアイヌ語のタムバ(刀頭の意)の轉訛せしものなりといふ。

ム——ムイカ

ム

ム 鶉川 北海道釧路国勇拂郡の最大河。北見山地北部の西麓に源を起す。...

ムアン 務安

【務安郡】 朝鮮全羅南道二府二十一部一島の一。道の西部に位し、務安半島を以て占むる陸地部と、その西方海上に分布する羅州群島の諸島、並にその西南なる黒山諸島を以て構成する。...

八年に吉見式部四郎頼行、鎌倉鶴岡八幡宮を勧請せしを以て當社の濫觴とす。例祭、九月十五日。

ムイネ 無意根山

札幌市の南西方約二十五軒、定山溪の南西方に位し、東面は石狩支脈豊平町に、西面は後志支脈東俱知安村に属す。標高一四六一米。北後に長尾山(一一〇三米)、南後に茂茂別岳(一一七七米)続く。...

ムカ 武華

【武華山】 石狩山脈の一峯。北海道上川支脈愛別村と網走支脈留邊郡との境上に跨る。標高一七五八・六米。北後には武利岳(一八七六米)、南後には三國山(一五四一米)連る。...

ムイネ——ムカイ

島・安島島・長山島・荷衣島等の羅州諸島は著るしく、黒山群島を主たるものは大山島・梅加島・小黒山島等を主たるものとす。...

ムカイ 向

【向村】 青森縣陸奥國三戸郡の南部。三戸町の東に接す。土地東南より西北に長く、馬淵川は中部を東北に流れ、沿岸平坦なり。...

【六日町】 新潟縣越後國南魚沼郡の西部。信濃川支流魚野川に沿ひ、西北は中城嶽(六八二米)を境に中魚沼郡に接す。...

ムイカ

【六日市村】 新潟縣越後國古志郡の西南部に。信濃川の右岸。長岡市の南西方約七軒にして、小千谷町(北魚沼郡)に至る街道に沿ひ、西は信濃川を以て三島・北魚沼の兩郡に接す。...

ムカイ 向井

大阪府泉北郡にありし村。大正九年に堺市に入る。

ムカイ 向日

【向日】 対馬國(長崎縣)上縣郡の古地名。和名抄に向日郷あり。對馬國の北端にして朝鮮國に向へるを以てかく稱する。...

ムカイオカ 向丘

神奈川県横浜府にありし村。昭和十三年に川崎市に編入す。

ムカイシマニシ 向島西村

廣島縣後國御調郡の南方海上、尾道市の前海上に横はる向島の西部を占む。東は向島東村、南は立花村に接す。北、西及び東南は瀬戸内海に面す。...

ムカイシマヒガシ 向島東村

廣島縣後國御調郡の南方海上、尾道市の前海上に横はる向島の東北端を占む。西南は向島西村に接し、他の三方は瀬戸内海に面す。北に尾道港と相對す。面積六・七七方軒。村内處々に山地あるにして、小千谷町(北魚沼郡)に至る街道に沿ひ、西は信濃川を以て三島・北魚沼の兩郡に接す。...

ムイカ

【六日市村】 鳥根縣石見國鹿足郡の東南隅。南は山口縣に接し、東は藏木村、北は七日市村、西は朝倉村に界す。面積四五・九平方軒。北に築山(一〇〇七米)、城將山(八二六米)村界をなして聳ゆ。...

【六日市村】 鳥根縣石見國鹿足郡の東南隅。南は山口縣に接し、東は藏木村、北は七日市村、西は朝倉村に界す。面積四五・九平方軒。北に築山(一〇〇七米)、城將山(八二六米)村界をなして聳ゆ。...

も概して地勢平坦なり。古來尾道港と共に發達し、市街開く。農・工・漁業は最も盛んにして、養蠶・牧畜これに次ぐ。果實・米・麥・繭・水産物・雑穀・帆布及び蠶表等を産す。尾道市・戸崎へ渡船の便あり。

ムカイナダ 向洋

【向洋】 省線山陽本線の一驛(大正九年設置)。廣島縣安藝郡府中町にあり。

ムカイノハル 向之原

大分縣の一驛(大正四年設置)。大分縣大分郡挾間村にあり。

ムカイハラ 向原町

廣島縣安藝國高田郡の東部。東は豊田郡に界し、北は小田村、南は有保村と接す。面積六一・九九平方軒。地形東西に伸び、四側に山脈を繞らす。北に大土山(八〇〇米)、南に鷹ノ巣山(九二二米)聳え、町界をなし、地勢一般に高峻なるも西に稍々傾く。...

ムカイヤマ 向山

【向山】 省線東北本線の一驛(昭和十一年設置)。...

ムカイ

設置。青森縣上北郡下田村にあり。
【向山嶺山】 鐵山嶺にある銀山。鐵山は南七岳(一三三八米)を基點に設定せられ、行政區劃上、甲賀郡那賀村と湖生郡市原村とに跨る。鐵山の地質は古生層に屬する粘板岩・砂岩・珪岩・シャールス・タイン等の累層より成り、黒雲母花崗岩・斑岩の影響を受け、上記の水成岩類はホルンフェルスに變質す。鐵床は主としてシャールス・タイン中に脈狀せる交代鐵床にして、黃銅鐵及び鐵銅鐵を主たる礦石とし稍々多量の銀を含有す。昭和十年には銀銅鐵一、〇〇五萬(價額五萬二千餘圓)を産し、一躍重要鐵山に列す。大正初年頃より御池鐵山として稼行せられたる鐵山あり、その一部分を裏山坑と稱せしが、この裏山坑を向山と改稱して昭和九年より探鑛に着手したるもの、即ち當鐵山なりとす。

ムカサ

【向笠村】 靜岡縣遠江國磐田郡の中央部。東に今井村、南に田原村、見付町、西に大藤村、北に三川村あり。村域の西部は磐田原の沖積地にて、東部は大田川及び支流敷地川の沖積平野なり。臺地は原面廣く残り畑地多く、茶・西瓜を産し樹林多し。東部は水田地なり。和名抄にある磐田郡飯賣郷は飯布郷の誤にして、蓋しこの地ならんといふ。村名向笠は三河物語に無笠に作る。「坂本神社」大字篠原に鎮座。郷社。大山呼命を主神とし、底津綿津見神等十柱を合祀す。正

ムカサ

和年中近江國坂本なる日吉神社より勧請し、山王權現と稱すといふ。江戸時代末印領八石を有す。例祭、十月十七日。
【向笠村】 宮崎縣日向國東諸郡の東南部。宮崎市の西方約三軒にありて大流川の右岸に沿ふ。北及び西は高岡町に接し南及び東は宮崎郡に界す。西境の南半は山地にて四五四米の峰あり、山地は東及び東北に傾斜して中部及び東部は斜面地をなせど、東境の南部また稍々高く標高一八〇—二〇〇米を測る。東北部は平野が開け大流川は村境に沿ひて東流す。農業が主産業にして全戸数の八割は農を營み、他は商・工・山稼、其他なれど共に僅かなり。主産物は米・麥にて兼置行はれ、また酒類(宮水酒)として名あり。木炭・木材の特産あり。日向街道が東北端を控めて過ぎ省營バス通す。古くは和名抄、諸郡縣佐佐木の内にして舊佐佐木は後世六笠または百左に作る。建久園田町は後世佐佐木百町と見え、島津御莊の寄郡たり。大字小山田に六笠城あり。地理學考に佐佐木の高城は太平記に六笠に作り、島山修理亮直顯の據りし所。のち伊東氏これを領す。應永年中、島津元久兵を誘し海田城を陥る。元久の子久豊移佐に在城す、伊東大和守祐安その女を以て久豊に納れ忠國宮城に生る。應永十八年元久卒す、久豊庶兒島に歸りて後を嗣ぐ。此後また伊東が所領となりしを、義隆豊後に遷れしより永く島津家の

ムカサ

有となるとあり。(穆佐神社) 大字小山田に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。應永年間島津久豊字佐神宮を勧請して産土神とし、長祿四年同忠國之れを再興す。例祭、十一月十五日。
【向田村】 栃木縣下野國那須郡の南部。鳥山町の南隣にて那珂川の西岸にあり、南は芳賀郡と隣す。西境附近及び南境に一五〇米前後の丘陵地あり。南部には丘陵間を荒川東南に流れ、村の東南境にて那珂川に合す。那珂川及び荒川流域には平地ありて農業行はれ米・麥を産し葉煙草の栽培盛なり。縣道は鳥山町より來り、更に南進して芳賀郡茂木町(約一〇軒)に至り、省營自動車常野本線通す。省線鳥山線は北部を東北に走るも村内に驛なく、鳥山町に鳥山驛を置く。近世この邊を櫻井庄と稱すといふ。村内に龍門ノ瀧あり、高さ一五米、幅二〇米なり。

ムカサ

百米の丘陵起伏し北部は海嶺、南岸は砂濱にて、丘陵傾斜地と海岸とに田畑發達す。油谷半島は南部に於て最高一四九米に達し、向津具半島とは狭き砂嘴により連絡され、その地峽部南岸に大浦港あり。産物は米・麥・繭・鰯・牛・柑橘等の農家生産の外、鯛・鰯・鰯・和布等の漁獲多く、また煮干・練漉の製造行はる。其他、清酒・醬油等の工業あり。道路は大浦より南岸の栗原を連ねて東方山陰本線の人丸驛(菱海村地内)に至り、また北岸の川尻に通ずるものあれど、交通や不便なり。村に海軍記念館、郷社八幡宮あり。川尻は浦原根據地とし、大浦は海女を以て名高し。油谷半島の依島海岸に化石多く天然記念物に指定せられ、その東南沿時には吉田松陰の築かしめたりといふ臺場あり。この地は和名抄、大津郡向國郷の地に於て、中世は向津島と云ひ文治二年の記文に見え、初め大僧正昌雲の相傳私領なりしが、國司の收公を恐れて之を新日吉社に寄進し、永曆二年院庭下文によりてまた之を相傳領奪せり、その後、建久八年、鎌倉よりその地頭職を寄進して、永く一圓通止の社領とせり。(依島) 指定名勝・天然記念物。油谷半島の南面及び西面に於ける柱狀節理を成す玄武岩の奇勝地にして、その勝地は鐘ヶ淵・兜神山・依瀨の三部に分る。鐘ヶ淵は油谷半島南面の絶壁にして、柱狀節理整然として垂直に發達し高さ六五米以

ムカサ

【向笠村】 靜岡縣遠江國磐田郡の中央部。東に今井村、南に田原村、見付町、西に大藤村、北に三川村あり。村域の西部は磐田原の沖積地にて、東部は大田川及び支流敷地川の沖積平野なり。臺地は原面廣く残り畑地多く、茶・西瓜を産し樹林多し。東部は水田地なり。和名抄にある磐田郡飯賣郷は飯布郷の誤にして、蓋しこの地ならんといふ。村名向笠は三河物語に無笠に作る。「坂本神社」大字篠原に鎮座。郷社。大山呼命を主神とし、底津綿津見神等十柱を合祀す。正

上あり。兜神山は鐘ヶ淵の西方に位し、蓋を伏せたが如き形状を呈し、その南面は斷崖絶壁をなし柱狀節理發達す。依瀨は兜神山の西方約百米に位し、瀧溜時には島となり、依島奇勝中の奇勝とす。「八幡宮」 大字向津に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇外一神。例祭、三月十五日・八月十五日。

ムカサ

【向野】 豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に宇佐郡向野郷あり。いま宇佐郡北馬城村の邊なるべし。書紀、仲哀紀の八年、天皇筑紫に幸し給ふ。時に向野主熊鷹なるもの、天皇を迎へて、穴門(いま下關市の邊)より向津野大津に至る間を東門とす云々とあり、この向津野大津の地も恐らく向野郷の地にして、北馬城村の海岸の邊ならんといふ。

ムカバキ

【行藤】 廣島縣廣島郡にありし村。大正二年に桑木村・木野山村と共に廢し大正村を置く。
【行藤山】 南方村(宮崎縣)
【ムカフール】 臺灣臺中州鹿港郡にある高砂族の一部落。アタヤル族に屬す。合歡山の西走支脈、北港溪とカムジヤウ溪の合流點附近にあり、標高約一五〇〇米。昭和十二年末の戸口は戸數二一、人口一〇〇あり。

ムカワ

【武河】 甲斐國(山梨縣)北巨摩郡釜無川右岸の地名。和名抄の帆衣餘戸の二郷の地。大武川貫流して釜無川

ムカツ

【武河】 甲斐國(山梨縣)北巨摩郡釜無川右岸の地名。和名抄の帆衣餘戸の二郷の地。大武川貫流して釜無川

に入る。東麓、建久五年三月、甲斐國武河御牧駒八定參着、云々」と見ゆ。延喜式左馬寮に見ゆる就牧牧こゝか。

ムカワ

【鶴川村】 北海道釧路國釧路支庁釧路郡の東南部。太平洋に南面し、東は日高支庁沙流郡、西は厚岸村を隔て、苫小牧町に對す。面積一六・一七方軒。鶴川は村心を西南流して海に注ぎ海岸に大三角洲を形成す。未だ低濕なる原野多きも所々に水田拓か。海岸線は極めて出入乏しく遠淺にして漁業振はず。東北部一帯は低き山地に蔽はれ森林繁茂す。豪落は概ね鶴川沿岸に集り農牧に従ふも人口大ならず。米・馬鈴薯・甜菜・大豆・鮭・昆布・木材・牛馬を産す。省線日高線の鶴川驛(大正二年設置)及び社線北海道鐵道の上鶴川、別別、生龜(以上大正十一年設置)・芭呂澤(大正十二年設置)の四驛あり。鶴川は釧路國の白糠と共に北海道屯田兵嚆矢の地とす。即ち寛政十二年、武藏國八王子の千人頭原左平左衛門は幕府の許可を得、弟新助に部下五十餘人、鐵砲二十五挺を授けて渡來せしめ、開墾と墾殖に従はしめしも、永續せざりき。

ムキ

【美岐町】 徳島縣阿波國海部郡の東部。東は赤河内村を隔てて日和佐町に對し、西は川上村及び淺川村に界し、南は太平洋に面す。面積五六・九三方軒。北部には高取數百米餘の五郎・割切・矢等の諸

山聳立し、南に傾斜して高峻なる地形を呈し、南部にも海岸に平行して丘陵性山脈横たはりて南側に急斜す。從つて中央部は平原性の小高地をなす。西部山地より流るる美岐川上流は中央部に於て東方より來る小支流を集めて急に方向をかへ南流して海に注ぐ。海岸は急崖絶壁相連續して風光明媚なり。ことに美岐川河口より西方の海岸は八坂八瀨と稱され絶景は天下にその名うたはる。河川流域は耕地拓けて農業を營む。水産業は非常に盛にして鰯・鰯等の漁獲多し。市街は川口に開け漁港をなし遠洋漁業は名高し。鰯節の製造盛なり。日和佐町よりくる國道は牟岐川に沿ひて南下し市街を經て西岸を傳ひ淺川村に至り、バスの便あり。大阪・神戸・福良・甲浦航路の寄港地たり。大正四年に町制を布く。(出羽島) 當町の屬島にして南方約二軒の海上に浮ぶ。東方は津島、小津島等を隔てて大島あり。西方は細代時を望む。南北に稍長く約一軒ある楕圓形の島にして最高所は七七米あり。「八幡神社」 大字牟岐浦に鎮座。郷社。祭神、磐田別命外二神。承久二年、奈良八幡宮を分祀せりといはる。例祭、九月二十八日。

ムカツク

【向津具村】 山口縣長門國大津郡の西部。仙崎町の西約一八軒。陸奥島狀に日本海岸に突出する向津具半島と油谷半島より成り、南に油谷灣を擁す。その主要部をなす向津具半島には百一二

ムカツク

【牟岐線】 省線徳島線の一部。徳島縣勝浦・那賀二郡に互る。省線小松島線の中田驛(勝浦郡小松島町)より分岐し、立江・桑野等の諸驛を経て阿波郡井原(那賀郡福井村)に至る二九七軒、及び利ノ浦驛

(那賀郡羽ノ浦町)より分れて同町の古庄驛に至る二一軒の貨物専用線を含む。

ムキ

【武儀郡】 岐阜縣十八郡の一。美濃國の中部。北は福井縣大野郡及び郡上に、東より南へかけては加茂郡・稲葉郡に、西は山縣郡本巢郡に隣る。北境は屏風山脈に屬し、左門岳(二二四米)は濃波山(一四一三米)と繋ぎ、その南には古生層の美濃山地が横き、高賀山(二二四米)・日永岳(二二六米)・鳳ヶ岳(一一六三米)と聳つ。坂取川は屏風山脈に發し、層層に滑うて流れ北方部上部より來る長良川に合流す。東部山地よりは津保川西南へと流れ、關町附近にて西折し、山縣郡保戸島村に於て長良川に合流す。長良川は元これより西流せしが、中世にこの津保川の谷へ流路をかへて今日に至る。東境には益田川が古生層の美濃山地を開析し、嵌入曲流をなす。南流す。産業は山間部のこととて農耕地少く、米・麥・大豆・粟等を産し、製紙業また盛なり。始め山地には楮・三椏多くこれより抄紙を行ふに至り、此地の産が全國に有名となり美濃紙と呼ばる。現今は牧谷と武藝谷に特に盛にして、和紙多く洋紙も出す。美濃町には製紙工業試験場を置く。林産物には用材・薪炭等あり、工産物には和紙の外、煉瓦・瓦・石灰・清酒・醬油・刃物等あり、殊に刃物は關町に盛にして、關の刀鍛冶は孫六以來有名なり。近年は洋食器・剃刀の刃の産も多し。特産物には富

ムキイ ムコ

有栖ありて多く開闢より出資する。交通は早くより開け、飛騨街道は小金田村より開町を経て東北へ七宗山(六七八米)の麓を廻り菅田町に至り、更に金山町より益田川の谷を上る。一方、郡上街道は開町より美濃町を経て長良川の谷を八幡町(郡上郡)へと上る。鐵道は東部に備かに省線高山本線通じ、上麻生・白川に驛あり。一方太田より分岐せる越美南線は加茂村を横断し長良川の谷を郡上街道に並行し、美濃町・美濃町・板取口・美濃湖の各驛あり。また南部には小金田より瀬尻村・開町を経て美濃町に至る社線名古屋電鐵美濃町線通ず。武蔵谷へは南山縣郡高宮町よりバス通じ岩佐驛を驛點とす。續紀・養老元年紀に務備郡、大安寺資財帳には武儀郡に作り、文徳實錄にも武儀郡を割きて郡上郡を置くと見ゆ。拵弁抄・延喜式みな武儀に作る。和名抄は武儀に作り弁介と註し、御氣・跡部・生部・有知・白金・大山・稻朽・菅田・掛可の九郷を管す。東鑑以後は武儀に作り今これに従ふ。釋日本紀に引用したる牟婁郡國もまた本郡の邊か。

ムキイホ

社 臺灣花邊港懸花邊郡の舊社。鯉魚池の北方約二軒の地、アタル族タロコ番に屬する高砂族の部落にして、戸數六〇、人口二八五(昭和十二年末現在)を有す。

ムギクラ

麥倉 埼玉縣北埼玉郡にありし村、明治二十六年利島村と改稱す。

ムキブラタン

社 臺灣花邊港懸花邊郡の舊社。三棧溪右岸の地方にあり、アタル族タロコ番に屬する高砂族の部落、戸數四一、人口二〇一(昭和十二年末現在)。

ムキヨク

無極嶺山 朝鮮忠清北道陰城郡金旺面にある金銀山。昭和十年には金六一、二二五、銀一五一、九五八瓦、金銀礦一六四萬(この總價額約二二萬圓)を産出し、同年六月末の従業員は四五〇人とす。

ムクチ

六口島 岡山縣見島郡下津井町の屬島。同町の西南海上約二軒に浮ぶ。面積八〇ヘクタールにして見事な黒松林に蔽はれ、海岸は岩礁多く變化に富む。西南の海濱に立つ象の姿をなせる自然石は象石と呼ばれ、花崗岩の巨石にして高さ八米、いま天然記念物に指定せらる。象岩に續く松の海岸は好海水浴場として夏季避暑を極む。下津井町より船にて二十分。

ムクナシ

横梨 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に沙田郡横梨郡見ゆ。調を聞くも恐らくはムクナシと調すべきならん。其の地いま豊田郡横梨村の邊なるべし。※横梨村

ムクハラ

向原 臺灣花邊港懸花邊郡にある舊社。木瓜山の東へ北にして木瓜溪右岸の山腹にあり。標高約一八〇米の地。高砂族の部落にて、アタル族

ムクムゲ

向原 臺灣花邊港懸花邊郡にある舊社。木瓜山の東へ北にして木瓜溪右岸の山腹にあり。標高約一八〇米の地。高砂族の部落にて、アタル族

のタロコ番に屬す。戸數一三、人口五七六を有す。

ムクモト

椋本村 三重縣伊勢國河藝郡の西南部。鈴鹿郡龜山町の南に接し南は安濃郡に界す。全村地形概して平坦にして西部に湖沼あり。南境の西半には之に沿ひて東南流する安濃川あり。全戸數中、農業は六割、商業二割、其他二割にて米・藁等を産す。鈴鹿郡關町より伊勢市に至り、西部にて一道分れて西走し安濃郡河内村に出で自動車の便よし。社線安濃鐵道が津市より來りて北へ縦貫し椋本口(昭和十一年設置)、椋本(大正三年設置)の二驛を置く。(明治天皇極本御小休所)指定史蹟。明治二年再度東京御幸の際、三月十日神宮に行幸の御及び同十月十日の兩回とも御小休所となりたる處にして舊規模よく保存さる。(椋本の大字)指定天然記念物。特の北側は狹狭せるも尙ほ日蓮御開闢七米を超え枝條張り樹勢旺盛、椋本の互樹として有數のもの。

ムクロギ

無垢路岐山 阿武隈山地の一峯。福島市の東方約一七軒、福島縣相馬郡石橋村と伊達郡月館町との境上に跨る。標高六七二米、山體片麻岩より成る。西麓を阿武隈川支流廣瀬川北流し南東斜面より發する水は南東流して新田川の上流をなす。

ムゲツ

牟義都(國) また見毛津

OMEGA

とも書く。書紀、景行紀に天皇の皇子大碓命を美濃國に封ぜられ、身毛津君の祖となすとあり。國造本紀にも國名見ゆ。牟義都は都の字を略し牟義ともいへり。いま美濃國の武儀郡は國郡制定の時、牟義國の部名となれるものならん。

ムコ 武庫

【武庫郡】兵庫縣二十五郡の一。攝津國の西南部。本郡は舊ては中に神戸市を包みたるが、神戸市の最近の發展は漸次その東西の隣接せる町村を合併し、一方、大正十四年四月に西宮市が本郡より獨立し漸次附近の町村を合併せしむ、今や本郡は西北部の神戸市に北接する山岳地方と、神戸・西宮兩市間、及び西宮市の東隣の尼ヶ崎市に西接する地方との三部に分たる。本郡は六甲山塊の斜面地域を占め、東北より西南に幾多の斷層あり。西北部は六甲山塊の西北斜面にして、四圍は山岳を以て圍まれ、特に東南部に最も高くして双子山・シャクナゲ山(六五三米)・摩耶山(六九九米)等聳ゆ。北部にも金剛童子山・鹿見山・稚子墳山・帝釋山・丹生山等の五〇〇米以上の諸峯が東西に連なる。山田川は東部に發して中央北偏を西流し美濃郡を流れ加古川の一支美濃川に合す。神戸市と西宮市とに挟まれたる中部は六甲山塊の南斜面より大阪灣岸に至る地域にして、北境には六甲山(九三二米)が聳立す。南部には平坦なる海岸平野發達し平直なる海岸の東部は打

出濱と言ふ。西部の住吉川及び東北部山中奥地に發する蘆屋川は斜面を下して海に注ぐ。このあたり川床高き天井川多し。西宮市に東接する地域は西北部が六甲山塊東北麓の斜面地をなし、蘆葉峯(四八九米)・櫻山・甲山(三〇九米)等の諸山あり、他の部は大坂平野西端の平坦地にして、西北方より來る武庫川は北境を繞りて東南流し更に中央を横切りて南下し大坂灣に注ぐ。河口附近は土砂堆積多く陸地が大坂灣に突出せり。蘆葉峯東麓の武庫川河岸に寶塚の鎮あり。本郡は土地肥沃にして、殊に東部・中部は北に山を背ひ南は海に臨み氣候温和、且つ阪神間に位置を占めて交通の發達著しく、各種の産業發達せるも、特に酒の清酒は著名なり。郡内は中部の魚崎町、御影町の二町外十一箇村を含み、一方軒人口密度は九四五、阪神地方の住宅地をなし、特に御影町の如きは八五四人、魚崎町は七三四人の多きに達す。交通の發達も目ざましく西國街道を始め京・阪・神間を結ぶ街道が數多横斷し、また省線東海道本線、社線阪神電鐵本線及び同國道線、社線阪神急行電車等通じ阪神國道自動車線のバスの往來も繁く頗る活況を呈す。西北部には神戸市より有馬温泉に至る有馬街道が走り、また北方及び西北方へ至る縣道も通じ、社線神戸有馬電鐵も走る。續紀、天平神護二年の條に郡名見ゆ。和名抄は無古と註し賀美・兒屋・武庫・石井・

ムコ ムコ

會蘭・津門・廣田・雄田の八郷を管す。明治二十九年四月、西に隣れる見原・八郷二郷を併せて郡域大いに擴張せしが、のち西宮市獨立し、また神戸市の擴張によつて郡域大いに縮小す。

【武庫村】

兵庫縣攝津國武庫郡の東部。武庫川の左岸に沿ひ西一軒餘に西宮市、東南方約二軒に尼ヶ崎市あり。北及び東は川邊郡に界す。全村地形低平にして西境に沿ひて武庫川が南流す。米・麥類・蔬菜・花卉・食用農産・鶏卵及び菓製品等の産あり。北部・南部には縣道が横斷して自動車往來著しく、南部には社線阪神急行電車が通過して武庫大橋驛あり。この地古くは武庫郷とあり、和名抄には武庫郡武庫郷と見ゆ。中世には武庫莊に作る。

【武庫平野】

↓大阪平野 【武庫川】 兵庫縣東南部の川。水源は丹波國冬紀郡古市村にして、攝津國有馬郡内の諸水を集め、郡の西北より東南へ斜に貫流し、三田町を過ぐ。次いで右岸に有馬川、左岸に船坂川・羽東川等を寄せ、これより老の阪山脈及び六甲山脈に屬する諸山岳の間に入り兩岸大いに迫る間を東流すること二軒、南に折れて生瀨に至り、始めて大阪平野に出で、また武庫郡に入り、始めて武庫川と稱し、郡の東部を南流し、下流は西に枝川を分ちて大坂灣に注ぐ。その運び來る土砂は河口に三角洲を形成す。流域凡そ五〇軒。下

流の大坂平野に屬する部分は殆んど伏流をなす。

【武庫】

伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に日野郡武庫郷あり、いま日野郡神奈川村根雨町・江尾村の邊なるべし。神奈川村の大字武庫は地名の遺稱とす。

ムコ 務古水門

↓神戸市

ムコ 聾島

↓神戸市

ムコ 向日町

京都府山城國乙訓郡の略々中央。京都市の南西約六軒。地域的大部分は北西の嵐山山塊より續く長岡丘陵なり。其の東方は山城盆地の沃野にて、水田廣く連る。長岡丘陵地は洪積層より成り、極めて緩傾斜をなし、京都附近より遠望すれば、恰も火山の裾野の觀を呈す。全城殆んど竹の分布を見、其の末端に向日町の聚落ひらく。丘陵の西方は小畑川の浸蝕面に當り急崖をなす所あり。前記の洪積層は古期のものに屬し多雨期に生ぜし河成層にして高度三五〇米の西方山麓地帯にも存在す。また丘陵の末端に新期の洪積層あり、段丘を作りて平地に臨む。洪積層の丘陵地は乙訓筋の栽培地、竹林の主要分布地にして、箱栽培地は他と異り地目は畑地なり。孟宗畑の地價は時に水田の地價より高く、如何に孟宗竹栽培が農業經營上有利なるかを物語るものなり。交通は東海道本線向日町驛(明治九年設置)の他、之に伴行し新京阪電通し東向日町・西向日町の二驛(昭和三年設置)あり交通至便なり。

MEMO

道路の主なるものは西國街道にして、京都より桂川を渡り、本町を経て攝津に入る。其の開通は恐らく平安通都以前ならん。紀貫之の土佐日記に據るに、本街道によつて山崎より京都に上りしものなり。向日町の南入口に島坂あり、土佐日記記載の島坂の舊址なり。聚落立地の状態を見るに、長岡丘陵の末端に位置するものと、東部平坦地に立地するものとの別あり。前者は向日・鶴冠井・寺戸・物集女・上植野等多くは古聚落にして、本町の大部分の聚落は之に屬す。其の形態は地形に左右されるものありと雖も、東部の條里制の影響と長岡京の京城の地たりに關係し、西方山麓地帯の同種聚落とは多少異り、地割稍々整然たり。東方平坦地の聚落は山城に於ける典型的條里式村落にして其の代表として森本及び東土川あり。向日は本郡の首邑、西國街道に沿ふ街村にして、省線向日町驛まで殆ど連續す。本郡の主道は本町を中心に放射狀に各村に通ず。新京阪西向日町驛附近には近時文化住宅建設され小田園都市的形態をなす。附近は京阪地方の近郊住宅地帯化せんとしつゝあり。本町の主要部をなす長岡丘陵は、附近の山麓地帯と共に先住民の重要分布地たりし所、大小の古墳各所に散在し、我國に於ける古墳分布地帯をなす。桓武天皇皇后陵は寺戸にあり。また平安京遷都以前の都、長岡京址は即ち本町に在り大字鶴冠井を其の大

ムコー ムサ

神代巻下巻(一冊)は國寶なり。(泉嶺寺(三日觀音))森本にあり。淨土宗西山派。星水山不空觀音院と號す。延暦十三年に桓武天皇、平安遷都の途次雷雨を一基三幹の老松の下に避け給ひし縁により、その松樹を以て不空觀音像を刻し伽藍を建立、安置せしに始まる。天文元年(寶曆元年)寺戸にあり。天台宗。佛華林山願徳寺と號す。持統天皇の草創と傳ふ。開祖不詳。壽永の亂に殆ど毀滅せしも、後醍醐天皇の朝、承應これを再興す。天皇勅して佛華林山願徳寺寶善提院の號を賜ふ。元龜二年兵火に罹りて堂宇烏有に歸す。豪親・天海等再建を企て漸次復興し現在に至る。本尊菩薩半跏像(木造)一軀。藥師如來立像(木造)一軀は國寶。

【向島】 東三十五區の一。西は隅田川。東は荒川放水路に挟まれ、隅野の江東地方の北部を形成す。昭和七年、大東京實現の結果、新たに生れたる區にて、前は南葛飾郡に屬せる寺島・香取・隅田の三町あり。向島の地名は古くよりありその範圍は本所區の小梅より隅田村に至る江戸一帯の總稱なり。隅田堤・葛西堤または墨堤と稱せるも同一地域の別名なり。地名の起原は淺草側より見て隅田川の向側にある島の好き土地といふ意ならんか。もと郊外の村莊、商致多く殊に春秋には花月の景観、都下に冠たりし爲め

貴賤の遺多かりし所なり。現在の向島區は然らず、全く工業地域をなし、本所區内に屬する部分のみ向島公園として河畔公園をなす。抑々本區は戰國の頃北條氏武相の地を統ぶるにあたり、その家人の知行所となりしが、江戸時代は直領の地たり。維新後は武藏縣・小菅縣・東京府と轉屬し、明治二十二年に合して香取となり商工業逐年發展し、大正十三年町制を布くに至り、工業方面の發達は目覺しきものあり。舊寺島町は鎌倉・室町時代は伊勢神宮の神領地たり、江戸時代に入りて御料地となり、維新後は武藏縣・小菅縣・東京府と轉じ、明治二十二年町制の施行と共に寺島村となり、大正中頃玉の井新地出現し、更に關東大震災の好影響により異常なる躍進を遂げて大正十二年に町となり、本區としては交通機關に恵まれし商工業地なり。舊隅田町は平安の中期後、伊勢大神宮に寄進せられし神領の一部なるが、江戸時代には幕領となれり。區内の向島百花園は古來、堀切の小高園と共に著名にして、いま名譽に指定さる。東京府

【向島】 京都市府伊部にありし村。昭和六年に伏見市、本村及び六條町村を以て京都市の伏見區を置く。ムコーヤマ 向山鑛山 山代町(佐賀縣)ムコエシ 社 台湾花運港懸花運部の舊社。タツキリ溪支流のタウサイ

漢中流地方にあり、高砂族アタル族中タウサイ蕃に屬するもの部落。戸數四四、人口二三九。順路は花運港街よりタウサイを経て至るを便とす。ムコヤマ 舞島 【舞島諸島】 東京府小笠原群島の最北に點在せる諸島。父島の北方三九泥、横濱港を距る五〇三泥。舞島・雄島・樺島・北島等より成る。その總面積六・七一平方呎。昭和十年の人口四八。【舞島】 小笠原群島中の舞島諸島の中央に位す。洋人はケータ島といひ、低平なる爲め平島とも呼ばる。いま東京府小笠原支廳管下。比較的平坦にして地味肥え、草木繁茂せるが、泉水なく、周圍一三軒の小島なり。小花濱にては金沙・營砂と稱する佳麗なる砂が採取せられ、そこに明治十五年、地理局官吏の來島調査せる時に掘りし井戸あり、測量井戸と呼ばれ現在も使用せらる。

ムコハラ 向原 大和國(奈良縣)の古地名。書紀、欽明天皇の十三年に百濟聖明王、佛像及び經論を獻す。天皇、蘇我稻目が佛像により佛像を與へ試みこれを禮拜せしむ。稻目大に悦び己が向原の家を捨てて寺としてこれを拜す。その址はいま高市郡飛鳥村大字豊浦にある廣嚴寺の地なりといふ。

ムサ ムサシ

の十七年に歸化百濟人を大身狹屯倉に置き、高麗人を小身狹屯倉に置くといふ。ムサ 武佐村 畿賀縣近江國蒲生郡の西部。八幡町の東南約二軒。南側に坂割山の小山あれど、他は概して地形低平なり。田畑よく拓けて、農業を主産業とし商業及び家内工業は三割位あり、主産物は米・麥類、特産物には籐アジロ・數物あり。交通よく發達し中山道が中央を東北より西南に通過し之と交叉する縣道は八幡町と東方の神崎郡八日市町とを結び社線八日市鐵道が南を横斷して武佐驛(大正二年設置)あり。もと中仙道の一驛たり。【明治天皇武佐行在所】 指定史蹟。明治天皇北陸東海御巡幸の際、明治十一年十月十二日及び二十一日に御小休あらせられし處なり。【長光寺城】 長光寺(古義眞言宗、俗稱武佐寺)背後の長光寺山にある舊城址。城は應仁亂に當り、當國の豪族佐々木六角氏の族、四郎政隆の始めて築きし所なるが、政隆は細川方として宗家佐々木高頼の山名方と所屬を異にして相争ひ、應仁二年四月、高頼これを攻め破る。のち天龜元年に織田信長が、佐々木水領の兵に當らしめんがため、城を修めて築田藤家をこれに入れ、佐久間信盛の永原城、中川重政の安土城と相應じて佐々木氏を牽制せしむ。然るにこの年六月、藤家、佐々木水領父子の重圍を受け、水路を斷たれて頗る苦しめるに兼じ、承順は使者を遣はし伴つて和を請はしめ

且つことさらに水を乞はしめしかば、藤家その密旨を承けて來たることを悟り、貯ふところの水を盡して與へ、使者還るに及び、藤家、城中既に久しく保ち難きを知り、自ら水邊を破りて士卒を激勵し、死を盟つて出でて戦ひ、大いに敵を破る。世にこれを要巖破田と稱し喧傳するも、このことは太田牛一の「信長記」等には何等の記事なく、且つ今なほ遺址中清水の湧出するところより、この説は恐らく虚傳ならんといはる。されどこの長光寺山を里人は坂割山と稱するは、この傳説によりて呼べるものならん。

ムサ 武社 武射(郡) 上總國(千葉縣)の舊郡名。國造本紀に成務天皇の朝、孝昭天皇の高彦津命の孫、彦忍人命を以て武社國造に定め給ふとあり、その國は國郡制定の時降つて郡となり武射郡となり上總國に屬す。萬葉集二十卷に郡名見え、和名抄は巨備・加毛・理倉・御狹・長倉・時代・片野・大藏・新居・新屋・埴屋の十一郷を管す。明治三十年山邊郡と合して山武郡を建て郡名を失ふ。【武射】 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に山邊郡武射郡見ゆ。神風抄に武射郡府とあるもこの地なるべし。その地いま明らかならざるも、山武郡の豊成村・鳴濱村・公平村及び津海村の邊なるべし。豊成村の大字に上武射田・上武射田あり

ムサカエ 六榮村 六榮村(熊本縣玉名郡)ムサシ 武藏 東海道十五箇國の一。關東平野の西部に位す。國内を八市と十五郡に分ちて、北部の川越・熊谷・川口・浦和の四市と北足立・入間・比企・秩父・児玉・大里・北埼玉・南埼玉・北葛飾の九郡とは國の大部分を占めて埼玉縣の管轄に屬し、中部の東京・八王子の二市と南多摩・北多摩・西多摩の三郡とは東京府の管轄に屬し、南部の小部分なる横濱・川崎の二市と橋本・都筑の二郡とは神奈川縣の管下なり。國造本紀に據れば崇神天皇の朝に知知夫國造を定め給ひ、成務天皇の朝には矣邪志國造を置き給ふ記事あり。國郡制定の時に知知夫は郡名となりて秩父に作り矣邪志は國名となりて武藏に作りしもの、而して國府は多摩郡にあり、今の北多摩郡府中の地が即ち是なり。降つて天武・持統兩天皇の朝の頃、朝鮮人の歸化するもの相次ぎしが、これを宋だ開拓進まざる武藏國に移し、既に奈良時代に至れば、ここに新羅・高麗二郡の新置を見るに至れり。爾後これ等の韓人は、武藏地方の工藝・紡績の發達に與つて力ありき。當時武藏國は東山道に屬せしが、光仁天皇の御代これを東海道に屬せしむ。天慶の亂の前この國の權守興世王が平將門を煽動せしことも、また

天慶の亂の一因と謂はる。亂後、藤原秀郷源經基等の天慶の亂の鎮定に力ありし功臣この國の守となりしが、地方制度の亂るゝに及び漸次莊園増加し、豪族各地方に割據するに至り、謂ゆる武藏七黨と稱するものを生ず。七黨とは丹治・私市・兒玉・旗原・西野・横山・村山等にして、後世の郷士の源をなす。源朝朝の鎌倉に起りし頃は江戸氏江戶の地に在り、高山・河越等の諸氏はまた地方に跋扈せしが、いづれも頼朝の麾下に屬し、爾後この國は鎌倉幕府の直屬の國となる。頼朝、天下兵馬の權を握るや平賀義信この國の守護となり、爾後北條氏の族これを襲ひ、これを他氏に與ふることなかりき。元弘三年新田義貞が勤王の軍を上野に起し鎌倉に進みし時、國府附近の分階河原に北條高時の軍を破る。建武中興の時、足利尊氏は功を以て本國の守護を得しが、のち尊氏の叛するや子義隆をして鎌倉にありてこれを管せしむ。のち次子基氏鎌倉の管領たるに及んでなほ之を繼續す。鎌倉管領の滅後は上杉氏これに代りて關東を鎮めしが、持氏の子成氏管領となるや、山内・扇谷兩上杉氏はこれに叛き成氏古河に走る。よりて將軍義政は澁川義隆を關東探題とし、本州の權に讓せしむ。ここに於て山内上杉の房嗣は澁谷に據り扇谷上杉の持朝は川越によりて、本州を分領す。既にして扇谷上杉の臣、太田持資(道灌)は江戸に築き、鉢形・岩槻等の

諸城を修し、持朝の子定正の時に漸次に本州を併吞す。大永年中、伊豆より起りし後、北條氏の勢力は漸く關東平野を蠶食し尋で本州の南部に及ぶ。北條氏康の時には川越城を陥れ遂に本州を領有するに至る。天正十八年後北條氏の滅亡と共に關東は徳川家康に與へられ、家康は駿河の府中を出でて江戸に移り、以て江戸文化の基を開く。ここに於て子忠吉を認むに、酒井重忠を川越に封ず。忠吉封を轉ぜし後は松平信綱を経て阿部忠秋代つて此處に封ぜられ、數世相傳へて文政年中白河に移り、松平氏(十萬石)が之に代り川越は酒井氏より堀田氏に傳へ、爾後數主を替へ松平氏(のち松井氏、十五萬石)となる。其他、諸侯の國內に封ぜられたる岩槻(大岡氏二萬三千石)、岡部(安部氏二萬二千五百石)、金澤(米倉氏一萬二千石、六浦藩と改稱)の三藩と共に五藩を以て皇政漸新に及ぶ。明治の初め岡部藩は三河平原に移り四藩となりしが、これ等の藩はいづれも明治四年七月には縣となり、明治の初めに置かれたる東京府、神奈川縣・品川縣・小菅縣・六浦縣と共に武藏の南部を治め、忍・岩槻・川越の三縣は、新置の浦和縣と共に武藏の北部を治む。同年十一月十四日これ等の諸府縣を悉く廢し、東京府・品川縣・小菅縣の範圍を以て新たに東京府を置き、神奈川・六浦二縣の範圍を以て新たに神奈川縣を置き、浦和・忍・岩槻三縣の範圍に

は新に埼玉縣を置き、武藏の北東部を管し、川越縣は郡名によりて入間縣と改稱して武藏の北西部を管す。明治六年六月入間縣を廢して熊谷縣を置き、これに群馬縣をも併せしが、明治九年八月熊谷縣所管の各部を埼玉縣の管下に移し以て今日に至る。而して南・北・西の三多摩郡は明治四年十一月に神奈川縣の管轄となりしが、明治二十六年四月より東京府の管轄に移る。東京府が豊島・荏原・葛飾の各部の中より獨立せしは明治二十二年自治制施行の時なりき。この時、横濱市もまた久良岐郡の中より獨立す(のち久良岐郡全部横濱市に入り郡名を失ふ)。明治十三年五月、國內の郡を分割して葛飾郡を南・中・北の三郡とし、埼玉郡を南埼玉・北埼玉の二郡とし、足立郡を南足立・北足立の二郡とせしが、明治二十九年四月に至れば郡の大廢合を行ひ、東京府管下の東多摩・南豊島二郡を合して豊多摩郡とし、埼玉縣管下の中葛飾郡及び北葛飾郡を合して北葛飾郡とし、北足立・新座郡を合して北足立郡とし、入間・高麗二郡および比企郡の一部を以て入間郡とし、比企郡の大部分と横見郡とを合して比企郡とし、兒玉・賀美・那珂の三郡を合して兒玉郡とし、大里・幡羅・榛澤・男衾四郡を合して大里郡とす。而して大正十一年十一月川越市が入間郡より獨立し、昭和八年四月には川口市が北足立郡より、熊

谷市は大里郡より獨立し、昭和九年二月に浦和市は北足立郡より獨立し、三市九郡となり、東京府管下にては八王子市が大正六年八月南多摩郡より獨立し、昭和七年十月に東京府はその隣接せる荏原・豊多摩・北豊島・南足立・南葛飾の五郡を併合して大東京府を形成し、神奈川縣管下にては大正十三年七月、川崎市が横樹郡より獨立し以て今日の形勢となる。

【武藏野】 省線中央本線の一驛にして、社線西武鐵道の接続點。東京府北多摩郡武藏野町にあり。

【武藏野】 奈良市にある春日野の別名。

【武藏野】 二日市町(磯間縣東栗郡)。

【武藏野】 大分縣豊後國東國東郡の東南部。國東半島の東岸を占めて兩子山の南麓に位し、東は周防灘に臨む。北部及び南部は略々西北より東南に連る山麓丘陵地にして南端には小城山(二四二米)聳ゆ。南部の山地は海に迫りて行者岬となる。中部は武藏川が東南流して沿岸に平野開け東岸にも低地発達す。武藏川河口より北の海岸は平直なる砂濱をなす。田畑よく拓けて米・麥を産し又酒造場あり。海岸は水産漁獲物に富む。東部には縣道及び社線國東鐵道が貫通して、武藏驛(昭和八年設置)あり。明治三十一年町制を和八年設置)あり。明治三十一年町制を

和八年設置)あり。明治三十一年町制を布く。古くは和名抄國埼郡武藏野の内とす。中世は田原氏の裔吉弘氏この地を領す。即ち大友氏の屬臣たり。(椿八幡神社)大字三井寺に鎮座。郷社。祭神、應神天皇、比賣大神外一神。例祭、十月廿五日。(照恩寺如法經石塔)國寶。大字三井寺にあり。もと寺の東隣なる椿八幡神社境内にありて、明治初年、毀釋の際地上に轉倒し、爾來そのまゝなりしを同二十二年に現場に移建す。形體完備せる優秀なる遺作とす。

【武藏】 豊後國(大分縣)の古地名。和名抄に國埼郡武藏郡あり。國造本紀に見ゆる國造牟佐自命の居りし處。武藏の名こゝに起る。その地いま東國東郡の武藏町・中武藏村・西武藏村等に互るか。

【武藏野】 關東西部盆地にありて其の範圍については區々の説あり。普通には東京の西部盆地即ち荒川と多摩川間、高度は二五〇米に合まれる地域を指す。東部は荒川を限り西は關東山麓の青梅・飯能・松山の諸町、即ち關東山麓の河口聚落を境界とする地域を占む。新編武藏風土記によれば、荒川の支流は志木・所澤を連ぬ柳瀬川と、川越・入間川・飯能を連ぬ入間川との中間を指すも、茲には現在多く用ひらるゝ區域を採る。即ち武藏國に屬する諸郡の中、今の東京府下多摩・北多摩の二郡、埼玉縣入間郡

の大部と、比企郡・北足立郡・南足立郡の一部なり。武藏野は關東山地より東流せる多摩川・入間川・越邊川の扇狀地によつて形成されたる洪積期の臺地にして武藏野臺地と稱へらる。武藏野臺地の東邊は川越・志木・赤羽・上野の急崖を以て荒川氾濫原に臨み其の高度は約二五米にして一〇―二〇米の高度差の崖をなす。多くは荒川の侵蝕によるものとせらる。東南部は謂ゆる山ノ手の臺地によつて東京灣に没す。西南境は多摩川の流路に沿ひ多摩川斷層により、更にその後の側侵蝕によりて河成段丘をなす。武藏野臺地には舟形をなす狭山臺地あり。海拔高度約一七〇米に達す。この狭山臺地は舊多摩川の古扇狀地が残留するものにして、南部の多摩丘陵と同一期の成生にかゝる。青梅を頂點とし北東豐岡―入間川の線と東南拜島―立川の線を多摩川の流路のなす三角形の山麓線より東方に各々約五軒の距離にありて、侵蝕による形成説や斷層説等あり。狭山丘陵内にある現在の村山・山口兩貯水池の深き從谷は舊多摩川東流の流路なるやを思はしむ。武藏野臺地は上部にローム層に覆はれ三―一五米の厚さを有す。其の下底に近き所は粘土質にて小圓礫を含み、東京の山手にては殆ど缺く所あり。斯る事實より武藏野臺地のローム層は其の下部は水中堆積物と考へらる。ローム層の下部に砂礫層ありて武藏野砂礫層と呼ぶ。數米より一〇米

に達し山麓部に厚層をなし、臺地西方にては山砂利と呼ぶ。東京山の手にては砂粘土に移化す。武藏野砂礫層の下部は頁岩質砂岩となる。前述の如き堆積後土地隆起し、多摩川・柳瀬川・入間川・越邊川の侵蝕によりて臺地内に深き侵蝕谷を作り武藏野は三分せられたり。斯る地質と地形によりて變化ある人文景を現出せり。武藏野臺地の東部と南部の縁邊には貝塚の出土多く、之によりて舊海岸線を略追跡し得る。即ち原始人の居住時代に於ては川越までが海岸にして、この海邊に聚落ありしを知る。奈良時代、關東開發時代には農耕が行はれ、古墳の分布は朝鮮人の歸化により主として山麓地帯より漸次発達せり。高麗村や野火止の名稱によつて知られ、野火止とは即ち朝鮮民族の農法たる火田が其の起源なりとも言はる。斯くして山麓部は深谷山地の湧水や用水により、水田圃田の利用、山地の物産と山の幸、野の幸を利用し得る好條件によるものなるべし。更に古代よりの氾濫原縁邊部と聚落は武藏野の周邊に位置せり。人口の増加と文化の進歩により次第に中央に開拓を進むも、總川期までは依然として開拓遅れ謂ゆる武藏野の茅原をなせり。主要街道も多くは山麓部を通じ、殊に鎌倉に幕府開けし事は兩毛地方よりこの線を利用し、今に至る處に鎌倉街道の名残る。深谷・旗谷より松山を経て入間川・所澤・府中を通ずる線は主要

交通路にて聚落も古くより発達し、北條足利時代の古戰場多くこの沿道にあり。戰國時代に於ける平城としては川越・志木・豊島・江戸城等が築造され近世は城下の前身をなせり。多くは大田道灌の築城にして、關東臺地の平城の形式は江戸城を以て範とす。即ち臺地の先端部を利用し、其の臺地は漆を掘り、臺地下は泥濘地、或は池沼の自然的防禦地形を遺す。志木・川越・岩槻等皆然り。武藏野臺地中央部の開拓の遅延せし理由は用水の不足にあり、厚層の砂礫層のため水は伏流となりて地下に深く滲透するに因る。川越南部に不老川あり。トシトラズと訓む。即ち冬期潤河となりて年を取らざるに依ると。所澤町の北約三軒に堀使村あり。蓋し井を掘るに因ると云ふ。此地は三宮と呼び柳澤吉保の開拓により初めて開けたり。斯くの如く武藏野と著開せらるゝ長き未開拓地の開墾第一は用水の利用にあり。玉川上水の疏水は武藏野臺地の革新期にて、青梅街道に沿ふ新田開發せらる。此等新田は幕府の保護獎勵により均田制が行はれ、整然たる土地の區劃行はれ、今も容易に區別される。次で松平信綱が野火止用水による新田開發、其他民間の開墾行はる山麓や、河川侵蝕谷底にありし舊村より次第に移住し、新田を開拓し、出身古村の村名を上に冠し何々村新田、或は新開と稱し、容易に地名より今も判斷し得る。此等新田村の生

活は非常な勞苦を伴ひ經濟的に窮迫し、過村現象さへあり。多くは麥・神・甘藷等を栽培し、川越芋の名も茲に起源し、青木昆陽の甘藷栽培法は實に非常な貢獻をなせり。江戸の開墾より、養蠶による絹織物の産地となり、木綿の産地となる。養蠶業の發達は横濱開港以後にあり、川越・飯能・所澤等の機業地の發達も茲にあり。東京市の發達は其の西郊地域を住宅化し、省線電車の發達は次第に其の周邊部に延長せり。練馬大根等の名ある蔬菜園藝は次第に之の臺地を經濟的に有利ならしめ、現に郊村園藝は入間川の北岸に及び、東京より四〇軒の遠隔の地に達す。徳川期に備みし自然的地形土質の條件は却て今や反對の好條件となれり。田よりも畑への轉移となり、「田付の畑」の土地貸借買賣さへ行はるゝに至れり。武藏野に通ずる主要幹線は中央線・八高線、西武鐵道川越線・東武鐵道東上線・武藏野鐵道にして、東京近郊電車の發達は一々茲に詳述し難し。交通機關の發達は武藏野をして東京の一大遊覽地帯化し、至るところ舊跡は市民の休養地と變化せり。石神井・上井草・井之頭・洗足等は臺地地下水の湧出し、臺地侵蝕河川の谷頭を利用せるものにて、自然的地形を利用する點は興味あり。水と人の關係はこの武藏野に於て極むるものと言ふべく、今や東京市六〇〇萬の人口を初めとし、一市八ヶ町數百ヶ村の地となれり。武藏野の

ムサシ—ムシヤ

區域範圍は頗る明かならず。これを廣義に解釋すれば、武蔵野一圓、苟も原野のあるところ悉く武蔵野ならざるはなしといふもの、狭義に解釋すれば、武蔵國のうち山地と丘陵地と水田地帯を除く洪積層赤土の原野を武蔵野といひ得べし。而して、今もし更に狹義に解釋するならば、川越以南、府中までの間を限る原野をいふともいひ得るなり。即ちこの武蔵野は本州の東部に當り、地勢上西より東に延びたる本州が、此處にて方向を變へ北方に向ふところに當り、古の謂はゆる陸奥と上方との往還の街路に當る。而して我國最大の平野をなせるを以て、夙に上方人士の間にも喧傳せられ、武蔵野原は詩歌にも誦はれたり。武家時代に入りて鎌倉が政治上の一大中心地となるや、隣接せるこの地は、特に重要性を有するに至り、從つて武蔵野の争奪戦は屢々展開せり。徳川氏が封を關東に受け、ついで幕府を江戸に開き、兵馬の權を握るに及びて、武蔵野は政治上更に一層の重要性を加へるに至れり。武蔵野が謂はゆる武蔵七黨や、關東八平氏の占據によりて年ごとに開拓せられたることは想像せられるところなるも、古くは奈良朝の初め元正天皇の朝、高麗人千八百人ばかりを當國に移して、高麗郡を置きしとあれば、これ等の移民が早くより開墾業をも起せしものならん。降りて鎌倉幕府開始以來、開墾業は急速に進める如く、東鑑

によると、承元三年に武蔵國野間郡の命あり、また仁治二年水田開墾の命見ゆ、江戸名所圖會に「承應より享保に至り、四度まで新田開墾ありて、耕田亦園となり、往古の風光これなし」とあるは、單に江戸時代のことを記したるに止まるものなり。

ムシロ

【武蔵野町】 東京府武蔵國北多摩郡の東部。東京市の西に接し杉並區・板橋區と隣す。北は田無町に近く、南は三鷹村、西は小金井町と隣す。武蔵野臺地の一部を占め、全町畑地多く蕎麥・甘藷等を産し桑畑多く養蠶盛んで繭を産す。玉川上水は南部を東流して東京市に入る。府道よく發達し、省線中央本線は中部を西走して吉祥寺(明治三十一年設置)、武蔵境(明治二十二年設置)の二驛を置く。また帝都電線は東部より來り吉祥寺驛に接續す。其他、武蔵境驛よりは社線西武鐵道多摩線を分岐す。町の東部には井頭恩賜公園あり。また町は東京市西部の住宅地として發達す。昭和三年町制を布く。大字に吉祥寺あり、名稱の起源は明暦年間水道橋邊の吉祥寺(今は本郷駒込)の門前町人を移住せしめて開墾せしめし吉祥寺新田より起るといふ。※井頭

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

ムシロ

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

高麗

五米。山中根曲り笹等密生し、夏季登山は困難なれど、四・五月の積雪期はや、面白き登高をなし得らる。

ムシヤ

【霧社】 臺灣臺中州鹿港郡の一郡。埔里街の東北方約二〇軒。北方合歡山より西南に延びし山稜と、南方水社大山より東北に延びし山稜とが相會する附近にあり、標高約一四八米。東方の脚下に濁水溪の本流一大峡谷をなし濁水渓々と流る。地は隆高越嶺道路に沿ひ奥地一帶の蕃社に對する理蕃上、交通上の要地にして、アタナル族蕃社の本據地なり。この蕃社は頑強を以て聞え、明治四十三年南投廳時代の討伐後に漸く歸順せるものにして、爾來官憲の撫育下に専ら狩獵農耕に従事し、公園・蕃童學校・養蠶指導所が設けられ、内地人、本島人の家屋約三十戸あり、内地人の宿舍までもあり程なり。然るに昭和五年十月廿七日未明、霧社蕃中のマヘン、ボアルン、ホーゴ、ロードフ、タロフ、スークの六社を中心とする壯丁約三百人を襲撃し、公學校・蕃社分室・民家等を襲撃し、その他多數の負傷者を出し、警官・軍隊等出動し、飛行機まで出し、月餘にして漸く鎮定せり。これ謂ゆる霧社蕃事件なり。これを動機とし總督は諭旨を發し、官民を誡め、翌六年三月には議會の協賛を経て蕃人撫育に視察官、技師等を駐在せしめ、彼等の教育・技産に新

十月丁卯美濃國席田郡大領外正七位上子人中斷無位吾志言、子人等六世祖父乎留和斯知自加羅國、慕化來朝、當時未練、風俗不著、姓字、望、國號、蒙賜姓字、賜姓加羅造と記し、日本後紀には、弘仁五年八月丙寅化來新羅人加羅布古伊等六人配美濃國とありて、席田郡加羅造もこの地に土着せるものとす。三代實錄に「元慶元年四月十九日庚寅卜定悠紀美濃國席田郡、主基備中國都字郡並下食」と見え、悠紀田となりし事もあり、その故に余貫川は有名となり、殊に仙鶴が棲みしと傳へられて古歌多く殘る。また伊都貫川とも書き、枕草子には「ぬき川」と見え、備馬樂には「いつぬき川」と見え、八雲御抄に「いつぬき河美乃」と記し、榮原愚按抄には「貫河は美濃國に伊豆貫河と云ふ所あり、伊豆を略していつ」と載す。大字上久保附近は和名抄の本菓郡船木郷の地にして、山名に船木と殘る。三代實錄には不破郡の國分寺が炎上したるため、席田郡定額尼寺を國分寺代用とせられたる事あり。南部には本菓中學校あり。

【席田(郡)】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に席田郡見え、石田・大國・新居の三郷を置く。那珂・精屋・御笠の三郷の間に介する小郡なりしが、明治二十九年廢して筑紫郡に入り郡名を失ふ。

【席田】 福岡縣筑紫郡にありし村。昭和八年に福岡市に編入す。

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯沼等の數驛を経て吾野驛(埼玉縣入間郡吾野村)に至る五七・九軒、雜馬驛より分岐し豊島

武生水町

紀元を劃するに至れり。長崎縣壹岐國壹岐郡の西南岸。北は渡良村、柳田村に、東は志原村に、南は初山村に各々隣接し、西の一部は海に臨む。海岸は比較的屈曲に富み西部中央よりは一灣深く東北方に彎入して良港地ノ浦港を形成す。その海岸には低地ありて聚落密集す。然し西を除く三境は何れも山脈連なり、村内また小丘陵ありて概ね山地をなす。この地は壹岐第一の繁華街にして、政治交通の中心都邑なるを以て生業は殆ど商業を營み、丘陵間の諸處には耕地拓けて主として大豆等を出す。交通は陸上は東方の石田村・東北方の田河村・北方の勝本町へ各驛道を出出してバスを通じ、海上は福岡・平戸等へ各定期汽船の便あり。域内には支那を始め憲兵分遣隊・壹岐要室司令部・歩兵第四十六聯隊・區域裁判所・稅務署・私立中女學校等の官衙學校あり。大正十四年に町制を布く。古くは和名抄、石田郡物部郷の内とす。海東諸國記に「無山郡郷、鴨打代官主之」と見え、松浦黨の本島を分管せし比は鴨打氏の所知たり。文明中、波多泰(松浦黨岸城城主)悉く五氏の代官を返して全島を併せ、此地に龜尾城を築き兵を置く。のち全島悉く松浦氏に屬するや吏員を山地に置きて島事を視せしむ。庄屋所の號あり。もと郡役所の所在地なり。「華光寺」禪宗。安正三年大圓の創建、寛政五年に松浦氏

武生水町

紀元を劃するに至れり。長崎縣壹岐國壹岐郡の西南岸。北は渡良村、柳田村に、東は志原村に、南は初山村に各々隣接し、西の一部は海に臨む。海岸は比較的屈曲に富み西部中央よりは一灣深く東北方に彎入して良港地ノ浦港を形成す。その海岸には低地ありて聚落密集す。然し西を除く三境は何れも山脈連なり、村内また小丘陵ありて概ね山地をなす。この地は壹岐第一の繁華街にして、政治交通の中心都邑なるを以て生業は殆ど商業を營み、丘陵間の諸處には耕地拓けて主として大豆等を出す。交通は陸上は東方の石田村・東北方の田河村・北方の勝本町へ各驛道を出出してバスを通じ、海上は福岡・平戸等へ各定期汽船の便あり。域内には支那を始め憲兵分遣隊・壹岐要室司令部・歩兵第四十六聯隊・區域裁判所・稅務署・私立中女學校等の官衙學校あり。大正十四年に町制を布く。古くは和名抄、石田郡物部郷の内とす。海東諸國記に「無山郡郷、鴨打代官主之」と見え、松浦黨の本島を分管せし比は鴨打氏の所知たり。文明中、波多泰(松浦黨岸城城主)悉く五氏の代官を返して全島を併せ、此地に龜尾城を築き兵を置く。のち全島悉く松浦氏に屬するや吏員を山地に置きて島事を視せしむ。庄屋所の號あり。もと郡役所の所在地なり。「華光寺」禪宗。安正三年大圓の創建、寛政五年に松浦氏

武生水町

紀元を劃するに至れり。長崎縣壹岐國壹岐郡の西南岸。北は渡良村、柳田村に、東は志原村に、南は初山村に各々隣接し、西の一部は海に臨む。海岸は比較的屈曲に富み西部中央よりは一灣深く東北方に彎入して良港地ノ浦港を形成す。その海岸には低地ありて聚落密集す。然し西を除く三境は何れも山脈連なり、村内また小丘陵ありて概ね山地をなす。この地は壹岐第一の繁華街にして、政治交通の中心都邑なるを以て生業は殆ど商業を營み、丘陵間の諸處には耕地拓けて主として大豆等を出す。交通は陸上は東方の石田村・東北方の田河村・北方の勝本町へ各驛道を出出してバスを通じ、海上は福岡・平戸等へ各定期汽船の便あり。域内には支那を始め憲兵分遣隊・壹岐要室司令部・歩兵第四十六聯隊・區域裁判所・稅務署・私立中女學校等の官衙學校あり。大正十四年に町制を布く。古くは和名抄、石田郡物部郷の内とす。海東諸國記に「無山郡郷、鴨打代官主之」と見え、松浦黨の本島を分管せし比は鴨打氏の所知たり。文明中、波多泰(松浦黨岸城城主)悉く五氏の代官を返して全島を併せ、此地に龜尾城を築き兵を置く。のち全島悉く松浦氏に屬するや吏員を山地に置きて島事を視せしむ。庄屋所の號あり。もと郡役所の所在地なり。「華光寺」禪宗。安正三年大圓の創建、寛政五年に松浦氏

牟知島

再興す。北海道千島國占守郡に屬する一島。金子古丹島の南方新知郡雷公計島との間にあり。また牟知列岩ともいひ、舊名をニバイト(偶糸)といふ。元祿郷帳にはシアアシコタンニバイトとあり。昭和十三年に町制を布き古賀町と改む。

席田

【席田(郡)】 美濃國(岐阜縣)の古郡名。續紀、元明天皇の靈龜元年七月に、尾張人席田君通近及び新羅人七十四家を美濃國に貫し本郡を置く。蓋し本菓郡を割きて本郡を置きしなり。和名抄は美和・磯部・那珂・名大の四郷を置く。中世に藤田莊を置かれしも此地なり。爾後、藤田に作りしも近世は席田に作る。明治二十九年本菓郡に入りて郡名を失ふ。

席田

【席田(郡)】 美濃國(岐阜縣)の古郡名。續紀、元明天皇の靈龜元年七月に、尾張人席田君通近及び新羅人七十四家を美濃國に貫し本郡を置く。蓋し本菓郡を割きて本郡を置きしなり。和名抄は美和・磯部・那珂・名大の四郷を置く。中世に藤田莊を置かれしも此地なり。爾後、藤田に作りしも近世は席田に作る。明治二十九年本菓郡に入りて郡名を失ふ。

霧社

【霧社】 臺灣臺中州鹿港郡の一郡。埔里街の東北方約二〇軒。北方合歡山より西南に延びし山稜と、南方水社大山より東北に延びし山稜とが相會する附近にあり、標高約一四八米。東方の脚下に濁水溪の本流一大峡谷をなし濁水渓々と流る。地は隆高越嶺道路に沿ひ奥地一帶の蕃社に對する理蕃上、交通上の要地にして、アタナル族蕃社の本據地なり。この蕃社は頑強を以て聞え、明治四十三年南投廳時代の討伐後に漸く歸順せるものにして、爾來官憲の撫育下に専ら狩獵農耕に従事し、公園・蕃童學校・養蠶指導所が設けられ、内地人、本島人の家屋約三十戸あり、内地人の宿舍までもあり程なり。然るに昭和五年十月廿七日未明、霧社蕃中のマヘン、ボアルン、ホーゴ、ロードフ、タロフ、スークの六社を中心とする壯丁約三百人を襲撃し、公學校・蕃社分室・民家等を襲撃し、その他多數の負傷者を出し、警官・軍隊等出動し、飛行機まで出し、月餘にして漸く鎮定せり。これ謂ゆる霧社蕃事件なり。これを動機とし總督は諭旨を發し、官民を誡め、翌六年三月には議會の協賛を経て蕃人撫育に視察官、技師等を駐在せしめ、彼等の教育・技産に新

霧社

【霧社】 臺灣臺中州鹿港郡の一郡。埔里街の東北方約二〇軒。北方合歡山より西南に延びし山稜と、南方水社大山より東北に延びし山稜とが相會する附近にあり、標高約一四八米。東方の脚下に濁水溪の本流一大峡谷をなし濁水渓々と流る。地は隆高越嶺道路に沿ひ奥地一帶の蕃社に對する理蕃上、交通上の要地にして、アタナル族蕃社の本據地なり。この蕃社は頑強を以て聞え、明治四十三年南投廳時代の討伐後に漸く歸順せるものにして、爾來官憲の撫育下に専ら狩獵農耕に従事し、公園・蕃童學校・養蠶指導所が設けられ、内地人、本島人の家屋約三十戸あり、内地人の宿舍までもあり程なり。然るに昭和五年十月廿七日未明、霧社蕃中のマヘン、ボアルン、ホーゴ、ロードフ、タロフ、スークの六社を中心とする壯丁約三百人を襲撃し、公學校・蕃社分室・民家等を襲撃し、その他多數の負傷者を出し、警官・軍隊等出動し、飛行機まで出し、月餘にして漸く鎮定せり。これ謂ゆる霧社蕃事件なり。これを動機とし總督は諭旨を發し、官民を誡め、翌六年三月には議會の協賛を経て蕃人撫育に視察官、技師等を駐在せしめ、彼等の教育・技産に新

霧社

【霧社】 臺灣臺中州鹿港郡の一郡。埔里街の東北方約二〇軒。北方合歡山より西南に延びし山稜と、南方水社大山より東北に延びし山稜とが相會する附近にあり、標高約一四八米。東方の脚下に濁水溪の本流一大峡谷をなし濁水渓々と流る。地は隆高越嶺道路に沿ひ奥地一帶の蕃社に對する理蕃上、交通上の要地にして、アタナル族蕃社の本據地なり。この蕃社は頑強を以て聞え、明治四十三年南投廳時代の討伐後に漸く歸順せるものにして、爾來官憲の撫育下に専ら狩獵農耕に従事し、公園・蕃童學校・養蠶指導所が設けられ、内地人、本島人の家屋約三十戸あり、内地人の宿舍までもあり程なり。然るに昭和五年十月廿七日未明、霧社蕃中のマヘン、ボアルン、ホーゴ、ロードフ、タロフ、スークの六社を中心とする壯丁約三百人を襲撃し、公學校・蕃社分室・民家等を襲撃し、その他多數の負傷者を出し、警官・軍隊等出動し、飛行機まで出し、月餘にして漸く鎮定せり。これ謂ゆる霧社蕃事件なり。これを動機とし總督は諭旨を發し、官民を誡め、翌六年三月には議會の協賛を経て蕃人撫育に視察官、技師等を駐在せしめ、彼等の教育・技産に新

ムスフ——ムツ

ムスフ

結村 岐阜縣美濃國安八郡の東北端。大垣市東方二軒。北は本郷郡田村に、東は最良町に、南は名森村に、西は掛兼川を隔てて三城村に相對す。村は南北に細長く、西濃平野の中部にありて、西境には掛兼川南流す。北部には僅かに厚川の自由蛇行をなせる跡を殘す。此地は長良川・掛兼川に圍繞せられたる地域にして古來水害多き地方なり。東方の最良町と共に輪中を形成し之が水防に當り、之を最良輪中または結輪中と云ふ。平地には米・麥・菜種等を産し、養蠶も行はれ、副業としては養蠶盛なり。交通は割合便利よく、北境の輪中堤には昔の美濃路が通じ西方の澤渡の渡にかゝり、最近はこの中部を東方の最良より西に直直に掛兼川を渡り大垣に至る岐垣國道通す。また掛兼川に沿うて高嶺町のバス通す。村名の起原詳ならざるも嶺守結大明神より來りしものならん。此地は和名抄に見ゆる安八郡物部郡の地にして、中世は二ツ木庄の内に屬す。養孝の豐富士記には「露霜のむすぶの町やこめて立つあだ人も袖や露けき」と見え、結の町屋とは美濃路に沿ひ街村をなせる關係なるべし。結大明神は後陽成院應永會に爲滿朝臣の「祈りてもかひなかるべき行衛か」と契りむすぶの神とは「や」等とよみ永享・嘉吉の頃、照手姫は小果列官に別れ、結の里に來りて、此神に祈り再び小栗に逢ひし由を云ひ傳へ、俗に照手姫の

ムセー

宮と云ひ、飯が守本尊一寸八分の觀音の像もこの境内にありて、標々云ひ傳ふるも詳かならず。
牟西面 朝鮮慶尙北道尙州郡の西南部。尙州邑の西南一五軒。東南は牟東面に接し、西は忠清北道沃川郡青山面、西南は同水同郡龍山面・黃洞面と界す。東北は西南に長く約一八軒、幅は四一五軒あり。小白山脈中に位し、東南境には白華山脈南北に連互して境界に埔城峰(九三三米)聳え、北西境には八香山(七七二米)あり、山脈南走して千金山(四六五米)を起し、東北境には白鶴山(六〇三米)あれど、中部東北偏は稍々低き丘陵地をなし、これを濬濟する石川沿岸に田畑ひらけ、また西半部山地の間にも南北の方向に巖谷ありて狭長なる耕作地を見る。農産には米・麥・大豆等あり。山野月明嶺山の嶺區は當面と、忠清北道沃川郡青山面に跨る。同嶺山は黒鉛山にして昭和十年には土炭黒鉛八・三〇九萬(價額一八萬餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は一四二人とす。東北部に尙州・黃洞間の道路通じ、また北方の以所里に道路を通じて、一部にバスの便あるも、交通概して不便なり。
牟田部 佐賀縣東松浦郡相知町の大字。唐津線の一驛(明治四十五年設置)あり。
陸奥 本州東北端の國名。今その二

ムツ

戸部が岩手縣に屬するの外は、國內すべて青森縣に屬す。往時は今の福島縣以北宮城・岩手・青森の三縣、及び秋田縣管下の鹿角郡を併せてすべて陸奥一國の中なり。明治元年十二月東北地方平定後陸奥を分ちて磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の五國となし、其の最奥の地に依然舊稱なる陸奥の名を存する事となれり。ムツの名義はミチの國の轉。東北地方の土音、往々にしてイ韻をウ韻に轉ずるより起る。ミチの國、精しくはミチノクの國にして道の奥にある國の義。東海・東山兩道の役を承けて、其の最奥にあるが爲に呼ばる。然るに其のミチノクノクムの名冗長にして、殊にノクノクノクノクノクノクと稱す。拾遺集平家盛の歌に、「みちの國名取の郡黒塚といふ所に、重之が妹あまたありと聞きて言ひつかはしける」と訓書きしながら、歌には「みちのくの安達が原の黒塚に鬼こもれりと言ふはまこ」とあるなど、以て見るべし。古事記傳に、陸の字をミチと讀み、それを數の六に借用するより、ムツと紛れたるならんと解けるは考へ過ぎなり。普通に通じて奥州と云ひ、隣國出羽と共に奥羽と稱す(註)。
陸奥 本州東北端の國名。今その二

輕海峽に通ず。灣間中央に南側より突出せる夏泊岬あり、恰も鐘形にくびれ東に大瀧灣・野邊地灣の支灣を分ち、西に青森灣の灣入を生ず、これら支灣の灣頭に各同名の港市發達せり。灣内は一〇〇米以下の淺海にして、鯉・帆立貝・海鼠等の産あり。
【陸奥赤石】省線五能線の一驛(昭和四年設置)。青森縣西津輕郡赤石村にあり。
【陸奥岩崎】省線五能線の一驛(昭和七年設置)。青森縣西津輕郡岩崎村にあり。
【陸奥森田】省線五能線の一驛(昭和七年設置)。青森縣北津輕郡森田村にあり。
【陸奥津邊】省線五能線の一驛(昭和十一年設置)。青森縣西津輕郡岩崎村大字津邊にあり。
【陸奥鶴田】省線五能線の一驛(大正七年設置)。青森縣北津輕郡鶴田村にあり。
【陸奥海】省線八戸線の一驛(大正十五年設置)。青森縣八戸市津波町にあり。
【陸奥森田】省線五能線の一驛(大正十三年設置)。青森縣西津輕郡森田村にあり。
【陸奥森山】省線奥羽本線の一驛(昭和十年設置)。青森縣南津輕郡石川町大字森山にあり。
【陸奥横濱】省線大湊線の一驛(大正十年設置)。青森縣上北郡横濱村にあり。
ムツ 六ヶ岳 筑紫山脈の一峯。直方市の西嶺にして、西面は福岡縣鞍手郡西

ムツア

川村に屬す。標高三三九米。山は朝日・天冠・羽衣・高嶺・出穂・時門の六峯より成る。東麓に筑豊本線南北に通す。
六會村 神奈川縣相模國高座郡の東部。藤澤町の北隣にて、境川の西岸。東は川を隔てて鎌倉郡と相對す。相模野臺地の東の一部を占め、全村畑地多く、境川流域と西部を南流する引地川の流域には水田あり。農業行はれて、甘藷・麥・粟・馬鈴薯・甘藷・切干等を産し、また桑園多く養蠶行はれて繭の産多し。二條の鐵道は南走して藤澤町に通じ、北部を横走するものは東方の鎌倉郡戸塚町に通す。社線小田原急行鐵道の江ノ島線は中央を南走し新長後驛・六會驛(共に昭和四年設置)を置く。明治二十四年、明治天皇皇孫澤行幸の際この地にて演習を天覽遊ばさる。
陸合 秋田縣羽後國平鹿郡の西南部。津舞町の西南約四軒。南及び西は雄勝郡に接す。横手盆地の西南部に位し、全村概ね平坦にして、皆瀬川は南境を西流し雄物川に合す。雄物川は西部を西北に流る。米・藪を産す。道路には村の西北部を斜斷するもの及び中部を南北に通ずるものあり。北方の社線横莊鐵道羽後里見驛、東北方の同線津舞驛へは各約五軒あり。もと今泉と谷地新田の二部落に分れ時に部落感情の對立などありしが、町村制實施の際これを合併して、和合の意よ

ムツア

り陸合村と名づく。
陸合村 福島縣岩代國河沼郡の西北部。桑折町の西に隣接す。地勢は西北部に高く東南方に傾斜し、東部はやや福島盆地に屬す。鹿ヶ澤川は北境を東流し村の東部に於て流路を南に變じ、ついで阿武隈川に合す。米・藪・櫻桃等を産す。道路は西部より東部に通じ桑折町と西方の湯野村へはバスの便あり。村内の高嶺山の頂上に本丸址・西丸址と稱する平坦なる處あり、赤前址(西山城址)と傳ふ。伊達氏の遺蹟、朝宗入道念西の創建にかゝり、のち伊達朝の據りし處とす。大字萬正寺に伊達朝宗の墓あり。五輪塔にして地輪に高野寺殿淨光念西大居士、文政四年辛巳十月建立とあり。その後方に朝宗のものとの墓と傳ふる小塚あり。朝宗は始め中村常陸介と稱し、文治五年、源頼朝奥州征伐の時に軍功ありて伊達郡を賜はりそれより伊達氏を稱したり。
陸合村 福島縣岩代國河沼郡の中部。野澤町の東方約四軒。南方に飯谷山(七八三米)、東北境に鳥屋山(五八一米)聳え、土地は東南部に高くして、西北方に傾斜し、阿賀川の一支流北部を西流し、野澤町に入りて阿賀川に合す。米・藪・木材を産す。越後街道は北部を東西に通じ、省線磐城野澤驛へは約四軒あり。尾野木村・登世島村・下谷村と組合村を成し、尾野木村に役場を置く。
陸合村 山梨縣甲斐國南巨摩郡の南部。

ムツ

富士川の右岸。赤石山脈の一分脈なる一七〇〇米餘の山岳西境に連互し、靜岡縣駿河國安倍郡に界し、西は富士川を境に西八代郡に接す。村内概ね山林にて東へ傾斜し、略中央を戸栗川東流して富士川に會す。流域樹状の小平野ありて多少の耕地開く。農・藪・林の三業を主生業とし米・麥・甘藷・大豆の農産物及び藪・木材・木炭等を主産とす。製糸・製材業も盛にして富士峽に沿ふ主要林なり。鐵道は東部河岸を走り、大字南部は對岸への渡場として往時より榮え、今は橋によりて對岸の鐵道省借入線富士身延線内船南部驛へ通す。約二軒あり。中世は南部御牧といへるはこの附近の地名にて、大字南部はその遺稱とす。加賀美次郎遠光の三男、先行は大字南部の地に居して南部氏を稱す。(諏訪神社)大字追平に鐵座。郷社。祭神、建御名方命外一神。穴山信友の手書般若經・天文廿四年神領の券書、永祿四年穴山信君神田券書・天正十四年勝千代の朱印狀等を藏す。例祭、四月十五日。
陸合村 熊本縣肥後國玉名郡の西南部。高瀬町の西方約三軒。西南は二軒餘にて鳥原海岸に達す。北隅には秀麗なる日岳(二〇五米)聳え、北部はその南斜面地をなす。中部・南部は菊池川流域沖積地の一部を占め地形平坦なり。米・麥の産多す。三池街道が中央を東南より西北に通過して自動車の便あり。南隣の大字野村に

ムツ

省線高尾島本線の大野下驛あり。中世以降は大野庄の内たり。
陸岡村 千葉縣上總國山武郡の北部。成東町の北隣にて、北は印旛郡と隣す。全村丘陵地に於て森林多く、中央を境川南流してその流域のみ狭き低地をなし沼田をなす。農業行はれて米を産し、養蠶盛にて繭の産多し養蠶も行はる。鐵道は村の中央より四方に通じ南隣の成東町と日向村、西隣の印旛郡八街町等に通す。殊に日向村内の省線總武本線日向驛に近くバスの便あり。此地古くは和名抄、武射郡埴原郷の内とす。大字埴原は文祿三年水帳に牛谷に作り、天正二十年家忠日記に上總知行はんやの郷、千二百餘石とあるは此地とす。埴原大塚氏と稱するは千葉一門にして、即ちこゝに占居したり。
陸月島 陸野村(愛媛縣溫泉郡)
ムツクラ 六座 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に愛甲郡六座郷見ゆ。その地詳ならざるもいま愛甲郡高峯村・依知村の邊に當るか。
陸澤村 山梨縣甲斐國中巨摩郡の東北部。甲府市の西北方約六軒の山村。甲府盆地の北邊をなす關東山塊の一部なる金峰山より西南走する一分脈の末端東斜面を占め、西は其の分水嶺を以て北巨摩郡に界し、南は荒川の谷により甲府盆地に續く。麓落は西境の山

ムツア——ムツサ

ムツア

ムツシ——ムツミ

阪と東方の羅漢寺山(一〇五八米)の山裾とに狭まれたる谷沿に發達し、農産・林業を主産とし、米・麥・粟・木炭等の産あり。村道は南北に走り、甲府市へバスの便あり。近世に急澤郷と稱せしは附近の諸村を總べし名稱にして、大字に急澤あり。いま急澤村と組合村を成し本村に役場を置く。(天澤寺)曹洞宗。互龍山と號す。曹洞林七箇寺の一。文明年間、飯富氏の草創、鷹岳宗俊を請じて開山とす。其後、火災に遭ひ古記録焼失し沿革不詳。本尊、釋迦如來。

ムツシ

六ツ師 愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され郡界を置く。

ムツジ

六辻町 埼玉縣武蔵國北足立郡の南部。浦和市の南隣にあり。東南は關東平野の一部を占め、西南方約四軒の所を荒川東南に流る。全村低地にて水田多く中部は畑地をなす。農業を主とし米を産し、綿織物の製造も盛なり。中山道は荒川より来り村の中央を北走して浦和市に通じバスの便あり。村内の中山道の驛路に焼米坂といふあり。高峻ならざるも一帯の低野を散下し畷界廣し。一畷浦和坂といひ、浦和市の名もこれに起るといふ。昭和十三年に町制を布く。

ムツシマ

六島村、山口縣長門國阿武郡の北方海上。萩市の北方近海に散在する大島・相島・楳島・尾島・肥島・羽

ムツナ

六名 三河國(三河國、愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡六名郷あり。諸本名を記して石に作る。いま岡崎市及び額田郡の額田町の邊に當る。

ムツノ

陸野村 愛媛縣伊豫國温泉郡の西北に横はる忽那諸島の東部。陸月島及び野郎島とより成り、西は瀬戸海峽を隔てて中島に對し、北は安藝灘に、東は瀬灘に面し、南は釣島海峽を挟みて興居島と對す。小丘起伏して海に臨み崖下に砂灘地あり。陸月島南部には稍廣き平地ありて耕作行はる。農を主産業とし米を産し、特産として蜜柑・除虫菊を栽培す。南方の三津濱港とは海上七海里、毎日二回發動機船の便あり。明治二十二年に陸月・野郎島の二村を合して本村を立つの際、各々その一字を取りて陸野村を建つ。

ムツノセ

六瀬村 兵庫縣攝津國川

ムツヒラ

陸平 愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村(今の大野町)より獨立し、同三十九年に外六ヶ村と共に七郷村を建つ。

ムツミ

六ツ美村 愛知縣三河國碧海郡の南部。東北は岡崎市に接す。全村概ね第四紀新層に屬し矢作川の沖積地にして、三河平野の一部をなす。西部には矢作川西南へ流れ、南境には廣田川が横切り三河へ流れ、また中部には安藤川西南へ流る。矢作川よりは占部・高橋・高瀬の三用水が貫流し、灌漑の利便を興ふ。平野面には米・麥・大豆等の産多く、養蠶も盛にして桑葉の移出も亦多し。安城町の隣接地として養蠶盛にして其他に

ムツミ

千葉縣下總國千葉郡の西北部。大和田町の北隣にて、東より北は印旛郡と隣す。概ね丘陵地にて森林多く、東境及び北境には、おのおの北と東に流れて印旛沼に入る小流ありて、その流域の狭き低地は沼田をなす。農業行はれて米・麥を産し養蠶・養蠶も行はる。木下街道は大和田町より来りて中央を北走し、村の南部より大和田町を経て西南方の船橋市へバスの便あり。大字桑納は加納の義にて中世の田制名目なるを、文字を誤れるものならん。

ムツラノショ

六浦莊 神奈川縣久良岐郡にありし村。昭和十一年に横濱市に入る。もと米倉氏の陣屋のありし處。「六浦落」一に金澤藩、元祿年間以後、米倉氏陣屋を置き一萬二千石を食み子孫相承け、明治維新に至る。同四年に藩を廢して縣とせしが、間もなく廢して神奈川縣に入る。

ムツレ

六連 愛知縣渥美郡にありし村。明治

ムツミ——ムナカ

ムツワ

六ツ和 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢され立田村を置く。

ムデン

務田 愛知縣北守郡三間村の大字。省線守和島線の務田驛(大正三年設置)あり。

ムト

牟東面 朝鮮慶尙北道尙州郡の西南部。尙州邑の西南約二〇軒。北は平西面、東は功城面に接し、南は忠清北道永同郡黃金面・黃洞面と界す。東西約一〇軒、南北約八軒あり。西境に白華山脈走りて最高九百米を超え、南境には芝山(七二二米)、東北境には白鶴山、星峰山等五百米前後の山聳え、城内山地多きも、中部と北部に平地開け、南北に石川流れて之を灌漑す。米・麥・豆類・金銀等を産す。中部に尙州・黃洞を結ぶ街道通じ、バスの便あり。途中、新川里よりは東南方の秋嵐嶺に至る道路あり。

ムト

無等山 朝鮮全羅南道和順郡二西面と光山郡石谷面とに跨る山。光州府の東方約八軒に聳え、標高一八七米。一に瑞石山とも稱し、全南の名山にして、奇岩怪石に富み、松柏楓の類繁茂し、山嶺よりの眺望は多島海を一望に寛めて壯快極りなく、朝鮮八景の一に數へらる。その西麓には新羅時代の古刹説

ムト

霧頭山 臺灣高雄州屏東郡と、臺東廳臺東郡の境界にあり、標高一九一三米。臺灣山脈の一部をなす。

ムトベ

六部 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡六部郷あり。東鑑、元暦元年に八條院御領丹波國六部郷とあるも此地を稱せしものなるべし。いま天田郡に六部村あり上・中・下の三村に分る。六部郷の地は此の邊ならん。

ムナカ

宗像 千葉縣下總國印旛郡の西北部。印旛沼の北岸にあり。南は湖を隔て、白井町・佐倉町と相對す。全村丘陵地にて針葉樹林多く、丘陵間には所々に狭き平地ありて畑地をなし、中部を南流する小流附近と西部には水田あり。農業行はれて米を産し、養蠶も行はれて繭の産あり。その他養蠶も盛なり。印旛沼沿岸は狭き低地をなし沼地多し。縣道は中央を北走し利根川畔の木下町に通じバスの便あり。同時に省線成田線木下驛を置く。また南は白井町に渡船の便あり。古くは和名抄、印旛郡船穂郷の内なるべし。村名の宗像は宗像の神を鎮守とする故に名付けしものといふ。大字岩戸に千葉氏の族五郎胤安の居せし城址あり。

ムナカ

宗像 福岡縣十九郡の一。筑前國の北部。直方市の西北方約五軒にありて西北部一帯は玄海灘に臨む。東方約九軒には八幡市、西南方約一六軒には福岡市

蜀天

蜀天の産多し。交通路には福岡町(額田郡)より三和方面に至る土呂街道通ず。矢作川には赤流・合歌木の渡船ありて、之は沿海沼川に設けられ難船の救助・水死・流木に關する諸般の事務を執りしものなり。今は村長が従来の浦役場事務を管掌する事となり、浦役場の名稱も自然消滅せり。鐵道は社線古賀鐵道南部を通じ、中島驛(明治四十四年設置)を置く。大字青野は開ける蘆島五郷の一にして、合歌木は合歌の大樹ありし爲め此名を得たりといふ。明治三十九年に中島・青野・合歌木・占部・村海・中井の六村を合して本村を建つ。村内に中島城址あり。永祿の始め板倉重定(築城するところ)とす。重定は織田氏に與力し一族と共にこれに居りしが、深溝大助好景來り攻めず。爾後、好景これに居す。大字土井に本多次郎信重の宅址あり。其子なる豊後守信守は門徒一揆の時、これに據り一揆の兵を拒ぐ。また土井大炊頭利勝は水野信元の遺孤にて、此地の人、小左衛門利昌に養はれし事諸書に見ゆ。また大字上和田は大久保家の故里とす。青野の地は松平氏族、東條氏流青野氏の居りし所。またこの地は大正天皇(大嘗祭)の時、その悠紀田となる。(精日天皇神社)大字高地に御座。郷社。祭神、彦火火出見尊・伊弉諾尊・伊弉冉尊・素戔嗚尊・大田靈神。江戸時代末印領四十三石を安

あり

東北境には孔大寺山脈が東南より西北に連りて郡境を劃し、西北端は嶺ノ岬となり、西北方海上に地ノ島が浮び更に西に大島嶺。中央には低夷なる三郡山塊ありて東南より西北に所々斷續し、西北端は草崎に移り僅か西北海上に膠島が浮ぶ。其他、諸所に丘陵起伏す。釣川は東方より来りて中央北偏を西北流し草崎の東にて海に注ぐ。南部には西流し草崎の東と南の海岸は松林長く續きて狐状の曲浦をなし、東は東北に延びて鏡ノ岬に終り、南は西南に續きて橋崎に終る。橋崎の南に曾根ノ鼻の突出ありて東北方へ深く突入する奴山川の南へ開口する湯の西を抱く。更に南の海岸は同じく狐状の平直なる海濱にして南に續く。海岸は砂濱多けれども奴山川河口の津屋崎港と草崎の東の神津港は築地をなす。海岸と河岸に低地發達せり。低地は田畑よく拓けて米・麥・繭を産し酒類も出す。赤間町には炭礦あり。郡内は福岡町・津屋崎町・神津町・東郷町・赤間町の五町外十箇村を含み、人口密度は二五〇人にして、福岡町は最も多く六六二人なり。鹿兒島街道及び省線鹿兒島本線は中央を東北より西南に横斷し、社線博多灣鐵道は博多より起つて北走し、西南部の宮地嶺驛に達す。古事記には駒形、書紀には宗形、國造本紀は身形に作り、平安時代より宗像とす。和名抄は平宗加多と註し安岐・山

蜀天

ムナカ—ムホー

田・怡土・荒自・野坂・荒木・海部・鹿内・深田・森生・辛家・小荒・大荒・津丸の十四郷を管す。後世、鞍手・精屋二郷との間に郡境に多少の出入あり。宗像三神を祀る宗像神社を以て著はる。

【宗像】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に遠賀郡宗像郷見ゆ。これは和名抄刊本の錯誤にして、當然宗像郡に入るべきものなり。而してまた御領目録に「筑前國宗像郷、寶治二年關東進軍後畿内院地也、龜山院御寄進禪林堂」とあり、よつて中世には宗像郷と稱せしなるべし。其の地はいま詳かならざるも、宗像社文書に、宗像郷曲村と見ゆ。曲はいま宗像郡南郷村の大字名なり。されば宗像はこれの邊を稱せしものと思はる。

△ナン 夢灘 朝鮮總督府鐵道湖南本線の一驛(大正二年設置)。全羅南道務安郡石谷面にあり。

△ネアケ 胸上村 岡山縣備前國兒島郡の東端。兒島半島の頭部南岸に位置し瀨戸内海に南面す。北は鋒立村、西は甲浦村、西南は山田村に接す。面積僅に六・二八平方町。東光寺山(二八三米)の東麓に位し、西部に稍山地あれども他は概ね土地平坦なり。山麓に耕地拓け、海岸は豊田連なる。海岸の風光絶佳にて舟楫・釣魚・海水浴いづれもまた良く、大字胸上は瀨戸内海國立公園の内とす。村内農業を主とし米・麥・蕎麥・梅干・薄荷・酒類等を産す。縣道により近隣に自動車

の便を有す。「八幡宮」大字胸上に鎮座。郷社、祭神、足仲彦命外二神。例祭、十月十五日。

△ネオカ 宗岡村 埼玉縣武藏國入間郡の東南隅。荒川の西岸にて、東より南は北足立郡と隣りし、西南は志木町に接す。面積五・七四平方町の小村。關東平野の一部を占め、全村低地にて水田多し米を主産し麥の産もあり。また養蠶行はれて蠶を産す。縣道は南部を横走し、西南隅の志木町及び東方約五町の浦和市に通じ何れもバスもあり。志木町には社線東武鐵道東上線志木驛を置く。新編武蔵風土記に據れば、廻國雜記に「夕烟あらしふ暮を見せりわが家々の宗岡の宿」とあるは、蓋しこの地なれば、宗岡の稱の相當古くよりあるを知ると見ゆ。

△ネヒ 宗檜村 奈良縣大和國吉野郡の西部北端。宇智郡五條町の東南約七軒餘にありて西北は賢名生村に接し、西は和歌山縣伊都郡に界す。地形は四周に高く南境には天狗山・高城山・武士ヶ峯等の一〇〇〇米以上の高峯並び立ち、北境には嶺ヶ嶽(七八四米)を中心に山脈東西に連なる。中部には東境の一部より西方に連る山脈ありて柳野山(八五〇米)が中央へ跨り、南・西・北の三面に河谷開く。東境に發する立川は中央を西に流下し、柳野山の南麓より西麓に出でて殆ど直角に北轉し、柳野山の北麓を西流す

る黒瀧川と合して賢名生村に入る。西北隅にて北方より来る丹生川が黒瀧川に合す。低地乏しき米・麥・蕎麥を産す。林産豊富なり。五條町及び東北の大淀町(ハマス)を通ず。「川股鐵山」宗檜村内に鑛區三十萬餘坪を有する銅山。日露戰業會社の採行にかかり、昭和十年には銅鑛一、二四四萬、硫化鐵鑛八二〇萬(この總價額約二萬七千圓)を産出し、同年六月末の鑛夫數は一八七人なり。「圓光寺」大字陰地にあり。眞宗本願寺派。兼專の開基。建武二年後醍醐天皇の勅願所となる。尙ほ本願寺通記は當寺第四世善秀を以て開創者とす。現在の寺號は慶長八年に西本願寺十二世准如より賜ふ所なり。本尊は阿彌陀如來(木造)。

△ネヤマ 宗山 安藝國(廣島縣)の古地名。高山寺本和名抄には安藝郡宇山郷と見ゆ。日本地理資料は宗山を以て延喜式に見ゆる荒山驛に擬し、宗山を以て荒山の譯ならんといふも如何にや。藝藩通志は宗山は廣島市の地名にムネヤマありといへり。或はこれに従ふべきか。

△ヘヤマ 宜山村 廣島縣後國廣品郡の東南端。廣田川の西岸に位し、相村に接し、北は深安郡に界す。西は福相村に接し、東は川を隔てて驛家村と對す。面積一・一三平方町。南部は高増山(九九九米)の北斜面に屬し山地なるも、北方河岸に向ひ傾斜す。北部を廣田川東流し流域に平地地帯存す。村内の山

ムナカ

林及び耕地面積はほぼ相等しく山麓は牧業地をなす。農業・工業盛にして米・麥・蕎麥・果實・酒類・木炭・家畜等を産す。省線福鹽南線近田驛(約五軒あり)。

△ホー 霧峰庄 臺灣中州大屯郡の南端。東は大平庄及び龍高郡國姓庄、西は烏日庄、南は南投郡草屯街、北は大里庄に夫々境を接す。東半は山地帯にして丘陵起伏連綿し、東隣國姓庄との境には有名なる火炭山(七三九米)聳立するも、西半は之に反し、大肚溪上流の幾多の大小分派錯綜して平野及び多くの三角洲を形成す。農耕地は西部に開け、水稻・甘蔗・蔬菜・甘藷を主作とし、丘陵帯また開發せられたる芭蕉・鳳梨・柑橘其他の果樹を栽培す。米・甘蔗・芭蕉の産出は特に多く、蔬菜・甘蔗・果物類また夥からず。山地には雜木繁茂し、著々森林を實施して薪炭・竹材等の産出比較的多し。教育方面にては公學校一、分教場二の外に社會教化機關として青年團・國語講習所を設置す。帝國製糖の社線たる中南線(臺中—南投間)は西部平野を南北に貫通し、北は大平を経て臺中に、南は草屯を経て南投に通じ、また之と並行して指定道路あり、乗合自動車の便を有す。此等の外に主要部路間に輕便軌道(手押牽車)ありて交通の便極す。管内はもと總て福鹽郡に屬し、當初は平埔蕃族アリタケ部族の居住地なりしが、清國となりたる後、雍正十年頃粵人により柳樹浦・登臺

嶺に屬せし五庄を五大字に改め、且つ阿單嶺を嶺と改稱し、これを一括して嶺峰庄となす。

△マサケ 味酒 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に温泉郡味酒郷見ゆ。其の地いま松山市の北部の地を云ふか。

△マタ 馬田 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に夜須郡馬田郷あり。其の地いま朝倉郡馬田村の邊に當る。

△マノ 馬野 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に海上郡馬野郷あり。中世武野郡と稱せし地。いま市原郡崎崎町の邊に當る。

△マミ 馬見 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に嘉麻郡馬見郷見ゆ。其の地いま嘉麻郡足白村・千手・宮野の諸村より大隈町の一部に互る邊を云ふか。足白村の大字に馬見あり、郷名の遺稱とす。

△ミ 武美 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に多胡郡武美郷見ゆ。續紀、和銅四年三月に餘野郡の武美郷等の六郷を割きて多胡郡に隸せしむとあり。その地いま多野郡入野村の邊に當るか。

△モ 武茂 樹木縣下野郡那須郡の南部。馬頭町の南端にて鳥山町の北方約三・五軒、那珂川の東岸にあり。東は茨城縣那

(丁豪)附近開拓の緒に就き、當時此地は以東は山暮出沒し、同十三年十月著人出草して焚殺を行ひし爲、北路副將新光瀧及び淡水同知趙奇芳は之を討伐し、其後柳樹浦に防蕃の隘を設けたり。既にして乾隆七八年の頃に及び柳樹浦一帶全く開かれて蕃膏漸く薄らき瀟州府平和の人林江なる者同族を率ゐ、北隣なる今の大里庄(大里もと大里村と稱す)より南下して土着の平埔蕃族より地を曠得し、阿單嶺の村落を建てたり。これ今の嶺峰(役場所在地)にして、蕃語地名のアタアケに充てたる近音譯字なり。乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)には嶺峰新庄と見ゆ。後に嶺峰と改稱し、次いで嶺名の阿單嶺と改められて現行制度實施に及び、三度嶺峰と改稱せられたり。乾隆四十七年には閩粵人の分類械闘あり、粵人の多くは今の東勢地方(臺中州東勢郡)に退き同五十年代に柳樹浦の如きは益々膨脹發展して、今の北隣大里庄に屬する大里村(今の大里)・内新・涼傘樹三庄と併せて四大庄と稱せられたり。萬斗六は先きに漢人によりて地を侵奪せられたる平埔蕃族が嘉慶二年南方に退きて開きたる移住區に屬す。蕃人は之をパンタウラ(萬斗六)社と稱せしが、道光の末年其の多數は再び移りて埔里社(今の龍高郡埔里街)に入り、漢族其の舊地に集中せり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て、大正九年十月堡を廢して、町

ムマサ—ムヤ

河郡と隣す。八溝山脈西斜面の一部を占め、北・東・南の三方は約三〇〇米の山地に圍まれ、何れも村内に傾斜し、西境を南流する那珂川流域のみ稍平地をなす。農業行はれて米・麥・粟・粟・甘藷・里芋を産し、養蠶も行はる。山地には林産あり。その他煙草製造等の工業行はる。鐵道省營自動車常野本線本村の北部を通る。横田系團に頼る三男、讚岐守義業、松野郷を賜はり、其子松野右京亮篤業と稱すと。松野郷は即ち大字松野の地とす。明治三十八年西武茂村を武茂村と改稱す。

△マヤ 撫養 樹木縣那須郡にありし村。明治二十四年馬頭町と改稱す。

【撫養町】徳島縣阿波國板野郡の東部。縣の東北端に位し、鳴門海峡に臨み、瀨戸内海東部の關門を占め、北は瀨戸町及び鳴門村に、西及び南は大津村に、東は里浦村に界す。面積一三・五五平方町。西部は小山地形起伏して丘陵地をなし、東部は古野川下流の三角洲東北端の地を占め平坦なれば廣く鹽田展開し、謂ゆる瀨戸内十州鹽田の東端に位す。香田鹽の名産地にて其の收穫は本縣第一の水産物として重要視する。この外蛤・若布・鱈等の漁獲あり。市街は東南部古野川瀧川の一に開かれ港町をなし、京・阪・神と阿波を結ぶ最短距離にあり、且つ同國の門戸をなす爲、阿波連絡船、撫養商船の阪神高松

線等の寄港發着繁く町は繁華なり。又産業の發展目覺しく足袋・清酒及び薬用工業原料としてマグネシウムを産し盛に移出さる。人口實に一萬八千人餘を算し、縣下第三の大郡にして、小松島港と競争す。省線撫養線は南部を走り撫養(昭和三年設置)・蛭子前・金比羅前(以上大正五年設置)・教育前(大正十三年設置)の各驛を設く。縣道四方に通じ、バスの便頗る發達し、海陸共に交通至便なり。此地古くは和名抄、板野郡餘戶部・津屋郷の二郷に屬せしもの如し。村内に岡崎城址あり、細川・三好氏の時、守護を置き、天正の頃は益田氏これを守護し寛永年中廢毀さる。大字木津に木津城址あり、永祿・元龜間、藤原肥前守入道自道これに據る。自道もと三好家譜代の臣なりしがその衰ふるを見て節を變じ、陰かに欺を長曾我部に通ず。天正九年三好氏、土佐勢と中富川に戦ひて敗れ主將十河存保讃岐に退くに當り、自道もまた城を捨てて淡路へ退く。元親依つて西方(那賀郡)城主東條關之兵衛をしてこれを守らしむ。同十三年羽柴秀吉西國征伐に際し、大軍土佐泊に上陸して先づ當城を攻む。關之兵衛防戦八晝夜、終に力盡きて土佐へ退く。妙見山(岡崎城址)の一大古松の下に將軍塚と唱ふる古墳あり、今は僅に其の遺址を存するに過ぎざるも將軍足利義隆の墓なりといふ。また大字木津は往古木津浦と稱せし名所にて、後拾遺雜五に

ムナカ

「阿波守に成りて又おなじ國にかへりなして、下りけるに、こづかみの浦といふ所に浪の立つを見て讀待りける。木津神の浦に年經てよる浪もおなじ所にかへるなりけり。藤原基房」とあるも此地とす。この地の大抵古來撫養の祇宮として著名にして、その季節には遠く阪神地方より來觀する者多し。大風は形状圓形、骨は丸竹の儀にて、中央に松綱の尾を附し、絲は船用の亭綱を用ふ。同時のワンワン、木津の第一等最も大きく且つ有名なり。兩者とも字多紙千五百枚張にて外に四百枚張より千枚張位のものを七八十を算す。ワンワンは紙千五百枚の重き約九疋のものにして直徑一六米餘、丸竹の竹骨が二百束、重き三、〇〇〇疋、絲目一八〇疋、尾七五〇疋、これに亭綱を入ると實に尅大なる重量なり。これを飛揚する爲には七八月の最も南風の強烈なる日を選びて行はる。「字佐八幡神社」大字黒崎に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇外二神。例祭、十月十五日。「金刀比羅神社」大字木津に鎮座。郷社。祭神、大物主命。後陽成天皇慶長六年八月林崎城主益田八右衛門の創祀なりといはる。明正天皇寛永十九年以來神事料として毎年米四石その他の寄進あり。例祭、十一月十五日。

【村岡村】 神奈川縣相模國鎌倉郡の西南部。片瀬町・藤沢町の北隣にて、西は高座郡藤沢町と隣す。面積僅かに四・四九方分の小村。北部・南部は丘陵地をなすも、中部は西流する柏尾川流域の平地にて畑地あり。農業行はれて、麥・甘藷を産し、養蠶も行はる。省線東海道本線は中部を西走するも村内に離なく藤沢驛に近し。古くは和名抄、高座郡岡本郷の内とす。中世、村名は郷名と呼ばれ村岡郷と稱し、近世は鎌倉郡七郷の一たり。新篤風土記に據れば平良文(高望王の五男)當郷に居して村岡五郎と稱すと。また重須本會我物語に建久四年四月右大將頼朝武州入野に狩せし路途、柄澤を経て武州關戸宿に至りし事見ゆ。この柄澤は即ち大字柄澤の地とす。【村岡町】 兵庫縣但馬國美作郡の東南部。矢田川に跨り、東は城崎郡に界し、東北約一八所に豊岡町あり。東部及び西部は山脈が連なり、即ち西南隅には湯川山(一〇三九米)聳え、北へ次第に低下しつつ峯を連ねて西境を限る。東境中央に壽夫嶽(一〇七五米)屹立して高峯並ぶ立ち、北境には之より西に支脈が延びて矢田川河谷に移る。中央部には矢田川が村を貫きて西北流し、沿岸に稍低地あり。

米・麥・粟類・蔬菜・花卉・食用産物・果實・刃物・鶏卵・瓦等を産し、また牛の飼育は盛にて、毎年春秋二季に開催せらるる牛の體賣市には、遠く京都・大阪・和歌山・三重・畿内の諸府縣より集る牛商數百人に及び、山間に積る活況を呈す。山陰道は中部を河川に沿ひて離斷し省線山陰本線濱坂驛へパスを通ず。中央より東方へ走る一道路は城崎郡に出づ。もと二分村と云ひしが明治二十四年町制を布く。舊郡役所の所在地たり。この地古くは七美莊と云ひ、長壽堂領たり。もと山名氏の館のありし處にして、この山名氏は時氏の裔にて、先祖は因州布施に居り、出石屋形とは本支の關係にありたり。天正八年豊臣秀吉の山陰道征伐に際し、出石屋形は滅亡せしが、布施の山名豊國がここに封ぜられ、七美一郡を賜はる。徳川氏に至り子孫世襲して明治維新に至る。「黒野神社」大字村岡に鎮座。祭神、天津彦火瓊瓊杵尊を主神とし、天御中主神・木花開耶麻呂を配祀す。一に伊弉諾大神と稱され、延喜式内社に充てらる。社祇の釋迦十六善神像一幅(絹本着色)は巨勢金剛筆と傳へ、國寶に指定せらる。例祭、九月十九日。

【村岡村】 新潟縣越後國岩船郡の西部。河沼郡の西部。南東は上野尻村に、西は車輪を以て寶坂村に隣し、東部は阿賀川を隔てて耶麻郡に、西北部は新潟縣に界す。越後山脈の東斜面に屬し、西南境には須荷岳(五三三米)聳え、それより北に山地連りて東方に傾斜し、阿賀川は東境を北流して沿岸に耕地拓く。米・麥・木材・酒等を産し、近年稲半も盛んに飼はる。縣道西より東南に通じ、上野尻村を経て野澤町に至る。省線磐越西線阿賀川に沿うて通じ、大字野澤に徳澤驛(大正三年設置)を置き、また隣村上野尻村に上野尻驛を置き、口碑によれば群岡・上野尻の一帶の地は住古の居民多くは山中に住せりといふ。此地住古の揚川(阿賀川)の水道塞がり、其水數里の外に溢溢して遂に大湖水となり、住民皆棄を捨てて山陵に逃れ各自に家居せしが、何時頃にか鑄子の口と云ふ川の隘口破れ、其の水大に潰して忽ち平地に復せりと云ふ。本村の起原は不詳なるも、慈眼寺は大永八年の創立なれば凡そ四百年前なるべし。此村は古より河沼郡野澤組に屬し稻川の莊と呼ばひ、下野尻村と唱へ來りしが、明治八年八月十二日連山との間に群岡起伏する蓋し阿賀川と連山との間に群岡起伏するを如となし、田となしたるを以て群岡村と稱せりと云ふ。いま上野尻村・寶坂村と組合村をなし、役場を本村に置く。

【村上町】 新潟縣越後國岩船郡の西部。三面川左岸に沿ひ、東は村上本町と接續して一團をなし、西は瀧波町を隔てて日本海なり。三面川下流の平地を占め、しかも四周を低き丘陵に圍まれたる要害の地なれば、村上藩の城下町として發達し、村上本町の住宅街なるに對し本町は主として商業街なり。製茶業及び特産堆米・堆黒の漆彫刻を以て知られ、三面川を溯行し來る鮭は越後鮭の中にも美味なる爲め有名なり。其他、米・蕪等の産物あり。町は國道及び省線羽越本線に沿ひ後者の村上驛(大正三年設置)を置く。村上本町・瀧波町・岩船町(縣道至りバス通じ、交通上また北部越後の中心をなす。古くは和名抄、磐船郡山家郷の内とす。中世は小泉本庄の内にて本庄氏の城館ありし地なるを以て本庄城といひ、元和中、粟氏のととき城郭及び市街を修理し邑名を村上と改むといふ。舊郡役所の所在地なり。江戸時代末期の關流の算數家本多利明(贈正五位)は此地の人とす。「村上城」始め小泉庄の地頭ここに居りて、戦國頃は上杉氏に屬す。慶長二年豊臣秀吉、村上義明を此地に封ず。徳川氏に至り元和四年堀直寄を封ず。のち本多忠孝・松平直矩・榊原政倫・本多忠孝・松平頼貞、間部詮房等の諸氏を経て、享保五年、内藤式信封ぜられ五萬石を食み、子孫相繼いで明治に至る。戊辰の際、内藤氏義軍に應ぜしも、七月、城主官軍に降服し、八月、官軍これを收む。城は周圍約四町、松杉繁茂し要害無双の堅城と稱せらる。「克從館」村上藩の藩館。寛政年間、藩主内藤信教、學問所を興し、安政年間克從館と名づく。明治戊辰後に廢絶す。

【西奈彌羽神社】 縣社。祭神、奈津姫命・倉稻魂命・月讀命外二神。舊稱、羽黒山三所權現。持統天皇元年の創建と傳ふ。例祭、七月七日。【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【西奈彌羽神社】 縣社。祭神、奈津姫命・倉稻魂命・月讀命外二神。舊稱、羽黒山三所權現。持統天皇元年の創建と傳ふ。例祭、七月七日。【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(軍科部)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二二三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御厨小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戦國頃は更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上黨の族名に呼ばる。

ムラク

【村國】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に葉栗郡村國あり、葉栗郡の北は木曾川に臨み、その河道の變替によりて其境界常に異同あるを以て或は美濃國各務郡村國郷の一部本郡に入りしものか。いま河の南岸の草井村の邊を云ひしものなるべし。同村の大字の村久野は郷名の轉訛ならん。

ムラクノ

【村久野】愛知縣葉栗郡にありし村。明治三十九年本村外二村を廢し草井村を建つ。

ムラクモ

【村雲村】兵庫縣丹波國多紀郡の東北。南は篠山町の東方約六軒に當る。北半は東・北・西の三方山を繞らし、北境には六〇〇米餘の山脈あり。東南部及び南部にも山地あり。篠山川は東北方より來りて中央を西南流し、南部にて東方より來る支流を合し南部山地の西麓を繞りて南隣日置村に入る。流域に低地廣し。米・麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實等を産し、栗の特産あり。また牛を飼養す。篠山町へ自動車を通ず。この地は和名抄、多紀郡草上郷の内に於て中世は村雲莊といふ。

ムラコリ

【村社】備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に美賀郡村社見ゆ。その

ムラマ

地は未だ詳かならず。或はいま河内郡草間・豊永・美穀村の邊に當るか。
【ムラサキ】村前 愛媛縣喜多郡にありし村。昭和四年本村を廢し、その各々一部を五城・大瀨・天神の三村にそれぞれ編入す。

【ムラサキノ】紫野 ↓京都市(二二〇二頁)

【ムラスギ】村杉 ↓後岡村(新潟縣)

【ムラタ】村田 宮城縣陸前國栗田郡の南部。大河原町の北方約七軒。東は槻木町、西は刈田郡に隣接す。村の北・東・西の三境には低き山嶺連りて中央に傾斜し、松尾川は西北境附近に發源して町の中を東南に流れ、沿岸に耕地拓く。米・麥・藁・木炭・馬等を産す。笹谷街道は中部を略南北に通ず。明治二十八年に町制を布く。古くは和名抄、栗田郡瀧城郷の内なるべし。中世、村田氏あり。もと小山結城の庶族にて常陸國鹿嶋郡に出づ。近世は仙臺藩士芝多主税の采邑たり。

【村田町】茨城縣常陸國鹿嶋郡の中部。下館町の東南方約四・五軒にして小貝川の東岸にあり。全村平地にて東半は畑地多く、西部の小貝川流域には水田多し。純農村にて米・麥の産最も多く、養蠶及び烟草の栽培を副業とす。縣道は村の中央を西北に走りて下館町に通じ、主なる聚落はこれに沿ひて發達す。下館町には省線水戸線下館駅ありてバスを通ず。古

形にも影響を見る。川は北方の戸根川の他三四の小川流れ、其の海岸近く多少の平地を見る。山地に至る所耕され、聚落は全村に散在し、集村を見る事少し。海岸は出入に當む良箇地なく、又漁業振はず。位置偏在して交通十分ならず、故に集村の發達を見る事なし。附近は古來天主教の最も盛なりし所なり。いま村松郷・子々川郷・戸根郷・西海郷の四大字を以て本村をなし、役場を村松に置く。

ムラヤマ

【村山(郡)】羽前國(山形縣)の古地名。名稱は群山に因む。三代實録、仁和二年出羽國最上郡を分ちて二郡とし村山郡を置く。吉野時代の頃は最上氏管領となり本郡を最上郡に併せしが、文祿年間舊に復す。然れども往古の最上郡の地を以て村山郡とし、村山郡の北隅を以て最上郡を置きし爲その地域往昔と異なり。和名抄は美良夜末と註し大山・長岡・村山・大倉・梁田・徳有の六郷を管す。明治十三年五月、郡を東・西・南・北の四郡に分ち以て今日に至る。

【村山】出羽國(羽前・山形縣)の古地名。和名抄(高山寺本)に村山郡村山郷見ゆ。郡家の地なり。延喜式に見ゆる村山郡馬十疋はまた此の地なるべし。其の地はいま北村山郡の小田島村の邊に定むべきか。同村の大字に郡山あり、郡家の位置を推定するに足らん。

【村山村】東京府武藏國北多摩郡の西北

ムラツバキ

くは和名抄、眞壁郡大村郷の内とす。村名はもと庄名に呼ばる。新志に據れば小山朝政、村山下庄の地頭職を賜はる、これ八條院の御領なりと見ゆ。また後宇多院御領目録に安樂寺院領村田庄同下郷とあるも蓋し此地とす。延元年中、白川結城道忠の族、四保殿河守五門この地に城を北朝に應ず、大字吉田の村田城址即ち之にして、今も故址歴然として存す。

【ムラツバキ】村椿村 富山縣越中國下新川郡の西北部。黒部川河口左岸を扼す。西南は生地町に接し、西北は富山灣に面す。村は黒部川堆積地帯にして埋砂多く殊に西南部は濕潤地をなす。概ね水田にして米を主産し、黒部西瓜の特産あり。また海岸には漁業行はる。省線北陸本線略南北に貫通し生地驛(明治四十三年設置)を置き、生地町までバスを通ず。古くは和名抄、新川郡布留郷の内なるべし。越後治記に天正十四年上杉景勝村椿に野陣すとはるは即ち此地とす。

ムラマツ

【村松村】茨城縣常陸國那珂郡の東南部。久慈川河口の南岸にて、東は鹿島灣に臨む。西部は低き山脈をなすも、他は平地にて南部に眞崎浦あり。聚落は畑地をなし、平地には水田ありて農業行はれ麥・米・西瓜等を主産し、特産物には梅干あり。海岸は單調なる砂濱をなす。縣道は東部を縱走し、北は久慈郡久慈町(約三軒)、南は海町(約一〇軒)に通ず。又こ

隅、立川町の西北方約五軒、西は西多摩郡、北は埼玉縣入間郡の一部と隣す。北境は狭山丘陵の一部をなし、他は武蔵野臺地の一部にて畑地多く、所々林を交へ殊に茶畑・甘藷畑多し。また米・麥を産す。養蠶一般に盛にて繭の産多し。府道よく發達し立川町及び西多摩郡福生村・箱根ヶ崎村に通じ、兩村内にある省線八高線の東福生驛・箱根ヶ崎驛に近し。この地は武蔵七黨の一なる村山氏の發祥地とす。村山黨は陸奥守忠勝の後裔村山貫主頼任より出づといふ。一に村山黨の居せし所を西多摩郡箱根ヶ崎村・殿ヶ谷村、石畑村等の地ならんといふ。

ムリ

【村山野水池】大和村(東京府) 隅、立川町の西北方約五軒、西は西多摩郡、北は埼玉縣入間郡の一部と隣す。北境は狭山丘陵の一部をなし、他は武蔵野臺地の一部にて畑地多く、所々林を交へ殊に茶畑・甘藷畑多し。また米・麥を産す。養蠶一般に盛にて繭の産多し。府道よく發達し立川町及び西多摩郡福生村・箱根ヶ崎村に通じ、兩村内にある省線八高線の東福生驛・箱根ヶ崎驛に近し。この地は武蔵七黨の一なる村山氏の發祥地とす。村山黨は陸奥守忠勝の後裔村山貫主頼任より出づといふ。一に村山黨の居せし所を西多摩郡箱根ヶ崎村・殿ヶ谷村、石畑村等の地ならんといふ。

【牟禮】山口縣佐波郡にありし村。明治十一年本村及び中園町・華城村・防府町を廢し防府市を置く。和名抄、佐波郡牟

ムラマ

れより分れて西走するもの西隣の神村に通じ、同村に省線常磐線石神驛を置く。村内に國立結核療養所村松崎風莊あり。和名抄に久慈郡美和郷とあるは蓋し此地とす。常業義政の族に箕輪氏あるは、蓋しこの地に居して名を負ひたるものか。(大神宮) 大字村松に鎮座。祭神、天照皇大神、天手力雄命、檮杵千姫命。もと五所明神と稱せり。元祿九年徳川光圀、祭神中の天照皇大神の神靈を分祀し、附近六箇村の鎮守とす。朱印領廿三石を有せり。例祭、四月七日。(豊受皇大神宮) 大字白方に鎮座。祭神、豊受大神。和銅二年の創立といふ。後世花田五所大神宮と稱す。江戸時代水戸徳川氏の崇敬あり。(虚空藏堂) 新義真言宗豊山派。村松山と號す。大同二年、空海當地留錫の砌り靈木を得て虚空藏菩薩一軀を製作、之を本尊として開創す。貞享三年、徳川光圀、本尊前立虚空藏尊を修理して伽藍の美を一新す。明治三十三年堂宇悉く焼失、大正六年頃より漸次復興舊觀に復したり。本尊前立虚空藏は日本三虚空の一。

【村松町】新潟縣越後國中蒲原郡の中央南部。五泉町の南方約五軒。能代川上流の瀧谷川に沿ひ村松盆地の一部を占む。東部には愛宕山(一〇三米)其他の小岡あり、西部は平野開け瀧谷川西北に貫流す。桑園・水田開け、米・藁・蔬菜の産あり。丘陵地には茶の栽培も盛なり。町

【牟禮村】香川縣讃岐國木田郡の東北。屋島の南東に接し、東は志度灣に臨み、南は平井町に、西は高松村に、北は庵治村に界す。北には五箇山麓、南に小丘起伏する外は中央部は平坦肥沃なる平野をなして耕地よく拓け、農業盛に行はれ米の産多し。海岸は砂濱地ひろげ、西部屋島との間には鹽田ありて製鹽行はれ特産物として鹽草・薄荷等を産し、また石材及び素焼の陶器を出す。中央部と南に省線高徳線及び國道横断し、志度町と西方高松市を連絡す。また社社四國水力電機これに並行して横断し、八栗・白羽・六萬寺・大町・八栗新道・鹽屋・房前、原の八群(何れも明治十四年設置)あり。隣村庵治村に互り小御影庵治石を出す。(庵治村参照) いま大字美穂・大町は瀬戸内海國立公園の内とす。古くは和名抄、三木郡武例郷の地なり。西方屋島に對し元暦年中の古戰場たり。平氏の屋島に據るや、此地の六萬寺を以て安徳天皇の行在所となす。文治元年二月、源義經阿波津浦に上陸し此地に至り、火を放ちて民家を焼き、進みて屋島に平軍を襲へり。村内王墓に神徳王墓あり、封土東西に横はり、頂上に二箇の玄石建つ。神徳王は堂行天皇の皇子にて讃岐國造の祖なり。江戸末期の儒學の大家柴野平次郎(贈正五位)は此地の人とす。(白羽神社) 大字牟禮に鎮座。祭神、譽田別尊外

ムラマ

は城下町として興り、今は郡内主要なる農業町なり。糸織・糸入木綿を産し、村松綿の名著はる。北・東・西の三方より縣道集り附近諸村の中心地として商業また繁盛なり。五泉・加茂兩町へは社線蒲原鐵道の便あり、村松(大正十二年設置)・西村松(昭和五年設置)の兩驛を置く。省線常陸西線五泉驛へ約八分にて達し得。寛永十六年村上城主直定、叔父藤(本姓奥田)直時に封三萬石を分ち此地に治せしむ。爾來子孫相繼ぎ寛永三年には城主格に列せらる。明治戊辰の際、藩主直實は東軍に屬し、八月攻められ城邑焼かれ直實終に米澤に走る。(日枝神社) 大字嘉澤に鎮座。祭神、大山咩命・大己貴命・日本武尊。延暦十五年の創建と傳ふ。領主堀氏代々の崇敬社。例祭、九月十八日。

【村松村】長崎縣肥前國西彼杵郡の中部。彼杵半島の基部近く大村灣に臨む屋山村なり。西方背後の山地は主として結晶片岩より成る古き地層にして、高度大ならず、最高三―四百米に過ぎざるも開折進み、且つ幾つかの地塊に分斷され高度の割に地形複雑にて谷・坂多し。また海岸は南北に走る構造線のため陥没し、のち沈降を見たる爲に灣は南北に深く島・岬に富み、地塊の先端は直ちに急崖をなし海に迫る所多し。中央海岸近く安山岩の噴出する所あり、南隣の堂嶽は玄武岩より成る等、地質の變化あり。從つて地

ムラマ

【牟禮村】香川縣讃岐國木田郡の東北。屋島の南東に接し、東は志度灣に臨み、南は平井町に、西は高松村に、北は庵治村に界す。北には五箇山麓、南に小丘起伏する外は中央部は平坦肥沃なる平野をなして耕地よく拓け、農業盛に行はれ米の産多し。海岸は砂濱地ひろげ、西部屋島との間には鹽田ありて製鹽行はれ特産物として鹽草・薄荷等を産し、また石材及び素焼の陶器を出す。中央部と南に省線高徳線及び國道横断し、志度町と西方高松市を連絡す。また社社四國水力電機これに並行して横断し、八栗・白羽・六萬寺・大町・八栗新道・鹽屋・房前、原の八群(何れも明治十四年設置)あり。隣村庵治村に互り小御影庵治石を出す。(庵治村参照) いま大字美穂・大町は瀬戸内海國立公園の内とす。古くは和名抄、三木郡武例郷の地なり。西方屋島に對し元暦年中の古戰場たり。平氏の屋島に據るや、此地の六萬寺を以て安徳天皇の行在所となす。文治元年二月、源義經阿波津浦に上陸し此地に至り、火を放ちて民家を焼き、進みて屋島に平軍を襲へり。村内王墓に神徳王墓あり、封土東西に横はり、頂上に二箇の玄石建つ。神徳王は堂行天皇の皇子にて讃岐國造の祖なり。江戸末期の儒學の大家柴野平次郎(贈正五位)は此地の人とす。(白羽神社) 大字牟禮に鎮座。祭神、譽田別尊外

二神。例祭、九月廿五日。(八栗寺)大字本禮にあり。古義眞言宗。五剣山手...

ムレー 牟禮 長野縣上水内郡にありし村。明治二十三年に中郷村と改稱す。

ムロ 牟呂 愛知縣瀨尾郡にありし村。明治三十九年、本村及び吉田方村を廢し牟呂吉田村を建つ。

ムロ 牟婁・武瀨 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に葛上郡牟婁郷あり。住昔、孝安天皇の都し給ひし地にして、いま南葛城郡秋津村の地とす。

ムロ 室 秋津村(奈良縣)の古地名。紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に紀伊國紀伊郡紀伊郡の古地名。和名抄に紀伊國紀伊郡紀伊郡の古地名。

名は傳統天皇の六本紀に初めて見ゆ。和名抄は牟呂と註し、岡田・牟婁・栗栖・三前・神戸の五郷を置く。本郡の東部は明治の初め度會縣の管下たりしが、後に三重縣に入り、西部は和歌山縣の管下たり。

ムロ 室 秋津村(奈良縣)の古地名。紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に紀伊國紀伊郡紀伊郡の古地名。

ムロ 室 秋津村(奈良縣)の古地名。紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に紀伊國紀伊郡紀伊郡の古地名。

ムロ 室 秋津村(奈良縣)の古地名。紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に紀伊國紀伊郡紀伊郡の古地名。

ムロ 室 秋津村(奈良縣)の古地名。紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に紀伊國紀伊郡紀伊郡の古地名。

しバスの便あり。室生は古く禪生とも書く。女高野と稱せらるる室生寺あるを以て知らる。(室生山暖地性羊齒群落)指定天然記念物。室生寺境内本堂の後方、燒山の無明谷にあり。主として暖地産のものにて、イオクジャクシダ最も多く、これに次ぎ、イハヤシダ、オホバノハチ...

ムロカ 村岡村 福井縣越中郡大野郡にありし村。明治二十三年に中郷村と改稱す。

ムロカ 室賀村 長野縣信濃郡小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て境し、西南には子楢嶺岳(一二二二米)・飯塚山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。

ムロカ 室賀村 長野縣信濃郡小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て境し、西南には子楢嶺岳(一二二二米)・飯塚山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。

ムロカ 室賀村 長野縣信濃郡小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て境し、西南には子楢嶺岳(一二二二米)・飯塚山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。

の北部。勝山町の北に接し、九頭龍川の支流龍波川の左岸に沿ふ。東半部は加賀山脈中の法恩寺山(三三七米)の山裾を占め、なだらかなる傾斜地にして、西部には龍波川・九頭龍川の沖積平野が開く。平地には米の産多し、傾斜地には茶樹の栽培行はる。勝山町に近く絹織物業・清酒醸造盛にて工産額は首位を占め農産額之に次ぐ。西南隅を貫通する勝山街道の外、北及び東北へ走る縣道あり。社線越前電鐵の勝山驛に近く交通は便なり。村の中央に村岡山あり、天正二年平泉寺滅亡の時、一揆の籠りし所といふ。此地古くは和名抄大野郡毛屋郷の内とす。

ムロカ 室賀村 長野縣信濃郡小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て境し、西南には子楢嶺岳(一二二二米)・飯塚山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。

ムロカ 室賀村 長野縣信濃郡小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て境し、西南には子楢嶺岳(一二二二米)・飯塚山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。

ムロカ 室賀村 長野縣信濃郡小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て境し、西南には子楢嶺岳(一二二二米)・飯塚山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。

ムロカ 室賀村 長野縣信濃郡小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て境し、西南には子楢嶺岳(一二二二米)・飯塚山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。

部。九州の北部にあり、炭坑鐵道線の一。鹿兒島本線遠賀川驛より分れて南方の室木驛(鞍手郡西川村)にあり、明治四十一年設置)に至る。全長一・二軒。

ムロス 室積町 山口縣周防國熊毛郡の南海岸。周防海に面し、田布施町・麻里府村の南に接す。面積一四・四七平方軒。地形海岸に沿うて東西に延び背後に眉山聳ゆ。地勢海岸に傾斜するも概ね山地なり。海岸線は出入を有し、象鼻岬が良灣を懷き室積の良港を作る。灣は水深く好地をなす。市街は港に臨んで發達し、山口市を控へ輸出入盛なり。米・蠶を産し漁網を輸出し、綿糸・石炭等を輸入す。縣道を以て平生町・柳井町にバス通じ、省線山陽本線虹ヶ濱驛・岩田驛に近し。また海上は大坂下關間の定期航路ひらけ、近海に發動機船の便あり。山口縣女子師範學校の所在地。もと郡役所あり、明治三十九年に町制を布く。古くは無漏津・室津海・室住とも書けり。一

に御手洗とも云ひ住昔は有名なる港にて遊女など多かりしといふ。(峨山樹林)指定天然記念物。山は數峯より成り、最高點は一七七米に過ぎざるも、常緑樹に富み、落葉樹これに混じり風光よろし。暖性植物に、リンボク・メガイチゴ・コンナリギ・オホバウマノスズクサ・ジュズモノキ・ウラジロガシ・アラカシ・ヤマモモ・クロガネモチ・ナメノキ・シヤンソボク等約三十種あり。(早長八幡宮)大字室積字江口に鎮座。豊前國宇佐應神天皇・神功皇后外三神。豊前國宇佐より靈を分祀すといはる。(普賢寺)臨濟宗建仁寺派。鐵眉山と號す。寺傳によれば一條天皇御宇、僧性空巡錫の砌り此地に普賢菩薩の出現に遭ひ之を後世に傳へん爲め一松を植ゑ、後人之に堂宇を營みしに始まると。のち現宗に改む。本尊普賢菩薩は災難除の佛として有名。

ムロツ 室津 兵庫縣播磨國揖保郡の西南隅。網干町の西方約四軒にありて室津港に臨む。西北部より西にかけては赤穂郡相生町に隣る。約三〇〇米の丘陵が東北より西南に連り更に南へ延びて尖端は金ヶ崎となる。その丘陵の峯を境として揖保郡と赤穂郡とを限り東に室津港を圍み西には相生灣を抱く。山地は室津灣に傾斜して山麓は海に迫り屈曲を示す。東部は東北より西南に延びる小丘陵の斜面地をなし、南に小半島が突出して室津港の東を圍み、附近に稍々低地ありて前面は

室津の良港をなす。丘陵の東麓は播磨灘に臨み嶺頂大の低地を餘す。南方海上には地唐荷島・中唐荷島・神唐荷島等の小島浮ぶ。蔬菜・花卉・食用農産・果實・麥類・米・觀賞植物・蠶等の農産物を産し沿岸漁獲物多し。東部の丘陵の周圍を繞りて縣道が通じ網干町及び相生町にはバスを通ず。また町内には室津航空燈臺の設けあり。住昔五泊の一たりし櫻生泊にして一に室原泊ともいふ。同じく五泊の一なる津泊まで一日の行程と定む。風を防ぐこと室の如くなるより此名起るといふ。早くより遊女をり山陽道の一名称として多く詞藻に入る。近世は四國九州及び中國諸國の諸侯にして江戸に往來する船泊は必ず此處に寄港し頗る繁榮を極め、埠頭は姫路藩の管治に屬せり。現時は大に衰へ往時の面影なし。室津港の背後に室山あり、嘉永二年十一月、平知盛・重衛等水鳥の戦に勝ち此處に據る。源行家來りて大に此處に戦ひ、行家破れて河内に退く。延元元年、赤松範資この地にありて足利登氏に屬す。官軍の將江田行義・大僧氏明等來り攻むるに及び破れて赤穂に退く。のち赤松氏の將浦上則宗この地にあり、爾來子孫この地に據る。永祿九年、景宗の時、龍野城主赤松政秀來り攻め景宗敗死して城廢す。(賀茂神社)縣社。一に室生加茂明神と稱す。祭神、別雷神・速須佐之男命・菅原道政。賀茂社領に發生せし地方の古社たり。鎌倉時

代文治三年に源頼朝は安志・林田・室の三箇荘を寄進し、江戸時代は徳川家より累代三十石の朱印領を寄す。神馬額(狩野元信筆)は國寶、例祭、五月一日。[見性寺] 臨濟宗。室津山と號す。同國五大寺の一。往昔室津に花添なる遊女あり。此地の長者の女なりしかば、里人敬して室君と稱す。此君深く佛道を信じ、村内に見性寺・淨名寺・大雲寺・正洞院正法寺の五箇寺を建立す。本寺は即ちその一にして、開山は玄海龍符和尚、のちに中和尚再建、寺門の隆盛を圖れり。聖德太子作の毘沙門像は國寶。

【室津村】 山口縣周防國熊毛郡の東南端。西及び東南は瀬戸内海に面し、北は阿月村・佐賀村に接す。面積七・六七方軒。泉座山(五二七米)の南麓に位し、村内は概ね山地に蔽はるるも、西南海岸に小平地あり。海に面して市街地ひろく、背後は山林地に屬す。市街地は前面に上ノ瀬戸を隔て、長島に對し、良港を作る。室津港は船米・米等を輸入す。村内に米、麥・甘藷・牛・鶏卵・石材・木炭・生魚等を産す。また造船業は、西海岸に縣道通じ、平生町にバスの便あり、また海上交通の便あり。

【室津】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に安藝郡室津郷あり。土佐日記には、「奈半よりあかつきに船を出してむろつを返ふ」と見ゆ。續日本後紀承和二年三月には土佐國室戸之崎あり、以下今昔物語・元亨釋書等室戸に作る。蓋し室津室戸通書にて同一地方を稱せしものなり。即ち室津郷の地はいま室戸半島の先端をいひ、室戸町・室戸岬町・吉良川村・羽根村等に互る地をいふ。

△ロト 室戸町 高知縣土佐國安藝郡の南部。室戸岬の西岸の地を占め、室戸岬町の西北に界し、太平洋に面す。町域は四一・七四方軒。高知縣百米の山峯東西に連亘して高峻なる山岳地をなし西に傾斜してその麓下に低平なる沖積地を開く。南部には室津川流れて太平洋に注ぐ。流域及び沿岸の平地は耕作行はる。黒潮の影響を受け氣候温暖なれば農業盛にして米麥の産多く、牧牛及び林産もあり。所々に亞熱帯性植物の密林地あり。水産業は最も盛にして近海は珊瑚の採取場をなし、鮪・鯖・鮫等の漁獲甚だ多し。主要市街は室津川口に開け漁町にして捕鯨の本場たり。室戸港即ち室津の港は小なれども風光明媚にして年産百四十萬圓に及ぶ水産物を持つ漁港なり。初め寛文年間、野中兼山、今の津呂港を開墾せし規模小にして船舶の多数碇泊に事欠きしため改築に着手し、後のち木樵兵衛政利の苦心經營の結果漸く延寶七年に竣工す。頗る雄壯にして樺兵衛は死を以て成就を誓ひ、工成るの日に柱に柱として切腹せり。港は東西四九米、南北七六米にして満潮二・七米。近時、外港の大

修築が着手せられたり。西岸を傳ひて國道が南走し來り、室戸港より川に並行して東方にゆき室戸岬町の東岸に至る。西方の安藝町へは頻繁にバス通じ、また北方の甲浦港とは攝陽商船會社の便船あり。土佐沿岸汽船も寄港して海上の交通も便なり。明治四十三年町制を布く。大字浮津は捕鯨を以て名高く、また四國道路札所たる津照寺・津寺及び金剛頂寺あり。この地古くは和名抄、安藝郡室津郷の内とす。(岩戸神社) 大字元佐に鎮座。祭神、天照皇大神外五柱。例祭、九月廿六日。(八幡宮) 大字浮津に鎮座。祭神、應神天皇。例祭、六月・九月十五日。(八王子宮) 大字浮津に鎮座。祭神、祭神不詳、或は云ふ、五男三女神。例祭、五月五日・九月廿八日。(一木神社) 北町津寺の後方にあり、室戸港の築港成就を海神に祈り、身を犠牲にして自刃せる(延寶七年六月十七日)一木樵兵衛政利を祀る。これを浦人哀悼し津寺に葬り、歳時香華を怠らざりしが、明治年間境内に小社を建て、近年今の地に社殿を造營せり。(金剛頂寺) 大字元浦行宮岬にあり。新義眞言宗豊山派。龍頭山光明院と號し、俗に西寺と云ふ。四國道路八十八所第二十六番札所たり。平城天皇大同年間、空海勤を奉じて最御時寺と同時に草創せしと云ふ。古くは金剛定寺と稱す。平城天皇金剛頂寺額を勅納あり。當時寺領三千五百石を附せられ、嵯峨・淳

和兩天皇の勅額寺たり。寺寶中、阿彌陀如来坐像(木造)一軀・銅鐘一口・板形眞言八祖の像八面は共に國寶たり。御詠歌「住生に望みをかくる椿樂は月の傾く西寺の空」(津照寺) 大字室津にあり。新義眞言宗豊山派。寶仙山。眞言院と號しまた一に津寺と云ふ。弘法大師の開基にして、本尊に地藏菩薩を安置す。大師の作なりといふ。最御時寺の末寺にして四國道路八十八所第廿五番の札所なり。御詠歌「法の船いかいづるか此津でらまよふ我身を棄せてたまへや」

△ロトサキ 室戸岬町 高知縣土佐國安藝郡の南端。太平洋に突出せる室戸岬三角形の末端を占め、西北は室戸町に北は佐喜濱村に隣接す。海岸に並行して丘陵性山脈縱走し、東西斜面は緩傾斜をなして低下しその先に狭長なる平地を開く。黒潮のため氣候温暖にして、農業盛なり。米・藁の産多し。また好牧場所林に開く。山地は杉その他の美林に富み林産物からず。水産業は盛にして鮪・鯨等の漁獲多く捕鯨は本場をなす。中心市街は土佐海岸にあり津呂と稱し、津呂港あり。國道は中途より西方に走り、分岐せる縣道は南岸を廻りて室戸町に至る。甲浦・高知市へバス通ず。海上は土佐沿岸汽船寄航し、又土曜日曜日には土佐商船院より又高知より何れも寄港し交通頗る便なり。古くは和名抄、安藝郡室津郷の内とす。もと津呂町と稱せしを昭

和四年室戸岬町と改稱す。大字津呂なる津呂港は古の室津港なり。紀貫之が土佐國守の任滿ちて歸京の途大風待ちのため十日餘り船を繋ぎしはこととす。寛文年間、賢宰野中兼山が畢世の力を盡して其開墾を試み、人夫三十六萬人、黄金一千九百兩を費して土堤を築きて海水を乾かし、磯岩を切りて港形を完成せり。享和元年藩に於て再び修理して港口に長堤を築けり。明治四十二年村民兼山創業の偉功を想ひ、新たに碑を作りて兼山の室戸港記を刻し港上に建つ。初めこの港出來しも港形狭小なるを以て、更に西方一里に室戸港を開墾す。これより富港を津呂港といひ、西の新港を室戸港と稱せり。岬上に室戸岬燈臺あり。明治三十二年の設置にして、燈質は閃白光、毎十秒一閃光、光達距離は三〇・五哩とす。また室戸岬岬所あり。昭和十年度に於ける氣温は最高極三二度(八月五日)、最低極零下二・五度(二月七日)にして、平均温度は一六・〇度なり。また同年度に於ける降水總量は二、八七二mmにして最大月量は九月の五三三mm、最大日量は九月二日の二二〇mmとす。(室戸岬) 指定名勝。土佐大灣の東端岬角にして、岬勢半島状をなして南海に突出せるを以て俗にこれをお鼻と稱す。太平洋の黒潮が日夜に其前面を流るるを以て氣候温暖、三冬霜雪を見ず、亞熱帯の氣候あり。岩石は斑岩岩に屬し幾千萬年の間海潮の日夜呑噬

汰する所となり、浸蝕露骨、種々の奇景を呈し風景絶奇なり。岬端の入口に高嶺と稱する三角状の巨巖あり。左は室戸岬の斷崖數百米、崖面に馬目樑・松等密生し青緑の屏風を立てたる如く、右は太平洋の滄波紺碧を染めたる如く、奇巖怪壑獨立して偉觀を極む。往昔僧空海の修行悟道せし大巖窟ありて、空海自詠の歌に「法性の室戸といへど我住めば有爲の浪風立たぬ日ぞなき」とあり。岬端の勝處は、南方瀧頂の濱・月見ヶ濱・目洗池を過ぎ、龍宮殿を経て俗稱弘法大師一夜建立の岩屋より鉾石・水掛地蔵・女人結界石の古跡及び左右に鬱蒼たる榕樹林を過ぎて空海修行の大巖窟に至り、それより俗稱弘法大師行水池を経て毘沙門岬に達す。蓋し土佐國天然風景中最大の景勝地たり。(室戸岬亞熱帯性樹林及海岸植物群落) 指定天然記念物。室戸岬一帯に互る地にあり。榕樹・梧桐林及び原生常緑喬木等より成り、各一團地をなし、河れも原始林の状態に於て保存せられ、且つその内外に互りてテウソクシダ・ケホンダ其他大小種々の熱帯植物混生し特異の景観あり。榕樹は熱帯性樹木の著名なるものにてその生育地は特に生物地理學上重要視せらる。室戸岬端にては沿岸に類例なき大繁生をなし純林として存す。梧桐樹(アザビ)は普通庭園樹として栽培せらるるものにして、厚生地は不評なるも室戸岬附近には原生樹林の状態をな

して多生し、熱帯性植物分布の研究上重要なり。タチバナは九州南部地方より本縣下に分布せる自生の蜜柑にして、室戸岬森林には諸所に散在せるも現今には餘り大なるものなし。テウソクシダは熱帯性羊歯の顯著なる品種にして、九州南部を経てここに分布し、生育區域は小なるも繁茂旺盛なり。ケホンダは當地のみならず野根村淺ヶ磯にもあり。顯著なる熱帯性羊歯の一種なり。コウラボシは主として毘沙門岬附近にあり。熱帯性羊歯にして琉球を経てここに分布す。(たちばな) 指定天然記念物。たちばなは九州南部地方より本縣下に分布せる自生の蜜柑にして、培養柑類の原種と認められ、この地はその原産地なり。(最御時寺) 室戸岬上にあり。新義眞言宗豊山派。室戸山明星院と號し、俗に東寺と云ひ、岬を東寺岬ともいふ。大同二年、僧空海開基、嵯峨天皇以來歴代勅額所たり。本尊は空海作、靈空藏師佛、四國巡禮第廿四番札所。藥師如来月光菩薩像は國寶。御詠歌「明星の出でぬる方の東でらくらき迷ひはなどかあらじな」

△ロトニ 室垣村 兵庫縣但馬國出石郡の西南部。出石町の南に接し、西北

ムロマキ

は城崎郡に隣り、西南と南は美奈郡に界す。村内山地相重り、東南境に最高峯床ノ尾山(八三九米)聳ゆ。須留山(四四九米)は西隅にあり。朝来川支流の出石川は東方より来りて東北部を西流し、更に北境の中央に滑りて北北西流し村境を離れて小坂村に入る。流域に平野あり。米・藁の産多く、野菜・花弁・食用農産・果實・製茶・柁柳・鵜卵及び沿岸漁獲物・石材・土石・鏡水・製製品等あり。縣道は東方、南方或は西南方へ通じ、出石町より派出する道路が本村を横切り交通の便よし。また社線出石鐵道は村内に出入り(昭和四年設置)を置く。古への室野郡及び埴野郡の西部を合せたる地なり。大字室木に須義神社あり、俗に菅八幡といふ。菅は古事記にある龍鹿にして天日槍の齋の居邑なりといふ。(鶴山縣蕃殖地)指定天然記念物。大字細見の小丘にあり。蕃殖する鳥は鶴と稱する種類にして、遠く安政年間初めて渡来せしが、農作物を食すため土民の危害をうけ一時全く姿を見せざりしが、明治三十七年頃より再び渡来せり。鶴山の松は梢が平らにて葉をつくるに過し、葉は見出しのよき松の梢に木の葉・枝を集めて、直径約一米半の大なる輪形に造らる。凡そ二、三年目毎に他の梢に移り、それがたぬ處々に古葉残る。年々飛來する鶴は三十羽にて集籠するは二、三箇所とす。この觀覽の時期は五月下旬より六月中旬

ムロラン

て、午後餘り活動せざれば午前中をよしとす。(須義神社)大字室木に鎮座。郷社、祭神、由良度美神。本殿、參籠殿、拜殿を具ふ。「柳野神社」大字柳野に鎮座。村社、祭神、倉稻魂命。式内社。例祭、十月十八日。

ムロマキ 室牧村

富山縣越中郡婦負郡の南部。室牧川に沿ひ、八尾町の西に隣接す。東西兩部はいづれも二〇〇一五〇〇米前後の丘陵南北に連なり、室牧川は略中央を南より東北へ貫流し八尾町にて井田川に合流す。流域に快き耕地あり米・藁を産す。畑は概ね山林にして木炭・木材の産あり、八尾町より出荷さる。北部を東西に貫く縣道は八尾町より山田温泉に至るもの、バスの便あり。省線高山本線越中八尾驛(保内村地内)へ約五軒、村内に高橋温泉(山吹)あり。泉質は無色透明の単純泉。地は井田川に臨みて遠く夫婦山を望み、風光佳なり。附近には城ヶ山公園・開名寺・本法寺などあり。

ムロマチ 室町

【室町】東京の町名。今日本橋區室町。日本橋より北方の大通り、一丁目より三丁目に至り本町に接す。辰巳之園「匂ひ袋のやらのものはな、室町の桐山三了が所からとりぬ」【室町】↓京都市(二二〇二頁)

ムロシタ 牟呂吉田

愛知縣瀬美郡にありし村、昭和七年豊橋市に編入

室蘭

【室蘭市】北海道南岸の港市。膽振國南岸中央の半島の先端に當り、北東より南西に宛も下顎の如く突出して内浦灣の北東口を限る輪郭半島とその北岸の地帯を占め、北東は靛別郡靛別村に、北西は有珠郡伊達町に隣接し、南東・南・南西は海に臨まる。面積七五・九方軒。北境には火山岩より成る鷲別山(約九〇〇米)ありて土地南方に傾斜し、輪郭半島は中部に母懸山、南部に測量山(一八八米)を戴き、もと一孤島なりしがのち東北部にて本土と連繋せる陸繋島にして、外海に向ふ東と南の岸は斷崖をなし、北岸の中央部には支溝を抱きて水深く室蘭港の要部をなす。港は北・東・南の三方を陸地に圍まれ僅に北西方に開口するのみにて港内波濤は、水深くして大船の碇繋に耐する等港としての自然的状態良好なると、外洋に面し航汽船の寄港に便なり、早くも夕張・室蘭等の諸炭坑と鐵道によりて連絡し石炭輸送港として榮ゆるに至れり。即ち大正七年より昭和四年までに工費五百萬圓を投じて、南防波堤(一八三〇尺)、北防波堤(三二〇〇尺)の築設と港内水面三六萬坪の浚渫を行ひ臨港倉庫・上屋等も完備し、埠頭は一時に五千噸級輪船四隻を繋留し得べく、更に鐵道省は七百五十萬圓の巨費を以て石炭

ムロラン 室蘭

ありしより神天島とも稱せり。島上に室蘭燈臺あり。燈質は明暗白光(明二秒、暗二秒)にして光達距離一八・五哩、また霧笛信號の設備あり四十秒を隔て五秒吹鳴す。(室蘭公園)市街の中央、公園町にあり。面積約二八ヘクタール。大正五年以降年々施設造行はれ眺望よし。(室蘭岳)市の北東端。標高九一八米。山體白樺の疎林にて掩はれ、山腹はスキ1の良きグレンデをなす。登山は室蘭本線本輪西驛よりチナイベツ川を遡り、室蘭岳ヒュッテを経て行はる。約一〇軒、四時間行程なり。また東室蘭驛より中島神社前を経て至り得、約一〇軒なり。(輪西ゴルフ場)輪西町インダキ海岸にあり。室蘭ゴルフ倶楽部の經營にかかり丘陵と砂濱を利用して、變化に富む九ホールを設く。長さ二二六〇米。十月より翌年四月まで降雪期には閉鎖さる。(場守神社)大字元室蘭に鎮座。郷社。祭神、保食神。創祀年代詳かならず。古來當地の鎮守たり。例祭、九月九日。「八幡神社」泉町に鎮座。郷社。豊田別命を主神とし、保食神・孝平神を合祀す。明治六年の創立にして、爾來當地の鎮守として崇仰せらる。例祭、八月十五日。麓に、露西亞軍艦ディアナ號の大砲にて後に元室蘭南陣屋に備付られしもの一門保存せらる。

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

荷役専用の岸壁と木造高架橋を設け、北海道炭礦汽船會社はグエルトコングエヤ1を設備し石炭の積込運る便利なり。港は石炭の外、木材・板類、主として苫小牧より来る洋紙等を輸出し、鐵礦石の輸入多し。市街も始は主として港岸に沿ひて發達せしも、元來平地に乏しく海岸町・大町等の外は測量山・母懸山間の高臺を開きし階段式の町にて坂路多きも眺望に宜しく、特に測量山の東斜面にある八幡神社境内よりは北に有珠山・羊蹄山、西南に駒ヶ岳等を望み景色雄大なり。この商業區の東方には山を隔てて日本製鐵所と日本製鐵會社輪西製鐵所の二大工場あり。日本製鐵所は機械・鍛鍊・鑄造等の工場を有し、大規模に大砲・彈丸をはじめ諸種の鐵道及び船舶用品を製造す。輪西製鐵所はもと北海道炭礦汽船會社が虹田・俱知安等噴火灣岸地方の砂鐵を原料とする鉄鐵製造を目的に事業を開始せるに起り、その後數度の變遷を経て昭和九年大日本製鐵會社に参加してその輪西製鐵所となりしもの、熔鑪・鑄石機・結設備・鑄鐵機・製炭機等の設備ありて製鐵を主とする外、硫酸・アモニヤ・ベンゾール・タール・硫酸等の製造を行ふ。省線室蘭本線は市の北部を略東西に貫きて本輪西驛(大正十四年設置)、東室蘭驛(明治二十五年設置)を置き、東室蘭驛よりは支線ありて輪西・御崎二驛(前者は昭和三年、後者は明治三十八年設置)を

ムロラ

は城崎郡に隣り、西南と南は美奈郡に界す。村内山地相重り、東南境に最高峯床ノ尾山(八三九米)聳ゆ。須留山(四四九米)は西隅にあり。朝来川支流の出石川は東方より来りて東北部を西流し、更に北境の中央に滑りて北北西流し村境を離れて小坂村に入る。流域に平野あり。米・藁の産多く、野菜・花弁・食用農産・果實・製茶・柁柳・鵜卵及び沿岸漁獲物・石材・土石・鏡水・製製品等あり。縣道は東方、南方或は西南方へ通じ、出石町より派出する道路が本村を横切り交通の便よし。また社線出石鐵道は村内に出入り(昭和四年設置)を置く。古への室野郡及び埴野郡の西部を合せたる地なり。大字室木に須義神社あり、俗に菅八幡といふ。菅は古事記にある龍鹿にして天日槍の齋の居邑なりといふ。(鶴山縣蕃殖地)指定天然記念物。大字細見の小丘にあり。蕃殖する鳥は鶴と稱する種類にして、遠く安政年間初めて渡来せしが、農作物を食すため土民の危害をうけ一時全く姿を見せざりしが、明治三十七年頃より再び渡来せり。鶴山の松は梢が平らにて葉をつくるに過し、葉は見出しのよき松の梢に木の葉・枝を集めて、直径約一米半の大なる輪形に造らる。凡そ二、三年目毎に他の梢に移り、それがたぬ處々に古葉残る。年々飛來する鶴は三十羽にて集籠するは二、三箇所とす。この觀覽の時期は五月下旬より六月中旬

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

ムロラ

したため、本陣屋を南側に置き、出張陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよよく保存す。藩兵ここに駐し、また溝を掘て室蘭半島のオイナウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄港せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に崩壊せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類類成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器等の遺物保存せらる。貝塚は市内大半輪西村字オイナウシにもあり、祝津町ハシナウシ岬には遺址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄附金の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背而數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米メジロクタクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景観一昨の中に萃り、好箇の展望臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直径約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。往時は辨天の祠

【室蘭線】

國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道

室蘭

西南部海岸より石狩平野に通ず、室蘭本線は内浦灣岸の南輪西驛長萬部驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて苫小牧驛に達し、それより北に向ひ追分・志文等を経て南輪西驛見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二二・八軒)。夕張線は追分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張線道線に接續)等を経て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は南輪西驛と連絡し機内行直通急行列車を通じ、北海道縦貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線)及び連絡驛(長萬部)南輪西驛(虹田)社線洞爺湖電鐵(苫小牧)日高線(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(追分)夕張線(栗山)社線夕張鐵道(志文)萬字線(岩見澤)南輪西驛、機内線。【室蘭本線】↓室蘭線

メ

メ女

【女坂】神武紀に見えたる大和國の地名。いま奈良縣宇陀郡内牧村の大字荷坂の地がそれならんと言はる。神武天皇御東征の折、日を背に負ひて大和國に入り給ひ苦戦を重ね給ふ。天皇宇陀に入り給ひし時、高倉山の嶺に上りて國中を望み給ひしが、賊酋八十島は女坂に女軍を置き、男坂に男軍を置き、巖坂に燃りたる炭火を置き、皇軍を防ぎ、道路閉塞して進むことを得ず。既にして天皇神跡を受け給ひ、遂に賊軍を破りて進軍し給ふ。

【女島】大濱村(長崎縣南松浦郡)

【姪島】東京府小笠原島の母島諸島中の一。西南は姪島瀬戸を隔て、妹島に對し、東西及び南北とも各一・五軒、周圍五軒の小島。全島矮樹密生し、水泉は甚だ乏しく、西北岸に小濱あり、風浪靜かなる時は舟を著け得。大正九年には一四人の居住者ありしが、昭和五年には無人島となれり。

【メウ】名雨線 北海道にある省線宗谷線の一部。宗谷本線の名寄町の名寄驛に起り、將來は石狩兩龍郡に到り幌加内線に接続するもの。現在は初茶志内驛まで七・二軒開通。

メーキ 明龜面

朝鮮咸鏡南道文川郡の東北部。郡邑文川の東北方約六軒、北は水興郡・高原郡、南は德源郡と界し、東方一帶は松田灣に面す。昭和十一年四月もと明孝面及び龜山面を併合新設せしものにて、東西約一五軒、南北一〇軒餘あり。西南部に二一三米の丘陵起伏するも著しき山嶺なく、北部に錦浦の大湖あり附近は特に廣き平地横はる。北境を錦江東流し徳池江と合して龍興江となり海に注ぐ。海岸は中部部に松田半島東に長く突出し松田灣を北の西灣、南の長致半島等の入江に岐ち、西灣の北岸なる龍興江デルタには鹽田發達す。米・麥・大小豆・雜穀等の農産ある外、水産には食鹽・牡蠣・海鼠等多し。域内に鐵道又は幹線道路の通ずるなきも、海上交通は比較的便なり。東部の元海軍防備隊地帯に編入せらる。東部の大部分は要塞地帯に編入せらる。東部の元海軍防備隊跡に官設の永興學校あり、少年感化施設にして大正十三年十月の開設に係る。

【メー】明湖 朝鮮慶尙北道奉化郡の南部。郡邑乃城の東八軒餘。東は才山面、南は安東郡陶陶山面ほか二面に接す。東西八一〇軒、南北一〇一三軒あり。東南部に清涼山(八七〇米)聳え山肢は北及び西に連り、西南部には萬里山(七九二米)あり、概して東及び南に高く、北西に低夷して其處に臺地を造る。洛東江中部を南に流るるも峽谷をなす部分多くして灌漑水利の便や乏し。耕地

メ

メーサン 明山

朝鮮全羅南道務安郡石谷面の里名。總督府鐵道湖南本線の明山驛(昭和九年設置)あり。【メーシ】明子 愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年本村外一町一村を廢し新たに牛久保町を建つ。

【メーシ】鳴旨面 朝鮮慶尙南道金海郡の東南部。釜山府の西約八軒。洛東江デルタ上に位し、南北約五軒、東西約三軒の地を占む。田畑極めてよく折米・麥・豆類・叭等の産多く、沿海には蛤・海苔を出す。北方金海邑へ道路通じまた南部にありては洛東江口を渡船によりて連絡し、東方釜山府、西方熊川方面に通ず。

【メーシ】明治 秋田縣羽後國雄勝郡の西北部。西馬音内町の西北約四軒。東北は平鹿郡に、西北は由利郡に接す。西北境に三森山(四二二米)、西南境に大平山(四七四米)聳え、村の北・西南の三境には山地連りて東方に傾斜し、中央部には七高山(三〇四米)聳ゆ。全村山地多くして堆物川

路を測定し、江戸に上りて幕府の許可を得しが、農民の反對は更に一層の熾烈を極め、これが諒解に努力中に病を得、家産を蕩盡したる上、なほ莫大の負債を殘し、天保四年九月、六十九歳を以て病歿せり。次いで萬延・文久頃、阿彌陀堂村(いま上郷村大字阿彌陀堂)の人伊豫田與八郎、八帖村(いま岡崎市八帖町)の人木藤八三郎の二人は、相謀つて碧海郡上郷村ほか三箇村(いま何れも上郷村の内)に跨る四郡輪中と稱する回地の悪水を排除し、且つこれを利用して南方低地に灌漑せんとせしが、これも一部農民の反對のために沙汰止みとなれり。かくて年月も過ぎ、世は皇政維新となれり。碧海郡の城ヶ入村(いま明治村大字城ヶ入)の人岡本長松が都築四郎の雄圖を嗣ぎ矢作川疏水事業を再興せんとして出願し、前記の伊豫田與八郎もまた前計畫を復活してその許可を得んと出願せしため、時の碧海郡長は兩者の間を斡旋し、兩者を提携せしめ連署を以て出願せしむ。時の愛知縣令安場保和は大いにこの舉を賞し、水路を西加茂郡今村(いま母母町大字今)を起點とし、郡を東北より西南に貫きて高濱村(いま高濱町大字高濱)に於て衣ヶ浦に入ることを以て、工事の許可を與へたり。されどこの工事には少なくとも八萬餘圓の大金を要するため、縣より灌漑用溜池の敷地や官林の無代拂下などを許せしが、なほ不足するため出資者を附近の

【明治村】樹木縣下野國河内郡の南部。上三川町の西隣にて、西は下都賀郡石橋町に接す。關東平野の一部を占め、東部を田川南流し川沿ひには水田多く、西半は畑地をなして所々林を交ふ。農業行はれて米を主産し、麥の産もあり、特産物としては干瓢多し。南部を横走する縣道は上三川町・石橋町に通じ、石橋町には省線東北本線石橋驛ありてバスを通ず。また上三川町より北走し、村の東北部を経て、北方の宇都宮市(約九軒)に通ずる縣道あり。古くは和名抄、都賀郡高栗郷の内なるべし。明治二十四年多功村を改稱す。延喜兵部省式に見ゆる田部驛は蓋し此地とす。近世の初めまで猶ほ驛次にして多功宿と呼ばる。中世は専ら多功に作る。村内に多功城址あり、即ち多功氏の居城とす。多功氏は宇都宮一黨にして石見守宗朝を祖とす。

【明治村】群馬縣上野國群馬郡の東部。榛名山の東麓にて金古町の北隣にあり。西半は榛名山東斜面の一部をなして、西境に善妻山(八三一米)あり。東部は利根川に近く平地をなす。一帯に桑園多く養蠶盛なり。平地には農業行はれて米・麥を産す。縣道は東部を縱走し、南は金古町を経て高崎市に通じ、北は澁川町に通じ、何れもバスの便あり。また北隣の古巻村にある省線上越線八木原驛に近く、これにもバスを通ず。

【明治】千葉縣市原郡にありし村。大正十三年に牛久町と改稱す。

【明治】神奈川縣高座郡にありし村。明治四十一年に外一町一村と合して藤澤町を建つ。

【明治村】新潟縣越後國中頸城郡の東部。保倉川の右岸に沿ひ、西北は湯村を隔てて日本海に、東南は東頸城郡に接す。東半部には低丘散ありて中央に傾斜し、西部・北部は頸城平野の一部を占め平低にて水田多し。中央の山麓と北部には數個の溜池を湛(低濕なり)。農業を主産業とし米を多産す。明治鐵山あり、鐵區は外二箇村に跨り、日本石油會社の線行に係る石油山にて昭和十年より事業を開始す。縣道西部を南北に貫通し新井町・柿崎町に通じ、南部を社線頸城鐵道東走し明治村驛(大正三年設置)、大池驛(昭和五年設置)の二驛を置く。

【明治】北山村(長野縣)

【明治用水】愛知縣にある用水路。三河國の矢作川の右岸なる碧海郡の地は洪積層の乾燥せる荒地にて、數十年前は荒蕪たる山林・原野多く、水利の便なきため耕地の如きは點々散在するに過ぎず。これをみてこの地方の疏水に著目せるは、碧海郡和泉村(いま明治村大字和泉)の都築四郎(彌厚)なり。彼は郡の東境を流る矢作川より分水し、水を西南に導き衣ヶ浦の海面に達せしめんと計畫を立て、幼穉なる當時の測量術を以て、無理難なる農民の反對を排除しつつ、ほど水

は東境を北流す。米・藪を産し、山中には福壽草を産す。本莊街道は北部を東西に通じ、湯澤街道は東部を南北に通ず。南方の社線鐵道西馬音内驛へバスの便あり。古くは和名抄、雄勝郡雄勝郷の内とす。大字大澤は天和元年、本莊・龜田兩藩及び幕府遣見使・目代等の上下の宿驛と定めらる。また大澤の南、天下屋敷と稱する地を古の雄勝城址なりといふ説あり。(金峯神社)大字大澤字上法寺に鎮座。郷社。祭神、金山尾古神・金山尾寶神外數神。江戸時代には藩主佐竹氏の崇敬社。例祭、陰曆四月八日。

【明治村】山形縣羽前國東村山郡の中部。東北方天童町、東南方山形市へ各六軒、西は長崎町に接す。面積四・七三方軒。山形盆地の中央部に位し、全村平坦にして、谷川は中部を西流し、白川は南部を西北に流れ、何れも須川に合す。須川は西部を北流す。米・藪の産あり。省線奥羽本線漆山驛へは東方約三軒。

【明治村】福島縣岩代國伊達郡の西南部。川俣町の西方約七・五軒。西及び南は阿武隈川を隔てて安達郡に接す。阿武隈山地に屬し、全村丘陵性臺地にして、阿武隈川は先行性流路をとりて西北に流る。藪・米・麥・大豆等を産す。道路は村の北部を東西に通じ、東方川俣町及び西方省線東北本線松川驛へは各バスの便あり。省線川俣線岩代飯野驛にも近し。昭和五年飯野村の一部を以て本村を建つ。

【明治】秋田縣羽後國雄勝郡の西北部。西馬音内町の西北約四軒。東北は平鹿郡に、西北は由利郡に接す。西北境に三森山(四二二米)、西南境に大平山(四七四米)聳え、村の北・西南の三境には山地連りて東方に傾斜し、中央部には七高山(三〇四米)聳ゆ。全村山地多くして堆物川

路を測定し、江戸に上りて幕府の許可を得しが、農民の反對は更に一層の熾烈を極め、これが諒解に努力中に病を得、家産を蕩盡したる上、なほ莫大の負債を殘し、天保四年九月、六十九歳を以て病歿せり。次いで萬延・文久頃、阿彌陀堂村(いま上郷村大字阿彌陀堂)の人伊豫田與八郎、八帖村(いま岡崎市八帖町)の人木藤八三郎の二人は、相謀つて碧海郡上郷村ほか三箇村(いま何れも上郷村の内)に跨る四郡輪中と稱する回地の悪水を排除し、且つこれを利用して南方低地に灌漑せんとせしが、これも一部農民の反對のために沙汰止みとなれり。かくて年月も過ぎ、世は皇政維新となれり。碧海郡の城ヶ入村(いま明治村大字城ヶ入)の人岡本長松が都築四郎の雄圖を嗣ぎ矢作川疏水事業を再興せんとして出願し、前記の伊豫田與八郎もまた前計畫を復活してその許可を得んと出願せしため、時の碧海郡長は兩者の間を斡旋し、兩者を提携せしめ連署を以て出願せしむ。時の愛知縣令安場保和は大いにこの舉を賞し、水路を西加茂郡今村(いま母母町大字今)を起點とし、郡を東北より西南に貫きて高濱村(いま高濱町大字高濱)に於て衣ヶ浦に入ることを以て、工事の許可を與へたり。されどこの工事には少なくとも八萬餘圓の大金を要するため、縣より灌漑用溜池の敷地や官林の無代拂下などを許せしが、なほ不足するため出資者を附近の

村の富豪に求めその出資を得、明治十二年一月着手、爾來十四箇月の日を費し明治十三年三月竣工、幹線の通水を見るに至れり。これを中央の井筋として更に工費十四萬餘圓を投じて西井筋・東井筋を開鑿せり。用水の取入口は西加茂郡舉母町大字今にあり。矢作川を横断して堰堤を設けて水を取入れ、これより碧海郡上郷村を経て安城町の大谷に至るまでを本流とし、更に西南に流れて依佐美村を経て高濱町字蛇杖に至りて海に入るを中井筋と稱す。この本流及び中井筋の延長約二八軒、渠幅は本流の頭約一・一米、末約七・三米。支渠は二條あり、一は上郷村大字廣野新郷の東部に於て本流より分れて西に向ひ、安城町・知立町を過ぎて刈谷町に至り、大字元刈谷の海に入るもの、これを西井筋と稱し延長約一四軒、渠幅約三・九米。他の一は安城町大字今の東方より分れ櫻井村に入り大字藤井と明治村大字米津との間より矢作川に達するもの、これを東井筋と稱し延長約一二軒、渠幅約三・九一五・五米なり。以上の幹線の外、更に幾多の小渠・小溝を派出すること縱横、總延長數百軒に達し以て碧海郡の大部分を灌漑す。而してこの東井筋は更に伏越鐵管を以て矢作川の下を通り、榑豆郡に入り西尾・平坂・寺津の三町を灌漑して海に入る。これを西城用水と稱し、延長約八軒、渠幅約二米なり。かくして明治用水の延長は幹流約五四軒

メ

メーシ

メ

支流、小集は約三百軒に達し、その灌溉区域は碧海・西加茂・備豆の三郡内十五箇町村に互り、實に八二八ヘクタールに達し、なほ年々増加の勢なり。かくして往昔の寒村は變じて富邑となり、産業大いに興るに至れり。これ實に都築彌厚その他の先覺者の賜なれば、明治十六年十月朝廷より伊豫田與八郎・岡本兵松の兩名に對して藍綬褒章を賜ひその善行を表彰され、大正二年陸軍大演習が愛知縣下に行はれし時、都築彌厚に對し、また大正天皇即位の大典を擧げさせ給ひし時伊豫田與八郎に對し、何れも從五位を追贈されたり。明治用水は大正十五年五月に至り、矢作川の上流嶺投村大字越戸より分水し西加茂郡の南部と碧海郡の北部を灌溉する枝下用水普通水利組合を併合せしものにて、今や明治用水の灌溉する所一萬町歩を超え、なほ年々増加の勢なり。汽車によりて東海道を旅行する人は安城驛附近に於て滾々として流るる明治用水の水路を眺むることを得。

【明治村】鳥取縣八頭郡にありし村。大正四年五穂村と共に廢し西郷村を設く。【明治】鳥取縣西郷郡にありし村。明治二十四年に廢して馬路村・大國村の二村となる。【明治村】岡山縣備中國後月部の東方面。吉井町の北に接す。北は川上郡に、東は小田郡に界し、東は山野上村に、西は共和村に接す。面積二・三五七平方町。村内概ね山地に蔽はれ、東北より西南に互る小山脈中央に横はれ、その西北・東南山麓に耕地を有し、南境また山脈連なる。村の周圍は山林に圍繞せらる。墾拓耕地附近に存し純農村なり。米・麥・蕎麥・薄荷・柿及び酒類・木炭等を産す。南隣吉井町に出づれば縣道に自動車便あり。村内に花澤あり。高さ二〇米、巾六米。【明治村】高知縣土佐國香美郡の西南。山田町の南に位し、東は片地村、南は岩村に界し、西は長岡郡に接す。東南境に物部川南流して本村は廣き平坦な右岸の沖積平地を占む。嶺新前、野中兼山の治水、開墾によりて土地大いに拓け、鏡野平野と稱し國中屈指の農耕地をなす。米の産多し、製糸工業また盛なり。山田町より南方野市町及び前濱村方面をつなぐ縣道はそれ／＼東西兩部を南北に貫通しバスの便あり。山田町の山田驛までは約一軒、省線土讃本線に連絡す。住古は山田郷の一部にして野中兼山の治水、開墾によりて開拓大いに進みたる地なり。

川の沖積作用に依り埋没されし衣ヶ浦の接續地にして、いま池沼となり、その末は衣ヶ浦に注ぐ。此地の沖積層の丘陵は最高所は一三米位にてその間に多くの用水が南北に貫通し水田地域を潤し、臺地には桑畑多く養蠶盛にて、南部には桃・柑橘の産多し。また養蠶も盛なり。交通の便はよく臺地には多くの交通路あり、南部には碧海電線が通じ米津驛を置く。大字東端には重明親王櫓塚と稱する址あり。重明親王は醍醐天皇第四皇子にして、天慶二年故ありて京を去り、三河に來り木村の海邊に流寓し給ひ本地に薨去せられしと傳ふ。根柢は油ヶ淵が海灣たりし頃海灣中に突出し、初め油ヶ淵と呼びしを轉訛して根柢となれりといふ。和泉は重明親王の家臣泉次郎の開拓せるため、此名ありと。米津は知多郡大野領主米津道壽なるものが戦艦數艘を幸中根の海岸に着き、遂に城を米津に築く、故にこの米津氏の名稱が地名となれるものなりと。大字西端にも西端落あり、徳川麾下の旗本多忠貞が慶應三年藩屏に列し一萬石を食みし所。藩は明治四年廢して縣を置き、間もなく廢して額田縣に入る。【明治村】愛知縣尾張國中島郡の中部。一宮市の西南方七軒。北は萩原町に、東は稻澤町に、南は千代田村・平和村に、西は額田町に隣る。此地は濃尾平野の中部にあたりて、土地低平なり。西境に

は日光川南流し、東北より來る光雲川を合す。此等の川は沖積地の水田灌溉を行ひ、また桑畑多く植在す。畑地には大根その他の野菜栽培せられ、枇杷島市場に出さる。交通は便にして、額父江街道東西に通じ、鐵道は西隣額父江町を通過する名古屋電鐵尾西線に出づるを便とす。本村は明治三十九年、西島村・光郷村・片原一色村・國分寺と長谷村の一部を廢して置けるものなり。(淺井神社) 大字淺井に鎮座。郷社。祭神は明記なきも天御中主尊ともいふ。延喜式内社にして、國內神名帳に從三位淺井天神と見ゆ。例祭八月十五日。(河俣下神社) 大字片原一色に鎮座。郷社。祭神、菊理媛命。もと白山權現とも稱す。國內神名帳に從三位河俣下天神と見ゆ。例祭、正月二十日。(鹽江神社) 郷社。祭神、鹽土大神。式内社とする説あり。舊稱、白鹽明神。例祭、八月十七日。(國分寺) 大字矢合にあり。臨濟宗妙心寺派。開山は覺山。聖武天皇勅建に係る諸國國分寺の一。釋迦如來坐像(木造)二軀。傳覺山和尚坐像(木造)一軀。傳覺山(大宮司夫妻像(木造)二軀。國寶なり。(安樂寺) 臨濟宗妙心寺派。初め天台宗。聖武帝の勸願國分寺の支院と傳ふ。もと釋迦寺と號す。當寺の十一面觀音立像、釋迦如來坐像は國寶。(法華寺) 曹洞宗。聖武天皇勅建に係る國分尼寺を、のち僧才敏が現宗に改め再興せしもの。もと法花寺に作る。藥師

【明治村】鳥取縣八頭郡にありし村。大正四年五穂村と共に廢し西郷村を設く。【明治】鳥取縣西郷郡にありし村。明治二十四年に廢して馬路村・大國村の二村となる。【明治村】岡山縣備中國後月部の東方面。吉井町の北に接す。北は川上郡に、東は小田郡に界し、東は山野上村に、西は共和村に接す。面積二・三五七平方町。村内概ね山地に蔽はれ、東北より西南に互る小山脈中央に横はれ、その西北・東南山麓に耕地を有し、南境また山脈連なる。村の周圍は山林に圍繞せらる。墾拓耕地附近に存し純農村なり。米・麥・蕎麥・薄荷・柿及び酒類・木炭等を産す。南隣吉井町に出づれば縣道に自動車便あり。村内に花澤あり。高さ二〇米、巾六米。【明治村】高知縣土佐國香美郡の西南。山田町の南に位し、東は片地村、南は岩村に界し、西は長岡郡に接す。東南境に物部川南流して本村は廣き平坦な右岸の沖積平地を占む。嶺新前、野中兼山の治水、開墾によりて土地大いに拓け、鏡野平野と稱し國中屈指の農耕地をなす。米の産多し、製糸工業また盛なり。山田町より南方野市町及び前濱村方面をつなぐ縣道はそれ／＼東西兩部を南北に貫通しバスの便あり。山田町の山田驛までは約一軒、省線土讃本線に連絡す。住古は山田郷の一部にして野中兼山の治水、開墾によりて開拓大いに進みたる地なり。

大字中野に野中兼山邸跡あり。寛文三年兼山は奉行職辭退の願を提出し、嗣來客を謝して讀書に日を費し優遊自適せしが其年の十二月病に罹りて卒す。兼山の歿後、藩は繼續して墓をなし、兼山生前に加ありとなし家族を宿毛に遠遷し、遂に其血統を斷絶す。嗣來この邸址も荒廢して顯るものなりしが、近時邑民相計り數坪の地を劃りて邸址を保存し、石を建て「野中兼山先生終焉地」と題せり。兼山はのち正四位を贈らる。【明治村】高知縣土佐國吾川郡の中部。高岡郡越知町の北にあり、東は三瀬・下八川二村に、北は小川村、西は横島村に界し、南は仁淀川を隔てて高岡郡能津・黒岩二村に隣接す。四國山脈南斜面の地を占め南北に數條の連峯縱走して高峻なる山村をなし、北境に五在所・黒森の諸山屹立す。南境に仁淀川屈曲しつゝ、溪谷を東流し狭長なる砂地を造る。その他には平地殆どなし。農業不振にして米・麥等を僅に栽培す。養蠶は相當に行はる。山地は森林よく繁茂し三椏・楮等殊に多く又その他の林産少からず。河岸に沿うて縣道東西に走り越知町及び南方伊野町に通じバスの便あり。また仁淀川には舟運の便あり。大字片原に片岡城址あり一に法嚴城といひ戦國の武將片岡左衛門大夫直綱より累代の城址なり。直綱應永中始めて入國し孫光綱に及び其業益々隆盛となり、城下は頗る殷賑なる市街を

成したり。天正十三年伊豫金子降に長曾我部氏に屬して戰死し遺骸をこゝに葬れり。いま城址の東南、妙福寺跡に其墓あり、また一門みな長曾我部氏の忠臣にして、城址の中央に巨大なる記念碑あり。(天石門別安國玉主天神社) 黒瀬に鎮座。郷社。祭神、天手力男命。式内社。例祭八月十二日・十一月八日。【明治村】福山縣美濃郡の中央にある。美濃郡は舊郡名。直方市・鞍手郡宮田町・同小竹町・田川郡上野村に跨りて約二七萬坪、現在明治鐵業會社の線行に係り、昭和十年の産額は塊炭一四、一八八萬、粉炭一七、四八九萬、切込炭六一五萬、粗炭七、九九八萬(この總價額三〇萬餘圓)なり。當炭礦は明治十八年の開坑にして、大正の末年頃は鐵夫千二、三百人、外に女工八百人にも及ぶ大炭礦なりしが、其後衰へて、此頃にては鐵夫三、四百人に過ぎず。いま重要鐵山たり。【明治村】大分縣豊前國宇佐郡の南部。別府市の西北約一〇軒にあり、南部の東半は遠見郡に、西半は玖珠郡に界す。全村山地にして南部に高く北部に低し。即ち南境には立石山(一〇五九米)一帯の山地あり。東境中央には鳥帽子山(五七三米)をびり。西境には鈴ヶ塚山より東北方へ連なる山嶺あり。鈴ヶ塚山の東に發する深見川は東北流して中央を流れ中部より北流し沿岸に稍々低地あり。東北部

如來像(木造)は國寶たり。【明治村】奈良縣大和國添上郡の西部。奈良市の西南に接し南は帶解町に界す。全村地形低平なり。米産多し麥・蕎麥も出す。東部には上街道、西部には中街道が共に南北に貫通し、上街道の西には省線櫻井線が南流して京終驛(北約〇・五軒)、帶解驛(南方約〇・五軒)に近し。【明治村】鳥取縣因幡國高部郡の東南部。西は小笠河村、北は鹿野町・吉岡村、南は神戶村及び八頭郡に界す。面積三七・〇八平方町。地形西南—東北に延び、東北方を除く三周を山脈に圍繞せらる。鷲峰山(九二二米)西北境に聳え、西北部の地勢は極めて高峻なるも、東北方に傾斜せり。千代川の支流野坂川は西部山中に發して東北流し、山間に溪谷を作り、下流に沿岸平野を展く。河岸に耕地拓け墾落存す。南部山地は原野多く、北部山地に森林多し。米・麥・蕎麥・甘藷・木村、木炭・和紙・牛等の産あり。また村内に八二萬餘坪の鐵礦を有する明治鐵山あり水船山にて昭和十年より事業を開始す。本村より鳥取市へバスの便あり。大正三年に櫻治村と共に廢して、新たに今日の明治村を建つ。(松上神社) 大字松上宇宮谷に鎮座。郷社。祭神、國常立神。池田家舊記並に當社所藏の棟札に據れば、今より千六百餘年前の應神天皇十六年、始めて當村高松山上に勸請奉祀せるが如し。例祭、五月一日。

メーシ—メーセ

西部に勢して東南流する河川が東南部に...

メーシヨ—名松線 省線 西線の一部...

メーセ—明盛村 長野縣 渡南安曇郡の東部...

メーセキ

鳴石面 朝鮮慶尙南道 晋州郡の西北部...

メーセン 明川 朝鮮咸鏡北道の南部...

メーチ 明地 愛知縣中島郡にありし村...

メーホー 鳴鳳 朝鮮總督府 咸鏡全西部線の一驛...

メーヨー 鳴洋渡 朝鮮全羅南道の西南部に於て...

メーノハマ 姪濱 福岡縣早良郡にありし町...

メーアカン 雌阿寒岳 阿寒岳(北海道)の南峰...

メー

西は北部に於て五〇餘軒、南部にて約二五軒...

メーオトイケ 女夫池・夫婦池 大阪の地名...

メーカラン 社 臺灣新竹州竹東郡の神社...

メーキ 米來 岡山縣眞庭郡にありし村...

メーグロ 目黒 東京都三十五区の一...

メーカサワ 女鹿澤村 青森縣陸奥国津軽郡の北部...

メーカサワ 女鹿澤村 青森縣陸奥国津軽郡の北部...

メー

メータイド—明太洞金山 朝鮮咸鏡南道新興郡...

メーセ—メクロ

メクロ—メナシ

頗る莊嚴、堂後に大日堂・虚空藏堂・東子母神等あり、堂前は一種の門前町をなす。明曆の大火と併稱する明和九年二月二十九日の行人坂の大火の火元なる行人坂は、目黒不動の附近にあり。その他城内には、北部に駒場の第一高等學校、航空研究所、近衛野砲兵隊訓練兵場、東部には海軍技術研究所、東京工業試験所第六部、日本獣醫學校、西南部には北里研究所畜産部、府立高等學校あり。交通は省線山ノ手線は區の東端部を横断し、北部には省線谷津線を起點とする玉川電車が横断し、また東京横濱電車が區のほぼ中央を北東より西南に縦貫し、目黒蒲田電車は、目黒驛を起點とし區の西南端を走り、なほ電車の疎帯には、乗合自動車ありて交通頗る便なり。

【目黒川】 東京市の西南部を流るる川。目黒川上流は東京市の西境附近に於て、玉川上水より分水して二流をなす。即ち一は山用水と稱し、一は北澤用水と呼び、略々並行して世田ヶ谷區内を東流し、その東端池尻町に於て二流は合して目黒川に入り目黒川となり、東南に流路を轉じ、目黒區諏訪山に於て西方より来る蛇崩川を容れて水量を増し、品川區の略々中央を流れ品川に於て東京灣に注ぐ。この河口は嘗て品川に於て流路を北に轉じ、北宿の東側を流れ品川第四支渠の北に於て東京灣に注ぎしものを、人工的に南に移動せしめしものにて、全流程凡

メナシ

そ一五軒、山ノ手に於ける代表的河流なり。目黒川低地は幅五〇〇—七〇〇米を有する帯状地帯にて、その兩側は洪積層のロームより成る三〇米内外の臺地にして、その目黒川低地に臨むところは頗る急傾をなし、殊に左岸は芝・高輪の臺地の南縁部にて、大崎・袖ヶ崎・霧ヶ崎・御殿山等の陸上傾角が目黒川に向つて急崖を向け、地溝状の特色ある地形を形成す。この低地帯は水運の利と相俟ちて、東京市西南部の一大工業地帯をなし、鐵道省大井工場を始め東京毛織工場、その他製藥・ゴム・印刷・セメント・車輛等の各種工場が煙突林立す。

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。【目黒蒲田電線】 目黒驛に發し、東海道本線蒲田驛に終る一三・三軒。蒲田驛より發し、省線山手線五反田驛に終る一一・〇軒。大岡山驛に發し大井町驛に至る四・七軒。大岡山驛に發し、二子玉川驛に終る五・五軒。以上各線を含む。途中中田園布・多摩川園前・自由ヶ丘の三驛にて何れも社線東京横濱電線に接続す。省線と連帶運輸、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とする。【メクンナイ】 目國內岳 蝦夷富士の北西方約二五軒に當り、北海道後志支庁岩内町と南尻別村との境上に聳ゆる山。

メナシ

標高一二〇三米。東稜はチセヌプリ(一三三三米)・ニセコアンヌプリ(一三〇九米)と續き、西稜は雷電山(一一二二米)・雷電峠(五五五米)を経て、海に没す。北嶺に岩内岳(一〇八六米)峙つ。山は低き嶺を以て掩はれ、夏季には登山者なけれども冬季はスキー地として知られる所に好スロープあり。

【メシマ】 藥島 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に多河郡瀧島郷あり、その地は今の多賀郡瀧形村・黒前村の邊なるべし。風土記の瀧島郡家は此地にして、日本後紀によれば弘仁二年十月に廢せらるるとあり。【メジロ】 目白 省線山手線の一驛(明治十八年設置)。東京市豊島區目白町一丁目にあり。【メタ】 米多 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に三根郡米多郷あり、女多と訓ず。その地今の三葉郡上基村の邊か。風土記にも米多郷の名見ゆ。【メツブ】 目津府 北海道後志國樺山支庁樺南郡利別府の字。メツブはアイヌ語のメツブナイの下略されたものにて、メツブナイは寒き川、或は寒き川の義とす。此地に目津府鎮山あり、北海道後志會社の檢行に係り、昭和十年の産物は金屬滿條鐵三八〇萬二酸化滿條鐵一、二八八萬、この總價額一〇萬餘圓にして現に重要礦山に列す。【メテ】 綿代 山城國(京都府)の古地名。

メナシ

和名抄に葛野郡綿代郷あり、その地今の京都市上京區等持院の邊に當るか。【メテシマ】 愛島村 宮城縣瀧前國名取郡の南部。増田町の西南に接し、西の一部は柴田郡に接す。西南に四石峯(二九五米)・神山(三一四米)聳え東方に傾斜し、東南部は仙臺平野に屬し平坦なり。米・藁・麥・木炭・綿羊を産す。道路は中部を南北に通ず。東方東北本線増田驛へは約四軒あり。古くは和名抄、名取郡指賀郷の内とす。大字笠嶋に道祖神社(佐倍之神)あり、老松、古杉の森に包まらる。古來この地方にては良縁を得んがため、或は子女を得んがためリンガを奉納する風習あり。今尙ほ社内には大小各種のリンガ保存さる。昔藤原實方中將、祭神を御護し馬上のまゝ社前を過ぎしが遂に落馬して死せりといふ。また大字鹽手に實方は丘陵に築造せる方形の小墳丘にしてその傍に實方公に西行法師の歌及び由來を記せし碑たつ。實方は藤原定時の子にして和歌に長じ、長徳元年陸奥守に貶せられ、任地に於て客死せり。

【メトバ】 女鳥羽川 下松本市。【メトミ】 米富 下米富村(熊本縣)。【メナ】 目名 省線函館本線の一驛(明治三十七年設置)。北海道後志國樺谷郡南尻別村にあり。【メナシ】 目梨郡 下目梨村(北海道樺根支庁)。

メナシドマリ 目梨泊

省線興濱北線の一驛(昭和十一年設置)。北海道北見國枝幸郡枝幸村にあり。

メヌマ 妻沼町

埼玉縣武藏國大里郡の東北端。熊谷市の北約七軒に位し、利根川の南岸にて、北は川を隔てて群馬縣新田郡及び邑樂郡と相對す。全町平地にて、東南部は水田をなし、他は畑地多し。農業行はれて米・麥を産し、養蠶も盛にて蠶の産多し。縣道よく發達し、南は熊谷市、西南は深谷町、北は妻沼大橋を経て群馬縣新田郡に通ず。熊谷市及び深谷町へはバスの便あり。大正二年妻沼村・彌生村を廢しその地域を以て妻沼町を建つ。近世長井庄の内に屬したり。【歡喜院(妻沼聖天)】 古義賢言宗。聖天山と號す。俗に妻沼聖天。開山は齊藤實盛にして、實盛の次男實長(法名阿彌房良應)の聖天堂を建て別に歡喜院を造營せしに始るといふ。本尊は歡喜天。建久八年創建。現存のものは天文二十一年忍城主成田下總守藤原長泰の再建にかゝるもの。鍋杖一柄は國寶。

メノダケ 米野岳村

熊本縣肥後國鹿本郡の西部。山鹿町の西南一軒餘にあり。西は五名郡に界す。中央に米野山(三一二米)の秀峯聳りて西部・南部一帯は山地をなす。東北部は低平なる平野の一部をなし一河川が東北流し約一軒先にて菊池川に合す。主産業は農業にして米・麥を産し米野岳村の特産あり。山鹿町へ

メナシ—メンセ

バスの便あり。古くは和名抄、山本郡三重郡の内とす。延喜長部省式の三重驛も蓋し此地にや。

メバル 鮎崎

下東野村(廣島縣豊田郡)の東部。臺灣新竹州竹東郡の舊社。高砂族の部落にして、種族はアタラシ族に屬す。上坪溪の右岸地方にあり、標高約四五〇米の地、昭和十二年末の戸數五一、人口二〇三。

メマル 目丸山

九州山脈の一峯。熊本縣上益城郡白糸村と下益城郡東區用村との境上に聳ゆ。標高一三四一米。山體秩父古生層より成る。西方に國見山(一七三九米)・内大臣山(一四九四米)等峙ち。南西嶺に京ノ丈(一四七三米)あり。南方は平家落人部落として名高き五箇莊の山地に連る。

メマンベツ 女満別村

北海道北見國網走支庁網走郡の中部。網走湖の南部を占め、西は當呂郡に、東は網走町に、南は美幌町に接す。面積一八二・九平方軒。網走川中央を北流して湖に注ぎ河口に肥沃なる平野を展開す。東部の女満別川流域と共に耕地極めて多し。西部は山林に蔽はれ木材の産豊かなり。馬鈴薯・大豆・燕麥・亞麻・甜菜を産し、また淡水魚・牛・馬等を出す。省線網走本線は村の中部を南北に貫通し、女満別驛(大正元年設置)を置く。大正十年網走町より分離獨立す。

メムロ 芽室村

北海道十勝國十勝支庁河西郡の北部。帯廣市の西に隣接し、十勝川上流ヶ城地を占む。西は日高國境及び御影村に、北は清水町に接す。面積四九一・二平方軒。村内概ね十勝平野に屬し、十勝川北部を東流して瀧流に富む沃土なり。西部は日高山脈の一部を占め芽室川ほか諸川の發源地をなし森林に蔽はる。農産物は豊かにして、米・大豆・小豆・甜菜・豌豆及び牛・馬を産し、工業また稻々行はる。省線根室本線中部を東西に通じ芽室驛(明治四十年設置)あり。また社線十勝鐵道には基松(大正十五年設置)當盤・坂上・美生・上美生・上帶廣(以上大正十三年設置)・新嵐山(昭和二年設置)の七驛を置く。もと河東郡内なりしが明治三十九年河西郡に入りて二級町村制を布き、大正四年伏古村の廢せらるゝやその一部を本村に編入せしが、同十年本村より御影村を分離獨立せしむ。

メラ 女良村

富山縣越中國水見郡北端の海岸。北は石川縣能登國鹿島郡に接す。全村丘陵にして東へ傾斜し富山灣に臨む。山間の狭き谷には米の耕作行はれ海岸の諸部落は漁業を以て主産業とす。村内を南北に貫く縣道あり、省線水見線の水見驛よりバスの便あり。古くは和名抄、射水郡宇納郷の内なり。(先西寺)大字長故にあり。曹洞宗。東旭山と號す。開基は源伊勢之助と傳ふ。當初眞言宗。元祿元年、中興開山宗廟の時現宗に轉す。

メメンジョー 綿城面

朝鮮全羅南道務安郡の北部。木浦府の北々東約二〇軒にあり。東北は咸平郡咸平面・般多面と界す。東西約四軒、南北約六軒。務安半島の基部に位し、北境に坎方山(二五八米)聳え、其他百一二十米の丘陵起伏するも、琴山江支流これを瀆流し、農耕適地乏しからず。米・裸麥・大豆・棉花・瓜等を産す。中部に羅州・木浦間の一等道路東北・西南に走り、之に沿ふ主邑務安より北西方外盤里、東南方夢潭へも道路を出し、木浦・梁山浦・外盤里等へバス通ず。本面はもと外邑面と稱し、務安に務安郡廳を置かれしが、郡廳は木浦府に移され、昭和六年四月、綿城面と改稱す。

メンセン 河川面

朝鮮忠清南道唐津郡の西南部。郡邑唐津の東南に隣り、東は順城・合徳の二面、西は瑞山郡雲山面、南は禮山郡古徳面・風山面と界す。東西約五軒、南北約一〇軒あり。東北境に峨嶺山(三五〇米)・蒙山(二九八米)聳え、西南境また二一三米の山連りて南部に五峰山(二二四米)あり、其他百一二十米の丘陵北部及び東南部に起伏するも、柳橋川支流及び北部を西流する川の流域に平地ひろく。米・麥・豆類・棉花等を

メナシ

産す。主邑河川は梁山南麓に位し、北は郡邑唐津、東は雲山、西は瑞山、南は大川里・徳山を経て洪城に何れも自動車道路を出し、實に交通の要衝を占む。大正三年まで河川郡廳ありし地にして、文廟および市場あり、穀物・織物・牛等の取引活潑なり。

メンタ

免田町 熊本縣肥後國球磨郡の中郡。人吉盆地の中央に位し、球磨川の左岸にあり。東北部は多良木町に接す。盆地の中央に位する低地地形、概ね低平にして北境には球磨川が西南流す。米・麥・蕪・甘藷、粟等の農産を産し、林産もあり。縣通及び省線湯前線が中央を横断して免田驛(大正十三年設置)あり。古くは和名抄、球磨郡東村郷の内とす。昭和十二年町制を布く。

メントユー

社 台湾新竹州竹東郡の善社。上坪溪右岸の地、標高約五七〇米の邊にあり、アタヤス族に屬する高砂族の部落。昭和十二年末戸數二二、人口一八。新竹市より竹東を経て至るを便とす。

メンドリ

妻島村 愛媛縣伊豫國宇摩郡の東北部。川之江町の南に接し、三島町の東方約四軒。南方を東西に連互する讃岐山脈北麓下に展開せる沖積平地の一部を占め、南部に小丘聳る外は平坦にして地味肥沃なれば農業よく行はれ、米・蕪の産多し。南部山地は林産多く、殊に三桠・檜等の産多き爲、製紙非常に盛にて、

モ

モーアン

望安庄 臺灣澎湖廳一街四庄の一。區域は馬公街の南方海上に點在する八罩島・東吉嶼・西吉嶼・花嶼・東嶼坪・西嶼坪・大嶼・將軍澳その他大小十數箇の島嶼を管轄す。從つて交通至つて不便、産業に於ても殆ど見るべきものなし。僅に陸上に於ては、若干の蔬菜・粟等を産するのみ。故に本庄下の住民は海に於て生活の糧を求めざるべからず。依つて水産業は比較的發達し、相當額の漁獲高を示す。他の文化的施設に於ても、本庄管内には、殆ど見るべきものなく、僅に教育機關に於て、公學校二箇所設置せらるのみ。交通は専ら海によらざるべからず。本庄下の中心をなすは八罩島にして、庄役場は此地に設けらる。島の東部に一小灣を有し古來潭門港と稱し、泊舟に適す。島人の傳ふる所によれば、本島には往時に和蘭人澎湖に據りし時の棄ける砲臺ありしと云ふも、いま完く其跡を留めず。本島に漢族の移住せしは、明末の亂を避けて來れる南支金門の許姓の者を最初とすと云ふ。

モーク

眞岡町 栃木縣下野國芳賀郡の西南部。鬼怒川の東岸にあり。西は川を隔て、河内郡と相對す。中部は

モーア—モータ

伊豫紙の産地として知らる。また燧灘に近きため沿岸漁業も行はる。中央を東西に縣道通り、北部には國道及び省線磯田本線貫通して何れも三島町に至る。上分町にバスを通ず。「愛媛面影」に據れば、此地の春宮といふ山の上に春宮大明神あり。これをトウグウと謂めるは、もと東宮よりうつりしなるべし、即ち輕太子を祭れるものにして、此の山上は其の御墓所なりとあり。「三皇神社」大字妻島に鎮座。祭神、日本武尊外五神。例祭、十月廿七日。

低き臺地をなし、畑地多く、鬼怒川附近及び東部を南流する五行川の流域は平地にて水田あり。農業行はれて米産を主産し、葉煙草の栽培も行はる。古來、眞岡木嶋の産地として名高く、製糸業も盛なり。商業も盛にて郡内の中心をなす。縣道よく發達し、主要集落はその集點たる東部に發達す。省線眞岡線は東部を東北に走り眞岡驛(明治四十五年設置)を設く。古くは和名抄、芳賀郡芳賀郷の地にて、宇都宮の清黨芳賀氏の舊邑とす。慶長年中に芳賀氏の宇都宮氏と共に亡ぶや、幕府この地に代官を置き眞岡代官所と稱したり。戊辰の兵亂に代官山内源七郎、江戸脱走の兵に黨せし嫌疑をうけて官軍に殺さる。近世、郡の首邑にして郡役所を置かれたり。幕末の勤王家横田藤太郎(贈從五位)、同藤三郎(贈從五位)、同藤四郎(贈正五位)、小山藤三郎(贈從五位)、同藤五郎(贈正五位)は共に此地の人物とす。(芳賀城)大字御前に城址あり。文治年中芳賀高親始めて築く。天正五年芳賀高顯の時、眞岡の臺に移す。大字城田と稱する地なり。慶長二年、兄國綱の養子の事に因りて内亂を生ず。芳賀島に其封を没し城遂に廢す。「大前神社」大字東郷に鎮座。祭神、大己貴命。土俗相傳へてこの地は祭神の靈跡なりといひ、神護景雲年中に社殿の再建ありしと傳ふ。住古より附近三十三郷の總鎮守にして、城主芳賀氏の尊崇厚かりき。寛永

年間領主精業正成の再建あり、また徳川家光より朱印地八石の寄進ありき。例祭十一月九日、同月十日。
モーキ 舞木 省線磐城東線の一驛(大正三年設置)。福島縣田村郡殿江村上舞木にあり。
モーコツ 孟骨群島 鳥島西(朝鮮) 孟山 孟山 朝鮮平安南道二府十四郡の一。道の東北部に位し、北は寧邊郡、西は徳川郡、西南は順川郡、南は陽徳・成川の二郡に接し、東は咸鏡南道水興郡と界す。東北、西南に長く六〇餘軒、幅は平均約二〇軒、面積一、一〇一方軒。東部に北大峰山脈南北に走り、道界に屏風山(一五四九米)、鐵峯山(一〇九五米)等聳え、支脈西北境と東南境に連りて北境には藥昔山(九七三米)等もあるも、漸次西南に向つて低夷し、中部及び南部には稍々廣き臺地横はる。北部及び東部の諸水は彙りて文倉江・東面江・孟山川等となり、合して馬灘江となり大同江に注ぎ、本流は徳川郡を流れて後、郡の西境に現はれ之に沿ふこと約六軒にして西流に轉ず。また東南部には沸流江發して南流す。之等流域に狭長なる平地ひろくも、水田は九千ヘクタール餘に過ぎず、住民は多く畑作農業に従事す。産物は粟・玉蜀黍等の雜穀を第一とし、大小豆・米・麥・煙草・大麻・楮・繭等あり。中北部を平

モーサン

孟山 朝鮮平安南道二府十四郡の一。道の東北部に位し、北は寧邊郡、西は徳川郡、西南は順川郡、南は陽徳・成川の二郡に接し、東は咸鏡南道水興郡と界す。東北、西南に長く六〇餘軒、幅は平均約二〇軒、面積一、一〇一方軒。東部に北大峰山脈南北に走り、道界に屏風山(一五四九米)、鐵峯山(一〇九五米)等聳え、支脈西北境と東南境に連りて北境には藥昔山(九七三米)等もあるも、漸次西南に向つて低夷し、中部及び南部には稍々廣き臺地横はる。北部及び東部の諸水は彙りて文倉江・東面江・孟山川等となり、合して馬灘江となり大同江に注ぎ、本流は徳川郡を流れて後、郡の西境に現はれ之に沿ふこと約六軒にして西流に轉ず。また東南部には沸流江發して南流す。之等流域に狭長なる平地ひろくも、水田は九千ヘクタール餘に過ぎず、住民は多く畑作農業に従事す。産物は粟・玉蜀黍等の雜穀を第一とし、大小豆・米・麥・煙草・大麻・楮・繭等あり。中北部を平

モータ

望多 陸奥國(磐城、宮城縣)の古地名。和名抄に曰理郡望多郷(磐城)の古地名。和名抄に曰理郡望多郷

見ゆ。上總國の望多郷の移民の居りし處。其地いま詳かならざるも互理郡の南部なる坂元・山下二村の邊か。

モータ 望陀(郡)

望陀(郡)は、上總國(千葉縣)の古郡名。郡の起りは成務天皇朝に置かれし馬來田國(國造本紀)にして、續紀、天武天皇壬申紀には馬來田、十一年紀には望多に作り、萬葉集には望陀郡と見ゆ。延喜式に望陀郡傳馬五疋とあり。和名抄は末字多と註し、津治・表可・會戸・低富・磐田・河曲・馬津の七郷を管す。鎌倉時代には分ちて望東、望西二郡とす(東鑑・源平盛衰記)。近世に至り、望多郡を併す。明治三十年四月に望陀、周准、天羽三郡を併せて津浦郡を建て今日に至る。

モータ 孟中里

朝鮮 總督府鐵道京義本線の一驛(大正三年設置)にして博川線の接續點。平安北道博川郡南面にあり。

モータ 孟洞面

朝鮮 忠清北道陰城郡の西部。陰城面に西隣し、西南は鎮川郡徳山面・草坪面に接す。東西約六軒、南北約八軒。東部に小俗離山、三―四百米の高度にて南北に走り、途中東南境に沿ふ二―三百米の支脈を出すを以て、東半部は山脚ちなれど、西半部は比高三―五〇米の丘陵起伏するのみにて、之を瀧流する美湖川上支の流域に田畑ひらく。また東部山中には草坪川の一支發す。米・麥・豆類・棉花・烟草・繭等を産す。西北境に沿うて鎮川・長湖院間の

モータ 猛扶山

朝鮮の北部、臥馬山脈中の一峯。平安北道江界郡干北面と咸鏡南道長津郡内面とに跨り、標高二二四米。

モータ 望來

北海道石狩支廳厚田郡にありし村。明治四十年に厚田村と合し新たに厚田村を建つ。

モータ 茂市村

岩手縣陸中郡下閉伊郡の南部。宮古町の西方約一四軒。北上山地の東斜面に屬し、西南境には彌々子森(一〇〇米)・蘆平(一〇二米)・加呂森(九七〇米)を繋ぎ、北方に傾斜し、西境には前刈山(九一四米)を繋ぎ、東方に傾斜す。西北境は海拔八五四米、東北境は海拔七三三米あり、全村概して山地をなし、閉伊川は村の中部を東方に貫流し、沿岸に耕地あり。村の生業は農業を主とし、ついで林業行はる。麥・大豆・稗・米・木炭を産す。道路は村の中部を東西に通じ、宮古町へはバスの便あり。省線山田線(前)・茂市・喜目の三驛(何れも昭和九年設置)を置く。古く閉伊街道の一小驛とす。閉伊の一族に茂市氏あり、蓋しこの地の人とす。

モータ 藻岩

北海道石狩支廳札幌市にありし村。昭和十三年に圓山町と改稱す。

モータ 愛掛村

岡山縣備前國邑久郡の東北海岸。東南は瀬戸内海に面し、片上灣口左岸の地を占む。北は鶴山村、

モータ 玉津村

西は玉津村に接す。面積二三・三八平方軒。地形東西に延び北部を東西に互る山脈存し、村内概ね山地なるも、海岸に平地あり。耕地は山麓より平地に掛けて拓け、米・麥・粟・梨・薄荷等を産す。海岸線は出入に富み、險崖多く絶壁地をなす。虫明港は天然の良港をなし近隣に舟運の便多し。陸上は上道郡西大寺町に自動車

モータ 宮古町

岩手縣陸中郡下閉伊郡の南部。宮古町の西方約一四軒。北上山地の東斜面に屬し、西南境には彌々子森(一〇〇米)・蘆平(一〇二米)・加呂森(九七〇米)を繋ぎ、北方に傾斜し、西境には前刈山(九一四米)を繋ぎ、東方に傾斜す。西北境は海拔八五四米、東北境は海拔七三三米あり、全村概して山地をなし、閉伊川は村の中部を東方に貫流し、沿岸に耕地あり。村の生業は農業を主とし、ついで林業行はる。麥・大豆・稗・米・木炭を産す。道路は村の中部を東西に通じ、宮古町へはバスの便あり。省線山田線(前)・茂市・喜目の三驛(何れも昭和九年設置)を置く。古く閉伊街道の一小驛とす。閉伊の一族に茂市氏あり、蓋しこの地の人とす。

モータ 藻岩

北海道石狩支廳札幌市にありし村。昭和十三年に圓山町と改稱す。

モータ 愛掛村

岡山縣備前國邑久郡の東北海岸。東南は瀬戸内海に面し、片上灣口左岸の地を占む。北は鶴山村、

は天王川、二井宿方面は和田川、宮内町方面は吉野川、小松町方面は犬川等が盆地床に向つて流下し松川となりて長井町方面に向ふ。長井町の南方に於ては宇津川方面より白川を合せ、長井町の北方に於ては野川を合せ、最上川の名を得て荒砥町より米澤盆地と村山盆地との境界山地に於て峽流をなして宮宿を経て左澤町に出づ。山形盆地に於ては上ノ山町方面より来る須川、月山の南谷より来る寒河江川、關東方面より来る白水仙、尾花澤町より来る丹生川等を合せ、新庄盆地に向ふ。支流須川は上ノ山・赤湯分水界より發し、金山崎方面より来る宮川、蔵王山より發する蔵王川、笹谷山形方面より来る白川(馬見澤川)、二口峠、天童方面より来る谷川、天童町方面より来る倉津川を合流するものにて山形盆地の南半を流域とす。新庄盆地内に於ては陸前との國境の小國村方面より来る小國川、羽後との國境の雄勝方面より来る雄勝川を合せて、古口より出羽丘陵に先行性の峽谷をなして清川に至り、庄内平野に出づ。其間、北岸に浸蝕壁に白糸瀧がかり、清川に於ては南より来る立谷澤川が合流す。新庄町を流るる升形川は雄川に合流す。庄内平野に於ては月山方面より鶴岡市を経て来る赤川を合せて酒田に於て海に注ぐ。南北に長き盆地より東西の峽谷を穿ち、海岸平野に流出する點はこの流域の北に隣る雄物川と相似形な

り。この河は富士川・珠磨川と共に日本三急流の一つと數へらるるも、他の兩河に比すればさほど急ならず。されど山國の川として急流を持つ。鐵道開通前これ等諸盆地の人及び物資の交通運輸は、この河の水運に依りしものなり。清川・古口・本合海(新庄の門戸)・大石田・寺津(山形の門戸)・長崎(同上)・左澤等は河港として知られ、左澤より上流は小型の船にて荒砥・長井を経て鶴岡目まで運ぶことを得。今は大石田までの下流が利用される程度に過ぎず。上流に米澤、中流に山形・新庄、下流に酒田等の中心地あり。流程二一六軒。

モカミ—モク

【最上郡】山形縣十一郡の一。羽前國の北部。北は秋田縣、東は岩手縣、南は北村山郡・西村山郡、西は東田川郡・他海郡に隣接す。面積一八〇四・二一方軒。西境は出羽丘陵に屬し、北より二ツ山(九三七米)・辨慶山(八八七米)・大森山(七八一米)・板敷山(六三〇米)・赤砂山(一〇一五米)等連りて東方に傾斜し、東境は奥羽山脈に屬し、北より軍澤山(一一九四米)・大鏡山(一一二〇米)・小鏡山(一一二六米)・小柴山(一〇五六米)・奥羽山(七六六米)等連りて西方に傾斜す。北境には前二山脈を繋ぎて西北より東南に丁嶽(一四六米)・大森山(一〇七八米)・黒森(一〇五八米)・水晶森(一〇九七米)・神室山(一三六六米)等連りて南方に傾斜す。西南境には葦草森山(一〇二七米)・

鐵山(一〇九七米)等並ぶ。郡の西北境よりは大澤川、北境よりは鹽根川、東北境よりは指野川を發源し、合して雄川となり、最上川に合す。東南境より是小國川發源し、南部を略西流して最上川に合す。最上川は郡の西南部を西北に斜斷し南方より角川を合して出羽丘陵を先行し、東田川郡に入る。指野川の下流升形川およびその本流雄川の流域は新庄盆地にして主邑新庄町あり。小國川の中流には小國盆地あり。一般に米・繭を産し、東部及び北部山地には木炭、小國盆地には馬の産多く、新庄盆地には草履表の特産あり。羽州街道は郡の中部を南北に通じ、北羽前街道は之より分岐して郡の南部を東方に向ふ。省線奥羽本線は中部を南北に通じ、北より及位・釜淵・眞室川・羽前豊里・泉田・新庄・舟形等の驛あり。新庄驛より西方に陸羽西線、東方に陸羽東線分岐す。續紀、和銅五年紀に陸奥國の最上・置賜二郡を割きて出羽國に隸せしむと見ゆ。平安時代に至り仁和二年に最上郡を分ちて最上・村山の二郡とす。延喜式に最上傳馬五疋とあり。和名抄は毛加美と註し郡可・山方・最上・芳賀・阿蘇・八木・山邊・福岡の八郷を管す。室町時代に至りて足利義隆はその族を頼み出羽管領とし最上郡に居らしむ。これを最上氏とす。この時、最上・村山二郡を併せしが文祿年間に至り村山郡復活す。併しその北隅に於て舊に最上郡を復けるもの

モカミ—モク

にて往昔の境域にあらず。【最上】山形縣東村山郡にありし村。明治三十一年に長崎町と改稱す。【最上】出羽國(羽前、山形縣)の古地名。和名抄に最上郡最上郡見ゆ。最上郡家の所在地なり。この地はまた延喜式に記され、馬五疋を説く。いま南村山郡酒田村・東澤村の邊をいふか。【最上高湯】↓堀田村(山形縣)【最上川】省線羽越本線の貨物驛(大正四年設置)山形縣酒田市船場町にあり。【最上川】↓最上川【モキ】茂木町 長崎縣肥前國西彼杵郡の南部。長崎市の東部背後より野母半島の橋渡に面し、細長く南西に連る。主邑茂木港その中央に位し、長崎驛を距る約一―軒。全町丘陵性山地にして急坂に富み平地少きも、茂木―長崎を結ぶ主街道の北部は主に安山岩より成り、茂木灣頭は第三紀層を局部的に見る。右街道以南は主として結晶片岩にして北部と地質を異にし、地形的にも多少の差異を認めらる。即ち安山岩噴出地帯は所々谷淺峻進み、平地を見、豪地帯にも耕地を見る。また標高の末端は海岸に急崖をなして繁立する所あり、枇杷ヶ崎等即ち夫なり。沈水せる谷は、灣深く、南または南東に向け開口し茂木の良港、片峰の漁舟の聚落等を見る。之に反し南部は一般に谷の

モク

朝鮮 忠清南道靑陽郡の東端。郡邑靑陽の東約一五軒、公州邑の西約一〇軒に位す。南北に長く約八軒、幅は四軒前後なり。北部に二―三百米の山地ありて覆巖山(三七一米)を繋ぎ、西境には鶴嵐山(一一一米)あり。南部にも靑陽面との境に雲嵐山(三〇六米)の屹立する外、百米臺の丘陵各所に起伏す。錦江は公州郡との境を東北―西南に流れ、致城

モシ——モシカ

をこゝに定めしより俄然發展の機運に會し、翌年筑豊炭の特別輸出港となり、同二十七年門司町と改稱、同三十二年市制を布き、大正十二年には大里町を、昭和四年には東郷村を編入し現在の市域を擁するに至れり。門司港は門司ヶ崎より西南白木崎の沖を経て南方一番橋川口邊に至る市の西北部海面にして、東の瀬戸内海と西の支那海を連ぬる海峡の中央部に當り潮流極めて激しく、大潮時約一

貿易額(昭和十年)單位千圓
計 152,117
輸出 62,754
輸入 89,363
外内計 422,813

餘萬圓の工費を投じて修築せる岸壁は數隻の一萬噸級航洋巨船を同時に繋留することを得ため、貿易港としては世界的地位を獲得し、出入船舶數の多き點に我國諸港中の第一に位す。貿易もまた盛にして外國貿易は明治三十二年には僅に七〇〇萬圓未滿なりしに昭和八年には一億圓を、同十年には一億五千萬圓を突破し

輸出品はセメント・製糖等、輸入品は鐵・鋼及繊維を主要品とす。これに内國諸港との貿易額を加算すれば總額實に八億九千萬圓を越す。この中、特に石炭は内外への輸出、内外國汽船燃料を合して一年一〇〇萬噸以上を輸出す。貿易額に於ては神戸・大阪・横濱に次ぎ我國第四位の貿易港たり。開港としての外、九州より本州及び朝鮮・滿洲・支那方面との交通上の咽喉に當り、對岸下關との間には調ゆる關門連絡船頻りに往來し、下關にて省線山陽本線及び關釜連絡線に接続す。市内には省線兒島本線の起點門司驛(明治二十四年開業)をはじめ、萬葉驛(昭和五年開業)、門司港(昭和八年開業)、大里驛(明治二十四年開業)あり、社線九州電氣軌道また市の北部に起りて兒島本線と略並走し、西南に連接する小倉・戸畑・八幡等の工業市を過ぎて遠賀郡折尾町に至る。かく海外よりする原料品の輸入と附近に於ける石炭の産出及び交通上の便宜は市の工業を勃興せしめ、昭和十年の工産額は九、五〇〇萬圓に近く、生

工産額(昭和十年)單位千圓
工業 94,900
商業 277
農林 9,953
漁業 5,683
工業 9,360
商業 6,000
工業 434
商業 6,601
工業 54,407
商業 2,186

産總額の九九%を占む。工産品中最も主要なるものはビール及び酒類(二七五〇萬圓)、砂糖(一六〇〇萬圓)、小麦粉(九四四萬圓)、セメント(六一〇萬圓)、電線(四〇〇萬圓)等なり。市内に置かるる主要なる官公衙には市役所、鐵道局、運輸事務所、税關、備本選信局海軍部、地方海員審判所、陸軍運輸部出張所、福岡地方專賣局出張所等があり、また主要工場には淺野セメント、淺野スレート、日本治金、神戸製鋼所伸銅工場、日本配合肥料、日本製糖、全購糖肥料、日本配合肥料、櫻井ビル、大日本酒類等、會社には山九運輸、日本郵船、大阪商船、合同運送、國際通運、三井物産、三菱商事、東神倉庫、三菱倉庫等の本支店あり。また社寺、古蹟・名勝には甲宗八幡宮、和布刈神社、瀨西別院、柳の御所、風節山、門司關址、清瀧公園等を數ふべし。柳の御所址(大里町上柳區)あり。一に貨船の森といふ。源平時代安德天皇の平氏に擁せられて暫し御駐蹕あらせられし地と傳へ世人この地を柳の内裏とよびしが何時しか大裏村といひ後に大里と改まりしといふ。「門司城」と和布刈神社背後の丘陵古城山にありしもの。元暦二年平氏九州を徇へんとして紀伊通使に榮かむ。室町時代、大友氏の臣仁保當隆富城に據りて豊後の大友氏に對抗せし事あり。慶長三年黒田孝高入國し長岡郡解由を城代となせしが元和三年徳川氏の命にて廢す。

番入

「門司關址」舊門司の元陸軍兵器製造所構内にあり。約八方米の數石の中央に楕圓形の池あり、昔は清水湧出せしと。この邊は中國に渡る最長距離に位し、太宰府關を設けて行旅の人馬を檢視し、船舶を警戒すといふ。「清瀧公園」三角山麓にあり。溪流あり池あり、花卉栽植せられ、また關門の山水を指顧し得べし。「風節山」市の中部東部、門司驛の西南約二・五軒。海拔五百米、山上巨岩ありて笠を懸せるが如きよりその名出づと。神功皇后三韓征伐の時この山頂にて海上平安を祈願あらせられたりと傳ふ。山上の展望は關門第一の地なり。「甲宗八幡宮」市の北部築立山麓に鎮座。縣社。神功皇后三韓征伐の時神皇御甲を神體とせりより社名出づと。城内高瀬、社殿壯麗、港内を俯瞰し眺望に富む。「和布刈神社」古城山北麓に鎮座。縣社。祭神彦火火出見尊その他、早瀬瀬戸に臨みて對岸の壇ノ浦に對し、瀟々たる瀟々たる壯觀を俯瞰し得べし。舊曆大晦日の夜に古典的な和布刈神事行はる。背後の古城山の西面の一部は和布刈公園なり。「瀨西別院」大里驛の南方二軒にあり。「西本願寺」九州別院。境内廣く大里の松原を隔て、響灘を望み景勝の地たり。櫻樹多し別院の櫻とて名高し。

モジガセキ

文字關 福岡縣企救郡にありし村。明治二十七年に門司町と改稱し、同三十二年に市制施行す。

モジチクコー 門司築港

設鐵道。門司市にあり。鹿兒島本線外濱驛より分岐し、門司大久保驛に至る。五軒の貨物専用線。省線と連帶運輸し動力は蒸氣、軌間は一〇六七米。

モジミナト 門司港

門司市

モシユ 茂朱

【茂朱郡】朝鮮全羅北道二府十四郡の一。道の東北部に位し、北西は錦山、西は鎮安、西南は長水の各郡に接し、北は忠清北道永同郡、東北は慶尙北道金泉郡、東南は慶尙南道居昌郡と界す。東西は最大約三〇軒、南北二〇—三〇軒、面積六二九方軒餘あり。人口約五・三萬、一方軒密度八四人にて、道内に於て最も疎なり。東境より東南境に亘り小白山脈連りて北より砥周之山(一一四二米)、大徳山(一一九〇米)、三峰山(一一五四米)等あり、最高處は一五九四米に達し、以西に支脈縱横に走りて東部に白雲山・居七峰、南部に興徳山・七峰、中部に赤雲山等いづれも一キロ以上の峻峰を聳立せしむるも漸次北西に向つて低夷す。東部の諸水は聚りて南大川となり東北境に近く山地間を流入蛇曲流し、西北部に同じくメアンダリを描く錦江に合するも、沿岸多くは峡谷をなし、西南部の安城場を中心とする錦江上支流域の外、平地の見べきものなし。米・麥・大豆・棉花・烟草・大麻・繭等の農産を主産物となし、また製紙・機械等の工業行はる外、林産や

モシチ——モセウ

や多く、鎮産には金銀・砂金等あり。西北部に鎮安・永同間二等道路通じ、其他に錦山・長水・金泉・居昌等へ至る道路あり、一部にバスを通ずるも交通未だ便ならず。行政上、六箇面に分ち、郡廳を茂朱面に置く。本郡は往昔の茂豊・朱溪の二縣を合併せしものとす。もと茂豊縣は新羅時代の茂山縣、また朱溪縣は百濟の赤川縣にして、新羅に至り丹川縣に改めしもので、太宗王十四年に合併し茂朱縣となし、次でもと錦山郡の一部を編入し郡廳府に陞し、高宗の時に茂朱郡と改め、今に至る。

【茂朱面】朝鮮全羅北道茂朱郡の最北部。東は雪川面、南は赤雲面、西南は富南面に隣接し、北西は錦山郡富利面、東北は忠清北道永同郡と界す。東西約一〇軒、南北一〇—一二軒あり。小白山脈の支脈中に位し、北境に白雲山(六三四米)、鴨峙(最高點三三三米)、兩角山等聳え、中部に香爐峰(四二〇米)、南部にも五—六百米の山地あり、概ね峻嶒なり。錦江は西境に極めて特色ある流入蛇曲をなし、城内を東西に貫く南大川を合し、北流す。この沿岸緩かに拓けて田畑あり。茂朱邑は香爐峰の南麓、南大川右岸に立地す。邑を中心として道路網や發達し、北は永同、西北は錦山、南は長水の各邑間にバスの便あり、南大川に沿ひては茂豊場を経て金泉または居昌に至る道路通ず。邑は製紙業の一中心をなし、近時産

業組合の設立を見て新業格段の進展を遂ぐ。其他若干の農産ある外、朱溪金礦より砂金、吾山金礦より金を出す。郡廳、全州地方法院出張所等設かる。邑内中央は江に臨みて寒風様の勝あり。

モシラホ

藻白帆 樺太阿部郡蘭泊村の大字。西海沿岸の藻白帆(大正十年設置)を置く。

モシリ

茂尻 北海道石狩國空知郡赤平村の字。空知川の左岸に沿ひ、モシリ・ケシネ・オマ・ナイ(桂川)南流し來りて、此地にて空知川に注ぐ。省線根室本線の茂尻驛(大正七年設置)あり。モシリはアイヌ語にて鳥の義なるが、この地名はモシリ・ケシネ・オマ・ナイ(鳥の下)にある川の義)の下略せられたるものなり。この地名を負うて茂尻炭礦あり、礦區は赤平・青別・歌志内の三箇村に跨りて三〇七萬坪、石狩炭田の北部に位す。「茂尻炭礦」礦區の西部は中生層の上部の白堊紀にして東部は第三紀層なり。炭層は之等夾炭層及び砂岩・頁岩・礫岩・泥灰岩中に介在し、炭質は大體に於て粘結性の瀝青炭とす。雄別炭鐵道會社の株行に係り、昭和十年の産額は塊炭三〇、五三二萬、粉炭一七三、三七〇萬、粗炭三三、六四一萬(この總額二二八萬餘圓)なり。

モズ

百舌島村 大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南に隣り東は南河内郡に

モズメ

物集 山城國(京都府)の古地名。日本後紀、弘仁六年の條に乙訓郡物集郷見ゆ。和名抄に乙訓郡物集郷あり。中世には物集女莊といふ。いま向日町の邊をいふ。同町の大字物集女は郷名の遺稱なり。

モセウシ

妹背牛村 北海道石狩國空知支廳雨龍郡の西部。石狩川上流右岸雨龍川の合流地に位し、深川町の西に

番入

モタイ——モツホ

接續す。北は秩父別村、南は石狩川を以て空知郡に、西は雨龍川を以て雨龍村に界す。面積四六、四平方。南は石狩、西は雨龍の二川に圍まれたる沖積平野上に位し地勢極めて平坦。北部に芝罘低濕なる秩父別原野等存するも一般に土地肥沃耕作に適す。米・燕麥・玉蜀黍・大豆・小豆・馬鈴薯等の産多し。近時工業も勃興しつゝあり。省線函館本線南部を貫き妹背牛驛(明治三十一年設置)を置き、また北龍・秩父別(バス)の便を有す。大正十二年に一級町村制を施行す。

モタイ 舊名。↓茂理。信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に佐久郡茂理郷見ゆ。承久記に見ゆる斐もまた本郷を稱せしもの。此地は古來牧として著はれ、延喜左馬寮式に見ゆる望月牧も本郷の中なり。この郷域はいま北佐久郡本牧村・吉田村・南御牧村・北御牧村の邊に當る。本牧村の大宇茂田井は郷名の遺稱の轉、大字望月は望月牧の名の起れるなり。

モチガセ

用瀬町 鳥取縣因幡國八頭郡の中部。千代川の中流なる智頭川に沿ひ、智頭町の北方約五軒。北及び東は大村、南は社村に接す。面積四、七四平方。四周に山地を繞らせど、中央を智頭川北流し、西方佐治村より支流更に注ぎて、北部に廣き谷を形成す。古來、上流の智頭町と共に作州街道の要驛として發達せり。いま智頭街道河岸に通じ鳥取市

へ至る。また佐治方面にバスの便あり、省線因美線用瀬驛(大正八年設置)を置く。米・麥・木炭、川魚、清酒等を産す。大正七年町制を布く。村に磐石城址あり、古野朝の頃は赤松氏の所領、天正年中には豊臣氏は磯部某を置きて守らしむ。

モチコシ

持越 靜岡縣田方郡上狩野村大字湯ヶ島の字。此處に持越嶺山(嶺種は金銀)あり、面積一〇五萬餘坪、昭和十年の産額は金三六二、七一五瓦、銀七、五二二、五一〇瓦、金銀三三、六五〇兩(この總價額二七五萬餘圓)、同年六月末の鐵夫數九九〇人、内地には有数の金銀山にて、重要嶺山に列す。

モチズキ

望月牧 舊名。↓茂理。和名抄に佐久郡茂理郷見ゆ。承久記に見ゆる斐もまた本郷を稱せしもの。此地は古來牧として著はれ、延喜左馬寮式に見ゆる望月牧も本郷の中なり。この郷域はいま北佐久郡本牧村・吉田村・南御牧村・北御牧村の邊に當る。本牧村の大宇茂田井は郷名の遺稱の轉、大字望月は望月牧の名の起れるなり。

モチムネ

用宗 靜岡市の町名。省線東海道本線の用宗驛(明治四十二年設置)あり。瑞興郡の西部。瑞興面の西北に隣り、南は龍坪面、西は風山郡山水面・魚沼面と界す。東西五、一三軒、南北約一三軒あり。北境に道岩(五九〇米)聳え山麓南に延びて城門山(四八九米)を起し、他の一支は東境に羅將山(六九一米)等を聳立せしむるも漸次南方に低夷し、其間處々に夷地狀を呈示す。南境に近く瑞興江西方へ蛇曲流し、北より來る興水川等を容れ、其等の流域にやや廣き平地開く。畑作農業を主とし、小麥・大豆・棉花・麻等を産す。西南隅に主邑興水里あり、之より東へ義州街道走り、興水川の對岸、

あり。道高敷郡の中部西南偏。郡邑高敷の西方約一二軒、東西約五軒、南北六軒餘。北境と西境とに二百米臺の山連るも、域内の大部分は五〇—六〇米程度の丘陵地にして、北東部の舟津川支流々域には稍廣き平地あり、また處々に灌溉用溜池ありて、水利の便よく、耕地隨處に發達す。米・麥・大小豆・棉花・吹等の産多く、牧牛また盛なり。中部を高敷・法聖浦を結ぶ道路東北—西南に走り、バスの便あり。中央の茂長里より更に北走して海岸に達する道路その他を出し、交通便利なれし地にて、市街地を構成し、金融組合・市場等あり。

モチヨ

茂長面 朝鮮全羅北道高敷郡の中部西南偏。郡邑高敷の西方約一二軒、東西約五軒、南北六軒餘。北境と西境とに二百米臺の山連るも、域内の大部分は五〇—六〇米程度の丘陵地にして、北東部の舟津川支流々域には稍廣き平地あり、また處々に灌溉用溜池ありて、水利の便よく、耕地隨處に發達す。米・麥・大小豆・棉花・吹等の産多く、牧牛また盛なり。中部を高敷・法聖浦を結ぶ道路東北—西南に走り、バスの便あり。中央の茂長里より更に北走して海岸に達する道路その他を出し、交通便利なれし地にて、市街地を構成し、金融組合・市場等あり。

モツカン

木甘面 朝鮮黃海道瑞興郡の西部。瑞興面の西北に隣り、南は龍坪面、西は風山郡山水面・魚沼面と界す。東西五、一三軒、南北約一三軒あり。北境に道岩(五九〇米)聳え山麓南に延びて城門山(四八九米)を起し、他の一支は東境に羅將山(六九一米)等を聳立せしむるも漸次南方に低夷し、其間處々に夷地狀を呈示す。南境に近く瑞興江西方へ蛇曲流し、北より來る興水川等を容れ、其等の流域にやや廣き平地開く。畑作農業を主とし、小麥・大豆・棉花・麻等を産す。西南隅に主邑興水里あり、之より東へ義州街道走り、興水川の對岸、

鳳山郡龜淵面には京義本線興水驛あり。モツクイ 社 臺灣花蓮港廳花蓮郡の蕃社。チャカン溪下流左岸、標高約一〇〇米の地にあり、高砂族の部落にてアタル族のタロコ蕃に屬す。戸數三六、人口二一八(昭和十二年末現在)。

モツホ

木浦府 朝鮮全羅南道の港市。務安半島の西南端に位し、北は務安郡二老面に接し、東南一帯は梁山江河口に臨みて靈岩郡三湖面、及び二老面に屬する高下島と相對し、西方は多島海にして以つて外洋に通ず。東南の三島島を含み、東西五軒餘、南北約四軒。面積八、四平方。人口約六萬。西南部に儒達山(また儒達山、二二八米)聳え比較的急勾配を以て南は梁山江口、西は海に迫り、附近は岩骨を露はせる丘陵地をなし、その東方海岸平地上に木浦臺(三八八米)・松島公園等の小丘あり。中部以北にも低丘陵所に起伏す。西北部にて頂島より東、東部に於て長島より北は埋築されて廣き平地となり如地ひろく。市街は儒達山の東方傾斜地と海岸平地とに互り稍々南北に長く發達す。平均気温一三・二度にて梁山又は京都と略々相等しく、最高八月三〇・四度、最低一月零下二・二度、其他の氣象要素は降水量年一〇六八耗、降水日數一三〇日、快晴四八日、霧二日、暴風八四日等にして、稍々多濕なるも、概して溫和なり。此地は海陸交通の要地に當る。即ち鐵道湖南本線東部を走りて終

點驛木浦(大正二年設置)あり、これより南へ〇・七軒の貨物線を出し木浦海岸驛(大正二年設置)設けられ、木浦驛より大田(二六〇軒、京城へ四二八軒(約十一時間)にて達し、また京城との間に一等道路を通じ光州・望雲等へバス通ず。海運にありては大坂商船・尼崎汽船・朝鮮汽船等の寄港地にして、釜山・麗水・蔚山・仁川・新義州・門司・神戸・長崎・名古屋・大阪・東京を始め青島・上海・大連等に定期航路を有し、また近海の靈岩・珍島・濟州島・黑山島その他多島海中の諸島に發動機船の便あり、對岸三湖面龍塘里との間は府營の自動車渡船により連絡す。市内には府廳・光州地方法院支廳・稅務署・海軍出張所・無線電信局・測候所・穀物検査所・稅關支署・專賣局出張所・總督府農事試驗場棉作支場・水産試驗場・刑務所・務安郡廳等の官公署を始め、商工會議所・米穀取引所・農業倉庫・金融組合・東拓支店・鮮銀支店・殖銀支店・福田農事會社・朝鮮棉花會社その他の會社銀行、公立商業學校・高等女學校・府立病院等あり。産物として南線の終點にして背後に米・棉花を多産する全南の沃野を控へ、前面に海産豐富なる多島海を擁し、之等物資の吞吐港として取引盛に行はれ、殊に棉花の出産期には埠頭一帯に棉花の山を築き甚だ盛況を呈す。市内には之等の物資を原料とする精米・綿棉・棉實油・雜詰等の諸工場兼出

モツホ——モテキ

し、生産都市として市況も活氣を呈し、特に棉實油・綿詰・乾海苔・蔴等は特産物として著はる。昭和十年中の産額は織物三七萬圓、ゴム靴三一萬圓、製油一三五萬圓、白統油八五萬圓、棉實油四二萬圓、其他、製摺綉六〇八萬圓、綠棉四二二萬圓、製材一八萬圓、酒二八萬圓、雜詰四萬圓にして、なほ綿物・織工・造船等の金屬工業、サイダー・總子の製造も盛なり。主要工場には朝鮮棉花・南北棉業、全南棉花・日華製油等あり。水産物は鯛を第一とし、鱈・鮫・鱈・石首魚・ちぬ等多く、海苔・てんぐさ等の海藻同着高も少からず。農産は棉花を筆頭に蔬菜・米・麥・果實等あり、また畜産には牛皮、牛豚肉、牛骨、牛乳等あり。(貿易)明治三十年開港以來、貿易額は逐年増大し、昭和十一年には輸出三二七四萬圓、輸入一九〇四萬圓に達し、一二七〇萬圓の出超を示す。いま昭和十年年度計數により貿易概況を見るに、輸出は米(堆積種、三四萬圓)、乾海苔(二萬圓)等を主として四〇萬圓、輸入は蔴(八萬圓)、棉花(一六萬圓)、胡麻子・天日鹽・原油及重油・豆粕(一〇萬圓)、麻布・石炭等を主として七二萬圓にして、取引國は滿洲國を第一とし、關東州・中華民國・北米合衆國等これに次ぐ。移出は米(一九七一萬圓)、棉花(一一五萬圓)、綠棉(六〇三萬圓)の三者斷然多く、其他、海苔・棉實油・乾海苔・乾えび・綿詰・牛皮等あり、移

入は大麥及蔴麥(一一三萬圓)・米(五〇萬圓)・小麥粉(五七萬圓)・綿織物(一六〇萬圓)・硫酸其他肥料(二二五萬圓)・鐵油・桐油・石灰・鐵及鐵製品・木材等を主なるものとす。(港灣)明治末年に國費を以て荷揚所護岸、棧橋、上屋を建設したるを始め、大正十五年以降五ヶ年に互り海岸通地先の一四〇〇方米の埋立をなし延長百米の護岸を築造し、その前面に浮橋二基を設置する等、港灣機能の發揮に力め、現在國營の浮橋三、棧橋三、埠頭四を有し、また淺津船を常置して、埠頭の水深を零下四・五米に維持す。潮位は最大満潮面四・五五米、最大干潮面零下〇・四五米、平均潮差滿潮面四・〇九米とす。潮流は梁山江流域内に於ては靈岩半島に沿ふこと暫くにして務安半島外に移り、秒速一・八米を以て高下島の突角に激突し〇・六米を加速し、次で花潭半島に向ひ流轉し港外に出づるも、鑛地は比較的潮流緩慢にして船舶の投碇容易なり。港内南方の夢河島に木浦燈臺(光達一二四、花潭半島北端に木浦口燈臺(光達一四四)あり。「沿革」此地は往昔木浦營と稱し水軍の總營を置きし所に、近海は文祿役の古戰場たり、現に木浦臺の岩上に存する殘臺は即ち木浦營の遺址とす。もと羅州牧務安郡に屬せしが、明治二十八年羅州と分立して務安郡に屬し、同三十年十月開港と共に務安府と改め居留地を包含せしも、同四十二年八月木浦府を

モツホ

置き、もと務安府の十九ヶ面を管せり。のち大正三年三月府郡廢合に際しは現存の境域を以て木浦府となし殘餘は務安郡となし、昭和七年十月務安郡二老面の一部を編入し今日に至る。「儒達山」昔は儒達山として知られ、標高二二八米。梁山道路及び展望臺の設備あり。山上よりは港内は勿論、遠く多島海の翠巒を一望に收む。山中に八十八箇所の靈臺を建て四時參詣者絶えず、南麓水源地附近は櫻樹多し。その北側に儒仙閣あり。山の西南麓は儒達ヶ浦と稱し府營海水浴場なり。「木浦臺」市内中央に屹立せる一大岩石の小丘。木浦營の舊跡にて現に岩上に城壁の殘址あり。鎮の長官として萬戸を置き、萬戸廳はその山腹に建てられ、今なほ遺れる瓦葺家屋はその一部なり。「松島公園」市街の東北隅にある小丘。園内には松樹茂り、前面は海を隔てて三島島を望み眺望美に富む。丘上に府民の氏神として祀れる松島神社あり。モツホカイガン 木浦海岸 ↓木浦府 古名。 茂木町 樹木縣下野間芳賀郡の東部。那珂川の支流蓮川に沿ひ、東は茨城縣東茨城郡・西茨城郡と隣す。八溝山脈西斜面の一部を占め、東境は三〇〇米前後の高きあり。蓮川は西北部の裾合を東流す。山地一帯は森林多く林産は

モト——モトサ

農産に次ぎて年産五萬圓あり。川沿ひには狭き平地ありて農業行はれ米・粟・蕎麥等を合して年産三十萬圓を越す。その他工業・畜産も多し。特産物としては刺糖草を産す。商業また盛にて農・商従業者及び専賣局工場従業者の三者にて大部分を占む。主要産物は町の西部に發達し、縣道はこれより四方に發達す。省線武蔵線は西方より入り、町内に終點茂木驛(大正九年設置)を置く。また北方須賀野山町より省線自動車常野本線來りて更に東走して茨城縣に入る。また同茂木線は西走して宇都宮市に通ず。宇都宮宗廟の子八田筑後守知家の三男、三郎知基或は知幹に作る)この地に居して茂木氏を稱す。古くは藤嶋とも視木とも稱せしもの如きも今詳かならず。明治六年より茂木町と稱し今に至る。(龍藏神社)大字小井戸に鎮座。縣社。祭神、國常立尊・豐雲野之命・阿夜阿志古根命等七柱。創立年代未詳なるも、延喜の制、國幣の小社に列す。古來武家の發祥地、八田・須田・長谷川・細川氏等代々の領主崇敬を效し、江戸時代には藩主細川氏累代崇事す。例祭、三月十五日・七月二十五日。

モト 元村 大島元村(東京府)
モト 本 三重縣一志郡にありし村。昭和六年久府町に編入す。

モトアアラツ 元油津 省線油津線の一驛(大正二年設置)。宮崎縣南那賀郡油津町にあり。もと油津驛と稱せしが

モト

昭和十二年元油津驛と改稱。
モトアラ 元荒川 秩父山地に源を發し、東南の方向に關東平野を流下する川。荒川の舊流路にして、その東方をほぼ並行して流る。上水は熊谷市の南方に於て發し、鴻ノ巣町の東方を過ぎ見沼代用水を合せて岩槻町に出で、越ヶ谷町・大澤町附近の水田中を流れて吉川附近に於て元利根川に合流す。流程約五五軒。
モトイ 本井 肥後國(熊本縣)の古地名。高山寺本和名抄に山本郡本井郷見ゆ。その地はいま玉名郡の花旗村より那本郡の山内村に互る地を稱するか。花旗村の大字に用木あり、本井の轉訛なるべし。

モトイズミ 本泉村 埼玉縣武蔵國見玉郡の西南部。見玉町の西南方約四軒にて、南は秩父郡と隣す。東境に不動山(五四九米)等の山地連り、西境も赤五〇〇米前後の山地をなし、東西より村内に傾斜し、村の中央はその場合に於て身割川は谷をなして北流す。山地一帯森林多し、林産あり。川沿ひには狭き平地ありて畑地をなし、米を産し、養蠶行はれて蠶の産多し。縣道は川沿ひに走り、東方見玉町に通じて自動車の便あり。また南は秩父盆地に、西北に分岐せるものは群馬縣多野郡鬼石町に通ず。要害はこれ等の縣道に沿ひて發達す。

モトウラ 元浦川 北海道日高國の一河川。日高山地南部の神威岳と、春別

モト

山の間の豁谷に源を發し、概ね西南流して太平洋に注ぐ。流路延長約四五軒。河口に元浦川の要害あり。
モトオースカ 本大須賀村 千葉縣下總國香取郡の西部。多古町の北隣にて、西は印旛郡の一部と隣す。全村丘陵地に於て森林あり。丘陵間に田地、畑地ありて農業行はれ米・麥を産し、養蠶、養鶏も盛にて蠶・鶏の産多し。村の北部にて三方に分る、縣道は東北佐原町、西北方清河町、西南方印旛郡成田町に通じ、佐原町・成田町へはバスの便あり。その他南隣多古町にも縣道を通ず。古くは和名抄、香取郡香取郡の内なるべし。中世は大須賀庄の内とす。

モトオカ 元岡村 福岡縣筑前國糸島郡の東北部。前原町の東北に接し、東北は今津津の西側に臨む。西北部がや丘陵地をなす外は全村地形低平にして中央を貫きて一河川が北流し今津津に注ぐ。土地肥沃にして米・麥の産多し。東南部には縣道及び省線筑肥本線が横斷し周船寺驛(大正十四年設置)あり。古くは和名抄、志摩郡川邊郷の内か。

モトオリ 本折 石川縣龜岡郡にありし村。明治四十年に外二村と共に廢して苗代村を建つ。

モトカジ 元加治村 埼玉縣武蔵國入間郡の西南部。入間川に沿ひ、飯能町の東方約三軒、豊岡町の西方約二軒にあり。面積四・七八平方軒の小村な

モト

り。南境は低き丘陵地をなすも、他は中央を東流する入間川流域の平地にて一部は水田、他は畑地をなし、麥・米を産し、養蠶盛にて蠶の産多し。その他レースの産額大なり。縣道は飯能町・豊岡町及び東方入間川町に通じ、社線武蔵野線道は南部を西走して佛子驛(大正四年設置)・元加治驛(大正七年設置)の二驛を置く。
モトカリヤ 元刈谷 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外一町三村と共に廢して刈谷町を建つ。
モトクルマユ 元車湯 鳴子町(宮城縣)
モトサクラ 本佐倉 酒々井町(千葉縣)
モトサヤマ 元狭山村 埼玉縣武蔵國入間郡の南部。豊岡町の西南約四・五軒。南は東京府西多摩郡と隣す。面積五・六五方軒の小村なり。東南部は狭山丘陵の西端をなし、他は平地にて畑地多し。茶の栽培盛にして狭山茶の名著はる。その他麥・甘藷・米等を産し、養蠶も盛にて蠶の産多し。また織物業榮え山村耕を産し、清酒の醸造も行はる。縣道は豊岡町及び北隣金子村、南隣東京府西多摩郡箱根ヶ崎村に通じ、省線八高線金子驛・箱根ヶ崎驛に自動車の便あり。
モトサワ 本澤村 山形縣羽前國南村山郡の西部。山形市の西南約六軒。南境に鷹取山(四五九米)、西北境に大森山(三八一米)聳え東北方に傾斜し、西南

モトシ——モトス

中部は丘陵をなすも、東北中部は山形盆地に屬して平坦なり。米・蠶を産す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、山形市へは自動車の便あり。省線奥羽本線金井驛へは東方約三軒なり。古くは和名抄、最上部阿蘇郷の内なるべし。大字長谷堂に長谷堂城址あり。最上氏の將士常ここに在りて守備す。慶長五年九月、上杉氏の將直江兼續來り攻む。最上義光援を伊達政宗に乞ひ、その兵と共に兼續の軍を拒ぐ。既にして關ヶ原の敗報至るに及び兼續兵を撤す。
モトシオミ 元觀見 鳥取縣岩美郡にありし村。大正六年に志保美村と元美村の區域を以て觀見村を置く。觀見村は昭和三年四月に廢せられ福部村となる。
モトシゲ 本茂 愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年外一村と共に廢して一宮村を置く。
モトシユク 本宿村 愛知縣三河國額田郡の東南隅。岡崎市の東南方約一〇軒。地は三河山地の中部にありて古生層より成り、南部に京ヶ峯(三六五米)あり。南隣寶飯郡長澤村との境附近は分水嶺をなし、西北へは大平川の支流流る。川の流域は水田多し、山麓には桑畑多く養蠶行はる。また三河木綿の産あり。山地よりは石材を出し、複雲母花崗岩を主とし時に岩脈として露はるゝものは文理花崗岩にして、この中には電氣石を含有す。

京ヶ峯には雲母を採掘せしこと文書に見え、明治となり土砂流出するを以て廢す。東南より西北へ分水嶺を越えて舊東海道通り、松並木を残存す。今は之と並行に名古屋電鐵通じ本宿驛(大正十五年設置)を置く。古く和名抄の額田郡阿蘇郷の地に於て近世まで宿場たり、江戸時代は藤川宿の宿場とす。大字本宿宇古城には山中城址ありていま土塼を存し、松平權兵衛重弘兄弟之に據り天文十六年落し正親、石川清康は久保忠勝等に攻め落さる。大字大橋には大橋城址あり、三河志曰く「古城和田兵衛大夫、城伊藤共天正二年甲州より入置く」と。また大字鶴里には鶴里城址あり、淺井新右衛門居城せりと傳へらる。(法藏寺)淨土宗西山派。大寶元年、僧行基の草創にして當時動願寺となると傳ふ。徳川家康幼時、當山七世教翁に就きて學びしといふ。
モトシラネ 元白根鐵山 群馬縣吾妻郡草津町にある硫黄山。元白根山にあり。面積二七・八〇〇坪。昭和硫黄會社の採行に係り、昭和十年の試掘に於て六二六萬(價格四萬餘圓)を産出して一躍重要鐵山に列す。同年六月末の鐵夫數四十五人とす。↓白根山
モトシンジマ 本新島 茨城縣常陸國稻敷郡の東部。霞ヶ浦と利根川との中間區域にて水郷をなし、南は利根川、東は横利根川を隔てて千葉縣香取郡佐原町等と相對す。全村

モトシ 本新島

モト

低地にて南部は水田、北部の霞ヶ浦附近は沼田をなし、米を主産す。霞ヶ浦には鯉・鯉等の水産あり。利根川、横利根川、霞ヶ浦共に水運發達し、また新利根川は西方より入り、村の東部に於て霞ヶ浦に入る。佐原町との間に渡船の便あり。香取郡志に據れば、もとの邊一帯渺々として霞ヶ浦に接し古歌に香取ノ海と稱せられし程なりしが、ち中流に汀洲を生ず、これを沖ノ島と稱す。天正十八年江戸崎城主土岐氏の家臣、石田殿河守落去ののち、更に徳川氏の地方奉行吉田佐太郎に就き地開拓の事を請ひ、新田を墾闢し一村落を成し名づけて上之島といふとあり。上島はいま大字名に遺る。
【本新島】千葉縣香取郡にありし村。明治三十二年本村を廢し、その地域を東大戸村及び茨城縣稻敷郡十倉島村に夫々編入す。

分湖湖は其の西部にありて、本湖の水位上昇する際は連絡す。東岸は青木原岩流及び三島大宮式岩流の末端にして特殊の狀貌をなし、峭岩は開花狀または鑛渣狀にして湖岸の凹凸甚だし。本湖は全く排水口なき閉塞盆地の湖なり。湖底は單調にして、五〇米等深線が湖岸と並行す。最大深度は一二六米にて湖の中心より少しく南方に寄る。水温は連年の成層を示し、冬季は普通結氷せず。透明度は夏季に於て小にして冬季に於て大なり。即ち夏季は水色四號、透明度一一米を示すも、冬季は一號の濃藍色にして透明度も一七・五米に達す。湖はもと西湖に續きしが、貞觀六年の富士大噴火の際、熔岩流によりて閉塞せられて獨立す。
モトス 本巢郡 岐阜縣十八郡の一。美濃國の西部。北は福井縣大野郡に、東は武儀郡・山縣郡・稻葉郡に、西は安八郡・揖斐郡と夫々接す。北境には屏風山を主峯とする屏風山脈が白山より分れて西に連り、その前山には美濃山地が續き何れも古生層より成る山地なり。美濃山地は濃尾平野に陥没せる爲め、南部には埋残りの殘丘が急聳する地形を認め得。その南には西濃平野續く。根尾川は屏風山脈に源を發して南流し、揖斐郡との境をなし敷川と呼ばれ、揖斐川に合流し、山添村より分れて赤貫川をなし長良川に合流す。根尾川はもと山添村より東南へ折れ船木山の北より西郷村・稻葉郡黒野

モトソ—モトタ

村を結んで、合流して長良川に合流せし時ありて、合流附近には根尾川の地名残る。南部西濃平野の地域には犀川・五六川・中川等幅狭し、水害多き低湿地にして、輪中地域をなす。この根尾川は断層線に沿へるものにて、有名なる明治二十四年十月二十八日の濃尾大地震は根尾川附近に震央あり、水鳥の断層はいま天然記念物に指定せらる(根尾川の條参照)。農業は西濃平野に盛んで、米は質よく、文殊米は特に味よく明治年間まで宮中の御用米たり。また根尾川は昔祭祀田となりし事ある由緒の地なり。裏作には蕎麦・粟・紫雲英多く、殊に紫雲英種子は本邦に於ける主産地たり。外に富有柿の特産あり、之は南部の川崎村居倉の原産と云はれ、席田村は年産十萬圓にして最も多く、田畑に多く植ゑられ、最近山は斜面を利用す。穂積より東京・名古屋方面に出荷さる。山地には薪炭の産多く、松茸・栗も産し、朝代村方面には瓦の産多し。工業はあまり盛ならず、僅かに家内工業としての柳行李・バスケット等が南部輸中地域(生津・穂積地方)に見らる。交通は概ね便にして、南部には東西に中山道通す。省線東海道本線は中山道に略々並行し穂積驛を置く。また大垣驛より分岐する未成線根尾線は南部の牛牧より北上し根尾・樽見に至るものにて一部工事中なり。岐阜よりは社線名古屋電線根尾線通じ、尻毛橋・尻毛川部・又丸・森町千歳

モトソ—モトタ

町・美濃北方・八又・就養驛等を置く。穂積より南方豊後へ、北方美江寺へは豊後バスが、大垣より美江寺を経て北方へは大垣バスが、岐阜より黒野村を経て根尾・樽見・長良へは根尾金華バスが夫々通す。本郡は凡そ古への本國の地なるべし。本國は古事記開化天皇の條に、皇子日子坐王の子八爪入日子命が三野國の本國造長部連の祖なりとあり。然るに國造本紀には三野前國造に開化天皇の皇子彦坐王の子八爪命を定めたまふとあり、國名に異同あるも、この二國は同一の地を指すものにて美濃國の西部ならんといはる。即ち國郡制定の時となり美濃國に隸せるものならん。和名抄は毛止須と註し、鹿立・遠市・安堵・美濃・穂積・物部・船木・栗田の八郷を置く。明治三十年本郡・席田の二郡と大野郡・方縣郡の各一部とを合して更に本郡を建てて今日に至る。

モトソ—モトタ

馬場上野國郡馬場の東部。本社町の南隣にして、前橋市の西方約二・五軒にあり。面積四・五八平方軒の小村なり。村の東方を利根川南流し、全村平地にて農業を主として米・蕎麦・粟を産す。また製糸業盛にして生糸の生産額は年一五〇萬圓あり。縣道は中央を東走して前橋市に通じバスの便あり。古くは和名抄、群馬郡馬場の内とす。此地は國府の置かれし地にして、其址は長尾氏の遺墟ならんといふ。恐らくは古國府の址に就きて長尾氏の修理せしものならん。國分寺址はいま隣村國府村に互りて存す(國府村の條参照)。後上野志に據れば、長尾孫六忠房は足利家より總社の地を賜はり子孫繁榮し、忠綱・忠政・景種・忠景・顯忠・顯方に至るまで相續せしが、永祿六年、武田信玄のために落城す。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の御この地に御小休遊ばさる。(總社神社)大字元總社に鎮座。縣社兼總社。祭神、勢荷男命・勢荷女命外五百五十柱。社記に安閑天皇元年三月の鎮座とし、一説には安閑天皇元年に社殿の造営ありしものにて、崇神天皇御宇、豊城入彦命東國鎮撫の際の勸請なりといふ。古來武門の崇敬厚く、慶安二年徳川家康朱印二十六石の寄進あり。例祭三月十五日。

モトソ—モトタ

海部の西部。酒田市の東北約七軒。庄内平野の北部に位し、全村平地にて、日向川及びその支流荒瀬川は北境を西流す。本村は庄内平野の中心にして米作盛に行はれ、また馬・蕎麦を産し梨の特産あり。省線羽越本線本郡驛(大正八年設置)を置く。村内に城輪橋、新田目城址あり。新田目城址は住時出羽國府留守の館址にして、いま疊跡存す。留守の後裔を今井文三郎と稱し久しく此の村に住めりと。(城輪橋)指定史蹟。大字城輪宇大豊田、上田村大字刈穂に互る地域にし

モトソ—モトタ

て、庄内平野の北部、最上川の北八軒の地點にあり。本郡驛の東約三軒、東西七〇〇米、南北八〇〇米、略方形に角材の橋柱を並列せし城輪の遺址にて、地中に埋没せし遺材発見さる。橋址の四邊には各々圓柱より成る門址存在し、何れも三間二面の平面を有せし事知られ、また橋址の四隅には角柱と認めらるる残柱発見せられたり。地域内北邊に近く縣社城輪神社鎮座し、また中央の邊には蓮華及び唐草紋の古瓦の出土せる場所あり。昭和六年始めて完全なる學術的發掘を経てその規模明瞭となれり。秋田縣神田橋址と共に上代東北拓殖の際に築造せられし橋の遺址にて、瓦の出土地は或は偶々營まれたる出羽國分寺址ならん。出土遺物の一部は本郡城輪精農事務所に保存さる。奈良時代和銅元年に置かれし出羽橋に擬定するは早計なりとするも、恐らくこれと密接の關係にありしものなる事想像に難からず。(大物忌神社)大字本橋に鎮座。縣社。祭神倉稻魂命。創建年代は聖河天皇寛治年間にして、八幡太郎源義家國幣中社大物忌神社より勸請すといふ。例祭五月十五日。(城輪神社)大字城輪に鎮座。縣社。祭神倉稻魂命。地方の古社にして清和天皇貞觀七年從五位下を授けられ、陽成天皇元慶四年從五位上に敘せらる。古來當國の二宮といひ國幣中社大物忌神社との關係深く、現に同社の攝社たり。江戸時代に藩主酒井氏の

モトタ

崇敬見るべきものありき。モトタテ 本建村 山梨縣甲斐國南五郎郡の中部。身延町の西に接し、富士川の支流早川右岸に沿ふ。西境に七面山(一九八二米)、東境に身延山(一四八八米)聳え全村土地高峻にして山林多く平地に乏しく、早川は北境を東へ峡谷を穿ちて流る。聚落は概ねこの河岸にあり。農・林業を主産業とするも農産物は僅に村内の食料に當つるのみにて主産物は木炭・三極・木材等の林産物なり、また養蠶及び七面山登山者案内等の副業をなす。北部河岸に沿ふ道路、身延町より来る道路あり。鐵道省借入線富士身延線身延驛へ約十二軒を隔て、交通便ならず。村内に大垂産(高さ三〇米、幅五米)・白糸産(高さ三〇米、幅五米)あり。

モトタ

千葉縣海上郡にありし町。昭和八年鏡子市に入る。

モトタ

元泊 樺太廳管下七支廳の一、中部東岸に位する元泊郡一圓を管轄す。南部豊榮支廳、西は泊居支廳、北は豊香支廳の地に隣接し、東はオホーツク海に面す。元泊・帆寄の二村と知取町を含み、面積約三二〇方軒、支廳を元泊村に置く。樺太山脈 東斜面にて、西境上には鰐岳(二〇八〇米)・釜伏山(一八六〇米)・珍内山(七五八米)・留久志山(六七五米)等連りて土地概ね東南に低下す。東樺丹・

モトタ—モトソ

東知取・遠古丹・樺保・馬群潭等の諸流西境山地より湧し、略々平行して東南流す。これら河邊の地は農耕に適するも耕地はなほ一千町歩に満たず。山地にはなほ斧鉞を加へざる密林地帯廣く、年々五〇萬立方米内外の木材を伐採しその大部分はパルプ原料に使用せらる。知取町には玉子製紙の大工場ありて製紙業に行はれ、また知取炭礦より石炭を出す。沿海は多季積水の缺點あり、鯉・鱒・鱒等の好漁場をなして漁獲多く、昆布も採取せられ、多くは水産製造物となして搬出せらる。道路東岸に沿ひて南北に通じ、社線樺太鐵道また略これに並走し近視、白石澤・帆寄・馬群潭・元泊・樺保・北樺保・東樺文・北樺・知取・樺丹・大鶴取の諸驛を置き、交通便ならず。人口約二萬六千人、密度はなほ甚だ稀薄なり。

た石炭を産す。沿海は磯・鮭・鱒・鱒・昆布等の水産あり。道路と社線樺太鐵道は東岸に近く南北に通じ、鐵道は元泊・樺保(共に昭和二年設置)・樺保温泉(同十二年設置)・北樺保(同五年設置)・樺内保(同十一年設置)の五驛を設け、交通便ならず。南部の元泊聚落には元泊支廳を是じめ林務署・役場・警察署・移民指導所等あり。(樺保炭礦)元泊村大字樺保に約百萬坪の鐵礦を有する石炭山。鐵業事務層は樺保驛の北約半軒の地點にあり。炭層は東海岸上部夾炭層に屬し、主要炭層は五層にして厚さ〇・四—一・四米、現在採行するものは三層層(一・九米)・四層層(〇・九米)・四層下層(〇・九米)の三層にして現在は何れも水準以上を採行す。炭質は不粘結性の低度瀝青炭にして昭和十年には二萬餘噸を産出す。(東海岸炭礦)元泊村内に約一七萬坪の鐵礦を有する石炭山。鐵業事務所は北樺保驛附近にあり。炭層は東海岸上部夾炭層に屬し、厚さ一米内外の炭層十層あれども、現在採行するは主として二層層(一・二米)と四層層(一・九米)にして、現在では何れも水準以上を採行す。炭質は低度瀝青炭にして、昭和十年には僅に一萬餘噸の産出に過ぎざれども、將來發展性あるものと豫想せらる。

東南境に大黒森山(六四二米)聳え、西國山地連りて、東北部のみ拓け、西馬音内川は南境に發源して、村の中部を東北に流る。米・蕎麦・薪炭を産す。古くは和名抄、雄勝郡雄勝郷の内なるべし。モトノ 本建村 千葉縣下總國印旛郡の北部。木下町の東隣にて、東は安食町に接し、東南の一部は印旛沼に臨む。西半は丘陵地にて森林あり。東半は低地にて北境を將監川、東境を長門川流れ水田多く北部には畑地あり。農業行はれて米を主産し、蕎麦の産もあり。その他養蠶・養鶏も盛なり。木下町・安食町に鐵道を通じ、省線成田線は北部を横走するも村内に驛なく、安食驛及び木下町内東部にあり小村驛に近し。大正二年本郡村・壱原村を合し各々その一字を取りて本村を建つ。古くは和名抄、印旛郡言美郷(言美郷の誤)の内なるべし。本郷とは笠神本郷或は登美本郷の義か。常陸軍記天正十三年の條に笠神城主岩井某と見ゆ。蓋し大字笠神の地とす。モトノ 本野村 長崎縣肥前國北高來郡の西北部。多良岳火山の南麓裾野の部分を含み、西は東彼杵郡餘田村、北は同郡壹瀬村に接す。全村殆んど多良岳火山の噴出熔岩たる安山岩の分布地帯にして、北部村境は八百六十米に達し、漸次南方に緩斜す。熔岩の表面には長崎縣に於ける大川たる本明寺川及び其の支流流れ、南北に谷深く浸蝕し、河岸に小耕地

モトタ

モトハ——モトフ

を見る。然し火山の原表面は未だ保存せられ山林草地をなす所多く、北部山地は殆んど山林地帯をなす。村の南部には多少第三紀層あり、火山熔岩との境界附近を国道及び鐵道等々東西に通ずるも、北部は殆んど南北の谷に沿ふ道路を見るのみなり。本村は農村にして養蠶業・林業亦行はる。米は品質佳良、世に謙早米と稱するもの一部にて命名あり。本村の北方本明寺川の上流富川山は謙早米の上流約十軒、老樹蒼鬱奇巖絶壁兩岸に聳え、高さ百二十尺、長さ千尺の一枚石を川床とし、幾段かの飛瀑かゝり、清涼の佳境、岩壁に三大佛・五百羅漢を彫刻す。これ寶永六年領主謙早茂晴施主となり、藩中よりの寄附により、南日新田及び本明寺川流域使用者の雨乞祈願の爲めの築造たりき。また富川山大雄寺の十一面觀音は由緒と共に名高し。

モトハコネ 元箱根村

相模國足柄下郡の西部。箱根山の中央部を占め、南は箱根町と隣し、西は静岡縣駿東郡と隣す。東半には箱根火町の中央火口丘たる神山(一四三九米)、駒ヶ嶽(一三二七米)・二子山等あり。西半は火口原湖たる蘆ノ湖にて、西境には湖尻峠・山伏峠等の外輪山連なり。桑落は蘆ノ湖の東南岸二子山麓に發達し、四周の風光美しく純粋なる遊覽地帯として發達す。国道は小田原方面より湯本町・蘆ノ湯村を経て來り、更に南隣箱根町を経て静岡縣に入る。また舊東海道は湯本町より須雲川の谷に沿ひて來り當村にて国道に合す。その他、蘆ノ湖東岸を北走して仙石原村に通ずる縣道あり。国道には富士箱根自動車會社の小田原沼津線通ず。その他、駿豆鐵道箱根線のバスは熱海より來り、湖岸を経て上須藤に通ず。箱根権現あるを以て古來著名なり。いま富士箱根國立公園の内とす。新舊風土記に建武元年八月、中先代蜂起の時に足利尊氏討手として下向、相模大郡時行の兵と箱根大崩にて會戦すと見ゆ。大崩は即ち本村内の地にして、曾我物語にも大崩の手向なる言葉見ゆ。いま箱根町・蘆ノ湯村と共に組合町村を成し箱根町に役場を置く。(姥子温泉)冠嶽の西北麓、大涌谷の西崖の地に於て海拔八五〇米、四谷の地なり。温泉は天然の巖罅を以つて浴槽となす。泉質は食鹽泉にして温度四五度、眼疾に特效あり。その他神經系統病・胃腸病等に效あり。その他神社(箱根神社)國幣小社。祭神、天津彦火火出見尊・天津瓊瓊杵尊・木葉間耶麻命(箱根大神)。創建に就きては數説ありて詳ならざるも、社記に孝昭天皇御宇、聖占仙人駒ヶ岳の權原を開きて神山宮とし、崇神天皇御宇、利行丈人勅許を得て創建す。次で孝謙天皇天平寶字元年、萬葉(一)に滿願に作る上人夢に三神の靈告を蒙りこれを一祠に祀りて箱根三所権現の基を開き天下泰平を祈願すと。別當は古義眞言宗金剛王院東願寺たり。

高矢

子城址一本村と恩方村の境の地に在り。西に小佛の嶽を扼せし要害の地にして、永祿年間北條氏昭の築きしところ。天正十八年豊臣方に攻落せられ以來廢城となす。いま本丸・小宮曲輪などの址あり。(八幡神社)大字元八王子に鎮座。祭神、應神天皇。建久二年鎌倉鶴岡八幡宮より勧請せる所と傳ふ。領主梶原景時代崇敬せり。江戸時代朱印領十石を寄せらる。例祭、四月十六日。(北條氏墓)華嚴谷に在り。墓表に、青野院殿遷岳宗關大居士天正十八庚寅年七月十一日と題し、裏面に、北條氏昭公孫元祿二己巳天七月十一日 現住信濃豊海遺立之」とあり。

モトハチオージ 元八王子村

東京都武蔵國南多摩郡の西部。八王子市の西隣にて南は淺川町と隣す。西南部は南方にある高尾山に續く山地にして、西南隅は約四五〇米あり。東北に向ひて村内に傾斜し、東北には箱根平地向ひて東北麓を淺川東南に流る。山地には森林多く、平地は大部分畑地にして川沿ひの一部に水田あり。農業行はれて米麥を産し、養蠶また盛なり。縣道は八王子市及び淺川町に通じ、省線中央本線の八王子驛・淺川驛に近し。大字大樂寺は大樂とも稱し横山黨平子野氏居したり。また大字一分方・二分方は古の一領一跡の地にして、のち故ありて分割し、一分方二分方と命名したるものとす。(八王子城址)本村と恩方村の境の地に在り。西に小佛の嶽を扼せし要害の地にして、永祿年間北條氏昭の築きしところ。天正十八年豊臣方に攻落せられ以來廢城となす。いま本丸・小宮曲輪などの址あり。(八幡神社)大字元八王子に鎮座。祭神、應神天皇。建久二年鎌倉鶴岡八幡宮より勧請せる所と傳ふ。領主梶原景時代崇敬せり。江戸時代朱印領十石を寄せらる。例祭、四月十六日。(北條氏墓)華嚴谷に在り。墓表に、青野院殿遷岳宗關大居士天正十八庚寅年七月十一日と題し、裏面に、北條氏昭公孫元祿二己巳天七月十一日 現住信濃豊海遺立之」とあり。

モトハラ 本原村

長野縣信濃國小縣郡の北部。上田市を去る北東約六軒。淺間火山の連峰湯ノ丸山・烏帽子岳(二〇六六米)の西斜面にあり。北は長村、南は和村・殿城村に接し、西に神村あり。村は火山の裾野にあり。火山の伏流の湧水ありて耕地面積二九三町にして全面積に對する耕地率三〇%、田一三二町、畑一六〇町、うち桑畑一五〇町、田は主として千曲川の支流神川の谷底を利用す。畑に於ける養蠶化草織し養蠶は本村の第一の産業なり。古くは豊里・殿城・傍陽、長の諸村と共に山家郷と言はる。也未加とも書し、山村を意味せり。

モトフ 本都村

神龜縣琉球國國頭郡の中部。名護灣の北を西方に突出する

モトマキ 本牧村

長野縣信濃國北佐久郡の西部。岩村田町を去る西約一〇軒。櫻科火山(二五三〇米)の北麓に位置す。村内の中央を千曲川の支流鹿曲川が北流す。北は北御牧村・三都和村、西に菅田村、南に協和・春日兩村あり。東は南御牧・布施の兩村に接す。耕地面積五三五町にして全面積に對する耕地率三四%、田二三〇町、畑三〇五町、うち桑畑二四八町にして桑畑卓越し、養蠶は本村第一の産業なり。村は舊中仙道の通路上に當り岩村田町より下諏訪町に達す。また北國街道へは藤村田中より鹿曲川に沿つて本村望月に通ずる連絡路あり。古くは和名抄、佐久郡本理郷の地とす。大字望月は古く中仙道の一宿驛にして、紀直族造野氏の一流の地に居して望月氏を稱

モトマチ 元町

神戸市神戶區の町。省線東海道本線の元町驛(昭和九年設置)を置く。【元町】朝鮮京城府の西南部、龍山の一町名。總督府鐵道龍山線の元町驛(昭和四年設置)を置く。【モトミ】元三 熊本縣鹿尾郡にありし村。明治二十二年日吉村に合併す。【モトミヤ 本宮】岩手縣陸中國岩手郡の南部。北は盛岡市、南は紫波郡に隣接す。北上平野の北部に於て、全村概ね平坦なり。北上川は北境を東流し、北上川に合し、磐石川は北境を南流す。村の生業は農業を主とし、米・麥・苹果・梨・蔬菜等を産し、また養蠶行はる。陸羽街道は村の東部を南北に通じ、交通便なり。省線東北本線の仙北町驛(大正四年設置)を置く。明治天皇、明治十四年山形秋田及び北海道行幸の際この地に御小休遊ばさる。本村出身の歴史的人物に故宰相原敬あり、いまその舊宅を存す。【本宮町】福島縣岩代國安達郡の南部。二本松町の南方約九軒。東北部と西南部に丘陵ある他は概ね平坦にて、安達大良

モトモンベツ 元紋別

省線名寄本線の一驛(大正十年設置)。北海道北見國紋別郡紋別町にあり。

モトヤス 基安嶺山

↓加茂村(愛媛縣) 【本山村】兵東縣津國武庫郡の中部。住吉村を挟んで神戸市の東にあり、西南部は魚崎町に接す。南は本庄村を経て一軒餘にて大阪灣岸に出づ。背後に六甲山(九三二米)を負ひ、南部は大坂灣岸平野の北部を占む。山中に幾多の斷層が東北より西南に横切る。各種産業よく發達し産物は蔬菜・花卉・米・麥類・食用農産、果實・觀賞用植物・鶏卵・スレート瓦・セメント・水産製造物等なり。縣道及び省線東海道本線・社線阪神急行電車等が南部を横斷し最後の岡本停留所あり。この地は住吉村・精道村と共に文化住宅地・別荘地として知られ、いま甲南高等學校(大正十二年設置)あり。大字岡本の五百山の中腹に岡本梅林あり。道路は平坦にして眺望よく、毎年紀元節に山開きをなす。(保久良神社)大字北高に鎮座。祭神、須佐之男命を主神とし、大歲御祖神・大國主命を相殿とす。延喜の制、官幣の小社に列せられ、新年の幣に銀・靱各一口を加へらる。中世牛頭天王と稱せり。例祭、五月十四日。【本山町】山口縣厚狭郡にある町。宇部市の西方、小野田町の南にあり、龍王

モトマ——モトヤ

【本宮町】福島縣岩代國安達郡の南部。二本松町の南方約九軒。東北部と西南部に丘陵ある他は概ね平坦にて、安達大良

高矢

川は中部を東流し、阿武隈川に合す。阿武隈川は東境を北流す。米・蕎麥を産し、製絲業行はる。町は附近米産地の中心をなす。陸羽街道は東部を南北に通じ南方郡山市へはバスの便あり。また東北方小濱町、西南方岩代熱海(バス通ず)省線東北本線本宮驛(明治二十年設置)あり。古くは安達郡の内とす。延喜長部省式に安達驛と見ゆも蓋しこの地にして、近世奥州街道の一宿驛たり。村内に城址三あり。即ち明神山の菅菴、及び愛宕山・大黒山にして氏江・遊佐・鹿子田三氏の城にて、三氏は皆二本松の族とす。鹿子田(土人の大黒山といふもの之なり)は鹿子田左衛門の居せし館なり。鹿子田氏は二本松高田の一門にして應永・永享の頃、探題滿泰の庶兄滿詮ここに築き住せし故これを本宮館と稱す。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸、及び明治十四年山形秋田及び北海道行幸の際御小休遊ばされ今その址は指定史蹟なり。(安達太良神社)大字館ノ越に鎮座。祭神、高皇產靈神・神皇產靈神外四神。古へ安達達ヶ岳に鎮座ありし時は靈明神と稱したり。寛平九年正五位下に叙せらる。享保年間、神祇官領家より幣帛勸請の上正一位に叙せられ、寛政年中御勸請あり。文化二年火災に罹りて社殿島有に歸し、同十三年に再建なる。例祭、五日一日、十月十五日。

モトヤマ 本山

【本山村】兵東縣津國武庫郡の中部。住吉村を挟んで神戸市の東にあり、西南部は魚崎町に接す。南は本庄村を経て一軒餘にて大阪灣岸に出づ。背後に六甲山(九三二米)を負ひ、南部は大坂灣岸平野の北部を占む。山中に幾多の斷層が東北より西南に横切る。各種産業よく發達し産物は蔬菜・花卉・米・麥類・食用農産、果實・觀賞用植物・鶏卵・スレート瓦・セメント・水産製造物等なり。縣道及び省線東海道本線・社線阪神急行電車等が南部を横斷し最後の岡本停留所あり。この地は住吉村・精道村と共に文化住宅地・別荘地として知られ、いま甲南高等學校(大正十二年設置)あり。大字岡本の五百山の中腹に岡本梅林あり。道路は平坦にして眺望よく、毎年紀元節に山開きをなす。(保久良神社)大字北高に鎮座。祭神、須佐之男命を主神とし、大歲御祖神・大國主命を相殿とす。延喜の制、官幣の小社に列せられ、新年の幣に銀・靱各一口を加へらる。中世牛頭天王と稱せり。例祭、五月十四日。【本山町】山口縣厚狭郡にある町。宇部市の西方、小野田町の南にあり、龍王

山(一三六米)の東南海中に没するところなり。断崖をもつて海に面するにより有名なり。

【本山炭礦】山口縣厚狭郡小野田町の西部にある炭礦。探掘目的炭層は、第三紀層の砂岩・頁岩中に存在する七甲炭層にて、宇部炭田の五段層に相當するものと稱され、本山脚の西海岸に沿ひ海底下に露出す。當炭層は大正の頃、一ノ山炭礦或は本山炭礦と稱して採行され大正十年休止せしめ、昭和十年より再び採業するに至る。同年重要炭山に列す。

保年中改めて本山寺と號す。嘉永五年再度炎上し一部喪失せしも再建、現在に至る。本堂(觀音堂)・仁王門は國寶。御詠歌「もと山にたれか植えける花なれや春こそ手折れ手向にぞなる」

【本山】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に山田郡本山郷あり。東鑑、嘉祿二年に讃岐國本山莊、石清水領と見ゆるは本郷の地なるべし。いま木田郡川添村の地ならん。同村の大字に元山あり、古名を襲へるものか。

吾の誤にしてこの地なるべし。中世豪族本山氏こゝに居しこれより本山土居の名起る。住時は白我莊河添村なども稱せり。明治二十四年西山山村を本山村と改め、同四十三年町制を布く。(本山城址)宇土居町に在り。本山氏累代の城址。本山氏は清和源氏吉良の庶流にして始祖八木伊典初め此地に起り、孫茂宗、左近大夫と稱し豪邁にして兵を善くし、土佐・香川の二郡及び高岡郡の一部を領し勢盛なりき。のち藤原、梅溪と號し朝倉城を築きてこゝに居たり。明將監親茂、長曾我部氏に屬し豊後戸次の役に戦死せしより本山氏の正統絶滅す。(壽金山) 大字本山宇壽金山に在り。本山町の對岸にありて俗に雁山と稱す。國老野中兼山この地に對せられし時此處に一邸を構ふ。のち慶安四年母堂秋田氏の卒するに及び、茶屋に附せずして儒釋の禮を以て此處に土葬せり。墓上に山崎開齊撰文の墓碑を建つ。開齊この山を名づけて壽金山と稱せり。蓋し古郷に、父母全うして之を生み、子全うして之を傳ふの文義に由りしものなり。本邦往昔佛敎流行し、貴賤の別なく火葬を行ひしが、土葬は此を以て嚆矢となす。

【本山】 豐前國(福岡縣)の古地名。和名抄に京都郡本山郷見ゆ。高山寺本は本田に作り、何れが是なるかを知らず。從つて其の位置詳かならず。

部。五島列島の最南端福江島の東部に位置し、五島の首邑福江町の南西に接續する農村なり。村の南東部は福江熔岩たる玄武岩の臺地、北西部は中世層及び其他の熔岩より成る。又此等中世層を破り花崗岩の噴出を見る所あり。中央は福江より大瀨に至る低地帯なり。玄武岩の臺地上には鬼岳・火岳等の諸火山北東に並び地形に變化を與へ、其の山麓及び臺地面はよく耕されて、殆ど畑地となり、甘藷を始め農作物の産に富む。中央低地帯は主に沖積層より成り水田の分布地帯にして特に村の南部中央に多く、墾墾また此處に分布す。村の南部は多少海岸に臨むも熔岩の末端海岸に崖立し、全く錯地を缺く。故に自村域内を利用する漁業を見る事少し。交通路は福江より南に大瀨村に至るもの及び、福江より村の北部を経て猪掛坂を越え、玉之浦に至るものを其の幹線とす。長崎方面に出づるものは、福江に出て、海路による。

【本山】 熊本縣鹿野郡にありし村。大正十年熊本市に編入す。

【本山】 熊本縣鹿野郡にありし村。大正十年熊本市に編入す。

西南より東北に長く延び、北部には南方に開口せる氣仙沼灣、中部には東方に開口せる小泉灣、南部には志津川灣の灣入ありて、リヤス式海岸をなす。以上三灣口よりは各西方に向ふ斷層ありて、南部の二地塊、北部の二山地に分たる。南部は桃生地塊の北半部にして、南境に倉倉山(五二三米)をはじめ山地東西に連りて北方に傾斜し、川は谷底を東方および西方に流る。東流するものは志津川灣に注ぎ西流するものは北上川に合す。北上川は西部を南流す。桃生地塊の北は志津川地塊にして、中部に田東山(五二二米)・神行堂山(四五九米)・惣内山(三八〇米)等聳ゆ。小泉川はその北麓を東流して小泉灣に注ぐ。志津川地塊の北は北上山地に屬し、西部より南部にわたりて大田山(六八六米)・大森山(七五六米)・徳仙丈山(七一七米)・雙宿山(六三三米)・長森山(四九一米)等連り、北麓は大川は東流し、北方より八瀨川を合して氣仙沼灣に注ぐ。郡の北境には西より君ヶ鼻山(六七二米)・八森平山(五六九米)・(倭長根山(五二〇米)連りて南方に傾斜せり。東部海岸は魚藻盛にして、鮮魚・鱒・鮭・蒲鉾・竹輪等を産し、氣仙沼町・志津川町等の中心地あり。また米・藁・麥・木炭等を産す。道路には東部海岸を南北に通ずるもの、及び北・中・南の斷層谷を東西に通ずるものあり。北を氣仙沼街道、中を西部街道、南を本吉街道と稱す。各

【本山町】 高知縣土佐國長岡郡の西北部。南北約一四軒、東西七軒餘、面積六九・二五方軒の大境域を有す。四國山脈の中央部を占め、北に八町山・白雲山、南に國見山等高山一干餘米の諸峰四圍に聳立し各山脚を南北に伸し山岳重疊して高峻なる山岳地をなす。中央溪谷を買きて吉野川その山下を東に流れ屈曲甚し。流域に平地稍々ありて耕作を營む外は、全町平地殆んどなし。主要農産物に米・麥・蕎麥・梅等の産多し。また河谷は好牧場地をなし牛を飼育す。川の兩岸は並行して國道徳島街道高知市及び徳島・香川縣に至り、又バスの便あり。主要市街は西部、吉野川右岸の平地に開け街道に沿ふ。物産の集散地にして山間の都邑をなし、槍笠製造をなす。日本後紀延暦十六年の條に香樟驛とあるは即ちこの地にして、延喜兵部省式に見ゆる五樟驛も五は

【元吉原村】 靜岡縣駿河國富士郡の南部。富士川河口の東方にあり、北に須津村・吉永村、西に島田村、東に駿東郡原町あり、南は駿河灣に面す。村は東西に長く

【元吉原】 元和四年、江戸に於て初めて許可せる遊女町のありし所。其地は日本橋の葎屋町の附近の高砂町・住吉町・難波町の邊に當る。此處は葎などが生え茂り居りしより葎原と稱し、のち美名の吉原に改む。これが明暦三年淺草の今の地に移りて新吉原と稱し、舊地を元吉原と稱す。好色二代男・七・江戸の遊樂町本吉原の時、三浦に人置が申て、遠州濱松の片里より、わかしは名もありし人の息女を、ふつくり十五の秋の比買取しに、此貌ばせ折ふしの月をも猜み、妻は花を欺く、名を長山と申、擲出しから太夫にして、是沙汰の女良、然もいやしからぬ心ざして、かりなる男も捨たまはぬこそやさしけれ

【元吉原村】 靜岡縣駿河國富士郡の南部。富士川河口の東方にあり、北に須津村・吉永村、西に島田村、東に駿東郡原町あり、南は駿河灣に面す。村は東西に長く

モノノ 桃生

【桃生郡】宮城縣十六郡の一。陸奥國の東部。東は太平洋に面し、北は本吉郡、登米郡・遠田郡、西は宮城郡、東は石巻郡・石巻市に接し、西南は石巻灣に臨む。面積四一四・〇〇方軒。郡の中部を新北上川南流し、之により地形上、東部北上隆起帯と西部大谷地低地帯とに分れる。前者の北境には倉倉山(五三二米)をはじめ山地相連りて南方に傾斜し、南境には上品山(四六八米)、石投山(四五七米)、高梨山等連りて北方に傾斜す。北上川より分岐せる道波川はその中部を東流し、道波灣に注ぐ。道波灣の南には半島突出し、海岸は扇状をなす。半島の南には雄勝灣の灣入あり。西部大谷地低地帯の西縁には丘陵南北に連りて、その南部を鳴瀬川東南に斜断し、石巻灣に注ぐ。新北上川及び西部丘陵地の間には北上川東南に流れ、石巻市に入りて石巻灣に注ぐ。沿岸は廣き低地をなせり。西部は米産に富みまた養・蠶を産す。東部山地には製炭、海岸には漁業行はれ、また所々に牧畜行はる。東部山地には道波川に沿ひて東西に通ずる道路ある外大なるものなきも、西部は道路四通し交通便なり。省線石巻線は郡の西部を西北より東南に通じ、社線宮城線は西部を略東西に通じ、共に石巻市に至る。前者には西北より前谷地・佳景山・鹿又等の驛あり、後者は野蒜・陸前小野・鹿妻・矢本・陸

モノノ 桃生

前赤井・蛇田等の驛あり。名稱は蝦夷征伐の爲に陸奥國に置かれたる桃生城、即ち桃生橋に發し、既に寶龜二年紀には郡名見ゆ(續紀)。後世、本郡を割きて本吉郡を置き以後これに從ふ。和名抄は毛牟乃と註し桃生・磐城・磐城の三郡、餘戸一を管す。【桃生村】宮城縣陸奥國桃生郡の西北部。飯野川町の西北に隣り、西北は北上川を隔て登米郡に、東北は本吉郡に接す。村の中央東部を新北上川南流して東西兩地に分たれ、東部には東境に經山(三五九米)聳え、西北に傾斜し、概ね山地をなすも、西部は陸前平野の東南部なる大谷地低地帯の東縁にして、丘陵・平地相半せり。米・藁・麥・馬を産す。道路は西部を斜走し、省線石巻線佳景山驛へは西南方約九軒あり。古くは和名抄、桃生郡桃生郷の内に在りて、村名は蓋しその遺稱とす。(桃生郷)土俗モノノジロといふ。奈良朝時代、奥羽の蝦夷防禦屯田植民の重要な根據地として置かれし城塞なり。その國史に於ける初見は、續日本紀、天平寶字元年四月四日の條に「其有不孝不忠不友不順者一宜配陸奥桃生、出羽國小野、以清風俗亦擇邊防」と見ゆ。思ふに桃生城創設の議は、この頃を決せしものと思はる。ついで翌二年十月「發陸奥國存浪人遺、桃生城、既而復其調庸、便即占著、又存宿之使實爲、櫛戶」とあり。また同十二月「假、桃生城

モノノ 桃生

東騎兵鎮兵役夫及夷俘等遺、桃生城小野、五道俱入、益就功役」とあり、翌三年九月には、己丑勅遣陸奥國桃生城出羽國雄勝郡、所役郡司、軍穀、鎮兵、馬子合八千一百八十人、從去春月一至子秋季、既離郡土、不願產業、較每念、技情深、願、宜、免、今年所負人身、學、稅」と見え、この月また、割留相模上總下總常陸上野武藏下野等七國度、送軍士器仗、以貯、雄勝桃生二城」とあり。なほこの年、諸國の浮浪一千人を遣して桃生の櫛戸に配せし事が、續日本紀、神護景雲三年正月の勅に「又於陸奥國牡鹿郡、跡、大河、凌、峻嶺、作、桃生櫛、奉、賦、肝、膽」と見ゆるは、恐らく本城塞遺骨の功ほど完成を告げしことを示すものならん。而してこの勅旨によつて宮城の位置を考ふるに、大河といふは北上川なるべく、當代の形勢より察すれば東北の經營は廣澤城といひ、志波城といひ概ね北上川の水路を廻りて北進せしもの如く、これを北上川沿岸に求むるは當然の事と思はる。依つてその遺址は既に大槻文彦・喜田貞吉等の主唱してある桃生郡桃生村茶臼山を中心とし、東西二十軒ばかり、南北一里ばかりの臺地一帯の地に比定して可なるが如し。その故は、いま北上川はこの地の北端より西を廻りて流るるが、この川筋は元和年間の開墾せし山にて、この地の地形地質の状態よりみるに、古は北上川の水は今の櫛津町の邊にて二つに分れ、

モノノ 桃生

一は今の流路を辿り、一はこの地の東にある低地を南に直進し、更にその一部は分れてこの臺地の南を流れて西流し、即ちこの地は全く水流を以て圍まれしことが推定さる。しかもこの所こそは桃生村にて、これは古來の遺名なるべきことは明かなり。桃生の名は和名抄に毛牟乃とあり、アイヌ語の存べる平原丘、瀧へる頂の平たき山(モムタブ)の意なるべく、よくこの地の地形に合致してをり、また前記の「大河に跨り峻嶺を凌ぐ」とあるに相違なき自然の城郭として全く恵まれたる險要にて、西方・南方は廣漠たる平野を控へ、拓殖の根據地としても好適の場所たるを失はず。唯さしたる考古學的の確證を得ざるは遺憾なるも、少なくとも桃生城址の第一の候補地たるには恥ぢず。(日高見神社) 郷社。祭神、天照大神・倭健命・武内宿禰。日本武尊の創建と傳ふ。式内社。神位、從四位下。例祭、陰曆三月十三日・九月十九日。モノイミ 物忌 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡物忌郷あり。毛乃伊美と訓す。その地詳かならざるも或は立田村の邊に當るか。モノノフ 武士 物部(後倭國)モノノベ 物部 【物部】下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に千葉郡物部郷あり。其地詳かならざるも、いま印旛郡に入れる千代田村の邊に當るか。同村の大字物部は郷名の轉訛なるべし。【物部】 越後國(新潟縣)の古地名。和名抄には頸城郡物部郷あり。その地いま中頸城郡菅原村の邊なるべし。同村の大字武士は郷名の轉訛なりといふ。近世はまた武士郷ともいふ。【物部】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に本巢郡物部郷あり。その地いま詳かならざるも本巢郡合渡村・生津村の邊なるべし。【物部】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に安八郡物部郷あり。その地詳かならず。或は名森村の邊を云ふか。【物部】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡物部郷あり。その地詳かならざるも、いま海津郡に入れる高須町の邊を云ふか。【物部】 駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に益頭郡物部郷あり。駿河國造の祖、物部片堅石連公の子孫の居りし所。その地詳かならざるも、今の志田郡東益津村の邊をいふか。【物部】 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に愛智郡物部郷あり。その地いま名古屋市の邊なるべし。【物部】 丹後國(京都府)の古地名。和名抄に與謝郡物部郷あり。延喜式物部神社はいま與謝郡の石川村にあり。さすれば物部郷は凡そ此の邊ならん。【物部】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に生葉郡物部郷あり。その地詳かなら

モノノ 桃生

ざれども或は浮羽郡福富村の邊か。【物部】 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に三根郡物部郷あり。その地いま詳かならず。或は三養基郡の三川村邊をいふか。【物部】 壹岐國(長崎縣)の古地名。和名抄に石田郡物部郷あり。その地いま壹岐郡柳田村の邊といふ。同村の大字に物部あり。郷名の遺稱とす。モノベ 物部 【物部村】 栃木縣下野國芳賀郡の西南部。眞岡町の南方約三軒にして、西南は久下田町と隣り、南は茨城縣眞壁郡・西茨城郡と隣す。東境に約二八〇米の山地ありて村内に傾斜し、山麓を小貝川南流し、それより西は平地開け、西部には五行川南流し、水田多く、米は第一の主産物なり。その他大麥・小麥・蕎麥(あぶらな)等を産す。特産物としては、東部の山地より三谷砥石を産す。縣道は眞岡町および久下田町に通じ、バスの便あり。また西境に近き、西隣の中村地内に省線眞岡線寺内驛ありて縣道を通ず。古くは和名抄、芳賀郡物部郷の地に在りて、村名は蓋しその遺稱とす。中世は物部井に訛れり。(櫻町陣屋跡) 指定史蹟。元禄十一年小田原藩主、大久保忠朝三男教信は宇津氏を嗣ぎ、此地を領するに及び陣屋を置きたる處なり。のち文政五年、二宮尊徳藩主大久保忠朝の命を受け此陣屋に居住して芝蕪を開拓し、水利を通じ報徳調を弘

モノノ 桃生

め住民を指導誘致せり。東・西・北三面には水路を繞らす、もと四周に土壘を繞らしたるも、東方の分は早く尊徳の頃に除き、北西の間は明治維新後破壊せられ敷地東部に草葺平屋建一棟あり。尊徳居住の陣屋の一部なり。居間及び座敷戸・櫛・板戸に秘書不退堂聖徳が報徳調及び和歌を書せるものを存す。城内いま水路を通じ開拓して水田と高地となせるも敷地の境界明かに陣屋の一部土壘・井戸・池等を存し、尊徳居住當時の陣屋の規模見るに足る。(尊徳寺) 大字高田にあり。眞宗高田派。高田山と號す。古くは高田別院と稱す。親鸞二十四輩の第二眞佛の遺跡にして、親鸞、眞岡城主大内氏の援助を得、嘉祿元年、その感得せる善光寺の阿彌陀如來の分身を安置して、開創す。翌二年後白河天皇、勅願所の繪旨及び專修阿彌陀寺の寺號を賜はる。寛政六年、伊勢一身田に專修寺を建て、高田派の本寺となし、下野の專修寺を兼帯所とす。爾後、本寺には住職を置かず、歴代伊勢にてこれが開帳供養を行へり。江戸時代は殊に盛んにして、櫻町・後桃園・後櫻町・光格の諸帝、これを宮中に迎へて御禮拜ありき。【物部村】 滋賀縣近江國栗田郡の北部。草津町の東北約三軒に在り、北は野洲郡守山町に界す。地勢一帯に平坦なり。村民の七割は農業に他は商工業に従事し、産物に米・麥・菜種の農産物あり。中山道

モノノ 桃生

モノノ 桃生

一は今の流路を辿り、一はこの地の東にある低地を南に直進し、更にその一部は分れてこの臺地の南を流れて西流し、即ちこの地は全く水流を以て圍まれしことが推定さる。しかもこの所こそは桃生村にて、これは古來の遺名なるべきことは明かなり。桃生の名は和名抄に毛牟乃とあり、アイヌ語の存べる平原丘、瀧へる頂の平たき山(モムタブ)の意なるべく、よくこの地の地形に合致してをり、また前記の「大河に跨り峻嶺を凌ぐ」とあるに相違なき自然の城郭として全く恵まれたる險要にて、西方・南方は廣漠たる平野を控へ、拓殖の根據地としても好適の場所たるを失はず。唯さしたる考古學的の確證を得ざるは遺憾なるも、少なくとも桃生城址の第一の候補地たるには恥ぢず。(日高見神社) 郷社。祭神、天照大神・倭健命・武内宿禰。日本武尊の創建と傳ふ。式内社。神位、從四位下。例祭、陰曆三月十三日・九月十九日。モノイミ 物忌 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡物忌郷あり。毛乃伊美と訓す。その地詳かならざるも或は立田村の邊に當るか。モノノフ 武士 物部(後倭國)モノノベ 物部 【物部】 下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に千葉郡物部郷あり。其地詳かならざるも、いま印旛郡に入れる千代田村の邊に當るか。同村の大字物部は郷名の轉訛なるべし。【物部】 越後國(新潟縣)の古地名。和名抄には頸城郡物部郷あり。その地いま中頸城郡菅原村の邊なるべし。同村の大字武士は郷名の轉訛なりといふ。近世はまた武士郷ともいふ。【物部】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に本巢郡物部郷あり。その地いま詳かならざるも本巢郡合渡村・生津村の邊なるべし。【物部】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に安八郡物部郷あり。その地詳かならず。或は名森村の邊を云ふか。【物部】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡物部郷あり。その地詳かならざるも、いま海津郡に入れる高須町の邊を云ふか。【物部】 駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に益頭郡物部郷あり。駿河國造の祖、物部片堅石連公の子孫の居りし所。その地詳かならざるも、今の志田郡東益津村の邊をいふか。【物部】 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に愛智郡物部郷あり。その地いま名古屋市の邊なるべし。【物部】 丹後國(京都府)の古地名。和名抄に與謝郡物部郷あり。延喜式物部神社はいま與謝郡の石川村にあり。さすれば物部郷は凡そ此の邊ならん。【物部】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に生葉郡物部郷あり。その地詳かなら

モノノ 桃生

モノノ 桃生

め住民を指導誘致せり。東・西・北三面には水路を繞らす、もと四周に土壘を繞らしたるも、東方の分は早く尊徳の頃に除き、北西の間は明治維新後破壊せられ敷地東部に草葺平屋建一棟あり。尊徳居住の陣屋の一部なり。居間及び座敷戸・櫛・板戸に秘書不退堂聖徳が報徳調及び和歌を書せるものを存す。城内いま水路を通じ開拓して水田と高地となせるも敷地の境界明かに陣屋の一部土壘・井戸・池等を存し、尊徳居住當時の陣屋の規模見るに足る。(尊徳寺) 大字高田にあり。眞宗高田派。高田山と號す。古くは高田別院と稱す。親鸞二十四輩の第二眞佛の遺跡にして、親鸞、眞岡城主大内氏の援助を得、嘉祿元年、その感得せる善光寺の阿彌陀如來の分身を安置して、開創す。翌二年後白河天皇、勅願所の繪旨及び專修阿彌陀寺の寺號を賜はる。寛政六年、伊勢一身田に專修寺を建て、高田派の本寺となし、下野の專修寺を兼帯所とす。爾後、本寺には住職を置かず、歴代伊勢にてこれが開帳供養を行へり。江戸時代は殊に盛んにして、櫻町・後桃園・後櫻町・光格の諸帝、これを宮中に迎へて御禮拜ありき。【物部村】 滋賀縣近江國栗田郡の北部。草津町の東北約三軒に在り、北は野洲郡守山町に界す。地勢一帯に平坦なり。村民の七割は農業に他は商工業に従事し、産物に米・麥・菜種の農産物あり。中山道

モノノ 桃生

モノノ 桃生

め住民を指導誘致せり。東・西・北三面には水路を繞らす、もと四周に土壘を繞らしたるも、東方の分は早く尊徳の頃に除き、北西の間は明治維新後破壊せられ敷地東部に草葺平屋建一棟あり。尊徳居住の陣屋の一部なり。居間及び座敷戸・櫛・板戸に秘書不退堂聖徳が報徳調及び和歌を書せるものを存す。城内いま水路を通じ開拓して水田と高地となせるも敷地の境界明かに陣屋の一部土壘・井戸・池等を存し、尊徳居住當時の陣屋の規模見るに足る。(尊徳寺) 大字高田にあり。眞宗高田派。高田山と號す。古くは高田別院と稱す。親鸞二十四輩の第二眞佛の遺跡にして、親鸞、眞岡城主大内氏の援助を得、嘉祿元年、その感得せる善光寺の阿彌陀如來の分身を安置して、開創す。翌二年後白河天皇、勅願所の繪旨及び專修阿彌陀寺の寺號を賜はる。寛政六年、伊勢一身田に專修寺を建て、高田派の本寺となし、下野の專修寺を兼帯所とす。爾後、本寺には住職を置かず、歴代伊勢にてこれが開帳供養を行へり。江戸時代は殊に盛んにして、櫻町・後桃園・後櫻町・光格の諸帝、これを宮中に迎へて御禮拜ありき。【物部村】 滋賀縣近江國栗田郡の北部。草津町の東北約三軒に在り、北は野洲郡守山町に界す。地勢一帯に平坦なり。村民の七割は農業に他は商工業に従事し、産物に米・麥・菜種の農産物あり。中山道

モノノ 桃生

モノノ 桃生

め住民を指導誘致せり。東・西・北三面には水路を繞らす、もと四周に土壘を繞らしたるも、東方の分は早く尊徳の頃に除き、北西の間は明治維新後破壊せられ敷地東部に草葺平屋建一棟あり。尊徳居住の陣屋の一部なり。居間及び座敷戸・櫛・板戸に秘書不退堂聖徳が報徳調及び和歌を書せるものを存す。城内いま水路を通じ開拓して水田と高地となせるも敷地の境界明かに陣屋の一部土壘・井戸・池等を存し、尊徳居住當時の陣屋の規模見るに足る。(尊徳寺) 大字高田にあり。眞宗高田派。高田山と號す。古くは高田別院と稱す。親鸞二十四輩の第二眞佛の遺跡にして、親鸞、眞岡城主大内氏の援助を得、嘉祿元年、その感得せる善光寺の阿彌陀如來の分身を安置して、開創す。翌二年後白河天皇、勅願所の繪旨及び專修阿彌陀寺の寺號を賜はる。寛政六年、伊勢一身田に專修寺を建て、高田派の本寺となし、下野の專修寺を兼帯所とす。爾後、本寺には住職を置かず、歴代伊勢にてこれが開帳供養を行へり。江戸時代は殊に盛んにして、櫻町・後桃園・後櫻町・光格の諸帝、これを宮中に迎へて御禮拜ありき。【物部村】 滋賀縣近江國栗田郡の北部。草津町の東北約三軒に在り、北は野洲郡守山町に界す。地勢一帯に平坦なり。村民の七割は農業に他は商工業に従事し、産物に米・麥・菜種の農産物あり。中山道

部郡の是製糖工場に送らる。此の地理的好條件は新業進展の要因たり。本村は上代の物部氏と關係あるものならん。和名抄物部郷の故地、いま物部村字物部は其の遺稱、式内須波伎部神社は、宇敷助岐に鎮座あり。須波伎・諏訪岐、蓋し同語ならん。中世に細川氏の所領となり、守護代内藤氏これを治む。近世、明智光秀の領する所となるも、滅亡後、秀吉の治下に歸したり。江戸時代に於ては多数の領主に分領せられ、加ふるに領主の交代頻繁たりき。(須波岐部神社)大字物部に鎮座。郷社。祭神、天照大日靈命。大同二年に須波山に鎮りますと傳ふ。貞觀十一年從五位下に叙せられ、延喜の制、國幣の小社に列す。元和九年再建すといふ。例祭、十月十七日。

【物部】兵庫縣津名郡にありし村。明治四十一年に洲本町・洲村と共に廢され洲本町を置く。

【物部川】高知縣香美郡を貫流して土佐灣に注ぐ。水源は徳島縣境四ツ正堂(一〇一七米)に於て那賀川と分水し、その上流は石立山(一七〇八米)・行者山(一三五五米)・赤城尾山(一四三六米)の西側の水を集むる横山川・杉原谷と稱し、中流大橋に於て白雲山(一七六九米)より流れ来る久保川を合す。大橋より上流に於ては河底よりの比高約二〇〇米を有する段丘あり、この緩斜面に落葉が散在して、伐木・薪炭製造などの林業を行は

か、楮・三椏を栽培して、副業的家内工業として冬季製紙業を行ふ。河流は大橋に於て北に曲流迂迴して、永瀬より西南の方向に流る。吉野・下野尻の間には比高約八〇米を有する見事なる河岸段丘あり。神母木・談議所に於て高知平野に出でここに野中兼山が築堤せる山田堰ありて、河水は遠く浦戸灣に導かれ香美・長岡二郡に跨る高知平野の北部を灌溉す。東流はこれより棚状をなして野市の西方を流れ、前濱砂丘列の東端に於て土佐灣に注ぐ。流域約八二軒。昔は舟楫を通ずること約三〇軒に及びたり。

【物部】土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に香美郡物部郷あり。中世に物部莊といふ。其地いま三島村の邊なるべし。同村の大字物部は郷名の遺稱なり。

モノミ 物見

【物見山】那須火山帯日光火山群の一峯。東面は栃木縣那須谷郡栗山村に、西面は群馬縣利根郡片品村に屬す。標高二一七米。北東麓に鬼怒沼山(二二四一米)・黒岩山(二二六三米)續き、南麓には黒蒸山(二二二二米)連る。南東斜面は東流する鬼怒川、北斜面は南流する片品川の源地なり。

【物見山】川越市の西方約一六軒、飯能町の北方に當り、埼玉縣入間郡高麗・山根の二村境上に位し、標高三七五米。高麗川は南西麓より發して南・東麓を廻流し、北東方に向ひて荒川支流の越邊川を

潤す。東京附近の低山ハイキング地として第一に擧ぐべき山にして、山中植林あり、新緑の候は殊に美し。この山の南麓高麗村は元正天皇の御代、關東各地に散在せる高麗人約二千人を集めて集團生活を營ましめたる歴史上古き地にして、いま高麗神社及び聖天院あり。

【物見岳】中國山脈の一峯。山口市の北東方約一五軒にありて、山口縣吉敷郡仁保村と阿武郡篠生村との境上に峙つ。標高七四六米。北東麓に高羽ヶ岳續き、北麓より西麓へと山陰道および省線山口線相並び通ず。

モハラ 茂原町

千葉縣上總國長生郡の中部。九十九里濱沿岸平地の西南隅を占め、一宮川の北岸に沿ひ、東西に長く面積一一・三四平方軒。西北部は丘陵起伏し、南部・東北部は平坦廣潤にして田畑・桑園相連なる。もと郡役場所在地たりし地に於て諸官衙・學校・商工機關多く、附近に著名な佛蘭多内人馬の來往盛にして、商業發達郡内の物資常に輻輳す。なほ毎月六回市場を開き賑を極む。市街地は町の中央に發達して概ね商業を營み、在郷は一般に農業に従事し、米麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。中にも製糸業盛にして、また農家の副業に庭及び繩を製出し蔬菜を出す。また最近天然ガスを利用してガラス・電球等の製造盛となる。縣道は中央より放射狀に出で、東方一宮町、西南方藤野町、北方山武郡大

モヒキ 百引村

鹿兒島縣大隅郡肝屬郡の東北部。高麗山脈の東斜面を占め、

標高の東方約一〇軒にあり。北と東は嶺嶺郡に界す。西部には高麗山脈連り全村その斜面を占め極めて緩く東方に傾斜す。瀬戸間伏川は西部に發して中央を東

今南流し、東北部には東南に流れる一支流ありて東境近くに於て兩者相合し嶺嶺郡に入る。主産物は米・甘藷・牛・繭・大豆・粟・小麥・木炭・馬・茶種・裸麥にして、特産物には橘蜜柑と大明竹とあり。橘蜜柑は俗に川畑蜜柑と稱し縣内の川邊郡加世田町宇川畑より傳來せるものにて、全村各戸庭に植栽せらる。或人は右近橋といふも、果實は橘と比較にならず。大衆向として歡迎さる。大明竹は材は使用價値なきも筒は極めて美味、柔軟にて筒中髓一なり。大名竹・デメダケともいふ。全村山地なれば人口密度少く七人なり(なほ郡平均密度は一三四人に達す)。縣道は中央を屈曲しつゝ南北に貫通し、途中より一道路分れて西北走し鹿兒島灣岸に出づるものあり。自動車・馬車の便あり。建治二年文書に、曾野郡平房六町又百引十三町とあるは此地なり。百引は古文書に百足に作る。村内に加瀬田城址あり、肝付藩太郎使陸の居城。建武三年島津貞久當城を攻略し、其後、檢井頼仲當城を陥れ、弟頼重を城主とす。島津氏久また頼重領主に命じて頼重を討たしめ、自ら兵を率ゐて助く。觀應二年當城を圍み、終に頼重は日向に走る。其後の城主詳かならず。

モヘチ——モミサ

モヘチ 茂邊地

北海道渡島支廳上磯郡にありし村。明治三十九年茂別村と改稱す。いま茂別村大字茂邊地に省線江差線茂邊地驛(昭和五年設置)あり。

モベツ 茂別村

北海道渡島國渡島支廳上磯郡の北部。函館灣に面し函館市の對岸に位す。北は上磯町、西南は木古内村に接す。面積一三二・三五方軒。西接檜山支廳を隔てたる山脈は東方に向ひて傾くも村内概ね山地に占められ、茂邊地・當別・大當別川等、山間を東流して沿岸に小平地を開く。海岸は小出入ありて茂邊地・當別等の漁業發落ありて鮭・鱒・柔魚等の漁獲をなす。その他木材・馬鈴薯・大豆・乳製品を産するも何れも少額なり。村内に九八萬坪の鐵礦を有する不二鐵山あり、鐵種は金銀銅、昭和十年より事業を開始す。中央海岸葛登支脚に燈臺あり。省線江差線茂邊地・渡島當別の二驛(共に昭和五年設置)を有す。明治三十三年に一般町村制を施行す。永享中、出羽の秋田牧守は南部氏と戦ひ、敗れて此地に走る。(茂別館址(下國館址))大字茂邊地に在り。茂邊地川東岸の丘陵上に大小二館より成る。何れも自然の地形を利し、且つ土壘・空濠を繞らせしものにして、その遺址を存す。津輕十三湊の城主下國安東大盛季、南部氏に追はれ此地に至りてこゝに館せりと云ふ。また享徳三年、下國政季南部より逃れてここに來住し、以來下國氏の居館となりしと

云ふ。(矢不來岩址)大字茂邊地字矢不來にあり。矢不來川と支流館の澤との間に突出せる丘岬にありて、左右急峻なる斷崖にして後方に三重の土壘及び空濠あり。(トラピスト修道院男子部)大字當別に在り。湯ノ川天徳園と共に佛國天主教一派トラピスト團の經營にかゝり、男子修道場にして明治二十八年歸化人岡田善理衛の創設に係る。修道の傍ら開墾牧畜の業に従ひ、その生産する乳酪はトラピストバターと稱せらる。

モホー 茂豊面

朝鮮全羅北道茂朱郡の東部。道東東南約二〇軒。東は慶尙北道金泉郡釜項面・大徳面、南は慶尙南道居昌郡高梯面に界す。東西は平均六軒、南北は一〇一五軒あり。四境山に圍まれ、東より南にかけて小白山脈の主脈走り大徳山(二二九〇米)・三峰山(二二五四米)聳え、大徳山の支脈西に延びて中央に望徳山(八七二米)聳る。西南境には興徳山(二二七五米)あり。望徳山の北に高麗三百米臺の盆地あり、之を灌溉して西北に去る南大川沿岸に田畑ひろく、米・麥・粟・楮等を産し、また金銀の鑛産あり、此地の鑛業は沿革古きもの如く、南大川上流に銀山里・銀庫等の里洞名を存す。郡邑茂朱より居昌、金泉に通ずる道路南大川の谷を縫ひ、金泉方面にバスの便あり。主邑茂豊場(縣内里)は盆地の中心に位し、新羅景徳王の時以來置かれたる茂豊郡の主邑とす。

モミキ 樺木村

熊本縣肥後國八代郡の東部。九州山脈中川邊川の源流地を占め、八代町より約二八軒東方にある山村。四周險岳を以て圍まれ、西の一部のみ河谷によりて隣村に續く。即ち東境には南北に連る國見嶺(一七九三米)・五男山・鳥帽子嶺(一六九二米)等の峻嶺あり。之より一五〇〇米前後の連峯が西方更に西北方へ延び水上越(一四五八米)・上福根山(一六四五米)等を起して南境と西境南半を劃し、北部にも西南方に連る山嶺ありて北境と西境北半を限る。川邊川は北に發して西南流し西北部山脈の西南端を繞りて西北折し隣村に出づ。當村は謂ゆる五箇莊の一部にて山深く隔絶されたる地方をなす。山岳重疊して低地殆どなく村民は林業を主業とし農業も行はる。交通の便悪し。いま柿迫村・栗木村・仁田尾村・久連子村・樺原村・葉木村と組合村を成し、柿迫村に役場を置く。※五箇莊

モミサワ 樺澤岳

日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。長野縣北安曇郡平村と岐阜縣吉城郡上寶村との境に聳ち、標高二七五四米。南東麓は槍ヶ岳に連り、北西麓は雙六岳を経て三俣蘆原岳に續く。雙六岳との中間には雙六池を湛ふ。南斜面より蒲田川一支の左俣谷の溪流發して南流し、北斜面よりは高瀬川一支の湯俣川流出して東流し、西斜面よりは雙六川上源の金木戸川源流して南西流

す。この山は槍ヶ岳より鳥帽子岳への縦走路、槍ヶ岳より薬師岳への縦走路に當り、また大町方面より高瀬川を過り三俣運河小屋を経て、槍ヶ岳に至る登山路にも當る。

モミジヤマ

紅葉山 北海道 石狩國夕張郡夕張町の大字。省線夕張線の紅葉山驛(明治二十五年設置)あり。

モモ

百島 下島村(廣島縣) ありし村。明治三十一年に佛生山町と改稱す。

モモイ

百相 香川縣香川郡ありし村。明治三十一年に佛生山町と改稱す。

モモイシ

百石町 青森縣陸奥國上北郡の東南部。八戸市の北方約一三軒。南は奥入瀬川を隔て三戸郡に接し、東は太平洋に面す。三本木臺地の東南部を占め、全村概ね臺地をなし、奥入瀬川は南境を東流し太平洋に注ぐ。その北岸低平なり。海岸は平直にして灣入なく砂濱をなす。臺地は森林原野をなせる所多し。米・馬鈴薯・蕪等を産したる牧馬行はる。道路は町の西部を南北に通ず。西方の省線東北本線下田驛へはバスの便あり。昭和四年に町制施行す。

モモエタ

百枝村 大分縣豊後國大野郡の中部。大野川の右岸に沿ひ東南は三重町に界す。土地丘陵性にして東北境に大辻山(二四九米)あり。大野川は西境に沿ひて屈曲しつゝ東北流す。森林地帯廣く河川に沿ふ農耕地には米・麥の産あり。省線豊後本線が西南部を横切り三重

モモカワ

百川 栃木縣上野郡那須野村大字上野野の字。此地に二五萬餘坪の鎮區を有する百川鎮山(鎮種は滿六〇〇畝)價額約一萬一千圓を出し、一應重要鎮山に列す。

モモシマ

百島村 廣島縣後國沼隈郡の西南海上、浦戸村の南方約一軒の瀬戸内海上の百島一島を占む。南は海峡を隔てて、横島・田島を隔み西方に向島存す。面積三・九平方軒。島内概ね海抜二〇〇米の臺地に占められ、北海岸に小平地あり。山麓より海岸に掛けて耕地多し。海岸線は出入多く福田・泊などの部落あり。農産・漁業を營み、果實・米・麥・繭・鯛・鯖・鰯等を産す。近海に渡船の便を有す。俗にもと五十島と書きしが、後世、戸數増加せしむる爲百島と改むといふ。

モモセ

百瀬村 滋賀縣近江國高島郡の東北部。琵琶湖北岸。今津町の北方凡そ四軒。西北は七〇〇米餘の山脈により福井縣若狹國三方郡に界す。平地は村の東南半湖岸に沖積され、西北部山地より出づる小流これを潰流す。山地は概ね森林にして木炭を出し、平地には米麥の耕作行はる。山麓部一帯には桑園ひらけ湖の産少からず。高島織の家庭工業行はれ、最近タイヤ芯地も産出さる。栗

モモノイ

桃井 群馬縣上野國群馬郡の中部。榛名山東斜面の一部を占め、金古町の西北隣にて、西北の一部は伊香保町と隣す。西北部に吾妻山(八三二米)ありて、これより次第に東方に傾斜し、山地は森林多し。東部の山裾には桑園耕地ありて米・麥を産し養蠶も盛なり。縣道は金古町に通じ、また村道は榛名山中腹を北走して伊香保町に通ず。中世、天野遠景の領邑にして、あち尼利義徳の四男遠江守義胤の地に居して桃井氏を稱す。

モモヒキ

百引村 下野引村(鹿兒

落は山麓に多く、之等を結びて今津町・海津村へ至る縣道バスを通じ、兩港より湖上船の便あり。(知内湖船場)大字知内にあり。滋賀縣水産試験場の附屬船場にして、琵琶湖に放流すべき幾萬の鱒を孵化養殖す。(大蔵神社)大字森西に鎮座。神社、祭神、大地主神。式内社。例祭、四月二十二日。

モモノ

桃園 三重縣伊勢國一志郡の東部。雲出川の左岸に位し、久居町の東南に接す。東北約四軒には津市あり。全村地形低平なり。土地肥沃にして水利の便よく米・繭・麥を産し工業・畜産あり。西部は奈良街道及び社線參宮急行電線が通過し、東部は省線參宮線が走りて高茶屋驛(東北約一軒)に近し。大字新家は東中、文治三年の條に、伊勢國新屋莊と見ゆる地なり。大字木造も中世は木造莊と云ひ北島鎮の二男顯俊の地に築く。その子を木造俊康と云ひ北朝に屬す。歌枕に五十箇御井といふは、大字新居にありしものならんといふ。夫木・二六・五月雨は雲まもみさす山ののいそしのみるも水まさりつゝ 爲家

モモタチ

百立炭礦 福岡縣鞍手郡西川村内に、鎮區七萬餘坪を有する石炭山。昭和十年の産額は塊炭一、三七六噸、粉炭二〇六三噸、切込炭五、九七九噸、粗炭六九七噸(この總價額五萬五千餘圓にして同年六月末の鎮區數は八十九人とす。現に重要鎮山に列す。

モモタニ

桃谷 省線城東線の一驛(明治二十八年設置)。大阪市天王寺區堂ヶ芝町にあり。

モモトリ

桃取村 三重縣志摩國志摩郡の北方海上に横はる若志島の西南半を占む。鳥羽町の東北一軒餘の海上に當り、中央に一六七米の丘陵あり。海岸は小屈曲に富み、附近海上は小島嶼散在し南方には坂手島、東南には菅島等を望み北方海上には牛島・浮島、西方には辨天島・日向島等浮ぶ。水産業を主生業とし主産物は鯛・鱈・鰯、また米・麥・蠶・繭等も産す。鳥羽へ毎日便船あり。明治三十年に答志村の大字桃取を分割して本村を建つ。

モモノ

桃野村 群馬縣上野國利根郡の西南部。利根川の西岸にて、沼田町

モモヤマ

桃山 山城國の伏見城址の邊の通稱。伏見城はもと巨幡山の一部に營まれしが、元和年間には全く廢城となり、その址には梅や桃が植ゑられたり。桃山の稱ありき。明治の頃まではその宇治見臺の邊は梅谷と稱し、觀梅の一名所たり。また城北にありし養蠶内村の邊には切花用の桃多く植ゑられ、陽春の候は美しかりき。明治天皇・昭憲皇太后の御陵が相次ぎて此地に設けられ、伏見桃山の名は世界的に有名となる。いま京都市伏見區の一町名となり、省線奈良線の桃山驛(明治二十八年設置)を置く。

モヤマ

夷山 北海道千島國根室支廳釧路郡釧路村の字。即ち樺太島の北東端に當る。その沿海は茂世路湖にして、北西沿海は小リアス海岸をなし人家集り近海漁場多し。夏期には二三十噸の鰯船が凡そ隔日に貨物或は旅客を運搬して北海道本島との連絡をとり、外に命令航路の船も來航す。冬ともなれば月三回の定期船も危險のため來航せざること多し。湖の南岸には茂世路山(一九六米)聳ゆ。この山は活火山にて全山火山岩より成り、その一帯硫黄嶺には茂世路鎮山ありて硫黄を産す。(茂世路鎮山)鎮區十萬餘坪、茂世路商會社の發行に係り、昭和十年には硫黄二、五八五噸(一三萬餘

モヨロ

茂世路 北海道千島國根室支廳釧路郡釧路村の字。即ち樺太島の北東端に當る。その沿海は茂世路湖にして、北西沿海は小リアス海岸をなし人家集り近海漁場多し。夏期には二三十噸の鰯船が凡そ隔日に貨物或は旅客を運搬して北海道本島との連絡をとり、外に命令航路の船も來航す。冬ともなれば月三回の定期船も危險のため來航せざること多し。湖の南岸には茂世路山(一九六米)聳ゆ。この山は活火山にて全山火山岩より成り、その一帯硫黄嶺には茂世路鎮山ありて硫黄を産す。(茂世路鎮山)鎮區十萬餘坪、茂世路商會社の發行に係り、昭和十年には硫黄二、五八五噸(一三萬餘

モリ

母里 兵庫縣播磨國加古郡の東端。北より東北にかけては美濃郡に圍まれ、東北一軒餘に美濃郡三木町あり。東より南は明石郡に圍まる。東北部はやや高かるも、其他は地形概して平坦にして中部と西部に灌漑用湖あり。米産多く麥・西瓜・甘藷・吹・酢・清酒・醬油等を産す。縣道は中央を東北より西南に横断し、東部には明石市にも達す。各バスの便よし。この地は古への印南野の一部にして近世に開墾されし處なり。

モヨロ

藻寄灣 北海道千島國樺太島の北東端ラッキョウ岬の南に在る灣。灣口東に向ひ幅約六哩、灣入二哩半。藻寄川・ヤマベツ川・硫黄川これに注ぐ。冬季は淡水の爲に閉さる。

モリ

母里 兵庫縣播磨國加古郡の東端。北より東北にかけては美濃郡に圍まれ、東北一軒餘に美濃郡三木町あり。東より南は明石郡に圍まる。東北部はやや高かるも、其他は地形概して平坦にして中部と西部に灌漑用湖あり。米産多く麥・西瓜・甘藷・吹・酢・清酒・醬油等を産す。縣道は中央を東北より西南に横断し、東部には明石市にも達す。各バスの便よし。この地は古への印南野の一部にして近世に開墾されし處なり。

茅工品、繩、綿等を産す。社線伯陽電線は村内に母里驛(昭和五年設置)を置き、以て鳥取縣米子市に連り、また安来町に縣道通じバスの便あり。古くは母里郷と云ひ、和名抄に能義部母里郷と見え、中世は母里莊に作る。寛文六年、松江藩主松平直政は三男隆政に母里の樂田一萬石を分與す。その子孫世襲し、明治維新に至る。

【望理】三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に參河國寶飯郡望理郷あり。その地は凡そ今の寶飯郡の國府町・御油町等の邊に當るか。國府町の大字の森村は郷名の遺稱なるべしといふ。

モリ 森

【森町】北海道渡島國渡島支庁茅部郡の西部。駒ヶ嶽の西麓を占め、内浦灣に北面す。南は檜山・龜田二郡に、西は落部村に接す。面積三一・三四方軒。東部はコニーデ火山駒ヶ嶽の斜面に屬し高峻なり。西南界また山脈横りて一千米に近く諸川の發源あり。河岸に向ひて傾く。中ノ川・鳥崎・尾内川は北流して海に注ぎ、赤井・羽野邊川等は東南流して駒ヶ嶽南麓の大沼・小沼に注ぐ。流域平地及び海岸平地を西北に連りて省線函館本線貫通し赤井川(明治三十七年設置)・駒ヶ嶽・森・石倉(以上明治三十六年設置)の四驛あり、森驛より社線渡島海岸鐵道分岐東定し東森(昭和五年設置)・尾内驛(昭和二年設置)を置く。室蘭港に定期航路

を有す。漁業を主とし、鱈・鮭・鱈・昆布及び馬鈴薯・大豆・澱粉・狐等を産す。當町の地域内には石油山あれど採はず、されど金鑛山は下記大盛鑛山を始めとして比較的成績よろし。森鑛山(鑛種は金銀鑛)の如き昭和九年の試採に於て金銀鑛一、一五九兩を産出して、一躍重要鑛山に列す。明治三十五年二級町村制施行、同四十年一級町村制施行し、大正十年森村を森町と改稱す。もと茅部・山越二郡役所置かる。明治天皇 明治十四年山形秋田及び北海道行幸の際この地にて御泊遊ばさる。いま明治天皇行在所及御上陸地として指定史蹟たり。(大盛鑛山)森町内に鑛區八十九萬坪を占め、森驛の南方、鳥崎川を廻ること約一五軒の地點にあり。鑛種は金銀。鑛床はこれ等は安山岩及び凝灰岩にして、鑛床はこれ等の岩石をほげ東西に縱斷せる裂縫充填合合銀石英脈なり。主要脈は一條にして脈幅約二二〇米、傾斜七〇度内外、多量の滿佈と少量の硫化鐵を伴伴す。昭和十年の産額は金銀鑛一、二七〇兩(價格四萬六千餘圓)にて、同年六月末の鑛夫数は七〇人とす。當鑛山は昭和五年の發見に係り、同六年より試採をなされれるが同十年遂に重要鑛山に列す。現在日本鑛業會社採行(駒ノ海鑛泉)泉質は食鹽泉、クローカルシウムを含む。駒ヶ嶽の西麓にありて、その頂上へは九・二軒、登山口へ約二軒にて達す。(濁川温泉)大

字濁川にあり。泉質は鹽分を含める硫酸泉。往古、噴火山の破壊時代に、大爆發をなしたる跡の盆地にして、一望廣漠たり。こゝに至る道は濁川の溪流に沿ひ、秋季觀楓の勝地とす。(稻荷神社)宇上臺に鎮座。郷社。倉稻魂命。正徳年間、松前領時代の創建に係るといふ。例祭、七月十日。

【森村】長野縣信濃國埴科郡の北西部。屋代町の東南に接す。村は東西二山脈の間の麓谷にあり。東は大峰(八四一米)、鏡臺山(二六九米)にして、其の延長は東南に大峰山(一三二七米)、太郎山(一六四米)にして、西南に急崖をなし斷崖層たるを思はしむ。西は有明山(六四八米)、五里ヶ岳(〇九四米)ありて前記山地より分離す。耕地面積二五六町にして村の全面積に對する耕地率一七%にして山村の性質を有す。田七六・五町、畑一八〇町、桑畑はその中の一二五町にして耕地面積の半に及ぶ。養蠶は村の主要なり。古くは和名抄、埴科郡倉科郷の内とす(興正寺)淨土宗。大城山と號す。創建年代詳かならず。天文二十一年に戦火に罹り悉く灰燼に歸し、のち清野村・土口村を経て、天正二年現地に移轉せしも、天明六年に火災に罹り、寛正年間に再建して現在に至る。

【森町】靜岡縣遠江國岡智郡の南部。南流する太田川の河口臺落として發達す。町域は大田川によりて東西に分れ、東部

(昭和四年設置)を置く。日田方面へバスの便あり。此地は古くは和名抄、球珠郡永野郷の内。のち久留島氏一萬二千五百石の城下町にして古く久壽年間、源為朝この地に築造すと傳へらる(今の角半禮城址これなり)。近代郡役所を置かれたり。明治二十六年町制を布く。(森城)大字森にその址あり。古の角半禮城なり。弘安中、森朝通こゝに居す。應永以降大友氏に屬す。天正十四年、島津氏の將新納忠元來り攻めし事あり。慶長六年、來島廣親(のち久留島と改む)一萬二千五百石を食み、營を築き、子孫相繼いで明治に至る。(大岩扇山)帆足及び森に跨る。指定天然記念物。日出生臺の西端に在る。平頂圓形の卓子状山岳にして、標高六九一米。頂部に厚き複層石安山岩の熔岩層を載き、下部は集塊岩と凝灰岩よりなる。熔岩層は四方直立の斷崖を繞らし崖下に崖壁厚く發達し熔岩マサの最も標式的のものなり。(清水瀑園)内帆足に在り。内帆足の瀑とも稱し、大小四十三の飛瀑懸りて頗る壯觀なり。(日出生臺)面積約四六方軒、波状をなせる廣原にして、陸軍の演習地となり、數十棟の兵舎及び附屬建築物あり。

【森江野村】福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

は黒岩山の餘波、西部は本宮山の南麓に當る山地にして、高峻ならざれども開折進み、平地は中央河岸に散在するのみ。河岸に沿うて北部に城下、南部に森町あり、森は社線靜岡電鐵秋葉線の終點にして、省線二俣東線の遠江森驛(昭和十年設置)を置く。茶・薪炭等の産あり。古くは和名抄、山名郡森田郷の内にして近世は天方村・三倉村と共に天方と總稱せらる。舊郡役所の所在地。太田川の東の山丘に天方城址あり。應永の頃、山内道英の築きしが、のち飯田に移るに及んで弟山城守に譲りて附庸とす。永祿十二年、徳川家康これを攻め、城主通綱を降せしに、のち武田氏に屬せしを以て天正二年再び攻めてこれを降し、元和二年通綱の外孫青山幸成に與ふ。のち廢城となる。(天宮神社)大字天宮に鎮座。郷社。祭神、瀧津姫命・田心姫命・市杵島姫命。相殿に木國熊野王子宮坐大神等五柱を祀る。欽明天皇御宇の創建と傳へ、戰國以降は徳川氏社殿を造營し、また朱印領五十石を寄す。例祭、四月十日。(大洞院)曹洞宗。應永十八年の開創。足利義持の歸依厚し。毎歲二月、馬頭觀音大祭あり盛況を呈す。

【森六村】愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外六箇村と共に廢され其目寺村を置く。

【森村】三重縣伊勢國飯南郡の西部。備田川の源流地を占め、南は多氣郡に西は

桑園廣く拓け、米・麥・蕪等を主産物となす。北境に近く省線東北本線と陸羽街道通じ前者の藤田驛に近く、藤田町より出でて桑川町・保原町・五十澤村等に通ずる道路いづれも村内を過ぎ、交通便なり。村内に錦木塚あり。

【森岡】秋田縣山本郡にありし村。明治二十五年森岡村と改稱す。

【森岡】愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年大字の一部を大府村(現大府町)に編入し、その殘部を東浦村に編入す。

【盛岡】岩手縣の首都。北上川平野の北部、北上川本流と支流中津川及び磐石川の會流地に位す。東に淺岸、南に中野、本宮、西に厨川、北に玉山等の岩手郡の諸村を繞らし、東西約一軒、南北九・五軒、面積四九・三方軒餘。東北部は北上山地西側の臺地性山地にてその東境には高森・大倉・明神等の高度六―七百米の諸山あり、地西南に低下し中津川の支流米内川その中部を西南流す。西南部は南流する北上川と、米内川を合せて東より來る中津川、西より來る磐石川の會流部に於て概ね平坦なり。市の主要部はこの平坦部に於て慶長四年南部利直が不來方城を築きて移り盛岡と改めしに始まり、爾來南部氏十萬石(のち二十萬石)の城下町として繁榮せし處なり。大正二年厨川村の一部を、昭和四年米内村を編入し現在

奈良縣吉野郡に界す。紀伊山脈東部の一縱谷を占むる山地にて備田川上流の水源地をなし、峯疊重疊の山村なり。南境には池ノ木屋山脈が西南より東北に傾斜と連りて村境を劃し、西南隅に池ノ木屋山(一三九六米)、南境中央に白倉山(一二二六米)・達嶽(一三〇九米)等の高峯並び立つ。西北境には國見山(一四一九米)聳立す。山肢北境を東方へ連り東端は村の東北部の備田川谷によりて一旦切れ、中部にもまた東方へ延びる連嶺あり。西部に發する備田川は中央の山脈の南北兩麓を東流して東麓にて兩者相會し更に北部山脈の東麓を繞りて東北流し、西北方より來る河川を入れて川俣村に出づ。川の谷地に狭小の耕地ありて多少の米・蕪を産し林産豊かにして良材・薪炭を出す。東北部には河谷に沿ひて和歌山街道が走り東方大石村へ定期バスあれど其他の地方との交通不便を免れず。村内に布引瀧(高二二二米、巾四米)、風折瀧(高一八〇米、巾三米)、高瀧(高一五〇米、巾二米)あり。

【森郷】→海部郷(陸奥國)

【森村】高知縣土佐國土佐郡の東部。東は吉野川を隔てて長岡郷に對す。面積七四方軒。四國山脈の中央に位するをもつて、村内廣く山岳重疊し南に笹ヶ峰、北に岩瀨岡山・熊谷山の諸峯屹立す。西北に瀬戸川、東南には吉野川上支あり、何れも東北流し、東北境をなす吉野川に注

ぐ。各地には平地稍々ひらけて耕作行はる。米・麥・蕪等の農産あり。南部耕地には稻の二期作を營む所あり。山地は森林よく繁茂し木材・木炭及び三桠、檜等の林産多し。所々の丘陵には牧牛を營む。中部河岸に沿うて縣道通じ、東方長岡郡の本山町・大杉村にバスの便あり、瀬戸川の谷には林用軌道走る。大字和田に翠ノ瀧あり。一に裏見ノ瀧ともいふ。高さ十七間餘、幅一間、飛流一條林樾蒼蒼の間に瀉下して壯觀快趣を極む。瀑見ることを得。謂ゆる裏見ノ瀧の景は尤も奇觀絶勝なり。「住吉神社」大字印南新に鎮座。郷社。祭神、表筒男命・中筒男命・底筒男命・息長足姫命。正徳二年の創立なり。本殿・拜殿を備ふ。

【森町】大分縣豊後國玖珠郡の北部。玖珠高原の小盆地を占め玖珠川上流の右岸に位す。日田町の東方約一六軒にありて西南は玖珠町に隣り、東は速見郡に接し北は宇佐郡及び下毛郡に界す。全町山岳重疊し特に東部は高く人見岳・福萬山(一二三六米)、カルト山・平家山等の高峯屹立し峻嶮なる地形を呈す。西南部には南境に沿ひて西流する玖珠川ありて附近低地開けて盆地をなし主色こゝに發達す。森林面積廣く低地は米・麥・蕪等を産し木材工場・酒造場、製絲場等あり。西部には南北に走る縣道ありて新耶馬溪に至る。省線久大本線西南部を控め豊後森驛

モリエノ 森江野村 福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

モリエノ 森江野村 福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

モリエノ 森江野村 福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

モリエノ 森江野村 福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

モリエノ 森江野村 福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

モリエノ 森江野村 福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

モリエノ 森江野村 福島縣岩代國伊達郡の東北部。桑折町の東北約四軒。西北は藤田町に接す。面積約五・五方軒。阿武隈川左岸に沿ふ沖積地その大部分を占め、北境に低丘起伏するのみ。水田・

の市域となれり。省線東北本線は西南南を走りて盛岡(明治二十三年設置、東京上野驛を距る三五一・七軒)を置き、橋場線・山田線こより分岐し、前者は四方橋場驛(岩手郡御明神村)に達し、後者は東方大船驛(上野伊都大船町)に向ひ市内に上盛岡・上米内の二驛(共に大正十二年設置)を設く。陸羽街道また南北に、秋田街道西方に通じ、交通上の要點を占む。岩手縣廳・市役所・地方裁判所・市立野島野出製所・仙臺地方専賣局出張所・盛岡高等農林學校・岩手醫學專門學校等の官衙・學校あり、また市外野川村には騎兵第三旅團・工兵第八大隊の兵營あり。市の生産總額五七八萬圓(うち工業五〇五萬圓)に達し工業品は生絲・清酒、歴史古き南部織及び湯釜、南部製作品・玩具類等著はる。毎年九月中に開催さる馬市は盛観にて賣買頭數千頭にも及ぶ。「盛岡城址」指定史蹟。中津川下流右岸の小丘に建つ。古くは不來方城といふ。文祿二年南部利直工を起し、慶長四年建功を告げ紫波郡山城より移り藤米子孫相承けて居城し明治維新に至る。城址にいま本丸・二ノ丸などの石垣、濠等残り規模の雄大なりしを偲ばしむ。いま岩手公園となり毎年五月一日より十日まで觀劇團同行はれ美觀壯觀を呈す。園内には南部家の始興光行、中興信直、利直を祀る澤山神社あり。「八幡宮」志家八幡山に在り。縣社。俗に南部新八幡

宮といひ盛岡の總鎮守たり。境内古松老杉繁り櫻樹これに交る。境内は明治九年明治天皇東北御巡幸の御馬廄を天覽あらせられし處なり。「大慈寺」東中野にあり。黄髮宗、福聚山と號す。今の堂は大正八年原教の再建せしもの、山門(勸使門)・本堂・經藏・位牌堂等あり。寺内に原教夫妻の墓あり。「本誓寺」三ツ割にあり。眞宗大谷派に屬し、觀覺上人二十四聖の第十、和實是心の開基にかゝる。俗に黒佛と稱せらる。觀覺上人四十三歳の時の自刻像を安置す。「願教寺」上田北山にあり。眞宗本願寺派。慶安年間是心坊の末裔淨信房が市外淺岸村に創建せしを、寛文中現地に移せしもの。現在の堂宇は弘仁二年南部利直の再興にかゝる。「羅漢堂」北山の曹洞宗鳩峰山報恩寺境内にあり。堂は七間四面。本尊盧沙那佛の頭首は弘法大師の作、脇士善哉童子と八才龍女との像は朝鮮傳來といはる。本尊の左方には慈母とマルコポーロの像を置き、また左右の壇上に設置せる五百羅漢の像は享保年間丹下定英父子の力作なり。「宗廟寺の大石像」東中野松尾神社の蓋にあり。五智如来を中央に十六羅漢を配置す。石像すべて二十一體あり。悉く丈餘の巨像なり。長壽寺の泰恩和尚の靈廟により落内有志の喜捨を得、天保年間になりしものなり。「馬市場」盛岡驛の東南約二軒、新馬町にあり。馬檢場・賣會・隔離賣會等を設く。毎年九月に十日間賣會を行ふ。附近一帯の村々より集る二萬駒は千頭にも及び盛觀を呈す。駒賣の制は萬治元年馬町に於て行はれしに始りて今に及び南部の馬市としてその名世に著はる。「石割樓」指定天然記念物。地方裁判所構内、花崗岩の巨岩の割目に生ぜし彼岸樓にて、石の高き一・七米、樹高は石の表面より約五・二米。「杖垂柱」指定天然記念物。傾差小路中島氏所有宅地内にあり。「盛岡杖垂」指定天然記念物。市内三ツ割龍谷寺境内にあり。一株の杖垂樹なり。「山岸のカキツバタ群落」指定天然記念物。市内山岸の湯原に生じ紫の花を著くもののみ。「盛岡(縣)」明治三年七月陸中の盛岡藩を廢して置きし縣。翌年十一月一旦これを廢して更に盛岡縣を置き陸中の北部六郡を管す。五年五月に至りこれを岩手縣と改稱。同九年四月磐井縣を廢して陸中に屬する三郡を移管し、翌月陸前縣の氣仙郡、陸奥國二郡を併せ管す。「盛岡村」愛知縣三河國東加茂郡の西部。北は阿指村・足助町に、東は賀茂村に、南は松平村に、西は西加茂郡石野村に隣る。花崗岩地域の三河山地中にありて、高度は五・一六百米程度にて割合平坦面をなし、南境には旭山(六八三米)・十明山(五七一米)等聳つ。山間僻地にて墾墾は散村をなし、東境を北(巴川(足助川))流れ、足助町にて西折し村内西部を東北より西南の方向へ流る。巴川には發電所

あり。巴川の谷は深くして農耕地は少く、山地は薪炭を産す。交通路としては巴川の谷に足助街道が足助町へと通ず。和名抄の賀茂郡山田郷の地は此地一帯を指すものと思はるも不詳。

モリカワ

護川村 熊本縣肥後國菊池郡の中部。阿蘇火山の西麓を占め西南部は大津町の西北に接す。阿蘇外輪山麓西方の緩き傾斜面を占め、土地東北より西南に低下し、畑地多し。農業を主とし、米・麥・蕎麥等を産す。西部には縣道が縱貫し、大津町及び西北方の隈府町へバスを通ず。

モリクチ

盛口村 愛媛縣伊豫國越智郡の北方海上、大三島の東北部。西は鏡村に南は宮浦・瀬戸崎二村に界し、他は海を隔てて東は生口・根二島に、北は廣島縣豊田郡に對す。西には三〇〇米餘の丘陵南北に起伏し南には鶯ヶ頭山聳えて何れも海岸に緩傾斜をなして低下しその先きに砂灘地を開く。東岸中部には稍々廣き平地ありて耕地拓く。山地も耕作よく行はれ農業盛なり。米・麥・柑橘類・甘藷等を産し除虫菊・葉煙草等の特産あり。忠海へ和船の便あり、また各方向へ自動機船の便あり。村名は盛・井口を合して本村を建つるの際、その各々一字を取りて盛口村と稱す。

モリグチ

守口町 大阪府河内國北河内郡の西部。淀川の左岸に近く、西は大阪市東淀川區、西南は旭區に接す。而

横一・五平方軒の小町。全町地形極めて平坦にして土地肥沃なる爲め農産物多く蔬菜豊かにて殊に大根は有名なり。工業額も多く畜産もあり。近年大阪市郊外住宅地となり人口密度は七八五人を算し郡内第二位なり。新京阪國道中央を縱斷し、其他、府道東西、南北に通じ、社線京阪電線は南部を過ぎ守口驛ありて、交通至便なり。此地は和名抄、茨田郡高瀬郷の内に在りて、枚方・大阪間の水驛たり。永祿三年六月、三好範長、高山高政を攻めんとして此地に陣せり。藤宗寺は明治元年三月明治天皇大阪行幸の際行在所となりし蹟蹟なり。

モリコシ

森越 省線福山線の一驛(昭和十二年設置)。北海道渡島國上磯郡知内村にあり。

モリサキ

社崎 豊前國(福岡縣)の古地名。延喜兵部省式に豊前國社崎物々馬十五疋と見ゆ。豊前國の最北の驛にして、關門海峡に臨める今の門司市の大里の邊か。

モリサト

盛里村 山梨縣甲斐國南都留郡の東部。谷村町の東方約三軒の山村。北は北都留郡猿橋町に接す。關東山塊の一部を占め、全村山林に富み西へ桂川の支流を源流す。西部には墨岡・知開け栗河原に散在す。養蠶を主産業とし、木材・薪炭等の出荷また多し。村道東西に走り、谷村町・猿橋町へも村道により通じ、省線中央本線鳥澤驛へ約五軒、

モリコ

モリト

モリタ

毛里田村 群馬縣上野國山田郡の南部。渡良瀬川の西南岸に在りて、足利市の西方一・五軒。東北は川を隔てて桐木縣足利郡と相對し、西は新田郡太田町等と隣る。西境には金山(二二三米)等の丘陵地あり、大部分は平地にて水田・畑地多し。麥を産し、養蠶も行はれて通じ何れもバスの便あり。南隣並川村にある社線東武鐵道伊勢崎線並川驛に近く、縣道を通ず。古くは和名抄、山田郡園田郷の内とす。大字市場に國濟寺あり。岩松新田氏の家臣、市場繁博これに居すといふ。

モリタ

森田 青森縣陸奥國西津輕郡の東部。木造町の西南に隣り、南端は中津輕郡に接す。村の南半部は岩木山の北麓に屬して山地をなすも、北半部は津輕平野の西部に在りて平坦なり。南北兩地の境には秋ヶ館溜池・六澤溜池その他の湖沼あり。米・苹果を産す。道路は村の中部を略東西に通ず。省線五能線陸奥森田驛(大正十三年設置)あり。「床敷石器時代遺蹟」秋ヶ館溜池の北岸および東岸の丘上にあり。純然たる津輕式土器を出す遺蹟にして、土偶その他発見せられたり。裾野村十腰内・十面澤などと共に岩木山北麓に

モリタケ

森岳村 秋田縣羽後國山本郡の南部。能代港町の東南約一三軒。西南は八郎湯に面す。東北境に高城山(一一二二米)、東南境に石倉山(一四八八米)聳え、東北部及び東南部は山地をなすも、他は概ね平坦にして、三種川は東方より來り、西北に流れ村の西北境をなして西南に流る。村の中部には角助堤をはじめ

モリト

森戸 茨城縣下總國旗島郡の中部。境町の東南方約三・五軒にて、利根川の東岸にあり。西は川を隔てて千葉縣葛飾郡と相對す。全村低地に畑地多く農業行はれて麥を主産す。特産物としては煙草の栽培行はる。また養蠶も盛なり。縣道は東北部を走りて境町及び東南方岩井町に通ず。利根川は水運の便多し。古くは和名抄、旗島郡津津郷の内とす。森戸は古く百戸にも作り郷名にも呼ばれた

モリト

守富村 熊本縣肥後國下益城郡の西北部。鎌川の左岸に在りて、熊本市の南方八軒餘にありて東北は隈ノ庄町に隣る。南は宇土郡に接し西隣は僅かに鹿託郡に界す。東南隅に三一四米の山峯ありて東南部は其斜面を占め、其他は極めて地形低平なり。濱戸川は北境に沿ひて屈曲しつつ西流し西境を僅かに掠めて南流する鎌川に合す。農業を主とし米・麥・蕎麥を産し、商業・工業を營むものも僅かなり。西部を鹿兒島街道及び

モリト

モリト

モリト

モリト

モリト

モリト

モリト

モリト

省線鹿島本線が縦貫し、南境に後者の宇土驛(明治二十八年設置)あり。南部には東走して隈ノ庄町に至る縣道ありて自動車の便よし。古くは和名抄、益城郡坂本郷の内なるべし。もと庄名に呼ばれ守富庄と稱す。明治十年西南の役には其の戰場となる。(六殿神社)郷社。祭神、健甕命・大山祇神外十四神。治承年中の創建といふ。例祭十月九日。

【守山町】 愛知縣尾張國春日井郡の西部。名古屋市の東に隣る。北部及び南部には第三紀層の丘陵が起伏し、八〇—九〇米の高度を有す。北境に庄内川西流し

【守山町】 滋賀縣近江國野洲郡の南部。野洲町の西南に接し南は栗太郡に界す。全地形低平にして東北境には之に沿ひて西北流する野洲川あり。米・麥・菜種・

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

に界す。全村山岳重疊し、五十嵐川は東境駒形山に發し、山間の諸水を築め守門川・大谷川等の支流と合し西北流す。上流は概ね峡谷をなすも西北に下ると共に狭き谷平野を開析す。栗太亦此の谷平野に多く、農業・養蠶を主生業とす。米を主とし、蕎麥及び木材・薪炭等の林産物を副産す。西北より谷沿に來る縣道は守門川の谷を廻り南境の鞍掛峠を越えて會津盆地に通過す。省線彌生線長津驛へ約六軒、途中バスの便あり。中世鹿嶋村・長津村と共に下田郷と稱せらる。大字北五百川に八木ヶ鼻の景あり。五十嵐川の北岸に削り立つ數十丈の絶壁に配するに、老樹繁茂する下をくぐる清流を以てし、景勝地をなす。大字院内に最明寺あり、その觀音堂は當國第三十三番の札所なり。

【守山町】 福島縣磐城國田村郡の西部。郡山市の東南約七軒。西は阿武隈川を隔て安積郡・岩瀬郡に、南は石川郡に接す。町内丘陵多くして西北に傾斜し、谷田川は東南より西北に流れ、阿武隈川は西境を北流す。町の西北部は稍平坦なり。米・蕎麥・養蠶等を産す。道路は東南より西北に通じ、西北部郡山市・西南方岩瀬郡須賀川町へはバスの便あり。省線水郡線は町内に磐城守山驛(昭和四年設置)を設く。明治四十一年町制を布く。元禄十三年松平頼貞、この地に陣屋を設けて二萬石を食む。即ち水戸藩の支封にして子孫相繼いで明治に至りしが、明治三年二月守山藩は常陸松川に移り松川藩と改む。いま大字正直に館址あり、石川板橋土佐守高光の齋孫の居せし所といふ。正直とは蓋し庄司給の配れるものならん。【大善寺の藤】 大字大善寺宇宿、稻荷神

と號し、元龜中こゝにありて其威顯る盛なりき。明治天皇此地に行幸遊ばされし事あり。今その址は指定史蹟なり。

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

【守山町】 長崎縣肥前國高來郡の西北

モリヤマ 森山

【森山村】 千葉縣下總國香取郡の東部。利根川の南にて西は小見川町、東は佐川町に隣り、北は川を隔て、茨城縣鹿嶋郡と相對す。東南部は丘陵をなすも、他は平地にて水田多く、米を主産し、他に麥、蕎麥を産し、養蠶も盛なり。縣道は川沿ひに走りて小見川町、佐川町に通じ、何れもバスの便あり。省線成田線これに沿ふも、村内に驛なく、小見川町に小見川驛、佐川町に佐川驛を置く。利根川は水運の便多し。古くは和名抄、海上郡福玉郷の内とす。中古、この附近三十餘箇村と共に橋庄(東庄ともいふ)に屬せり。大字岡飯田に飯田城址あり。東城とも橋城とも稱せり。即ち千葉常胤の六男東胤頼の築きし城とす。村名森山は飯田城山の一名に外ならず。

【森山村】 徳島縣阿波國麻植郡の東部。鴨島町の東に位し、南は名西郡に接す。南部には高嶺數百米の山峯東西に連なり、北に緩傾斜し中部に低下す。北部は吉野川右岸の沖積平地を占め平坦且つ肥沃なる平地をなす。農業非常に盛にして米・蕎麥の産多し。麻植郡と名西郡との境に東山麓え、そこに東山鎮山(鎮山は銅硫化鐵)あり、その鎮山は森山村・西尾村・東山村及び名西郡の阿野村に跨る。同鎮山は昭和十年には含銅硫化鐵五、九四五五、銅三、三二二五、沈澱銅六七五を産出し、現に重要鎮山に列す。北境に徳島街道東西に貫通し東方徳島市と鴨島町をつなぐ。省線徳島本線牛ノ島驛・鴨島驛に近し。

【森山村】 高知縣土佐國吾川郡の東南部。西は仁淀川を隔てて高岡郡に對す。仁淀川下流左岸の沖積平地の一部を占め、東南部に高森の小丘嶺の外は全村低平肥沃にて、溫暖の氣候に恵まれ農業盛なり。米・蕎麥等の産多し。東部を南北に縣道貫貫し交通便なり。高知市へは約一〇軒、東方浦戸港へは八軒、海陸共に交通の便あり。此地古くは和名抄、吾川郡次田郷の内なるべし。

【森山村】 長崎縣肥前國北高來郡の東南部。雲仙國立公園地域に屬し、島原半島の基部有明海と橋津との間の地峽部を占め、東は南高來郡と愛野川とを以て境となす。この地峽部は、自然的なる兩郡の境にして、この川を境として大體地形、地質は勿論、言語・風俗・習慣に至るまで割然と異なるものあり。本村の基盤をなすものは第三紀層にして、其の上に、安山岩の被覆するあり。獅子嶺石岳・五穀岳等をはじめ中央に幾つかの山地あり。西方小野村境の連華石山(二八〇米)は本村内の最高峰なり。村の北部有明海方面は遠淺の泥土地帯として我國に於いて有名なる地域にて、近世埋立てて優良なる耕地となれり。之に反し南方橋津沿岸一帯は標式的なる斷層海岸にして、直線的な海岸線は東西に走り、斷層崖下に殆ど平地を見ず、急崖をなして海に迫る。但し本村の唐比附近は、もと灣入せる瀟澤地たり。今大部分干耕されしも尙ほ一部に瀟澤地を遺す。海岸に障害物ありて川は海岸線に並行に流れ後九十度轉回し海に入る。唐子の聚落は元の灣岸に環狀に發達す。西方の川は橋津岸近くの上井水田より北流して有明海に入る。分水嶺が橋津近くに接近せるは注目すべき事なり。本村は水田の分布廣く、純農村にして縣下に於ける米産地なり。道路の開通見るべきものあり。諫早・島原間の有明海沿岸道路、有喜より千々石方面へ向ふ橋津沿岸道路等其の主たるものなり。社線島原鐵道は村の北部を東西に貫通し、森山(明治四十四年設置)釜ノ鼻(昭和五年設置)の二驛を置く。橋津沿岸の唐比は、沿岸汽船の寄港地たり。

モリヨシ 森吉山

秋田縣北秋田郡阿仁合町・前田村・大阿仁村の境上に勝り、阿仁鎮山の東方地域を占むる甚大な二重式活火山。新第三紀層および種々の火成岩(閃綠岩・花崗岩・流紋岩)を基礎とし、外輪山は玄武岩及び複輝石安山岩の各層岩流、集塊岩泥流より構成せられ、截頭圓錐形の成層火山をなし、山頂には直徑約三軒の火口址を遺す。この火口址は東側を檢葉倉岳、西側を前岳の兩外輪壁によりて限らる。前岳はその北端を一ノ腰(一二六五米)、南端を石養(一三〇八米)と稱し、馬背状山峯の總稱にして、北部は傾斜し、火口瀆連瀆瀆澤澤出して、終に小又川に落つ。此山に森吉神社鎮座す。中央火口丘(向岳)は外輪壁南縁近くより噴出せる複輝石安山岩及び橄欖石輝石安山岩の各層岩流より成り、外輪山火口壁を埋め、外輪山南縁及び外輪山南側外斜面を蔽ふ。この中央火口丘は略々完全なる圓錐形をなすも山頂に火口を有せず、一の熔岩丘をなす。山頂に森吉神社奥宮の小祠ありて一に奥御殿の稱あり。最高點一四五四米。中央火口丘は針葉樹の密林を以て掩はれ、その間に笠生地散在す。外輪山は中腹以下はブナ、中腹以上はオハシラヒツを混ふる密林にて掩はれ、山頂部は傾斜緩徐にして、瀟澤地にはヒナヅクラ密生し、花期は美觀を呈す。この斜面は放牧地をなす。登山は西北方、前田村の棚内澤・高畑部落を

モリワキ 森脇

【森脇村】 廣島縣深安郡にありし村、昭和十三年本村及び中津原村・上岩成村・下岩成村の三村を廢して御幸村を置く。

モロ 毛呂村

【毛呂村】 埼玉縣武藏國入間郡の西北部。越生町の東南隅にて越邊川の南岸にあり。面積五・七一平方軒の小村。西境附近は稍々山地をなすも、大部分は平地にて、畑地多く、北境を東流する越邊川の附近に水田少しあり。農業行はれて、米・麥を産し、養蠶盛にて蕎麥の産多し。縣道は越生町及び東方坂戸町、南方飯能町に通ず。省線八高線は南方より來りて西部を北走し、毛呂驛(昭和八年設置)を置く。また社線越生線道は中部を西走し、東毛呂驛(昭和九年設置)を置く。此地は鎌倉時代の始めより既に開け毛呂氏に居りて近村に勢力を振ひて室町末期の頃に及び、北條氏の勢力關東を展するに及び、毛呂氏もこれに屬す。幕末の勤王家榎田直助(贈正五位)はこの地の人とす。(出雲伊波比神社)大字前久保に鎮座。郷社。大名平運神を祀る。毛呂大明神とも稱す。延喜式内社に充つる説もあるも、他に論社ありて決して。地方の名社にして、建久年間鎌倉幕府社殿を造營し、榎來領主藩主の崇敬

モロ 茂呂村

【茂呂村】 群馬縣上野國佐波郡の中部。伊勢崎町の南隅にて、面積六・三四平方軒の小村なり。村形扇狀を成し諸處に小丘陵あるも概して平坦なり。土壤は壤質砂土大部分を占め、僅かに硬質砂土の所あるも地味一般に肥沃なり。西部を廣瀬川南流し、川沿ひは水田にて、他は畑地をなし、農業行はれて米・麥を産す。養蠶も盛にて蕎麥の産あり。縣道は東部を走り、北は伊勢崎町、東南は境町に通過す。社線東武鐵道伊勢崎線また之に沿ふも村内に驛なく、新伊勢崎驛及び東南隣町志村の剛志驛に近し。村内に丘墳二箇所あり。其一は殊に大にして上に神祠あり、これを美茂呂神といふ。村名の由来ここにあり。

モロカク 諸岡村

【諸岡村】 石川縣能登國鳳至郡の西部。能登半島西海岸に沿ひ東は門前町に接す。村内三〇〇米餘の丘陵起伏し西は斷崖をなして海に迫り、猿山崎・長谷崎二岬角を突出す。南部を八ヶ川西流し流域に狭き平地ありて農耕行はる。聚落は海岸の兩小灣に臨み漁業を主産業とす。水産類に次いで米・蕎麥の産あり、工業・畜産・林産等も多少あり。南部を縣道走り輪島・富來兩町へバスの便あり。村内に式内石瀨比古神社あり。然らば萬葉集に見ゆる岩瀨渡もここか。【諸岡(郡)】 日向國(宮崎縣)の古郡名。書記景行天皇御西狩の條およ

モロキ 諸木村

【諸木村】 高知縣土佐國吾川郡の東南部。長濱町の西に接し、高知市の西南部との間に鴨田村を隔て、南は土佐灣に面す。北に鷲尾・島嶺子山等の諸山聳えて中部に低下し、西に小丘あるもその他は低平なる沖積地にて海岸に砂丘あり、甲斐川はその内側を西南流し西隣秋山村に出でて海に注ぎ、長濱川切抜によりて東方河川は東流して瀨戸灣にも通ず。流域には農作盛に行はれ、米・蕎麥を出し蘭草の栽培盛にて、また蔬菜の促成栽培・養蠶・牧牛も行はる。海岸には漁村並び、水産業盛にて鰯・鯖・鮭等の漁獲多し。又本村は縣に於ける養蚕の主産地をなす。中央部を東西に貫通せる縣道ありて、東隣長濱町を経て高知市に通じバスの便あり。長濱町に互りて長濱川切抜あり。慶安より承應頃に互り野中俊山が長濱川の運河を開鑿するに當りて鑿開せし切抜にして、嵯峨部三十四間、土部二十間、高さ十五間、幅七間のものにて、兩

モロコシ 諸越原

【諸越原】 神奈川縣中部大磯町邊より相模川に至る間の平野の稱。奈良時代に東國に配せられたる歸化韓人を置きし所ならんとす。

モロザキ 師崎町

【師崎町】 愛知縣尾張國知多郡の南端。半田市の南方約二四軒。知多半島の先端に位し、北及び東岸は知多灣に臨み、南は伊勢灣に面し、西は豊濱町に接す。本地域は第三紀層の臺地より成り、頁岩中より化石を産す。北端は海田鼻、東岸には高ヶ崎・長谷崎・林崎・羽豆岬等の小突出ありてその間に數箇の小灣を抱く。臺地の最高點は西部にて九七米を示し、聚落は海岸の低地に發達す。此地は三方海に面し、漁業盛にて漁港をなし、夏は海水浴場となる。交通路は北方半田市より東海岸を御崎街道に至り、バス通じ、篠島の海水浴場・内海・福江(渾美部)・武豊には沿岸航路通ず。師崎は素時にして、羽豆神の神林より出でし名とす。往古此半島に移住し來りしは猿田海部にして、この部族の遺習たる港より出

モロカク 諸岡村

【諸岡村】 石川縣能登國鳳至郡の西部。能登半島西海岸に沿ひ東は門前町に接す。村内三〇〇米餘の丘陵起伏し西は斷崖をなして海に迫り、猿山崎・長谷崎二岬角を突出す。南部を八ヶ川西流し流域に狭き平地ありて農耕行はる。聚落は海岸の兩小灣に臨み漁業を主産業とす。水産類に次いで米・蕎麥の産あり、工業・畜産・林産等も多少あり。南部を縣道走り輪島・富來兩町へバスの便あり。村内に式内石瀨比古神社あり。然らば萬葉集に見ゆる岩瀨渡もここか。【諸岡(郡)】 日向國(宮崎縣)の古郡名。書記景行天皇御西狩の條およ

モロキ 諸木村

【諸木村】 高知縣土佐國吾川郡の東南部。長濱町の西に接し、高知市の西南部との間に鴨田村を隔て、南は土佐灣に面す。北に鷲尾・島嶺子山等の諸山聳えて中部に低下し、西に小丘あるもその他は低平なる沖積地にて海岸に砂丘あり、甲斐川はその内側を西南流し西隣秋山村に出でて海に注ぎ、長濱川切抜によりて東方河川は東流して瀨戸灣にも通ず。流域には農作盛に行はれ、米・蕎麥を出し蘭草の栽培盛にて、また蔬菜の促成栽培・養蠶・牧牛も行はる。海岸には漁村並び、水産業盛にて鰯・鯖・鮭等の漁獲多し。又本村は縣に於ける養蚕の主産地をなす。中央部を東西に貫通せる縣道ありて、東隣長濱町を経て高知市に通じバスの便あり。長濱町に互りて長濱川切抜あり。慶安より承應頃に互り野中俊山が長濱川の運河を開鑿するに當りて鑿開せし切抜にして、嵯峨部三十四間、土部二十間、高さ十五間、幅七間のものにて、兩

モロコシ 諸越原

【諸越原】 神奈川縣中部大磯町邊より相模川に至る間の平野の稱。奈良時代に東國に配せられたる歸化韓人を置きし所ならんとす。

モロザキ 師崎町

【師崎町】 愛知縣尾張國知多郡の南端。半田市の南方約二四軒。知多半島の先端に位し、北及び東岸は知多灣に臨み、南は伊勢灣に面し、西は豊濱町に接す。本地域は第三紀層の臺地より成り、頁岩中より化石を産す。北端は海田鼻、東岸には高ヶ崎・長谷崎・林崎・羽豆岬等の小突出ありてその間に數箇の小灣を抱く。臺地の最高點は西部にて九七米を示し、聚落は海岸の低地に發達す。此地は三方海に面し、漁業盛にて漁港をなし、夏は海水浴場となる。交通路は北方半田市より東海岸を御崎街道に至り、バス通じ、篠島の海水浴場・内海・福江(渾美部)・武豊には沿岸航路通ず。師崎は素時にして、羽豆神の神林より出でし名とす。往古此半島に移住し來りしは猿田海部にして、この部族の遺習たる港より出

入する船が泊頭に向つて禮をなすの習
慣より起りし泊頭の神は、節時とその對
岸にあたる三河國宮崎とある羽豆神即
ち之なり。節時の一に羽豆崎と稱へらる
る所以はこゝに存し、節時は元、崩頭崎
と書かれたり。然るにこの崩頭崎は但馬
節介の義をあらはすものとして、遂に節
崎と改めらるに至れり。諸崎と當つる
は宛字にして、之は泊頭の義にして、一
時地名は但馬にて呼ばれたり。但馬とは
此地より海部が但馬國に渡せられ但馬
平定の功を奏せしを以て、その意義を後
世に傳ふる爲に定められし名とす。和名
抄に見ゆる知多郡但馬郡即ち之なり。此
地舟師の地なる爲め千秋家の美望して奉
ふ所となり、その舟師の根據地とし、同
家の衰微する迄宮方に利用せらる。其後
一色氏これを領し羽豆崎城に居る。千賀
氏は一色氏の配下として奥田城にありし
が、守護代佐治の用ふる所となり羽豆崎
城を守る。千賀氏これより船奉行となり
關ヶ原の役には東軍に従ひ、九鬼氏の海
賊船を拒功を以て舊邑を安堵し、また
大阪の陣に従ひ功あり此地千四百石を賜
ふ。(羽豆神社)節時に鎮座。神社。祭
神、健甕神命。白鳳年中鎮座と傳ふ。式
内社。俗稱、八幡または節頭崎八幡。例
祭八月十四日・十五日。(羽豆神社々々)
指定天然記念物。節時の南端にあり。主
としてウバメガシより成り之にビヤクシ
ン及び種々の常緑闊葉樹を交ふ。附近の

地方と林相を異にせる點に於て著しきも
のなり。

モロシマ 諸島瀬戸

瀬戸内海中の
伊豫灘と廣島灘とを結ぶ瀬戸。諸島・情
島と津和地島の間にして、水深約八〇米、
大潮の時の潮流は時速約五哩なり。

モロズカ 諸塚村

宮崎縣日向
國西臼杵郡の東部。美々津川中流の左岸
に沿ひ高千穂町の南に接す。東南部は東
臼杵郡内に突入す。全村山岳を以て繞ら
し四圍に高く、西北境には諸塚山(一三
四二米)・赤土岸山(一一六九米)・大仁田
山(一一三六米)等の高峯並び、西境には
一四五五米を有する黒嶽あり。東境にも
一〇〇〇米を越ゆる山峯連り眞弓嶽(一
〇八〇米)屹立す。美々津川は南境をな
して屈曲蛇行しつゝ東流し、西北隅に發
する七ツ山川は支流を集めつゝ中央の峯
谷をつくりて東南流し、東部に東南流
する河川あり、共に美々津川に合す。林
業を主産業とし木炭・木材の産多し。ま
た椎茸・茶の産もあり。美々津川に沿ひ
て道路通ずれど、山間の地なれば交通の
便よろしからず。村の北境中央部に諸塚
山あり。村名は蓋しこれに因れるものと
す。此山は秩父古生層より成り、神代天
孫人種の住居せし所にして、所々に探多
く現存し諸塚山の名もこれより出でし
ものなるべし。

モロヅツミ 諸堤村

大阪府
河内國北河内郡の西南部。震尾川の北岸
に沿ひ、西及び西南は大阪市旭區に圍ま
れ、東南は中河内郡津村に界す。全村
地形低平にして震尾川は南境を西流して
大阪市に入る。農産物豊かにして米・麥・
蔬菜類等多し。また工業盛にして産額多
く畜産もあり。南部を大阪市より住道村
に至る府道横斷し、交通の便よし。

モロタ 諸田村

廣島縣備後國御調
郡の東北隅。瀬田川上流の南岸に沿ひ、
東北は廣島郡、西北は世羅郡に界す。西
に宇津戸村、南に市村接す。面積二五・
六五平方軒。西境と中部を南北に延亘す
る山地ありて平地乏し。たゞ山間の處々
の平地に耕地を拓くも、大部は山林地に
屬す。米・麥・蕎麥・粟・酒類・牛等の産
あり。尾道・甲山間の縣道西南部に通じ
てバスの便あり。省線瀬野河佐驛、社
線尾道鐵道の市驛へ達せらる。

モロトノ 諸富野村

茨城縣常陸國
久慈郡の中央部。久慈川の東岸にあり。
西は川を隔てて那珂郡と相對す。阿武隈
山地南端部、男體山の南嶺が東部を南方
に連り、土地西南に傾斜し、西南境をな
す久慈川に臨む。西南部に平地ありて大
麥・小麥・米を産し、特産物としては蕪菘
芋・和紙・漆液の産出あり。縣道は川沿ひ
に通じ、乗落もこれに沿ふ。對岸の那珂
郡山方村内に省線水郡線山方驛ありて
縣道を通ず。古くは和名抄、久慈郡餘戶
郷の内なるべし。村名は諸富・西野内・
北富田の三村を合して本村を建つるの際

モロハ 諸羽山

また諸葉山にも作
る。京都市東山区四宮町の北にある山。
山麓に諸羽明神社あり。夫木・山つらし
とてもろはの山にみかるともわれ山産と
なりてこたへん。

モロハシ 諸橋村

石川縣能登國鳳
至郡の東部。能登半島の東岸にて富山灣
に臨む。七尾灣北灣入口を扼し、鳳至山
地の末端一〇〇米前後の丘陵となりて西
北より東南へなだらかなる山脈を伸し、
末端は龍燈崎・辨天崎・惠比須崎等の小岬
となりて海に臨む。海岸に僅かの平地あ
り、他は概ね山林をなす。主産業は漁業
にして、また米・蕎麥も出し、林業、牧畜も
行はる。海岸に沿ひ縣道走り穴水町・宇
出津町へバス通じ、海上船航の便もあり。
村名は古くは保鏡に呼ばれたり。

モロヨセ 諸寄濱

↓西濱村(兵庫
縣美た方部)
諸和 愛知縣愛知郡にありし
村。明治三十九年に本村はか一村を廢し
て東郷村を置く。

モロワ 諸和

諸和 愛知縣愛知郡にありし
村。明治三十九年に本村はか一村を廢し
て東郷村を置く。

モンガン 門巖金山

↓昌城面
省線根室本線
の一驛(大正六年設置)。北海道釧路國厚

各その一字を取りて名付けしもの。大字
西野内よりは硬質の紙を出し、西野内紙
(西内紙)として古來著名なり。

モロトミ 諸富

省線佐賀線の一驛
(昭和十年設置)。佐賀縣佐賀郡新北村に
あり。

モロハシ 諸橋村

石川縣能登國鳳
至郡の東部。能登半島の東岸にて富山灣
に臨む。七尾灣北灣入口を扼し、鳳至山
地の末端一〇〇米前後の丘陵となりて西
北より東南へなだらかなる山脈を伸し、
末端は龍燈崎・辨天崎・惠比須崎等の小岬
となりて海に臨む。海岸に僅かの平地あ
り、他は概ね山林をなす。主産業は漁業
にして、また米・蕎麥も出し、林業、牧畜も
行はる。海岸に沿ひ縣道走り穴水町・宇
出津町へバス通じ、海上船航の便もあり。
村名は古くは保鏡に呼ばれたり。

モロヨセ 諸寄濱

↓西濱村(兵庫
縣美た方部)
諸和 愛知縣愛知郡にありし
村。明治三十九年に本村はか一村を廢し
て東郷村を置く。

モンガン 門巖金山

↓昌城面
省線根室本線
の一驛(大正六年設置)。北海道釧路國厚

モンデン 門田村

福島縣磐城國北
會津郡の中部。若松市の南に隣り、西の
一部は大沼郡に接す。南境に二重平(七
六一米)、東部に、北より奴田山(七二三
米)・吹矢山(八二〇米)・淡路山(七五
二米)あり。西北方に傾斜し、西北部は
會津盆地に屬して平坦なり。大川は西部
を北流す。米・麥・粟・蕎麥等を産し、
薬用人參栽培の核心地として著名なり。
道路は中西部を南北に通じ、若松市へは
バスの便あり。省線會津線門田驛(昭和
二年設置)を置く。古くは庄名に呼ばれ、
近世は門田庄一百二十三村と唱へ、ほゞ
今の北會津郡一體を總べたり。大字面川
は戊辰の役に激戦のありし地なり。大字
中野に允殿館址あり。松本右馬允の居せ
しところとす。(蒲生秀行墓)弘宣院境
内南隅に在り。堂中に五輪塔を建て地輪
に慶長十七年六月五日云々の銘文刻せら
る。秀行は蒲生氏郷の子にして、父氏郷
の歿後は宇都宮に移封せられしも、關ヶ
原役の功により慶長六年再び當地に封ぜ
られたり。

モンシ 門前町

石川縣能登國鳳
至郡の西部。
輪島町と富永町(羽咋郡)との中間、即ち
外浦方面に位し、西は日本海との間に諸
岡・黒島兩村を介す。南北に丘陵を負ひ
いづれも中央に傾斜し、中央を東西に貫
流する八ヶ川の谷を挟む。山地は概ね森
林にして、平地には農産物は米・蕎麥を
産す。町は昔時より總持寺の門前町とし
て興り、龍登の信男信女の集まりし所な
りしも、總持寺移轉後は衰微に向へり。
中央平地を東西に縣道走り、輪島・富永・
穴水各町へバスの便あり。古くは和名抄
鳳至郡諸比郡の内なるべし。町名門前は
もと諸比村の大字名なりしが、昭和五年
諸比村を廢して門前町と改稱す。總持
寺別院・曹洞宗。諸塚山と號す。本宗大
本山たる横濱市鶴見區の總持寺の故地を
守る。草創清華等同寺に同じ。明治四十
一年火災に罹り一部焼失せしことあり。
本尊、觀世音。

モンセンチヨ 門前町

石川縣能登國鳳
至郡の西部。
輪島町と富永町(羽咋郡)との中間、即ち
外浦方面に位し、西は日本海との間に諸
岡・黒島兩村を介す。南北に丘陵を負ひ
いづれも中央に傾斜し、中央を東西に貫
流する八ヶ川の谷を挟む。山地は概ね森
林にして、平地には農産物は米・蕎麥を
産す。町は昔時より總持寺の門前町とし
て興り、龍登の信男信女の集まりし所な
りしも、總持寺移轉後は衰微に向へり。
中央平地を東西に縣道走り、輪島・富永・
穴水各町へバスの便あり。古くは和名抄
鳳至郡諸比郡の内なるべし。町名門前は
もと諸比村の大字名なりしが、昭和五年
諸比村を廢して門前町と改稱す。總持
寺別院・曹洞宗。諸塚山と號す。本宗大
本山たる横濱市鶴見區の總持寺の故地を
守る。草創清華等同寺に同じ。明治四十
一年火災に罹り一部焼失せしことあり。
本尊、觀世音。

モンシ 門前町

石川縣能登國鳳
至郡の西部。
輪島町と富永町(羽咋郡)との中間、即ち
外浦方面に位し、西は日本海との間に諸
岡・黒島兩村を介す。南北に丘陵を負ひ
いづれも中央に傾斜し、中央を東西に貫
流する八ヶ川の谷を挟む。山地は概ね森
林にして、平地には農産物は米・蕎麥を
産す。町は昔時より總持寺の門前町とし
て興り、龍登の信男信女の集まりし所な
りしも、總持寺移轉後は衰微に向へり。
中央平地を東西に縣道走り、輪島・富永・
穴水各町へバスの便あり。古くは和名抄
鳳至郡諸比郡の内なるべし。町名門前は
もと諸比村の大字名なりしが、昭和五年
諸比村を廢して門前町と改稱す。總持
寺別院・曹洞宗。諸塚山と號す。本宗大
本山たる横濱市鶴見區の總持寺の故地を
守る。草創清華等同寺に同じ。明治四十
一年火災に罹り一部焼失せしことあり。
本尊、觀世音。

モンシ 門前町

石川縣能登國鳳
至郡の西部。
輪島町と富永町(羽咋郡)との中間、即ち
外浦方面に位し、西は日本海との間に諸
岡・黒島兩村を介す。南北に丘陵を負ひ
いづれも中央に傾斜し、中央を東西に貫
流する八ヶ川の谷を挟む。山地は概ね森
林にして、平地には農産物は米・蕎麥を
産す。町は昔時より總持寺の門前町とし
て興り、龍登の信男信女の集まりし所な
りしも、總持寺移轉後は衰微に向へり。
中央平地を東西に縣道走り、輪島・富永・
穴水各町へバスの便あり。古くは和名抄
鳳至郡諸比郡の内なるべし。町名門前は
もと諸比村の大字名なりしが、昭和五年
諸比村を廢して門前町と改稱す。總持
寺別院・曹洞宗。諸塚山と號す。本宗大
本山たる横濱市鶴見區の總持寺の故地を
守る。草創清華等同寺に同じ。明治四十
一年火災に罹り一部焼失せしことあり。
本尊、觀世音。

入する船が泊頭に向つて禮をなすの習
慣より起りし泊頭の神は、節時とその對
岸にあたる三河國宮崎とある羽豆神即
ち之なり。節時の一に羽豆崎と稱へらる
る所以はこゝに存し、節時は元、崩頭崎
と書かれたり。然るにこの崩頭崎は但馬
節介の義をあらはすものとして、遂に節
崎と改めらるに至れり。諸崎と當つる
は宛字にして、之は泊頭の義にして、一
時地名は但馬にて呼ばれたり。但馬とは
此地より海部が但馬國に渡せられ但馬
平定の功を奏せしを以て、その意義を後
世に傳ふる爲に定められし名とす。和名
抄に見ゆる知多郡但馬郡即ち之なり。此
地舟師の地なる爲め千秋家の美望して奉
ふ所となり、その舟師の根據地とし、同
家の衰微する迄宮方に利用せらる。其後
一色氏これを領し羽豆崎城に居る。千賀
氏は一色氏の配下として奥田城にありし
が、守護代佐治の用ふる所となり羽豆崎
城を守る。千賀氏これより船奉行となり
關ヶ原の役には東軍に従ひ、九鬼氏の海
賊船を拒功を以て舊邑を安堵し、また
大阪の陣に従ひ功あり此地千四百石を賜
ふ。(羽豆神社)節時に鎮座。神社。祭
神、健甕神命。白鳳年中鎮座と傳ふ。式
内社。俗稱、八幡または節頭崎八幡。例
祭八月十四日・十五日。(羽豆神社々々)
指定天然記念物。節時の南端にあり。主
としてウバメガシより成り之にビヤクシ
ン及び種々の常緑闊葉樹を交ふ。附近の

モンシ 文殊村

福島縣磐城國田
村郡の北部。三春町の東方約五軒。東は
船引町に接す。阿武隈山地の西斜面に屬
し、北方に念佛山(五一一米)、東南境に
片曾根山(七一八米)、中部に文殊山麓、
全村丘陵性をなし、大瀧根川は村の中南
部を西南に流る。藪・米・粟・蕎麥を産し、
また牧馬行はる。道路は村の中南部を東
西に通じ、東方の省線磐城東線船引驛へ
は約三軒あり。古くは和名抄、安積郡丸
子郷の内なるべし。

モンシ 文殊村

福島縣磐城國田
村郡の北部。三春町の東方約五軒。東は
船引町に接す。阿武隈山地の西斜面に屬
し、北方に念佛山(五一一米)、東南境に
片曾根山(七一八米)、中部に文殊山麓、
全村丘陵性をなし、大瀧根川は村の中南
部を西南に流る。藪・米・粟・蕎麥を産し、
また牧馬行はる。道路は村の中南部を東
西に通じ、東方の省線磐城東線船引驛へ
は約三軒あり。古くは和名抄、安積郡丸
子郷の内なるべし。

モンシ 文殊村

福島縣磐城國田
村郡の北部。三春町の東方約五軒。東は
船引町に接す。阿武隈山地の西斜面に屬
し、北方に念佛山(五一一米)、東南境に
片曾根山(七一八米)、中部に文殊山麓、
全村丘陵性をなし、大瀧根川は村の中南
部を西南に流る。藪・米・粟・蕎麥を産し、
また牧馬行はる。道路は村の中南部を東
西に通じ、東方の省線磐城東線船引驛へ
は約三軒あり。古くは和名抄、安積郡丸
子郷の内なるべし。

モンシ 文殊村

福島縣磐城國田
村郡の北部。三春町の東方約五軒。東は
船引町に接す。阿武隈山地の西斜面に屬
し、北方に念佛山(五一一米)、東南境に
片曾根山(七一八米)、中部に文殊山麓、
全村丘陵性をなし、大瀧根川は村の中南
部を西南に流る。藪・米・粟・蕎麥を産し、
また牧馬行はる。道路は村の中南部を東
西に通じ、東方の省線磐城東線船引驛へ
は約三軒あり。古くは和名抄、安積郡丸
子郷の内なるべし。

モンナ—モンハ

モンナイ 門内面

朝鮮全羅南道海... 門内面 朝鮮全羅南道海... 門内面 朝鮮全羅南道海...

PRIR

合して紋別村を建つ。同四十二年紋別村... 紋別 北海道北見國網走支廳紋別郡... 紋別 北海道北見國網走支廳紋別郡...

モンボナイ 紋總内

モンマ 文間村

宜保年間渡島國松前郡福山の村人村上某の... 文間村 茨城縣下總國北相馬郡の東部...

モンベツ 門別村

紋別

北海道北見國網走支廳の西部... 紋別 北海道北見國網走支廳の西部... 紋別 北海道北見國網走支廳の西部...

モンホ—モンマ

PRIR

百間村 埼玉縣武蔵國南埼玉郡の東北部... 百間村 埼玉縣武蔵國南埼玉郡の東北部...

ヤオ——ヤオツ

島の小火山群と共に八重山郡をなす。ヤオ 八尾町 大阪府河内國中河内郡の中部。布施市の東南に接す。地形低平にして大和川の分流玉串川・長瀬川西北に流れ、田畑よく拓け米・麥・蔬菜其他の農産物豊かにして工産額は第二位を占め、畜産もあり。西部に市街地発達し、河内街道南北に走り、東西にも府道あり、社線大阪電軌は中央を横走し、山本(大正十四年設置)及び大軌八尾・久寶寺口・大軌山本の四線が並び、省線關西本線八尾驛(明治二十二年設置)は西隣の龍華町に置かる。古くは和名抄、若江郡弓削郡の地なるべし。中河内郡の大邑にて警ては郡役所を置かれたり。明治三十六年町制を布く。大字壹振は康正二年夏島山政長と同族義就と家督を争ひ戦ひし地とす。時に其の旗印同じくして彼我分ち難きを以て政長、味方の旗に乳をつけて卒にさす。時人みなこれに倣ひ旗の制一變す。即ち後世の乃保利の始なり。〔八尾城〕その地は大字木戸・莊之内の邊ならん。延元二年十月南軍の高木遠盛・小山忠能等、當城を攻めて焼く。正平二年八月、北軍の細川顯氏、河内に楠木正行を討たんとす。正行即ち八尾城を攻む。顯氏これを救はんとして来るや、正行急に夜襲し顯氏の大军を譽田林に破る。同十五年北軍島山道譽、南軍を此地に破る。大阪夏の役に西軍長曾我部盛親・増田盛次等東軍藤堂高虎の軍と此地に戦ひ遂に之を破れり。〔矢作神社〕大字別宮に鎮座。

郷社。祭神、經津主命・品陀別命外三神。式内社。俗に八幡と稱す。例祭七月三十一日。〔惠光寺〕眞宗本願寺派。明應五年、蓮如の子蓮淳の開創、初め壹振御坊と稱す。〔常光寺〕臨濟宗。俗稱八尾地蔵。大阪陣の時敗北戦死せる藤堂家臣七十餘氏の墓あり。〔慈願寺〕眞宗大谷派。福井山と號し、觀音二十四輩の一人なる信願房法心の開基。ヤオカ 八鹿町 兵庫縣但馬國善父郡の北部。出石町(出石郡)の西南方約九軒あり、土地東西に長くして北境の中部・西部は城崎郡に接し、西境は美方郡に界す。西境南部に妙見山(一四二米)聳え其山脈より東方へ延びる二條の連嶺は南北兩境を隔り、妙見山より發する河川は中央の谷地を東に流下し、東部に西へ南方より来る八木川に合す。東隅に嶺の山地の西麓を北流する圓山川は北隅にて八木川を合し東北に流れて伊佐村に出づ。圓山川と八木川との合流點の南にも小丘の北斜地あり。地理的に物資の集散すべき重要な位置を占め各種の産業發達し、河川流域の低地は田畑よく拓けて米・麥の産多し、また但馬は古より農家の副業として盛に養蠶を行ひ八鹿町附近は其中心地となし立派な養蠶學校・蠶業取締所・都是製絲工場ありて繭・蠶絲の産額多し。其他蔬菜・花卉・食用農産・果實・製茶・海苔等の産あり。八鹿町附近の八木川は該の名産地にして八木太郎と稱し、毎年六月より九月に

至る間は京阪地方より結符りに来る遊客多く、最盛期に於ける一日の漁獲一〇〇貫に及び米詰として遠く名古屋方面へ輸送し、年産額少からずといふ。近來漁業組合を組織し漁獲を防ぎ一方養蠶をも行ひ町の財源を保護す。特産物に好見杉苗あり。本町一方軒の人口密度は二三一人にして郡内第一の稠密なり。東部は交通發達して山陰道が東南部を略々東西に走り、一縣道は之より分岐し八木川に沿ひて東北を走す。分岐點には市街地發達し、省線山陰本線は東部を縦走して八鹿驛(明治四十一年設置)あり。本町は舊幕時代には生野代官の支配に屬せり。幕末の勤王家、西村哲二郎(贈從五位)・西村莊兵衛(贈從五位)及びコレラ病の治療方を發見せし醫者にして勤王家たる西村敦藏(贈正五位)は本町の出身なり。〔名草神社〕大字石原にあり。縣社。祭神、名草彦命。舊傳の年月詳ならず。戰國時代には所領多かりしも、元禄年中の社領は三十石なりと云ふ。例祭八月一日。〔名草神社三重塔婆〕國寶。八鹿驛の西方約一二軒、本町石原妙見山の山腹なる縣社名草神社の殿の下に建つ。三層塔婆にて屋根は楠葉、俗に妙見さんの塔と稱し、社傳によれば大永五年(一六二五)に造營せらる。寛文五年(一七二五)に移建せしものなり。室町時代中期の特徴を有する建築なり。〔妙見の大杉〕指定天然記念物。名草神社三重塔婆前の参道左側に木柵を繞らし往還につけたる大杉樹。幹

は地上約七米の高さより二分して並立し目通幹圍一〇米あり。この邊海拔八百米餘、北方遙に久美濱の海面を望む。尙ほ妙見山頂まで南へ登路一軒半、山頂は海拔一四二米に及ぶ高地にて、十一月中旬より四月下旬までは積雪二米前後に及ぶため山中には寒性草木多し。はうちばかへで、やまばうし・とちのき・ほほのき・かつら・たらのき・さるなし・またたび・みつばあけび等は普通にして尙山頂近くには更に北方寒性草木生ふ。ヤオクリ 矢送村 鳥取縣伯耆國東伯郡の南部。倉吉町の西南約一〇軒。北は南谷村に對し、南は岡山縣に隣接す。中國山脈北部の山地を占め、南には牛甲山をほはじめ高祖七〇〇米餘の山岳連互して時北に向つて傾斜す。天神川の上支中央の山地を切つて北流し、北境を流るる上支と東北隅にて合し倉吉町の方に流る。流域には平地稍々開けて耕作行はる。米・麥を産したる藪を出す。山地は牧場をなし、牧牛盛んなり。古くは和名抄、久米郡久米郷の内なるべし。〔關金山温泉〕倉吉より作州に通ずる埴道を小鴨川に沿ひて瀾りしところ、南に突き當りたる山麓の裾にあり。養老年間の發見にかゝり、の一時間中絶して大同年間には弘法これを再興し、のち元弘年間山名某薬師如來の夢告によりて浴槽を設けたりと傳ふ。泉質は鹽類泉及び硫酸泉。ヤオツ 八百津町 岐阜縣美濃國加茂郡の南部。多治見町(土岐郡)の北

ヤカ

方約一六軒。北より東にかけては久田見村に接し、南は木曾川を挟みて可兒郡錦津村に對し、西は和知村に隣る。古生層より成る東濃山地中において、南は木曾川の峡谷を以て限り、東境に藍足川峡谷を穿つて木曾川に合流す。木曾川沿岸のみ耕地ありて農業營まれ、養蠶業も行はる。商業も此地方の中心をなし、工業は酒・醬油の醸造盛にして、また粗織物・人絹織物の産出あり。町は木曾川の右岸に發達し、古く木曾街道の一驛にて、今は廣見より来る社線東美鐵道の終點八百津驛(昭和五年開業)あり。中世細目郷と呼ばれ、細目は米田莊に屬せしことあり。大字には黒瀬・蘆波・大迫間・經居・油岩・津澤・北山あり、津澤の南丸山に今峯城址あり。山上に古井残り五輪石塔もあり。里人の傳ふる所によれば今峯氏の居城なりとす。土岐系國には「彈正少弐頼遠の子孫保修理亮氏光於細目討死」と見ゆ。町名は傳説に、文武天皇の大寶年間、被蘇街道を開く時、錦織中納言により八百津と命名されしと。爾後細目郷と稱せられ、明治二十二年町制實施と共に八百津と改名す。惟ふに木曾川に沿ひ、水運の便よき地なれば、かく呼ばれしものならん。

ヤカケ 矢掛町 岡山縣備中國小田郡の中部。高梁川の支流小田川の中流北岸に位し、北は美川村、南は山田村、西は川西村に接す。面積九・六二平方軒。北部の大半は山地にして高度は四〇〇米に近く山林なれど、南境を小田川東流し更に一小川北方より山中を南流し來つて之に合し、大いなる沖積地を南部にひろく。市街地は河川合流地の東岸に發達し耕地拓け、村内山林地と耕地面積は略等し。米・麥・繭・薄荷・酒類・木炭・牛馬等の産あり。社線井笠鐵道矢掛驛(大正十年設置、川西村にあり)に近く、また山陽街道河津に通じ後月郡井原町にパス通す。古くは和名抄、小田郡拜慈郷の内なるべく、また延喜兵部省式に山田驛馬二十疋とあるも蓋しこの地にして、近世は長崎街道の一宿驛たり。明治二十九年町制を布く。

ヤカミ 八上 〔八上(郡)〕河内國(大阪府)の古郡名。もと丹比郡の中の八上・八下二郷の地。中世私に是等二郷を八上郡と稱せしものなるべし。爾後ヤカミと訓す。明治二十九年古市・安宿・丹南・石川・錦部の五郡及び志紀郡の一部と合して南河内郡を建て郡名を失ふ。〔八上村〕兵庫縣丹波國多紀郡の南部。篠山川の南岸に沿ひ、篠山町の東南に接し、南隅は有馬郡に界す。南部には三國ヶ嶽(六四八米)一帶の山地ありて地は北へ傾斜す。北部は篠山盆地の一部を占め北境に沿ひて篠山川西流す。米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・果實及び木製品・蠶製品・双物・鶏卵等を産す。北部には縣道東西に横斷す。古くは和名抄、多紀郡檜原郷の内にして、近世日置村と共に單に八上と稱せらる。永正年中波多野秀忠、朝路山(日置村)に築城し此地を市邑とす。慶長中に城市を篠山に移し、爾來全く衰退せり。〔八上(郡)〕因幡國(鳥取縣)の古郡名。古事記神代卷に大國主神、稻羽八上比賣を入れて紀とすと見ゆ。この八上が後に郡名となれるもの。續紀實錄五年の條に郡名出て出づ。和名抄は夜加美と註しに郡名と出づ。若櫻・丹比・刑部・日理・日部・私部・土師・大江・散岐・佐井・石田・曳田の十二郷を管す。中世私にその東部六郷を割きて八東郡を建つ。拾芥抄これを認りて八東郡とし、近世これによりて八東郡

に改めしが、久しからずして舊に復す。明治二十九年、四月八東・智頭二郡を合して八頭郡を建つ。〔八上村〕鳥取縣因幡國八頭郡の北部。東は千代川を隔て、國英村に、北は河原村に、南は散岐・西郷二村に界し、西は氣高郡に接す。北・南兩部には高祖二〇〇米餘の丘陵起伏して中央に向つて低下し稍廣き平地をつくる。西方より来る漢流はこの平地を貫流して東境を北流する智頭川に注ぐ。流域には耕地拓けて農産少からず、米・繭等を出す。山地は牧場をなし牧牛盛なり。智頭川の對岸に縣道を通す。省線因美線も略々縣道に並走しその河原(國中村)・國英(國英村)二驛に近し。もと曳田村といひしが明治四十四年八上村と改稱す。〔寶沼神社〕大字曳田に鎮座。郷社。祭神、八上比賣神。式内社。舊稱西日天王。例祭十月十五日。ヤカミ 矢上村 鳥根縣石見國邑智郡の西南部。東北は中野村、西は日貫村、南は田所・市木二村に接す。面積二三・八四方軒。西北に京太郎山(八二七米)、西南に原山(八八八米)聳え、地勢は西部と南部とに高く、東北方に傾斜す。西部山地の中央より東北境にかけて地勢展げて平地をなし、附近に耕地多し。兼落は中部に連り純農村にして米・繭・清酒・醬油等を産し、牧畜また行はる。山間の僻村にして交通不便。省線山陰本線江津驛に約四〇軒なり。川本町に車馬通す。古

いま矢貫町に省線備前線の矢貫驛(昭和四年設置)あり。ヤガイ 谷貝村 茨城縣常陸國眞壁郡の東部。眞壁町の西北隅にあり。全村平地にて、中部以東は畑地多し、所々林を交へ、西部は水田をなす。農業行はれて、米・小麥・大豆を産す。縣道は南部を横走し、眞壁町及び西北方約七軒の下館町に通じ何れもバスの便あり。眞壁町の社線筑波鐵道眞壁驛に近し。古くは和名抄、眞壁郡長貫郷の内なるべし。弘安勸学、眞壁郡谷貝十五町、細柴三町と見ゆるは此地とす。

ヤカケ 矢掛町 岡山縣備中國小田郡の中部。高梁川の支流小田川の中流北岸に位し、北は美川村、南は山田村、西は川西村に接す。面積九・六二平方軒。北部の大半は山地にして高度は四〇〇米に近く山林なれど、南境を小田川東流し更に一小川北方より山中を南流し來つて之に合し、大いなる沖積地を南部にひろく。市街地は河川合流地の東岸に發達し耕地拓け、村内山林地と耕地面積は略等し。米・麥・繭・薄荷・酒類・木炭・牛馬等の産あり。社線井笠鐵道矢掛驛(大正十年設置、川西村にあり)に近く、また山陽街道河津に通じ後月郡井原町にパス通す。古くは和名抄、小田郡拜慈郷の内なるべく、また延喜兵部省式に山田驛馬二十疋とあるも蓋しこの地にして、近世は長崎街道の一宿驛たり。明治二十九年町制を布く。

ヤカミ 八上 〔八上(郡)〕河内國(大阪府)の古郡名。もと丹比郡の中の八上・八下二郷の地。中世私に是等二郷を八上郡と稱せしものなるべし。爾後ヤカミと訓す。明治二十九年古市・安宿・丹南・石川・錦部の五郡及び志紀郡の一部と合して南河内郡を建て郡名を失ふ。〔八上村〕兵庫縣丹波國多紀郡の南部。篠山川の南岸に沿ひ、篠山町の東南に接し、南隅は有馬郡に界す。南部には三國ヶ嶽(六四八米)一帶の山地ありて地は北へ傾斜す。北部は篠山盆地の一部を占め北境に沿ひて篠山川西流す。米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・果實及び木製品・蠶製品・双物・鶏卵等を産す。北部には縣道東西に横斷す。古くは和名抄、多紀郡檜原郷の内にして、近世日置村と共に單に八上と稱せらる。永正年中波多野秀忠、朝路山(日置村)に築城し此地を市邑とす。慶長中に城市を篠山に移し、爾來全く衰退せり。〔八上(郡)〕因幡國(鳥取縣)の古郡名。古事記神代卷に大國主神、稻羽八上比賣を入れて紀とすと見ゆ。この八上が後に郡名となれるもの。續紀實錄五年の條に郡名出て出づ。若櫻・丹比・刑部・日理・日部・私部・土師・大江・散岐・佐井・石田・曳田の十二郷を管す。中世私にその東部六郷を割きて八東郡を建つ。拾芥抄これを認りて八東郡とし、近世これによりて八東郡

に改めしが、久しからずして舊に復す。明治二十九年、四月八東・智頭二郡を合して八頭郡を建つ。〔八上村〕鳥取縣因幡國八頭郡の北部。東は千代川を隔て、國英村に、北は河原村に、南は散岐・西郷二村に界し、西は氣高郡に接す。北・南兩部には高祖二〇〇米餘の丘陵起伏して中央に向つて低下し稍廣き平地をつくる。西方より来る漢流はこの平地を貫流して東境を北流する智頭川に注ぐ。流域には耕地拓けて農産少からず、米・繭等を出す。山地は牧場をなし牧牛盛なり。智頭川の對岸に縣道を通す。省線因美線も略々縣道に並走しその河原(國中村)・國英(國英村)二驛に近し。もと曳田村といひしが明治四十四年八上村と改稱す。〔寶沼神社〕大字曳田に鎮座。郷社。祭神、八上比賣神。式内社。舊稱西日天王。例祭十月十五日。ヤカミ 矢上村 鳥根縣石見國邑智郡の西南部。東北は中野村、西は日貫村、南は田所・市木二村に接す。面積二三・八四方軒。西北に京太郎山(八二七米)、西南に原山(八八八米)聳え、地勢は西部と南部とに高く、東北方に傾斜す。西部山地の中央より東北境にかけて地勢展げて平地をなし、附近に耕地多し。兼落は中部に連り純農村にして米・繭・清酒・醬油等を産し、牧畜また行はる。山間の僻村にして交通不便。省線山陰本線江津驛に約四〇軒なり。川本町に車馬通す。古

くは和名抄、邑智郡邑美郷の内なり。(諏訪神社) 宇金田山に鎮座。郷社。祭神、健甕名方神外一神。承和二年信濃國諏訪神社の祝部、左衛門太郎信連氏の神を勧請せし。例祭九月二十八日。

ヤカミ 矢神村

郡の西部。新見町の西方約一〇軒に位し西は廣島縣に界す。北に神代村、東に新砥村、南に野馳村あり。面積四五・二四方軒。西境に高取七一九百米の山脈南北に連り、東南方に傾斜するも、村内概ね山岳地に屬し平地に乏し。高梁川の支流西川は北部山地に發して東南流し、沿岸に河谷をひろく、附近に耕地拓くも、他の大部は山林地なり。米・麥・蕎麥・木炭・柿・酒類等の産あり。省線備前矢神驛(昭和五年設置)あり。古くは和名抄、智多郡神代郷の内なるべし。

ヤカミ 八神

岐阜縣羽島郡にありし村。昭和二年本村外一村を廢しその地域を以て桑原村を置く。

ヤカミ 矢上村

長崎縣肥前國西彼杵郡の東南部。長崎市の北東約一二軒。恰も長崎市の背後地に當り南方は横濱に臨み、東は北高來郡と接す。地形北、西及び東は山地にして、其の間に東偏して八郎川流れ流城は沖積層の低地帯なり。爾餘の山地は西部の大部分は結晶片岩より成り、所々に玄武岩・安山岩の噴出を見る。西部の黒岳は玄武岩より成る。其の北部には珪岩の噴出あり。東部の行仙嶽は安山岩なり。中央低地帯と右の火山

噴出岩地帯との間の丘陵地は殆ど第三紀層なり。海岸は肥前中島特有の沈降性海岸なるも、八郎川流域は其の後の隆起あり、堆積平地と、海岸に東望の廣の砂地とを造り、長崎近郊の海水浴場たり。長崎より縣營バス等往來し交通の至便と風光の美とを以て夏季遊覽客雲集す。前面に横はる牧の島は主に第三紀層より成り風光美なり。交通は長崎より諫早に至る縣營バス・雲仙登山バス等長崎より國道日見峠の大トンネルを抜けて往來す。隣村日見村間の酒場湯は近時築港完成により沿岸汽船此地に碇留し海路また便となる。産業は殆ど農業を主とし、野菜・枇杷等も亦栽培せられ、長崎に送らる。(矢上神社) 宇三番町に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊・大己貴命・少彦名命。創建年代詳ならず。天正三年今の地に奉遷し、爾來矢上全村の産土神として崇敬せらる。例祭九月廿九日。

ヤカワ 八川村

鳥根縣出雲國仁多郡の東南部。斐伊川の上流原川に沿ひ、東は鳥取縣、南は廣島縣に界す。北に島上・横田二村、西南に馬木村あり。面積六〇・一三平方軒。郡の中央部より東南隅に延び横はれる大村にして、南中部は三國山(一〇〇四米)の北麓に位し地勢高峻を極む。北部は藤ヶ瀬山(五六五米)の南斜面に屬し、高度概ね五百一七百米の山地に蔽はるも南部には平地あり。室原川は三國山麓に發して北流し山間に河谷を刻み沿岸に耕地拓く。他の

ヤカワ 八木

大部は山林地にして、物産に米・麥・蕎麥・木炭あり。河岸に省線木次線通じ坂根・八川の二驛(昭和九年設置)を置く。

ヤカワ 谷川

愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年本村外一町二村を廢しその地を以て田原町を置く。

ヤキ 八木

出羽國(羽前・山形縣)の古地名。和名抄に出羽國最上郡八木郷と見ゆ。その地詳ならずも、或は今の西村山郡の地内なる左澤町・大谷・宮宿町の邊なるべし。

ヤキ 八木

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に群馬郡八木郷あり。その地いま群馬郡中川村・堤ヶ岡村の邊に當る。中川村の大字に八木・小八木あり。郷名を襲へるもの。

ヤキ 八木

千葉縣下總國東葛飾郡の西部。柏町の西隣にて、西南は流山町、南は小金町と隣り。全村平地にて畑地多く所所林を交へ、南部は低地にて流山町・小金町等に續く沼田の一部をなす。農業行はれて米・麥を産し、養蠶も行はる。縣道は中央を横走して柏町・流山町に通じ、柏町にて陸前濱街道に合す。兩町へバスの便あり。社線總武鐵道は柏町より來りて、村の中央を北走し北部に初石驛(明治四十四年設置)を置く。

ヤキ 八木

近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に愛智郡八木郷とあり。その地はいま愛知郡八木荘村の邊に當る。

ヤキ 八木

京都府竹野郡にありし村。大正十四年本村外一村を廢し豊榮村を置く。

ヤキ 八木

京都府丹波國船井郡の南端。丹波龜岡盆地の北部に位し、町の東は大堰川に臨られ、西・北・南の三面は古生層より成る丘陵性山地にして、高取最高約三八〇米に過ぎざるも傾斜稍々急なり。また南東部には花崗岩の噴出を見る。北東部より町の中央に近く平地ひろく。八木市街地は過半商業、其の他は農業を主とす。省線山陰本線八木驛(明治三十二年設置)ある關係上、近村への貨物集散地たり。また醸造業行はれ、名物桑酒を産す。町内に八木嶺山あり、滿徳山にして昭和十年より事業を開始す。國道山陰街道龜岡より來り、本町を過ぎ國部に至る。其の發生古く既に上代にありと言はれ、京都山陰諸國とを繋ぐ主街道たる事古今變りなし。本街道に沿ふ部分は本町の主要なる街衢にして、形體上、街村に屬す。周山に向ふ街道此處より大堰川を渡り盆地東縁の斷崖を越ゆ。山陰本線八木驛は町の西部にあり。大堰川の舟筏は古より行はれ、桑田郡の物産は隣村吉富村鳥羽その集散地たりしも鐵道開通後衰へたり。本町の中樞地大字八木の街衢は元大堰川の河床なり。元和年間、國部藩主小出吉親これを改修し、北東に轉じ新堤を築き、數十町歩の新田を得て之を免租としければ、小字本郷より堤防下に移轉する者多く、遂に今日の市街を形成せり。故に今の市街は舊河床に當る。小字本郷は八木町の本據地なり。本町は和

ヤキ 八木

傍驛(明治二十六年設置)あり。また社線大阪電氣鐵道の大軌八木驛を置く。古くは和名抄、遊部郡遊部郷の内なるべし。江戸末期の教育者にして且つ尊王攘夷論者たりし谷昌平(贈正五位)は此地の人なり。(觀音寺(小房觀音)) 小房にあり。古義眞言宗。十無量山と號す。本尊十一面觀音(傳空海傳)は小房觀音と呼ばれて衆庶の信仰厚し。詠歌「ただため大慈大悲の觀世音おぶさの里のあらん限りは」(國分寺) 八木にあり。淨土宗。勝滿山と號す。謂ゆる大和國分寺の遺址と傳ふ。本尊、彌陀三尊(傳行基傳)。木造十一面觀音立像一體(續文・續首勅作)は國寶。新西國三十三所十番、大和靈驗觀音七箇所の一。(金臺寺) 八木にあり。眞宗本願寺派。蓮休山と號す。開基は了妙尼。了妙尼の孫堂宇を建立すと。明治維新前迄は吉野假具の本善寺の帶所にして本善寺御分骨の際に、當寺に寄附するを恒例とす。

ヤキ 八木

廣島縣安藝國安佐郡の東部。可部町の西南に連り、太田川及び支流三藤川の合流地の西南岸に位す。北に龜山村、西に日浦・鯉井の二村あり。面積約九平方軒。西境に阿生山(五六六米)聳え村内の西部は山地なるも、北及び東境を太田川南流し東南にて三藤川を合して南流し、流域には稍廣き平地を展く。東南沿岸に耕地拓く。山麓に部落連り、農・牧・工業行はる。米・麥・蕎麥・牛・馬・清酒等を産す。阿生山は原野多く、山麓に

ヤキ 八木

山陽電氣鐵道が横走して八家驛・八家貨物驛(共に大正十二年設置)あり。中世に丹波氏流朝倉氏の一族の地に居し八木氏を稱す。大字木庭はまた木場に作り、往昔は木庭の鹽漬・キノコの泊などといひ一泊所なり。

ヤキ 八木

兵庫縣淡路國三原郡の中部。福良町の東北約一〇軒にあり。地西北より東南へ延びその東南端は淡路島山脈分水嶺に及び、山地を隔てて東は津名郡上灘村に界す。淡路島山地より西北方へ延びる二條の肢脈は東西兩端を限り、中央は西北方へ開く淺き谷をなす。東北部にも小丘陵あり。中部及び西部は三原平野の一部にて平地に隣村へ連り山麓に灌溉用の池塘を設く。土地肥沃にして米・麥・類・蕎麥・蔬菜・食用農産物・果實・製茶・胡麻等を産し醬油・蠶製品・瓦・双物・鶏卵等も産す。四國街道は中部を東北より西南に通じて洲本・福良兩町間の自動車往來し社線淡路鐵道の市村驛(西方約一軒)へ近し。古くは和名抄、三原郡安宜郷の地に於て、今も大字に安宜あり。鎌倉時代、武家此の地に國府を置き八木府と稱すと。いま國分寺及び國分尼寺址あり。また村内に八木館(安宜館)の址あり、小山田氏の宅地なりと傳ふ。足利尊氏治世の初め、細川和氏の弟師氏、淡路の守護となりて來り、安宜の故館に入る。のち此地の細川氏亡び國人みな三好氏に屬し、八木館また亡ぶ。(淡路國道松並木) 指定天然記念物。本村安宜

ヤキ 八木

名抄志摩郷の地、中世吉富荘あり高城神護寺の所領たり。室町時代末、丹波日代内藤重則、町の南西城山に城廓を築き之に據る。明智光秀本國に入るやこれを攻略せしも、光秀滅亡後は一時片桐氏の領たり。元和五年後、國部屬領となり明治維新に至る。(龍興寺) 大字八木にあり。臨濟宗妙心寺派。米山と號す。享徳元年細川勝元の創建、妙心寺義天玄承の開祖。當初、香華寺となす。寺運頗る隆盛を極め結構亦壯麗なりしが、天正七年兵燹に罹り悉く灰燼に歸す。江戸時代伯備、徳川家康の授表により中興の大業を完成せしも、その後寺運退轉し無住となる。天和三年十二月、塔頭精養院階禪香山としてより次第に寺觀整ひ今日に至る。

ヤキ 八木

和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に和泉郡八木郷あり。其の他は昭和十二年泉南郡春木町に合併せられたる舊八木村の地に當る。

ヤキ 八木

兵庫縣播磨國飾磨郡の東南端。白濱町の東に接して播磨灘に臨み、東部は印南郡に界す。西北約三軒に姫路市あり。面積二・一七方軒の小村。北部は地形山の西麓斜面にして東部にも小丘あり。中央及び南部は低平地にして西部に八家川南流して海に注ぐ。田畑よく拓けて米・麥・食用農産・蔬菜・葉煙草・果實・鶏卵・蠶及び沿岸漁獲物等あり。名産には食鹽・ブローム・カルシウム・鹽化マグネシウム等あり。縣道中央を東西に貫き、一道路分れて北走し北部には社線

近く森林あり。省營バス廣瀨線通じ梅林前・安藤八木・太田川橋の三停留所(共に昭和九年設置)設けられて三次町・廣島市へバスの便よし。また太田川には舟楫の便あり。古くは和名抄、佐伯郡藤井郷の内とす。村内に八木城址あり、即ち香川氏の故郷とす。香川景光初めてこゝに來りて地頭職となり、子孫十一世、美作守吉景まで居住す。のち毛利氏に隨ひて移す。

ヤキ 養者 但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に養父郡養者郷見ゆ。延喜・兵部省式に但馬國養者郡々馬八疋とあるも此の地にして郷にして驛を築いたるもの。中世に八木莊と見ゆるものもまた此の地なるべし。地はいま高柳村・關宮村の邊なるべし。高柳村の大字八木は郷名の遺稱ならん。

ヤキ 養基村 岐阜縣美濃國掛兼郡の中郡。大垣市を去る北方約一八軒。西濃平野の西北縁部を占め、北は伊吹山脈を開析し横谷を作る相川が東流し、西北より來る掛兼川に合流し東境を隔る。村の形は略二等邊三角形をなし、平地面積は盡く水田をなし、米・麥の産多し。相川の流域は扇狀地をなし、相川は荒川をなす。昔は相當土砂を流出せるもの如し。社線參宮急行電鐵養老線は村内を走り掛兼驛(大正八年設置)を置く。此村は和名抄、池田郡春日郷の内にして、大字野永は中世以前より野永庄と見え、或は萩長とも書し、又一書には萩長とも見え

雲門庄に屬せしことあり。香井・田中も雪門庄なり。大字相ヶ原の地は扇狀地の開拓地にてもと加須河原新田と呼ばれた。〔養基神社〕大字田中に鎮座。郷社。式内社。古來八木ノ宮と稱し一郡の總社と崇めらる。例祭三月十五日。

ヤキウチ 焼打灣 鹿兒島縣大島郡大島西南部の灣入。灣口西に開き、南の曾津高崎と北のクラキ鼻との間より深く西に灣入す。灣口約一〇軒、灣入約一二軒。灣口に技手久島浮び、灣岸は金崎・長崎・メエン崎・屋崎等突出して頗る屈曲に富む。灣は全く字槍村に包含せられ、灣頭に川内川流入し、諸處に良港あり。

ヤキサト 八木郷村 埼玉縣武藏國北葛飾郡の南端。江戸川の西岸にて、東は川を隔て、千葉縣東葛飾郡松戸町等と相對し、南は東京市葛飾區に隣る。面積五・三四平方軒の小村なり。全村低地に水田多く西境附近は沼田をなす。農業行はれて米を主産す。縣道は中央を南走して東京市に入り、また一方江戸川を渡りて松戸町に通じ、バスの便あり。東京市内の省線常磐線金町驛及び同線松戸驛に近し。古く八木郷早庄と稱せし地にして

て、村名は蓋しその遺稱とす。**ヤキシマ** 楊島 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡楊島郷あり。その地いま詳かならず。或は、久慈川の北岸なる久慈郡東小澤村・西小澤村の邊なるべし。

ヤキシヨ 八木莊村 滋賀縣近江國愛知郡の中郡。愛知川町の東に隣る。全村地形低平にして一望の沃野をなす。農業を主とし米・麥を産す。縣道が東西南北に貫通して自動車の便よく、西一軒餘に社線近江鐵道の愛知驛あり。〔八木神社〕大字宮後小字宮本に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命外一神。天武天皇白鳳十一年大和國春日の祭神を勧請せるものなりと。例祭、四月二十一日。

ヤキシリ 焼尻村 北海道天鹽國留萌支廳留萌郡の西部。羽幌町の西北約二三軒の日本海上に横ばる焼尻島一島を占め、西は武藏水道を隔てて天賣島に對す。面積五・三三平方軒。地東西に長く、島内概ね高さ五〇米内外の平坦なる丘陵性山地にして海岸に崖落あつる。古く利尻島・禮文島と共に漁場として開けし地にて人口密なり。鱈・昆布・鮑・海風・鱈等の漁獲あり。焼尻島燈臺の設けあり。大正二年の初點にして、白色八角形混凝土造、燈質は連四白光、一五秒を隔て一五秒間に四閃光を發し、光達距離一九・五哩に及ぶ。定期汽船により留萌港に交通の便あり。もと専らヤンサシと呼ばし、今はヤキシリと呼ば。明治三十九

年二級町村制を布く。**ヤキノ** 楊野 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に伊香郡楊野郷あり。その地詳かならずれども、伊香郡古保利村・七郷村の邊ならん。古保利村の大字に東柳野・柳野中・西柳野あり。郷名の遺稱なるべし。

ヤキハラ 八木原 群馬縣群馬郡古卷村の大字。省線上越線の八木原驛(大正十年設置)を置く。**ヤキユ** 柳生村 奈良縣大和國添上郡の北部。西南部に奈良市の東方約四軒に當る。北は京都府相樂郡笠置町に接す。中央には東に緩斜傾する稍々幅廣き丘陵が南北に連り東西兩境も狭き丘陵をなす。東境に連る丘陵は西に繞りて北境をなす。中央山地の兩麓には河川が並行して北流し東部の布目川は北部に於て殆ど直角に西折し、更に西部の河道の東方近くに於て再び九〇度に北折し笠置町に入り共に木津川に合す。地味肥沃にして農業行はれ、米・茶・蕎麥・薪炭等の産あり。布目川に沿ひて笠置街道が走り又之より東走する月ヶ瀬街道あり。西北部にては西走する縣道を分つ。各方面へバス通じ交通便利なり。古くは和名抄、添上郡楊生郷の地なり。劍客柳生宗矩はこの地の人にして、徳川家康に仕へ、石を賜はる。のち加増ありて一萬二千石となり、此地に陣屋を置く。正保三年分封し、宗家は八千三百石を領す。寛文八年宗家の時、加増ありて萬石の列に入り

子孫相繼ぎ明治維新に至る。〔天乃石立神社〕大字柳生に鎮座。村社。祭神、天手力雄命。式内社。例祭、九月十六日、十一月廿七日。〔丹生神社〕村社。祭神、四象夜叉命。孝德天皇御宇の創建といふ。例祭、十月十六日。**ヤキヨ** 谷清 千葉縣印旛郡にありし村。大正二年水治村に合併す。

ヤク 夜久 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡夜久郷見ゆ。いま同郡に上・中・下夜久野の三村あり。夜久郷は凡そ此地に當る。**【夜久】** 筑前國(福岡縣)の古地名。延喜兵部省式に筑前國夜久郡々馬十五疋と見え、大宰府往還の要驛たり。その地詳かならずれども、昭和十二年八幡市に入りたる遠賀郡上津役村の役は、この郷名を襲へるものなるべし。

ヤク 屋久島 薩南諸島の一島。種子島の西南約一八軒を距て、面積約五四〇方軒。島形は圓く、殆ど出入なき水平的肢節なるに對し、島の中央には九州地方第一の高峰なる宮ノ浦岳(九三五米)が聳え、永田岳・黒見岳等と共に謂はゆる八重岳の群峰をなして重直的肢節の變化に頗る富む。これ等の山地は主として花崗岩より成り、中生層が外側に點在し水田は宮ノ浦川・水田川岸の狭間の沖積地に限られ、狭長なる海蝕臺地には甘藷が主として栽培さる。屋久杉の名は若し海抜一〇〇〇—一五〇〇米の山腹に最

もよく繁茂し、その巨木密林をなすも、現在には國有林となれるため島民の經濟には關係薄く、耕地の狭小なることも原因して漁業の發達を促す。幸に各河口は湧れて好適なる小漁港を提供し、飛魚・鰯・鯖の漁獲多く、専ら乾魚に製造せられ、中にも栗生の鰯節は著はる。行政上は鹿兒島縣鹿毛郡に屬し、上屋久・下屋久の二村に分かれ、首邑は東北岸の宮ノ浦(上屋久村内)なり。昭和十三年、屋久島調候所を置く。

ヤク 掖玖 屋久島(鹿兒島縣)の古稱。また益久・夜句・夜久・邪久・益救等に書く。**ヤク** 陽口 但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄諸本には二方に陽口郷を置くも高山寺本はこれを缺く。従つてこれをヤクと訓むべきか、ヤクチとすべきか、定説なし。姑くヤクに従へども、其の位置いま詳かならず。

ヤクシ 藥師 奥羽山脈に屬する一峰。田澤湖岸より南東方約一七軒に當る。東側は岩手縣和賀郡深内村に、西面は秋田縣仙北郡長谷田村に屬す。標高一二一四米にて、山體第三紀層より成る。北麓は和賀岳(一四四〇米)、南麓は甲山(一〇一三米)に續く。和賀川は東麓を流ひて南流し、南西斜面より發する山川は西流し、雄物川の支流玉川に合す。

【藥師岳】 足尾山塊北端の一峯。中禪寺湖の南東岸に位し、栃木縣上都賀郡西大苧村・足尾町・日光町の境界上に跨る。山體は花崗岩より成り、標高一四二〇米。北麓より發する水は北東流して大谷川に入る。北方は大谷川の谷を隔てて男體山の東斜面を望見し、北東方には大谷川に沿ふ日光町方面を下瞰す。

【藥師岳】 妙高山群の一峯。主峯妙高山の西方約八軒に當り、これと關川の上流流川の上源を隔てて對峙す。西側は長野縣北安曇郡中土村に東側は新潟縣中頸城郡杉野村に屬す。標高一八〇二米。北麓は天狗原山・金山を経て焼山(二四〇〇米)・火打山(二四六二米)に連り、南麓は遠く戸隠山に續く。山頂よりは東方に妙高山、南東方に墨嶺山・飯綱山を望見し、南西方に日本北アルプスの雄峯・巨岳を見渡す。

ヤクシ 藥師寺村 栃木縣下野國河内郡の南部。上三川町の西南隣にて、西は下都賀郡石橋町等と隣りす。全村平地にて、東部を田川の本支流南流し水田多く一部畑地をなす。農業行はれて米を主産し、蕎麥の産もあり。陸羽街道は村の西端をかすめ、村の中央にもこれと並走する縣道あり、北隣の明治村にて東西に破れて上三川町・石橋町に、南は茨城縣結城郡結城町に通ず。省線東北本線石橋驛(石橋町)に近く交通便なり。古くは和名抄、都賀郡高梁郷の内なるべし。もと

寺名なりしがのち村名となる。中世には庄名にも呼び、宇都宮の一黨こゝに占居し藥師寺氏を稱したり。藥師寺氏は小山朝政の孫、朝村を祖とす。朝村は東鑑に藥師寺左衛門尉と載せ本庄の地頭たり。〔安國寺〕 大字藥師寺にあり。新義真言宗智山派。天武天皇即位八年に建立の藥師寺の遺跡。日本三戒壇の一。弘長二年良賢藥師寺を中興して眞言宗に改む。曆應二年藥師寺を安國寺と改む。元龜元年兵燹に罹り本尊のみ難を免る。其後再建現在に至る。〔下野藥師寺地〕 指定史蹟。安國寺境内に在り。藥師寺は奈良朝國の戒壇として東大寺に次ぎ、筑前の觀世音寺と並び稱せられたる大寺たり。寶龜元年僧道鏡の貶せられて造藥師寺別當となりし寺なり。寺址は東西二二〇米、南北三三〇米の矩形にして、東南及び西南部に土臺遺存し、寺址には所々に布目瓦散在し蓮華紋の瓦礫もあり、當時の規模大なりしを知らる。

ヤクシタニ 藥師谷 石川縣河北郡にありし村。明治四十年ほか二村と合し三谷村となる。**ヤクシド** 藥師堂 省線矢島線の一驛(大正十一年設置)。秋田縣由利郡子吉村藥師堂にあり。

ヤクチ 八口 大和國(奈良縣)の古地名。書紀、天武紀に大野君果安が將軍大伴吹負を破り、追ひて此の地に至り飛鳥京を望み伏兵あらんことを畏れて軍を返す。其の位置いま詳かならず。飛鳥京

ヤクチーヤクリ

に近きところなるべし。ヤクチ 矢口 東京市蒲田区の町。もと在野郡矢口町なりしが、昭和七年東京市に編入せられ、隣接の蒲田町・羽田町・六郷町と共に蒲田區をなす。往昔豊島・江戸より鎌倉に至る多摩川の渡津にして正平十三年十月、足利基氏、江戸高重・升澤左京亮等をして、新田義興を此地に誘殺せしめし處。いま新田神社あり、その靈を祀る。この矢口渡を以て南多摩郡稲城村大字矢野口の多摩川の渡津となすものあり、此は上野より鎌倉に向ふ街道に當る。今専ら前説盛なり。平賀源内が院本「神靈矢口の渡」を作りてより、その名世に喧傳するに至れり。

ヤクモ 八雲

【八雲町】 北海道渡島支廳釧路郡山越郡の南部。内浦灣の西岸を占め、北は長萬部村、南は渡島國茅部郡、西は樺山支廳に界す。面積五四六・一八平方町。海岸線は平撓短距離なれども遊樂部川外數多の小川海に注ぎて河口平野を連れ、八雲町の市街は遊樂部河口の三角洲上に農・牧・漁・工業の中心地として發展せり。後背地は山地をなし、西部樺山支廳との界には高峻なる分水嶺南北に連りて太樺岳・雄針岳等一千米内外の山峯を屹立せしむ。地勢海岸に向ひて傾き海岸平野の邊縁に移る。馬鈴薯・大豆・鮭・鱒・昆布・牛・馬・乳製品等の物産あり。富町内に鐵區三〇萬餘坪を有する八雲鐵山(鐵礦は金銀銅鉛鋅銅)あり。八雲鐵業會社

五五

の採行に係り、昭和十年には金屬採掘六、〇九四萬、二酸化硫黄三三三萬(この總價約一三萬圓)を産出し、同年六月末の鐵夫數は一四四八人、現に重要鐵山たり。また富町内に山越鐵山(金銀山)および山崎鐵山(金銀銅山)あり、いづれも昭和十年事業を開始す。省線函館本線海岸を買き野田道・山越・八雲・黒岩(以上明治三十六年設置)・山崎(明治三十七年設置)の五驛を設く。明治十年尾州藩主徳川慶勝の地に舊藩士を移して開拓せしめ、同十四年八雲村を設く。同十四年一級町村制を布き、大正八年町制を布く。この地には松前藩時代に東蝦夷地の入口として關門を設けり。これ初めは和人の入國を防ぐ爲なりしが、ロシア人が北邊を侵すに至り幕府の直轄領となし和人を居住せしむることがロシア人の警備に役立つとなし、文政元年關門を撤去せり。

【八雲郡】 北海道渡島支廳釧路郡の南部。内浦灣の西岸を占め、北は長萬部村、南は渡島國茅部郡、西は樺山支廳に界す。面積五四六・一八平方町。海岸線は平撓短距離なれども遊樂部川外數多の小川海に注ぎて河口平野を連れ、八雲町の市街は遊樂部河口の三角洲上に農・牧・漁・工業の中心地として發展せり。後背地は山地をなし、西部樺山支廳との界には高峻なる分水嶺南北に連りて太樺岳・雄針岳等一千米内外の山峯を屹立せしむ。地勢海岸に向ひて傾き海岸平野の邊縁に移る。馬鈴薯・大豆・鮭・鱒・昆布・牛・馬・乳製品等の物産あり。富町内に鐵區三〇萬餘坪を有する八雲鐵山(鐵礦は金銀銅鉛鋅銅)あり。八雲鐵業會社

命。文化四年福山の入某の創建せる所に於て、爾來此地の鎮守たり。一名、諏訪明神。例祭、六月二十一日。(八雲神社)宇迦之御魂神等三柱を合祀す。明治十九年愛知縣より移住せる人々によりて創祀せられ、爾來當地の氏神とす。神殿・拜殿・幣殿・神饌所等を具ふ。

【八雲村】 京都府丹波國加佐郡の中部。舞鶴市の西方由良川口近く兩岸に跨る村なり。由良川は村の中央を南北に貫通し神樂屋の小平地川岸に沿ふ。本村の主要生産地帯にして、農業・養蠶業行はる。由良川は古來氾濫甚だしく沿岸の諸村爲に水害に悩む。本村亦其一なり。川の兩側は何れも山地にして、其の大部分は古生層より成るも、東方山地に因縁岩分布す。この附近は東方舞鶴灣との分水嶺となり山形急なり。本村は舞鶴要家地帯に屬す。國道は福知山より來り本村大字八田にて宮津街道と分れ、舞鶴要港を経て若狹に至る。宮津街道は由良川左岸を南北に通じ、由良川を經て宮津に至る。省線宮津線また舞鶴より來り由良川右岸を下り宮津に至り、村内に東雲驛(大正十三年設置)を設く。本村は古の國分寺の地といはる。寺地は大字中山とも又和江ともいはる。延喜式麻良多神社は由良川左岸、舊丸八江村の大字丸田にあり。もと丸田・八田・和江の三ヶ村由良川左岸に並びしが合併して丸八江村と改稱し、昭和三年更に由良川右岸の東雲村と合併し

ヤクリ 八雲

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤケラ 矢倉岳

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤクライ 藥菜山

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤグラサワ 矢倉澤

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤケヒト 益必

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤケイシ 燒石

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤケヤマ 燒山

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤコシ 矢越村

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤケ 夜開

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤケ 燒

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤケヤマ 燒山

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤサカ 八坂

【八雲山】 一に五剣山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一半島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡牟禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の傍岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山骨露出し、その尖峯を一剑・二劍と稱し、五剣に及びしがその中一峯は實永年中の大地震のため崩壊し、今は四峯を殘すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

ヤクリーヤサカ

五五

嶺をなし、小起伏の臺地をなし、数多の村...

【八坂村】山口縣周防國佐波郡の北部...

【八坂村】山口縣周防國佐波郡の北部...

て凡そ百十八箇處河流の殆ど全部を堰止...

【八坂村】大分縣豊後國津見郡の東北部...

【八坂村】大分縣豊後國津見郡の東北部...

のため一字を創せしに始まる。當初、喜...

【八坂村】京都府丹波國竹野郡の南部...

【八坂村】京都府丹波國竹野郡の南部...

屬し明治維新に至る。町村制實施の際、...

【八坂村】京都府丹波國竹野郡の南部...

【八坂村】京都府丹波國竹野郡の南部...

ヤサト 八里村

【八里村】茨城縣常陸國那珂郡の西北部...

ヤサト 八郷村

【八郷村】三重縣伊勢國三重郡の東北部...

ヤサト—ヤシマ

ヤサワ 八澤村

【八澤村】岩手縣陸奥國東磐井郡の南部...

ヤサワ 矢澤村

【矢澤村】岩手縣陸奥國東磐井郡の南部...

ヤサワ 八澤村

【八澤村】福島縣磐城國相馬郡の東部...

ヤサワギ 八澤木村

【八澤木村】秋田縣羽後國平鹿郡の西北部...

ヤサワギ 八澤木村

【八澤木村】秋田縣羽後國平鹿郡の西北部...

ヤシ 夜市村

【夜市村】山口縣周防國都濃郡の西南部...

○四一方軒、戸数一二五、人口五六二八(昭和十年)。屋島は標高二九三米、南北に長く丘陵にして、頂上平坦、周囲は絶壁をなし、屋根形の臺地を形成す、頂上は二嶺に分れ俗に北嶺、南嶺と稱す。山頂は含輝石斜方輝石安山岩(讃岐岩質安山岩)より成り、下部に基盤の花崗岩質地露出す。島の北端長崎鼻は黒雲母花崗岩なれど、他は重に閃雲花崗岩より成り地形は緩斜面を呈す。山頂の安山岩は絶壁をなし、舊登山道には板状節理よく露はれ、北嶺には柱状節理発達す。前者は俗に墨石と稱し、西行法師の此地に杖を引き「やどりしてこゝに假寐の墨石月は今宵の主なりけり」と詠ぜしを以て知らる。南嶺山頂西端の獅子之窟も同様に偶然に形造られし妙窟なり。後者は早く石村として利用せられ、採石址は大洞窟をなす。是により屋島は基盤たる花崗岩質地の上に讃岐岩質岩(古銅安山岩)が内海の層層に誘引せられて基盤(花崗岩)を被りて一帯を被覆せしものにして更に断層並に侵蝕作用を受け、現象を呈するに至りしものなることを知る。この地は實に最典型的なるメサ(熔岩臺地)なりと稱せらる。この地は和名抄、山田郡高松郷の内にして、古く先史時代の居住地たりしが如く、屋島山頂を始め、山麓方面には先史時代の遺跡を發見し得、尙ほ山麓には古墳も少なからず。屋島小學校附近・屋島西麓並に北端長崎鼻附近の如き是にして、長崎鼻の古墳の如きは

銅鏡・銅劍の發見を傳へ、石器時代より將に金石併用時代・原史時代と民族の發達ありしを察し得らる。傳説としても早く神代に遡り得べく、西麓の鶴羽神社は鶴草葺不合草御降誕地にして、豊玉姫八尋御産殿の遺跡なりと傳へ、屋島の名稱の如きも形勢以外にこの傳説により八尋殿に因みての名なりとも稱せらる。日本書紀天智天皇六年條には「築大和國高安城・讃岐國山田郡屋島城・對馬金田城」とありて、屋島の名の古きを察し得。また、早く城砦として利用せしれども窺ひ得。また軍馬も置かれ、屋島の東側灣入を標浦と稱するはこの屋島軍團に發せしを察せしむ。奈良時代より宗教上信仰の靈域として、寺塔建立せらる、屋島寺の起源にして、唐僧鑑真開基。最初北嶺に在りしを、弘仁中弘法大師により今の地に移さる。古義眞言宗、南無山光院と稱し、四國八十八箇所第八十四番の札所たり。御歌歌は「あづき弓屋島の宮に詣てつづ祈りかけて勇むものふ」といふ。境内には貞應の鐘(銘、貞應二年癸未十月廿六日)・相生松・仰之碑・可正樓・瑞鳴寶池(血の池)等由緒あるもの多く、書院の庭は白色凝灰岩露出し、雪庭の名高い。元暦二年二月十六日庚午關東軍兵爲追討平家赴讃岐國山田郡屋島城と云ひ、合戦に關する遺跡は嶺の東側に觀られ、殊に南嶺の古蹟より眺むる時其の史跡手

にとる許なり。源義經が兩軍の氣を望みたりと稱する源氏ヶ塚、安徳天皇行宮址と傳ふる六萬寺をばじめ、同行宮北極門たる總門址、佐藤副將戦死の地たる射落煙並に其の墓、同副將戦死の際其弟に關係せし洲崎寺、源平盛衰記に傳ふる義經弓流の舊跡、那須與市宗高の扇の的を射る際神明に祈願せし新岩・駒立石など一望の中に在り。尙ほ當時安徳天皇行宮の址と傳ふる安徳天皇社、並に景行天皇の皇子神皇王御墓を拜し得。また寛政の鴻儒柴野栗山邸宅址たる栗山堂をも眺め得。單に史跡のみならず、屋島山頂は内海の展望絶佳、殊に北嶺北端より眺望最宜しく、觀光の客四時絶えず。長くも明治三十五年には皇太子殿下(大正天皇)大正十一年十一月には攝政宮殿下(今上天皇陛下)御登山。大正十二年には久通宮殿下御登山、北嶺北端の亭を遊鶴亭と御命名あり。南嶺の北端は明治三十年村雲尼公によりて談古嶺と御命名あり、尙ほ南嶺南部の亭は昭和九年五月梨本宮殿下によりて談古嶺と御命名あり。昭和七年九月には大宇東海元・西海元の地と共に瀬戸内海國立公園の一部に入る。となり、同年十一月には史蹟天然記念物に指定せらる。屋島と處治村との間は良灣入をなし、源平時代の軍港として利用されしのみならず、古くより船場として用ゐられ、貞應年中宇佐より男山へ御遷宮の際、風波のため此處に御入船ありしと傳ふ、いま大宇屋島に鎮ります大宮

神社はこれを物語る。かくて屋島は東西兩側に船場を有し、東を立石港、西を浦生港と稱し、帆船の碇泊地をなす。屋島は從來西海元・東海元・屋島の三小村分立し居りしが、明治維新後、西海元は喜多郡に、東海元村・屋島村は高松郷に分別し、明治四年西海元村は五大區一小區となり、明治十二年には山田郡に屬し、同二十三年五月町村制の施行により、以上合併して湯元村となり、大正九年一月屋島村と改め、尋で昭和八年屋島町となる。屋島町は地勢山岳性にて平地少きため、耕地少く、田地一三八九反、畑六三〇反を有するに過ぎず、又水産業も盛ならず、現今のこゝろ米・麥以外には果樹並に糖芋の栽培を奨励し、副産として養蠶・養鶏・養蜂農田の奨励をも怠ららず。従て農業よりも工業に向ふ必要あり、殊に沿岸は淺海廣く發達せるを以て鹽田の利用行はれ、寶曆五年村の根原景山の決死的努力により始めて鹽田開設せられ、爾來漸次發達し村の西南・東南並に南部一帯は鹽田となり、反別八四六反に上り、六八萬餘圓の産額を挙げ、本町に於ける第一の主産業をなす。此他、醸造(酒)・醬油(醤油)・瓦をはじめ、近時はマダネシウム並にエタニトパイプ(耐火土管)の製造も經營せられ、帆船により縣内を始め、阪神にも輸送せらる。本町は高松市に近く存在し、國立公園として觀光地となりしを以て、近時高松市よりの觀光

道路工事竣工、交通頗る便となりしのみならず、登山にはケーブルカートの設備あり(昭和二年三月創設)、山上には縣營の屋島遊覽道路開け、また山麓を一周する道路の改修成り、省線高徳本線の屋島驛(大正十四年設置)は南隣高松村に置かれ、高松・志度間を往來する社線四國水力電氣は町内に湯元・屋島ランド前・屋島登山口の三驛(何れも明治四十四年設置)を置き、交通甚だ便利なり。尙島の兩側なる浦生並に立石兩港も近時改修せられ、此處を中心として帆船の出入あり、處治の石村を始め、鹽・石炭・鹽田砂等を運搬す。此他屋島の名跡として舉ぐべきものは縣社屋島神社・郷社八幡神社・地藏寺・長崎鼻なり。屋島神社は屋島の南麓に在り、寛文中高松藩祖松平頼重の建立、徳川家康を祀り、四月十七日例祭を行ふ。地藏寺は行基の開基、寶輪山華藏院と號す、屋島寺の木寺、櫻花の名所なり。長崎鼻は屋島山の北端にして海中に突出せる崎を云ふ、安政年間幕府攘夷の方針をとりし際、高松藩の砲臺を築きし處、今尙その遺跡をとむ。

【屋島登山鐵道】私設鋼索鐵道。香川縣木田郡屋島町にあり。屋島神社前驛より起り屋島南嶺驛に終る。全長〇・八軒。省線と非連帯にして、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

【矢島町】秋田縣羽後國山形郡の中南部。本莊町の東南方約一九軒。西南端は山形ヤシマ——ヤシロ

【社町】兵庫縣播磨國加東郡の中央北偏。加古川の東岸に位し、川を隔てて對岸は

龍野町なり。東部および北部は臺地をなす。中央及び西部は平野をなす。西境に沿ひ加古川西南流し、北部には西流する河川ありて之に合す。米・麥類・蔬菜・葉煙草・食用農産物・果樹苗・果實・鶏卵および養蠶・木製品・皮革製品・畜製品・紙木製品・紙製品等を産す。一方軒人口密度は四七五人なり。中部の市街地を中心として縣道四通し、社線播州鐵道播磨支線(四方〇・五軒たらず)へはバスの連絡あり。古くは和名抄、賀茂郡川内郷の内にして、中世以降は河内社或は福田庄と稱せらる。加東郡の大邑にして警備所を置かれたり。(佐保神社)社に鎮座。祭神、天照大神・天兒屋根命・大己貴命。垂仁天皇二十三年の創建と傳ふ。例祭、十月十七日。

【社村】鳥取縣伯耆國東伯耆郡の中部。倉吉町の西に隣接す。西部は西南より東北に走る高さ五〇米餘の丘陵ありて、東に傾斜す。東部に倉吉盆地の西部を占め、天神川の本支流平地の中央を貫流す。平地には耕地よく開けて農業盛なり。米・馬鈴薯等の産多く丘陵地は好牧場をなし牧牛盛に營ふる。また河岸平地は長十郎梨の名産地にして、養蠶業も行はる。縣道よく發達した倉吉町に隣接するを以て往來繁く、省線倉吉線の止揚・倉吉二驛へバスの便あり。往時は八代郷と稱せり。大字國分寺に伯耆國分寺址あり。社小學校の西に接する高臺上に存し、礎石・遺瓦残存し、且つ空塚及び土壘の址所々

北境に大江高山、八〇八米に達し、その南麓に小低地あるはかばか微々臺地性山地をなし、山林多く耕地少し。農業は主として北部の低地に行はれ、米・木炭・酒類・家畜等の産有り。山陰街道北部を東西に貫通し、東隣福武村、西隣大山村に出づればバスの便あるも、村内の交通はなほ不便なり。古くは和名抄、福原郡大郷の内とす。

【八代村】山口縣周防國熊毛郡の北端。北より西は都濃郡に、東は玖珂郡に界し、南は高水村に接す。面積一八・八六平方軒。三郡の會合點に位し、東南境に鳥嶺子ヶ岳(六九七米)聳ち、村内大部分は山地なるも南部の中央に低地ひらけ耕地を存す。粟落の附近に多く、米・麥・木炭の産あり。省線山陽本線勝間驛(勝間村呼坂)は南方五軒に位しこれとバスの便あり。(八代村鶴渡來地)指定天然記念物。渡來地は海拔四〇〇米の高地に於て、四方松林繁る花崗岩丘阜にて圍まれ本田に富む。鶴の渡來棲息地城は須野河内地方を除き殆ど全村に亘り、主に水田なり。鶴は鶴鶴のみにて近年次第に増加の傾向ありて二百數十羽を算す。渡來期は十月二十四日前後、去期は三月上旬なり。渡來経路はシベリヤ東部若くは蒙古方面より日本海を渡り山陰地方を過ぐるならん。

【八代】愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村外二村を廢して旭村を設く。

ヤシロ—ヤシロ

に遺存す。(國廳裏神社)大字國分寺宮之峯に鎮座。祭神、大己貴命外一神。例祭、九月廿一日。(定光寺)曹洞宗。金地福山と號す。應永年中、源贊入道の草創、開山は長應。曹洞宗常恒會地として郡内の一名刹なり。

【社村】鳥取縣因幡國八頭郡の西南部。西と北は佐治村に、東は大村・智頭町に界し、南は智頭町及び四山縣に隣る。面積五〇・三七方軒の大村。中國山脈の主軸東西に連亘して山岳屹立し、その山脚何れも北東にのびて傾斜す。東部に洗足山及びその連峯そびゆ。兩山地間の低地を東南より北方に智頭川流れ、中央溪谷を東流する支流を合す。流域は耕地拓けて農業行はれ、米・麥・馬鈴薯の産あり。山地は木材・木炭を産し、また牧牛を營む。智頭川に沿つて智頭街道鐵道貫し智頭町と北方の用瀬町を連絡す。省線因美線また街道にそつて南北に走り、因幡社驛(大正十二年設置)を設く。此地古くは和名抄、知頭郡美成郷の内とす。傳ふる所に據れば元祿中、大家家典の里氏なるもの初めて製紙の業を傳へて楮を植ふ、之より紙業州内に普遍すといふ。(大山神社)大字宮原に鎮座。郷社。國常立神を祀り、大己貴命を配祀す。元慶三年從五位下に昇叙せらる。古來兼男大明神とも稱し、郡中の大社にして、近郷九箇村の氏神たり。例祭、五月九日。

【八代村】新潟縣中頸城郡の南部。即ち社にて、出羽國の一宮大物忌神社・月山神社より起れる名稱ならん。いま飽海郡吹浦村・高瀬村の邊なるべし。

【屋代町】長野縣信濃國埴科郡の南部。善光寺平の南部に位置し、千曲川の善光寺平へ出る溪口都市として稻荷山町と共に其の左右岸に發達せり。東は兩宮縣村南に埴生・枕瀬下二村に接し、千曲川を隔てて西と北は東都郡鹽崎村と相對す。町は北側より千曲川上流の上田・小諸への入口を扼し交通上の重要地にして、古く北國街道の宿驛として榮え、いま省線信越本線の屋代驛(明治二十一年設置、長野電鐵接續點)は隣村埴生村に設くも、社線長野電鐵の東屋代驛(大正十一年設置)ありて松代・須坂・中野の諸町に連絡す。町の南に一重山あり。戰國時代屋代氏の居館あり。上杉謙信川中島合戦に一要害とせし古戰場なり。町は附近養蠶業の中心として、製絲行はれ亦養蠶の取引行はる。和名抄に埴科郡屋代郷とあるは、蓋しこの地なるべし。中世此地に屋代氏あり。即ち村上列官爲國の後胤とす。近世善光寺街道の一宿驛として榮え、一郡の大邑にして郡役所置かれたり。明治天皇明治十一年北陸東海道御巡幸の御この地にて御小休遊ばさる。(粟俣神社)祭神、健甕名方命外二柱。式内社。例祭九月二十七日。(須々岐水神社)大字屋代町本町に鎮座。郷社。祭神、大國主命外七神。例祭、九月廿三日。

【屋代】出羽國(今の羽前・山形縣)の古地名。和名抄に飽海郡屋代郷あり。屋代は

石川縣能登國鹿島郡に隣接す。水見町の西北方約四軒にあり。東南に傾斜する丘陵地にして山林多く、中部を南流する河流あるも平地狭く耕地に乏し。米・麥・藁等の農産物のほか、林産あり。水見町より邑知湯地帯に出づる縣道南北に貫通し、南方省線水見線の水見驛へはバスの便あり。中世は庄名に呼ばれ、東隣に八代保と見ゆるも蓋しこのことす。(磯部神社)大字磯部に鎮座。無格社。祭神、天日方奇日方命。式内社。例祭、四月五日・九月二十二日。

【八代村】兵庫縣但馬國城崎郡の南部。日高町の北に隣接す。東北方約八軒に豊岡町あり。四周山岳を繞らし西北部に大岡山(六六四米)が聳居す。中部より東流する河川ありて東隣國府村に入り朝來川に合す。村内平地乏しきも各地に農業行はれ米・藁・食用農産物・蔬菜・麥類・果實等の農産あり、また鶏卵・竹製品・瓦等の産もあり。省線山陰本線江原驛(日高町)は南方二軒余にあるも交通はなほ不便なり。古くは和名抄、氣多郡供沼郷の内なるべし。近世八代谷と稱す。太田文に散喜光院領八代庄五十三町八反とあるは、このことす。

【八代】伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に久米郡八代郷見ゆ。その地はいま八頭郡社村の邊をいふ。

【八代村】鳥取縣石見國總持郡の東南隅。東および南は邑智郡に界し、西および北は大原村に接す。面積一三・四七平方軒。

【屋代】出雲國(鳥取縣)の古地名。和名抄に能登郡屋代郷あり。いま能登郡島田村にある支佐布社によりて郷名とせしもの。その地は凡そ島田村・安田村の地に當る。

三四二

【屋代島】大島の別稱。大島郡(山口縣)北に久賀町・蒲野村、東に安下庄町、南に津浦村、西に小松町あり。面積一七・七二平方軒。東北境に文珠山(六六二米)東界に加瀬山(六九五米)・原明山(六二四米)・南西境に瀧海山(四五五米)聳え、西を除く三周は山地に圍まれるも、中央より西北境にかけて地勢ひらけ平地ありて耕地をなし部落ここに聚り、米・麥・藁・煙草・柑類等を産出す。小松町へは蓋しこの地にして、中世は屋代庄と稱したり。古へ海賊衆の旺盛なりし頃は其巢窟たりしといふ。(西蓮寺)淨土宗。觀音山九品院と號す。舊く中興寺と稱し曹洞宗なりしも、後現宗に改む。享保十年、本氣・東裡を再建す。本尊は彌陀三尊(傳源信作)。

【屋代】周防國(山口縣)の古地名。和名抄に大島郡屋代郷あり。中世は屋代莊と稱せり。名稱は小松町にある一宮明神社

【屋代】山形縣羽前國東置賜郡の中部。北は赤湯町に、東南は高島町に隣接す。米澤盆地の東北部に位し、地東北より西南に狭長にして、東北部に大御森山・高ツメ山等の丘陵性山地ある外は土地平坦にして、和田川は西南部を貫流し、水田よく拓く。生業は農業を主とし、米・藁・蠶絲を産し、また葡萄・梨の産地をなす。道路は村の中部を西北に通じ、赤湯町・高島町間のバスの便あり。また社線高島鐵道通じ竹ノ森・一本柳の兩驛(共に大正十一年設置)を設く。古くは屋代郷に作り、和名抄に置賜郡屋代郷あり。中世に屋代莊と云ひしも今の屋代村・高島町邊を含みしものか。

【屋代】出羽國(今の羽前・山形縣)の古地名。和名抄に飽海郡屋代郷あり。屋代は

ヤシロ—ヤス

に出でたるものなり。其地は屋代村・小松町の邊に當る。

ヤシロガワ

社川村

福島縣

磐城國東白川郡の西北部。郡倉町の北に隣り、東は石川郡、北及び西は西白河郡に接す。村の西南境に富士山(四四七米)聳え、南部及び北部は丘陵をなし、中部は平坦にして、社川東北に貫流す。村の生業は農を主とし、米・蕎麥を産出す。道路は中部を南北に通じ、北方矢吹町、南方郡倉町、東北方石川町へは各バスの便あり。社川白根鐵道は金澤内線(大正五年設置)を置く。古くは和名抄、白河郡入野郷の内とす。大字上臺の鹿子山に赤館城址あり。戰國の比に佐竹氏の高野郡(南郷)を略するや、赤館を以て其根城となす。慶長・元和の際には立花・丹羽の二將の江戸幕府の賓客たるや、赤館は實に其采地たり。寛永元年郡倉城の廢せらるゝや、當城も亦廢せらる。

ヤシロダ

矢代田

新潟縣中蒲原郡

小須戸町の大字。省線信越本線の矢代田驛(明治三十年設置)あり。

ヤス

夜須

高知縣土佐國香美郡の西南部。

岸本町の東に隣接し、東は安藝郡に界し南は土佐津に臨む。土地東北より西南の方向に狭長なり。東南・北西の兩境には劍山の西南段の木端をなす山崖連り、東北半部は概ね山地なるも、その山間より出づる夜須川村の中部を西南流して土佐津に注ぎ、中流以下に三角形の平地あり。餘は東南部を東北より西南に貫き、其他諸道四通して自動車の便もよし。本郡は成務天壽の朝國造を定め給へる近淡海安國が國郡制定の時、郡となり、近江國に隸したるものなるべし。持統紀七年の條に益須郡と見ゆ。和名抄は野洲郡に作り三上・敷智・服部・明見・通保・律原の六郷を置く。

野洲町

滋賀縣近江國野洲郡の南部。

野洲川に跨り守山町の東北に接す。全村地形低平にして一望の沃野をなす。全村數七〇六戸中、四八八戸が農家にして一七八戸が商業、六三戸が工業にて其他に二七戸なり。町とは言へ農家が多数を占め米・麥・粟・桑・蠶・肥料用作物・茶等を産し晒の特産物あり。教信坊の始めし以來約三百年來の特産たる野洲晒は廣き芝生の晒場と清澄な水とに恵まれて發達せるものなり。東部に中山道が通ずるを初め縣道四通してバスの便もよく、また省線東海道本線は東部を東北より西南に貫きて野洲驛(明治二十二年設置)あり。近喜兵衛式に野洲傳馬五疋とあるは本町邊なるべし。和名抄は野洲郷なきも或は脱漏せしものならん。また續日本紀天平十二年十二月の條に、野洲領宮の名見ゆ。これまた本町邊に擬すべきにや。古くより名邑として知られ、明治四十四年町制を布き、郡制施行以來郡役所の所在地たりき。(新川神社) 縣社。祭神、新川命。式内社。神位、仁和元年正五位上。舊稱、上新川神社。例祭、五月八日。(稻

ヤス—ヤスイ

野洲

て耕地をなす。平地には農業行はれて米・蕎麥を産し、また野粟の促成栽培もまれ山地には木炭・木材等の林産あり。東南岸に手結岬突出して良港をなす。爲漁業盛にして鮭・鱒等の漁獲大なり。最近には木製品・生糸製造等の工業も興る。海岸に並行して縣道及び社線高知鐵道貫通し、後者は夜須(昭和三年設置)・手結(大正十三年設置)・土佐住吉(昭和五年設置)の三驛を設く。また縣道は西は後免町を経て高知市へ、東は安藝町を経て室戸岬方面へバスを通じ、交通不便ならず。手結港は手結岬の西方にありて、慶安三年野中兼山試掘し、更にまた水應元年開掘して成就せしもの。近年港口閉塞して大船を通過せざりしが、明治四十四年來、縣はその修築をなし、船舶の寄港に便する事を得たり。手結岬一帯は海水浴場として其名知らる。海濱には小磯起伏して干潮時には凹部に貯へたる潮水が自然日光に熱せられて湯の如くなり浴浴に適す。岬端に夫婦岩ありて奇景を以て稱へらる。こゝは古昔佛崎と呼び、壽永元年夜須城主夜須七郎行家、平氏の家人蓮池家綱・平田俊遠に追はれ、船を載して紀伊に赴きし所とす。また大字手結宮行寺境内に臥龍柏の老樹あり。地上一・三米の周圍一・七米、樹高一二米にして推定樹齡は七百五十年といはる。昔、夜須七郎行家が妻和二年上國に際し記念として植へるところと傳へらる。(夜須城) 大字手結に地あり。鎌倉時代、夜須七郎行家居城す。行

家かて源氏に隣近なり、源頼朝の弟希義、平治の亂に平氏のために土佐に流され、長岡郡介良庄に居りしが、壽永元年九月、希義、行家と約あり、行家を訪はんと夜須城に赴く途中、平家の家人蓮池家綱・平田俊遠等に、長岡郡年越山にて討たる。行家、急を聞き直に一族を率ゑる。應援せんと物部川の東、野々宮に至り、希義の既に殺されしを聞き、突しく還れり。家綱等また行家を訪たんとす、行家、擧族乘船し佛崎を發せんとせしも、家綱等馳せ到り、使を遣し行家を誑殺せんとせしに、行家却て使者を斬り紀伊に航せり。壽で歸國し、後、恩賞を蒙る。(八幡宮) 大字夜須に鎮座。地社。祭神、應神天皇。例祭、七月廿八日・十月五日。

【夜須(郡)】 筑前國(福岡縣)の古郡名。神功皇后の羽白鷺鷺を誅し給ひし安國の地。和名抄は東西と註す。これ郡を東西に二分したるものか。中屋・馬田・賀美・雲根・刈島・栗田の六郷を置く。明治二十九年上座・下座の二郡と合併して朝倉郡を建つ。

【夜須村】 福岡縣筑前國朝倉郡の西北部。甘木町の西北約六軒。北は嘉穂郡に、西は筑紫郡に、南は筑後國三井郡に接す。東北半部は見良山塊の西部にして、北境上には大根地山・砥上山、その中間に冷水峠ありて横して山地を成すも、西南半部は筑後平野の北縁を占めて土地低平、田畑よく拓く。生業は農にして米・麥等を産し、殊に米は良質を以て知らる。

土砂の運搬最大に且つ水無川となり野なるも、三角形の突出現象著しく、湖岸平野の構成要素の主要部分なり。流域には水田及び畑地相當に發達し、湖東平野の農業地域の一部をなす。東海道の鈴鹿峠・土山・水口・石部等の宿驛はこの流域に沿うて發達し、今は省營バス通じ、鐵道は南の支流に沿ひ、拓植・草津間に省營津線あり、拓植の鞍部を利用して關西本線と連絡す。東海道本線は野洲町に於てこの流域を横切る。

安村

廣島縣安藝國安佐郡の中部。

廣島市の北界を距る約六軒、北に日浦村、東に鎌井村、西に伴村隣接す。面積一七・二七平方軒。北部・南部に山地横たはるも、中央に傾斜し、中部には東西に巾狭き平地連りて耕地拓げ、桑落もみなここに發達す。北部・南部の山地には山林多し。農村にして米・麥・蕎麥・粟等の産少からず。省營バス廣瀬線の上・中・下の三線井野及び中古市驛に近く、一時間毎に自動車の便あれば交通不便ならず。和名抄に佐伯郡安我郷とあるも、安我は夜須の誤にして本村邊を稱せしものならんといふ。

八頭郡

鳥取縣二市六郡の一。

因幡國の略々南半を占む。北は岩美・氣高の兩郡に、西北は伯耆國に界し、南は岡山縣に、東と東南は兵庫縣に隣接す。面積八七七方軒餘。東西に連互する中國山脈の高嶺の地をなし、東に扇ノ山・米ノ等、西には三國山、南には三宮・沖・形岐

縣道西南部低地を西北二日市町より東南方甘木町方面に走りてバスを通じ、社線朝倉鐵道通じて石積驛を設け、交通便利なり。古くは夜須郡の中屋郷の内とす。明治四十一年三根・中津屋・安野の舊三村を合併して夜須村を建つ。村内の七板原は神功皇后の羽白鷺鷺を討ち給ひし層層岐野の地なりといふ。一に糸島郡雷山村にも層層岐野の名ありといふも、地理、神功紀に合はず。(中津屋神社) 大字砥上に鎮座。地社。祭神、神功皇后外二神。例祭、九月廿四日。

【野洲郡】 滋賀縣(近江國)十二郡の一。縣の西南部。野洲川及び日野川の下流域を占めて琵琶湖に臨み、對岸に滋賀郡を望む。面積一〇二方軒餘。東南部に鏡山(三八五米)・三上山(四二八米)等の丘陵性山地あるも其他は野洲川及び日野川の沖積地にて、地形極めて平坦なり。野洲川は郡の中部を西北に貫きて河道は二條に分れ、共に琵琶湖岸に小三角形を造る。日野川は北部を西北流して湖に注ぎ、同じく小三角形をつくり、その東西に湖の小支溝を擁す。水利の便よく且つ、土地肥沃なる爲、田畑よく發達して米・麥・蕎麥・茶・粟等の農産物多く林産・水産物もあり。郡内は守山町・野洲町の外十一ヶ村を含み、人口密度は一方軒につき四一六人あり。守山町の如きは最も多く一〇八三人に達す。最も少きも三上村の一八八人なり。中山道及び省線東海道本

等の諸峯を立して北に向つて傾斜す。郡岐山北麓より野洲川の上流發して北流し三宮山北麓より八東川上流出でて西北方に流れ、郡の北部にてこの二川合して千代川となり北流す。之等の河谷には耕地よく拓く。山地は廣く好牧場をなし牛・馬を飼育したる木炭・木材等の林産あり。耕地には米・蕎麥等を産し、養蠶行はれて繭を出す。若穂街道は八東川谷に沿ひて東北部に通じ鳥取市と姫路市を連絡す。鳥取市より出る野洲街道は野洲川に沿うて南走し津山市に連絡す。省線因美線は野洲街道に添ひ南北に縱貫す。明治二十九年八上・八東・野洲の三郡を合併して、本郡を建つ。

矢頭山

松阪市の西方約一四軒、三宮縣一志郡波瀬下之川・宇氣郷、中部の四村境上に跨る山。標高七二三米山麓花崗岩より成る。山腹に矢頭權現を祀る小祠あり。

安井

青森縣東津輕郡東部の一岬角。野邊地河の西岸に位し、南下すれば沙立川河口の小河入に至るべく、北上すれば約五軒にて鼻懸峠に達す。

安井

大阪の地名。現今天王寺區邊坂上之町。一心寺坂の北、有名なる安居天神祠あり。菅原傳授手習鑑・二・惜しや都の菅丞相、筑紫へ流され給ふゆゑ、津

國安井に風待しておはします」

野洲

野洲

【安井】鳥取縣日野郡にありし村。大正二年本村及び渡村を廢し、其地を以て日野村を建つ。

ヤスウシ 安牛 北海道天鹽國天鹽郡樺尾村の大字。省根宗谷本郷の安牛驛（大正十四年設置）あり。

ヤスウチ 保内村 富山縣越中國磐前郡の中部。八尾町の北に隣接し井田川左岸に沿ふ。富山平野の南部を占め、西半部は丘陵山に於てその山麓に沿ひ井田川の一分支牧川北流し、更に東境を井田川北流す。この兩河の灌漑により東半部平地は肥沃なる水田拓がる。農業を主とし米の産多き外、山裾の帯には養蠶盛にして繭の産もあり、本郷の主要養蠶地帯に屬す。その他麥・蘆粟の産あり。東部を南北に省根高山本郷貫走し越中八尾驛（昭和二年設置）あり、縣道またこれに並走し八尾町へハスの便あり。もと田中郷に屬したり。城ヶ山公園の麓に角間梅林あり。廣き一、四八ハアールの平原に互る梅林あり。花季は三月下旬より四月上旬、果實の産額百石に及び角間梅と呼ばる。

ヤスオカ 安岡 山口縣豐浦郡にありし町。昭和十二年下関市に編入せる。

ヤスオカ 秦阜村 長野縣信濃國下伊那郡の南部。天龍川の東岸に位置し、伊那谷地の南端山地が天龍川の侵蝕により峡谷をなし東海邊に出づる先行性流路に當る。東端は龍巖山（一、二六

リ）村。明治三十九年本村外二村を廢しその地を以て吉田村（いま吉田町）を建つ。

ヤススカ 安塚村 新潟縣越後國東頸城郡の西北部。保食川に沿ひ、北及び西の一部は中頸城郡に界す。全村高さ三百—五百米の高原性丘陵起伏す。保食川は北部を東西に貫流し、南より来る二支流を合す。桑原に之等河谷に散在し、米の産多き養蠶・林業の副業も行はる。本郷の特色にして、縣道は保食川の本支流に沿ひて東西及び南へ走り主要部落より高田市へ約一六軒を隔つ。隣村下保倉村浦川原まで社線頸城鐵道の便あり。之より村内へはバス通ず。古くは直峰ともいひしにや、一書に安塚直峰城は風間氏の舊居と録す。また風間信濃守といへるもの越後武士太平記に見ゆ。或はこの地の人にや。もとは一郡の名邑にして郡役所置かれたり。（龜川の大杉）指定天然記念物。大字龜川宇島越にあり。一株。白山神社境内にあり、日通幹圍約一〇・六米、樹勢旺盛杉の巨樹として有数のものなり。（坊金の大杉）指定天然記念物。大字坊金にあり。日通幹圍八・五米、幹の下部より多く枝を分つ。杉の地方的巨樹として有数なり。（諏訪神社）大字安塚に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命・經津御魂神。本殿・幣殿・拜殿・神饌所・社務所等を見ふ。

ヤスタ 安田 新潟縣越後國北蒲原郡の南（安田村）新潟縣越後國北蒲原郡の南

米）譽え、天龍川床は高差三四〇米なれば其間八〇〇米の高差ある峡谷なり。從つて耕地は僅かに天龍川の谷底に存するのみ。耕地面積は四〇一町（田一三七町、畑二六四町、うち桑畑二五三町）、全面積に對する耕地率六％にして山村の特色を示し、桑畑卓越し養蠶業亦重要な生業をなし謂ゆる蠶桑式農村なり。社線三信鐵道通じ唐笠・門島以上昭和七年設置、田本・湯田（以上昭和十年設置）、我村（昭和十一年設置）の五驛あり。

ヤスカワ 安川村 福岡縣筑前國朝倉郡の西北部。甘木町の北に接し、東境北半は秋月町と界し北は嘉穂郡に隣る。北部及び西北部は馬見山塊の山地にて南と東へ傾斜す。東南部は東南境に聳ゆる休山（高千穂ヶ城、三一五米）の斜面地なり。小石原川は東南部の山地の麓に沿ひて中部を西南流す。沿岸に廣闊な低地開け南方一帯に展く。筑後平野に連る。耕地よく拓けて米・麥等を産す。河川に沿ひて秋月町と甘木町とを結ぶ縣道及び社線兩筑産業線通ず。古くは和名抄、夜須郡川島郷の内なるべし。

ヤスキ 安城村 鳥取縣石見國那賀郡の西南部。濱町の南方約八軒の地より南方の彌山（九六四米）の北麓に伸びたる大村にして、南は美濃郡に界し、東は波佐村、西は漁山・杵束二村に接す。面積七七・六平方軒。四周に山脈を繞らし、西北の漁山（七四四米）より彌山にかけての地勢極めて高峻なり。村内の大

編。阿賀川の中流右岸に沿ひ、東は東蒲原郡に、南より西へかけては阿賀川環流（五六四米）西斜面の山地にして阿賀川の小支流の源流をなすも、中央部より西部へかけては蒲原平野の一部に屬し耕地開く。北部鳥屋ヶ峰の南には二三の沼澤を湛へ森林をなす。南西部の阿賀川岸は概ね桑園にして養蠶地帯をなし、主要部落保田附近には水田多し。農蠶を主業とし米・繭の産共に多く、製糸も行はる。其の他山麓には屋根瓦・陶器を製する家多し。阿賀川は川巾廣きも砂洲多く舟運不便なれども、縣道北方より西南部を通じて若松街道に連り、北方の水原町へハスの便あり。また省線磐越西線馬下驛（川東村）にも遠からず、交通不便ならず。古くは和名抄、沼垂郡足羽郷の内なるべく、中世は白川庄に屬したり。大字保田はもと安田に作りしが、貞享年中火災に罹りし時、安の標に宇音近きを以て忌みて改むといふ。中世安田氏の居りし所に於て、其城址、ま田圃となるも尙ほ認むべし。安田氏は城氏の裔孫にして、のち上杉氏に屬して、馳名あり。上杉氏轉封の後浦口氏その將吉竹右近を置きしが元和八年廢城となる。（觀音寺）大字草水にあり。曹洞宗。臨濟山と號す。開山は月恵明禪、應仁二年の創建なり。元和年間と明治戊辰役と再度火災にあひ、今の本堂は明治十五年の再建。本尊は聖觀音。（孝順寺）大字保田にあり。眞宗大谷派。

部は高度五百米以上なるも中央には低地存し、桑原の附近に多く耕地拓く。周圍は廣大なる山林地なり。林業盛んにして用材・木炭の産多し。米・麥・繭・清酒等の産もあり。省線山陰本線石見長濱驛へ自動車あり。古くは和名抄、那賀郡杵束郷の内なるべし。大正十一年長安村・高城村を合し、其の各々一字を取りて安城村と命名す。字山賀に牛ヶ淵ありて一におまん淵といふ。昔村内畑ノ城におまんといふ下地ありて、毎日飼牛に水を取ふる役を勤め居たりしも、興へし如く見せかけ牛小屋の日に流すを常とせしを以て、遂に牛は溺して牛小屋より飛び出し、この淵に至りて水を飲まんとして溺せり。その後おまんも遂かに發狂しこの淵に身を投じて死せり。（八幡宮）大字長安本郷に鎮座。郷社。祭神、神功皇后外二神。後花園天皇享德元年豊前國宇佐宮より勧請せり。例祭、九月二十七日。

ヤスキ 安來町 鳥取縣出雲國能義郡の中部沿海。中海に面し、東方はこれを隔てて米子市と相對す。東は島田村、南は能義村を挟んで廣瀬町に近し。面積五・六一平方軒。伯太川中央を北流して海に注ぎ、地勢概ね平坦肥沃、耕地多し。市街地東岸にひらけ、港を有し、郡内奥地の木炭・杉材の移出港なり。町は安木製鋼所を有し銃鐵・鋼鐵を産し、他に醸造・生糸・清酒・醬油・赤貝・蠶糸及び米・麥・栗・用材等の産あり。省線山陰本線、東部、川村等の産あり。省線山陰

徳栗山と稱す。觀覽感後徳化の碑、一貧家の老婦徳栗を施めしに觀覽六字の名號を書して與ふ。里人一草庵を構へ之に安置せしに始る。二百年餘の後草庵を寺とし専念寺と號し、爾來寺基を移す事數度、寺名改稱亦一再ならず、江戸中期遂に現地に移り、寺號を現在の如くす。當寺の東北一里餘上野ヶ原に三度栗の舊跡あり。

【安田】 新潟縣刈羽郡田村の大字。省線磐越本線の安田驛（明治三十二年設置）あり。

【安田村】 鳥取縣伯耆國東伯郡の西部。東は赤崎町・成美村に、西は下中山・上山二村に界し、北は日本海に面す。土地南北に狭長にて、南部は船上山の北斜面を占め、北部はその山麓下に發達せる低平な砂濱地を占む。勝田川を東南より流れて海に注ぐ。平地には耕地よく拓けて米・繭・馬鈴薯等の農産あり、また大山西風を出す。山腹は牧場をなし牛馬の飼育盛なり。海岸に並行して國道山陰街道東西に走り、その南側を省線山陰本線貫通す。東隣赤崎町の赤崎驛まで約二軒。和名抄に八橋郡津津郷とあるはこの地なるべく、大字津津はその遺稱なり。大字津津の地は元弘三年閏二月、後醍醐天皇隠岐より御潛幸の際、御船の先づ着きたる地とす。梅松論には名和庄津津とあれど名和庄は誤なるべし。また大字尾張はいま大山國立公園の地域内に入る。

【安田村】 鳥取縣出雲國能義郡の東北端。宇賀莊村を隔て、西北に安來町あり、北

本郷の安來驛（明治四十二年設置）あり。また近海に汽船の便を有し、母里村・廣瀬町等へバス通ず。和名抄に能義郡安來郷とあるは、蓋し此地にして、町名は其遺稱とす。古く隱岐國へ渡るにはこの地にて乗船せしものゝ如し。太平記には屋杉庄に作る。此地は俗語安來節の本場として其名遍し。安來節はこの邊在來の船唄に作意せしものにして、「安來千軒名の出たところ、社日標に十神山」「出雲名物荷物にやならぬ、聞いておかへり安來節」など最も著名なり。城内にはこの歌にある如く十神山・社日標等の名所があり、また月ノ輪神事は、安來名物の一なり。この神事は陰曆七月十三日より三日間、近郷の男女隊を作りて假裝し、太鼓横笛等に和してはやし乍ら夜間町内を練り歩く奇習にして、語区猪麩の雲を帯すものなりといふ。猪麩はその娘、麩に足を咬まれて落命せしたため大いに悲しむこと出雲風土記に見ゆ。（安來一里塚）指定史蹟。安來町の西にあり、松江以東舊藩道の一里塚にして、道を狭み略南北に相對して存す。南塚は概約一四尺高さ約四尺、上に日通幹圍約一〇尺の松あり。北塚は概約二〇尺高さ約五尺、上に日通幹圍約一五尺の松あり。西側に休所の名残を留むる家あり。（賀茂神社）大字安來に鎮座。郷社。祭神、別雷大神外一神。社傳に寶龜九年創建なりと。例祭、十月十一日。

ヤスサダ 保定 愛知縣稲垣郡にあり

は島田村、南は母里村に、東は鳥取縣西伯郡に界す。面積一三・九八平方軒。東部は高さ二百米内外の臺地狀山地なるも、西部伯太川岸には平地展けて農耕地をなし、山地は牧畜・林業を行はる。米・麥・繭・木炭・薪材・鶏卵・牛・馬等を産す。西境に縣道通じ安來町・母里村間のハスの便あり。和名抄に能義郡日邊郷とあるは即ちこの地にして、中世は安田庄と稱す。男山別當文書にも安田庄の名見え當時八幡宮領とす。

【安田村】 鳥取縣石見國美濃郡の北西部に在り、北東は鎌手村、東は北仙道村、南西は益田町、西は吉田町に接し、北西は日本海に面す。日本海岸を除くほかは山丘連互して自然に他町村との分界を作り、また一脈の山丘、村の中央を南東より北西に走りて自然に遠田・津田の二大字に分つ（もとは何れも獨立せし村）。遠田・津田の兩川は何れも北仙道村に起り各々遠田・津田の中央を北西流して日本海に注ぐ。遠田の地質は凡そ粘質壤土にて遠田川を中心と田一四六ヘクタール、畑五六ヘクタールあり、津田は凡そ砂質壤土にて津田川を中心と田四四五ヘクタール、畑一八ヘクタールあり、但し遠田・津田の兩川は何れも灌漑の利十分ならず村内には多くの溜地ありて之を補ふ。國道は鎌手村より來りて益田町に入り、路

上バスを通じて北東方は濱田町、南西方は津和野町方面に至る。省線山陰本線また國道と並走し石見津田驛（大正十二年

は鳥取縣出雲國能義郡の東北端。宇賀莊村を隔て、西北に安來町あり、北

本郷の安來驛（明治四十二年設置）あり。また近海に汽船の便を有し、母里村・廣瀬町等へバス通ず。和名抄に能義郡安來郷とあるは、蓋し此地にして、町名は其遺稱とす。古く隱岐國へ渡るにはこの地にて乗船せしものゝ如し。太平記には屋杉庄に作る。此地は俗語安來節の本場として其名遍し。安來節はこの邊在來の船唄に作意せしものにして、「安來千軒名の出たところ、社日標に十神山」「出雲名物荷物にやならぬ、聞いておかへり安來節」など最も著名なり。城内にはこの歌にある如く十神山・社日標等の名所があり、また月ノ輪神事は、安來名物の一なり。この神事は陰曆七月十三日より三日間、近郷の男女隊を作りて假裝し、太鼓横笛等に和してはやし乍ら夜間町内を練り歩く奇習にして、語区猪麩の雲を帯すものなりといふ。猪麩はその娘、麩に足を咬まれて落命せしたため大いに悲しむこと出雲風土記に見ゆ。（安來一里塚）指定史蹟。安來町の西にあり、松江以東舊藩道の一里塚にして、道を狭み略南北に相對して存す。南塚は概約一四尺高さ約四尺、上に日通幹圍約一〇尺の松あり。北塚は概約二〇尺高さ約五尺、上に日通幹圍約一五尺の松あり。西側に休所の名残を留むる家あり。（賀茂神社）大字安來に鎮座。郷社。祭神、別雷大神外一神。社傳に寶龜九年創建なりと。例祭、十月十一日。

ヤスサダ 保定 愛知縣稲垣郡にあり

は鳥取縣出雲國能義郡の東北端。宇賀莊村を隔て、西北に安來町あり、北

本郷の安來驛（明治四十二年設置）あり。また近海に汽船の便を有し、母里村・廣瀬町等へバス通ず。和名抄に能義郡安來郷とあるは、蓋し此地にして、町名は其遺稱とす。古く隱岐國へ渡るにはこの地にて乗船せしものゝ如し。太平記には屋杉庄に作る。此地は俗語安來節の本場として其名遍し。安來節はこの邊在來の船唄に作意せしものにして、「安來千軒名の出たところ、社日標に十神山」「出雲名物荷物にやならぬ、聞いておかへり安來節」など最も著名なり。城内にはこの歌にある如く十神山・社日標等の名所があり、また月ノ輪神事は、安來名物の一なり。この神事は陰曆七月十三日より三日間、近郷の男女隊を作りて假裝し、太鼓横笛等に和してはやし乍ら夜間町内を練り歩く奇習にして、語区猪麩の雲を帯すものなりといふ。猪麩はその娘、麩に足を咬まれて落命せしたため大いに悲しむこと出雲風土記に見ゆ。（安來一里塚）指定史蹟。安來町の西にあり、松江以東舊藩道の一里塚にして、道を狭み略南北に相對して存す。南塚は概約一四尺高さ約四尺、上に日通幹圍約一〇尺の松あり。北塚は概約二〇尺高さ約五尺、上に日通幹圍約一五尺の松あり。西側に休所の名残を留むる家あり。（賀茂神社）大字安來に鎮座。郷社。祭神、別雷大神外一神。社傳に寶龜九年創建なりと。例祭、十月十一日。

ヤスサダ 保定 愛知縣稲垣郡にあり

設置)を置く。また縣道種田線は村の南端を横断して、益田町にて國道に接続し、縣道津田郡茂原線は津田にて國道より分岐し北仙道村を通り東仙道村にて益田郡茂原に相會す。富村生産物の首位を占むるは米にして、之を大部分とし全農産物及び同加工品を合し一〇萬圓を超す。工業七八萬圓あり、之に次ぐものは養蠶・畜産・木産を掲ぐべし。蠶表は富村の特産物にして、外に遠田海岸には砂鐵を埋藏し、殊にその砂鐵にはチタニウムを含有することは注意すべく、本邦には稀なる存在とす。また遠田には白色重粘土ありて副産物或は赤瓦製造用に供せらる。なほ富村に於ては勤勞並に労働による収入は見逃すべからざる収入にして五萬圓以上のものばる。扱て遠田宇崎ノ鼻に圓墳・方基圓墳・前方後圓墳など約五十基に及ぶ集團古墳を残したるものは誰ぞ。それは開化天皇の皇后宣都姫命の裔たる久城族にして、大和より來れるもの、而して前記古墳の形式及び發掘されたる漢土式の銅環頭鎧及び銅鐙等により、かの古墳は凡そ崇神朝より天智朝に至る間の築造と想定せらる。また遠田宇上遺田に圓墳を残せるものは、久城族より後に此地に來れる漢族にして、こは大陸より直接此地に移れるにはあらずして近畿或は九州地方より來れるもの、而して之は阿知使主を祖とする坂上族なりといふ。即ち阿知使主の子都賀使主に三子あり、その三男爾波波伎は朝仕へて内藏、

職に任じ坂上内藏と稱せしが、のち内藏は奥州に赴き、更に彼或は其族が上遠田の地に來りて永住す。その子孫は今に富村に澤江族として残る。爾波波伎六世の孫より清池を造る(紀元一千三百年代)。これ恐らくは本郡に於ける最初の堤なるべし。今に清池の字名を残す。良良の曾孫に京宗あり、醫藥の術を學びてのち京宗と名乗り醫術のかたはら醫藥をなして遠近に名あり。築堤と云ひ醫藥と云ひ、子孫連綿今日に残る、斯くの如きにも因るか。萬壽三年五月には大海嘯あり、此時鴨島牛島崩壞して遠田港に異常なる變化を來せるもの、如く、かくて遠田村民は恐れをなし低地にありし者は丘陵方面に移動す。建久三年に御神本兼高益田に移り石見守護となれるが、その七世の孫次郎左衛門兼治は遠田城主となりて遠田を開拓す。これ遠田氏の祖なり。また仙道四ツ山城主須藤忠朝の臣藤原土佐正は元龜元年四ツ山城を毛利勢に攻めせらる。や二子と共に脱し、後年二男四郎左衛門は上津田に土着し、其男は遠田の初代庄屋となる。このほか富村成立の人的要素となりし者は、多くは中世より近世にかけての戦敗者の當地に逃れて土着したる人々なりとす。紀元二千三百年代に大島小助なるものあり。萬壽の大海嘯のこのかた沿岸方面の耕作は何人も手を下さざりしところ、彼は沿岸に一大砂堤を築造して遂に耕地化するに至る、これ今日の宇

上遠田の基とす。このため大島家は零落したるが、今日富村に傳承さるゝ人杜傳説は之に因由するものなり。天明年間當地に大飢饉あり、之に鑑みて遠田の庄屋山崎嘉兵衛、津田の庄屋矢富三郎は農民に甘言を移せしむ。山崎氏は山崎式部大輔の子孫と云ひ矢富氏は一時美濃郡七十五箇村の割元庄屋たりしことあり。また紀元二千三百年代和佐田治兵衛なるもの豊後より蘭草を移植し蠶表の製造を奨励す、これ今日遠田が蠶表産地たる所以なり。彼は此外に製紙や推草の栽培をも奨励したるが、彼が紙造重寶なる木版の出版をなしたるは、頗る特異なる事とす。(八幡宮)津田にあり。俗に水雲鳥八幡といふ。郷社にて祭神は應神天皇・神功皇后・多喜理比賣命・多喜津比賣命・市井島比賣命。元祿十六年部落大火の際類焼し、今日の社殿は享保三年の建築に係る。恐らくは久城族の氏神なりしなるべし(例祭十月二日)。(信行庵)遠田にあり。本派本願寺末にて本尊は阿彌陀佛。赤穂義士の一人、寺坂吉右衛門の開基といふ。一時廢廟したるを文化五年顯淨中興す。(觀音寺)津田にあり。曹洞宗永平寺派妙義寺末、本尊觀世音菩薩、殊梅和尚を開山とす。(東方寺)遠田にあり。臨濟宗東福寺派靈光寺末にて、本尊は藥師如來、醫光寺第九世開室の創建なり。(専龍寺)津田にあり。眞宗大谷派にて本尊は阿彌陀佛。當地の名刹にて俗名前田龍庵(醫術)法名念西の草創に係

り、境内には徳行者前田靈の墓あり。【安田】廣島縣甲奴郡にありし村。大正元年本村外四ヶ村を廢し上川村を置く。【安田村】香川縣讚岐國小豆郡の東部。草壁町の東に位し、北は福田村に、南は苗羽村に界す。東は播磨灘に、西北は内ノ海灣に面す。西北隅に聳ゆる星ヶ城山(八一七米)の山段村の中部を東南の方向に延び東西兩海岸に向つて急傾す。北東部には斷崖をなす所あり、西南部には稍々廣き沖積地あり小河を流れて内ノ海灣に注ぐ。流域には耕地拓けて麥・豆類・米等を産し、丘陵地には蜜柑類の栽培あり。沿岸にては漁業行はる。また養蠶・醬油の製造行はる。主邑は西南部にひらけ、縣道通じ西方土庄町(ハス)を通す。古く附近諸村と共に草壁庄と稱せらる。西北境上の星ヶ城山は小豆島中第一の高峯とす。興國年中、備前の人佐々木信風こゝに城きて吉野朝に應ぜしが、正平二年細川頼之のために攻められ城遂に陥る。【安田町】高知縣土佐國安藝郡の南部。東は田野町に隣接し、西は伊尾木・川北二村を隔てて安藝町に近く、北は中山村に界し、南は土佐灣に臨む。面積一六・八四方軒。北には高取數百米の諸山聳えて何れも南方に山脚を伸し海岸に向つて低下しその先きに砂濱地を開く。中央には安田川南流し流域に沖積平地を開く。温暖なる氣候に恵まれて農牧盛なり。米・蕎麥の産多く野菜・果實の栽培をなしたる

牧牛を營む。山地は林産に富み木炭・木材の産あり。沿岸は漁業を營み鰯・鰯等の漁獲あり、また遠く捕鯨に出漁するものもあり。市街は安田川右岸に開け漁港をなす。海岸に沿ひて安藝町より來る縣道は町にて方向をかへて河川右岸に沿ひて北走し中山村に至る。對岸には林用軌道南走し、河口にて東部海岸を田野町に至る。室戸町・高知市にハスの便あり。また海上は土佐沿岸汽船寄港す。古くは和名抄、安藝郡安田郷の内にして、中世安田莊(文永十年金剛頂寺文書)と云ふ。村名は蓋しその遺稱とす。大正十四年町制を布く。幕末の勤王家柏原省三(贈從五位)・柏原賴吉(贈從五位)・近藤次郎太郎(贈正五位)・宮田賴吉(贈從五位)・豊永弁馬(贈從五位)および江戸末期の僧侶として儒者として名聲ありし岡本春浦(贈正五位)は共に此の地の人なり。【神峯神社】大字唐ノ濱に鎮座。縣社にして祭神大山祇命。相殿に天照大神・天兒屋根命・應神天皇を配祀す。大同年間、空海の草創に係ると傳へ中世神峯寺と稱し、本尊に十一面觀音を安置し、四國二十七番の靈場たりしと。三代實録に伊奈地祇神とあるは即ち當社なり。例祭、五月二十八日・十月二十八日。境内に樟あり。本樹は地上一・三米の周圍六・一米、樹高一五米、推定樹齡は五百年なり。【須賀神社】大字東島に鎮座。郷社。祭神、建速須佐之男命。例祭十月十五日。【八幡宮】大字安田宇八幡に鎮座。郷社。

ヤスタ

【安田川】高知縣安藝郡にある川。水源は神已尾山(千本峠)の南麓にして、これより南流し、東方天狗森・鐘ヶ龍森・高善森等の山背と西方安田川山・桑ノ木山・八杉森等の山背の間を流れ、馬路・中山等の山村を貫く。この附近は明所山事件にて有名なる森林にて、東方魚梁瀬の官行林に續き、杉・榎・栲の良材を産出する。別所より下流兩岸には比高六〇—一〇〇米の段丘ありて、畑作行はる。河岸は下流に於て著しく西方を侵蝕し、東側に緩斜面を發達せしめ、安田町に於て、土佐灣に注ぐ。流程約三〇軒。

ヤスタ

【保田村】和歌山縣紀伊國有田郡の西北部。其島町の東に接して有田川に跨り、南西は紀伊水道に臨み、北は海草郡に界す。北部には長峯山脈の西部の明神山(三五六米)聳え、その南麓に沿ひて村の中央を有田川が西流す。沿岸には平野開け殊に南岸に廣し。東南部にも二三〇米程の丘陵あり西々南に延びて南境を限り西端は石ノ鼻となる。西南部には稍々小丘ありて海に迫る。田畑よく拓けて米産多し、北部、南部の斜面地は一面の蜜柑畑なり。また本村は紀州除蟲菊の本場にして、排水よき砂質壤土の筑島・保

田の平野は晩春より初夏にかけ見渡す限り白布を敷きつめたるが如き除蟲菊の花盛となる。やがて花が凋み初むる七月には老いも若きも終日花を摘む。明治十九年一袋の種子より發育せる除蟲菊は水田の裏作として有田郡を本場に全国的に擴まれるものにして、本村は實に斯業の一大大中心地たり。除蟲菊は當地産のもの外、全国各地より本村及び筑島町へ集まり、大日本除蟲菊會社その他の工場にて紋取線香・垂取粉、または種々の蠶繭劑に加工精製せられて内外の市場へ賣捌かる。有田川南岸には縣道が走り、北岸には省線紀勢西線が通過して西方一・五軒に筑島驛、東方一軒餘には紀伊宮島驛あり。和名抄に在田郡須佐郷とあるは、本村邊を稱せしもの。また保田は庄名にも呼ばれ、保田庄の名は建仁・嘉禎・弘長等の文書に見え、弘長の文書には地頭左衛門尉宗業とあり。また正應二年湯淺黨結番次第にも保田庄を載せれば即ち湯淺の一族なるを知るべし。(須佐神社)大字千田に鎮座。祭神、素戔鳴命。延喜の制、名神大社に列し、月次・新嘗の兩祭に預る。平城天皇大同元年、神封十戸を賜はる。神階は貞觀元年、從五位下に進めらる。古來土俗劍難除の神として崇敬特に厚く、建武二年楠木正成、慶長六年淺野幸長等社領若干を寄進せりと云ふ。徳川頼宣、正保四年この地を領して以來、社殿の修造成り且つ大祭日定めらる。社寶の太刀(徳川吉宗寄進)一口は

ヤスタ

現に國寶に指定せらる。例祭、十月十四日。(白鳥神社)郷社。祭神、日本武尊。式内社。例祭四月十日。(星尾車婆)星尾神財天神光寺附近の椋林中にあり。明惠紀州遺蹟奉養(指定史蹟)の一とす。臺石ありて左の銘文あるも寶珠は失はれたり。建仁三年亥十一月十九日建立之(元字)正二月廿九日 嘉禎二年申 春日大明神 比丘喜海謹記 御託宣之處

ヤスタ

【安武村】福岡縣筑後國三潁郡の北隅。筑後川の左岸に位し、東は久留米市の西南部に接し、北及び西は筑後川を隔てて佐賀縣三養基郡に界す。全村地形低平にして北境に沿ひて西流する筑後川は西境にてS字形に東南折し更に西南に向ひ村境は之に沿ふ。水田多く米産豊かにして麥・繭・蠶等をも産す。東部には縣道および社線大川鐵道が掠めて縱貫し、後者の安武驛(大正元年設置)あり、中央には久留米市と城島町とを結ぶ縣道が東北より西南に貫き、交通至便なり。古くは和名抄、三潁郡島養郷の内とす。

ヤスナ——ヤセ

【ヤスナ 安那(郡)】 備後國(廣島縣)の古郡名。吉備の穴國が大化改新の際...

【ヤスナガ 保永】 愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村外八ヶ村を合して作手村を置く。

【ヤスノ 安野】 廣島縣安藝國山縣郡の南端。加計町の東南に接し、太田川の北岸に沿ふ。

五五〇

【安原村】 石川縣加賀國石川郡の西部。金澤市の西方約六軒、西北は日本海に濱す。

【安原村】 和歌山縣紀伊國海草郡の南部。西南は海南市の西北隅に接し、西は紀三井寺町に隣る。

【安原上西村】 香川縣讃岐國香川郡の南部。東北は木田郡に、西は綾歌郡に界し、安原上西村の西北に隣接す。

五五〇

【安原上東村】 香川縣香川郡にありし村。大正七年鹽江村と改稱す。

【安水】 滋賀縣犬上郡にありし村。明治二十五年魚山村と改む。

【八瀬村】 京都府山城國愛宕郡の東南隅。八瀬童子で名高き八瀬村は京都市の東北郊外にあり。

ヤタ——ヤタ

【ヤタ 八田】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に多胡郡八田郷あり。其の地いま多野郡吉井町・入野村の邊に當る。

【ヤタ 矢田】 愛知縣の川。瀬戸市の東境嶺投山の山間に源を發し、西流して愛知郡橋山村、東春日井郡旭村・守山町を経て、土岐川の下流玉野川に合して庄内川となる。

【矢田村】 大阪府河内國中河内郡の西南部。北および西を大阪市住吉區にて圍まれ、東は瓜破村に隣り、南は西流する大和川下流によりて天美村に對す。

【矢田村】 和歌山縣紀伊國日高郡の西北部。日高川の右岸に沿ひ、御坊町の東北一軒餘にあり。北境に白馬山脈が連り、南境には日高川が南に迂曲して西流し、流域に僅小の平地を見るのみにして他は殆ど山地なり。

五五〇

文武天皇の勅を奉じて建立し、僧義潤を請じて供養の導師とすといふ。奥州の僧安珍、熊野に詣りてんとして富國奉事郡前砂の庄司清司の家に宿す。其家の女清姫その美貌に感服し、夫婦たらんことを迫る。安珍即ち夢詔の願を遂げてのち其意に従ふべしと伴り、其歸路に及びて清姫の門前を走り過ぐ。彼女覺りて大に恨み大蛇となりて安珍を追躡す。安珍富寺に逃れて救を求め、梵鐘中に匿る。大蛇到りて鐘を轟ふや怒ち火筒より大蛇また姿を消したり。寺僧驚き鐘の中を檢せしに、安珍は已に燃死してたゞ白骨を殘せるのみなりしと傳ふ。往時に庄園百八十餘町を有し坊舎十八宇ありて寺門頗る隆盛なりしが、中世衰頽す。慶長六年領主淺野氏寺領若干を寄す。いま新西國三十三番第五番札所たり。本堂・仁王門・前堂本尊木造千手觀音立像一軀(藤原期の優作)等は國寶たり。

ヤタ 屋田 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に養父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三榮基郡鳥栖町の邊に當るか。

ヤタ 谷田 埼玉縣北足立郡にありし村。昭和七年浦和町に編入し、浦和町は同九年市制を布く。

ヤタ 箭田村 岡山縣備中國吉備郡の中南部。高梁川の支流小田川の下流に沿ひ、本支合流地の西方約二軒に位す。面積七・四五平方軒。地形稍南北に延び、北部には高さ三百米、南部は二百米内外の

山地傾り、中央を小田川東流し流域に廣き平地を形成し、北岸に耕地多し。米・麥・蕎麥・柿・葡萄等を産す。山陽街道中央を東西に貫通し、南北に縣道を分岐す。岡山市(バス)の便あり。古くは和名抄、下道郡八田郷の地にして、村名は蓋しその轉訛なるべし。前太平記に天慶四年伊豫の海賊純友、備中八田の城に押寄せし由見ゆ。或は此地か。(備中大塚古墳)指定史蹟。矢砂に在り。八幡山の麓に築かれし圓墳にして長さ約一二米の羨道を經て莊大なる支室あり、奥行約八米、幅約三米、高さ約四米にして奥壁は一枚石なり。この古墳より多数の出土遺物あり。總數約三百五十點に達す。(吉備眞備墓)字箭田天神山と稱する小丘上に在り。元祿年間この地より枯骨を發見し、弘化四年伊東長寛今の墓石を建てしものなり。(吉備寺) 古義眞言宗。天平七年吉備眞備の創建。本尊藥師佛は行基作、眞備の念持佛と傳ふ。

ヤタイジン 矢大臣山 阿武隈山地の一峯。平市の西方三二軒前後、福島縣石城郡川前村と田村郡瀧根村・夏井村の境上に峙つ。標高九六五米、山麓片麻岩より成る。夏井川は北西方より來り南麓を流ひて南東流す。川に沿ひ磐城街道と省線勢越線線路が通す。

ヤタカ 彌高 〔彌高山〕 岡山市の南西方約二五軒。岡山縣吉備郡都井田村の西部にあり。山姿略半圓形をなす。標高三〇〇餘米に過ぎ

ざれども、南方は低地をなすを以て、山頂より瀬戸内海の眺望佳なり。「雪ふれば彌高山の山に積りばまた冬ながら花吹雪にけり」(藤原行盛)

ヤタカワ 谷田川村 〔福島縣磐城郡田村郡の西南部。守山町の東に隣りし南は石川郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東南境に雲水峠(六七七米)聳えて西北方に傾斜し、東部・北部また丘陵をなし、谷田川は村の南部を西流し、沿岸に耕地拓く。米・麥・粟・粟糠・蕎麥・馬を産す。道路は村の南部を東西に通じ、東南方小野新町、西南方岩瀬須賀川町へは各バスの便あり。省線水郡線通じ谷田川驛(昭和四年設置)を置く。本村の地は指定史蹟、字津峯の一部を占む。

ヤタキ 矢岳山 矢岳山とも云ふ。江川下流の北方に當り、鳥根縣湯澤郡湯里村と邑智郡祖式村との境上に跨る。標高六三八米。この地祖式式部元勝の居りし地なりと云ふ。北方に降路坂の山路東西に通す。

ヤタケ 矢嶽 省線肥後線の一驛(明治四十二年設置)。熊本縣球磨郡藍田村大畑にあり。我國最初のメーゾ線のある處として知らる。※大畑

ヤタケ 矢岳嶺山 小佐々村(長崎縣北松浦郡)

ヤタゴ 矢田郷村 〔石川縣能登郡鹿島郡の東部。七尾町の東南に隣接す。東南半に貫通山脈の末端なる高さ三

あり。古くは和名抄、江沼郡八田郷の内とす。

ヤタベ 矢田部村 〔茨城縣常陸國鹿島郡の東南部。利根川下流の北岸にて、波崎町の西北隣にあり。東北は鹿島灘に臨み、南は利根川を隔てて、千葉縣香取郡・海上郡と相對す。全村平地にて畑地多く所々林を交へ一部に水田あり。農業は、米・蕎麥を産し、また枇杷・桃・柿・葡萄・南瓜等の産出多し。海岸は單調平直なる砂浜をなす。縣道は利根川沿ひに西北より東南に走りて波崎町に通じ、主要集落はこれに沿ひて發達す。利根川一帯水運の便よく、對岸千葉縣香取郡豊里村との間に渡船の便あり。古くは和名抄、鹿島郡松浦郷の内とす。もとこの邊一帯一昨沙丘をなし、俗に常陸の沙山と稱せられたり。

ヤタベ 谷田部町 〔茨城縣常陸國筑波郡の南部。東は稻敷郡と隣す。大部分低き臺地をなすも、東部及び西部には臺地間に、南北に帯狀の低地あり。これは東南方牛久沼に續く低地にて、大部分沼田をなす。臺地は畑地をなして所々林を交ふ。農業は米・小麥・大豆を産し、製糖・製材等も行はる。主要集落は町の中央、臺地上に發達し、縣道は之より四方に通す。そのうち東北方新治郡土浦町、西方結城郡水海道町に通ずるものはバスの便あり。谷田部の名は遠く仁徳帝の御宇に起るといふ。而して古くは専ら八田と記せしが近世谷田部と稱す。元

百米餘の丘陵村内へ傾斜し、西北半は邑知湯地帯に屬し、水田開く。農業を主とし米を主産す。北端の七尾河に面する諸部は漁船の寄港地にして漁業盛なり。北部海岸へ省線七尾線來り七尾驛(明治三十一年設置)を置く。七尾町に集る縣道は東北・東南・西北より來り村内を通じ自動車の便もあり。和名抄に能登郡八田郷とあるもの蓋しここに於て、田數目録に八田郡四反本六反三とあるものこれなり。近世専ら矢田に作り天文二年の古簡に矢田郷の名見ゆ。大字古府は舊國府廳のありしところとす。(七尾城跡)指定史蹟。石山山脈の北端に近く七尾港の東南にあり。能登の守護高田氏の在城せし處なりしが、天正五年上杉謙信此城を攻落せし時月明に一詩を賦せしを以て有名なり。海拔約三百米の地點に本丸を構へ二の丸・三の丸・調度丸・西丸等の城臺あり。遺佐屋敷・櫓馬場附近には石垣の存するあり、寺屋敷・時鐘陸・水手(とよ水)等何れも舊形を存す。(能登生國玉比古神社) 大字所口に鎮座。縣社。祭神、大己貴神。創建年代詳かならざるも、延喜式に載せられたる舊社とす。古老の傳説に據れば、古昔當國に巨鳥毒蛇棲みて山海難かならず、大己貴神即ちこれを誅戮して國土を平定せしむ。これ大己貴神を崇祀する所以なりといふ。歴代天皇の崇敬篤く度々造營・奉幣の事ありき。例祭、十一月八日。(大地主神社) 大字府中に鎮座。郷社。祭神、大山咋神。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡八部郷あり、その地今の那珂郡玉川村・鹽田村の邊に當る。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に那珂郡八部郷見ゆ。いま東茨城郡長岡村・石崎村に互る地が其の地域ならん。長岡村の大字に谷田部あり、郷名の遺稱とす。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に河内郡八部郷あり。その地いま筑波郡谷田部町及び福岡村の邊に當る。谷田部は即ち八部の遺稱なり。

〔八部(郡)〕 攝津國(兵庫縣)の古郡名。和名抄に夜多倍と註し生田・宇治・神戸、八部・長田の五郡を管す。明治二十二年本部の中より神戸市獨立し殘部は同二十九年四月蘆原・武庫二郡と合して武庫郡を建て郡名を失ふ。

〔八部〕 攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に八部郡八部郷あり。八部郡家の所在

病・胃腸病等に效あり。(下内澤温泉) 日登温泉の浴客が散歩かたがた來浴する所にて浴場は二ヶ所に分れた湯灘など設けらる。冬季には休業して毎年四月より開かる。アルカリ性泉にて硫酸を多量に含有し、温度三二度(加熱浴用)。眼病・關節炎・皮膚病・婦人病・リウマチス・痔疾等に效あり。

ヤタニ 彌谷 省線舊備線の一驛(昭和五年設置)。廣島縣高田郡三田村にあり。

ヤタノ 矢田野村 〔石川縣加賀國江沼郡の東北部。能美郡小松町の南方約七軒にして、北及び東は能美郡栗津村に接す。西北半に加賀平野の一部に屬し、水田・桑園開け、東南半に菩提峠・舟見山等の第三紀の山地横はる。農業を主とし米・蕎麥の産あり。東境は栗津温泉に近し。省線北陸本線は北部を穿れ、栗津驛に近く、社線温泉電軌は北半部を環狀に走り、芝屋驛(大正六年設置)を置く。栗津・山代・小松諸町へ縣道通じ自動車の便

あり。古くは和名抄、江沼郡八田郷の内とす。

ヤタベ 矢田部村 〔茨城縣常陸國鹿島郡の東南部。利根川下流の北岸にて、波崎町の西北隣にあり。東北は鹿島灘に臨み、南は利根川を隔てて、千葉縣香取郡・海上郡と相對す。全村平地にて畑地多く所々林を交へ一部に水田あり。農業は、米・蕎麥を産し、また枇杷・桃・柿・葡萄・南瓜等の産出多し。海岸は單調平直なる砂浜をなす。縣道は利根川沿ひに西北より東南に走りて波崎町に通じ、主要集落はこれに沿ひて發達す。利根川一帯水運の便よく、對岸千葉縣香取郡豊里村との間に渡船の便あり。古くは和名抄、鹿島郡松浦郷の内とす。もとこの邊一帯一昨沙丘をなし、俗に常陸の沙山と稱せられたり。

ヤタベ 谷田部町 〔茨城縣常陸國筑波郡の南部。東は稻敷郡と隣す。大部分低き臺地をなすも、東部及び西部には臺地間に、南北に帯狀の低地あり。これは東南方牛久沼に續く低地にて、大部分沼田をなす。臺地は畑地をなして所々林を交ふ。農業は米・小麥・大豆を産し、製糖・製材等も行はる。主要集落は町の中央、臺地上に發達し、縣道は之より四方に通す。そのうち東北方新治郡土浦町、西方結城郡水海道町に通ずるものはバスの便あり。谷田部の名は遠く仁徳帝の御宇に起るといふ。而して古くは専ら八田と記せしが近世谷田部と稱す。元

百米餘の丘陵村内へ傾斜し、西北半は邑知湯地帯に屬し、水田開く。農業を主とし米を主産す。北端の七尾河に面する諸部は漁船の寄港地にして漁業盛なり。北部海岸へ省線七尾線來り七尾驛(明治三十一年設置)を置く。七尾町に集る縣道は東北・東南・西北より來り村内を通じ自動車の便もあり。和名抄に能登郡八田郷とあるもの蓋しここに於て、田數目録に八田郡四反本六反三とあるものこれなり。近世専ら矢田に作り天文二年の古簡に矢田郷の名見ゆ。大字古府は舊國府廳のありしところとす。(七尾城跡)指定史蹟。石山山脈の北端に近く七尾港の東南にあり。能登の守護高田氏の在城せし處なりしが、天正五年上杉謙信此城を攻落せし時月明に一詩を賦せしを以て有名なり。海拔約三百米の地點に本丸を構へ二の丸・三の丸・調度丸・西丸等の城臺あり。遺佐屋敷・櫓馬場附近には石垣の存するあり、寺屋敷・時鐘陸・水手(とよ水)等何れも舊形を存す。(能登生國玉比古神社) 大字所口に鎮座。縣社。祭神、大己貴神。創建年代詳かならざるも、延喜式に載せられたる舊社とす。古老の傳説に據れば、古昔當國に巨鳥毒蛇棲みて山海難かならず、大己貴神即ちこれを誅戮して國土を平定せしむ。これ大己貴神を崇祀する所以なりといふ。歴代天皇の崇敬篤く度々造營・奉幣の事ありき。例祭、十一月八日。(大地主神社) 大字府中に鎮座。郷社。祭神、大山咋神。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡八部郷あり、その地今の那珂郡玉川村・鹽田村の邊に當る。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に那珂郡八部郷見ゆ。いま東茨城郡長岡村・石崎村に互る地が其の地域ならん。長岡村の大字に谷田部あり、郷名の遺稱とす。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に河内郡八部郷あり。その地いま筑波郡谷田部町及び福岡村の邊に當る。谷田部は即ち八部の遺稱なり。

〔八部(郡)〕 攝津國(兵庫縣)の古郡名。和名抄に夜多倍と註し生田・宇治・神戸、八部・長田の五郡を管す。明治二十二年本部の中より神戸市獨立し殘部は同二十九年四月蘆原・武庫二郡と合して武庫郡を建て郡名を失ふ。

〔八部〕 攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に八部郡八部郷あり。八部郡家の所在

あり。古くは和名抄、江沼郡八田郷の内とす。

ヤタベ 矢田部村 〔茨城縣常陸國鹿島郡の東南部。利根川下流の北岸にて、波崎町の西北隣にあり。東北は鹿島灘に臨み、南は利根川を隔てて、千葉縣香取郡・海上郡と相對す。全村平地にて畑地多く所々林を交へ一部に水田あり。農業は、米・蕎麥を産し、また枇杷・桃・柿・葡萄・南瓜等の産出多し。海岸は單調平直なる砂浜をなす。縣道は利根川沿ひに西北より東南に走りて波崎町に通じ、主要集落はこれに沿ひて發達す。利根川一帯水運の便よく、對岸千葉縣香取郡豊里村との間に渡船の便あり。古くは和名抄、鹿島郡松浦郷の内とす。もとこの邊一帯一昨沙丘をなし、俗に常陸の沙山と稱せられたり。

ヤタベ 谷田部町 〔茨城縣常陸國筑波郡の南部。東は稻敷郡と隣す。大部分低き臺地をなすも、東部及び西部には臺地間に、南北に帯狀の低地あり。これは東南方牛久沼に續く低地にて、大部分沼田をなす。臺地は畑地をなして所々林を交ふ。農業は米・小麥・大豆を産し、製糖・製材等も行はる。主要集落は町の中央、臺地上に發達し、縣道は之より四方に通す。そのうち東北方新治郡土浦町、西方結城郡水海道町に通ずるものはバスの便あり。谷田部の名は遠く仁徳帝の御宇に起るといふ。而して古くは専ら八田と記せしが近世谷田部と稱す。元

百米餘の丘陵村内へ傾斜し、西北半は邑知湯地帯に屬し、水田開く。農業を主とし米を主産す。北端の七尾河に面する諸部は漁船の寄港地にして漁業盛なり。北部海岸へ省線七尾線來り七尾驛(明治三十一年設置)を置く。七尾町に集る縣道は東北・東南・西北より來り村内を通じ自動車の便もあり。和名抄に能登郡八田郷とあるもの蓋しここに於て、田數目録に八田郡四反本六反三とあるものこれなり。近世専ら矢田に作り天文二年の古簡に矢田郷の名見ゆ。大字古府は舊國府廳のありしところとす。(七尾城跡)指定史蹟。石山山脈の北端に近く七尾港の東南にあり。能登の守護高田氏の在城せし處なりしが、天正五年上杉謙信此城を攻落せし時月明に一詩を賦せしを以て有名なり。海拔約三百米の地點に本丸を構へ二の丸・三の丸・調度丸・西丸等の城臺あり。遺佐屋敷・櫓馬場附近には石垣の存するあり、寺屋敷・時鐘陸・水手(とよ水)等何れも舊形を存す。(能登生國玉比古神社) 大字所口に鎮座。縣社。祭神、大己貴神。創建年代詳かならざるも、延喜式に載せられたる舊社とす。古老の傳説に據れば、古昔當國に巨鳥毒蛇棲みて山海難かならず、大己貴神即ちこれを誅戮して國土を平定せしむ。これ大己貴神を崇祀する所以なりといふ。歴代天皇の崇敬篤く度々造營・奉幣の事ありき。例祭、十一月八日。(大地主神社) 大字府中に鎮座。郷社。祭神、大山咋神。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡八部郷あり、その地今の那珂郡玉川村・鹽田村の邊に當る。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に那珂郡八部郷見ゆ。いま東茨城郡長岡村・石崎村に互る地が其の地域ならん。長岡村の大字に谷田部あり、郷名の遺稱とす。

〔八部〕 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に河内郡八部郷あり。その地いま筑波郡谷田部町及び福岡村の邊に當る。谷田部は即ち八部の遺稱なり。

〔八部(郡)〕 攝津國(兵庫縣)の古郡名。和名抄に夜多倍と註し生田・宇治・神戸、八部・長田の五郡を管す。明治二十二年本部の中より神戸市獨立し殘部は同二十九年四月蘆原・武庫二郡と合して武庫郡を建て郡名を失ふ。

〔八部〕 攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に八部郡八部郷あり。八部郡家の所在

あり。古くは和名抄、江沼郡八田郷の内とす。

地にして、いま神戸市兵庫の邊に當る。八部 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に賀夜郡八部郷あり、也多倍と訓す。八田部の部曲民の居りし處。いま吉備郡總社町の地に當ると云ふ。

ヤチ 八千 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に吉敷郡八千郷あり。延喜兵部省式に周防國八千驛々馬二十疋とあり。山陽道に沿ふ大驛なり。郷城はいま吉敷郡陶・名田島・大道・錦司等の諸村に互るも、驛は大道に在りしなるべし。

ヤチ 八知村 三重縣伊勢國一志郡の西南部。雲出川上流に跨り西北部は名賀郡に接し、西々北方約一三軒に名賀町あり。西境には東北より西南に山岳相連りて尻ヶ岳・大洞山等は標高一〇〇〇米に近し、山地は東方へ傾斜し南部も北斜地をなす。東境にも山地南北に連り六十七百米の高度を有す。中央東偏には北流する雲出川上流あり、北部に於て東北に向ひ隣村竹原村に出づ。低地乏しく耕地少きも、米・麥・茶等の農産物を産し工業・林産もあり又畜産をも出す。河谷に沿ひて省線名松線通過し伊勢鎌倉・伊勢八知・比津の三驛(何れも昭和十年設置)を置く。

ヤチ 谷地町 山形縣羽前國西村山郡の東北部。寒河江町の東北方約六軒。東は最上川を隔てて北村山郡に接す。面積一八・五一方軒。山形盆地の西縁に屬し、西北部に丘陵ある外、全町概ね平坦にして水田拓く。最上川は東部を北流し、用

經て南方海上郡旭町に通ず。小見川町・旭町へはパスの便あり。小見川町には省線成田線小見川驛(昭和六年設置)あり。この地古くは和名抄、海上郡麻績郷の内なるべし。鹿島治亂記異本に鹿島五郎左衛門景幹は永正九年壬申十月、總州米野井にて合戦討死すと見ゆ。米野井は蓋し大字米ノ井の地なり。

ヤツ 谷津 下河津村(靜岡縣賀茂郡)の東北部。富士火山帯の一峰。同火山帯中富士山に次ぐ標高を有する一大火山にして、長野・山梨兩縣境上に南北に延び、東側は長野縣南佐久郡と山梨縣北巨摩郡の諸村に、西側は長野縣諏訪郡の諸村に屬す。南方は日本南アルプスの駒ヶ岳・鳳凰山と相對し、北西方は葛科山及び霧ヶ峯火山に連り、東南は甲府盆地に向つて優美なる裾野を曳き、西方は諏訪湖畔に廣大なる山麓を延ぶ。この山は第三紀の末より第四紀洪積期の末にかけて、釜無・千曲の兩階層間に於ける太古紀層の一大裂罅に沿ひて噴出せる二重式火山にして、外輪山・中央火口丘・寄生火山より形成せらる。其底は古生層にして外輪山は橄欖石・輝石・安山岩及び輝石・安山岩より成り、成層圓錐火山をなし、その山頂部は著しく開折せられ、夏澤時(最高點二二九二米)以南に南より北にかけて、編笠岳(二二二四米)・西岳(二三六四米)・權現岳(二七八六米)・阿彌陀岳(二八〇七米)・赤岳(二八九九米)・横岳(二八三〇米)・硫黄岳(二七四〇米)・峰

ノ松目(二五六七米)等の八岳並立し、山名も亦これより出づ。これ等諸峯は半圓狀に並び立ち、西方に開くカルデラ狀の破谷の周縁をなし、山頂部は圓錐狀を呈し、内壁は殆んど絶壁に等しく急傾斜をなすも、外壁は緩徐なる對數曲線を描き、廣大なる裾野に續く。阿彌陀岳は中央火口丘にして諸峯の略々中央に位し、輝石・安山岩及び角閃輝石・安山岩より成る成層火山なり。硫黄岳は外輪山の北東側上部に寄生する火山にして、橄欖石・輝石・安山岩より成り、山頂に小火口地を留む。以上の如き構成なれどもその活動期を去ること久しく従つて徒然しく、山容破壊せられ、もとは一帯の火山なりしも、今は全く孤峯の如き形貌を有す。裾野は東・南・西の三方に張り、諏訪湖に瀕するを泉平、佐久郡に瀕するを海之日平、甲州側のものを湯見平と呼ぶ。東流の水は千曲川に集まりて北西流し、富士川の上支釜無川は南西流の水を集めて東南流し、西流の水は上川又は宮川に入りて諏訪湖に注ぐ。この山の植物景觀を見るに頗るその種類に恵まれ、山頂は概ね針葉樹の原始林にて掩はれ、山腹・裾野は草原をなし、特に南東山腹なる美森(一五四三米)には鹿蹄の大群落あり、我國有数の鹿蹄の名所をなす。高山植物に於ても誠に品種豊かにして珍種多し。ヤツガタケ・ムグラ・リンネサウ・ヤツガタケ・ツノア・ヒメリンドリ・ヒメセンア・ツタモア・ムカゴユキノヅメ・ト

保倉川の支流と放水路とに圍まれたる細長き海岸漁村なり。土地平坦にして背後には水田あるも海岸は平直なる砂濱に於て概ね漁業に従事す。西南隅は直江津港に面し近海漁船・運送船の碇泊地なり。省線信越本線及び北陸道は村内を西南に東北に縱走し前者の黒井驛(大瀧村)・黒湯驛(湯町)に近し。大字町は其の名稱より推想せば或は古代倭因等の置かれし地にや。延喜式には當國倭因驛九千東と見ゆ。明治天皇明治十一年北陸東海御巡幸の御この地にて御小休遊ばさる。

ヤチマタ 八街町 千葉縣下總國印旛郡の南部。北は酒井町と隣し、東は山武郡の一部に接す。面積大にして五三・五五平方軒あり。町の殆ど大部分は臺地にて、森林・原野多きもまた畑地廣し。農業盛んで、麥・米の産多し、養蠶業も盛んで、その他養蠶も行はる。主要産物は町の東部に發達し、縣道はこれより四方に通じ、北は成田町、西は佐倉町、東は山武郡成東町、南は同郡金町に通じ、東金町へはパスの便あり。省線武本線は中央を東南に走り、東部に八街驛(明治三十年設置)を置き、同驛より社線成田線北走して三里塚に通じ、村内に東八街驛・古呂驛(共に昭和五年設置)を置く。この地は舊小間子・柳澤二牧の地にして、明治二年原中の沃土を拓きしに始り漸次成功し、五年にして終に八街村生る。大正八年町制を布く。當地の開墾者にして、明治維新東夷討伐の際に

多額の軍資金を献納せし西村郡司(贈從五位)は此地の人なり。明治天皇、明治十五年千葉縣下行幸の際この地にて御野立遊ばされ、いまその地は明治天皇丹尾御野立所として指定史蹟たり。

ヤチヨ 八千代村 徳島縣阿波國美馬郡の西部。牛田町の南に位し、東は錦山村に、南は一字村に界し、西は三好郡に隣接す。石鏡山脈中に位し、南部は高田一十米餘の峻嶺を立して高峻なる山村をなし平地少し。山間谷地を耕作して米・麥・蕎麥を産す。林産豊富なり。牛田町へは約六軒パスの便あり。もと牛田奥山村と稱せしが、大正六年八千代村と改稱す。

ヤチワ 八千把村 熊本縣肥後國八代郡の西部。八代町の東北に接し西北は八代海に臨む。八代平野の一部を占めて全村地形極めて低平なり。日置川は東部を北流し北境に出でて西北に流れ八代海に入る。耕地廣く米・麥を主産す。八代町と東北方間方面とを結ぶ縣道は東部を通ず。省線鹿兒島本線八代驛は南方約一軒にあり。

ヤツ 八都村 千葉縣下總國香取郡の中部。小見川町の南隣にて、南は府馬町西は栗原町に接す。西は丘陵地に於て森林多し、東は北方利根川畔に續く平地の一部にて水田多し一部畑地をなす。農業行はれて米を主産し麥の産もあり。養蠶・養蠶も行はる。縣道は小見川町及び西北方佐原町に通じ、また南隣府馬町を

本線長坂驛より大泉村谷戸を過ぎ、櫻見岳を経て赤岳等に至る。驛より赤岳山頂迄約九時間行程。この他中央本線小淵澤驛或は富士見驛より編笠岳を経て赤岳にも至り得らる。縱走路は概して明瞭なるも、赤岳以南はその以北に比し稍困難なり。尙縱走路には赤岳石室の外に大キレット小屋・編笠小屋等ありて適當なる宿營地をなす。

ヤツオ 八尾町 富山縣越中國婦負郡の南部。神通川の一支井田川に沿ひ、富山平野の南端を占む。町は東・南・西の三方を發達高地北端をなす丘陵に圍まれたる井田川の谷合にあり、面積僅かに一方軒。略南北に長き矩形をなす。井田川は本町にて上流諸川を合流す。即ち西南隅にて室牧・野崎の兩河合し西境を北流し更に東を流る。久慈須川・別荘川を町内に合流し、富山平野に入る。町は古來養蠶・製糸を以て榮え、生糸の産額は百萬圓を突破し最も主要なるものなり。また製材・製紙・製糖・織工その他の工業は近時水力電氣の利用と相俟ち頗る活氣を呈し、新興工業都市の面目を示すに至り。その他農産・水産・畜産も多少あり、附近諸村の産物集散地として商業又繁盛なり。省線高山本線は本町を通過し越中八尾驛を隣村保内村に置く。また縣道集合し小田温泉その他近郊に通ずるパスの便あり。この地古くは和名抄婦負郡大山郡の内なるべし。八尾は名義谷尾なるべし。民謡小原節の本場として

ヤツ——ヤツオ